

自己点検・評価報告書

(2023・2024 年度)

専 修 大 学
SENSHU UNIVERSITY

目 次

全学事項に係る点検・評価－IR データから見る専修大学の取組について－	1

機関別自己点検・評価

〔1〕 経済学部 点検・評価	118
〔2〕 法学部 点検・評価	130
〔3〕 経営学部 点検・評価	142
〔4〕 商学部 点検・評価	159
〔5〕 文学部 点検・評価	171
〔6〕 ネットワーク情報学部 点検・評価	256
〔7〕 人間科学部 点検・評価	276
〔8〕 国際コミュニケーション学部 点検・評価	307
〔9〕 経済学研究科 点検・評価	339
〔10〕 法学研究科 点検・評価	355
〔11〕 文学研究科 点検・評価	371
〔12〕 経営学研究科 点検・評価	386
〔13〕 商学研究科 点検・評価	401
〔14〕 全学カリキュラム関係 点検・評価	416
〔15〕 教育開発支援関係 点検・評価	419
〔16〕 資格課程 点検・評価	422
〔17〕 図書館 点検・評価	432
〔18〕 研究所 点検・評価	442
〔19〕 情報科学センター関係 点検・評価	487
〔20〕 入学試験関係 点検・評価	492
〔21〕 学生生活関係 点検・評価	495
〔22〕 体育部関係 点検・評価	513

〔23〕 就職指導関係 点検・評価	519
〔24〕 国際交流関係 点検・評価	525
〔25〕 キャリアデザイン関係 点検・評価	531
〔26〕 社会知性開発研究関係 点検・評価	536
〔27〕 社会連携関係 点検・評価	544
〔28〕 数理・データサイエンス・AI 教育関係 点検・評価	547

委員一覧

※各実施委員会名をクリックすると該当ページに移動します。

第15期 自己点検・評価最終報告 全学事項検討部会

I. はじめに

現在に至る我が国の大学を取り巻く高等教育政策の流れは、平成3年の大学設置基準等の大幅な改正（のちに「大学設置基準の大綱化」）に端を発する。この「大綱化」では、各大学は社会の要請を捉え迅速に対応可能となるよう大学・学部等の設置認可を含む大学制度の弾力化・柔軟化が行われ、各大学の自主的な取組みが尊重することによって大学制度全体の変革を促すことが目的とされ、教育課程の編成等に関する大学の自主性が大幅に認められるようになった。

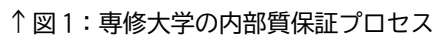
一方で、大学に対しては、各大学が個別に実施する「自己点検・評価」と学士課程教育における7年周期の「認証評価」による事後チェック体制による「教育の質保証」と「不断の改革」が求められるようになった。近年では「我が国の高等教育の将来像（2005年1月中教審答申）」（以下、「将来像答申」という）の取りまとめ以降、

- 「学士課程教育の構築に向けて」（2008年12月中教審答申）
- 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（2012年8月中教審答申）
- 「大学のガバナンス改革の推進について」（2014年2月大学分科会審議まとめ）
- 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（2018年11月中教審答申）
- 「教学マネジメント指針」（2020年1月大学分科会）

などの各種答申等により自主的な教育改善努力が促されてきた経緯があり、現在は「大綱化」直後の高等教育政策転換の黎明期には無かった「内部質保証体制の確立」の必要性が、高等教育関係者の間で共有されているところである。特に高等教育における「教育の質保証」については、将来像答申の冒頭において“高等教育の危機は社会の危機”とした上で、2015（平成27）～2020（令和2）年頃までに想定される大きな社会的変容を見据えて、高等教育の在り方や高等教育機関における教育研究の質向上が希求されており、比較的早期から、各大学に対して対応を求められてきた。一方で、各大学の改革のスピードは一様ではなかったことから、文部科学省は2018（平成30）年度より私学助成の枠組みにおける「教育の質に係る客観的指標」を設けた。これにより、全国の私大は「教育の質に係る客観的指標」に基づく「教育の質保証」に不断に取り組むところとなった。

本学においては、2020（令和2）年度より学部・大学院を包含する全学の内部質保証体制を推進する組織として「内部質保証推進委員会」を置き、2年サイクルで実施する自己点検・評価と連動する内部質保証体制の確立に努めてきたところである。この間に当自己点検・評価委員会が行う自己点検・評価活動は本学の「内部質保証プロセス」における一連のPDCAサイクルにおいて主にD（=Do）とC（=Check）にあたるプロセスを担うものとして整理【※図1】され、本年度までに概ね2サイクル分の自己点検・評価活動を行ってきた。これは、内部質保証推進委員会が示す目標・計画等に沿って、当委員会が設定する自己点検・評価項目の大綱に基づき、機関別自己点検・評価実施委員会が実施する機関別自己点検・評価が従来中心であった。一方で、機関別自己点検・評価では掘り取ることが難しい「教育の質保証」等に代表される時々の高等教育政策に対応する時宜を得た全学的な課題に対する本学の取り組みについての点検・評価に対応する組織として2020（令和2）年度より設置されたのが自己点検・評価委員会「全学事項検討部会」（以下、「当部会」という）である。

【～FY-1 年度】	【FY 年度】	【FY+1 年度】	【FY+2 年度～】



以上を踏まえた点検・評価の内容については、以下Ⅱ及びⅢに詳述することとし、当部会の報告内容が本学の教育活動の見直しにかかる検討に供され、内部質保証体制の確立に向けた一助となることを期待したい。

Ⅱ. 3つのポリシーを踏まえた取組について－2021（令和3）年度～2023（令和5）年卒業生のIRデータより－

1. 調査対象学生数（2021年度～2023年度卒業生）

学科名称	2021年度 対象学生数	2022年度 対象学生数	2023年度 対象学生数
経済学科	467	439	
現代経済学科			232
生活環境経済学科			240
国際経済学科	174	159	184
法律学科	549	506	507
政治学科	126	144	139
経営学科	480	338	341
ビジネスデザイン学科		155	162
マーケティング学科	427	421	394
会計学科	209	191	196
日本語学科	75	64	
日本文学文化学科	116	101	111
英語英米文学科	124	121	132
哲学科	59	68	62
歴史学科	105	104	117
環境地理学科	57	42	50
人文・ジャーナリズム学科	106	117	116
ネットワーク情報学科	202	200	185
心理学科	60	67	71
社会学科	109	101	130
日本語学科			67
異文化コミュニケーション学科			140

2. ディプロマポリシー（DP）を踏まえた取組について

2-1. 分野コード別一人当たりの平均修得単位数の分析データより

（別紙1 学科別：学科×分野コード×一人当たりの平均修得単位数）

【別紙1】【学科別】は、2021年度～2023年度の卒業生が単位を修得した授業科目の分野別コードを年度ごとに集計し、学科ごとに分野別コード一人あたりの平均修得単位数を算出したデータである。このデータから、以下のことを指摘できる（以下の数値は、学科ごとの一人あたりの平均修得単位数である）。

第1に、全ての学科で卒業生は、いずれの年度でも自分の所属する学科の専門科目と考えられる分野の単位を数多く修得している（数字は2023年度卒業生の一人あたりの平均修得単位数。異文化コミュニケーション学科は2023年度卒業生のみ）。例えば、法律学科では、基本的な法分野である「CIL_民事法学」（22.92）、「PUL_公法学」（14.45）、「CRL_刑事法学」（7.41）の単位を多く修得している。他学科においても、修得単位数が最も多い分野別コードを示すと、国際経済学科は「IEP_国際経済政策」（13.04）、政治学科は「POL_政治学」（30.91）、マーケティング学科は「CME_商学」（30.36）、会計学科は「ACC_会計」（48.90）、英語英米文学科は「ENG_英語一般」（17.08）、歴史学科は「HSG_史学一般」（20.81）、環境地理学科は「HUG_人文地理学」（20.64）、心理学科は「EXP_実験心理学」（26.03）、社会学科は「SOC_社会学」（44.45）、異文化コミュニケーション学科は「OSS_海外語学研修など留学科目」（15.88）である。また、日本文学文化学科では「JAC_日本文化」（24.15）と「JAL_日本文学」（23.81）が、哲学科は「PHE_哲学一般」（17.62）と「HOT_思想史」（16.46）が、修得単位数の最も多い2つの分野である。さらに、ネットワーク情報学科では、「SEM_ゼミナール」（16.19）の修得単位数が多いが、次いで「ICT_情報通信技術」（12.14）、「GIN_情報学一般」（12.01）、「NSC_自然科学一般」（11.01）の修得単位数が多い。

本学では、2019年度から2020年度にかけて学部・学科の新設や改組が行われた。経済学科において修得単位数が最も多い分野別コードは「EPE_経済学・政治経済学」（2021年度42.57、2022年度41.86）であり、改組後の生活環境経済学科は同じ科目の「EPE_経済学・政治経済学」（2023年度36.95）であるのに対し、改組後の現代経済学科では「ECT_理論経済学」（2023年度19.74）であり、それとほぼ同じ数値の科目「ECP_経済政策」（2023年度19.41）がある。また、経営学部では1学科体制時の経営学科において「CME_商学」（2021年度21.4）と「MAN_経営学」（2021年度21.15）が修得単位数の最も多い2つの分野であり、これは現在の2学科体制においても当該分野の変更はない。しかし、経営学科では「CME_商学」（2022年度19.11、2023年度17.79）、「MAN_経営学」（2022年度21.28、2023年度21.71）、ビジネスデザイン学科では「CME_商学」（2022年度21.93、2023年度20.97）、「MAN_経営学」（2022年度24.84、2023年度24.33）となっており、数値に変化が見られる。また、改組前の人文・ジャーナリズム学科で修得単位数が最も多い分野別コードは「JRN_ジャーナリズム」（2021年度27.23）であり、改組後のジャーナリズム学科でも同じであるが、修得単位数は後者で大幅に増えている（2022年度46.23、2023年度45.32）。さらに、日本語学科における修得単位数が最も多い分野別コード「JLI_日本語学」は、文学部の学科であった時（2022年度卒業生まで）の修得単位数（2021年度34.64、2022年度35.13）と、国際コミュニケーション学部の学科である時（2023年度卒業生）の修得単位数（2023年度48.08）は異なり、後者で大幅に増加している。

2019年度から2020年度にかけて実施された全学的なカリキュラム改正や学部・学科の新設・再編が学生の学修に与えた影響について、学部・学科が意図した通りになっているのか、各学部学科でさらなる検証が必要であろう。

第2に、「SEM_ゼミナール」については、いずれの年度においても、どの学科の卒業生も一定の単位数を修得していると評価できる。2023 年度卒業生のデータによる各学科卒業生の平均修得単位数は、現代経済学科 10.80、生活環境経済学科 10.82、国際経済学科 10.78、法律学科 10.91、政治学科 12.91、経営学科 12.93、ビジネスデザイン学科 14.12、マーケティング学科 8.94、会計学科 9.90、日本文学文化学科 14.22、英語英米文学科 12.30、哲学科 16.39、歴史学科 16.11、環境地理学科 12.08、ジャーナリズム学科 10.11、ネットワーク情報学科 16.19、心理学科 14.09、社会学科 12.16、日本語学科 16.48、異文化コミュニケーション学科 10.25 である。修得単位数が 10 に満たない学科もあるが、概ね各学科の卒業生は 10～19 単位を修得している。関連して、「THE_卒業論文・卒業研究」は、文学部・人間科学部・国際コミュニケーション学部の各学科が 8.00（ただし、英語英米文学科は 4.00、ジャーナリズム学科 6.00）、経済学部の各学科が 4.15 程度と、一人あたりの平均修得単位数は他学部各学科よりも多い。

なお、データのある 3 年間で「SEM_ゼミナール」の修得単位数に変動がある学科について言及したい。経営学科は 2021 年度 10.52、2022 年度 12.51、2023 年度 12.93 と 2 単位強増加し、新設されたビジネスデザイン学科でも 2022 年度 14.11、2023 年度 14.12 となっており、学部全体でも卒業生の修得単位数は増えている。また、マーケティング学科（2021 年度 7.23、2022 年度 7.82、2023 年度 8.94）や、会計学科（2021 年度 8.08、2022 年度 8.60、2023 年度 9.90）でも、少しではあるが修得単位数は増加傾向にある。その一方で、政治学科は、2021 年度 18.27、2022 年度 17.74、2023 年度 12.91 とカリキュラム改正を境に修得単位数が大きく減少している。また、学科改組のため単純な比較はできないが、ジャーナリズム学科（2022 年度 10.24、2023 年度 10.11）の修得単位数は、人文・ジャーナリズム学科（2021 年度 14.23）のそれよりも 4 単位程度減少している。これらの数値の変化が学科の想定されたものであるか否か、否とすればその原因について、該当する学科において検証する必要がある。

第3に、全ての学科で卒業生は、学科の専門分野のみならず、多様な分野の科目の単位を修得している。ただし、他の多くの学科と比べて、卒業生の修得単位数が特に低い分野を有する学科は注意を要する。例えば、2023 年度卒業生の数値に基づく、「NSC_自然科学一般」は、ネットワーク情報学科(11.01)を筆頭に、卒業生が 2 単位以上を修得している学科が多い中で、2 単位に満たない学科も存在する（日本文学文化学科(0.96)、英語英米文学科(1.53)、哲学科(1.78)、歴史学科(1.41)）。

第4に、コースを設置している学科では、卒業生の単位修得の分野にコースの特徴を見出すことができると考えられる。【別紙1】【コース別】は、2022 年度～2023 年度の卒業生が単位を修得した授業科目の分野別コードを年度ごとに集計し、コースを設置する学科については、コースごとに分野別コード一人あたりの平均修得単位数を算出したデータである（コースを設置していない学科は、学科のデータを記載している）。このデータから、現存設置されているコースについて、以下のことを指摘できる（以下の数値は、コースごとの

2023 年度の卒業生一人あたりの平均修得単位数である)。

政治学科には3つのコースが設置されており、いずれのコースも「POL_政治学」や「SEM_ゼミナール」の修得単位数が多い。そのうえで、データから卒業生はコースの特性に応じた科目の単位を修得していたことが読み取れる。例えば、「国際政治・地域コース」では、コースに特徴的な分野であろう「INR_国際関係論」(12.60, 政治理論・歴史コース 8.37, 日本政治・政策コース 8.06)、「ILA_国際法学」(6.71, 政治理論・歴史コース 2.91, 日本政治・政策コース 3.95)、「ARS_地域研究」(5.45, 政治理論・歴史コース 1.46, 日本政治・政策コース 1.60)が、他の2つのコースよりも修得単位数が多い。

コースを設けている他学科においても、卒業生の修得単位の分野にコースの特徴を見出すことができる。例えば、マーケティング学科のグローバルビジネスコースでは「MAN_経営学」(17.34)、ファイナンスコースでは「MOF_金融・ファイナンス」(22.95)や「ACC_会計学」(11.34)、英語英米文学科の英語コミュニケーションコースでは「ENG_英語一般」(28.22)、英語文化コースでは「LIE_英米・英語圏文学」(13.69)が、それぞれの学科の他コースに比べて修得単位数が多い。ネットワーク情報学科のDコースでは、「GIN_情報学一般」(12.24)や「DES_デザイン学」(11.79)、Sコースでは「ICT_情報通信技術」(15.59)や「STS_統計科学」(12.99)が他コースに比べて修得単位数が多い。

各学科卒業生の分野別の単位修得状況のデータから、各学科の専門分野と少人数教育の肝であるゼミナールについては、その数値の多少や変動を検証する必要はありうるものの、概ね適正であると考えられる。また、各学科の卒業生は多様な分野の科目の単位を修得している。以上、分野別コード一人あたりの平均修得単位数という点から、卒業生はディプロマポリシーに掲げられた資質・能力を身につけるために必要な授業科目の単位を概ね適切に修得していると考えられる。また、コースを設置している学科では、卒業生の修得単位の分野にコースの特徴を見出すことができると考えられる。

各学科卒業生の修得単位数が少ない分野については、各学部・学科のもつ学問的特性から想定内であると考えられるものも多いが、他学科の卒業生の修得単位数に比して著しく少ない分野が存在する場合は、学科においてその適切性を検討する余地がある。

3. カリキュラムポリシー(CP)を踏まえた取組について

3-1. 専修大学学士課程教育における学修成果を示す共通観点

第1階層	第2階層	第3階層
社会知性の開発	(1) 社会知性の核となる、専門的および一般的な知識を体系的に理解し、それらを説明することができる。(知識・理解) (2) 言語運用能力、情報・データリテラシーを身につけ、それらを活用することができる。(汎用的技能) (3) 知識体系を基盤とした思考方法を用いて、地球的視野から創造的に社会の諸課題に取り組むことができる。(知識体系に基づく思考と知の創出) (4) 「社会知性」の意義を理解した上で、人間理解、倫理観を基礎にして、社会生活上の諸課題の解決に取り組んでいける能力を更新し続けることができる。(態度・志気性)	DP01 専門的知識・理解 DP02 幅広い知識・理解 DP03 言語運用能力 DP04 情報・データリテラシー DP05 知識の統合と活用 DP06 論理的思考力 DP07 問題解決力 DP08 多様な価値観と受入れ DP09 倫理観と社会的責任 DP10 自己設計・管理能力

3-2. カリキュラムマップと成績情報の分析データより（別紙2：学科×DP 種別×DP 割合）

【別紙2】【学科別】は、学科ごとにカリキュラムマップと成績情報を分析したデータである。教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質や能力を身につけるために、各学部・学科に設置する科目が体系的に編成されることとなっており、カリキュラムマップはそうした資質・能力と授業科目との対応関係を示したものである。

【別紙2】【学科別】記載のデータは、2021年度～2023年度の卒業生が単位を修得した授業科目に着目して、「本学学士課程教育における学修成果を示す共通観点」（第3階層）のDP01～10で示された資質・能力の中で、各年度の卒業生がどの資質・能力をどの程度身につけて卒業したかを学科ごとに示すものである。このデータから、以下のことを指摘できる。

第1に、全ての学科で、数値の大小はあるものの、単位の修得状況から、卒業生はDP01「専門的知識・理解」～DP10「自己設計・管理能力」の10のDP種別で示された資質・能力を概ね身につけて卒業したといえることができる。

第2に、英語英米文学科を除く全ての学科において、いずれの年度も、卒業生が最も修得した資質・能力（数値が高いもの）は、DP01「専門的知識・理解」である。学科の特性ゆえか、この数値は学科により開きがある。2023年度卒業生のデータに基づき、数値の高い順に、生活環境経済学科 53.70、現代経済学科 46.18、ビジネスデザイン学科 43.61、経営学科 42.28、法律学科 40.71、国際経済学科 39.44、会計学科 39.09、政治学科 38.51、心理学科 32.42、ネットワーク情報学科 30.72、歴史学科 29.39、ジャーナリズム学科 28.50、環境地理学科 28.44、社会学科 24.93、哲学科 24.45、日本語学科 23.23、マーケティング学科 21.52、日本文学文化学科 20.53、異文化コミュニケーション学科 19.48である。なお、英語英米文学科は14.51（最も高いのはDP03「言語運用能力」19.08）である。この数値が高ければ、相対的に他のDP種別の割合が減じることになるから、適切なカリキュラムとなっているかについては、各学科における検証が必要である。

第3に、多くの学科の卒業生は、いずれの年度においても、DP01「専門的知識・理解」、そして、DP02「幅広い知識・理解」を修得することができている。これら2つの種別をあわせて、多くの学科の数値は概ね40～50%台である。ただし、2023年度卒業生のデータに基づ

くと、生活環境経済学科(68.40)と現代経済学科(61.45)の両学科は、他学科に比べて2つの種別の割合が高く、英語英米文学学科(28.32)、異文化コミュニケーション学科(28.69)、マーケティング学科(35.29)、日本文学文化学科(38.82)の4学科は他学科に比べて2つの種別の割合が低い。また、これら2つの種別に次いで、DP05「知識の統合と活用」とDP08「多様な価値観と受入れ」の割合の高い学科が多い。他に割合の高さという点で特徴的であると思われるものとして、例えば、①英語英米文学科、異文化コミュニケーション学科、国際経済学科、歴史学科はDP03「言語運用能力」の割合(順に19.08, 11.16, 8.87, 8.45)が高い、②哲学科、日本文学文化学科、法律学科、政治学科、環境地理学科はDP06「論理的思考力」の割合(順に15.78, 9.93, 9.87, 9.64, 9.47)が高い、③ジャーナリズム学科はDP09「倫理観と社会的責任」の割合(9.71)が高い、④心理学科はDP10「自己設計・管理能力」の割合(8.45)が高い。また、経営学科とビジネスデザイン学科はDP03～DP10の数値がほぼ均等でバランスがとれている。

第4に、各学科の卒業生が、あまり修得していないと考えられるDP種別が存在する。この数値が極めて小さいものについては、学生の履修動向を踏まえ、各学科においてカリキュラムの適切性を検証する必要がある。各学科のDP割合が3年度続けて2.00以下のものは、DP04「情報・デタリテラシー」については、哲学科(2021年度1.16、2022年度1.01、2023年度1.32)、DP09「倫理観と社会的責任」については、現代経済学科(2023年度1.34。改組前の経済学科2021年度1.50、2022年度1.40)、国際経済学科(2021年度1.56、2022年度1.22、2023年度1.43)、歴史学科(2021年度1.79、2022年度1.68、2023年度1.79)、DP10「自己設計・管理能力」については、現代経済学科(2023年度1.12。改組前の経済学科2021年度1.06、2022年度1.06)、生活環境経済学科(2023年度1.14。改組前の経済学科の数値は同上)、国際経済学科(2021年度1.08、2022年度1.11、2023年度1.15)、法律学科(2021年度0.75、2022年度0.70、2023年度0.74)、政治学科(2021年度0.78、2022年度0.70、2023年度0.78)である。

第5に、コースを設置している学科では、卒業生が身につけた資質・能力について、コースごとの特徴を見出すことができる。【別紙2】【コース別】は、コースごとにカリキュラムマップと成績情報を分析したデータであり、2022年度～2023年度の卒業生が単位を修得した授業科目に着目して、「本学学士課程教育における学修成果を示す共通観点」(第3階層)のDP01～10で示された資質・能力の中で、各年度の卒業生がどの資質・能力をどの程度身につけて卒業したかをコースごとに示すものである(コースを設置していない学科では、学科のデータを記載している)。以下の数値は2023年度卒業生のデータに基づく。

例えば、ネットワーク情報学科に設置されている2つのコースでは、DP06「論理的思考力」、DP07「問題解決力」、DP08「多様な価値観と受入れ」で、卒業生が身につけた資質・能力の違いを見出すことができる(DP06、DP07、DP08の順に、Sコースは10.34, 3.08, 5.98、Dコースは3.70, 7.08, 9.25である)。また、英語英米文学科に設置されている2つのコースでは卒業生が身につけた資質・能力の数値は概ね同じような傾向にあるが、英語コミュニケ

ーションコースでは「DP04 情報・データリテラシー」(9.59。英語文化コースは 5.45)が高い点に特徴があり、英語文化コースでは「DP01 専門的知識・理解」(15.52。英語コミュニケーションコースは 12.00)が高い点に特徴がある。マーケティング学科でも、「DP03 言語運用能力」以下の 7 種別でコースごとに数値が大きく異なるものがある。特徴ある数値の差が見られる一例として、グローバルビジネスコースでは、「DP03 言語運用能力」(8.59, マーケティングコース 5.53, ファイナンスコース 5.43)、「DP08 多様な価値観と受入れ」(14.33, マーケティングコース 12.76, ファイナンスコース 9.44)は、他コースより高い。政治学科では、3つのコースで卒業生が身につけた資質・能力の数値は概ね同じような傾向にあるが、政治理論・歴史コースは、他の 2 のコースに比べて、「DP01 専門的知識・理解」(34.45, 国際政治・地域コース 38.54, 日本政治・政策コース 39.10)が低く、「DP02 幅広い知識・理解」(21.15, 国際政治・地域コース 15.28, 日本政治・政策コース 15.94)が高い。

コースを設置している学科は、各コースの卒業生が身につけた資質・能力が、想定されたものであるかどうか、その適切性を検証することが必要であろう。

学生がどのような資質・能力をどの程度身につけるべきか、換言すれば、共通観点 DP01～10 の適切な割合については、全学的な取り決めがあるわけではなく、また、仮にあったとしても、各学部学科のもつ学問的特性を踏まえたものになると考えられる。ゆえに現行カリキュラムにおける DP01～10 の割合が適切であるか、換言すれば、各学科のカリキュラムポリシーが適切に機能しているかについて検証することは、困難な側面がある。しかし、10 の DP 種別がある以上、各学科において卒業生の単位修得率の数値が高すぎたり、あるいは、低すぎたりする DP 種別については、学科のカリキュラム全体の中でその適切性を検証する必要がある。

4. アドミッションポリシー (AP) を踏まえた取組について

4-1. GPA 集計 (入試制度×学科) の分析データより (別紙 3: GPA 集計 (一般・推薦×学科))

【別紙 3】は、入試制度により学生の成績評価にどの程度差異が認められるかを検証するためのデータであり、その数値は、入試制度を「一般」と「推薦・その他」に区分した上で、2021 年度～2023 年度の各年度の各学科卒業生の確定累積 GPA (平均) を入試区分ごとに算出したものである (以下の数値は、確定累積 GPA (平均) がどの程度高いかを示す)。なお、一般選抜以外の入試選抜にはさらに種々の入試方式があるが、入試方式ごとの入学者数は一般選抜による入学者数と比べて少ないことから、意味のある比較をするために「推薦・その他」とまとめている。

一般選抜で入学した卒業生と「推薦・その他」の選抜方法で入学した卒業生との累積 GPA を、学科単位で比較したところ、3 年間通して一般選抜で入学した卒業生の累積 GPA が高い学科はない。ただし、ビジネスデザイン学科は設置以来の 2 年間、一般選抜で入学した卒業

生の累積 GPA が高い。反対に、3 年間通して「推薦・その他」の選抜方法で入学した卒業生の累積 GPA が高い学科は、哲学科、環境地理学科、社会学科である。それ以外の学科は、データのある 3 年間において、一般選抜で入学した卒業生の累積 GPA が高い年度もあれば、「推薦・その他」の選抜方法で入学した卒業生の累積 GPA が高い年度、両者がほぼ同じと言える年度もある。なお、ジャーナリズム学科は、一般選抜で入学した 2022・2023 年度卒業生の累積 GPA の方が高いが、改組前の人文・ジャーナリズム学科 2021 年度卒業生は「推薦・その他」の選抜方法で入学した卒業生の累積 GPA が高い。異文化コミュニケーション学科では、両者はほぼ同じであるといえよう。

以上の結果がアドミッションポリシーとの関係で、学部・学科の想定を超えるものであるならば、現行の選抜方法や「推薦・その他」入試合格者に対する入学前教育の内容などを検証することが必要になる場合もあると考えられる。

5. まとめ

専修大学は、教育目標として「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」を掲げ、この「社会知性の開発」を具現化するために、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを策定した。3 つのポリシーの取り組みについての点検・評価を行うには、その基準が定められなければならないが、この「Ⅱ. 3 つのポリシーを踏まえた取組について」の点検・評価は、事前に定められた明確な基準に基づいて行われたものではなく、あくまで 2021 年度～2023 年度卒業生の IR データから読み取れる内容に限定されたものである。それでも、卒業生の単位修得状況のデータから、各学科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの取り組みは、概ね適切な範囲にあると考えられる。しかし、学生の履修する科目の分野別コードや「本学学士課程教育における学修成果を示す共通観点」の点で、各学科においてその適切性を検証する必要がある事項も存在すると考えられる。また、アドミッションポリシーの取り組みについては、この点検・評価が入試方式ごとに卒業生の確定累積 GPA (平均) を比較したデータを分析したにとどまることから、今後さらなる点検・評価を行う必要がある。

Ⅲ. 専修大学生の学修時間・学修行動に関する点検・評価－令和4年度から令和6年度前期 授業に関する学生アンケート結果より－

1. 全学共通設問

2021年度までは学部ごとにアンケートを実施し、設問も実施方法も学部ごとに独自に行ってきたが、2022年度から設問と実施方法が全学で統一された。また、LMSを利用することにより、回答の集計を統一的かつ効率的に行えるようになった。

15問の共通設問は、授業への取組状況（3問）、授業の構成（4問）、授業の難易度・スピード（2問）、授業の満足度（4問）のほか、2問の自由記述の設問からなる。これらのほかに教育課程運営機関ごとに独自の設問を最大5つまで追加してアンケートを実施した。

共通設問一覧		
設問番号	設問内容	選択肢
設問1	この授業への出席状況	1_すべて出席した, 2_1回欠席した, 3_2回欠席した, 4_3回欠席した, 5_4回欠席した, 6_5回欠席した, 7_6回欠席した, 8_7回欠席した, 9_8回以上欠席した
設問2	この授業に熱心に取り組んだ。	1_とてもあてはまる, 2_ややあてはまる, 3_どちらともいえない, 4_ややあてはまらない, 5_あてはまらない
設問3	この授業のために授業時間外で学修した時間（一週間平均）	1_4時間以上, 2_3時間程度, 3_2時間程度, 4_1時間程度, 5_30分程度, 6_ほとんどしなかった,
設問4	この授業で使用された教材等は有益だった。	1_とてもあてはまる, 2_ややあてはまる, 3_どちらともいえない, 4_ややあてはまらない, 5_あてはまらない
設問5	学生の学習環境に配慮した授業の進め方がなされていた。	1_とてもあてはまる, 2_ややあてはまる, 3_どちらともいえない, 4_ややあてはまらない, 5_あてはまらない
設問6	授業に対する教員の熱意や意欲を感じた。	1_とてもあてはまる, 2_ややあてはまる, 3_どちらともいえない, 4_ややあてはまらない, 5_あてはまらない
設問7	授業の内容に対する興味・関心が以前よりも増した。	1_とてもあてはまる, 2_ややあてはまる, 3_どちらともいえない, 4_ややあてはまらない, 5_あてはまらない
設問8	授業の難易度・レベルについて	1_難しすぎる, 2_とても難しい, 3_難しい, 4_やや難しい, 5_ちょうどよい, 6_やや簡単, 7_簡単, 8_とても簡単, 9_簡単すぎる
設問9	授業の進み方・スピードについて	1_速すぎる, 2_とても速い, 3_速い, 4_やや速い, 5_ちょうどよい, 6_やや遅い, 7_遅い, 8_とても遅い, 9_遅すぎる
設問10	この授業の内容は明快でわかりやすかった。	1_とてもあてはまる, 2_ややあてはまる, 3_どちらともいえない, 4_ややあてはまらない, 5_あてはまらない
設問11	この授業から十分な知的刺激を受けた。	1_とてもあてはまる, 2_ややあてはまる, 3_どちらともいえない, 4_ややあてはまらない, 5_あてはまらない
設問12	総合的に評価した上で、この授業に満足している。	1_とてもあてはまる, 2_ややあてはまる, 3_どちらともいえない, 4_ややあてはまらない, 5_あてはまらない
設問13	後輩に、この授業を受講することを薦めたい。	1_とてもあてはまる, 2_ややあてはまる, 3_どちらともいえない, 4_ややあてはまらない, 5_あてはまらない
設問14	この授業を受けて良かったと思う点を書いてください。	自由記述方式
設問15	授業をより良くするために工夫できることがあれば書いてください。	自由記述方式

2. 対象者数、回答者数、回答率

2022年前期からの合計5回のアンケートの回答率の値は、全対象者でみると11.80%から24.50%の範囲であった。また2022年度と2023年度の両年度とも、前期の方が後期より約10ポイント高かった。回答率は科目開講学部等間でのばらつきがあり、前期では6.70%から57.83%、後期では7.05%から31.05%の範囲に分布していた。回答率の高低は特定のいくつかの科目開講学部等に集中するようにもみえるが、必ずしも一貫性のある傾向であるとはいえない。回答率のばらつきには、授業形態（講義、演習、実験・実習）、履修者数、科目配当年次などの違いが影響している可能性も考えられる。回答率が全体的に低い理由や、ほとんどのケースで前期に比べて後期の回答率が下がる理由については、アンケート実施体制上の問題がないかどうかの確認が必要である。

	科目開講学部等	実施対象期	対象者数	回答者数	回答率
1	転換・導入・教養・外国語	2022_前期	58,537	13,627	23.28%
2	転換・導入・教養・外国語	2022_後期	47,103	6,338	13.46%
3	転換・導入・教養・外国語	2023_前期	61,902	14,554	23.51%
4	転換・導入・教養・外国語	2023_後期	53,284	6,632	12.45%
5	転換・導入・教養・外国語	2024_前期	38,533	6,784	17.61%
6	資格課程	2022_前期	2,821	624	22.12%
7	資格課程	2022_後期	3,065	429	14.00%
8	資格課程	2023_前期	3,594	936	26.04%
9	資格課程	2023_後期	3,742	288	7.70%
10	SWP	2022_前期	880	59	6.70%
11	SWP	2022_後期	305	48	15.74%
12	SWP	2023_前期	558	36	6.45%
13	SWP	2023_後期	733	32	4.37%
14	SWP	2024_前期	624	18	2.88%
15	経済学部	2022_前期	17,247	2,699	15.65%
16	経済学部	2022_後期	15,634	1,764	11.28%
17	経済学部	2023_前期	17,933	1,911	10.66%
18	経済学部	2023_後期	16,711	977	5.85%
19	法学部	2022_前期	17,805	5,547	31.15%
20	法学部	2022_後期	13,716	2,483	18.10%
21	法学部	2023_前期	17,914	3,658	20.42%
22	法学部	2023_後期	13,978	2,036	14.57%
23	法学部	2024_前期	18,048	4,698	26.03%
24	経営学部	2022_前期	14,070	2,443	17.36%
25	経営学部	2022_後期	12,452	1,965	15.78%
26	経営学部	2023_前期	14,588	2,066	14.16%
27	経営学部	2023_後期	12,791	1,172	9.16%
28	経営学部	2024_前期	14,730	2,442	16.58%

29	商学部	2022_前期	12,297	4,930	40.09%
30	商学部	2022_後期	10,870	3,077	28.31%
31	商学部	2023_前期	12,078	3,632	30.07%
32	商学部	2023_後期	10,827	1,932	17.84%
33	商学部	2024_前期	12,009	3,189	26.56%
34	文学部	2022_前期	18,141	3,129	17.25%
35	文学部	2022_後期	16,092	1,635	10.16%
36	文学部	2023_前期	18,159	2,877	15.84%
37	文学部	2023_後期	16,677	1,338	8.02%
38	文学部	2024_前期	19,351	2,035	10.52%
39	ネットワーク情報学部	2022_前期	5,324	3,079	57.83%
40	ネットワーク情報学部	2022_後期	5,334	1,656	31.05%
41	ネットワーク情報学部	2023_前期	5,667	2,529	44.63%
42	ネットワーク情報学部	2023_後期	5,268	1,123	21.32%
43	ネットワーク情報学部	2024_前期	6,118	1,967	32.15%
44	人間科学部	2022_前期	4,729	1,017	21.51%
45	人間科学部	2022_後期	4,352	307	7.05%
46	人間科学部	2023_前期	4,912	953	19.40%
47	人間科学部	2023_後期	4,640	247	5.32%
48	人間科学部	2024_前期	5,411	709	13.10%
49	国際コミュニケーション学部	2022_前期	3,750	961	25.63%
50	国際コミュニケーション学部	2022_後期	4,188	1,246	29.75%
51	国際コミュニケーション学部	2023_前期	3,195	1,509	47.23%
52	国際コミュニケーション学部	2023_後期	4,484	1,116	24.89%

		対象者数	回答者数	回答率
1	2022_前期	155,601	38,115	24.50%
2	2022_後期	133,111	20,948	15.74%
3	2023_前期	160,500	34,661	21.60%
4	2023_後期	143,135	16,893	11.80%
5	2024_前期	114,824	21,842	19.02%

3. 設問ごとの回答状況

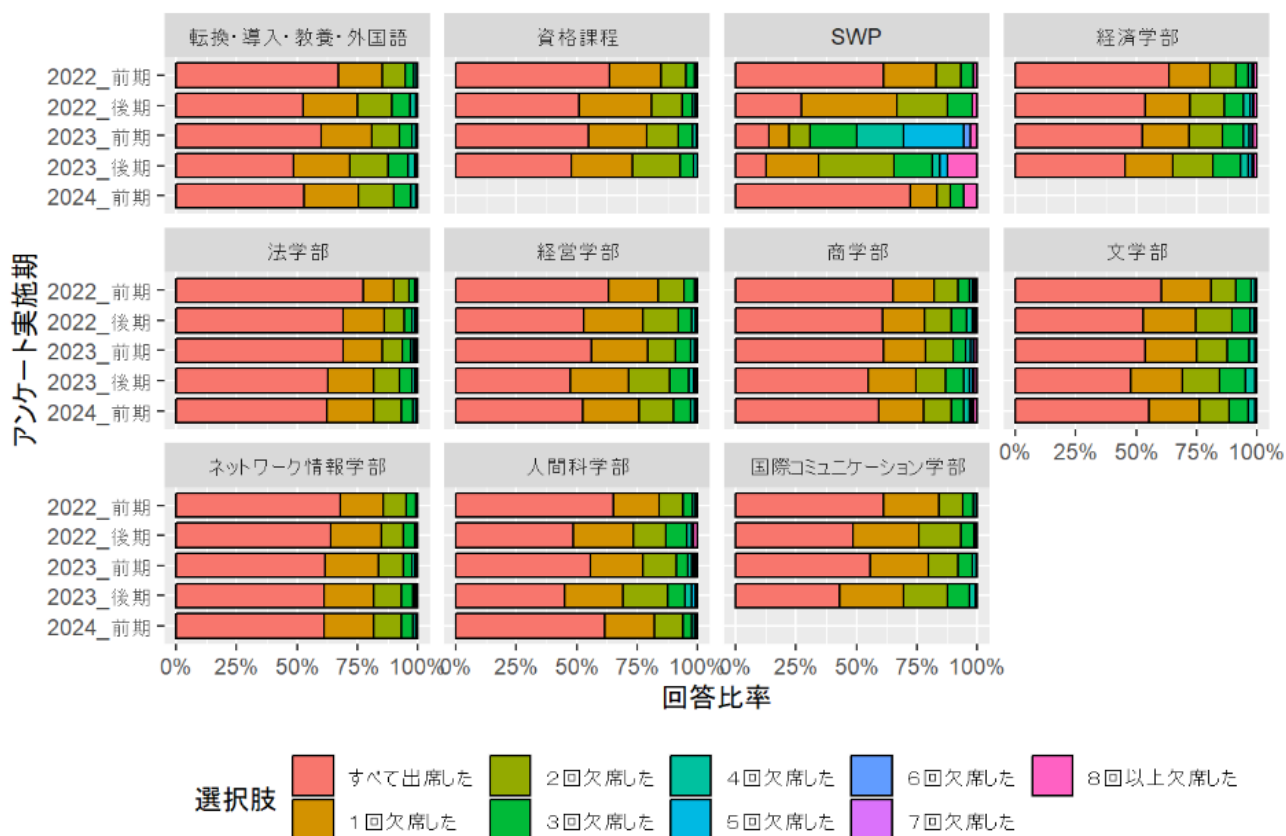
① 授業への取組状況（設問1～3）

回答者の出席状況は科目開講学部等の中で大きな差は認められず、すべて出席したか欠席が一回と回答した者が概ね75%程度かそれ以上を占めていた。また前期と後期を比較すると、ほぼ全てのケースで後期に出席率が低下していた。

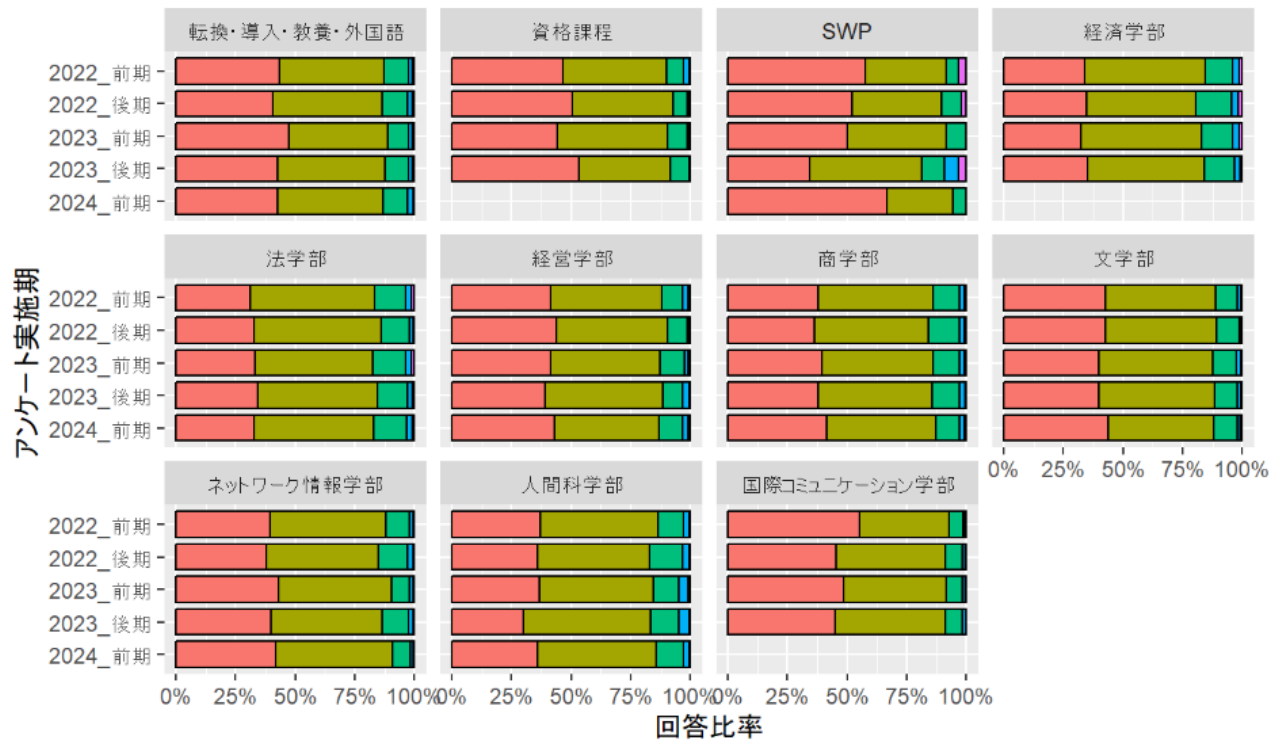
授業に熱心に取り組んだかどうかについて、回答者の80%以上が肯定的な回答（とてもあてはまる、ややあてはまる）をしていた。回答傾向は科目開講学部等間や前・後期間で大きな差は認められなかった。

一週間の授業時間外の学修時間については、ほとんどしなかったと回答した者が約20%を占めるケースが多かった。一方、2時間程度かそれ以上と回答した者は20%程度であるケースが多かったが、50%前後を占める学部も存在した。上述のように授業への取り組みの熱心さは科目開講学部等間の違いが大きくないにも関わらず、授業時間外の学修時間に一定の差が認められるケースがある理由を理解するには、授業形態の違い等との関係性を分析する必要がある。

設問1 この授業への出席状況



設問2 この授業に熱心に取り組んだ。



設問3 この授業のために授業時間外で学修した時間（一週間平均）



②授業の構成（設問4～7）

授業で使用された教材や、学習環境に配慮した授業の進め方については、どちらの設問も、肯定的な回答（とてもあてはまる、ややあてはまる）をした者が80%前後を占め、科目開講学部等間の差は大きくなかった。授業に対する教員の熱意や意欲に関しても、肯定的な回答をした者が90%程度かそれ以上を占めていた。授業内容に対する興味・関心が以前よりも増したと回答した者が80%前後を占める科目開講学部等多く、90%程度になるケースもみられた。年度による違いや科目開講学部等間の違いが小さく、履修を通じて興味・関心が一様に増大した様子がうかがえる。

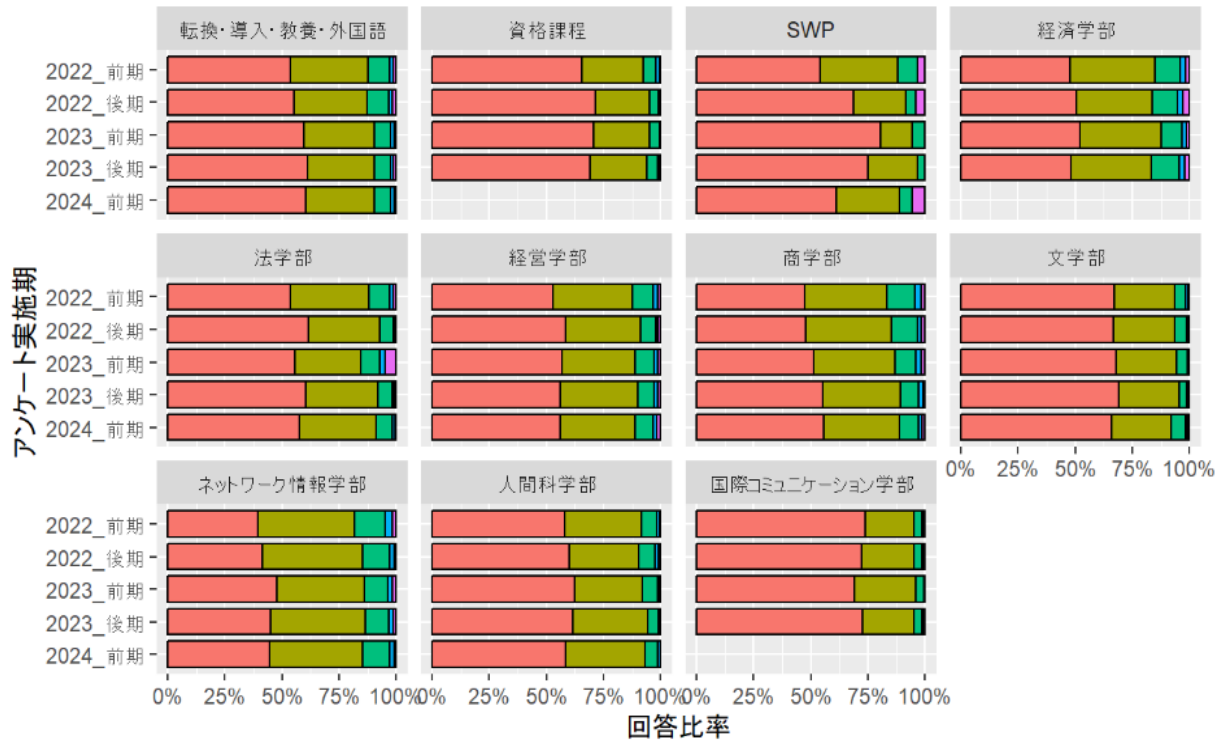
設問4 この授業で使用された教材等は有益だった。



設問5 学生の学習環境に配慮した授業の進め方がなされていた。

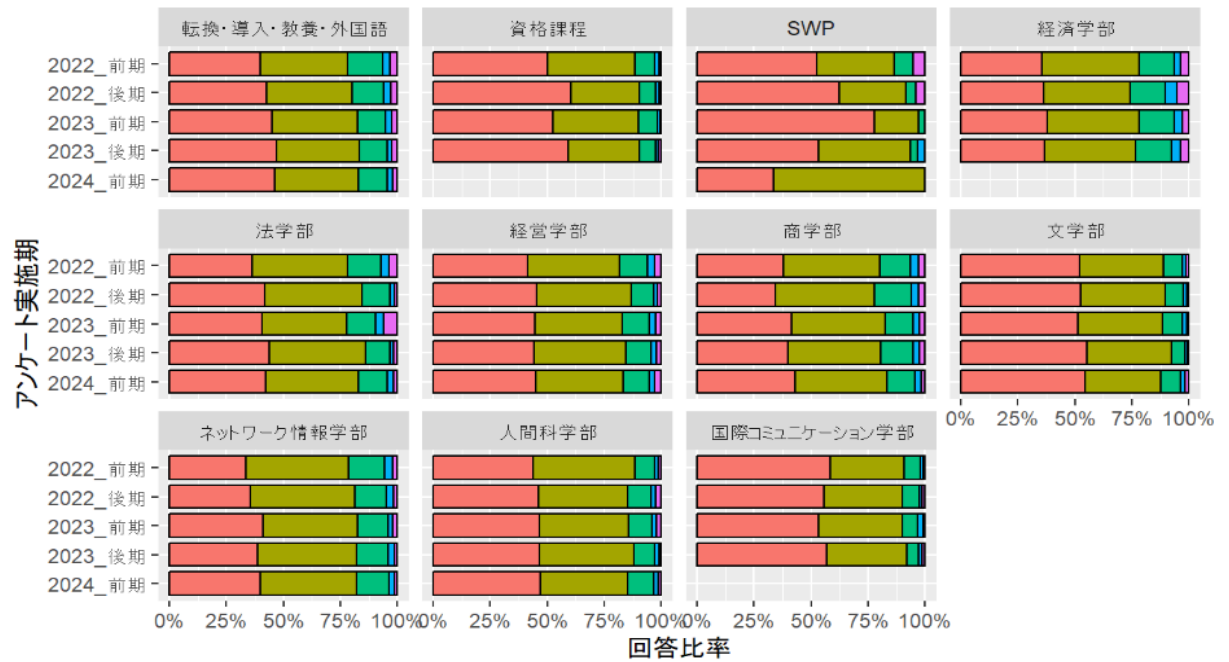


設問6 授業に対する教員の熱意や意欲を感じた。



選択肢 ■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない ■ ややあてはまらない ■ あてはまらない

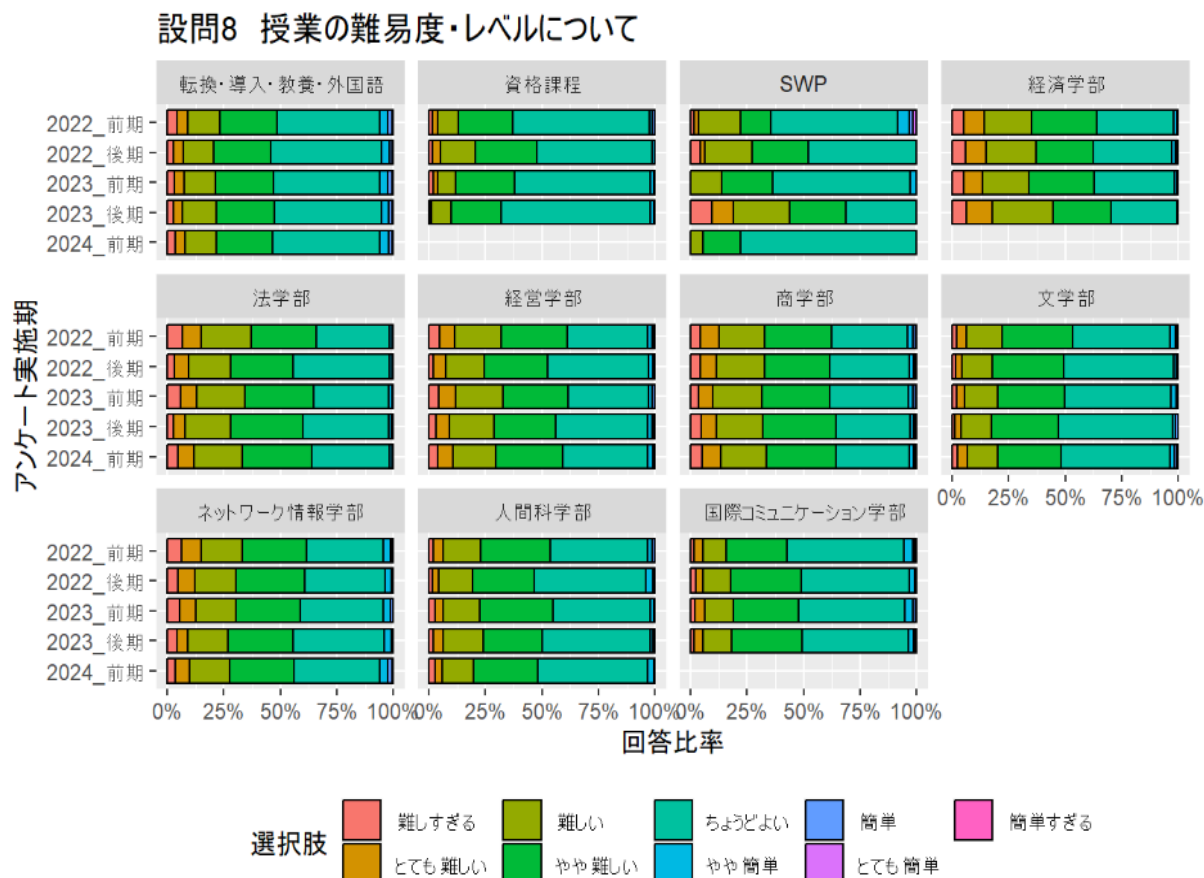
設問7 授業の内容に対する興味・関心が以前よりも増した。



選択肢 ■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない ■ ややあてはまらない ■ あてはまらない

③授業の難易度・スピード（設問8～9）

授業の難易度・レベルについては、どの科目開講学部等でもちょうどよいと回答した者の占める割合が30～50%程度を占め、次にやや難しいとの回答が20%程度を占めた。難しすぎるとの回答は5%前後、とても簡単や簡単すぎるとの回答はほとんどなかった。授業の進み方・スピードについては、どの科目開講学部等でもちょうどよいとの回答が50%以上を占め、早すぎるや遅すぎるとの回答は、わずかしかなかった。数値の上では、難易度やレベル、授業の進み方・スピードは概ね適切であるように見えるが、回答者の心理も考慮して数値の意味を吟味することが必要であろう。



アンケート実施期

0% 25% 50% 75% 100%

回答比率

選択肢

- 速すぎる
- とても速い
- やや速い
- ちょうどよい
- やや遅い
- 遅い
- 遅すぎる

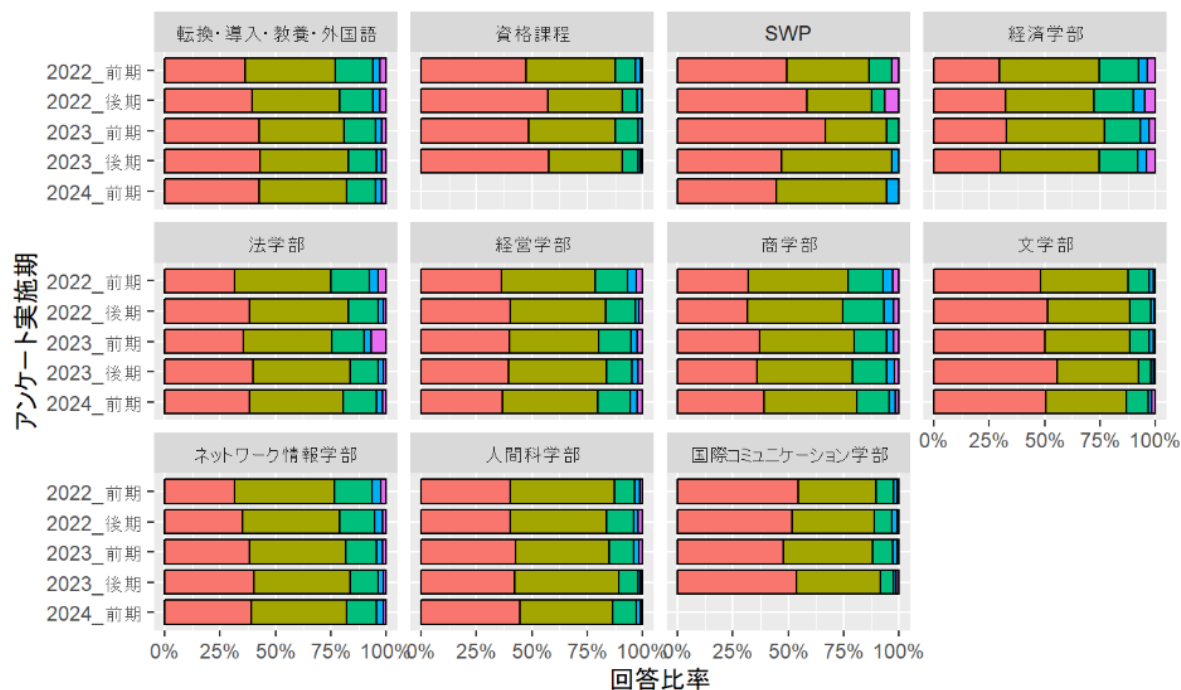
④授業の満足度（設問 10～13）

授業のわかりやすさ、知的刺激を受けたかどうかについては、いずれの科目開講学部等でも、80%前後の者が肯定的な回答（とてもあてはまる、ややあてはまる）をした。また、総合的な満足度についても 80～90%程度の者が肯定的な回答をした。さらに後輩に受講を薦めるかどうかに関しては、75%前後の者が肯定的な回答をした。設問間の値を比較すると、授業がわかりやすく知的刺激を受けたことに肯定的な回答が多い科目開講学部等で総合的な満足度に肯定的な回答をする者の割合が高くなる傾向があるのは当然ともいえるが、後輩への受講を薦めることに肯定的な回答の割合が、授業への満足度から期待される割合よりやや低い傾向が認められる点については、いささか矛盾している印象を受ける。

設問10 この授業の内容は明快でわかりやすかった。

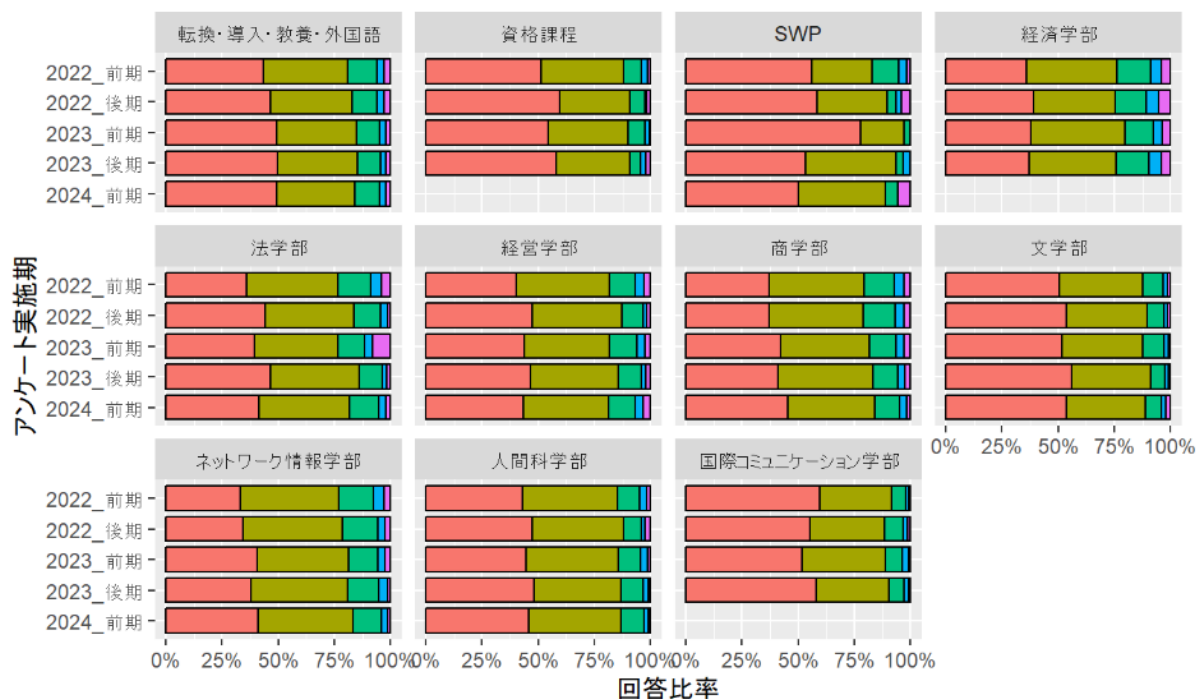


設問11 この授業から十分な知的刺激を受けた。



選択肢 ■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない ■ ややあてはまらない ■ あてはまらない

設問12 総合的に評価した上で、この授業に満足している。



選択肢 ■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない ■ ややあてはまらない ■ あてはまらない

設問13 後輩に、この授業を受講することを薦めたい。



5. まとめ

全学で統一したアンケート調査を実施したことにより、全学的な特徴や科目開講学部等別の特徴をつかむための基盤ができたことが確認できた。

共通設問の回答結果からは、授業の内容や進め方などは概ね肯定的な回答が多く出席率も高いが、その一方で学生の自律的な学修が必ずしも十分ではないケースがあることが示唆された。アンケートの結果が現状を正しく反映しているとすれば、大学における単位制度の趣旨に沿うような授業時間外の学修時間が保てるように、学修時間のあり方を教育課程運営機関ごとに点検する必要がある。

しかし、回答率が高くないため、結果の解釈には慎重を要する。アンケートを授業改善の取り組みに活かすためには、回答率を現状よりも高めることが必要である。今回のアンケートの回答結果には、出席率の低い者の回答が含まれていない可能性があることや、履修中止した者が回答していないことを考慮すると、必ずしも数字の通りに理解してよいものではないと考えられる。科目開講学部等の間の違いや、それらと授業形態（講義、演習、実験・実習）、履修者数、科目配当年次などとの関係は、回答率が低いままでは十分な理解が困難である。

なお、2022年度はコロナ禍の影響で、オンライン開講された科目が2023年度以降よりも多かった。アンケート結果において、年度による回答の違いは顕著ではなかったが、より詳細な分析を行う際には、オンライン授業か対面授業かという開講形態の違いにも留意することが必要であろう。

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
経済学科	企業と情報コース	ACC_会計学			140	0.6
経済学科	企業と情報コース	ARL_芸術一般			140	0.08
経済学科	企業と情報コース	ARS_地域研究			140	0.16
経済学科	企業と情報コース	CHI_中国語			140	2.18
経済学科	企業と情報コース	CIL_民事法学			140	0.46
経済学科	企業と情報コース	CME_商学			140	0.03
経済学科	企業と情報コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）			140	1.89
経済学科	企業と情報コース	CUA_文化人類学・民俗学			140	0.96
経済学科	企業と情報コース	ECH_経済史			140	4.6
経済学科	企業と情報コース	ECP_経済政策			140	12.19
経済学科	企業と情報コース	ECS_経済統計			140	0.15
経済学科	企業と情報コース	ECT_理論経済学			140	9.83
経済学科	企業と情報コース	EDU_教育学			140	0.35
経済学科	企業と情報コース	ENG_英語一般			140	0.4
経済学科	企業と情報コース	EPE_経済学・政治経済学			140	41.86
経済学科	企業と情報コース	EPS_環境政策・環境社会システム			140	0.8
経済学科	企業と情報コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）			140	1.87
経済学科	企業と情報コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）			140	3.46
経済学科	企業と情報コース	ETH_倫理学			140	0.78
経済学科	企業と情報コース	FRE_フランス語			140	0.48
経済学科	企業と情報コース	FUL_基礎法学			140	0.12
経済学科	企業と情報コース	GDE_ジェンダー			140	0.03
経済学科	企業と情報コース	GER_ドイツ語			140	0.48
経済学科	企業と情報コース	GGR_地理学一般			140	0.42
経済学科	企業と情報コース	GIN_情報学一般			140	3.22
経済学科	企業と情報コース	GPS_心理学一般			140	1.73
経済学科	企業と情報コース	HOT_思想史			140	0.42
経済学科	企業と情報コース	HSG_史学一般			140	0.99
経済学科	企業と情報コース	HUG_人文地理学			140	0.05
経済学科	企業と情報コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）			140	0.33
経済学科	企業と情報コース	IEP_国際経済政策			140	0.32
経済学科	企業と情報コース	IND_インドネシア語			140	0.03
経済学科	企業と情報コース	JPH_日本史			140	0.06
経済学科	企業と情報コース	JPN_日本語			140	0.26
経済学科	企業と情報コース	JRN_ジャーナリズム			140	0.08
経済学科	企業と情報コース	KOR_コリア語			140	0.65
経済学科	企業と情報コース	LCP_司書課程			140	0.38
経済学科	企業と情報コース	LIG_文学一般			140	0.93
経済学科	企業と情報コース	LOG_論理学			140	0.35

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
経済学科	企業と情報コース	MAT_数理科学			140	0.13
経済学科	企業と情報コース	MOF_金融・ファイナンス			140	3.26
経済学科	企業と情報コース	NSC_自然科学一般			140	4.69
経済学科	企業と情報コース	PFP_財政・公共経済			140	2.73
経済学科	企業と情報コース	PHE_哲学一般			140	0.95
経済学科	企業と情報コース	PHG_自然地理学			140	0.06
経済学科	企業と情報コース	POL_政治学			140	0.53
経済学科	企業と情報コース	PUL_公法学			140	0.49
経済学科	企業と情報コース	REG_地誌学			140	0.03
経済学科	企業と情報コース	RUS_ロシア語			140	0.03
経済学科	企業と情報コース	SCS_社会科学一般			140	0.18
経済学科	企業と情報コース	SEM_ゼミナール			140	11.96
経済学科	企業と情報コース	SLP_学校司書			140	0.03
経済学科	企業と情報コース	SOC_社会学			140	0.52
経済学科	企業と情報コース	SOI_社会情報学			140	0.02
経済学科	企業と情報コース	SOL_社会法学			140	0.29
経済学科	企業と情報コース	SPL_特殊講義			140	0.78
経済学科	企業と情報コース	SPN_スペイン語			140	0.72
経済学科	企業と情報コース	SPS_スポーツ科学			140	2.45
経済学科	企業と情報コース	TCP_教職課程			140	0.35
経済学科	企業と情報コース	THE_卒業論文・卒業研究			140	4.8
経済学科	企業と情報コース	TLP_司書教諭課程			140	0.08
経済学科	企業と情報コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究			140	0.46
経済学科	市場と政府コース	ACC_会計学			81	0.52
経済学科	市場と政府コース	ARL_芸術一般			81	0.1
経済学科	市場と政府コース	ARS_地域研究			81	0.05
経済学科	市場と政府コース	CHI_中国語			81	2.23
経済学科	市場と政府コース	CIL_民事法学			81	0.62
経済学科	市場と政府コース	CME_商学			81	0.03
経済学科	市場と政府コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）			81	1.88
経済学科	市場と政府コース	CUA_文化人類学・民俗学			81	1.04
経済学科	市場と政府コース	ECH_経済史			81	5.19
経済学科	市場と政府コース	ECP_経済政策			81	9.56
経済学科	市場と政府コース	ECS_経済統計			81	0.5
経済学科	市場と政府コース	ECT_理論経済学			81	9.96
経済学科	市場と政府コース	EDU_教育学			81	0.57
経済学科	市場と政府コース	ENG_英語一般			81	0.25
経済学科	市場と政府コース	EPE_経済学・政治経済学			81	38.77
経済学科	市場と政府コース	EPS_環境政策・環境社会システム			81	0.28
経済学科	市場と政府コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）			81	1.96
経済学科	市場と政府コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）			81	3.63

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
経済学科	市場と政府コース	ETH_倫理学			81	0.47
経済学科	市場と政府コース	FRE_フランス語			81	0.65
経済学科	市場と政府コース	FUL_基礎法学			81	0.2
経済学科	市場と政府コース	GDE_ジェンダー			81	0.03
経済学科	市場と政府コース	GER_ドイツ語			81	0.35
経済学科	市場と政府コース	GGR_地理学一般			81	0.38
経済学科	市場と政府コース	GIN_情報学一般			81	3.12
経済学科	市場と政府コース	GPS_心理学一般			81	2
経済学科	市場と政府コース	HOT_思想史			81	0.55
経済学科	市場と政府コース	HSG_史学一般			81	1.63
経済学科	市場と政府コース	HUG_人文地理学			81	0.13
経済学科	市場と政府コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）			81	0.18
経済学科	市場と政府コース	IEP_国際経済政策			81	0.28
経済学科	市場と政府コース	IND_インドネシア語			81	0.05
経済学科	市場と政府コース	JPN_日本語			81	0.15
経済学科	市場と政府コース	JRN_ジャーナリズム			81	0.13
経済学科	市場と政府コース	KOR_コリア語			81	0.33
経済学科	市場と政府コース	LIG_文学一般			81	1.07
経済学科	市場と政府コース	LOG_論理学			81	0.3
経済学科	市場と政府コース	MAT_数理科学			81	0.1
経済学科	市場と政府コース	MOF_金融・ファイナンス			81	3.31
経済学科	市場と政府コース	NSC_自然科学一般			81	4.57
経済学科	市場と政府コース	PFP_財政・公共経済			81	7.93
経済学科	市場と政府コース	PHE_哲学一般			81	0.8
経済学科	市場と政府コース	POL_政治学			81	0.8
経済学科	市場と政府コース	PUL_公法学			81	1.17
経済学科	市場と政府コース	RUS_ロシア語			81	0.18
経済学科	市場と政府コース	SCS_社会科学一般			81	0.08
経済学科	市場と政府コース	SEM_ゼミナール			81	12.1
経済学科	市場と政府コース	SOC_社会学			81	0.52
経済学科	市場と政府コース	SOL_社会法学			81	0.42
経済学科	市場と政府コース	SPL_特殊講義			81	0.52
経済学科	市場と政府コース	SPN_スペイン語			81	0.82
経済学科	市場と政府コース	SPS_スポーツ科学			81	2.55
経済学科	市場と政府コース	THE_卒業論文・卒業研究			81	4.5
経済学科	市場と政府コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究			81	0.25
経済学科	歴史と発展コース	ACC_会計学			45	0.32
経済学科	歴史と発展コース	ARL_芸術一般			45	0.18
経済学科	歴史と発展コース	ARS_地域研究			45	0.18
経済学科	歴史と発展コース	CHI_中国語			45	1.78
経済学科	歴史と発展コース	CIL_民事法学			45	0.09

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
経済学科	歴史と発展コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）			45	1.83
経済学科	歴史と発展コース	CUA_文化人類学・民俗学			45	0.85
経済学科	歴史と発展コース	ECH_経済史			45	7.43
経済学科	歴史と発展コース	ECP_経済政策			45	8.76
経済学科	歴史と発展コース	ECT_理論経済学			45	5.43
経済学科	歴史と発展コース	EDU_教育学			45	0.49
経済学科	歴史と発展コース	ENG_英語一般			45	0.54
経済学科	歴史と発展コース	EPE_経済学・政治経済学			45	48.23
経済学科	歴史と発展コース	EPS_環境政策・環境社会システム			45	0.8
経済学科	歴史と発展コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）			45	1.87
経済学科	歴史と発展コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）			45	3.27
経済学科	歴史と発展コース	ETH_倫理学			45	0.94
経済学科	歴史と発展コース	FRE_フランス語			45	0.27
経済学科	歴史と発展コース	FUL_基礎法学			45	0.49
経済学科	歴史と発展コース	GER_ドイツ語			45	1.56
経済学科	歴史と発展コース	GGR_地理学一般			45	0.76
経済学科	歴史と発展コース	GIN_情報学一般			45	3.25
経済学科	歴史と発展コース	GPS_心理学一般			45	2.09
経済学科	歴史と発展コース	HOT_思想史			45	0.4
経済学科	歴史と発展コース	HSG_史学一般			45	2.4
経済学科	歴史と発展コース	HUG_人文地理学			45	0.54
経済学科	歴史と発展コース	IDG_国際開発問題			45	0.32
経済学科	歴史と発展コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）			45	0.4
経済学科	歴史と発展コース	IEP_国際経済政策			45	0.72
経済学科	歴史と発展コース	IND_インドネシア語			45	0.27
経済学科	歴史と発展コース	JPH_日本史			45	0.58
経済学科	歴史と発展コース	JPN_日本語			45	0.54
経済学科	歴史と発展コース	JRN_ジャーナリズム			45	0.09
経済学科	歴史と発展コース	KOR_コリア語			45	0.36
経済学科	歴史と発展コース	LIG_文学一般			45	1.47
経済学科	歴史と発展コース	LOG_論理学			45	0.18
経済学科	歴史と発展コース	MAT_数理科学			45	0.18
経済学科	歴史と発展コース	MOF_金融・ファイナンス			45	2.14
経済学科	歴史と発展コース	NSC_自然科学一般			45	4.98
経済学科	歴史と発展コース	PFP_財政・公共経済			45	1.2
経済学科	歴史と発展コース	PHE_哲学一般			45	1.03
経済学科	歴史と発展コース	PHG_自然地理学			45	0.45
経済学科	歴史と発展コース	POL_政治学			45	0.27
経済学科	歴史と発展コース	PUL_公法学			45	0.72
経済学科	歴史と発展コース	REG_地誌学			45	0.45
経済学科	歴史と発展コース	RES_宗教学			45	0.09

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
経済学科	歴史と発展コース	SCS_社会科学一般			45	0.18
経済学科	歴史と発展コース	SEM_ゼミナール			45	11.52
経済学科	歴史と発展コース	SOC_社会学			45	0.4
経済学科	歴史と発展コース	SOL_社会法学			45	0.09
経済学科	歴史と発展コース	SPL_特殊講義			45	0.49
経済学科	歴史と発展コース	SPN_スペイン語			45	0.72
経済学科	歴史と発展コース	SPS_スポーツ科学			45	2.8
経済学科	歴史と発展コース	TCP_教職課程			45	4.47
経済学科	歴史と発展コース	THE_卒業論文・卒業研究			45	4.45
経済学科	歴史と発展コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究			45	0.85
経済学科	福祉と環境コース	ACC_会計学			173	0.16
経済学科	福祉と環境コース	ARC_考古学			173	0.03
経済学科	福祉と環境コース	ARL_芸術一般			173	0.1
経済学科	福祉と環境コース	ARS_地域研究			173	0.13
経済学科	福祉と環境コース	CHI_中国語			173	1.83
経済学科	福祉と環境コース	CIL_民事法学			173	0.1
経済学科	福祉と環境コース	CME_商学			173	0.02
経済学科	福祉と環境コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）			173	1.99
経済学科	福祉と環境コース	CUA_文化人類学・民俗学			173	0.9
経済学科	福祉と環境コース	ECH_経済史			173	6.26
経済学科	福祉と環境コース	ECP_経済政策			173	11.64
経済学科	福祉と環境コース	ECS_経済統計			173	0.04
経済学科	福祉と環境コース	ECT_理論経済学			173	6.24
経済学科	福祉と環境コース	EDU_教育学			173	0.36
経済学科	福祉と環境コース	ENG_英語一般			173	0.26
経済学科	福祉と環境コース	EPE_経済学・政治経済学			173	44.26
経済学科	福祉と環境コース	EPS_環境政策・環境社会システム			173	3.35
経済学科	福祉と環境コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）			173	1.96
経済学科	福祉と環境コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）			173	3.44
経済学科	福祉と環境コース	ETH_倫理学			173	1.02
経済学科	福祉と環境コース	FAH_美術史			173	0.03
経済学科	福祉と環境コース	FRE_フランス語			173	0.58
経済学科	福祉と環境コース	FUL_基礎法学			173	0.21
経済学科	福祉と環境コース	GDE_ジェンダー			173	0.13
経済学科	福祉と環境コース	GER_ドイツ語			173	0.16
経済学科	福祉と環境コース	GGR_地理学一般			173	0.35
経済学科	福祉と環境コース	GIN_情報学一般			173	3.05
経済学科	福祉と環境コース	GPS_心理学一般			173	1.87
経済学科	福祉と環境コース	HOT_思想史			173	0.46
経済学科	福祉と環境コース	HSG_史学一般			173	1.1
経済学科	福祉と環境コース	HUG_人文地理学			173	0.14

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
経済学科	福祉と環境コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）			173	0.05
経済学科	福祉と環境コース	IEP_国際経済政策			173	0.35
経済学科	福祉と環境コース	IND_インドネシア語			173	0.07
経済学科	福祉と環境コース	JPH_日本史			173	0.14
経済学科	福祉と環境コース	JPN_日本語			173	0.14
経済学科	福祉と環境コース	JRN_ジャーナリズム			173	0.16
経済学科	福祉と環境コース	KOR_コリア語			173	1.15
経済学科	福祉と環境コース	LCP_司書課程			173	0.02
経済学科	福祉と環境コース	LIG_文学一般			173	1.38
経済学科	福祉と環境コース	LOG_論理学			173	0.24
経済学科	福祉と環境コース	MAT_数理科学			173	0.03
経済学科	福祉と環境コース	MCP_学芸員課程			173	0.1
経済学科	福祉と環境コース	MOF_金融・ファイナンス			173	2.33
経済学科	福祉と環境コース	NSC_自然科学一般			173	5.52
経済学科	福祉と環境コース	PFP_財政・公共経済			173	2.54
経済学科	福祉と環境コース	PHE_哲学一般			173	1.33
経済学科	福祉と環境コース	PHG_自然地理学			173	0.13
経済学科	福祉と環境コース	POL_政治学			173	0.16
経済学科	福祉と環境コース	PUL_公法学			173	0.4
経済学科	福祉と環境コース	REG_地誌学			173	0.16
経済学科	福祉と環境コース	RES_宗教学			173	0.03
経済学科	福祉と環境コース	SCS_社会科学一般			173	0.1
経済学科	福祉と環境コース	SEM_ゼミナール			173	10.49
経済学科	福祉と環境コース	SOC_社会学			173	0.29
経済学科	福祉と環境コース	SOL_社会法学			173	0.37
経済学科	福祉と環境コース	SPL_特殊講義			173	1.02
経済学科	福祉と環境コース	SPN_スペイン語			173	0.77
経済学科	福祉と環境コース	SPS_スポーツ科学			173	2.78
経済学科	福祉と環境コース	TCP_教職課程			173	1.38
経済学科	福祉と環境コース	THE_卒業論文・卒業研究			173	3.94
経済学科	福祉と環境コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究			173	0.63
現代経済学科	-	ACC_会計学	232	1.79		
現代経済学科	-	ARC_考古学	232	0.02		
現代経済学科	-	ARL_芸術一般	232	0.16		
現代経済学科	-	ARS_地域研究	232	0.28		
現代経済学科	-	CHI_中国語	232	1.78		
現代経済学科	-	CIL_民事法学	232	0.69		
現代経済学科	-	CME_商学	232	0.42		
現代経済学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	232	1.92		
現代経済学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	232	0.07		
現代経済学科	-	ECH_経済史	232	5.56		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
現代経済学科	-	ECP_経済政策	232	19.41		
現代経済学科	-	ECS_経済統計	232	0.76		
現代経済学科	-	ECT_理論経済学	232	19.74		
現代経済学科	-	EDU_教育学	232	0.82		
現代経済学科	-	ENG_英語一般	232	0.42		
現代経済学科	-	EPE_経済学・政治経済学	232	8.25		
現代経済学科	-	EPS_環境政策・環境社会システム	232	1.4		
現代経済学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	232	1.98		
現代経済学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	232	3.33		
現代経済学科	-	ETH_倫理学	232	1.06		
現代経済学科	-	FRE_フランス語	232	0.55		
現代経済学科	-	FUL_基礎法学	232	0.4		
現代経済学科	-	GDE_ジェンダー	232	0.16		
現代経済学科	-	GER_ドイツ語	232	0.25		
現代経済学科	-	GGR_地理学一般	232	0.17		
現代経済学科	-	GIN_情報学一般	232	2.94		
現代経済学科	-	GPS_心理学一般	232	2.76		
現代経済学科	-	HSG_史学一般	232	1.54		
現代経済学科	-	ICT_情報通信技術	232	0.01		
現代経済学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	232	0.47		
現代経済学科	-	IEP_国際経済政策	232	3.38		
現代経済学科	-	JPH_日本史	232	0.13		
現代経済学科	-	JPN_日本語	232	0.47		
現代経済学科	-	JRN_ジャーナリズム	232	0.21		
現代経済学科	-	KOR_コリア語	232	0.81		
現代経済学科	-	LCP_司書課程	232	0.22		
現代経済学科	-	LIE_英米・英語圏文学	232	0.03		
現代経済学科	-	LIG_文学一般	232	1.06		
現代経済学科	-	LOG_論理学	232	0.24		
現代経済学科	-	MAN_経営学	232	1.01		
現代経済学科	-	MAT_数理科学	232	0.08		
現代経済学科	-	MOF_金融・ファイナンス	232	3.6		
現代経済学科	-	NSC_自然科学一般	232	4.04		
現代経済学科	-	PFP_財政・公共経済	232	2.3		
現代経済学科	-	PHE_哲学一般	232	0.72		
現代経済学科	-	POL_政治学	232	0.58		
現代経済学科	-	PUL_公法学	232	1.62		
現代経済学科	-	REG_地誌学	232	0.1		
現代経済学科	-	RES_宗教学	232	0.07		
現代経済学科	-	RUS_ロシア語	232	0.04		
現代経済学科	-	SEM_ゼミナール	232	10.8		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
現代経済学科	-	SLP_学校司書	232	0.02		
現代経済学科	-	S0C_社会学	232	1.19		
現代経済学科	-	S0L_社会法学	232	0.34		
現代経済学科	-	SPL_特殊講義	232	1.93		
現代経済学科	-	SPN_スペイン語	232	1.23		
現代経済学科	-	SPS_スポーツ科学	232	2.94		
現代経済学科	-	STS_統計科学	232	5.04		
現代経済学科	-	TCP_教職課程	232	1.76		
現代経済学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	232	4.16		
現代経済学科	-	TLP_司書教諭課程	232	0.03		
現代経済学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	232	0.57		
生活環境経済学科	-	ACC_会計学	240	0.29		
生活環境経済学科	-	ARL_芸術一般	240	0.1		
生活環境経済学科	-	ARS_地域研究	240	0.16		
生活環境経済学科	-	CHI_中国語	240	1.76		
生活環境経済学科	-	CIL_民事法学	240	1.54		
生活環境経済学科	-	CME_商学	240	0.28		
生活環境経済学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	240	1.96		
生活環境経済学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	240	0.43		
生活環境経済学科	-	ECH_経済史	240	14.17		
生活環境経済学科	-	ECP_経済政策	240	7.33		
生活環境経済学科	-	ECT_理論経済学	240	4.55		
生活環境経済学科	-	EDU_教育学	240	0.91		
生活環境経済学科	-	ENG_英語一般	240	0.33		
生活環境経済学科	-	EPE_経済学・政治経済学	240	36.95		
生活環境経済学科	-	EPS_環境政策・環境社会システム	240	1.96		
生活環境経済学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	240	1.94		
生活環境経済学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	240	3.39		
生活環境経済学科	-	ETH_倫理学	240	0.73		
生活環境経済学科	-	FAH_美術史	240	0.02		
生活環境経済学科	-	FRE_フランス語	240	0.47		
生活環境経済学科	-	FUL_基礎法学	240	0.46		
生活環境経済学科	-	GER_ドイツ語	240	0.35		
生活環境経済学科	-	GGR_地理学一般	240	0.35		
生活環境経済学科	-	GIN_情報学一般	240	3.29		
生活環境経済学科	-	GPS_心理学一般	240	2.29		
生活環境経済学科	-	HSG_史学一般	240	1.5		
生活環境経済学科	-	IDG_国際開発問題	240	0.22		
生活環境経済学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	240	0.58		
生活環境経済学科	-	IEP_国際経済政策	240	0.15		
生活環境経済学科	-	IND_インドネシア語	240	0.21		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
生活環境経済学科	-	ITL_イタリア語	240	0.02		
生活環境経済学科	-	JPH_日本史	240	0.12		
生活環境経済学科	-	JPN_日本語	240	0.62		
生活環境経済学科	-	JRN_ジャーナリズム	240	0.23		
生活環境経済学科	-	KOR_コリア語	240	0.8		
生活環境経済学科	-	LCP_司書課程	240	0.05		
生活環境経済学科	-	LIE_英米・英語圏文学	240	0.03		
生活環境経済学科	-	LIG_文学一般	240	1.01		
生活環境経済学科	-	LOG_論理学	240	0.23		
生活環境経済学科	-	MAN_経営学	240	0.58		
生活環境経済学科	-	MAT_数理科学	240	0.15		
生活環境経済学科	-	MCP_学芸員課程	240	0.03		
生活環境経済学科	-	MOF_金融・ファイナンス	240	1.5		
生活環境経済学科	-	NSC_自然科学一般	240	4.45		
生活環境経済学科	-	PFP_財政・公共経済	240	1.24		
生活環境経済学科	-	PHE_哲学一般	240	0.56		
生活環境経済学科	-	POL_政治学	240	0.79		
生活環境経済学科	-	PUL_公法学	240	2.2		
生活環境経済学科	-	REG_地誌学	240	0.09		
生活環境経済学科	-	RUS_ロシア語	240	0.04		
生活環境経済学科	-	SCS_社会科学一般	240	1.15		
生活環境経済学科	-	SEM_ゼミナール	240	10.82		
生活環境経済学科	-	SOC_社会学	240	1.24		
生活環境経済学科	-	SOL_社会法学	240	0.57		
生活環境経済学科	-	SPL_特殊講義	240	1.84		
生活環境経済学科	-	SPN_スペイン語	240	0.87		
生活環境経済学科	-	SPS_スポーツ科学	240	3.3		
生活環境経済学科	-	TCP_教職課程	240	0.96		
生活環境経済学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	240	4.18		
生活環境経済学科	-	TLP_司書教諭課程	240	0.02		
生活環境経済学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	240	0.65		
国際経済学科	-	ACC_会計学	184	0.86	159	0.38
国際経済学科	-	ARL_芸術一般	184	0.27	159	0.03
国際経済学科	-	ARS_地域研究	184	7.42	159	7.64
国際経済学科	-	CHI_中国語	184	2.49	159	2.55
国際経済学科	-	CIL_民事法学	184	0.39	159	0.19
国際経済学科	-	CLP_臨床心理学	184	0.02		
国際経済学科	-	CME_商学	184	0.44	159	0.09
国際経済学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	184	1.96	159	1.99
国際経済学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	184	1.1	159	1.89
国際経済学科	-	ECH_経済史	184	6.99	159	3.74

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
国際経済学科	-	ECP_経済政策	184	9.02	159	9.06
国際経済学科	-	ECS_経済統計	184	1.94	159	1.48
国際経済学科	-	ECT_理論経済学	184	6.42	159	7.5
国際経済学科	-	EDU_教育学	184	1.11	159	0.33
国際経済学科	-	ENG_英語一般	184	4.09	159	4.41
国際経済学科	-	EPE_経済学・政治経済学	184	4.81	159	8
国際経済学科	-	EPS_環境政策・環境社会システム	184	0.85	159	1.11
国際経済学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	184	6.75	159	6.74
国際経済学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	184	6.27	159	6.38
国際経済学科	-	ETH_倫理学	184	0.84	159	0.62
国際経済学科	-	FRE_フランス語	184	0.6	159	0.59
国際経済学科	-	FUL_基礎法学	184	0.37	159	0.09
国際経済学科	-	GDE_ジェンダー	184	0.49	159	0.29
国際経済学科	-	GER_ドイツ語	184	0.52	159	0.7
国際経済学科	-	GGR_地理学一般	184	0.43	159	0.28
国際経済学科	-	GIN_情報学一般	184	2.84	159	2.97
国際経済学科	-	GPS_心理学一般	184	2.6	159	2
国際経済学科	-	HAA_アジア史・アフリカ史	184	0.02		
国際経済学科	-	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	184	0.03	159	0.04
国際経済学科	-	HSG_史学一般	184	1.72	159	1.36
国際経済学科	-	HUG_人文地理学	184	0.19	159	0.06
国際経済学科	-	ICT_情報通信技術	184	0.02		
国際経済学科	-	IDG_国際開発問題	184	3.1	159	3.89
国際経済学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	184	0.74	159	0.66
国際経済学科	-	IEP_国際経済政策	184	13.04	159	12.51
国際経済学科	-	INR_国際関係論	184	2.18	159	3.78
国際経済学科	-	ITL_イタリア語	184	0.03	159	0.03
国際経済学科	-	JAC_日本文化	184	0.02		
国際経済学科	-	JPH_日本史	184	0.22	159	0.06
国際経済学科	-	JPN_日本語	184	0.54	159	0.46
国際経済学科	-	JRN_ジャーナリズム	184	0.32	159	0.12
国際経済学科	-	KOR_コリア語	184	1.35	159	1.56
国際経済学科	-	LIE_英米・英語圏文学	184	0.06	159	0.03
国際経済学科	-	LIG_文学一般	184	1.49	159	1.04
国際経済学科	-	LOG_論理学	184	0.11	159	0.03
国際経済学科	-	MAN_経営学	184	0.59		
国際経済学科	-	MAT_数理科学	184	0.15	159	0.08
国際経済学科	-	MCP_学芸員課程	184	0.04	159	0.29
国際経済学科	-	MOF_金融・ファイナンス	184	0.56	159	1.02
国際経済学科	-	NSC_自然科学一般	184	3.89	159	4.28
国際経済学科	-	OSS_海外語学研修など留学科目	184	0.03	159	0.03

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
国際経済学科	-	PFP_財政・公共経済	184	0.46	159	0.61
国際経済学科	-	PHE_哲学一般	184	0.81	159	0.82
国際経済学科	-	PHG_自然地理学	184	0.16	159	0.02
国際経済学科	-	POL_政治学	184	0.61	159	0.41
国際経済学科	-	PUL_公法学	184	1.1	159	0.63
国際経済学科	-	REG_地誌学	184	0.19	159	0.03
国際経済学科	-	RES_宗教学	184	0.05		
国際経済学科	-	RUS_ロシア語	184	0.16	159	0.16
国際経済学科	-	SCS_社会科学一般	184	0.11	159	0.06
国際経済学科	-	SEM_ゼミナール	184	10.78	159	12.11
国際経済学科	-	SOC_社会学	184	1.09	159	0.26
国際経済学科	-	SOL_社会法学	184	0.25	159	0.13
国際経済学科	-	SPL_特殊講義	184	1.16	159	0.85
国際経済学科	-	SPN_スペイン語	184	1.3	159	1.19
国際経済学科	-	SPS_スポーツ科学	184	3.35	159	3.09
国際経済学科	-	STS_統計科学	184	0.45		
国際経済学科	-	TCP_教職課程	184	1.64	159	0.14
国際経済学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	184	4.14	159	4.95
国際経済学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	184	0.95	159	1.07
法律学科	法律総合コース	ACC_会計学			36	0.12
法律学科	企業法務コース	ACC_会計学			147	0.2
法律学科	公共法務コース	ACC_会計学			323	0.08
法律学科	法律総合コース	ARA_アラビア語			36	0.06
法律学科	公共法務コース	ARA_アラビア語			323	0.02
法律学科	法律総合コース	ARL_芸術一般			36	0.34
法律学科	企業法務コース	ARL_芸術一般			147	0.43
法律学科	公共法務コース	ARL_芸術一般			323	0.42
法律学科	法律総合コース	ARS_地域研究			36	0.39
法律学科	企業法務コース	ARS_地域研究			147	0.47
法律学科	公共法務コース	ARS_地域研究			323	0.43
法律学科	法律総合コース	CHI_中国語			36	1.34
法律学科	企業法務コース	CHI_中国語			147	1.77
法律学科	公共法務コース	CHI_中国語			323	1.92
法律学科	法律総合コース	CIL_民事法学			36	26.45
法律学科	企業法務コース	CIL_民事法学			147	21.16
法律学科	公共法務コース	CIL_民事法学			323	19.44
法律学科	公共法務コース	CLP_臨床心理学			323	0.01
法律学科	法律総合コース	CME_商学			36	0.06
法律学科	企業法務コース	CME_商学			147	0.29
法律学科	公共法務コース	CME_商学			323	0.25
法律学科	法律総合コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）			36	1.62

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
法律学科	企業法務コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）			147	1.95
法律学科	公共法務コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）			323	1.92
法律学科	法律総合コース	CRL_刑事法学			36	13.73
法律学科	企業法務コース	CRL_刑事法学			147	9.18
法律学科	公共法務コース	CRL_刑事法学			323	9.81
法律学科	法律総合コース	CUA_文化人類学・民俗学			36	0.73
法律学科	企業法務コース	CUA_文化人類学・民俗学			147	0.79
法律学科	公共法務コース	CUA_文化人類学・民俗学			323	0.77
法律学科	公共法務コース	DES_デザイン学			323	0.01
法律学科	法律総合コース	ECP_経済政策			36	0.67
法律学科	企業法務コース	ECP_経済政策			147	1.04
法律学科	公共法務コース	ECP_経済政策			323	1.04
法律学科	法律総合コース	ECT_理論経済学			36	1.17
法律学科	企業法務コース	ECT_理論経済学			147	1.94
法律学科	公共法務コース	ECT_理論経済学			323	2.22
法律学科	法律総合コース	EDU_教育学			36	0.39
法律学科	企業法務コース	EDU_教育学			147	0.79
法律学科	公共法務コース	EDU_教育学			323	0.62
法律学科	法律総合コース	ENG_英語一般			36	0.42
法律学科	企業法務コース	ENG_英語一般			147	0.29
法律学科	公共法務コース	ENG_英語一般			323	0.28
法律学科	法律総合コース	EPE_経済学・政治経済学			36	2.5
法律学科	企業法務コース	EPE_経済学・政治経済学			147	3.42
法律学科	公共法務コース	EPE_経済学・政治経済学			323	3.15
法律学科	法律総合コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）			36	3.34
法律学科	企業法務コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）			147	3.6
法律学科	公共法務コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）			323	3.6
法律学科	法律総合コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）			36	3.31
法律学科	企業法務コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）			147	3.65
法律学科	公共法務コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）			323	3.72
法律学科	法律総合コース	ETH_倫理学			36	0.56
法律学科	企業法務コース	ETH_倫理学			147	0.44
法律学科	公共法務コース	ETH_倫理学			323	0.61
法律学科	公共法務コース	EXP_実験心理学			323	0.01
法律学科	法律総合コース	FRE_フランス語			36	1.56
法律学科	企業法務コース	FRE_フランス語			147	0.44
法律学科	公共法務コース	FRE_フランス語			323	0.41
法律学科	法律総合コース	FUL_基礎法学			36	5.23
法律学科	企業法務コース	FUL_基礎法学			147	7.5
法律学科	公共法務コース	FUL_基礎法学			323	6.88
法律学科	法律総合コース	GDE_ジェンダー			36	0.23

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
法律学科	企業法務コース	GDE_ジェンダー			147	0.25
法律学科	公共法務コース	GDE_ジェンダー			323	0.13
法律学科	法律総合コース	GER_ドイツ語			36	1.14
法律学科	企業法務コース	GER_ドイツ語			147	0.52
法律学科	公共法務コース	GER_ドイツ語			323	0.71
法律学科	法律総合コース	GGR_地理学一般			36	0.17
法律学科	企業法務コース	GGR_地理学一般			147	0.36
法律学科	公共法務コース	GGR_地理学一般			323	0.32
法律学科	法律総合コース	GIN_情報学一般			36	2.56
法律学科	企業法務コース	GIN_情報学一般			147	2.81
法律学科	公共法務コース	GIN_情報学一般			323	2.9
法律学科	法律総合コース	GPS_心理学一般			36	2.17
法律学科	企業法務コース	GPS_心理学一般			147	2.73
法律学科	公共法務コース	GPS_心理学一般			323	2.87
法律学科	法律総合コース	HOT_思想史			36	0.28
法律学科	企業法務コース	HOT_思想史			147	0.09
法律学科	公共法務コース	HOT_思想史			323	0.05
法律学科	法律総合コース	HSG_史学一般			36	1.62
法律学科	企業法務コース	HSG_史学一般			147	2.43
法律学科	公共法務コース	HSG_史学一般			323	1.97
法律学科	企業法務コース	HUG_人文地理学			147	0.11
法律学科	公共法務コース	HUG_人文地理学			323	0.17
法律学科	法律総合コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）			36	0.56
法律学科	企業法務コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）			147	0.62
法律学科	公共法務コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）			323	0.48
法律学科	法律総合コース	ILA_国際法学			36	3.23
法律学科	企業法務コース	ILA_国際法学			147	4.77
法律学科	公共法務コース	ILA_国際法学			323	4.48
法律学科	法律総合コース	INR_国際関係論			36	1.28
法律学科	企業法務コース	INR_国際関係論			147	1.6
法律学科	公共法務コース	INR_国際関係論			323	2.28
法律学科	公共法務コース	ITL_イタリア語			323	0.01
法律学科	企業法務コース	JPH_日本史			147	0.1
法律学科	公共法務コース	JPH_日本史			323	0.17
法律学科	法律総合コース	JRN_ジャーナリズム			36	0.34
法律学科	企業法務コース	JRN_ジャーナリズム			147	0.22
法律学科	公共法務コース	JRN_ジャーナリズム			323	0.15
法律学科	法律総合コース	KOR_コリア語			36	0.2
法律学科	企業法務コース	KOR_コリア語			147	1.29
法律学科	公共法務コース	KOR_コリア語			323	1.08
法律学科	公共法務コース	LCP_司書課程			323	0.26

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
法律学科	法律総合コース	LIE_英米・英語圏文学			36	0.06
法律学科	企業法務コース	LIE_英米・英語圏文学			147	0.02
法律学科	公共法務コース	LIE_英米・英語圏文学			323	0.02
法律学科	法律総合コース	LIG_文学一般			36	2.45
法律学科	企業法務コース	LIG_文学一般			147	3.2
法律学科	公共法務コース	LIG_文学一般			323	2.96
法律学科	法律総合コース	LOG_論理学			36	0.45
法律学科	企業法務コース	LOG_論理学			147	0.07
法律学科	公共法務コース	LOG_論理学			323	0.06
法律学科	法律総合コース	MAN_経営学			36	0.17
法律学科	企業法務コース	MAN_経営学			147	0.21
法律学科	公共法務コース	MAN_経営学			323	0.1
法律学科	法律総合コース	MAT_数理科学			36	0.5
法律学科	企業法務コース	MAT_数理科学			147	0.1
法律学科	公共法務コース	MAT_数理科学			323	0.14
法律学科	法律総合コース	NFL_新領域法学			36	0.56
法律学科	企業法務コース	NFL_新領域法学			147	0.35
法律学科	公共法務コース	NFL_新領域法学			323	0.28
法律学科	法律総合コース	NSC_自然科学一般			36	6
法律学科	企業法務コース	NSC_自然科学一般			147	6.17
法律学科	公共法務コース	NSC_自然科学一般			323	6.51
法律学科	法律総合コース	OSS_海外語学研修など留学科目			36	0.12
法律学科	企業法務コース	OSS_海外語学研修など留学科目			147	0.02
法律学科	公共法務コース	OSS_海外語学研修など留学科目			323	0.01
法律学科	法律総合コース	PFP_財政・公共経済			36	0.06
法律学科	企業法務コース	PFP_財政・公共経済			147	0.07
法律学科	公共法務コース	PFP_財政・公共経済			323	0.05
法律学科	法律総合コース	PHE_哲学一般			36	0.34
法律学科	企業法務コース	PHE_哲学一般			147	0.11
法律学科	公共法務コース	PHE_哲学一般			323	0.09
法律学科	企業法務コース	PHG_自然地理学			147	0.09
法律学科	公共法務コース	PHG_自然地理学			323	0.16
法律学科	法律総合コース	POL_政治学			36	8.67
法律学科	企業法務コース	POL_政治学			147	13.65
法律学科	公共法務コース	POL_政治学			323	14.12
法律学科	法律総合コース	PUL_公法学			36	13.17
法律学科	企業法務コース	PUL_公法学			147	8.62
法律学科	公共法務コース	PUL_公法学			323	9.94
法律学科	企業法務コース	REG_地誌学			147	0.1
法律学科	公共法務コース	REG_地誌学			323	0.16
法律学科	法律総合コース	RUS_ロシア語			36	0.78

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
法律学科	企業法務コース	RUS_ロシア語			147	0.07
法律学科	公共法務コース	RUS_ロシア語			323	0.04
法律学科	法律総合コース	SEM_ゼミナール			36	10.95
法律学科	企業法務コース	SEM_ゼミナール			147	10.32
法律学科	公共法務コース	SEM_ゼミナール			323	11.13
法律学科	公共法務コース	SLP_学校司書			323	0.03
法律学科	法律総合コース	SOC_社会学			36	1.23
法律学科	企業法務コース	SOC_社会学			147	0.78
法律学科	公共法務コース	SOC_社会学			323	0.93
法律学科	法律総合コース	SOL_社会法学			36	2.34
法律学科	企業法務コース	SOL_社会法学			147	2.96
法律学科	公共法務コース	SOL_社会法学			323	2.62
法律学科	法律総合コース	SPL_特殊講義			36	0.89
法律学科	企業法務コース	SPL_特殊講義			147	0.36
法律学科	公共法務コース	SPL_特殊講義			323	0.45
法律学科	法律総合コース	SPN_スペイン語			36	0.95
法律学科	企業法務コース	SPN_スペイン語			147	0.66
法律学科	公共法務コース	SPN_スペイン語			323	0.68
法律学科	法律総合コース	SPS_スポーツ科学			36	2.56
法律学科	企業法務コース	SPS_スポーツ科学			147	2.49
法律学科	公共法務コース	SPS_スポーツ科学			323	2.65
法律学科	法律総合コース	STS_統計科学			36	1.67
法律学科	企業法務コース	STS_統計科学			147	1.9
法律学科	公共法務コース	STS_統計科学			323	1.94
法律学科	企業法務コース	TCP_教職課程			147	1.07
法律学科	公共法務コース	TCP_教職課程			323	1.37
法律学科	公共法務コース	TLP_司書教諭課程			323	0.04
法律学科	法律総合コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究			36	0.5
法律学科	企業法務コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究			147	0.32
法律学科	公共法務コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究			323	0.48
法律学科	-	ACC_会計学	507	1.22		
法律学科	-	ARA_アラビア語	507	0.01		
法律学科	-	ARL_芸術一般	507	0.09		
法律学科	-	ARS_地域研究	507	0.41		
法律学科	-	CHI_中国語	507	1.85		
法律学科	-	CIL_民事法学	507	22.92		
法律学科	-	CLP_臨床心理学	507	0.01		
法律学科	-	CME_商学	507	0.18		
法律学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	507	2.03		
法律学科	-	CRL_刑事法学	507	7.41		
法律学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	507	0.12		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
法律学科	-	ECP_経済政策	507	1.2		
法律学科	-	ECT_理論経済学	507	1.92		
法律学科	-	EDU_教育学	507	0.76		
法律学科	-	ENG_英語一般	507	0.4		
法律学科	-	EPE_経済学・政治経済学	507	0.74		
法律学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	507	3.5		
法律学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	507	3.58		
法律学科	-	ETH_倫理学	507	0.56		
法律学科	-	FAH_美術史	507	0.01		
法律学科	-	FRE_フランス語	507	0.38		
法律学科	-	FUL_基礎法学	507	7.29		
法律学科	-	GDE_ジェンダー	507	0.03		
法律学科	-	GER_ドイツ語	507	0.8		
法律学科	-	GGR_地理学一般	507	0.29		
法律学科	-	GIN_情報学一般	507	3.18		
法律学科	-	GPS_心理学一般	507	2.32		
法律学科	-	HSG_史学一般	507	1.61		
法律学科	-	HUG_人文地理学	507	0.11		
法律学科	-	ICT_情報通信技術	507	0.01		
法律学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	507	0.61		
法律学科	-	ILA_国際法学	507	3.46		
法律学科	-	IND_インドネシア語	507	0.08		
法律学科	-	INR_国際関係論	507	1.34		
法律学科	-	JPH_日本史	507	0.14		
法律学科	-	JPN_日本語	507	0.05		
法律学科	-	JRN_ジャーナリズム	507	0.24		
法律学科	-	KOR_コリア語	507	0.77		
法律学科	-	LCP_司書課程	507	0.01		
法律学科	-	LIE_英米・英語圏文学	507	0.05		
法律学科	-	LIG_文学一般	507	1.76		
法律学科	-	LOG_論理学	507	0.16		
法律学科	-	MAN_経営学	507	0.43		
法律学科	-	MAT_数理科学	507	0.13		
法律学科	-	MCP_学芸員課程	507	0.04		
法律学科	-	NFL_新領域法学	507	0.46		
法律学科	-	NSC_自然科学一般	507	5.37		
法律学科	-	OSS_海外語学研修など留学科目	507	0.02		
法律学科	-	PFP_財政・公共経済	507	0.41		
法律学科	-	PHE_哲学一般	507	0.34		
法律学科	-	PHG_自然地理学	507	0.11		
法律学科	-	POL_政治学	507	12.04		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
法律学科	-	PUL_公法学	507	14.45		
法律学科	-	REG_地誌学	507	0.12		
法律学科	-	RUS_ロシア語	507	0.12		
法律学科	-	SEM_ゼミナール	507	10.91		
法律学科	-	SOC_社会学	507	0.64		
法律学科	-	SOL_社会法学	507	3.2		
法律学科	-	SPL_特殊講義	507	0.5		
法律学科	-	SPN_スペイン語	507	1.13		
法律学科	-	SPS_スポーツ科学	507	2.7		
法律学科	-	STS_統計科学	507	1.92		
法律学科	-	SWP_SWP科目	507	0.24		
法律学科	-	TCP_教職課程	507	1.01		
法律学科	-	TLP_司書教諭課程	507	0.02		
法律学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	507	0.88		
政治学科	国際政治・地域コース	ACC_会計学	54	0.67	37	0.28
政治学科	国際政治・地域コース	ARL_芸術一般	54	0.3	37	0.11
政治学科	国際政治・地域コース	ARS_地域研究	54	5.45	37	6.28
政治学科	国際政治・地域コース	CHI_中国語	54	1.63	37	1.68
政治学科	国際政治・地域コース	CIL_民事法学	54	4.3	37	3.14
政治学科	国際政治・地域コース	CME_商学	54	0.12	37	0.44
政治学科	国際政治・地域コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	54	2	37	1.79
政治学科	国際政治・地域コース	CRL_刑事法学	54	1.86	37	0.65
政治学科	国際政治・地域コース	CUA_文化人類学・民俗学	54	0.12	37	0.98
政治学科	国際政治・地域コース	ECP_経済政策	54	0.93	37	0.82
政治学科	国際政治・地域コース	ECT_理論経済学	54	1.08	37	1.41
政治学科	国際政治・地域コース	EDU_教育学	54	0.6	37	0.71
政治学科	国際政治・地域コース	ENG_英語一般	54	0.69	37	0.28
政治学科	国際政治・地域コース	EPE_経済学・政治経済学	54	1.23	37	2.65
政治学科	国際政治・地域コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	54	3.82	37	3.46
政治学科	国際政治・地域コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	54	3.95	37	3.79
政治学科	国際政治・地域コース	ETH_倫理学	54	0.75	37	0.22
政治学科	国際政治・地域コース	FRE_フランス語	54	0.15	37	1.52
政治学科	国際政治・地域コース	FUL_基礎法学	54	6.26	37	4.65
政治学科	国際政治・地域コース	GDE_ジェンダー	54	0.15	37	0.44
政治学科	国際政治・地域コース	GER_ドイツ語	54	0.82	37	0.65
政治学科	国際政治・地域コース	GGR_地理学一般	54	0.34	37	0.22
政治学科	国際政治・地域コース	GIN_情報学一般	54	2.78	37	2.87
政治学科	国際政治・地域コース	GPS_心理学一般	54	2.12	37	1.73
政治学科	国際政治・地域コース	HOT_思想史	54	0.15	37	0.17
政治学科	国際政治・地域コース	HSG_史学一般	54	1.52	37	1.36
政治学科	国際政治・地域コース	HUG_人文地理学	54	0.23		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
政治学科	国際政治・地域コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	54	0.45	37	0.76
政治学科	国際政治・地域コース	ILA_国際法学	54	6.71	37	5.19
政治学科	国際政治・地域コース	INR_国際関係論	54	12.6	37	14
政治学科	国際政治・地域コース	JPH_日本史	54	0.23		
政治学科	国際政治・地域コース	JRN_ジャーナリズム	54	0.34	37	0.44
政治学科	国際政治・地域コース	KOR_コリア語	54	0.47	37	0.55
政治学科	国際政治・地域コース	LIE_英米・英語圏文学	54	0.08	37	0.11
政治学科	国際政治・地域コース	LIG_文学一般	54	1.41	37	3.36
政治学科	国際政治・地域コース	LOG_論理学	54	0.19	37	0.22
政治学科	国際政治・地域コース	MAN_経営学	54	0.97	37	0.06
政治学科	国際政治・地域コース	NFL_新領域法学	54	0.08	37	0.33
政治学科	国際政治・地域コース	NSC_自然科学一般	54	4.63	37	6.11
政治学科	国際政治・地域コース	PFP_財政・公共経済	54	0.04		
政治学科	国際政治・地域コース	PHE_哲学一般	54	0.23	37	0.06
政治学科	国際政治・地域コース	PHG_自然地理学	54	0.19		
政治学科	国際政治・地域コース	POL_政治学	54	27.15	37	25.63
政治学科	国際政治・地域コース	PUL_公法学	54	7.19	37	5.79
政治学科	国際政治・地域コース	REG_地誌学	54	0.19		
政治学科	国際政治・地域コース	RES_宗教学	54	0.04		
政治学科	国際政治・地域コース	RUS_ロシア語	54	0.45		
政治学科	国際政治・地域コース	SEM_ゼミナール	54	13.52	37	17.57
政治学科	国際政治・地域コース	SOC_社会学	54	0.78	37	1.14
政治学科	国際政治・地域コース	SOL_社会法学	54	2.38	37	1.25
政治学科	国際政治・地域コース	SPL_特殊講義	54	0.45	37	1.09
政治学科	国際政治・地域コース	SPN_スペイン語	54	1.19	37	0.76
政治学科	国際政治・地域コース	SPS_スポーツ科学	54	2.49	37	2.92
政治学科	国際政治・地域コース	STS_統計科学	54	1.89	37	1.95
政治学科	国際政治・地域コース	SWP_SWP科目	54	0.08		
政治学科	国際政治・地域コース	TCP_教職課程	54	1.41		
政治学科	国際政治・地域コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	54	0.41	37	0.65
政治学科	政治理論・歴史コース	ACC_会計学	11	1.1		
政治学科	政治理論・歴史コース	ARL_芸術一般	11	0.19	16	0.38
政治学科	政治理論・歴史コース	ARS_地域研究	11	1.46	16	1.5
政治学科	政治理論・歴史コース	CHI_中国語	11	1.1	16	0.5
政治学科	政治理論・歴史コース	CIL_民事法学	11	3.46	16	1.88
政治学科	政治理論・歴史コース	CME_商学	11	0.37	16	0.38
政治学科	政治理論・歴史コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	11	2	16	1.75
政治学科	政治理論・歴史コース	CRL_刑事法学	11	2	16	0.38
政治学科	政治理論・歴史コース	ECP_経済政策	11	0.55	16	0.75
政治学科	政治理論・歴史コース	ECT_理論経済学	11	2.19	16	2.13
政治学科	政治理論・歴史コース	EDU_教育学	11	1.28	16	1.25

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
政治学科	政治理論・歴史コース	ENG_英語一般	11	0.19	16	0.63
政治学科	政治理論・歴史コース	EPE_経済学・政治経済学	11	1.82	16	1.63
政治学科	政治理論・歴史コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	11	3.28	16	3.44
政治学科	政治理論・歴史コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	11	3.37	16	3.57
政治学科	政治理論・歴史コース	ETH_倫理学	11	1.82	16	1
政治学科	政治理論・歴史コース	FRE_フランス語	11	0.73	16	2.88
政治学科	政治理論・歴史コース	FUL_基礎法学	11	7.28	16	6.88
政治学科	政治理論・歴史コース	GDE_ジェンダー	11	1.1	16	0.88
政治学科	政治理論・歴史コース	GER_ドイツ語	11	0.73	16	0.75
政治学科	政治理論・歴史コース	GGR_地理学一般	11	0.91	16	0.75
政治学科	政治理論・歴史コース	GIN_情報学一般	11	2.91	16	2.75
政治学科	政治理論・歴史コース	GPS_心理学一般	11	2.37	16	1.38
政治学科	政治理論・歴史コース	HSG_史学一般	11	2.19	16	2.88
政治学科	政治理論・歴史コース	HUG_人文地理学	11	0.73	16	0.5
政治学科	政治理論・歴史コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	11	1.1	16	0.88
政治学科	政治理論・歴史コース	ILA_国際法学	11	2.91	16	2
政治学科	政治理論・歴史コース	INR_国際関係論	11	8.37	16	10.38
政治学科	政治理論・歴史コース	JPH_日本史	11	0.73	16	0.75
政治学科	政治理論・歴史コース	JRN_ジャーナリズム	11	0.55	16	2
政治学科	政治理論・歴史コース	KOR_コリア語	11	1.46	16	0.5
政治学科	政治理論・歴史コース	LCP_司書課程	11	1.28	16	0.13
政治学科	政治理論・歴史コース	LIG_文学一般	11	1.64	16	2.63
政治学科	政治理論・歴史コース	LOG_論理学	11	0.37	16	0.5
政治学科	政治理論・歴史コース	MAN_経営学	11	0.73		
政治学科	政治理論・歴史コース	NSC_自然科学一般	11	4.37	16	5
政治学科	政治理論・歴史コース	PHE_哲学一般	11	0.73	16	0.25
政治学科	政治理論・歴史コース	PHG_自然地理学	11	0.73	16	0.5
政治学科	政治理論・歴史コース	POL_政治学	11	33.64	16	35.88
政治学科	政治理論・歴史コース	PUL_公法学	11	7.28	16	6.75
政治学科	政治理論・歴史コース	REG_地誌学	11	0.73	16	0.5
政治学科	政治理論・歴史コース	SEM_ゼミナール	11	12.37	16	18
政治学科	政治理論・歴史コース	SOC_社会学	11	0.55	16	1.5
政治学科	政治理論・歴史コース	SOL_社会法学	11	1.46	16	0.5
政治学科	政治理論・歴史コース	SPL_特殊講義	11	0.55	16	1.25
政治学科	政治理論・歴史コース	SPN_スペイン語	11	1.46	16	0.75
政治学科	政治理論・歴史コース	SPS_スポーツ科学	11	2.19	16	2.63
政治学科	政治理論・歴史コース	STS_統計科学	11	2	16	1.88
政治学科	政治理論・歴史コース	SWP_SWP科目	11	0.73		
政治学科	政治理論・歴史コース	TCP_教職課程	11	7.46	16	4.07
政治学科	政治理論・歴史コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	11	0.37	16	0.38
政治学科	日本政治・政策コース	ACC_会計学	74	0.95	91	0.09

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
政治学科	日本政治・政策コース	ARL_芸術一般	74	0.03	91	0.49
政治学科	日本政治・政策コース	ARS_地域研究	74	1.6	91	1.19
政治学科	日本政治・政策コース	CHI_中国語	74	1.84	91	1.94
政治学科	日本政治・政策コース	CIL_民事法学	74	6.44	91	3.81
政治学科	日本政治・政策コース	CME_商学	74	0.14	91	0.36
政治学科	日本政治・政策コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	74	2.09	91	1.92
政治学科	日本政治・政策コース	CRL_刑事法学	74	2.19	91	0.64
政治学科	日本政治・政策コース	CUA_文化人類学・民俗学	74	0.09	91	0.75
政治学科	日本政治・政策コース	ECP_経済政策	74	2.57	91	2.25
政治学科	日本政治・政策コース	ECT_理論経済学	74	1.82	91	1.94
政治学科	日本政治・政策コース	EDU_教育学	74	0.73	91	0.77
政治学科	日本政治・政策コース	ENG_英語一般	74	0.33	91	0.27
政治学科	日本政治・政策コース	EPE_経済学・政治経済学	74	1.36	91	3.21
政治学科	日本政治・政策コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	74	3.83	91	3.8
政治学科	日本政治・政策コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	74	3.86	91	3.9
政治学科	日本政治・政策コース	ETH_倫理学	74	0.65	91	0.33
政治学科	日本政治・政策コース	FRE_フランス語	74	0.22	91	0.31
政治学科	日本政治・政策コース	FUL_基礎法学	74	6.06	91	5.37
政治学科	日本政治・政策コース	GDE_ジェンダー	74	0.25	91	0.64
政治学科	日本政治・政策コース	GER_ドイツ語	74	0.33	91	0.44
政治学科	日本政治・政策コース	GGR_地理学一般	74	0.33	91	0.14
政治学科	日本政治・政策コース	GIN_情報学一般	74	2.95	91	2.84
政治学科	日本政治・政策コース	GPS_心理学一般	74	2.06	91	2.29
政治学科	日本政治・政策コース	HSG_史学一般	74	1.52	91	1.24
政治学科	日本政治・政策コース	HUG_人文地理学	74	0.19	91	0.14
政治学科	日本政治・政策コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	74	0.41	91	0.44
政治学科	日本政治・政策コース	ILA_国際法学	74	3.95	91	2.27
政治学科	日本政治・政策コース	IND_インドネシア語	74	0.41		
政治学科	日本政治・政策コース	INR_国際関係論	74	8.06	91	7.98
政治学科	日本政治・政策コース	JPH_日本史	74	0.25	91	0.14
政治学科	日本政治・政策コース	JRN_ジャーナリズム	74	0.49	91	0.6
政治学科	日本政治・政策コース	KOR_コリア語	74	0.76	91	0.68
政治学科	日本政治・政策コース	LCP_司書課程	74	0.41		
政治学科	日本政治・政策コース	LIG_文学一般	74	1.55	91	3.65
政治学科	日本政治・政策コース	LOG_論理学	74	0.03	91	0.11
政治学科	日本政治・政策コース	MAN_経営学	74	0.57		
政治学科	日本政治・政策コース	NSC_自然科学一般	74	5.14	91	6.11
政治学科	日本政治・政策コース	OSS_海外語学研修など留学科目	74	0.03		
政治学科	日本政治・政策コース	PFP_財政・公共経済	74	0.14	91	0.03
政治学科	日本政治・政策コース	PHE_哲学一般	74	0.28	91	0.07
政治学科	日本政治・政策コース	PHG_自然地理学	74	0.19	91	0.16

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
政治学科	日本政治・政策コース	POL_政治学	74	33.25	91	30.51
政治学科	日本政治・政策コース	PUL_公法学	74	9.11	91	8.09
政治学科	日本政治・政策コース	REG_地誌学	74	0.17	91	0.14
政治学科	日本政治・政策コース	SEM_ゼミナール	74	12.55	91	17.76
政治学科	日本政治・政策コース	SLP_学校司書	74	0.06		
政治学科	日本政治・政策コース	SOC_社会学	74	0.76	91	1.19
政治学科	日本政治・政策コース	SOL_社会法学	74	2.06	91	1.48
政治学科	日本政治・政策コース	SPL_特殊講義	74	0.28	91	0.38
政治学科	日本政治・政策コース	SPN_スペイン語	74	1.03	91	0.93
政治学科	日本政治・政策コース	SPS_スポーツ科学	74	2.49	91	2.88
政治学科	日本政治・政策コース	STS_統計科学	74	1.92	91	1.98
政治学科	日本政治・政策コース	SWP_SWP科目	74	0.19		
政治学科	日本政治・政策コース	TCP_教職課程	74	1.92	91	1.14
政治学科	日本政治・政策コース	TLP_司書教諭課程	74	0.09		
政治学科	日本政治・政策コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	74	0.14	91	0.33
経営学科	-	ACC_会計学	341	6.76	338	8.05
経営学科	-	ARL_芸術一般	341	0.25	338	0.03
経営学科	-	CHI_中国語	341	0.12	338	0.05
経営学科	-	CIL_民事法学	341	0.47	338	0.61
経営学科	-	CME_商学	341	17.79	338	19.11
経営学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	341	2.38	338	2.11
経営学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	341	0.19	338	0.35
経営学科	-	ECT_理論経済学	341	1.54	338	1.32
経営学科	-	EDU_教育学	341	0.63	338	0.49
経営学科	-	ENG_英語一般	341	0.74	338	0.74
経営学科	-	ENL_英語学	341	0.01	338	0.02
経営学科	-	EPE_経済学・政治経済学	341	9.47	338	8.67
経営学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	341	3.97	338	4.22
経営学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	341	4.01	338	3.88
経営学科	-	ETH_倫理学	341	0.94	338	0.8
経営学科	-	FLE_外国語教育	341	0.02		
経営学科	-	FRE_フランス語	341	0.04	338	0.02
経営学科	-	FUL_基礎法学	341	0.18	338	0.15
経営学科	-	GGR_地理学一般	341	0.29	338	0.35
経営学科	-	GPS_心理学一般	341	2.31	338	2.4
経営学科	-	HOT_思想史	341	0.01		
経営学科	-	HSG_史学一般	341	1.45	338	1.73
経営学科	-	HUG_人文地理学	341	0.02		
経営学科	-	ICT_情報通信技術	341	5.64	338	5.91
経営学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	341	1.41	338	0.74
経営学科	-	IND_インドネシア語	341	0.02		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
経営学科	-	INS_情報システム	341	3.88	338	4.53
経営学科	-	JPH_日本史	341	0.07	338	0.08
経営学科	-	JPN_日本語	341	0.18	338	0.16
経営学科	-	JRN_ジャーナリズム	341	0.2	338	0.05
経営学科	-	KOR_コリア語	341	0.11	338	0.05
経営学科	-	LCP_司書課程	341	0.09	338	0.26
経営学科	-	LIE_英米・英語圏文学	341	0.04	338	0.03
経営学科	-	LIG_文学一般	341	0.79	338	0.93
経営学科	-	LOG_論理学	341	0.31	338	0.4
経営学科	-	MAN_経営学	341	21.71	338	21.28
経営学科	-	MAT_数理科学	341	0.22	338	0.51
経営学科	-	MNI_経営情報学	341	0.83	338	1.45
経営学科	-	NSC_自然科学一般	341	6.47	338	7.08
経営学科	-	PHE_哲学一般	341	1.01	338	1
経営学科	-	POL_政治学	341	0.3	338	0.23
経営学科	-	PUL_公法学	341	0.18	338	0.21
経営学科	-	REG_地誌学	341	0.05	338	0.04
経営学科	-	RES_宗教学	341	0.03	338	0.03
経営学科	-	SEM_ゼミナール	341	12.93	338	12.51
経営学科	-	SLP_学校司書	341	0.02	338	0.02
経営学科	-	SOC_社会学	341	0.81	338	0.82
経営学科	-	SOL_社会法学	341	2.01	338	1.22
経営学科	-	SPL_特殊講義	341	1.58	338	1.09
経営学科	-	SPN_スペイン語	341	0.05	338	0.03
経営学科	-	SPS_スポーツ科学	341	3.69	338	3.71
経営学科	-	SSE_社会システム工学	341	0.19	338	0.25
経営学科	-	STS_統計科学	341	2.35	338	2.37
経営学科	-	SWP_SWP科目	341	4.8	338	4.75
経営学科	-	TCP_教職課程	341	0.85	338	1.05
経営学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	341	2.1	338	1.96
経営学科	-	TLP_司書教諭課程	341	0.02	338	0.03
経営学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	341	0.99	338	0.84
ビジネスデザイン学科	-	ACC_会計学	162	6.34	155	6.96
ビジネスデザイン学科	-	ARL_芸術一般	162	0.07	155	0.02
ビジネスデザイン学科	-	CHI_中国語	162	0.09	155	0.28
ビジネスデザイン学科	-	CIL_民事法学	162	0.46	155	0.83
ビジネスデザイン学科	-	CME_商学	162	20.97	155	21.93
ビジネスデザイン学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	162	2.1	155	2.02
ビジネスデザイン学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	162	0.26	155	0.46
ビジネスデザイン学科	-	ECT_理論経済学	162	1.66	155	1.63
ビジネスデザイン学科	-	EDU_教育学	162	0.94	155	0.8

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
ビジネスデザイン学科	-	ENG_英語一般	162	0.8	155	0.52
ビジネスデザイン学科	-	EPE_経済学・政治経済学	162	9.17	155	8.19
ビジネスデザイン学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	162	3.93	155	4.08
ビジネスデザイン学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	162	4.17	155	4.2
ビジネスデザイン学科	-	ETH_倫理学	162	0.86	155	0.99
ビジネスデザイン学科	-	FRE_フランス語	162	0.09	155	0.03
ビジネスデザイン学科	-	FUL_基礎法学	162	0.05	155	0.03
ビジネスデザイン学科	-	GGR_地理学一般	162	0.19	155	0.62
ビジネスデザイン学科	-	GPS_心理学一般	162	2.44	155	2.42
ビジネスデザイン学科	-	HSG_史学一般	162	1.25	155	1.23
ビジネスデザイン学科	-	ICT_情報通信技術	162	5.26	155	5.35
ビジネスデザイン学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	162	1.72	155	1.62
ビジネスデザイン学科	-	IND_インドネシア語	162	0.04	155	
ビジネスデザイン学科	-	INS_情報システム	162	2.78	155	3.46
ビジネスデザイン学科	-	JAC_日本文化	162	0.02	155	
ビジネスデザイン学科	-	JPN_日本語	162	0.18	155	
ビジネスデザイン学科	-	JRN_ジャーナリズム	162	0.55	155	0.07
ビジネスデザイン学科	-	KOR_コリア語	162	0.15	155	0.27
ビジネスデザイン学科	-	LIE_英米・英語圏文学	162	0.02	155	0.03
ビジネスデザイン学科	-	LIG_文学一般	162	0.83	155	1.2
ビジネスデザイン学科	-	LOG_論理学	162	0.08	155	0.17
ビジネスデザイン学科	-	MAN_経営学	162	24.33	155	24.84
ビジネスデザイン学科	-	MAT_数理科学	162	0.41	155	0.17
ビジネスデザイン学科	-	MNI_経営情報学	162	0.73	155	0.57
ビジネスデザイン学科	-	NSC_自然科学一般	162	5.92	155	6.97
ビジネスデザイン学科	-	OSS_海外語学研修など留学科目	162	0.03	155	
ビジネスデザイン学科	-	PHE_哲学一般	162	0.83	155	0.95
ビジネスデザイン学科	-	POL_政治学	162	0.49	155	0.26
ビジネスデザイン学科	-	PUL_公法学	162	0.13	155	0.13
ビジネスデザイン学科	-	SEM_ゼミナール	162	14.12	155	14.11
ビジネスデザイン学科	-	SOC_社会学	162	1.05	155	0.93
ビジネスデザイン学科	-	SOI_社会情報学	162	0.02	155	
ビジネスデザイン学科	-	SOL_社会法学	162	0.86	155	0.7
ビジネスデザイン学科	-	SOP_社会心理学	162	0.03	155	
ビジネスデザイン学科	-	SPL_特殊講義	162	2.29	155	1.55
ビジネスデザイン学科	-	SPS_スポーツ科学	162	3.52	155	2.88
ビジネスデザイン学科	-	SSE_社会システム工学	162	0.25	155	0.11
ビジネスデザイン学科	-	STS_統計科学	162	2.25	155	2.19
ビジネスデザイン学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	162	2.52	155	2.22
ビジネスデザイン学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	162	1.51	155	0.82
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	ACC_会計学	36	5.62	43	4.19

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	ARL_芸術一般	36	0.5	43	0.38
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	CHI_中国語	36	0.67	43	0.12
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	CIL_民事法学	36	0.89	43	0.56
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	CME_商学	36	27.06	43	26.14
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	36	2.45	43	1.73
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	CUA_文化人類学・民俗学	36	0.34	43	0.05
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	ECH_経済史	36	0.62	43	1.31
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	ECP_経済政策	36	2.62	43	8.7
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	ECT_理論経済学	36	5.89	43	4.7
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	EDU_教育学	36	0.78	43	0.56
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	ENG_英語一般	36	3.75	43	4.98
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	36	4.7	43	3.8
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	36	2.78	43	2.45
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	ETH_倫理学	36	0.5	43	0.38
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	FRE_フランス語	36	0.23	43	0.05
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	FUL_基礎法学	36	0.62	43	0.94
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	GGR_地理学一般	36	0.28	43	0.56
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	GIN_情報学一般	36	6.28	43	5.87
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	GPS_心理学一般	36	3	43	2.75
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	HSG_史学一般	36	1.28	43	1.31
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	36	1.73	43	2.14
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	INS_情報システム	36	0.34		
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	JRN_ジャーナリズム	36	0.45	43	0.1
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	KOR_コリア語	36	1.17	43	0.1
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	LIE_英米・英語圏文学	36	0.23	43	0.33
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	LIG_文学一般	36	1.12	43	0.33
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	LOG_論理学	36	0.23	43	0.24
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	MAN_経営学	36	17.34	43	20.47
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	MAT_数理科学	36	0.06	43	0.05
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	MNI_経営情報学	36	0.17	43	0.24
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	MOF_金融・ファイナンス	36	5.84	43	5.59
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	NSC_自然科学一般	36	5.73	43	5.49
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	OSS_海外語学研修など留学科目	36	0.89	43	0.38
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	PHE_哲学一般	36	0.28	43	0.52
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	POI_計算基盤	36	3.89	43	3.77
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	POL_政治学	36	0.23	43	0.33
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	PUL_公法学	36	0.5	43	0.42
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	SEM_ゼミナール	36	10.78	43	8.56
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	SOC_社会学	36	0.89	43	0.7
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	SOL_社会法学	36	0.12		
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	SPL_特殊講義	36	0.28	43	0.19

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	SPN_スペイン語	36	0.5	43	0.1
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	SPS_スポーツ科学	36	2.78	43	2.94
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	STS_統計科学	36	1	43	1.31
マーケティング学科	グローバルビジネスコース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	36	1	43	1.17
マーケティング学科	ファイナンスコース	ACC_会計学	36	11.34	33	11.16
マーケティング学科	ファイナンスコース	ARL_芸術一般	36	0.34		
マーケティング学科	ファイナンスコース	CHI_中国語	36	0.23	33	0.28
マーケティング学科	ファイナンスコース	CIL_民法法学	36	2.56	33	2.13
マーケティング学科	ファイナンスコース	CME_商学	36	15	33	16.37
マーケティング学科	ファイナンスコース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	36	2.23	33	2
マーケティング学科	ファイナンスコース	CUA_文化人類学・民俗学	36	0.06	33	0.13
マーケティング学科	ファイナンスコース	ECH_経済史	36	0.12		
マーケティング学科	ファイナンスコース	ECP_経済政策	36	3.45	33	2
マーケティング学科	ファイナンスコース	ECT_理論経済学	36	6.95	33	6.91
マーケティング学科	ファイナンスコース	EDU_教育学	36	1	33	0.55
マーケティング学科	ファイナンスコース	ENG_英語一般	36	1.25	33	0.82
マーケティング学科	ファイナンスコース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	36	4.12	33	3.88
マーケティング学科	ファイナンスコース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	36	2.25	33	2.4
マーケティング学科	ファイナンスコース	ETH_倫理学	36	0.62	33	0.67
マーケティング学科	ファイナンスコース	FUL_基礎法学	36	0.45	33	0.37
マーケティング学科	ファイナンスコース	GGR_地理学一般	36	0.28	33	0.25
マーケティング学科	ファイナンスコース	GIN_情報学一般	36	6.62	33	6.37
マーケティング学科	ファイナンスコース	GPS_心理学一般	36	2.56	33	2.91
マーケティング学科	ファイナンスコース	HSG_史学一般	36	1.89	33	1.52
マーケティング学科	ファイナンスコース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	36	0.84	33	1.16
マーケティング学科	ファイナンスコース	IND_インドネシア語	36	0.12		
マーケティング学科	ファイナンスコース	INS_情報システム	36	0.17	33	0.19
マーケティング学科	ファイナンスコース	JPN_日本語	36	0.37		
マーケティング学科	ファイナンスコース	JRN_ジャーナリズム	36	0.23	33	0.19
マーケティング学科	ファイナンスコース	LCP_司書課程	36	0.5		
マーケティング学科	ファイナンスコース	LIE_英米・英語圏文学	36	0.06	33	0.07
マーケティング学科	ファイナンスコース	LIG_文学一般	36	0.95	33	0.13
マーケティング学科	ファイナンスコース	LOG_論理学	36	0.12	33	0.07
マーケティング学科	ファイナンスコース	MAN_経営学	36	8.28	33	9.4
マーケティング学科	ファイナンスコース	MAT_数理科学	36	0.28	33	0.25
マーケティング学科	ファイナンスコース	MNI_経営情報学	36	0.06	33	0.37
マーケティング学科	ファイナンスコース	MOF_金融・ファイナンス	36	22.95	33	29.82
マーケティング学科	ファイナンスコース	NSC_自然科学一般	36	7.34	33	6.61
マーケティング学科	ファイナンスコース	PHE_哲学一般	36	0.17	33	0.49
マーケティング学科	ファイナンスコース	POI_計算基盤	36	3.89	33	3.88
マーケティング学科	ファイナンスコース	POL_政治学	36	0.45	33	0.13

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
マーケティング学科	ファイナンスコース	PUL_公法学	36	1.06	33	0.79
マーケティング学科	ファイナンスコース	SEM_ゼミナール	36	8.78	33	7.46
マーケティング学科	ファイナンスコース	SOC_社会学	36	0.5	33	0.79
マーケティング学科	ファイナンスコース	SOI_社会情報学	36	0.06	33	0.07
マーケティング学科	ファイナンスコース	SOL_社会法学	36	0.12		
マーケティング学科	ファイナンスコース	SPL_特殊講義	36	0.67	33	0.55
マーケティング学科	ファイナンスコース	SPN_スペイン語	36	0.17		
マーケティング学科	ファイナンスコース	SPS_スポーツ科学	36	2.5	33	2.73
マーケティング学科	ファイナンスコース	STS_統計科学	36	2.12	33	1.94
マーケティング学科	ファイナンスコース	SWP_SWP科目	36	0.89	33	0.97
マーケティング学科	ファイナンスコース	TCP_教職課程	36	0.92	33	1.31
マーケティング学科	ファイナンスコース	TLP_司書教諭課程	36	0.12		
マーケティング学科	ファイナンスコース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	36	0.56	33	1.16
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	ACC_会計学	49	8.41		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	ARL_芸術一般	49	0.45		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	CHI_中国語	49	0.35		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	CIL_民事法学	49	2.58		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	CME_商学	49	19.39		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	49	2.29		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	CUA_文化人類学・民俗学	49	0.13		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	ECH_経済史	49	0.21		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	ECP_経済政策	49	6.29		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	ECT_理論経済学	49	8.54		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	EDU_教育学	49	1.03		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	ENG_英語一般	49	2.23		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	EPS_環境政策・環境社会システム	49	0.05		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	49	4.19		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	49	2.13		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	ETH_倫理学	49	0.41		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	FUL_基礎法学	49	0.17		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	GGR_地理学一般	49	0.33		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	GIN_情報学一般	49	9.47		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	GPS_心理学一般	49	2.7		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	HSG_史学一般	49	1.56		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	49	1.8		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	INS_情報システム	49	1.84		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	JRN_ジャーナリズム	49	0.25		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	KOR_コリア語	49	0.19		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	LIE_英米・英語圏文学	49	0.09		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	LIG_文学一般	49	0.78		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	LOG_論理学	49	0.21		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	MAN_経営学	49	8.21		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	MAT_数理科学	49	0.78		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	MNI_経営情報学	49	2.54		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	MOF_金融・ファイナンス	49	7.31		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	NFL_新領域法学	49	0.05		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	NSC_自然科学一般	49	6.78		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	PHE_哲学一般	49	0.41		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	POI_計算基盤	49	3.88		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	POL_政治学	49	0.41		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	PUL_公法学	49	1.27		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	SEM_ゼミナール	49	9.27		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	SOC_社会学	49	0.9		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	SOI_社会情報学	49	0.66		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	SOL_社会法学	49	0.13		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	SPL_特殊講義	49	0.21		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	SPN_スペイン語	49	0.09		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	SPS_スポーツ科学	49	2.62		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	STS_統計科学	49	2.74		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	TCP_教職課程	49	0.33		
マーケティング学科	マーケットアナリティクスコース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	49	1.19		
マーケティング学科	マーケティングコース	ACC_会計学	273	6.28	329	5.17
マーケティング学科	マーケティングコース	ARL_芸術一般	273	0.4	329	0.3
マーケティング学科	マーケティングコース	CHI_中国語	273	0.16	329	0.12
マーケティング学科	マーケティングコース	CIL_民事法学	273	1.51	329	0.48
マーケティング学科	マーケティングコース	CME_商学	273	34.78	329	41.67
マーケティング学科	マーケティングコース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	273	2.5	329	2
マーケティング学科	マーケティングコース	CUA_文化人類学・民俗学	273	0.11	329	0.09
マーケティング学科	マーケティングコース	ECH_経済史	273	0.25	329	0.05
マーケティング学科	マーケティングコース	ECP_経済政策	273	7.22	329	7.46
マーケティング学科	マーケティングコース	ECT_理論経済学	273	6.52	329	5.9
マーケティング学科	マーケティングコース	EDU_教育学	273	1.27	329	0.9
マーケティング学科	マーケティングコース	ENG_英語一般	273	1.06	329	0.86
マーケティング学科	マーケティングコース	EPS_環境政策・環境社会システム	273	0.03	329	0.08
マーケティング学科	マーケティングコース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	273	3.99	329	3.95
マーケティング学科	マーケティングコース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	273	2.22	329	2.09
マーケティング学科	マーケティングコース	ETH_倫理学	273	0.7	329	0.56
マーケティング学科	マーケティングコース	FRE_フランス語	273	0.03	329	0.04
マーケティング学科	マーケティングコース	FUL_基礎法学	273	0.57	329	0.32
マーケティング学科	マーケティングコース	GER_ドイツ語	273	0.03	329	0.01
マーケティング学科	マーケティングコース	GGR_地理学一般	273	0.4	329	0.37
マーケティング学科	マーケティングコース	GIN_情報学一般	273	6.52	329	6.04

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
マーケティング学科	マーケティングコース	GPS_心理学一般	273	3	329	2.75
マーケティング学科	マーケティングコース	HSG_史学一般	273	1.41	329	1.71
マーケティング学科	マーケティングコース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	273	1.27	329	1.57
マーケティング学科	マーケティングコース	INS_情報システム	273	0.27	329	0.08
マーケティング学科	マーケティングコース	JPH_日本史	273	0.06	329	0.06
マーケティング学科	マーケティングコース	JPN_日本語	273	0.14	329	0.08
マーケティング学科	マーケティングコース	JRN_ジャーナリズム	273	0.42	329	0.05
マーケティング学科	マーケティングコース	KOR_コリア語	273	0.41	329	0.1
マーケティング学科	マーケティングコース	LIE_英米・英語圏文学	273	0.05	329	0.05
マーケティング学科	マーケティングコース	LIG_文学一般	273	1.73	329	0.23
マーケティング学科	マーケティングコース	LOG_論理学	273	0.23	329	0.24
マーケティング学科	マーケティングコース	MAN_経営学	273	7.06	329	8.73
マーケティング学科	マーケティングコース	MAT_数理科学	273	0.17	329	0.06
マーケティング学科	マーケティングコース	MNI_経営情報学	273	0.28	329	0.21
マーケティング学科	マーケティングコース	MOF_金融・ファイナンス	273	5.08	329	6.15
マーケティング学科	マーケティングコース	NFL_新領域法学	273	0.02		
マーケティング学科	マーケティングコース	NSC_自然科学一般	273	6.11	329	6.8
マーケティング学科	マーケティングコース	OSS_海外語学研修など留学科目	273	0.13		
マーケティング学科	マーケティングコース	PHE_哲学一般	273	0.28	329	0.84
マーケティング学科	マーケティングコース	POI_計算基盤	273	3.95	329	3.94
マーケティング学科	マーケティングコース	POL_政治学	273	0.31	329	0.19
マーケティング学科	マーケティングコース	PUL_公法学	273	0.84	329	0.41
マーケティング学科	マーケティングコース	REG_地誌学	273	0.05	329	0.04
マーケティング学科	マーケティングコース	SEM_ゼミナール	273	8.66	329	7.79
マーケティング学科	マーケティングコース	SOC_社会学	273	1.15	329	1.17
マーケティング学科	マーケティングコース	SOI_社会情報学	273	0.06	329	0.04
マーケティング学科	マーケティングコース	SOL_社会法学	273	0.17		
マーケティング学科	マーケティングコース	SPL_特殊講義	273	0.07	329	0.06
マーケティング学科	マーケティングコース	SPN_スペイン語	273	0.02		
マーケティング学科	マーケティングコース	SPS_スポーツ科学	273	2.72	329	3.57
マーケティング学科	マーケティングコース	STS_統計科学	273	1.82	329	1.25
マーケティング学科	マーケティングコース	SWP_SWP科目	273	1.81	329	2.16
マーケティング学科	マーケティングコース	TCP_教職課程	273	0.45	329	0.81
マーケティング学科	マーケティングコース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	273	0.63	329	1.01
会計学科	-	ACC_会計学	196	48.9	191	50.5
会計学科	-	ARL_芸術一般	196	0.19	191	0.22
会計学科	-	CHI_中国語	196	0.19	191	0.15
会計学科	-	CIL_民事法学	196	5.32	191	5.59
会計学科	-	CME_商学	196	10.57	191	6.6
会計学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	196	2.16	191	1.96
会計学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	196	0.04	191	0.04

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
会計学科	-	ECH_経済史	196	0.04		
会計学科	-	ECP_経済政策	196	1.85	191	2.66
会計学科	-	ECT_理論経済学	196	2.5	191	4.34
会計学科	-	EDU_教育学	196	0.58	191	0.41
会計学科	-	ENG_英語一般	196	0.41	191	0.96
会計学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	196	4.01	191	4
会計学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	196	2.03	191	2.36
会計学科	-	ETH_倫理学	196	0.54	191	0.19
会計学科	-	FAH_美術史	196	0.03		
会計学科	-	FRE_フランス語	196	0.07	191	0.09
会計学科	-	FUL_基礎法学	196	0.24	191	0.3
会計学科	-	GGR_地理学一般	196	0.2	191	0.16
会計学科	-	GIN_情報学一般	196	4.88	191	4.17
会計学科	-	GPS_心理学一般	196	2.66	191	2.11
会計学科	-	HSG_史学一般	196	1.16	191	1.35
会計学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	196	0.89	191	1.59
会計学科	-	ILA_国際法学	196	0.03		
会計学科	-	INS_情報システム	196	0.3	191	0.13
会計学科	-	JPH_日本史	196	0.03		
会計学科	-	JRN_ジャーナリズム	196	0.08	191	0.12
会計学科	-	KOR_コリア語	196	0.13	191	0.16
会計学科	-	LCP_司書課程	196	0.02	191	0.15
会計学科	-	LIE_英米・英語圏文学	196	0.04	191	0.02
会計学科	-	LIG_文学一般	196	1.5	191	0.21
会計学科	-	LOG_論理学	196	0.44	191	0.27
会計学科	-	MAN_経営学	196	3.78	191	3
会計学科	-	MAT_数理科学	196	0.54	191	0.46
会計学科	-	MCP_学芸員課程	196	0.09		
会計学科	-	MNI_経営情報学	196	0.11	191	0.1
会計学科	-	MOF_金融・ファイナンス	196	4.03	191	5.2
会計学科	-	NFL_新領域法学	196	0.03		
会計学科	-	NSC_自然科学一般	196	6.02	191	7.52
会計学科	-	PHE_哲学一般	196	0.37	191	0.51
会計学科	-	POI_計算基盤	196	1.92	191	1.82
会計学科	-	POL_政治学	196	0.21	191	0.12
会計学科	-	PUL_公法学	196	2.93	191	3.08
会計学科	-	SEM_ゼミナール	196	9.9	191	8.6
会計学科	-	SOC_社会学	196	0.9	191	0.72
会計学科	-	SOI_社会情報学	196	0.05		
会計学科	-	SOL_社会法学	196	0.04		
会計学科	-	SPL_特殊講義	196	0.15	191	0.37

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
会計学科	-	SPS_スポーツ科学	196	2.85	191	3.1
会計学科	-	STS_統計科学	196	0.87	191	1.16
会計学科	-	TCP_教職課程	196	0.47	191	0.02
会計学科	-	TLP_司書教諭課程	196	0.06		
会計学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	196	0.33	191	0.92
日本語学科	-	ACC_会計学			64	0.13
日本語学科	-	ARL_芸術一般			64	3.88
日本語学科	-	ARS_地域研究			64	0.16
日本語学科	-	CHI_中国語			64	1.52
日本語学科	-	CHL_中国文学			64	0.79
日本語学科	-	CME_商学			64	0.04
日本語学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）			64	0.29
日本語学科	-	CUA_文化人類学・民俗学			64	0.29
日本語学科	-	EDU_教育学			64	1.19
日本語学科	-	ENG_英語一般			64	0.74
日本語学科	-	EPE_経済学・政治経済学			64	0.25
日本語学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）			64	1.99
日本語学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）			64	1.71
日本語学科	-	ETH_倫理学			64	0.72
日本語学科	-	FRE_フランス語			64	0.3
日本語学科	-	FUL_基礎法学			64	0.04
日本語学科	-	GER_ドイツ語			64	0.29
日本語学科	-	GGR_地理学一般			64	0.16
日本語学科	-	GIN_情報学一般			64	2.1
日本語学科	-	GPS_心理学一般			64	2.54
日本語学科	-	HSG_史学一般			64	1.79
日本語学科	-	ICT_情報通信技術			64	0.29
日本語学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）			64	0.82
日本語学科	-	IND_インドネシア語			64	0.13
日本語学科	-	JAC_日本文化			64	2.66
日本語学科	-	JAL_日本文学			64	3.22
日本語学科	-	JLE_日本語教育			64	8.19
日本語学科	-	JLI_日本語学			64	35.13
日本語学科	-	JPN_日本語			64	1.68
日本語学科	-	JRN_ジャーナリズム			64	1.79
日本語学科	-	KOR_コリア語			64	0.93
日本語学科	-	LCP_司書課程			64	0.75
日本語学科	-	LIN_言語学			64	10.6
日本語学科	-	LOG_論理学			64	0.35
日本語学科	-	MAN_経営学			64	0.35
日本語学科	-	MAT_数理科学			64	0.25

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
日本語学科	-	NSC_自然科学一般			64	1.79
日本語学科	-	PHE_哲学一般			64	1.13
日本語学科	-	POL_政治学			64	0.19
日本語学科	-	PUL_公法学			64	0.94
日本語学科	-	RUS_ロシア語			64	0.13
日本語学科	-	SEM_ゼミナール			64	16.75
日本語学科	-	SLP_学校司書			64	0.07
日本語学科	-	SOC_社会学			64	1.41
日本語学科	-	SPN_スペイン語			64	0.72
日本語学科	-	SPS_スポーツ科学			64	3.44
日本語学科	-	TCP_教職課程			64	8.29
日本語学科	-	THE_卒業論文・卒業研究			64	8
日本語学科	-	TLP_司書教諭課程			64	0.29
日本語学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究			64	1.79
日本文学文化学科	-	ACC_会計学	111	0.1	101	0.02
日本文学文化学科	-	ARC_考古学	111	0.1	101	0.04
日本文学文化学科	-	ARL_芸術一般	111	7.64	101	8.02
日本文学文化学科	-	ARS_地域研究	111	0.08	101	0.04
日本文学文化学科	-	ASA_美学・芸術諸学	111	0.17	101	0.04
日本文学文化学科	-	CAS_文化財科学・博物館学	111	0.02		
日本文学文化学科	-	CHI_中国語	111	1.69	101	2.16
日本文学文化学科	-	CHL_中国文学	111	5.12	101	3.87
日本文学文化学科	-	CLP_臨床心理学	111	0.02	101	0.08
日本文学文化学科	-	CME_商学	111	0.1	101	0.04
日本文学文化学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	111	0.55	101	0.34
日本文学文化学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	111	0.53	101	0.64
日本文学文化学科	-	EDU_教育学	111	0.96	101	0.68
日本文学文化学科	-	ENG_英語一般	111	0.55	101	0.72
日本文学文化学科	-	ENL_英語学	111	0.1	101	0.16
日本文学文化学科	-	EPE_経済学・政治経済学	111	0.29	101	0.24
日本文学文化学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	111	2.05	101	1.92
日本文学文化学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	111	2.07	101	1.96
日本文学文化学科	-	ETH_倫理学	111	1.25	101	1.23
日本文学文化学科	-	FAH_美術史	111	0.4	101	0.36
日本文学文化学科	-	FRE_フランス語	111	0.52	101	0.4
日本文学文化学科	-	FUL_基礎法学	111	0.04	101	0.02
日本文学文化学科	-	GER_ドイツ語	111	0.62	101	0.5
日本文学文化学科	-	GGR_地理学一般	111	0.04	101	0.06
日本文学文化学科	-	GIN_情報学一般	111	2.24	101	2.08
日本文学文化学科	-	GPS_心理学一般	111	2.38	101	2.4
日本文学文化学科	-	GRK_ギリシャ語	111	0.04	101	0.02

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
日本文学文化学科	-	HAA_アジア史・アフリカ史	111	0.15	101	0.3
日本文学文化学科	-	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	111	0.26	101	0.34
日本文学文化学科	-	HMN_人文学一般	111	0.06	101	0.12
日本文学文化学科	-	HOT_思想史	111	0.94	101	0.86
日本文学文化学科	-	HSG_史学一般	111	1.48	101	1.97
日本文学文化学科	-	HUG_人文地理学	111	0.1	101	0.08
日本文学文化学科	-	ICT_情報通信技術	111	0.67	101	0.78
日本文学文化学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	111	0.91	101	0.8
日本文学文化学科	-	IND_インドネシア語	111	0.08		
日本文学文化学科	-	JAC_日本文化	111	24.15	101	24.78
日本文学文化学科	-	JAL_日本文学	111	23.81	101	22.78
日本文学文化学科	-	JLI_日本語学	111	0.85	101	1.69
日本文学文化学科	-	JPH_日本史	111	0.82	101	0.98
日本文学文化学科	-	JPN_日本語	111	0.11	101	0.49
日本文学文化学科	-	JRN_ジャーナリズム	111	2.37	101	1.93
日本文学文化学科	-	KOR_コリア語	111	0.52	101	0.82
日本文学文化学科	-	LCP_司書課程	111	4.82	101	4.88
日本文学文化学科	-	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	111	0.33	101	0.22
日本文学文化学科	-	LIE_英米・英語圏文学	111	0.67	101	0.68
日本文学文化学科	-	LIG_文学一般	111	4.31	101	4.86
日本文学文化学科	-	LIN_言語学	111	0.17	101	0.4
日本文学文化学科	-	LOG_論理学	111	0.31	101	0.52
日本文学文化学科	-	MAN_経営学	111	0.13	101	0.14
日本文学文化学科	-	MAT_数理科学	111	0.08	101	0.06
日本文学文化学科	-	MCP_学芸員課程	111	0.96	101	0.72
日本文学文化学科	-	NSC_自然科学一般	111	0.96	101	1.41
日本文学文化学科	-	PHE_哲学一般	111	1.59	101	1.55
日本文学文化学科	-	PHG_自然地理学	111	0.04	101	0.08
日本文学文化学科	-	POL_政治学	111	0.08	101	0.12
日本文学文化学科	-	PUL_公法学	111	0.67	101	0.44
日本文学文化学科	-	RES_宗教学	111	0.31	101	0.18
日本文学文化学科	-	RUS_ロシア語	111	0.1	101	0.16
日本文学文化学科	-	SEM_ゼミナール	111	14.22	101	14.12
日本文学文化学科	-	SLP_学校司書	111	0.37	101	0.22
日本文学文化学科	-	SOC_社会学	111	1.72	101	1.59
日本文学文化学科	-	SOI_社会情報学	111	1	101	1.13
日本文学文化学科	-	SPN_スペイン語	111	0.74	101	0.26
日本文学文化学科	-	SPS_スポーツ科学	111	2.46	101	2.38
日本文学文化学科	-	STS_統計科学	111	0.26	101	0.08
日本文学文化学科	-	TCP_教職課程	111	6.84	101	2.96
日本文学文化学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	111	8	101	8

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
日本文学文化学科	-	TLP_司書教諭課程	111	1.07	101	0.62
日本文学文化学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	111	1.1	101	1.35
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	ACC_会計学	38	0.37	25	0.08
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	ARL_芸術一般	38	6.06	25	7.6
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	ARS_地域研究	38	1.64	25	1.2
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	CHI_中国語	38	1.22	25	0.96
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	CME_商学	38	0.06		
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	38	1.27	25	0.08
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	CUA_文化人類学・民俗学	38	0.48	25	0.8
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	EDU_教育学	38	1.06	25	0.72
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	ENG_英語一般	38	28.22	25	30.64
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	ENL_英語学	38	4.22	25	4.48
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	EPE_経済学・政治経済学	38	0.85	25	0.08
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	38	10.19	25	9.36
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	38	12.43	25	13.04
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	ETH_倫理学	38	0.69	25	0.48
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	IND_インドネシア語	38	0.11	25	0.16
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	FLE_外国語教育	38	0.69	25	0.48
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	FRE_フランス語	38	0.53	25	1.28
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	LCP_司書課程	38	1.43		
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	FUL_基礎法学	38	0.11		
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	GER_ドイツ語	38	0.22	25	0.92
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	GGR_地理学一般	38	0.11	25	1.04
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	GIN_情報学一般	38	2.74	25	2.08
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	GPS_心理学一般	38	2.69	25	2.4
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	PHG_自然地理学	38	0.11		
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	38	1.48	25	2.16
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	HMN_人文学一般	38	0.79	25	2.16
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	HOT_思想史	38	0.53	25	0.56
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	HSG_史学一般	38	0.9	25	2.24
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	ICT_情報通信技術	38	0.27	25	0.24
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	38	0.74	25	0.72
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	JAC_日本文化	38	0.95	25	0.4
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	JAL_日本文学	38	0.22	25	0.64
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	JPH_日本史	38	0.06	25	0.24
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	JRN_ジャーナリズム	38	1.06	25	0.8
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	KOR_コリア語	38	0.9	25	0.4
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	38	0.11		
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	LIE_英米・英語圏文学	38	8.64	25	8
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	LIG_文学一般	38	2.11	25	2.08
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	LIN_言語学	38	4.74	25	5.04

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	LOG_論理学	38	0.16	25	0.24
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	MAN_経営学	38	0.64	25	0.24
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	NSC_自然科学一般	38	1.06	25	0.96
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	OSS_海外語学研修など留学科目	38	1.27		
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	PHE_哲学一般	38	0.85	25	0.8
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	POL_政治学	38	0.11		
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	PUL_公法学	38	0.48	25	0.4
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	SEM_ゼミナール	38	12	25	12.64
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	SOC_社会学	38	1	25	0.4
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	SOI_社会情報学	38	0.22	25	0.24
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	SPL_特殊講義	38	0.11	25	0.08
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	SPN_スペイン語	38	1.61	25	1.76
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	SPS_スポーツ科学	38	2.85	25	2.56
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	STS_統計科学	38	0.32	25	0.08
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	TCP_教職課程	38	2.85	25	3.04
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	THE_卒業論文・卒業研究	38	4	25	4
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	TLP_司書教諭課程	38	0.16	25	0.4
英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	38	1.16	25	1.36
英語英米文学科	英語文化コース	ACC_会計学	94	0.15	96	0.11
英語英米文学科	英語文化コース	ARL_芸術一般	94	8.62	96	8.98
英語英米文学科	英語文化コース	ARS_地域研究	94	1.26	96	1.82
英語英米文学科	英語文化コース	CHI_中国語	94	1.58	96	1.27
英語英米文学科	英語文化コース	CME_商学	94	0.26		
英語英米文学科	英語文化コース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	94	0.73	96	0.23
英語英米文学科	英語文化コース	CUA_文化人類学・民俗学	94	0.52	96	0.5
英語英米文学科	英語文化コース	EDU_教育学	94	1.07	96	0.82
英語英米文学科	英語文化コース	ENG_英語一般	94	12.58	96	12.75
英語英米文学科	英語文化コース	ENL_英語学	94	6.62	96	5.86
英語英米文学科	英語文化コース	EPE_経済学・政治経済学	94	0.69	96	0.3
英語英米文学科	英語文化コース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	94	9.62	96	9.48
英語英米文学科	英語文化コース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	94	11.96	96	12.48
英語英米文学科	英語文化コース	ETH_倫理学	94	0.71	96	0.53
英語英米文学科	英語文化コース	FLE_外国語教育	94	0.58	96	0.36
英語英米文学科	英語文化コース	FRE_フランス語	94	1.09	96	0.75
英語英米文学科	英語文化コース	FUL_基礎法学	94	0.13	96	0.05
英語英米文学科	英語文化コース	GER_ドイツ語	94	0.22	96	0.42
英語英米文学科	英語文化コース	GGR_地理学一般	94	0.07	96	0.5
英語英米文学科	英語文化コース	GIN_情報学一般	94	2.45	96	1.82
英語英米文学科	英語文化コース	GPS_心理学一般	94	3.03	96	2.67
英語英米文学科	英語文化コース	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	94	2.37	96	3
英語英米文学科	英語文化コース	HMN_人文学一般	94	1.03	96	1.86

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
英語英米文学科	英語文化コース	HOT_思想史	94	0.2	96	0.32
英語英米文学科	英語文化コース	HSG_史学一般	94	1.49	96	1.8
英語英米文学科	英語文化コース	ICT_情報通信技術	94	0.32	96	0.4
英語英米文学科	英語文化コース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	94	2.11	96	1.82
英語英米文学科	英語文化コース	ARA_アラビア語	94	0.02	96	0.03
英語英米文学科	英語文化コース	JAC_日本文化	94	1.49	96	2.11
英語英米文学科	英語文化コース	JAL_日本文学	94	0.41	96	0.65
英語英米文学科	英語文化コース	CHL_中国文学	94	0.05	96	0.03
英語英米文学科	英語文化コース	JPH_日本史	94	0.22	96	0.32
英語英米文学科	英語文化コース	JRN_ジャーナリズム	94	1.43	96	2.32
英語英米文学科	英語文化コース	KOR_コリア語	94	1.05	96	1.17
英語英米文学科	英語文化コース	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	94	0.07	96	0.15
英語英米文学科	英語文化コース	LIE_英米・英語圏文学	94	13.69	96	12.5
英語英米文学科	英語文化コース	LIG_文学一般	94	2.15	96	2.38
英語英米文学科	英語文化コース	LIN_言語学	94	4.64	96	5.78
英語英米文学科	英語文化コース	LOG_論理学	94	0.24	96	0.32
英語英米文学科	英語文化コース	GRK_ギリシャ語	94	0.03	96	0.05
英語英米文学科	英語文化コース	HAA_アジア史・アフリカ史	94	0.07	96	0.17
英語英米文学科	英語文化コース	MAN_経営学	94	0.52	96	0.46
英語英米文学科	英語文化コース	NSC_自然科学一般	94	1.73	96	1.07
英語英米文学科	英語文化コース	HUG_人文地理学	94	0.07	96	0.07
英語英米文学科	英語文化コース	OSS_海外語学研修など留学科目	94	0.52		
英語英米文学科	英語文化コース	PHE_哲学一般	94	1.05	96	1.17
英語英米文学科	英語文化コース	POL_政治学	94	0.07	96	0.11
英語英米文学科	英語文化コース	PUL_公法学	94	0.58	96	0.34
英語英米文学科	英語文化コース	LAT_ラテン語	94	0.13		
英語英米文学科	英語文化コース	SEM_ゼミナール	94	12.43	96	12.13
英語英米文学科	英語文化コース	SOC_社会学	94	1.24	96	0.96
英語英米文学科	英語文化コース	SOI_社会情報学	94	0.39	96	0.46
英語英米文学科	英語文化コース	MAT_数理科学	94	0.03		
英語英米文学科	英語文化コース	SPL_特殊講義	94	0.05	96	0.03
英語英米文学科	英語文化コース	SPN_スペイン語	94	0.9	96	0.99
英語英米文学科	英語文化コース	RES_宗教学	94	0.15	96	0.15
英語英米文学科	英語文化コース	RUS_ロシア語	94	0.25	96	0.03
英語英米文学科	英語文化コース	SPS_スポーツ科学	94	3.3	96	3.57
英語英米文学科	英語文化コース	STS_統計科学	94	0.2	96	0.07
英語英米文学科	英語文化コース	TCP_教職課程	94	3.93	96	3.19
英語英米文学科	英語文化コース	THE_卒業論文・卒業研究	94	4	96	4
英語英米文学科	英語文化コース	TLP_司書教諭課程	94	0.11		
英語英米文学科	英語文化コース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	94	1.58	96	1.4
哲学科	-	ACC_会計学	62	0.04		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
哲学科	-	ARC_考古学	62	0.23	68	0.12
哲学科	-	ARL_芸術一般	62	9.3	68	10.12
哲学科	-	ARS_地域研究	62	0.04	68	0.09
哲学科	-	CAS_文化財科学・博物館学	62	0.07		
哲学科	-	CHI_中国語	62	1.18	68	1.24
哲学科	-	CHL_中国文学	62	0.07	68	0.39
哲学科	-	CLP_臨床心理学	62	0.07		
哲学科	-	CME_商学	62	0.13		
哲学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	62	0.33	68	0.27
哲学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	62	0.17	68	0.65
哲学科	-	DES_デザイン学	62	0.04		
哲学科	-	EDU_教育学	62	1.36	68	0.36
哲学科	-	ENG_英語一般	62	0.47	68	0.55
哲学科	-	ENL_英語学	62	0.75	68	0.42
哲学科	-	EPE_経済学・政治経済学	62	0.84	68	0.86
哲学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	62	1.76	68	1.84
哲学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	62	1.84	68	1.92
哲学科	-	ETH_倫理学	62	5	68	4.53
哲学科	-	FRE_フランス語	62	0.59	68	0.89
哲学科	-	FUL_基礎法学	62	0.75	68	0.56
哲学科	-	GER_ドイツ語	62	1.26	68	1
哲学科	-	GGR_地理学一般	62	0.46	68	0.18
哲学科	-	GIN_情報学一般	62	1.23	68	1
哲学科	-	GPS_心理学一般	62	2.88	68	2.5
哲学科	-	GRK_ギリシャ語	62	0.71	68	0.5
哲学科	-	HAA_アジア史・アフリカ史	62	0.88	68	0.45
哲学科	-	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	62	0.39	68	0.39
哲学科	-	HMN_人文学一般	62	0.04	68	0.06
哲学科	-	HOT_思想史	62	16.46	68	17
哲学科	-	HSG_史学一般	62	2.36	68	2.3
哲学科	-	HUG_人文地理学	62	0.39	68	0.56
哲学科	-	ICT_情報通信技術	62	0.55	68	0.48
哲学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	62	1	68	0.71
哲学科	-	ITL_イタリア語	62	0.07		
哲学科	-	JAC_日本文化	62	1.91	68	2.5
哲学科	-	JAL_日本文学	62	1	68	1.86
哲学科	-	JPH_日本史	62	1.39	68	1.33
哲学科	-	JPN_日本語	62	0.78	68	0.93
哲学科	-	JRN_ジャーナリズム	62	3.26	68	1.74
哲学科	-	KOR_コリア語	62	0.25	68	0.45
哲学科	-	LAT_ラテン語	62	0.84	68	0.42

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
哲学科	-	LCP_司書課程	62	2.17	68	1.36
哲学科	-	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	62	0.2	68	0.12
哲学科	-	LIE_英米・英語圏文学	62	0.55	68	0.53
哲学科	-	LIG_文学一般	62	1.71	68	2.36
哲学科	-	LIN_言語学	62	0.3	68	1
哲学科	-	LOG_論理学	62	0.84	68	0.95
哲学科	-	MAN_経営学	62	0.17	68	0.18
哲学科	-	MAT_数理科学	62	0.1	68	0.03
哲学科	-	NSC_自然科学一般	62	1.78	68	1.92
哲学科	-	PHE_哲学一般	62	17.62	68	18.71
哲学科	-	PHG_自然地理学	62	0.2	68	0.5
哲学科	-	POL_政治学	62	0.52	68	0.56
哲学科	-	PUL_公法学	62	1.88	68	1
哲学科	-	REG_地誌学	62	0.49	68	0.24
哲学科	-	RES_宗教学	62	2.2	68	2.53
哲学科	-	RUS_ロシア語	62	0.33	68	0.23
哲学科	-	SEM_ゼミナール	62	16.39	68	16.65
哲学科	-	SLP_学校司書	62	0.07	68	0.06
哲学科	-	SOC_社会学	62	5	68	4.36
哲学科	-	SOI_社会情報学	62	1	68	0.77
哲学科	-	SPN_スペイン語	62	0.62	68	0.67
哲学科	-	SPS_スポーツ科学	62	3.84	68	3.5
哲学科	-	STS_統計科学	62	0.13		
哲学科	-	TCP_教職課程	62	3.71	68	3.62
哲学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	62	8	68	8
哲学科	-	TLP_司書教諭課程	62	0.33	68	0.27
哲学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	62	1.07	68	1.03
歴史学科	-	ACC_会計学	117	0.23	104	0.08
歴史学科	-	ARC_考古学	117	4.26	104	6.41
歴史学科	-	ARL_芸術一般	117	1.85	104	2.27
歴史学科	-	ARS_地域研究	117	0.11	104	0.06
歴史学科	-	CAS_文化財科学・博物館学	117	0.07	104	0.08
歴史学科	-	CHI_中国語	117	1.65	104	1.48
歴史学科	-	CHL_中国文学	117	0.26	104	0.24
歴史学科	-	CME_商学	117	0.04	104	0.02
歴史学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	117	0.45	104	0.24
歴史学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	117	0.48	104	0.58
歴史学科	-	EDU_教育学	117	1.05	104	0.74
歴史学科	-	ENG_英語一般	117	0.39	104	0.46
歴史学科	-	ENL_英語学	117	0.09	104	0.18
歴史学科	-	EPE_経済学・政治経済学	117	0.72	104	0.52

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
歴史学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	117	2.06	104	2
歴史学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	117	2.01	104	2.13
歴史学科	-	ETH_倫理学	117	0.77	104	0.72
歴史学科	-	FAH_美術史	117	0.26	104	0.31
歴史学科	-	FRE_フランス語	117	0.56	104	0.84
歴史学科	-	FUL_基礎法学	117	1.05	104	0.91
歴史学科	-	GER_ドイツ語	117	0.59	104	1.16
歴史学科	-	GGR_地理学一般	117	1.32	104	0.91
歴史学科	-	GIN_情報学一般	117	2.26	104	1.87
歴史学科	-	GPS_心理学一般	117	1.44	104	2.02
歴史学科	-	GRK_ギリシャ語	117	0.04		
歴史学科	-	HAA_アジア史・アフリカ史	117	11.95	104	12.77
歴史学科	-	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	117	9.36	104	7.31
歴史学科	-	HMN_人文学一般	117	0.07	104	0.06
歴史学科	-	HOT_思想史	117	1.42	104	1.6
歴史学科	-	HSG_史学一般	117	20.81	104	19.87
歴史学科	-	HUG_人文地理学	117	1.15	104	1.49
歴史学科	-	ICT_情報通信技術	117	0.28	104	0.33
歴史学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	117	0.3	104	0.58
歴史学科	-	IND_インドネシア語	117	0.07	104	0.08
歴史学科	-	INS_情報システム	117	0.02		
歴史学科	-	ITL_イタリア語	117	0.02	104	0.01
歴史学科	-	JAC_日本文化	117	1.2	104	1.79
歴史学科	-	JAL_日本文学	117	0.69	104	1.16
歴史学科	-	JPH_日本史	117	16.06	104	15.31
歴史学科	-	JPN_日本語	117	0.28	104	0.12
歴史学科	-	JRN_ジャーナリズム	117	1.85	104	1.43
歴史学科	-	KOR_コリア語	117	0.56	104	0.38
歴史学科	-	LCP_司書課程	117	2.69	104	2.31
歴史学科	-	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	117	0.09	104	0.18
歴史学科	-	LIE_英米・英語圏文学	117	0.24	104	0.49
歴史学科	-	LIG_文学一般	117	2	104	2.25
歴史学科	-	LIN_言語学	117	0.14	104	0.35
歴史学科	-	LOG_論理学	117	0.21	104	0.22
歴史学科	-	MAN_経営学	117	0.24	104	0.39
歴史学科	-	MCP_学芸員課程	117	3.68	104	3.21
歴史学科	-	NSC_自然科学一般	117	1.41	104	1.66
歴史学科	-	PHE_哲学一般	117	1	104	1.62
歴史学科	-	PHG_自然地理学	117	0.91	104	0.87
歴史学科	-	POL_政治学	117	0.48	104	0.6
歴史学科	-	PUL_公法学	117	1.27	104	1.04

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
歴史学科	-	REG_地誌学	117	0.88	104	0.79
歴史学科	-	RES_宗教学	117	0.5	104	0.56
歴史学科	-	RUS_ロシア語	117	0.11	104	0.2
歴史学科	-	SEM_ゼミナール	117	16.11	104	16.04
歴史学科	-	SLP_学校司書	117	0.11	104	0.12
歴史学科	-	SOC_社会学	117	2.24	104	1.56
歴史学科	-	SOI_社会情報学	117	0.4	104	0.31
歴史学科	-	SPN_スペイン語	117	0.67	104	0.74
歴史学科	-	SPS_スポーツ科学	117	3.2	104	3
歴史学科	-	STS_統計科学	117	0.14	104	0.04
歴史学科	-	TCP_教職課程	117	7.19	104	7
歴史学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	117	8	104	8
歴史学科	-	TLP_司書教諭課程	117	0.52	104	0.33
歴史学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	117	1.3	104	1.47
環境地理学科	-	ARC_考古学	50	0.16	42	0.05
環境地理学科	-	ARL_芸術一般	50	0.76	42	1.15
環境地理学科	-	ARS_地域研究	50	6.88	42	6.2
環境地理学科	-	CAS_文化財科学・博物館学	50	0.04		
環境地理学科	-	CHI_中国語	50	1.68	42	1.89
環境地理学科	-	CHL_中国文学	50	0.04		
環境地理学科	-	CME_商学	50	0.12		
環境地理学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	50	0.56	42	0.39
環境地理学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	50	0.44	42	0.77
環境地理学科	-	EDU_教育学	50	1.04	42	1
環境地理学科	-	ENG_英語一般	50	0.34	42	0.86
環境地理学科	-	ENL_英語学	50	0.04	42	0.05
環境地理学科	-	EPE_経済学・政治経済学	50	1.4	42	0.72
環境地理学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	50	2.12	42	1.98
環境地理学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	50	2.04	42	2.31
環境地理学科	-	ETH_倫理学	50	1	42	0.91
環境地理学科	-	FAH_美術史	50	0.24		
環境地理学科	-	FRE_フランス語	50	0.34	42	0.22
環境地理学科	-	FUL_基礎法学	50	0.64	42	0.62
環境地理学科	-	GER_ドイツ語	50	0.56	42	0.34
環境地理学科	-	GGR_地理学一般	50	12.52	42	12.58
環境地理学科	-	GIN_情報学一般	50	3.12	42	3.1
環境地理学科	-	GPS_心理学一般	50	2.6	42	2.2
環境地理学科	-	HAA_アジア史・アフリカ史	50	0.28	42	0.1
環境地理学科	-	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	50	0.28		
環境地理学科	-	HOT_思想史	50	0.16	42	0.15
環境地理学科	-	HSG_史学一般	50	2.88	42	3.24

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
環境地理学科	-	HUG_人文地理学	50	20.64	42	19.67
環境地理学科	-	ICT_情報通信技術	50	0.12		
環境地理学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	50	0.84		
環境地理学科	-	IND_インドネシア語	50	0.24	42	0.1
環境地理学科	-	JAC_日本文化	50	0.4	42	0.62
環境地理学科	-	JAL_日本文学	50	0.24	42	0.1
環境地理学科	-	JPH_日本史	50	1	42	1.29
環境地理学科	-	JPN_日本語	50	0.24		
環境地理学科	-	JRN_ジャーナリズム	50	1.44		
環境地理学科	-	KOR_コリア語	50	0.48	42	0.91
環境地理学科	-	LCP_司書課程	50	0.32	42	0.05
環境地理学科	-	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	50	0.04	42	0.05
環境地理学科	-	LIE_英米・英語圏文学	50	0.08	42	0.05
環境地理学科	-	LIG_文学一般	50	1.2	42	1.29
環境地理学科	-	LIN_言語学	50	0.16	42	0.1
環境地理学科	-	LOG_論理学	50	0.32	42	0.2
環境地理学科	-	MAN_経営学	50	0.16	42	0.34
環境地理学科	-	MAT_数理科学	50	0.24	42	0.1
環境地理学科	-	MCP_学芸員課程	50	1.02	42	0.41
環境地理学科	-	NSC_自然科学一般	50	3.32	42	4.1
環境地理学科	-	PHE_哲学一般	50	1.2	42	0.72
環境地理学科	-	PHG_自然地理学	50	13.12	42	15.43
環境地理学科	-	POL_政治学	50	0.56	42	0.29
環境地理学科	-	PUL_公法学	50	0.84	42	0.58
環境地理学科	-	REG_地誌学	50	2.12	42	2.58
環境地理学科	-	RES_宗教学	50	0.36	42	0.29
環境地理学科	-	RUS_ロシア語	50	0.2	42	0.1
環境地理学科	-	SEM_ゼミナール	50	12.08	42	12.1
環境地理学科	-	SIS_空間情報科学	50	10.28	42	11.15
環境地理学科	-	SOC_社会学	50	1.52	42	1.39
環境地理学科	-	SOI_社会情報学	50	0.36	42	0.29
環境地理学科	-	SPL_特殊講義	50	0.04		
環境地理学科	-	SPN_スペイン語	50	0.58		
環境地理学科	-	SPS_スポーツ科学	50	3.04	42	2.77
環境地理学科	-	STS_統計科学	50	0.68		
環境地理学科	-	TCP_教職課程	50	4.86		
環境地理学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	50	8	42	8
環境地理学科	-	TLP_司書教諭課程	50	0.08	42	0.24
環境地理学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	50	0.96	42	1.24
ジャーナリズム学科	-	ACC_会計学	116	0.09	117	0.02
ジャーナリズム学科	-	ARC_考古学	116	0.13	117	0.06

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
ジャーナリズム学科	-	ARL_芸術一般	116	2.85	117	3.65
ジャーナリズム学科	-	ARS_地域研究	116	0.09	117	0.09
ジャーナリズム学科	-	CAS_文化財科学・博物館学	116	0.14	117	0.23
ジャーナリズム学科	-	CHI_中国語	116	1.32	117	1.41
ジャーナリズム学科	-	CHL_中国文学	116	0.04	117	0.04
ジャーナリズム学科	-	CME_商学	116	0.07	117	
ジャーナリズム学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	116	0.8	117	0.48
ジャーナリズム学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	116	0.64	117	0.47
ジャーナリズム学科	-	EDU_教育学	116	0.87	117	0.55
ジャーナリズム学科	-	ENG_英語一般	116	0.65	117	0.57
ジャーナリズム学科	-	ENL_英語学	116	0.14	117	0.07
ジャーナリズム学科	-	EPE_経済学・政治経済学	116	0.63	117	0.31
ジャーナリズム学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	116	1.86	117	1.8
ジャーナリズム学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	116	1.95	117	2.04
ジャーナリズム学科	-	ETH_倫理学	116	1.19	117	1.29
ジャーナリズム学科	-	FLE_外国語教育	116	0.06	117	#N/A
ジャーナリズム学科	-	FRE_フランス語	116	0.26	117	0.58
ジャーナリズム学科	-	FUL_基礎法学	116	0.14	117	0.28
ジャーナリズム学科	-	GER_ドイツ語	116	0.54	117	0.34
ジャーナリズム学科	-	GGR_地理学一般	116	0.06	117	0.09
ジャーナリズム学科	-	GIN_情報学一般	116	0.14	117	0.07
ジャーナリズム学科	-	GPS_心理学一般	116	2.3	117	2.02
ジャーナリズム学科	-	HAA_アジア史・アフリカ史	116	0.07	117	0.19
ジャーナリズム学科	-	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	116	0.23	117	0.28
ジャーナリズム学科	-	HMN_人文学一般	116	0.04	117	0.04
ジャーナリズム学科	-	HOT_思想史	116	0.16	117	0.21
ジャーナリズム学科	-	HSG_史学一般	116	1.54	117	1.46
ジャーナリズム学科	-	HUG_人文地理学	116	0.25	117	0.12
ジャーナリズム学科	-	ICT_情報通信技術	116	3.61	117	4.26
ジャーナリズム学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	116	0.59	117	0.5
ジャーナリズム学科	-	IND_インドネシア語	116	0.18	117	
ジャーナリズム学科	-	ITL_イタリア語	116	0.01	117	
ジャーナリズム学科	-	JAC_日本文化	116	1.9	117	2.77
ジャーナリズム学科	-	JAL_日本文学	116	0.25	117	0.38
ジャーナリズム学科	-	JPH_日本史	116	0.18	117	0.12
ジャーナリズム学科	-	JPN_日本語	116	0.73	117	0.53
ジャーナリズム学科	-	JRN_ジャーナリズム	116	45.32	117	46.23
ジャーナリズム学科	-	KOR_コリア語	116	0.71	117	1.35
ジャーナリズム学科	-	LCP_司書課程	116	1.13	117	1.44
ジャーナリズム学科	-	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	116	2.99	117	3.29
ジャーナリズム学科	-	LIG_文学一般	116	2.07	117	2.4

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
ジャーナリズム学科	-	LIN_言語学	116	0.16	117	0.3
ジャーナリズム学科	-	LOG_論理学	116	0.14	117	0.11
ジャーナリズム学科	-	MAN_経営学	116	0.33	117	0.55
ジャーナリズム学科	-	MCP_学芸員課程	116	0.15	117	0.59
ジャーナリズム学科	-	NSC_自然科学一般	116	4.25	117	3.83
ジャーナリズム学科	-	PHE_哲学一般	116	1.25	117	0.79
ジャーナリズム学科	-	POL_政治学	116	0.26	117	0.35
ジャーナリズム学科	-	PUL_公法学	116	0.23	117	0.24
ジャーナリズム学科	-	RES_宗教学	116	0.18	117	0.16
ジャーナリズム学科	-	SEM_ゼミナール	116	10.11	117	10.24
ジャーナリズム学科	-	SLP_学校司書	116	0.07	117	0.07
ジャーナリズム学科	-	SOC_社会学	116	1.35	117	1.03
ジャーナリズム学科	-	SOI_社会情報学	116	7.8	117	7.17
ジャーナリズム学科	-	SPN_スペイン語	116	1.01	117	0.59
ジャーナリズム学科	-	SPS_スポーツ科学	116	14.11	117	12.98
ジャーナリズム学科	-	STS_統計科学	116	2	117	2
ジャーナリズム学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	116	6	117	6
ジャーナリズム学科	-	TLP_司書教諭課程	116	0.11	117	0.19
ジャーナリズム学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	116	0.78	117	0.62
ネットワーク情報学科	Dコース	ACC_会計学	132	1.13	145	1.4
ネットワーク情報学科	Dコース	ARL_芸術一般	132	0.23	145	0.1
ネットワーク情報学科	Dコース	CHI_中国語	132	0.04	145	0.05
ネットワーク情報学科	Dコース	CLP_臨床心理学	132	0.16	145	0.02
ネットワーク情報学科	Dコース	CME_商学	132	1.04	145	1.36
ネットワーク情報学科	Dコース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	132	2.47	145	2.56
ネットワーク情報学科	Dコース	CRL_刑事法学	132	0.02	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	CUA_文化人類学・民俗学	132	0.19	145	0.4
ネットワーク情報学科	Dコース	DEP_発達心理学	132	0.04	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	DES_デザイン学	132	11.79	145	11.32
ネットワーク情報学科	Dコース	ECH_経済史	132	0.04	145	0.02
ネットワーク情報学科	Dコース	ECT_理論経済学	132	0.41	145	0.31
ネットワーク情報学科	Dコース	EDT_教育工学	132	0.9	145	0.61
ネットワーク情報学科	Dコース	EDU_教育学	132	0.66	145	0.49
ネットワーク情報学科	Dコース	ENG_英語一般	132	2.86	145	2.06
ネットワーク情報学科	Dコース	EPE_経済学・政治経済学	132	0.55	145	0.52
ネットワーク情報学科	Dコース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	132	0.2	145	0.19
ネットワーク情報学科	Dコース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	132	2.19	145	2.14
ネットワーク情報学科	Dコース	ETH_倫理学	132	0.54	145	0.49
ネットワーク情報学科	Dコース	EXP_実験心理学	132	0.14	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	FRE_フランス語	132	0.01	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	FUL_基礎法学	132	0.2	145	0.05

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
ネットワーク情報学科	Dコース	GGR_地理学一般	132	0.26	145	0.46
ネットワーク情報学科	Dコース	GIN_情報学一般	132	12.24	145	12
ネットワーク情報学科	Dコース	GPS_心理学一般	132	2.85	145	2.72
ネットワーク情報学科	Dコース	HSG_史学一般	132	0.73	145	1.25
ネットワーク情報学科	Dコース	HUI_人間情報学	132	3.37	145	3.32
ネットワーク情報学科	Dコース	ICT_情報通信技術	132	10.76	145	10.61
ネットワーク情報学科	Dコース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	132	2.78	145	2.92
ネットワーク情報学科	Dコース	INS_情報システム	132	6.05	145	6.83
ネットワーク情報学科	Dコース	ITL_イタリア語	132	0.02	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	JPH_日本史	132	0.02	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	JPN_日本語	132	0.37	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	JRN_ジャーナリズム	132	0.61	145	0.23
ネットワーク情報学科	Dコース	LCP_司書課程	132	0.64	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	LIE_英米・英語圏文学	132	0.05	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	LIG_文学一般	132	0.63	145	0.89
ネットワーク情報学科	Dコース	LOG_論理学	132	0.13	145	0.1
ネットワーク情報学科	Dコース	MAN_経営学	132	1	145	2.32
ネットワーク情報学科	Dコース	MAT_数理科学	132	4.63	145	4.52
ネットワーク情報学科	Dコース	MOF_金融・ファイナンス	132	0.4	145	0.53
ネットワーク情報学科	Dコース	NSC_自然科学一般	132	11.5	145	12.25
ネットワーク情報学科	Dコース	PHE_哲学一般	132	0.7	145	0.49
ネットワーク情報学科	Dコース	POL_政治学	132	0.05	145	0.12
ネットワーク情報学科	Dコース	PUL_公法学	132	0.37	145	0.45
ネットワーク情報学科	Dコース	SEM_ゼミナール	132	15.64	145	15.19
ネットワーク情報学科	Dコース	SLP_学校司書	132	0.02	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	SOC_社会学	132	0.9	145	0.89
ネットワーク情報学科	Dコース	SOI_社会情報学	132	5.61	145	5.59
ネットワーク情報学科	Dコース	SOP_社会心理学	132	0.02	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	SPL_特殊講義	132	8.7	145	7.15
ネットワーク情報学科	Dコース	SPN_スペイン語	132	0.04	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	SPS_スポーツ科学	132	4.81	145	5.23
ネットワーク情報学科	Dコース	STS_統計科学	132	4.47	145	5.03
ネットワーク情報学科	Dコース	TCP_教職課程	132	1.03	145	0.65
ネットワーク情報学科	Dコース	TLP_司書教諭課程	132	0.07	145	
ネットワーク情報学科	Dコース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	132	2.17	145	2.5
ネットワーク情報学科	Sコース	ACC_会計学	53	2.16	55	1.97
ネットワーク情報学科	Sコース	ARL_芸術一般	53	0.19	55	0.04
ネットワーク情報学科	Sコース	CHI_中国語	53	0.19	55	0.08
ネットワーク情報学科	Sコース	CME_商学	53	1.25	55	1.39
ネットワーク情報学科	Sコース	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	53	2.16	55	2.19
ネットワーク情報学科	Sコース	CUA_文化人類学・民俗学	53	0.31	55	0.19

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
ネットワーク情報学科	Sコース	DES_デザイン学	53	1.06	55	0.99
ネットワーク情報学科	Sコース	ECH_経済史	53	0.04	55	0.04
ネットワーク情報学科	Sコース	ECP_経済政策	53	0.04	55	
ネットワーク情報学科	Sコース	ECT_理論経済学	53	2	55	1.57
ネットワーク情報学科	Sコース	EDT_教育工学	53	0.16	55	0.3
ネットワーク情報学科	Sコース	EDU_教育学	53	0.76	55	0.62
ネットワーク情報学科	Sコース	ENG_英語一般	53	2.38	55	1.88
ネットワーク情報学科	Sコース	EPE_経済学・政治経済学	53	0.72	55	0.7
ネットワーク情報学科	Sコース	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	53	0.1	55	0.04
ネットワーク情報学科	Sコース	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	53	2.34	55	2.28
ネットワーク情報学科	Sコース	ETH_倫理学	53	0.42	55	0.4
ネットワーク情報学科	Sコース	FRE_フランス語	53	0.04	55	0.13
ネットワーク情報学科	Sコース	FUL_基礎法学	53	0.19	55	0.15
ネットワーク情報学科	Sコース	GDE_ジェンダー	53	0.04	55	
ネットワーク情報学科	Sコース	GGR_地理学一般	53	0.12	55	0.22
ネットワーク情報学科	Sコース	GIN_情報学一般	53	11.46	55	11.33
ネットワーク情報学科	Sコース	GPS_心理学一般	53	2.84	55	2.91
ネットワーク情報学科	Sコース	HSG_史学一般	53	0.38	55	0.84
ネットワーク情報学科	Sコース	HUI_人間情報学	53	1.21	55	1.13
ネットワーク情報学科	Sコース	ICT_情報通信技術	53	15.59	55	15.9
ネットワーク情報学科	Sコース	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	53	2.19	55	2.3
ネットワーク情報学科	Sコース	INS_情報システム	53	5.02	55	6.3
ネットワーク情報学科	Sコース	JPN_日本語	53	0.23	55	0.66
ネットワーク情報学科	Sコース	JRN_ジャーナリズム	53	0.46	55	0.11
ネットワーク情報学科	Sコース	LIG_文学一般	53	0.34	55	0.44
ネットワーク情報学科	Sコース	LOG_論理学	53	0.12	55	0.22
ネットワーク情報学科	Sコース	MAN_経営学	53	1.55	55	2.19
ネットワーク情報学科	Sコース	MAT_数理科学	53	14.8	55	10.7
ネットワーク情報学科	Sコース	MOF_金融・ファイナンス	53	0.31	55	0.4
ネットワーク情報学科	Sコース	NSC_自然科学一般	53	9.78	55	11.79
ネットワーク情報学科	Sコース	PHE_哲学一般	53	0.46	55	0.44
ネットワーク情報学科	Sコース	POL_政治学	53	0.12	55	0.11
ネットワーク情報学科	Sコース	PUL_公法学	53	0.57	55	0.48
ネットワーク情報学科	Sコース	SEM_ゼミナール	53	17.59	55	17.35
ネットワーク情報学科	Sコース	SOC_社会学	53	0.34	55	0.62
ネットワーク情報学科	Sコース	SOI_社会情報学	53	1.51	55	2.59
ネットワーク情報学科	Sコース	SPL_特殊講義	53	5.17	55	4.3
ネットワーク情報学科	Sコース	SPS_スポーツ科学	53	4.38	55	4.48
ネットワーク情報学科	Sコース	STS_統計科学	53	12.99	55	13.02
ネットワーク情報学科	Sコース	TCP_教職課程	53	7.5	55	1.93
ネットワーク情報学科	Sコース	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	53	1.21	55	2.11

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
心理学科	-	ACC_会計学	71	0.37	67	0.03
心理学科	-	ARL_芸術一般	71	0.46	67	0.66
心理学科	-	CHI_中国語	71	0.96	67	1.42
心理学科	-	CLP_臨床心理学	71	19	67	19.32
心理学科	-	CME_商学	71	0.06	67	0.09
心理学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	71	0.79	67	0.57
心理学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	71	0.29	67	0.75
心理学科	-	DEP_発達心理学	71	4.15	67	4.78
心理学科	-	ECT_理論経済学	71	0.03		
心理学科	-	EDP_教育心理学	71	1.13	67	1.32
心理学科	-	EDU_教育学	71	1.36	67	1.8
心理学科	-	ENG_英語一般	71	0.85	67	1.2
心理学科	-	EPE_経済学・政治経済学	71	0.77	67	0.96
心理学科	-	EPS_環境政策・環境社会システム	71	0.03	67	0.03
心理学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	71	2.09	67	1.9
心理学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	71	2.3	67	2.27
心理学科	-	ETH_倫理学	71	1.24	67	1.44
心理学科	-	EXP_実験心理学	71	26.03	67	27.29
心理学科	-	FRE_フランス語	71	0.79	67	0.75
心理学科	-	FUL_基礎法学	71	0.26	67	0.18
心理学科	-	GER_ドイツ語	71	0.46	67	0.27
心理学科	-	GGR_地理学一般	71	0.48	67	0.54
心理学科	-	GIN_情報学一般	71	6.82	67	6.24
心理学科	-	GPS_心理学一般	71	4	67	4
心理学科	-	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	71	0.03	67	0.03
心理学科	-	HOT_思想史	71	0.06	67	0.06
心理学科	-	HSG_史学一般	71	1.36	67	2.45
心理学科	-	HUG_人文地理学	71	0.06		
心理学科	-	HUP_人体病理学	71	1.33	67	1.29
心理学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	71	0.82	67	0.39
心理学科	-	IND_インドネシア語	71	0.08	67	0.06
心理学科	-	INR_国際関係論	71	0.03	67	0.03
心理学科	-	JPH_日本史	71	0.12	67	0.12
心理学科	-	JRN_ジャーナリズム	71	0.37	67	0.3
心理学科	-	KOR_コリア語	71	0.92	67	0.66
心理学科	-	LCP_司書課程	71	0.23	67	0.63
心理学科	-	LIE_英米・英語圏文学	71	0.12	67	0.06
心理学科	-	LIG_文学一般	71	1.24	67	2.51
心理学科	-	LOG_論理学	71	0.46	67	0.27
心理学科	-	MAN_経営学	71	0.88	67	0.3
心理学科	-	MAT_数理科学	71	0.57	67	0.21

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
心理学科	-	NSC_自然科学一般	71	2.93	67	2.45
心理学科	-	PHE_哲学一般	71	1.3	67	1.05
心理学科	-	PHG_自然地理学	71	0.06	67	0.03
心理学科	-	POL_政治学	71	0.29	67	0.24
心理学科	-	PSS_精神神経科学	71	1.13	67	2.3
心理学科	-	PUL_公法学	71	1.58	67	1.56
心理学科	-	REG_地誌学	71	0.12		
心理学科	-	RES_宗教学	71	0.06	67	0.06
心理学科	-	RUS_ロシア語	71	0.06		
心理学科	-	SEM_ゼミナール	71	14.09	67	13.92
心理学科	-	SNE_特別支援教育	71	1.13	67	0.99
心理学科	-	SOC_社会学	71	2.77	67	1.44
心理学科	-	SOP_社会心理学	71	4.46	67	5.53
心理学科	-	SPL_特殊講義	71	0.03		
心理学科	-	SPN_スペイン語	71	0.96	67	1.02
心理学科	-	SPS_スポーツ科学	71	3.61	67	2.99
心理学科	-	STS_統計科学	71	2.62	67	2.42
心理学科	-	TCP_教職課程	71	1.57	67	0.24
心理学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	71	8	67	8
心理学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	71	1.02	67	0.57
社会学科	-	ACC_会計学	130	0.02		
社会学科	-	ARL_芸術一般	130	1.37	101	1.55
社会学科	-	CHI_中国語	130	1.45	101	1.95
社会学科	-	CLP_臨床心理学	130	0.94	101	2.38
社会学科	-	CME_商学	130	0.3	101	0.06
社会学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	130	0.77	101	1.17
社会学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	130	2.67	101	2.64
社会学科	-	DEP_発達心理学	130	0.1	101	0.2
社会学科	-	ECT_理論経済学	130	0.31	101	0.84
社会学科	-	EDU_教育学	130	1.5	101	1.17
社会学科	-	ENG_英語一般	130	1.36	101	1.06
社会学科	-	EPE_経済学・政治経済学	130	9.42	101	6.28
社会学科	-	EPS_環境政策・環境社会システム	130	0.34	101	0.38
社会学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	130	2.07	101	2
社会学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	130	2.3	101	2.24
社会学科	-	ETH_倫理学	130	1.3	101	1.07
社会学科	-	EXP_実験心理学	130	0.3	101	0.34
社会学科	-	FAH_美術史	130	0.04	101	0.12
社会学科	-	FRE_フランス語	130	0.5	101	0.68
社会学科	-	FUL_基礎法学	130	0.53	101	0.24
社会学科	-	GER_ドイツ語	130	0.34	101	0.2

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
社会学科	-	GGR_地理学一般	130	0.53	101	0.46
社会学科	-	GIN_情報学一般	130	3.71	101	3.15
社会学科	-	GPS_心理学一般	130	3.3	101	2.6
社会学科	-	HAA_アジア史・アフリカ史	130	0.17	101	0.28
社会学科	-	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	130	0.25	101	0.22
社会学科	-	HSG_史学一般	130	1.87	101	4.74
社会学科	-	HUG_人文地理学	130	0.17	101	0.08
社会学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	130	1.34	101	0.48
社会学科	-	IND_インドネシア語	130	0.22	101	0.08
社会学科	-	INR_国際関係論	130	0.84	101	0.96
社会学科	-	JPH_日本史	130	0.97	101	0.88
社会学科	-	JRN_ジャーナリズム	130	1.17	101	1.57
社会学科	-	KOR_コリア語	130	0.87	101	0.71
社会学科	-	LCP_司書課程	130	0.45	101	1.03
社会学科	-	LIG_文学一般	130	2.2	101	2.38
社会学科	-	LOG_論理学	130	0.24	101	0.22
社会学科	-	MAN_経営学	130	0.17		
社会学科	-	MAT_数理科学	130	0.07	101	0.14
社会学科	-	MCP_学芸員課程	130	0.27	101	0.69
社会学科	-	NSC_自然科学一般	130	3.47	101	3.35
社会学科	-	OSS_海外語学研修など留学科目	130	0.02	101	0.02
社会学科	-	PHE_哲学一般	130	1.73	101	1.55
社会学科	-	PHG_自然地理学	130	0.14	101	0.06
社会学科	-	POL_政治学	130	1.08	101	0.86
社会学科	-	PSS_精神神経科学	130	0.02		
社会学科	-	PUL_公法学	130	2.13	101	1.09
社会学科	-	REG_地誌学	130	0.17	101	0.08
社会学科	-	RES_宗教学	130	1.02	101	1.13
社会学科	-	RUS_ロシア語	130	0.07	101	0.04
社会学科	-	SEM_ゼミナール	130	12.16	101	12.16
社会学科	-	SLP_学校司書	130	0.04	101	0.12
社会学科	-	SOC_社会学	130	44.45	101	45.03
社会学科	-	SOP_社会心理学	130	0.3	101	0.26
社会学科	-	SPN_スペイン語	130	0.77	101	0.78
社会学科	-	SPS_スポーツ科学	130	2.8	101	3.13
社会学科	-	STS_統計科学	130	3.59	101	3.63
社会学科	-	TCP_教職課程	130	1.98	101	0.78
社会学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	130	8	101	8
社会学科	-	TLP_司書教諭課程	130	0.07	101	0.18
社会学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	130	0.79	101	0.68
日本語学科	-	ACC_会計学	67	0.06		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
日本語学科	-	ARL_芸術一般	67	0.9		
日本語学科	-	ARS_地域研究	67	0.96		
日本語学科	-	CHI_中国語	67	1.63		
日本語学科	-	CHL_中国文学	67	1.29		
日本語学科	-	CME_商学	67	0.09		
日本語学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	67	0.99		
日本語学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	67	0.81		
日本語学科	-	EDT_教育工学	67	0.03		
日本語学科	-	EDU_教育学	67	1.26		
日本語学科	-	ENG_英語一般	67	1.29		
日本語学科	-	EPE_経済学・政治経済学	67	0.33		
日本語学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	67	2.27		
日本語学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	67	2.51		
日本語学科	-	ETH_倫理学	67	0.27		
日本語学科	-	FRE_フランス語	67	0.51		
日本語学科	-	FUL_基礎法学	67	0.33		
日本語学科	-	GER_ドイツ語	67	0.42		
日本語学科	-	GGR_地理学一般	67	0.12		
日本語学科	-	GIN_情報学一般	67	0.6		
日本語学科	-	GPS_心理学一般	67	2.48		
日本語学科	-	HSG_史学一般	67	0.78		
日本語学科	-	ICT_情報通信技術	67	0.03		
日本語学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	67	3.86		
日本語学科	-	IND_インドネシア語	67	0.18		
日本語学科	-	INR_国際関係論	67	0.36		
日本語学科	-	ITL_イタリア語	67	0.08		
日本語学科	-	JAC_日本文化	67	2		
日本語学科	-	JAL_日本文学	67	2.69		
日本語学科	-	JLE_日本語教育	67	8.54		
日本語学科	-	JLI_日本語学	67	48.08		
日本語学科	-	JPN_日本語	67	0.36		
日本語学科	-	JRN_ジャーナリズム	67	0.24		
日本語学科	-	KOR_コリア語	67	1.18		
日本語学科	-	LCP_司書課程	67	1.86		
日本語学科	-	LIN_言語学	67	1.2		
日本語学科	-	LOG_論理学	67	0.39		
日本語学科	-	MAN_経営学	67	0.33		
日本語学科	-	MAT_数理科学	67	0.06		
日本語学科	-	NSC_自然科学一般	67	3.14		
日本語学科	-	PHE_哲学一般	67	0.33		
日本語学科	-	POL_政治学	67	0.18		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻, コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
日本語学科	-	PUL_公法学	67	0.78		
日本語学科	-	RUS_ロシア語	67	0.17		
日本語学科	-	SEM_ゼミナール	67	16.48		
日本語学科	-	SLP_学校司書	67	0.12		
日本語学科	-	SOC_社会学	67	0.66		
日本語学科	-	SPN_スペイン語	67	0.84		
日本語学科	-	SPS_スポーツ科学	67	2.68		
日本語学科	-	TCP_教職課程	67	9.63		
日本語学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	67	8		
日本語学科	-	TLP_司書教諭課程	67	0.33		
日本語学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	67	4		
異文化コミュニケーション学科	-	ACC_会計学	140	0.13		
異文化コミュニケーション学科	-	ARA_アラビア語	140	0.01		
異文化コミュニケーション学科	-	ARL_芸術一般	140	6.88		
異文化コミュニケーション学科	-	ARS_地域研究	140	12.12		
異文化コミュニケーション学科	-	CHI_中国語	140	1.9		
異文化コミュニケーション学科	-	CME_商学	140	0.16		
異文化コミュニケーション学科	-	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	140	1.45		
異文化コミュニケーション学科	-	CUA_文化人類学・民俗学	140	5.58		
異文化コミュニケーション学科	-	EDU_教育学	140	0.9		
異文化コミュニケーション学科	-	ENG_英語一般	140	5.38		
異文化コミュニケーション学科	-	ENL_英語学	140	0.02		
異文化コミュニケーション学科	-	EPE_経済学・政治経済学	140	0.28		
異文化コミュニケーション学科	-	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	140	4.52		
異文化コミュニケーション学科	-	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	140	8.2		
異文化コミュニケーション学科	-	ETH_倫理学	140	0.59		
異文化コミュニケーション学科	-	FLE_外国語教育	140	0.4		
異文化コミュニケーション学科	-	FRE_フランス語	140	1.88		
異文化コミュニケーション学科	-	FUL_基礎法学	140	0.25		
異文化コミュニケーション学科	-	GER_ドイツ語	140	1.18		
異文化コミュニケーション学科	-	GGR_地理学一般	140	0.2		
異文化コミュニケーション学科	-	GIN_情報学一般	140	3.19		
異文化コミュニケーション学科	-	GPS_心理学一般	140	2.18		
異文化コミュニケーション学科	-	HSG_史学一般	140	0.56		
異文化コミュニケーション学科	-	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	140	2.06		
異文化コミュニケーション学科	-	IND_インドネシア語	140	0.03		
異文化コミュニケーション学科	-	INR_国際関係論	140	0.33		
異文化コミュニケーション学科	-	ITL_イタリア語	140	0.14		
異文化コミュニケーション学科	-	JAC_日本文化	140	2		
異文化コミュニケーション学科	-	JLE_日本語教育	140	0.03		
異文化コミュニケーション学科	-	JLI_日本語学	140	3.55		

【コース毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	専攻. コース名称	分野コードと名称	対象学生数【2023】	【2023】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）	対象学生【2022】	【2022】一人当たりの 平均修得単位数（ROUNDUP）
異文化コミュニケーション学科	-	JRN_ジャーナリズム	140	0.29		
異文化コミュニケーション学科	-	KOR_コリア語	140	2.7		
異文化コミュニケーション学科	-	LCP_司書課程	140	0.2		
異文化コミュニケーション学科	-	LIG_文学一般	140	0.2		
異文化コミュニケーション学科	-	LIN_言語学	140	2.75		
異文化コミュニケーション学科	-	LOG_論理学	140	0.09		
異文化コミュニケーション学科	-	MAN_経営学	140	0.13		
異文化コミュニケーション学科	-	MAT_数理科学	140	0.05		
異文化コミュニケーション学科	-	NSC_自然科学一般	140	2.6		
異文化コミュニケーション学科	-	OSS_海外語学研修など留学科目	140	15.58		
異文化コミュニケーション学科	-	PHE_哲学一般	140	0.22		
異文化コミュニケーション学科	-	POL_政治学	140	0.22		
異文化コミュニケーション学科	-	PUL_公法学	140	0.06		
異文化コミュニケーション学科	-	RUS_ロシア語	140	0.03		
異文化コミュニケーション学科	-	SEM_ゼミナール	140	10.25		
異文化コミュニケーション学科	-	SOC_社会学	140	1.05		
異文化コミュニケーション学科	-	SPL_特殊講義	140	1.05		
異文化コミュニケーション学科	-	SPN_スペイン語	140	4.34		
異文化コミュニケーション学科	-	SPS_スポーツ科学	140	2.5		
異文化コミュニケーション学科	-	STS_統計科学	140	1.96		
異文化コミュニケーション学科	-	THE_卒業論文・卒業研究	140	8		
異文化コミュニケーション学科	-	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	140	8.78		

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
経済学科	ACC_会計学			439	0.6	467	0.33
経済学科	ARC_考古学			439	0.03	467	
経済学科	ARL_芸術一般			439	0.08	467	0.01
経済学科	ARS_地域研究			439	0.16	467	0.37
経済学科	CHI_中国語			439	2.18	467	2.01
経済学科	CIL_民法法学			439	0.46	467	0.16
経済学科	CME_商学			439	0.03	467	0.09
経済学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）			439	1.89	467	1.96
経済学科	CUA_文化人類学・民俗学			439	0.96	467	0.99
経済学科	ECH_経済史			439	4.6	467	6.24
経済学科	ECP_経済政策			439	12.19	467	11.99
経済学科	ECS_経済統計			439	0.15	467	0.19
経済学科	ECT_理論経済学			439	9.83	467	7.42
経済学科	EDU_教育学			439	0.35	467	0.39
経済学科	ENG_英語一般			439	0.4	467	0.43
経済学科	EPE_経済学・政治経済学			439	41.86	467	42.57
経済学科	EPS_環境政策・環境社会システム			439	0.8	467	2.12
経済学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)			439	1.87	467	1.97
経済学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)			439	3.46	467	3.29
経済学科	ETH_倫理学			439	0.78	467	0.84
経済学科	FAH_美術史			439	0.03	467	
経済学科	FRE_フランス語			439	0.48	467	0.5
経済学科	FUL_基礎法学			439	0.12	467	0.21
経済学科	GDE_ジェンダー			439	0.03	467	0.11
経済学科	GER_ドイツ語			439	0.48	467	0.48
経済学科	GGR_地理学一般			439	0.42	467	0.3
経済学科	GIN_情報学一般			439	3.22	467	2.93
経済学科	GPS_心理学一般			439	1.73	467	1.46
経済学科	HOT_思想史			439	0.42	467	0.49
経済学科	HSG_史学一般			439	0.99	467	1.38
経済学科	HUG_人文地理学			439	0.05	467	0.21
経済学科	IDG_国際開発問題			439	0.32	467	0.03
経済学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）			439	0.33	467	0.45
経済学科	IEP_国際経済政策			439	0.32	467	0.36
経済学科	IND_インドネシア語			439	0.03	467	0.06
経済学科	JPH_日本史			439	0.06	467	0.16
経済学科	JPN_日本語			439	0.26	467	0.39
経済学科	JRN_ジャーナリズム			439	0.08	467	0.36
経済学科	KOR_コリア語			439	0.65	467	0.93
経済学科	LCP_司書課程			439	0.38	467	0.06
経済学科	LIG_文学一般			439	0.93	467	1.15
経済学科	LOG_論理学			439	0.35	467	0.12

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
経済学科	MAT_数理科学			439	0.13	467	0.14
経済学科	MCP_学芸員課程			439	0.1	467	
経済学科	MOF_金融・ファイナンス			439	3.26	467	1.53
経済学科	NSC_自然科学一般			439	4.69	467	5.77
経済学科	PFP_財政・公共経済			439	2.73	467	3.8
経済学科	PHE_哲学一般			439	0.95	467	1.21
経済学科	PHG_自然地理学			439	0.06	467	0.09
経済学科	POL_政治学			439	0.53	467	0.3
経済学科	PUL_公法学			439	0.49	467	0.39
経済学科	REG_地誌学			439	0.03	467	0.12
経済学科	RES_宗教学			439	0.09	467	0.06
経済学科	RUS_ロシア語			439	0.03	467	0.01
経済学科	SCS_社会科学一般			439	0.18	467	0.18
経済学科	SEM_ゼミナール			439	11.96	467	10.9
経済学科	SLP_学校司書			439	0.03	467	
経済学科	SOC_社会学			439	0.52	467	0.36
経済学科	SOI_社会情報学			439	0.02	467	
経済学科	SOL_社会法学			439	0.29	467	0.36
経済学科	SPL_特殊講義			439	0.78	467	1.05
経済学科	SPN_スペイン語			439	0.72	467	0.78
経済学科	SPS_スポーツ科学			439	2.45	467	2.66
経済学科	TCP_教職課程			439	0.35	467	1.27
経済学科	THE_卒業論文・卒業研究			439	4.8	467	4.12
経済学科	TLP_司書教諭課程			439	0.08	467	0.01
経済学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究			439	0.46	467	0.49
現代経済学科	ACC_会計学	232	1.79				
現代経済学科	ARC_考古学	232	0.02				
現代経済学科	ARL_芸術一般	232	0.16				
現代経済学科	ARS_地域研究	232	0.28				
現代経済学科	CHI_中国語	232	1.78				
現代経済学科	CIL_民事法学	232	0.69				
現代経済学科	CME_商学	232	0.42				
現代経済学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	232	1.92				
現代経済学科	CUA_文化人類学・民俗学	232	0.07				
現代経済学科	ECH_経済史	232	5.56				
現代経済学科	ECP_経済政策	232	19.41				
現代経済学科	ECS_経済統計	232	0.76				
現代経済学科	ECT_理論経済学	232	19.74				
現代経済学科	EDU_教育学	232	0.82				
現代経済学科	ENG_英語一般	232	0.42				
現代経済学科	EPE_経済学・政治経済学	232	8.25				
現代経済学科	EPS_環境政策・環境社会システム	232	1.40				
現代経済学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	232	1.98				
現代経済学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	232	3.33				

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
現代経済学科	ETH_倫理学	232	1.06				
現代経済学科	FRE_フランス語	232	0.55				
現代経済学科	FUL_基礎法学	232	0.40				
現代経済学科	GDE_ジェンダー	232	0.16				
現代経済学科	GER_ドイツ語	232	0.25				
現代経済学科	GGR_地理学一般	232	0.17				
現代経済学科	GIN_情報学一般	232	2.94				
現代経済学科	GPS_心理学一般	232	2.76				
現代経済学科	HSG_史学一般	232	1.54				
現代経済学科	ICT_情報通信技術	232	0.01				
現代経済学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	232	0.47				
現代経済学科	IEP_国際経済政策	232	3.38				
現代経済学科	JPH_日本史	232	0.13				
現代経済学科	JPN_日本語	232	0.47				
現代経済学科	JRN_ジャーナリズム	232	0.21				
現代経済学科	KOR_コリア語	232	0.81				
現代経済学科	LCP_司書課程	232	0.22				
現代経済学科	LIE_英米・英語圏文学	232	0.03				
現代経済学科	LIG_文学一般	232	1.06				
現代経済学科	LOG_論理学	232	0.24				
現代経済学科	MAN_経営学	232	1.01				
現代経済学科	MAT_数理科学	232	0.08				
現代経済学科	MOF_金融・ファイナンス	232	3.60				
現代経済学科	NSC_自然科学一般	232	4.04				
現代経済学科	PFP_財政・公共経済	232	2.30				
現代経済学科	PHE_哲学一般	232	0.72				
現代経済学科	POL_政治学	232	0.58				
現代経済学科	PUL_公法学	232	1.62				
現代経済学科	REG_地誌学	232	0.10				
現代経済学科	RES_宗教学	232	0.07				
現代経済学科	RUS_ロシア語	232	0.04				
現代経済学科	SEM_ゼミナール	232	10.80				
現代経済学科	SLP_学校司書	232	0.02				
現代経済学科	SOC_社会学	232	1.19				
現代経済学科	SOL_社会法学	232	0.34				
現代経済学科	SPL_特殊講義	232	1.93				
現代経済学科	SPN_スペイン語	232	1.23				
現代経済学科	SPS_スポーツ科学	232	2.94				
現代経済学科	STS_統計科学	232	5.04				
現代経済学科	TCP_教職課程	232	1.76				
現代経済学科	THE_卒業論文・卒業研究	232	4.16				
現代経済学科	TLP_司書教諭課程	232	0.03				
現代経済学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	232	0.57				
生活環境経済学科	ACC_会計学	240	0.29				

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
生活環境経済学科	ARL_芸術一般	240	0.10				
生活環境経済学科	ARS_地域研究	240	0.16				
生活環境経済学科	CHI_中国語	240	1.76				
生活環境経済学科	CIL_民法法学	240	1.54				
生活環境経済学科	CME_商学	240	0.28				
生活環境経済学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	240	1.96				
生活環境経済学科	CUA_文化人類学・民俗学	240	0.43				
生活環境経済学科	ECH_経済史	240	14.17				
生活環境経済学科	ECP_経済政策	240	7.33				
生活環境経済学科	ECT_理論経済学	240	4.55				
生活環境経済学科	EDU_教育学	240	0.91				
生活環境経済学科	ENG_英語一般	240	0.33				
生活環境経済学科	EPE_経済学・政治経済学	240	36.95				
生活環境経済学科	EPS_環境政策・環境社会システム	240	1.96				
生活環境経済学科	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	240	1.94				
生活環境経済学科	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	240	3.39				
生活環境経済学科	ETH_倫理学	240	0.73				
生活環境経済学科	FAH_美術史	240	0.02				
生活環境経済学科	FRE_フランス語	240	0.47				
生活環境経済学科	FUL_基礎法学	240	0.46				
生活環境経済学科	GER_ドイツ語	240	0.35				
生活環境経済学科	GGR_地理学一般	240	0.35				
生活環境経済学科	GIN_情報学一般	240	3.29				
生活環境経済学科	GPS_心理学一般	240	2.29				
生活環境経済学科	HSG_史学一般	240	1.50				
生活環境経済学科	IDG_国際開発問題	240	0.22				
生活環境経済学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	240	0.58				
生活環境経済学科	IEP_国際経済政策	240	0.15				
生活環境経済学科	IND_インドネシア語	240	0.21				
生活環境経済学科	ITL_イタリア語	240	0.02				
生活環境経済学科	JPH_日本史	240	0.12				
生活環境経済学科	JPN_日本語	240	0.62				
生活環境経済学科	JRN_ジャーナリズム	240	0.23				
生活環境経済学科	KOR_コリア語	240	0.80				
生活環境経済学科	LCP_司書課程	240	0.05				
生活環境経済学科	LIE_英米・英語圏文学	240	0.03				
生活環境経済学科	LIG_文学一般	240	1.01				
生活環境経済学科	LOG_論理学	240	0.23				
生活環境経済学科	MAN_経営学	240	0.58				
生活環境経済学科	MAT_数理科学	240	0.15				
生活環境経済学科	MCP_学芸員課程	240	0.03				
生活環境経済学科	MOF_金融・ファイナンス	240	1.50				
生活環境経済学科	NSC_自然科学一般	240	4.45				
生活環境経済学科	PFP_財政・公共経済	240	1.24				

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
生活環境経済学科	PHE_哲学一般	240	0.56				
生活環境経済学科	POL_政治学	240	0.79				
生活環境経済学科	PUL_公法学	240	2.20				
生活環境経済学科	REG_地誌学	240	0.09				
生活環境経済学科	RUS_ロシア語	240	0.04				
生活環境経済学科	SCS_社会科学一般	240	1.15				
生活環境経済学科	SEM_ゼミナール	240	10.82				
生活環境経済学科	SOC_社会学	240	1.24				
生活環境経済学科	SOL_社会法学	240	0.57				
生活環境経済学科	SPL_特殊講義	240	1.84				
生活環境経済学科	SPN_スペイン語	240	0.87				
生活環境経済学科	SPS_スポーツ科学	240	3.30				
生活環境経済学科	TCP_教職課程	240	0.96				
生活環境経済学科	THE_卒業論文・卒業研究	240	4.18				
生活環境経済学科	TLP_司書教諭課程	240	0.02				
生活環境経済学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	240	0.65				
国際経済学科	ACC_会計学	184	0.86	159	0.38	174	0.26
国際経済学科	ARL_芸術一般	184	0.27	159	0.03	174	0.12
国際経済学科	ARS_地域研究	184	7.42	159	7.64	174	9.46
国際経済学科	CHI_中国語	184	2.49	159	2.55	174	2.24
国際経済学科	CIL_民事法学	184	0.39	159	0.19	174	0.26
国際経済学科	CLP_臨床心理学	184	0.02	159		174	0.02
国際経済学科	CME_商学	184	0.44	159	0.09	174	0.13
国際経済学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	184	1.96	159	1.99	174	1.98
国際経済学科	CUA_文化人類学・民俗学	184	1.10	159	1.89	174	2.79
国際経済学科	ECH_経済史	184	6.99	159	3.74	174	4.28
国際経済学科	ECP_経済政策	184	9.02	159	9.06	174	7.84
国際経済学科	ECS_経済統計	184	1.94	159	1.48	174	1.66
国際経済学科	ECT_理論経済学	184	6.42	159	7.5	174	7.52
国際経済学科	EDU_教育学	184	1.11	159	0.33	174	0.58
国際経済学科	ENG_英語一般	184	4.09	159	4.41	174	5.36
国際経済学科	EPE_経済学・政治経済学	184	4.81	159	8	174	6.3
国際経済学科	EPS_環境政策・環境社会システム	184	0.85	159	1.11	174	1.26
国際経済学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	184	6.75	159	6.74	174	6.93
国際経済学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	184	6.27	159	6.38	174	6.86
国際経済学科	ETH_倫理学	184	0.84	159	0.62	174	0.94
国際経済学科	FRE_フランス語	184	0.60	159	0.59	174	0.67
国際経済学科	FUL_基礎法学	184	0.37	159	0.09	174	0.11
国際経済学科	GDE_ジェンダー	184	0.49	159	0.29	174	0.2
国際経済学科	GER_ドイツ語	184	0.52	159	0.7	174	0.87
国際経済学科	GGR_地理学一般	184	0.43	159	0.28	174	0.18
国際経済学科	GIN_情報学一般	184	2.84	159	2.97	174	2.96
国際経済学科	GPS_心理学一般	184	2.60	159	2	174	1.72
国際経済学科	HAA_アジア史・アフリカ史	184	0.02	159		174	0.03

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
国際経済学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	184	0.03	159	0.04	174	0.02
国際経済学科	HSG_史学一般	184	1.72	159	1.36	174	1.29
国際経済学科	HUG_人文地理学	184	0.19	159	0.06	174	0.06
国際経済学科	ICT_情報通信技術	184	0.02	159		174	
国際経済学科	IDG_国際開発問題	184	3.10	159	3.89	174	3.95
国際経済学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	184	0.74	159	0.66	174	0.86
国際経済学科	IEP_国際経済政策	184	13.04	159	12.51	174	12.57
国際経済学科	INR_国際関係論	184	2.18	159	3.78	174	2.67
国際経済学科	ITL_イタリア語	184	0.03	159	0.03	174	0.01
国際経済学科	JAC_日本文化	184	0.02	159		174	
国際経済学科	JPH_日本史	184	0.22	159	0.06	174	0.04
国際経済学科	JPN_日本語	184	0.54	159	0.46	174	0.35
国際経済学科	JRN_ジャーナリズム	184	0.32	159	0.12	174	0.1
国際経済学科	KOR_コリア語	184	1.35	159	1.56	174	1.88
国際経済学科	LIE_英米・英語圏文学	184	0.06	159	0.03	174	0.05
国際経済学科	LIG_文学一般	184	1.49	159	1.04	174	0.81
国際経済学科	LOG_論理学	184	0.11	159	0.03	174	0.12
国際経済学科	MAN_経営学	184	0.59	159		174	
国際経済学科	MAT_数理科学	184	0.15	159	0.08	174	0.28
国際経済学科	MCP_学芸員課程	184	0.04	159	0.29	174	
国際経済学科	MOF_金融・ファイナンス	184	0.56	159	1.02	174	0.38
国際経済学科	NSC_自然科学一般	184	3.89	159	4.28	174	4.8
国際経済学科	OSS_海外語学研修など留学科目	184	0.03	159	0.03	174	0.05
国際経済学科	PFP_財政・公共経済	184	0.46	159	0.61	174	0.46
国際経済学科	PHE_哲学一般	184	0.81	159	0.82	174	0.87
国際経済学科	PHG_自然地理学	184	0.16	159	0.02	174	0.06
国際経済学科	POL_政治学	184	0.61	159	0.41	174	0.25
国際経済学科	PUL_公法学	184	1.10	159	0.63	174	0.21
国際経済学科	REG_地誌学	184	0.19	159	0.03	174	0.03
国際経済学科	RES_宗教学	184	0.05	159		174	0.03
国際経済学科	RUS_ロシア語	184	0.16	159	0.16	174	0.03
国際経済学科	SCS_社会科学一般	184	0.11	159	0.06	174	0.02
国際経済学科	SEM_ゼミナール	184	10.78	159	12.11	174	10.28
国際経済学科	SOC_社会学	184	1.09	159	0.26	174	0.41
国際経済学科	SOL_社会法学	184	0.25	159	0.13	174	0.27
国際経済学科	SPL_特殊講義	184	1.16	159	0.85	174	1.49
国際経済学科	SPN_スペイン語	184	1.30	159	1.19	174	1.42
国際経済学科	SPS_スポーツ科学	184	3.35	159	3.09	174	2.91
国際経済学科	STS_統計科学	184	0.45	159		174	
国際経済学科	TCP_教職課程	184	1.64	159	0.14	174	0.34
国際経済学科	THE_卒業論文・卒業研究	184	4.14	159	4.95	174	3.96
国際経済学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	184	0.95	159	1.07	174	1.79
法律学科	ACC_会計学	507	1.22	506	0.12	549	0.06
法律学科	ARA_アラビア語	507	0.01	506	0.02	549	0.01

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
法律学科	ARL_芸術一般	507	0.09	506	0.42	549	0.17
法律学科	ARS_地域研究	507	0.41	506	0.44	549	0.48
法律学科	CHI_中国語	507	1.85	506	1.84	549	1.57
法律学科	CIL_民事法学	507	22.92	506	20.44	549	21.27
法律学科	CLP_臨床心理学	507	0.01	506	0.01	549	
法律学科	CME_商学	507	0.18	506	0.25	549	0.11
法律学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	507	2.03	506	1.91	549	1.95
法律学科	CRL_刑事法学	507	7.41	506	9.91	549	8.8
法律学科	CUA_文化人類学・民俗学	507	0.12	506	0.77	549	1.29
法律学科	ECP_経済政策	507	1.20	506	1.01	549	0.17
法律学科	ECT_理論経済学	507	1.92	506	2.06	549	1.66
法律学科	EDU_教育学	507	0.76	506	0.66	549	1.18
法律学科	ENG_英語一般	507	0.40	506	0.29	549	0.36
法律学科	EPE_経済学・政治経済学	507	0.74	506	3.18	549	3.52
法律学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	507	3.50	506	3.58	549	3.7
法律学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	507	3.58	506	3.67	549	3.75
法律学科	ETH_倫理学	507	0.56	506	0.56	549	0.22
法律学科	FAH_美術史	507	0.01	506		549	
法律学科	FRE_フランス語	507	0.38	506	0.5	549	0.63
法律学科	FUL_基礎法学	507	7.29	506	6.94	549	7.95
法律学科	GDE_ジェンダー	507	0.03	506	0.17	549	0.07
法律学科	GER_ドイツ語	507	0.80	506	0.69	549	0.67
法律学科	GGR_地理学一般	507	0.29	506	0.32	549	0.69
法律学科	GIN_情報学一般	507	3.18	506	2.85	549	2.77
法律学科	GPS_心理学一般	507	2.32	506	2.78	549	2.25
法律学科	HSG_史学一般	507	1.61	506	2.08	549	1.05
法律学科	HUG_人文地理学	507	0.11	506	0.15	549	0.1
法律学科	ICT_情報通信技術	507	0.01	506		549	
法律学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	507	0.61	506	0.52	549	0.8
法律学科	ILA_国際法学	507	3.46	506	4.48	549	4.18
法律学科	IND_インドネシア語	507	0.08	506		549	
法律学科	INR_国際関係論	507	1.34	506	2.01	549	1.99
法律学科	JPH_日本史	507	0.14	506	0.15	549	0.1
法律学科	JPN_日本語	507	0.05	506		549	0.07
法律学科	JRN_ジャーナリズム	507	0.24	506	0.18	549	0.69
法律学科	KOR_コリア語	507	0.77	506	1.08	549	0.9
法律学科	LCP_司書課程	507	0.01	506	0.26	549	0.06
法律学科	LIE_英米・英語圏文学	507	0.05	506	0.02	549	0.03
法律学科	LIG_文学一般	507	1.76	506	2.99	549	3.28
法律学科	LOG_論理学	507	0.16	506	0.09	549	0.04
法律学科	MAN_経営学	507	0.43	506	0.14	549	0.07
法律学科	MAT_数理科学	507	0.13	506	0.16	549	0.15
法律学科	MCP_学芸員課程	507	0.04	506		549	
法律学科	NFL_新領域法学	507	0.46	506	0.32	549	0.55

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
法律学科	NSC_自然科学一般	507	5.37	506	6.38	549	6.09
法律学科	OSS_海外語学研修など留学科目	507	0.02	506	0.02	549	0.03
法律学科	PFP_財政・公共経済	507	0.41	506	0.06	549	0.1
法律学科	PHE_哲学一般	507	0.34	506	0.11	549	0.11
法律学科	PHG_自然地理学	507	0.11	506	0.14	549	0.09
法律学科	POL_政治学	507	12.04	506	13.6	549	11.07
法律学科	PUL_公法学	507	14.45	506	9.79	549	11.03
法律学科	REG_地誌学	507	0.12	506	0.14	549	0.1
法律学科	RUS_ロシア語	507	0.12	506	0.1	549	0.15
法律学科	SEM_ゼミナール	507	10.91	506	10.88	549	11.57
法律学科	SOC_社会学	507	0.64	506	0.91	549	1.3
法律学科	SOL_社会法学	507	3.20	506	2.7	549	2.91
法律学科	SPL_特殊講義	507	0.50	506	0.46	549	0.29
法律学科	SPN_スペイン語	507	1.13	506	0.69	549	0.72
法律学科	SPS_スポーツ科学	507	2.70	506	2.6	549	3.59
法律学科	STS_統計科学	507	1.92	506	1.91	549	1.93
法律学科	SWP_SWP科目	507	0.24	506		549	
法律学科	TCP_教職課程	507	1.01	506	1.28	549	0.87
法律学科	TLP_司書教諭課程	507	0.02	506	0.04	549	0.01
法律学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	507	0.88	506	0.44	549	0.29
政治学科	ACC_会计学	139	0.85	144	0.15	126	0.04
政治学科	ARL_芸術一般	139	0.15	144	0.38	126	0.15
政治学科	ARS_地域研究	139	3.08	144	2.53	126	2.69
政治学科	CHI_中国語	139	1.70	144	1.71	126	1.43
政治学科	CIL_民事法学	139	5.37	144	3.42	126	2.77
政治学科	CME_商学	139	0.15	144	0.38	126	0.02
政治学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	139	2.05	144	1.87	126	1.91
政治学科	CRL_刑事法学	139	2.05	144	0.62	126	0.89
政治学科	CUA_文化人類学・民俗学	139	0.09	144	0.85	126	0.86
政治学科	ECP_経済政策	139	1.77	144	1.71	126	0.72
政治学科	ECT_理論経済学	139	1.56	144	1.82	126	1.26
政治学科	EDU_教育学	139	0.72	144	0.81	126	0.89
政治学科	ENG_英語一般	139	0.46	144	0.31	126	0.35
政治学科	EPE_経済学・政治経済学	139	1.34	144	2.89	126	2.94
政治学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	139	3.78	144	3.67	126	3.62
政治学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	139	3.85	144	3.83	126	3.74
政治学科	ETH_倫理学	139	0.78	144	0.38	126	0.37
政治学科	FRE_フランス語	139	0.24	144	0.91	126	0.83
政治学科	FUL_基礎法学	139	6.24	144	5.35	126	5.23
政治学科	GDE_ジェンダー	139	0.28	144	0.62	126	0.62
政治学科	GER_ドイツ語	139	0.55	144	0.53	126	0.81
政治学科	GGR_地理学一般	139	0.38	144	0.23	126	1.1
政治学科	GIN_情報学一般	139	2.88	144	2.84	126	2.83
政治学科	GPS_心理学一般	139	2.11	144	2.05	126	2.39

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
政治学科	HOT_思想史	139	0.06	144	0.14	126	0.12
政治学科	HSG_史学一般	139	1.57	144	1.45	126	1.51
政治学科	HUG_人文地理学	139	0.25	144	0.19	126	0.29
政治学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	139	0.48	144	0.57	126	0.66
政治学科	ILA_国際法学	139	4.94	144	2.99	126	3.53
政治学科	IND_インドネシア語	139	0.41	144		126	
政治学科	INR_国際関係論	139	9.85	144	9.8	126	9.69
政治学科	JPH_日本史	139	0.28	144	0.23	126	0.29
政治学科	JRN_ジャーナリズム	139	0.44	144	0.71	126	1.27
政治学科	KOR_コリア語	139	0.70	144	0.62	126	0.77
政治学科	LCP_司書課程	139	0.52	144	0.13	126	
政治学科	LIE_英米・英語圏文学	139	0.03	144	0.11	126	0.02
政治学科	LIG_文学一般	139	1.50	144	3.46	126	3
政治学科	LOG_論理学	139	0.12	144	0.19	126	0.07
政治学科	MAN_経営学	139	0.74	144	0.06	126	
政治学科	NFL_新領域法学	139	0.03	144	0.37	126	0.07
政治学科	NSC_自然科学一般	139	4.88	144	5.99	126	6.85
政治学科	OSS_海外語学研修など留学科目	139	0.03	144		126	0.02
政治学科	PFP_財政・公共経済	139	0.09	144	0.03	126	0.07
政治学科	PHE_哲学一般	139	0.29	144	0.09	126	0.05
政治学科	PHG_自然地理学	139	0.24	144	0.21	126	0.26
政治学科	POL_政治学	139	30.91	144	29.85	126	29.24
政治学科	PUL_公法学	139	8.22	144	7.35	126	8.34
政治学科	REG_地誌学	139	0.22	144	0.19	126	0.29
政治学科	RES_宗教学	139	0.02	144		126	
政治学科	RUS_ロシア語	139	0.18	144	0.14	126	0.19
政治学科	SEM_ゼミナール	139	12.91	144	17.74	126	18.27
政治学科	SLP_学校司書	139	0.06	144		126	
政治学科	SOC_社会学	139	0.75	144	1.21	126	1.67
政治学科	SOL_社会法学	139	2.13	144	1.31	126	1.13
政治学科	SPL_特殊講義	139	0.36	144	0.66	126	0.74
政治学科	SPN_スペイン語	139	1.13	144	0.87	126	1.02
政治学科	SPS_スポーツ科学	139	2.47	144	2.87	126	3.02
政治学科	STS_統計科学	139	1.92	144	1.96	126	1.96
政治学科	SWP_SWP科目	139	0.19	144		126	
政治学科	TCP_教職課程	139	2.16	144	1.58	126	2.81
政治学科	TLP_司書教諭課程	139	0.09	144		126	
政治学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	139	0.26	144	0.42	126	0.24
経営学科	ACC_会计学	341	6.76	338	8.05	480	7.73
経営学科	ARL_芸術一般	341	0.25	338	0.03	480	0.03
経営学科	CHI_中国語	341	0.12	338	0.05	480	0.13
経営学科	CIL_民事法学	341	0.47	338	0.61	480	
経営学科	CME_商学	341	17.79	338	19.11	480	21.4
経営学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	341	2.38	338	2.11	480	2.05

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
経営学科	CUA_文化人類学・民俗学	341	0.19	338	0.35	480	0.62
経営学科	ECT_理論経済学	341	1.54	338	1.32	480	1.63
経営学科	EDU_教育学	341	0.63	338	0.49	480	0.28
経営学科	ENG_英語一般	341	0.74	338	0.74	480	0.78
経営学科	ENL_英語学	341	0.01	338	0.02	480	
経営学科	EPE_経済学・政治経済学	341	9.47	338	8.67	480	11.24
経営学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	341	3.97	338	4.22	480	4.06
経営学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	341	4.01	338	3.88	480	3.89
経営学科	ETH_倫理学	341	0.94	338	0.8	480	0.6
経営学科	FLE_外国語教育	341	0.02	338		480	
経営学科	FRE_フランス語	341	0.04	338	0.02	480	0.03
経営学科	FUL_基礎法学	341	0.18	338	0.15	480	0.07
経営学科	GGR_地理学一般	341	0.29	338	0.35	480	0.51
経営学科	GPS_心理学一般	341	2.31	338	2.4	480	2.32
経営学科	HOT_思想史	341	0.01	338		480	
経営学科	HSG_史学一般	341	1.45	338	1.73	480	0.73
経営学科	HUG_人文地理学	341	0.02	338		480	
経営学科	ICT_情報通信技術	341	5.64	338	5.91	480	5.62
経営学科	IDS_融合領域科目 (学際・新領域科目、テーマ科目)	341	1.41	338	0.74	480	1.25
経営学科	IND_インドネシア語	341	0.02	338		480	
経営学科	INS_情報システム	341	3.88	338	4.53	480	3.81
経営学科	JPH_日本史	341	0.07	338	0.08	480	0.03
経営学科	JPN_日本語	341	0.18	338	0.16	480	0.14
経営学科	JRN_ジャーナリズム	341	0.20	338	0.05	480	0.16
経営学科	KOR_コリア語	341	0.11	338	0.05	480	0.23
経営学科	LCP_司書課程	341	0.09	338	0.26	480	0.01
経営学科	LIE_英米・英語圏文学	341	0.04	338	0.03	480	0.01
経営学科	LIG_文学一般	341	0.79	338	0.93	480	0.31
経営学科	LOG_論理学	341	0.31	338	0.4	480	0.1
経営学科	MAN_経営学	341	21.71	338	21.28	480	21.15
経営学科	MAT_数理科学	341	0.22	338	0.51	480	0.33
経営学科	MNI_経営情報学	341	0.83	338	1.45	480	1.07
経営学科	NSC_自然科学一般	341	6.47	338	7.08	480	7.9
経営学科	PHE_哲学一般	341	1.01	338	1	480	0.87
経営学科	POL_政治学	341	0.30	338	0.23	480	0.13
経営学科	PUL_公法学	341	0.18	338	0.21	480	0.17
経営学科	REG_地誌学	341	0.05	338	0.04	480	0.03
経営学科	RES_宗教学	341	0.03	338	0.03	480	
経営学科	SEM_ゼミナール	341	12.93	338	12.51	480	10.52
経営学科	SLP_学校司書	341	0.02	338	0.02	480	
経営学科	SOC_社会学	341	0.81	338	0.82	480	0.35
経営学科	SOL_社会法学	341	2.01	338	1.22	480	0.41
経営学科	SPL_特殊講義	341	1.58	338	1.09	480	3.98
経営学科	SPN_スペイン語	341	0.05	338	0.03	480	0.05

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
経営学科	SPS_スポーツ科学	341	3.69	338	3.71	480	3.92
経営学科	SSE_社会システム工学	341	0.19	338	0.25	480	0.13
経営学科	STS_統計科学	341	2.35	338	2.37	480	2.1
経営学科	SWP_SWP科目	341	4.80	338	4.75	480	3.05
経営学科	TCP_教職課程	341	0.85	338	1.05	480	0.55
経営学科	THE_卒業論文・卒業研究	341	2.10	338	1.96	480	2.35
経営学科	TLP_司書教諭課程	341	0.02	338	0.03	480	
経営学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	341	0.99	338	0.84	480	1.81
ビジネスデザイン学科	ACC_会計学	162	6.34	155	6.96		
ビジネスデザイン学科	ARL_芸術一般	162	0.07	155	0.02		
ビジネスデザイン学科	CHI_中国語	162	0.09	155	0.28		
ビジネスデザイン学科	CIL_民法法学	162	0.46	155	0.83		
ビジネスデザイン学科	CME_商学	162	20.97	155	21.93		
ビジネスデザイン学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	162	2.10	155	2.02		
ビジネスデザイン学科	CUA_文化人類学・民俗学	162	0.26	155	0.46		
ビジネスデザイン学科	ECT_理論経済学	162	1.66	155	1.63		
ビジネスデザイン学科	EDU_教育学	162	0.94	155	0.8		
ビジネスデザイン学科	ENG_英語一般	162	0.80	155	0.52		
ビジネスデザイン学科	EPE_経済学・政治経済学	162	9.17	155	8.19		
ビジネスデザイン学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	162	3.93	155	4.08		
ビジネスデザイン学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	162	4.17	155	4.2		
ビジネスデザイン学科	ETH_倫理学	162	0.86	155	0.99		
ビジネスデザイン学科	FRE_フランス語	162	0.09	155	0.03		
ビジネスデザイン学科	FUL_基礎法学	162	0.05	155	0.03		
ビジネスデザイン学科	GGR_地理学一般	162	0.19	155	0.62		
ビジネスデザイン学科	GPS_心理学一般	162	2.44	155	2.42		
ビジネスデザイン学科	HSG_史学一般	162	1.25	155	1.23		
ビジネスデザイン学科	ICT_情報通信技術	162	5.26	155	5.35		
ビジネスデザイン学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	162	1.72	155	1.62		
ビジネスデザイン学科	IND_インドネシア語	162	0.04	155			
ビジネスデザイン学科	INS_情報システム	162	2.78	155	3.46		
ビジネスデザイン学科	JAC_日本文化	162	0.02	155			
ビジネスデザイン学科	JPN_日本語	162	0.18	155			
ビジネスデザイン学科	JRN_ジャーナリズム	162	0.55	155	0.07		
ビジネスデザイン学科	KOR_コリア語	162	0.15	155	0.27		
ビジネスデザイン学科	LIE_英米・英語圏文学	162	0.02	155	0.03		
ビジネスデザイン学科	LIG_文学一般	162	0.83	155	1.2		
ビジネスデザイン学科	LOG_論理学	162	0.08	155	0.17		
ビジネスデザイン学科	MAN_経営学	162	24.33	155	24.84		
ビジネスデザイン学科	MAT_数理科学	162	0.41	155	0.17		
ビジネスデザイン学科	MNI_経営情報学	162	0.73	155	0.57		
ビジネスデザイン学科	NSC_自然科学一般	162	5.92	155	6.97		
ビジネスデザイン学科	OSS_海外語学研修など留学科目	162	0.03	155			
ビジネスデザイン学科	PHE_哲学一般	162	0.83	155	0.95		

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
ビジネスデザイン学科	POL_政治学	162	0.49	155	0.26		
ビジネスデザイン学科	PUL_公法学	162	0.13	155	0.13		
ビジネスデザイン学科	SEM_ゼミナール	162	14.12	155	14.11		
ビジネスデザイン学科	SOC_社会学	162	1.05	155	0.93		
ビジネスデザイン学科	SOI_社会情報学	162	0.02	155			
ビジネスデザイン学科	SOL_社会法学	162	0.86	155	0.7		
ビジネスデザイン学科	SOP_社会心理学	162	0.03	155			
ビジネスデザイン学科	SPL_特殊講義	162	2.29	155	1.55		
ビジネスデザイン学科	SPS_スポーツ科学	162	3.52	155	2.88		
ビジネスデザイン学科	SSE_社会システム工学	162	0.25	155	0.11		
ビジネスデザイン学科	STS_統計科学	162	2.25	155	2.19		
ビジネスデザイン学科	THE_卒業論文・卒業研究	162	2.52	155	2.22		
ビジネスデザイン学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	162	1.51	155	0.82		
マーケティング学科	ACC_会計学	394	6.95	421	5.62	427	5.2
マーケティング学科	ARL_芸術一般	394	0.41	421	0.31	427	0.06
マーケティング学科	CHI_中国語	394	0.24	421	0.13	427	0.07
マーケティング学科	CIL_民事法学	394	1.69	421	0.64	427	0.45
マーケティング学科	CME_商学	394	30.36	421	37.46	427	37.51
マーケティング学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	394	2.45	421	1.97	427	1.97
マーケティング学科	CUA_文化人類学・民俗学	394	0.13	421	0.1	427	0.18
マーケティング学科	ECH_経済史	394	0.27	421	0.2	427	0.24
マーケティング学科	ECP_経済政策	394	6.34	421	7.11	427	6.17
マーケティング学科	ECT_理論経済学	394	6.75	421	5.97	427	5.29
マーケティング学科	EDU_教育学	394	1.17	421	0.82	427	0.58
マーケティング学科	ENG_英語一般	394	1.47	421	1.35	427	1.33
マーケティング学科	EPS_環境政策・環境社会システム	394	0.04	421	0.09	427	0.06
マーケティング学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	394	4.09	421	3.93	427	3.78
マーケティング学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	394	2.26	421	2.17	427	2.02
マーケティング学科	ETH_倫理学	394	0.64	421	0.54	427	0.67
マーケティング学科	FRE_フランス語	394	0.06	421	0.05	427	0.01
マーケティング学科	FUL_基礎法学	394	0.51	421	0.38	427	0.17
マーケティング学科	GER_ドイツ語	394	0.03	421	0.01	427	0.01
マーケティング学科	GGR_地理学一般	394	0.37	421	0.38	427	0.91
マーケティング学科	GIN_情報学一般	394	6.87	421	6.15	427	6.09
マーケティング学科	GPS_心理学一般	394	2.92	421	2.78	427	2.33
マーケティング学科	HSG_史学一般	394	1.46	421	1.64	427	1.96
マーケティング学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	394	1.34	421	1.61	427	1.66
マーケティング学科	IND_インドネシア語	394	0.12	421		427	
マーケティング学科	INS_情報システム	394	0.46	421	0.17	427	0.2
マーケティング学科	JPH_日本史	394	0.06	421	0.07	427	0.07
マーケティング学科	JPN_日本語	394	0.16	421	0.26	427	0.43
マーケティング学科	JRN_ジャーナリズム	394	0.39	421	0.08	427	0.16
マーケティング学科	KOR_コリア語	394	0.46	421	0.11	427	0.05
マーケティング学科	LCP_司書課程	394	0.50	421	0.08	427	0.07

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
マーケティング学科	LIE_英米・英語圏文学	394	0.07	421	0.09	427	
マーケティング学科	LIG_文学一般	394	1.49	421	0.23	427	0.32
マーケティング学科	LOG_論理学	394	0.22	421	0.22	427	0.1
マーケティング学科	MAN_経営学	394	8.25	421	10.07	427	10.1
マーケティング学科	MAT_数理科学	394	0.24	421	0.09	427	0.22
マーケティング学科	MNI_経営情報学	394	0.53	421	0.29	427	0.2
マーケティング学科	MOF_金融・ファイナンス	394	7.06	421	8.02	427	8.41
マーケティング学科	NFL_新領域法学	394	0.02	421		427	
マーケティング学科	NSC_自然科学一般	394	6.27	421	6.58	427	7.35
マーケティング学科	OSS_海外語学研修など留学科目	394	0.22	421	0.38	427	0.06
マーケティング学科	PHE_哲学一般	394	0.28	421	0.77	427	0.9
マーケティング学科	POI_計算基盤	394	3.93	421	3.89	427	3.91
マーケティング学科	POL_政治学	394	0.32	421	0.21	427	0.25
マーケティング学科	PUL_公法学	394	0.88	421	0.46	427	0.53
マーケティング学科	REG_地誌学	394	0.05	421	0.05	427	0.06
マーケティング学科	SEM_ゼミナール	394	8.94	421	7.82	427	7.23
マーケティング学科	SOC_社会学	394	1.04	421	1.07	427	0.72
マーケティング学科	SOI_社会情報学	394	0.14	421	0.09	427	0.08
マーケティング学科	SOL_社会法学	394	0.16	421		427	
マーケティング学科	SPL_特殊講義	394	0.16	421	0.11	427	0.1
マーケティング学科	SPN_スペイン語	394	0.09	421	0.1	427	0.02
マーケティング学科	SPS_スポーツ科学	394	2.69	421	3.42	427	3.71
マーケティング学科	STS_統計科学	394	1.89	421	1.35	427	0.52
マーケティング学科	SWP_SWP科目	394	1.70	421	2	427	1.67
マーケティング学科	TCP_教職課程	394	0.48	421	0.85	427	0.82
マーケティング学科	TLP_司書教諭課程	394	0.12	421	0.05	427	0.04
マーケティング学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	394	0.73	421	1.03	427	2.14
会計学科	ACC_会計学	196	48.90	191	50.5	209	50.87
会計学科	ARL_芸術一般	196	0.19	191	0.22	209	0.02
会計学科	CHI_中国語	196	0.19	191	0.15	209	0.23
会計学科	CIL_民事法学	196	5.32	191	5.59	209	4.93
会計学科	CME_商学	196	10.57	191	6.6	209	7.21
会計学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	196	2.16	191	1.96	209	2.02
会計学科	CUA_文化人類学・民俗学	196	0.04	191	0.04	209	0.08
会計学科	ECH_経済史	196	0.04	191		209	
会計学科	ECP_経済政策	196	1.85	191	2.66	209	2.35
会計学科	ECT_理論経済学	196	2.50	191	4.34	209	3.63
会計学科	EDU_教育学	196	0.58	191	0.41	209	0.7
会計学科	ENG_英語一般	196	0.41	191	0.96	209	0.68
会計学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	196	4.01	191	4	209	3.86
会計学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	196	2.03	191	2.36	209	2.11
会計学科	ETH_倫理学	196	0.54	191	0.19	209	0.32
会計学科	FAH_美術史	196	0.03	191		209	
会計学科	FRE_フランス語	196	0.07	191	0.09	209	0.06

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
会計学科	FUL_基礎法学	196	0.24	191	0.3	209	0.19
会計学科	GGR_地理学一般	196	0.20	191	0.16	209	0.68
会計学科	GIN_情報学一般	196	4.88	191	4.17	209	4.02
会計学科	GPS_心理学一般	196	2.66	191	2.11	209	2.26
会計学科	HSG_史学一般	196	1.16	191	1.35	209	1.21
会計学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	196	0.89	191	1.59	209	1.06
会計学科	ILA_国際法学	196	0.03	191		209	
会計学科	INS_情報システム	196	0.30	191	0.13	209	0.06
会計学科	JPH_日本史	196	0.03	191		209	0.02
会計学科	JRN_ジャーナリズム	196	0.08	191	0.12	209	0.09
会計学科	KOR_コリア語	196	0.13	191	0.16	209	0.13
会計学科	LCP_司書課程	196	0.02	191	0.15	209	
会計学科	LIE_英米・英語圏文学	196	0.04	191	0.02	209	
会計学科	LIG_文学一般	196	1.50	191	0.21	209	0.23
会計学科	LOG_論理学	196	0.44	191	0.27	209	0.31
会計学科	MAN_経営学	196	3.78	191	3	209	3.53
会計学科	MAT_数理科学	196	0.54	191	0.46	209	0.24
会計学科	MCP_学芸員課程	196	0.09	191		209	
会計学科	MNI_経営情報学	196	0.11	191	0.1	209	0.08
会計学科	MOF_金融・ファイナンス	196	4.03	191	5.2	209	4.27
会計学科	NFL_新領域法学	196	0.03	191		209	
会計学科	NSC_自然科学一般	196	6.02	191	7.52	209	7.66
会計学科	PHE_哲学一般	196	0.37	191	0.51	209	0.8
会計学科	POI_計算基盤	196	1.92	191	1.82	209	1.81
会計学科	POL_政治学	196	0.21	191	0.12	209	0.16
会計学科	PUL_公法学	196	2.93	191	3.08	209	3.76
会計学科	SEM_ゼミナール	196	9.90	191	8.6	209	8.08
会計学科	SOC_社会学	196	0.90	191	0.72	209	0.32
会計学科	SOI_社会情報学	196	0.05	191		209	
会計学科	SOL_社会法学	196	0.04	191		209	
会計学科	SPL_特殊講義	196	0.15	191	0.37	209	0.22
会計学科	SPS_スポーツ科学	196	2.85	191	3.1	209	3.29
会計学科	STS_統計科学	196	0.87	191	1.16	209	0.52
会計学科	TCP_教職課程	196	0.47	191		209	0.53
会計学科	TLP_司書教諭課程	196	0.06	191	0.02	209	
会計学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	196	0.33	191	0.92	209	1.23
日本語学科	ACC_会計学	67		64	0.13	75	
日本語学科	ARC_考古学	67		64	0.07	75	0.06
日本語学科	ARL_芸術一般	67		64	3.88	75	3.26
日本語学科	ARS_地域研究	67		64	0.16	75	0.11
日本語学科	CAS_文化財科学・博物館学	67		64	0.04	75	
日本語学科	CHI_中国語	67		64	1.52	75	1.46
日本語学科	CHL_中国文学	67		64	0.79	75	0.88
日本語学科	CLP_臨床心理学	67		64	0.1	75	#N/A

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
日本語学科	CME_商学	67		64	0.04	75	
日本語学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	67		64	0.29	75	0.06
日本語学科	CUA_文化人類学・民俗学	67		64	0.29	75	1.36
日本語学科	EDU_教育学	67		64	1.19	75	1.47
日本語学科	ENG_英語一般	67		64	0.74	75	1.1
日本語学科	ENL_英語学	67		64	0.25	75	0.11
日本語学科	EPE_経済学・政治経済学	67		64	0.25	75	0.16
日本語学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	67		64	1.99	75	2.07
日本語学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	67		64	1.71	75	2.18
日本語学科	ETH_倫理学	67		64	0.72	75	0.54
日本語学科	FAH_美術史	67		64	0.04	75	0.08
日本語学科	FRE_フランス語	67		64	0.3	75	0.4
日本語学科	FUL_基礎法学	67		64	0.04	75	
日本語学科	GER_ドイツ語	67		64	0.29	75	0.64
日本語学科	GGR_地理学一般	67		64	0.16	75	0.08
日本語学科	GIN_情報学一般	67		64	2.1	75	1.87
日本語学科	GPS_心理学一般	67		64	2.54	75	2.54
日本語学科	HAA_アジア史・アフリカ史	67		64	0.54	75	0.19
日本語学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	67		64	0.5	75	0.11
日本語学科	HMN_人文学一般	67		64	0.04	75	0.03
日本語学科	HOT_思想史	67		64	0.63	75	1.36
日本語学科	HSG_史学一般	67		64	1.79	75	0.91
日本語学科	HUG_人文地理学	67		64	0.22	75	0.24
日本語学科	ICT_情報通信技術	67		64	0.29	75	
日本語学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	67		64	0.82	75	0.38
日本語学科	IND_インドネシア語	67		64	0.13	75	0.11
日本語学科	JAC_日本文化	67		64	2.66	75	3.2
日本語学科	JAL_日本文学	67		64	3.22	75	4.48
日本語学科	JLE_日本語教育	67		64	8.19	75	10.24
日本語学科	JLI_日本語学	67		64	35.13	75	34.64
日本語学科	JPH_日本史	67		64	0.69	75	0.67
日本語学科	JPN_日本語	67		64	1.68	75	1.44
日本語学科	JRN_ジャーナリズム	67		64	1.79	75	0.8
日本語学科	KOR_コリア語	67		64	0.93	75	0.95
日本語学科	LAT_ラテン語	67		64	0.07	75	
日本語学科	LCP_司書課程	67		64	0.75	75	2.3
日本語学科	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	67		64	0.13	75	0.06
日本語学科	LIE_英米・英語圏文学	67		64	0.1	75	0.24
日本語学科	LIG_文学一般	67		64	2.75	75	3.76
日本語学科	LIN_言語学	67		64	10.6	75	8.56
日本語学科	LOG_論理学	67		64	0.35	75	0.24
日本語学科	MAN_経営学	67		64	0.35	75	0.03
日本語学科	MAT_数理科学	67		64	0.25	75	0.06
日本語学科	MCP_学芸員課程	67		64	0.27	75	0.46

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
日本語学科	NSC_自然科学一般	67		64	1.79	75	1.31
日本語学科	PHE_哲学一般	67		64	1.13	75	1.15
日本語学科	PHG_自然地理学	67		64	0.04	75	0.11
日本語学科	POL_政治学	67		64	0.19	75	0.11
日本語学科	PUL_公法学	67		64	0.94	75	0.7
日本語学科	RES_宗教学	67		64	0.1	75	0.08
日本語学科	RUS_ロシア語	67		64	0.13	75	0.06
日本語学科	SEM_ゼミナール	67		64	16.75	75	16.78
日本語学科	SLP_学校司書	67		64	0.07	75	0.16
日本語学科	SOC_社会学	67		64	1.41	75	1.04
日本語学科	SOI_社会情報学	67		64	0.47	75	
日本語学科	SPN_スペイン語	67		64	0.72	75	0.9
日本語学科	SPS_スポーツ科学	67		64	3.44	75	3.28
日本語学科	TCP_教職課程	67		64	8.29	75	9.16
日本語学科	THE_卒業論文・卒業研究	67		64	8	75	8
日本語学科	TLP_司書教諭課程	67		64	0.29	75	0.78
日本語学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	67		64	1.79	75	1.15
日本文学文化学科	ACC_会計学	111	0.10	101	0.02	116	
日本文学文化学科	ARC_考古学	111	0.10	101	0.04	116	0.06
日本文学文化学科	ARL_芸術一般	111	7.64	101	8.02	116	9.76
日本文学文化学科	ARS_地域研究	111	0.08	101	0.04	116	0.45
日本文学文化学科	ASA_美学・芸術諸学	111	0.17	101	0.04	116	0.47
日本文学文化学科	CAS_文化財科学・博物館学	111	0.02	101		116	0.02
日本文学文化学科	CHI_中国語	111	1.69	101	2.16	116	1.44
日本文学文化学科	CHL_中国文学	111	5.12	101	3.87	116	4.13
日本文学文化学科	CLP_臨床心理学	111	0.02	101	0.08	116	
日本文学文化学科	CME_商学	111	0.10	101	0.04	116	0.07
日本文学文化学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	111	0.55	101	0.34	116	0.28
日本文学文化学科	CUA_文化人類学・民俗学	111	0.53	101	0.64	116	1.45
日本文学文化学科	EDU_教育学	111	0.96	101	0.68	116	0.87
日本文学文化学科	ENG_英語一般	111	0.55	101	0.72	116	0.51
日本文学文化学科	ENL_英語学	111	0.10	101	0.16	116	
日本文学文化学科	EPE_経済学・政治経済学	111	0.29	101	0.24	116	0.38
日本文学文化学科	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	111	2.05	101	1.92	116	1.92
日本文学文化学科	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	111	2.07	101	1.96	116	1.93
日本文学文化学科	ETH_倫理学	111	1.25	101	1.23	116	1.28
日本文学文化学科	FAH_美術史	111	0.40	101	0.36	116	0.56
日本文学文化学科	FRE_フランス語	111	0.52	101	0.4	116	0.52
日本文学文化学科	FUL_基礎法学	111	0.04	101	0.02	116	0.09
日本文学文化学科	GER_ドイツ語	111	0.62	101	0.5	116	0.5
日本文学文化学科	GGR_地理学一般	111	0.04	101	0.06	116	0.07
日本文学文化学科	GIN_情報学一般	111	2.24	101	2.08	116	1.88
日本文学文化学科	GPS_心理学一般	111	2.38	101	2.4	116	2.21
日本文学文化学科	GRK_ギリシャ語	111	0.04	101	0.02	116	0.04

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
日本文学文化学科	HAA_アジア史・アフリカ史	111	0.15	101	0.3	116	0.28
日本文学文化学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	111	0.26	101	0.34	116	0.23
日本文学文化学科	HMN_人文学一般	111	0.06	101	0.12	116	0.02
日本文学文化学科	HOT_思想史	111	0.94	101	0.86	116	1.56
日本文学文化学科	HSG_史学一般	111	1.48	101	1.97	116	1.37
日本文学文化学科	HUG_人文地理学	111	0.10	101	0.08	116	0.07
日本文学文化学科	ICT_情報通信技術	111	0.67	101	0.78	116	
日本文学文化学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	111	0.91	101	0.8	116	0.68
日本文学文化学科	IND_インドネシア語	111	0.08	101		116	0.19
日本文学文化学科	JAC_日本文化	111	24.15	101	24.78	116	23.37
日本文学文化学科	JAL_日本文学	111	23.81	101	22.78	116	22.82
日本文学文化学科	JLI_日本語学	111	0.85	101	1.69	116	2.23
日本文学文化学科	JPH_日本史	111	0.82	101	0.98	116	0.52
日本文学文化学科	JPN_日本語	111	0.11	101	0.49	116	0.93
日本文学文化学科	JRN_ジャーナリズム	111	2.37	101	1.93	116	1.45
日本文学文化学科	KOR_コリア語	111	0.52	101	0.82	116	1.13
日本文学文化学科	LCP_司書課程	111	4.82	101	4.88	116	5.9
日本文学文化学科	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	111	0.33	101	0.22	116	0.16
日本文学文化学科	LIE_英米・英語圏文学	111	0.67	101	0.68	116	0.64
日本文学文化学科	LIG_文学一般	111	4.31	101	4.86	116	4.8
日本文学文化学科	LIN_言語学	111	0.17	101	0.4	116	0.45
日本文学文化学科	LOG_論理学	111	0.31	101	0.52	116	0.18
日本文学文化学科	MAN_経営学	111	0.13	101	0.14	116	0.14
日本文学文化学科	MAT_数理科学	111	0.08	101	0.06	116	0.09
日本文学文化学科	MCP_学芸員課程	111	0.96	101	0.72	116	0.51
日本文学文化学科	NSC_自然科学一般	111	0.96	101	1.41	116	0.97
日本文学文化学科	PHE_哲学一般	111	1.59	101	1.55	116	1.28
日本文学文化学科	PHG_自然地理学	111	0.04	101	0.08	116	0.09
日本文学文化学科	POL_政治学	111	0.08	101	0.12	116	0.13
日本文学文化学科	PUL_公法学	111	0.67	101	0.44	116	0.54
日本文学文化学科	RES_宗教学	111	0.31	101	0.18	116	0.13
日本文学文化学科	RUS_ロシア語	111	0.10	101	0.16	116	0.09
日本文学文化学科	SEM_ゼミナール	111	14.22	101	14.12	116	14.14
日本文学文化学科	SLP_学校司書	111	0.37	101	0.22	116	0.37
日本文学文化学科	SOC_社会学	111	1.72	101	1.59	116	1.73
日本文学文化学科	SOI_社会情報学	111	1.00	101	1.13	116	
日本文学文化学科	SPN_スペイン語	111	0.74	101	0.26	116	0.65
日本文学文化学科	SPS_スポーツ科学	111	2.46	101	2.38	116	2.5
日本文学文化学科	STS_統計科学	111	0.26	101	0.08	116	0.07
日本文学文化学科	TCP_教職課程	111	6.84	101	2.96	116	5.63
日本文学文化学科	THE_卒業論文・卒業研究	111	8.00	101	8	116	8
日本文学文化学科	TLP_司書教諭課程	111	1.07	101	0.62	116	0.97
日本文学文化学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	111	1.10	101	1.35	116	1.23
英語英米文学科	ACC_会計学	132	0.21	121	0.1	124	

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
英語英米文学科	ARA_アラビア語	132	0.02	121	0.03	124	
英語英米文学科	ARL_芸術一般	132	7.88	121	8.7	124	3.59
英語英米文学科	ARS_地域研究	132	1.36	121	1.69	124	2.2
英語英米文学科	CHI_中国語	132	1.47	121	1.2	124	1.31
英語英米文学科	CHL_中国文学	132	0.05	121	0.03	124	0.04
英語英米文学科	CME_商学	132	0.20	121		124	
英語英米文学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	132	0.88	121	0.2	124	0.1
英語英米文学科	CUA_文化人類学・民俗学	132	0.50	121	0.57	124	1.92
英語英米文学科	EDU_教育学	132	1.06	121	0.8	124	0.89
英語英米文学科	ENG_英語一般	132	17.08	121	16.45	124	18.96
英語英米文学科	ENL_英語学	132	5.92	121	5.58	124	5.7
英語英米文学科	EPE_経済学・政治経済学	132	0.73	121	0.25	124	0.2
英語英米文学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	132	9.78	121	9.46	124	8.58
英語英米文学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	132	12.09	121	12.6	124	12.55
英語英米文学科	ETH_倫理学	132	0.23	121	0.52	124	1.36
英語英米文学科	FLE_外国語教育	132	0.61	121	0.39	124	0.5
英語英米文学科	FRE_フランス語	132	0.92	121	0.86	124	0.39
英語英米文学科	FUL_基礎法学	132	0.12	121	0.05	124	
英語英米文学科	GER_ドイツ語	132	0.21	121	0.53	124	0.5
英語英米文学科	GGR_地理学一般	132	0.08	121	0.62	124	0.17
英語英米文学科	GIN_情報学一般	132	2.53	121	1.87	124	2.21
英語英米文学科	GPS_心理学一般	132	0.80	121	2.62	124	2.09
英語英米文学科	GRK_ギリシャ語	132	0.03	121	0.05	124	
英語英米文学科	HAA_アジア史・アフリカ史	132	0.07	121	0.22	124	0.18
英語英米文学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	132	2.11	121	2.83	124	2.76
英語英米文学科	HMN_人文学一般	132	0.95	121	1.92	124	0.75
英語英米文学科	HOT_思想史	132	0.29	121	0.37	124	0.97
英語英米文学科	HSG_史学一般	132	1.32	121	1.89	124	1.75
英語英米文学科	HUG_人文地理学	132	0.07	121	0.09	124	0.12
英語英米文学科	ICT_情報通信技術	132	0.30	121	0.37	124	
英語英米文学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	132	1.71	121	1.59	124	0.73
英語英米文学科	IND_インドネシア語	132	0.11	121	0.16	124	0.13
英語英米文学科	JAC_日本文化	132	0.28	121	1.76	124	0.89
英語英米文学科	JAL_日本文学	132	0.35	121	0.65	124	0.3
英語英米文学科	JPH_日本史	132	0.17	121	0.3	124	0.12
英語英米文学科	JRN_ジャーナリズム	132	1.32	121	2	124	1.09
英語英米文学科	KOR_コリア語	132	1.00	121	1.01	124	0.81
英語英米文学科	LAT_ラテン語	132	0.13	121	0.16	124	
英語英米文学科	LCP_司書課程	132	1.43	121	0.32	124	0.26
英語英米文学科	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	132	0.08	121	0.15	124	0.04
英語英米文学科	LIE_英米・英語圏文学	132	12.23	121	11.58	124	13.71
英語英米文学科	LIG_文学一般	132	2.14	121	2.32	124	2.94
英語英米文学科	LIN_言語学	132	4.67	121	5.62	124	5.59
英語英米文学科	LOG_論理学	132	0.21	121	0.3	124	0.04

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
英語英米文学科	MAN_経営学	132	0.20	121	0.42	124	0.15
英語英米文学科	MAT_数理科学	132	0.03	121		124	0.02
英語英米文学科	NSC_自然科学一般	132	1.53	121	1.05	124	2.79
英語英米文学科	OSS_海外語学研修など留学科目	132	0.41	121		124	0.65
英語英米文学科	PHE_哲学一般	132	0.98	121	1.1	124	1.13
英語英米文学科	PHG_自然地理学	132	0.11	121	0.03	124	0.1
英語英米文学科	POL_政治学	132	0.08	121	0.11	124	0.09
英語英米文学科	PUL_公法学	132	0.55	121	0.35	124	0.42
英語英米文学科	RES_宗教学	132	0.15	121	0.15	124	1.26
英語英米文学科	RUS_ロシア語	132	0.25	121	0.03	124	
英語英米文学科	SEM_ゼミナール	132	12.30	121	12.24	124	12.2
英語英米文学科	SOC_社会学	132	1.17	121	0.85	124	0.5
英語英米文学科	SOI_社会情報学	132	0.33	121	0.42	124	0.02
英語英米文学科	SPL_特殊講義	132	0.06	121	0.04	124	0.09
英語英米文学科	SPN_スペイン語	132	1.10	121	1.15	124	1.71
英語英米文学科	SPS_スポーツ科学	132	0.92	121	3.36	124	3.42
英語英米文学科	STS_統計科学	132	0.23	121	0.07	124	
英語英米文学科	TCP_教職課程	132	3.61	121	3.16	124	4.7
英語英米文学科	THE_卒業論文・卒業研究	132	4.00	121	4	124	4
英語英米文学科	TLP_司書教諭課程	132	0.12	121	0.4	124	0.07
英語英米文学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	132	1.45	121	1.39	124	1.54
哲学科	ACC_会計学	62	0.04	68		59	
哲学科	ARC_考古学	62	0.23	68	0.12	59	0.21
哲学科	ARL_芸術一般	62	9.30	68	10.12	59	11.26
哲学科	ARS_地域研究	62	0.04	68	0.09	59	0.72
哲学科	CAS_文化財科学・博物館学	62	0.07	68		59	
哲学科	CHI_中国語	62	1.18	68	1.24	59	1.36
哲学科	CHL_中国文学	62	0.07	68	0.39	59	0.14
哲学科	CLP_臨床心理学	62	0.07	68		59	0.07
哲学科	CME_商学	62	0.13	68		59	
哲学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	62	0.33	68	0.27	59	0.24
哲学科	CUA_文化人類学・民俗学	62	0.17	68	0.65	59	2.07
哲学科	DES_デザイン学	62	0.04	68		59	
哲学科	EDU_教育学	62	1.36	68	0.36	59	0.58
哲学科	ENG_英語一般	62	0.47	68	0.55	59	0.53
哲学科	ENL_英語学	62	0.75	68	0.42	59	
哲学科	EPE_経済学・政治経済学	62	0.84	68	0.86	59	0.31
哲学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	62	1.76	68	1.84	59	2.04
哲学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	62	1.84	68	1.92	59	2.06
哲学科	ETH_倫理学	62	5.00	68	4.53	59	4.17
哲学科	FRE_フランス語	62	0.59	68	0.89	59	0.9
哲学科	FUL_基礎法学	62	0.75	68	0.56	59	0.48
哲学科	GER_ドイツ語	62	1.26	68	1	59	0.75
哲学科	GGR_地理学一般	62	0.46	68	0.18	59	0.24

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
哲学科	GIN_情報学一般	62	1.23	68	1	59	1.19
哲学科	GPS_心理学一般	62	2.88	68	2.5	59	1.9
哲学科	GRK_ギリシャ語	62	0.71	68	0.5	59	0.31
哲学科	HAA_アジア史・アフリカ史	62	0.88	68	0.45	59	0.38
哲学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	62	0.39	68	0.39	59	0.38
哲学科	HMN_人文学一般	62	0.04	68	0.06	59	
哲学科	HOT_思想史	62	16.46	68	17	59	17.46
哲学科	HSG_史学一般	62	2.36	68	2.3	59	2.68
哲学科	HUG_人文地理学	62	0.39	68	0.56	59	0.21
哲学科	ICT_情報通信技術	62	0.55	68	0.48	59	
哲学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	62	1.00	68	0.71	59	1.09
哲学科	ITL_イタリア語	62	0.07	68		59	
哲学科	JAC_日本文化	62	1.91	68	2.5	59	2.48
哲学科	JAL_日本文学	62	1.00	68	1.86	59	1.73
哲学科	JPH_日本史	62	1.39	68	1.33	59	0.99
哲学科	JPN_日本語	62	0.78	68	0.93	59	
哲学科	JRN_ジャーナリズム	62	3.26	68	1.74	59	2.07
哲学科	KOR_コリア語	62	0.25	68	0.45	59	0.48
哲学科	LAT_ラテン語	62	0.84	68	0.42	59	0.31
哲学科	LCP_司書課程	62	2.17	68	1.36	59	2.31
哲学科	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	62	0.20	68	0.12	59	0.07
哲学科	LIE_英米・英語圏文学	62	0.55	68	0.53	59	0.45
哲学科	LIG_文学一般	62	1.71	68	2.36	59	3.16
哲学科	LIN_言語学	62	0.30	68	1	59	0.34
哲学科	LOG_論理学	62	0.84	68	0.95	59	0.78
哲学科	MAN_経営学	62	0.17	68	0.18	59	0.34
哲学科	MAT_数理科学	62	0.10	68	0.03	59	0.04
哲学科	NSC_自然科学一般	62	1.78	68	1.92	59	2.56
哲学科	PHE_哲学一般	62	17.62	68	18.71	59	20.04
哲学科	PHG_自然地理学	62	0.20	68	0.5	59	0.31
哲学科	POL_政治学	62	0.52	68	0.56	59	0.11
哲学科	PUL_公法学	62	1.88	68	1	59	0.85
哲学科	REG_地誌学	62	0.49	68	0.24	59	0.34
哲学科	RES_宗教学	62	2.20	68	2.53	59	2.62
哲学科	RUS_ロシア語	62	0.33	68	0.23	59	0.31
哲学科	SEM_ゼミナール	62	16.39	68	16.65	59	16.55
哲学科	SLP_学校司書	62	0.07	68	0.06	59	0.21
哲学科	SOC_社会学	62	5.00	68	4.36	59	4.72
哲学科	SOI_社会情報学	62	1.00	68	0.77	59	0.04
哲学科	SPN_スペイン語	62	0.62	68	0.67	59	0.65
哲学科	SPS_スポーツ科学	62	3.84	68	3.5	59	3.26
哲学科	STS_統計科学	62	0.13	68		59	0.14
哲学科	TCP_教職課程	62	3.71	68	3.62	59	2.73
哲学科	THE_卒業論文・卒業研究	62	8.00	68	8	59	8

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
哲学科	TLP_司書教諭課程	62	0.33	68	0.27	59	0.58
哲学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	62	1.07	68	1.03	59	0.62
歴史学科	ACC_会計学	117	0.23	104	0.08	105	
歴史学科	ARC_考古学	117	4.26	104	6.41	105	4.69
歴史学科	ARL_芸術一般	117	1.85	104	2.27	105	2.21
歴史学科	ARS_地域研究	117	0.11	104	0.06	105	1.38
歴史学科	CAS_文化財科学・博物館学	117	0.07	104	0.08	105	0.06
歴史学科	CHI_中国語	117	1.65	104	1.48	105	1.3
歴史学科	CHL_中国文学	117	0.26	104	0.24	105	0.1
歴史学科	CME_商学	117	0.04	104	0.02	105	
歴史学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	117	0.45	104	0.24	105	0.21
歴史学科	CUA_文化人類学・民俗学	117	0.48	104	0.58	105	1.59
歴史学科	EDU_教育学	117	1.05	104	0.74	105	0.71
歴史学科	ENG_英語一般	117	0.39	104	0.46	105	0.79
歴史学科	ENL_英語学	117	0.09	104	0.18	105	0.08
歴史学科	EPE_経済学・政治経済学	117	0.72	104	0.52	105	0.33
歴史学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	117	2.06	104	2	105	2.03
歴史学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	117	2.01	104	2.13	105	2.16
歴史学科	ETH_倫理学	117	0.77	104	0.72	105	0.79
歴史学科	FAH_美術史	117	0.26	104	0.31	105	0.14
歴史学科	FRE_フランス語	117	0.56	104	0.84	105	0.58
歴史学科	FUL_基礎法学	117	1.05	104	0.91	105	1.03
歴史学科	GER_ドイツ語	117	0.59	104	1.16	105	0.93
歴史学科	GGR_地理学一般	117	1.32	104	0.91	105	0.75
歴史学科	GIN_情報学一般	117	2.26	104	1.87	105	2.33
歴史学科	GPS_心理学一般	117	1.44	104	2.02	105	1.6
歴史学科	GRK_ギリシャ語	117	0.04	104		105	0.04
歴史学科	HAA_アジア史・アフリカ史	117	11.95	104	12.77	105	13.32
歴史学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	117	9.36	104	7.31	105	6.21
歴史学科	HMN_人文学一般	117	0.07	104	0.06	105	0.04
歴史学科	HOT_思想史	117	1.42	104	1.6	105	1.19
歴史学科	HSG_史学一般	117	20.81	104	19.87	105	23.85
歴史学科	HUG_人文地理学	117	1.15	104	1.49	105	0.86
歴史学科	ICT_情報通信技術	117	0.28	104	0.33	105	
歴史学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	117	0.30	104	0.58	105	0.48
歴史学科	IND_インドネシア語	117	0.07	104	0.08	105	0.08
歴史学科	INS_情報システム	117	0.02	104		105	
歴史学科	ITL_イタリア語	117	0.02	104	0.01	105	
歴史学科	JAC_日本文化	117	1.20	104	1.79	105	2.04
歴史学科	JAL_日本文学	117	0.69	104	1.16	105	1.32
歴史学科	JPH_日本史	117	16.06	104	15.31	105	14
歴史学科	JPN_日本語	117	0.28	104	0.12	105	
歴史学科	JRN_ジャーナリズム	117	1.85	104	1.43	105	0.92
歴史学科	KOR_コリア語	117	0.56	104	0.38	105	0.77

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
歴史学科	LCP_司書課程	117	2.69	104	2.31	105	0.37
歴史学科	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	117	0.09	104	0.18	105	0.02
歴史学科	LIE_英米・英語圏文学	117	0.24	104	0.49	105	0.29
歴史学科	LIG_文学一般	117	2.00	104	2.25	105	1.85
歴史学科	LIN_言語学	117	0.14	104	0.35	105	0.16
歴史学科	LOG_論理学	117	0.21	104	0.22	105	0.12
歴史学科	MAN_経営学	117	0.24	104	0.39	105	0.12
歴史学科	MCP_学芸員課程	117	3.68	104	3.21	105	2.63
歴史学科	NSC_自然科学一般	117	1.41	104	1.66	105	1.36
歴史学科	PHE_哲学一般	117	1.00	104	1.62	105	1.51
歴史学科	PHG_自然地理学	117	0.91	104	0.87	105	0.96
歴史学科	POL_政治学	117	0.48	104	0.6	105	0.33
歴史学科	PUL_公法学	117	1.27	104	1.04	105	0.71
歴史学科	REG_地誌学	117	0.88	104	0.79	105	0.75
歴史学科	RES_宗教学	117	0.50	104	0.56	105	0.52
歴史学科	RUS_ロシア語	117	0.11	104	0.2	105	0.12
歴史学科	SEM_ゼミナール	117	16.11	104	16.04	105	16.04
歴史学科	SLP_学校司書	117	0.11	104	0.12	105	
歴史学科	SOC_社会学	117	2.24	104	1.56	105	2.37
歴史学科	SOI_社会情報学	117	0.40	104	0.31	105	0.04
歴史学科	SPN_スペイン語	117	0.67	104	0.74	105	0.92
歴史学科	SPS_スポーツ科学	117	3.20	104	3	105	2.82
歴史学科	STS_統計科学	117	0.14	104	0.04	105	0.02
歴史学科	TCP_教職課程	117	7.19	104	7	105	7.22
歴史学科	THE_卒業論文・卒業研究	117	8.00	104	8	105	8
歴史学科	TLP_司書教諭課程	117	0.52	104	0.33	105	0.1
歴史学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	117	1.30	104	1.47	105	1.3
環境地理学科	ARC_考古学	50	0.16	42	0.05	57	
環境地理学科	ARL_芸術一般	50	0.76	42	1.15	57	1.23
環境地理学科	ARS_地域研究	50	6.88	42	6.2	57	8.22
環境地理学科	CAS_文化財科学・博物館学	50	0.04	42		57	
環境地理学科	CHI_中国語	50	1.68	42	1.89	57	1.44
環境地理学科	CHL_中国文学	50	0.04	42		57	
環境地理学科	CME_商学	50	0.12	42		57	
環境地理学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	50	0.56	42	0.39	57	0.36
環境地理学科	CUA_文化人類学・民俗学	50	0.44	42	0.77	57	1.72
環境地理学科	EDU_教育学	50	1.04	42	1	57	0.92
環境地理学科	ENG_英語一般	50	0.34	42	0.86	57	0.53
環境地理学科	ENL_英語学	50	0.04	42	0.05	57	0.11
環境地理学科	EPE_経済学・政治経済学	50	1.40	42	0.72	57	0.29
環境地理学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	50	2.12	42	1.98	57	1.95
環境地理学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	50	2.04	42	2.31	57	2.15
環境地理学科	ETH_倫理学	50	1.00	42	0.91	57	0.95
環境地理学科	FAH_美術史	50	0.24	42		57	0.08

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
環境地理学科	FRE_フランス語	50	0.34	42	0.22	57	0.78
環境地理学科	FUL_基礎法学	50	0.64	42	0.62	57	0.6
環境地理学科	GER_ドイツ語	50	0.56	42	0.34	57	0.43
環境地理学科	GGR_地理学一般	50	12.52	42	12.58	57	14.08
環境地理学科	GIN_情報学一般	50	3.12	42	3.1	57	2.81
環境地理学科	GPS_心理学一般	50	2.60	42	2.2	57	1.41
環境地理学科	HAA_アジア史・アフリカ史	50	0.28	42	0.1	57	0.11
環境地理学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	50	0.28	42		57	0.11
環境地理学科	HOT_思想史	50	0.16	42	0.15	57	0.6
環境地理学科	HSG_史学一般	50	2.88	42	3.24	57	2.04
環境地理学科	HUG_人文地理学	50	20.64	42	19.67	57	21.09
環境地理学科	ICT_情報通信技術	50	0.12	42		57	
環境地理学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	50	0.84	42	0.81	57	0.74
環境地理学科	IND_インドネシア語	50	0.24	42	0.1	57	0.15
環境地理学科	JAC_日本文化	50	0.40	42	0.62	57	0.78
環境地理学科	JAL_日本文学	50	0.24	42	0.1	57	0.43
環境地理学科	JPH_日本史	50	1.00	42	1.29	57	1.2
環境地理学科	JPN_日本語	50	0.24	42		57	
環境地理学科	JRN_ジャーナリズム	50	1.44	42	0.58	57	0.67
環境地理学科	KOR_コリア語	50	0.48	42	0.91	57	0.65
環境地理学科	LCP_司書課程	50	0.32	42	0.05	57	0.04
環境地理学科	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	50	0.04	42	0.05	57	
環境地理学科	LIE_英米・英語圏文学	50	0.08	42	0.05	57	0.04
環境地理学科	LIG_文学一般	50	1.20	42	1.29	57	1.13
環境地理学科	LIN_言語学	50	0.16	42	0.1	57	0.04
環境地理学科	LOG_論理学	50	0.32	42	0.2	57	0.04
環境地理学科	MAN_経営学	50	0.16	42	0.34	57	0.36
環境地理学科	MAT_数理科学	50	0.24	42	0.1	57	
環境地理学科	MCP_学芸員課程	50	1.02	42	0.41	57	0.34
環境地理学科	NSC_自然科学一般	50	3.32	42	4.1	57	3.72
環境地理学科	PHE_哲学一般	50	1.20	42	0.72	57	0.99
環境地理学科	PHG_自然地理学	50	13.12	42	15.43	57	14.36
環境地理学科	POL_政治学	50	0.56	42	0.29	57	0.15
環境地理学科	PUL_公法学	50	0.84	42	0.58	57	0.43
環境地理学科	REG_地誌学	50	2.12	42	2.58	57	2.5
環境地理学科	RES_宗教学	50	0.36	42	0.29	57	0.18
環境地理学科	RUS_ロシア語	50	0.20	42	0.1	57	0.39
環境地理学科	SEM_ゼミナール	50	12.08	42	12.1	57	12.32
環境地理学科	SIS_空間情報科学	50	10.28	42	11.15	57	10.11
環境地理学科	SOC_社会学	50	1.52	42	1.39	57	1.9
環境地理学科	SOI_社会情報学	50	0.36	42	0.29	57	0.11
環境地理学科	SPL_特殊講義	50	0.04	42		57	
環境地理学科	SPN_スペイン語	50	0.58	42	1.34	57	0.78
環境地理学科	SPS_スポーツ科学	50	3.04	42	2.77	57	4.08

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
環境地理学科	STS_統計科学	50	0.68	42		57	0.39
環境地理学科	TCP_教職課程	50	4.86	42	5.24	57	5.02
環境地理学科	THE_卒業論文・卒業研究	50	8.00	42	8	57	8
環境地理学科	TLP_司書教諭課程	50	0.08	42	0.24	57	
環境地理学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	50	0.96	42	1.24	57	0.53
ジャーナリズム学科	ACC_会計学	116	0.09	117	0.02		
ジャーナリズム学科	ARC_考古学	116	0.13	117	0.06		
ジャーナリズム学科	ARL_芸術一般	116	2.85	117	3.65		
ジャーナリズム学科	ARS_地域研究	116	0.09	117	0.09		
ジャーナリズム学科	CAS_文化財科学・博物館学	116	0.14	117	0.23		
ジャーナリズム学科	CHI_中国語	116	1.32	117	1.41		
ジャーナリズム学科	CHL_中国文学	116	0.04	117	0.04		
ジャーナリズム学科	CME_商学	116	0.07	117			
ジャーナリズム学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	116	0.80	117	0.48		
ジャーナリズム学科	CUA_文化人類学・民俗学	116	0.64	117	0.47		
ジャーナリズム学科	EDU_教育学	116	0.87	117	0.55		
ジャーナリズム学科	ENG_英語一般	116	0.65	117	0.57		
ジャーナリズム学科	ENL_英語学	116	0.14	117	0.07		
ジャーナリズム学科	EPE_経済学・政治経済学	116	0.63	117	0.31		
ジャーナリズム学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	116	1.86	117	1.8		
ジャーナリズム学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	116	1.95	117	2.04		
ジャーナリズム学科	ETH_倫理学	116	1.19	117	1.29		
ジャーナリズム学科	FLE_外国語教育	116	0.06	117			
ジャーナリズム学科	FRE_フランス語	116	0.26	117	0.58		
ジャーナリズム学科	FUL_基礎法学	116	0.14	117	0.28		
ジャーナリズム学科	GER_ドイツ語	116	0.54	117	0.34		
ジャーナリズム学科	GGR_地理学一般	116	0.06	117	0.09		
ジャーナリズム学科	GIN_情報学一般	116	0.14	117	0.07		
ジャーナリズム学科	GPS_心理学一般	116	2.30	117	2.02		
ジャーナリズム学科	HAA_アジア史・アフリカ史	116	0.07	117	0.19		
ジャーナリズム学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	116	0.23	117	0.28		
ジャーナリズム学科	HMN_人文学一般	116	0.04	117	0.04		
ジャーナリズム学科	HOT_思想史	116	0.16	117	0.21		
ジャーナリズム学科	HSG_史学一般	116	1.54	117	1.46		
ジャーナリズム学科	HUG_人文地理学	116	0.25	117	0.12		
ジャーナリズム学科	ICT_情報通信技術	116	3.61	117	4.26		
ジャーナリズム学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	116	0.59	117	0.5		
ジャーナリズム学科	IND_インドネシア語	116	0.18	117			
ジャーナリズム学科	ITL_イタリア語	116	0.01	117			
ジャーナリズム学科	JAC_日本文化	116	1.90	117	2.77		
ジャーナリズム学科	JAL_日本文学	116	0.25	117	0.38		
ジャーナリズム学科	JPH_日本史	116	0.18	117	0.12		
ジャーナリズム学科	JPN_日本語	116	0.73	117	0.53		
ジャーナリズム学科	JRN_ジャーナリズム	116	45.32	117	46.23		

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
ジャーナリズム学科	KOR_コリア語	116	0.71	117	1.35		
ジャーナリズム学科	LCP_司書課程	116	1.13	117	1.44		
ジャーナリズム学科	LHS_図書館情報学・人文社会情報学	116	2.99	117	3.29		
ジャーナリズム学科	LIG_文学一般	116	2.07	117	2.4		
ジャーナリズム学科	LIN_言語学	116	0.16	117	0.3		
ジャーナリズム学科	LOG_論理学	116	0.14	117	0.11		
ジャーナリズム学科	MAN_経営学	116	0.33	117	0.55		
ジャーナリズム学科	MCP_学芸員課程	116	0.15	117	0.59		
ジャーナリズム学科	NSC_自然科学一般	116	4.25	117	3.83		
ジャーナリズム学科	PHE_哲学一般	116	1.25	117	0.79		
ジャーナリズム学科	POL_政治学	116	0.26	117	0.35		
ジャーナリズム学科	PUL_公法学	116	0.23	117	0.24		
ジャーナリズム学科	RES_宗教学	116	0.18	117	0.16		
ジャーナリズム学科	SEM_ゼミナール	116	10.11	117	10.24		
ジャーナリズム学科	SLP_学校司書	116	0.07	117	0.07		
ジャーナリズム学科	SOC_社会学	116	1.35	117	1.03		
ジャーナリズム学科	SOI_社会情報学	116	7.80	117	7.17		
ジャーナリズム学科	SPN_スペイン語	116	1.01	117	0.59		
ジャーナリズム学科	SPS_スポーツ科学	116	14.11	117	12.98		
ジャーナリズム学科	STS_統計科学	116	2.00	117	2		
ジャーナリズム学科	THE_卒業論文・卒業研究	116	6.00	117	6		
ジャーナリズム学科	TLP_司書教諭課程	116	0.11	117	0.19		
ジャーナリズム学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	116	0.78	117	0.62		
人文・ジャーナリズム学科	ARA_アラビア語					106	0.03
人文・ジャーナリズム学科	ARC_考古学					106	0.12
人文・ジャーナリズム学科	ARL_芸術一般					106	4.42
人文・ジャーナリズム学科	ARS_地域研究					106	6.53
人文・ジャーナリズム学科	CAS_文化財科学・博物館学					106	0.08
人文・ジャーナリズム学科	CHI_中国語					106	1.26
人文・ジャーナリズム学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）					106	0.34
人文・ジャーナリズム学科	CUA_文化人類学・民俗学					106	4.14
人文・ジャーナリズム学科	ECT_理論経済学					106	0.38
人文・ジャーナリズム学科	EDU_教育学					106	5.17
人文・ジャーナリズム学科	ENG_英語一般					106	0.96
人文・ジャーナリズム学科	EPE_経済学・政治経済学					106	0.67
人文・ジャーナリズム学科	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）					106	2
人文・ジャーナリズム学科	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）					106	2.39
人文・ジャーナリズム学科	ETH_倫理学					106	1.7
人文・ジャーナリズム学科	FAH_美術史					106	0.12
人文・ジャーナリズム学科	FUL_基礎法学					106	0.59
人文・ジャーナリズム学科	GER_ドイツ語					106	0.47
人文・ジャーナリズム学科	GGR_地理学一般					106	0.36
人文・ジャーナリズム学科	GIN_情報学一般					106	1.91
人文・ジャーナリズム学科	GPS_心理学一般					106	2.29

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
人文・ジャーナリズム学科	HAA_アジア史・アフリカ史					106	0.76
人文・ジャーナリズム学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史					106	0.33
人文・ジャーナリズム学科	HOT_思想史					106	1.02
人文・ジャーナリズム学科	HSG_史学一般					106	3.14
人文・ジャーナリズム学科	HUG_人文地理学					106	0.29
人文・ジャーナリズム学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）					106	0.78
人文・ジャーナリズム学科	IND_インドネシア語					106	0.21
人文・ジャーナリズム学科	JAC_日本文化					106	3.46
人文・ジャーナリズム学科	JAL_日本文学					106	0.87
人文・ジャーナリズム学科	JPH_日本史					106	0.76
人文・ジャーナリズム学科	JRN_ジャーナリズム					106	27.23
人文・ジャーナリズム学科	KOR_コリア語					106	0.92
人文・ジャーナリズム学科	LCP_司書課程					106	2.89
人文・ジャーナリズム学科	LHS_図書館情報学・人文社会情報学					106	1.74
人文・ジャーナリズム学科	LIG_文学一般					106	2.27
人文・ジャーナリズム学科	LIN_言語学					106	0.23
人文・ジャーナリズム学科	MAN_経営学					106	0.33
人文・ジャーナリズム学科	MCP_学芸員課程					106	1.12
人文・ジャーナリズム学科	NSC_自然科学一般					106	1.59
人文・ジャーナリズム学科	OSS_海外語学研修など留学科目					106	0.19
人文・ジャーナリズム学科	PHE_哲学一般					106	1.25
人文・ジャーナリズム学科	PHG_自然地理学					106	0.25
人文・ジャーナリズム学科	POL_政治学					106	0.17
人文・ジャーナリズム学科	PUL_公法学					106	0.72
人文・ジャーナリズム学科	REG_地誌学					106	0.29
人文・ジャーナリズム学科	RES_宗教学					106	0.21
人文・ジャーナリズム学科	SEM_ゼミナール					106	14.23
人文・ジャーナリズム学科	SOC_社会学					106	5.5
人文・ジャーナリズム学科	SOI_社会情報学					106	0.36
人文・ジャーナリズム学科	SPN_スペイン語					106	1.16
人文・ジャーナリズム学科	SPS_スポーツ科学					106	11.23
人文・ジャーナリズム学科	STS_統計科学					106	0.12
人文・ジャーナリズム学科	TCP_教職課程					106	3.64
人文・ジャーナリズム学科	THE_卒業論文・卒業研究					106	8
人文・ジャーナリズム学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究					106	1.34
人文・ジャーナリズム学科	CME_商学					106	0.08
人文・ジャーナリズム学科	FRE_フランス語					106	0.5
人文・ジャーナリズム学科	GDE_ジェンダー					106	0.21
人文・ジャーナリズム学科	HUI_人間情報学					106	0.25
人文・ジャーナリズム学科	JLE_日本語教育					106	0.02
人文・ジャーナリズム学科	JLI_日本語学					106	0.17
人文・ジャーナリズム学科	LIE_英米・英語圏文学					106	0.1
人文・ジャーナリズム学科	MAT_数理科学					106	0.08
人文・ジャーナリズム学科	TLP_司書教諭課程					106	0.33

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
人文・ジャーナリズム学科	ITL_イタリア語					106	0.02
人文・ジャーナリズム学科	JPN_日本語					106	0.62
人文・ジャーナリズム学科	LOG_論理学					106	0.19
人文・ジャーナリズム学科	SLP_学校司書					106	0.08
ネットワーク情報学科	ACC_会計学	185	1.42	200	1.55	202	2.03
ネットワーク情報学科	ARL_芸術一般	185	0.22	200	0.08	202	0.16
ネットワーク情報学科	CHI_中国語	185	0.08	200	0.06	202	0.07
ネットワーク情報学科	CLP_臨床心理学	185	0.16	200	0.02	202	0.04
ネットワーク情報学科	CME_商学	185	1.09	200	1.37	202	2.48
ネットワーク情報学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	185	2.38	200	2.46	202	2.05
ネットワーク情報学科	CRL_刑事法学	185	0.02	200		202	
ネットワーク情報学科	CUA_文化人類学・民俗学	185	0.22	200	0.35	202	0.81
ネットワーク情報学科	DEP_発達心理学	185	0.04	200		202	
ネットワーク情報学科	DES_デザイン学	185	8.71	200	8.48	202	6.72
ネットワーク情報学科	ECH_経済史	185	0.03	200	0.02	202	
ネットワーク情報学科	ECP_経済政策	185	0.04	200		202	0.01
ネットワーク情報学科	ECT_理論経済学	185	0.86	200	0.66	202	0.79
ネットワーク情報学科	EDT_教育工学	185	0.68	200	0.53	202	1.39
ネットワーク情報学科	EDU_教育学	185	0.68	200	0.53	202	0.54
ネットワーク情報学科	ENG_英語一般	185	2.72	200	2.01	202	1.18
ネットワーク情報学科	EPE_経済学・政治経済学	185	0.59	200	0.57	202	0.16
ネットワーク情報学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	185	0.17	200	0.15	202	0.21
ネットワーク情報学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	185	2.23	200	2.18	202	4.04
ネットワーク情報学科	ETH_倫理学	185	0.50	200	0.47	202	0.54
ネットワーク情報学科	EXP_実験心理学	185	0.14	200		202	0.03
ネットワーク情報学科	FRE_フランス語	185	0.02	200	0.13	202	
ネットワーク情報学科	FUL_基礎法学	185	0.19	200	0.07	202	0.09
ネットワーク情報学科	GDE_ジェンダー	185	0.04	200		202	
ネットワーク情報学科	GGR_地理学一般	185	0.22	200	0.4	202	0.49
ネットワーク情報学科	GIN_情報学一般	185	12.01	200	11.82	202	10.9
ネットワーク情報学科	GPS_心理学一般	185	2.84	200	2.77	202	2.36
ネットワーク情報学科	HSG_史学一般	185	0.63	200	1.13	202	0.62
ネットワーク情報学科	HUI_人間情報学	185	2.75	200	2.72	202	2.26
ネットワーク情報学科	ICT_情報通信技術	185	12.14	200	12.06	202	12.07
ネットワーク情報学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	185	2.61	200	2.75	202	1.55
ネットワーク情報学科	INS_情報システム	185	5.75	200	6.69	202	8.53
ネットワーク情報学科	ITL_イタリア語	185	0.02	200		202	
ネットワーク情報学科	JPH_日本史	185	0.02	200		202	0.02
ネットワーク情報学科	JPN_日本語	185	0.32	200	0.66	202	0.12
ネットワーク情報学科	JRN_ジャーナリズム	185	0.56	200	0.19	202	1.6
ネットワーク情報学科	LCP_司書課程	185	0.64	200	0.11	202	0.46
ネットワーク情報学科	LIE_英米・英語圏文学	185	0.05	200		202	
ネットワーク情報学科	LIG_文学一般	185	0.54	200	0.77	202	0.62
ネットワーク情報学科	LOG_論理学	185	0.12	200	0.13	202	0.05

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
ネットワーク情報学科	MAN_経営学	185	1.16	200	2.28	202	1.28
ネットワーク情報学科	MAT_数理科学	185	7.54	200	6.22	202	6.54
ネットワーク情報学科	MOF_金融・ファイナンス	185	0.37	200	0.49	202	0.23
ネットワーク情報学科	NSC_自然科学一般	185	11.01	200	12.12	202	12.64
ネットワーク情報学科	PHE_哲学一般	185	0.63	200	0.48	202	0.33
ネットワーク情報学科	POL_政治学	185	0.06	200	0.12	202	0.09
ネットワーク情報学科	PUL_公法学	185	0.42	200	0.45	202	0.27
ネットワーク情報学科	SEM_ゼミナール	185	16.19	200	15.79	202	13.8
ネットワーク情報学科	SLP_学校司書	185	0.02	200		202	
ネットワーク情報学科	SOC_社会学	185	0.74	200	0.82	202	0.13
ネットワーク情報学科	S0I_社会情報学	185	4.43	200	4.77	202	6.32
ネットワーク情報学科	SOP_社会心理学	185	0.02	200		202	
ネットワーク情報学科	SPL_特殊講義	185	7.69	200	6.36	202	6
ネットワーク情報学科	SPN_スペイン語	185	0.04	200		202	0.03
ネットワーク情報学科	SPS_スポーツ科学	185	4.68	200	5.03	202	4.35
ネットワーク情報学科	STS_統計科学	185	6.91	200	7.23	202	7.3
ネットワーク情報学科	TCP_教職課程	185	2.88	200	1	202	1.8
ネットワーク情報学科	TLP_司書教諭課程	185	0.07	200		202	0.04
ネットワーク情報学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	185	1.89	200	2.39	202	3.62
心理学科	ACC_会計学	71	0.37	67	0.03	60	
心理学科	ARL_芸術一般	71	0.46	67	0.66	60	0.64
心理学科	CHI_中国語	71	0.96	67	1.42	60	0.67
心理学科	CLP_臨床心理学	71	19.00	67	19.32	60	18.74
心理学科	CME_商学	71	0.06	67	0.09	60	
心理学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	71	0.79	67	0.57	60	0.27
心理学科	CUA_文化人類学・民俗学	71	0.29	67	0.75	60	1.6
心理学科	DEP_発達心理学	71	4.15	67	4.78	60	3.7
心理学科	ECT_理論経済学	71	0.03	67		60	0.1
心理学科	EDP_教育心理学	71	1.13	67	1.32	60	1.34
心理学科	EDU_教育学	71	1.36	67	1.8	60	1.37
心理学科	ENG_英語一般	71	0.85	67	1.2	60	0.44
心理学科	EPE_経済学・政治経済学	71	0.77	67	0.96	60	0.64
心理学科	EPS_環境政策・環境社会システム	71	0.03	67	0.03	60	
心理学科	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	71	2.09	67	1.9	60	2.2
心理学科	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	71	2.30	67	2.27	60	2.14
心理学科	ETH_倫理学	71	1.24	67	1.44	60	1.57
心理学科	EXP_実験心理学	71	26.03	67	27.29	60	26.7
心理学科	FRE_フランス語	71	0.79	67	0.75	60	0.6
心理学科	FUL_基礎法学	71	0.26	67	0.18	60	0.3
心理学科	GER_ドイツ語	71	0.46	67	0.27	60	0.67
心理学科	GGR_地理学一般	71	0.48	67	0.54	60	0.24
心理学科	GIN_情報学一般	71	6.82	67	6.24	60	5.9
心理学科	GPS_心理学一般	71	4.00	67	4	60	4
心理学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	71	0.03	67	0.03	60	

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
心理学科	HOT_思想史	71	0.06	67	0.06	60	1.1
心理学科	HSG_史学一般	71	1.36	67	2.45	60	2.04
心理学科	HUG_人文地理学	71	0.06	67		60	0.1
心理学科	HUP_人体病理学	71	1.33	67	1.29	60	1.54
心理学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	71	0.82	67	0.39	60	0.37
心理学科	IND_インドネシア語	71	0.08	67	0.06	60	0.14
心理学科	INR_国際関係論	71	0.03	67	0.03	60	0.04
心理学科	JPH_日本史	71	0.12	67	0.12	60	
心理学科	JRN_ジャーナリズム	71	0.37	67	0.3	60	0.64
心理学科	KOR_コリア語	71	0.92	67	0.66	60	0.77
心理学科	LCP_司書課程	71	0.23	67	0.63	60	0.07
心理学科	LIE_英米・英語圏文学	71	0.12	67	0.06	60	0.07
心理学科	LIG_文学一般	71	1.24	67	2.51	60	1.4
心理学科	LOG_論理学	71	0.46	67	0.27	60	0.07
心理学科	MAN_経営学	71	0.88	67	0.3	60	0.4
心理学科	MAT_数理科学	71	0.57	67	0.21	60	0.2
心理学科	NSC_自然科学一般	71	2.93	67	2.45	60	1.9
心理学科	PHE_哲学一般	71	1.30	67	1.05	60	1.8
心理学科	PHG_自然地理学	71	0.06	67	0.03	60	0.34
心理学科	POL_政治学	71	0.29	67	0.24	60	0.24
心理学科	PSS_精神神経科学	71	1.13	67	2.3	60	2.27
心理学科	PUL_公法学	71	1.58	67	1.56	60	2.17
心理学科	REG_地誌学	71	0.12	67		60	
心理学科	RES_宗教学	71	0.06	67	0.06	60	0.04
心理学科	RUS_ロシア語	71	0.06	67		60	0.2
心理学科	SEM_ゼミナール	71	14.09	67	13.92	60	13.9
心理学科	SNE_特別支援教育	71	1.13	67	0.99	60	1.3
心理学科	SOC_社会学	71	2.77	67	1.44	60	0.64
心理学科	SOP_社会心理学	71	4.46	67	5.53	60	4.77
心理学科	SPL_特殊講義	71	0.03	67		60	
心理学科	SPN_スペイン語	71	0.96	67	1.02	60	1.07
心理学科	SPS_スポーツ科学	71	3.61	67	2.99	60	3.04
心理学科	STS_統計科学	71	2.62	67	2.42	60	2.17
心理学科	TCP_教職課程	71	1.57	67	0.24	60	
心理学科	THE_卒業論文・卒業研究	71	8.00	67	8	60	8
心理学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	71	1.02	67	0.57	60	0.64
社会学科	ACC_会計学	130	0.02	101		109	
社会学科	ARL_芸術一般	130	1.37	101	1.55	109	1.6
社会学科	CHI_中国語	130	1.45	101	1.95	109	1.26
社会学科	CLP_臨床心理学	130	0.94	101	2.38	109	0.52
社会学科	CME_商学	130	0.30	101	0.06	109	0.02
社会学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	130	0.77	101	1.17	109	1.07
社会学科	CUA_文化人類学・民俗学	130	2.67	101	2.64	109	3.23
社会学科	DEP_発達心理学	130	0.10	101	0.2	109	

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
社会学科	ECT_理論経済学	130	0.31	101	0.84	109	1
社会学科	EDU_教育学	130	1.50	101	1.17	109	1.45
社会学科	ENG_英語一般	130	1.36	101	1.06	109	1.63
社会学科	EPE_経済学・政治経済学	130	9.42	101	6.28	109	3.73
社会学科	EPS_環境政策・環境社会システム	130	0.34	101	0.38	109	0.74
社会学科	ERL_英語 読む・聴く (Reading & Listening)	130	2.07	101	2	109	2.03
社会学科	ESW_英語 話す・書く (Speaking & Writing)	130	2.30	101	2.24	109	2.1
社会学科	ETH_倫理学	130	1.30	101	1.07	109	1.51
社会学科	EXP_実験心理学	130	0.30	101	0.34	109	0.12
社会学科	FAH_美術史	130	0.04	101	0.12	109	
社会学科	FRE_フランス語	130	0.50	101	0.68	109	0.63
社会学科	FUL_基礎法学	130	0.53	101	0.24	109	0.37
社会学科	GER_ドイツ語	130	0.34	101	0.2	109	0.3
社会学科	GGR_地理学一般	130	0.53	101	0.46	109	0.46
社会学科	GIN_情報学一般	130	3.71	101	3.15	109	2.39
社会学科	GPS_心理学一般	130	3.30	101	2.6	109	2.46
社会学科	HAA_アジア史・アフリカ史	130	0.17	101	0.28	109	0.06
社会学科	HEA_ヨーロッパ史・アメリカ史	130	0.25	101	0.22	109	
社会学科	HSG_史学一般	130	1.87	101	4.74	109	5.34
社会学科	HUG_人文地理学	130	0.17	101	0.08	109	0.17
社会学科	IDS_融合領域科目 (学際・新領域科目、テーマ科目)	130	1.34	101	0.48	109	0.89
社会学科	IND_インドネシア語	130	0.22	101	0.08	109	0.37
社会学科	INR_国際関係論	130	0.84	101	0.96	109	0.56
社会学科	JPH_日本史	130	0.97	101	0.88	109	1.31
社会学科	JRN_ジャーナリズム	130	1.17	101	1.57	109	2.24
社会学科	KOR_コリア語	130	0.87	101	0.71	109	0.67
社会学科	LCP_司書課程	130	0.45	101	1.03	109	0.79
社会学科	LIG_文学一般	130	2.20	101	2.38	109	1.62
社会学科	LOG_論理学	130	0.24	101	0.22	109	0.06
社会学科	MAN_経営学	130	0.17	101		109	0.02
社会学科	MAT_数理科学	130	0.07	101	0.14	109	0.08
社会学科	MCP_学芸員課程	130	0.27	101	0.69	109	0.16
社会学科	NSC_自然科学一般	130	3.47	101	3.35	109	3.56
社会学科	OSS_海外語学研修など留学科目	130	0.02	101	0.02	109	0.04
社会学科	PHE_哲学一般	130	1.73	101	1.55	109	1.53
社会学科	PHG_自然地理学	130	0.14	101	0.06	109	0.5
社会学科	POL_政治学	130	1.08	101	0.86	109	1.42
社会学科	PSS_精神神経科学	130	0.02	101		109	0.13
社会学科	PUL_公法学	130	2.13	101	1.09	109	0.65
社会学科	REG_地誌学	130	0.17	101	0.08	109	0.15
社会学科	RES_宗教学	130	1.02	101	1.13	109	0.96
社会学科	RUS_ロシア語	130	0.07	101	0.04	109	
社会学科	SEM_ゼミナール	130	12.16	101	12.16	109	12.19
社会学科	SLP_学校司書	130	0.04	101	0.12	109	0.04

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
社会学科	SOC_社会学	130	44.45	101	45.03	109	46.48
社会学科	SOP_社会心理学	130	0.30	101	0.26	109	0.12
社会学科	SPN_スペイン語	130	0.77	101	0.78	109	0.87
社会学科	SPS_スポーツ科学	130	2.80	101	3.13	109	2.89
社会学科	STS_統計科学	130	3.59	101	3.63	109	3.99
社会学科	TCP_教職課程	130	1.98	101	0.78	109	1.94
社会学科	THE_卒業論文・卒業研究	130	8.00	101	8	109	8
社会学科	TLP_司書教諭課程	130	0.07	101	0.18	109	0.08
社会学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	130	0.79	101	0.68	109	0.96
日本語学科	ACC_会计学	67	0.06	64		75	
日本語学科	ARL_芸術一般	67	0.90	64		75	
日本語学科	ARS_地域研究	67	0.96	64		75	
日本語学科	CHI_中国語	67	1.63	64		75	
日本語学科	CHL_中国文学	67	1.29	64		75	
日本語学科	CME_商学	67	0.09	64		75	
日本語学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	67	0.99	64		75	
日本語学科	CUA_文化人類学・民俗学	67	0.81	64		75	
日本語学科	EDT_教育学	67	0.03	64		75	
日本語学科	EDU_教育学	67	1.26	64		75	
日本語学科	ENG_英語一般	67	1.29	64		75	
日本語学科	EPE_経済学・政治経済学	67	0.33	64		75	
日本語学科	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	67	2.27	64		75	
日本語学科	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	67	2.51	64		75	
日本語学科	ETH_倫理学	67	0.27	64		75	
日本語学科	FRE_フランス語	67	0.51	64		75	
日本語学科	FUL_基礎法学	67	0.33	64		75	
日本語学科	GER_ドイツ語	67	0.42	64		75	
日本語学科	GGR_地理学一般	67	0.12	64		75	
日本語学科	GIN_情報学一般	67	0.60	64		75	
日本語学科	GPS_心理学一般	67	2.48	64		75	
日本語学科	HSG_史学一般	67	0.78	64		75	
日本語学科	ICT_情報通信技術	67	0.03	64		75	
日本語学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	67	3.86	64		75	
日本語学科	IND_インドネシア語	67	0.18	64		75	
日本語学科	INR_国際関係論	67	0.36	64		75	
日本語学科	ITL_イタリア語	67	0.08	64		75	
日本語学科	JAC_日本文化	67	2.00	64		75	
日本語学科	JAL_日本文学	67	2.69	64		75	
日本語学科	JLE_日本語教育	67	8.54	64		75	
日本語学科	JLI_日本語学	67	48.08	64		75	
日本語学科	JPN_日本語	67	0.36	64		75	
日本語学科	JRN_ジャーナリズム	67	0.24	64		75	
日本語学科	KOR_コリア語	67	1.18	64		75	
日本語学科	LCP_司書課程	67	1.86	64		75	

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ごと一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ごと一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ごと一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
日本語学科	LIN_言語学	67	1.20	64		75	
日本語学科	LOG_論理学	67	0.39	64		75	
日本語学科	MAN_経営学	67	0.33	64		75	
日本語学科	MAT_数理科学	67	0.06	64		75	
日本語学科	NSC_自然科学一般	67	3.14	64		75	
日本語学科	PHE_哲学一般	67	0.33	64		75	
日本語学科	POL_政治学	67	0.18	64		75	
日本語学科	PUL_公法学	67	0.78	64		75	
日本語学科	RUS_ロシア語	67	0.17	64		75	
日本語学科	SEM_ゼミナール	67	16.48	64		75	
日本語学科	SLP_学校司書	67	0.12	64		75	
日本語学科	SOC_社会学	67	0.66	64		75	
日本語学科	SPN_スペイン語	67	0.84	64		75	
日本語学科	SPS_スポーツ科学	67	2.68	64		75	
日本語学科	TCP_教職課程	67	9.63	64		75	
日本語学科	THE_卒業論文・卒業研究	67	8.00	64		75	
日本語学科	TLP_司書教諭課程	67	0.33	64		75	
日本語学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	67	4.00	64		75	
異文化コミュニケーション学科	ACC_会計学	140	0.13				
異文化コミュニケーション学科	ARA_アラビア語	140	0.01				
異文化コミュニケーション学科	ARL_芸術一般	140	6.88				
異文化コミュニケーション学科	ARS_地域研究	140	12.12				
異文化コミュニケーション学科	CHI_中国語	140	1.90				
異文化コミュニケーション学科	CME_商学	140	0.16				
異文化コミュニケーション学科	CRE_キャリア科目（キャリア入門など）	140	1.45				
異文化コミュニケーション学科	CUA_文化人類学・民俗学	140	5.58				
異文化コミュニケーション学科	EDU_教育学	140	0.90				
異文化コミュニケーション学科	ENG_英語一般	140	5.38				
異文化コミュニケーション学科	ENL_英語学	140	0.02				
異文化コミュニケーション学科	EPE_経済学・政治経済学	140	0.28				
異文化コミュニケーション学科	ERL_英語 読む・聴く（Reading & Listening）	140	4.52				
異文化コミュニケーション学科	ESW_英語 話す・書く（Speaking & Writing）	140	8.20				
異文化コミュニケーション学科	ETH_倫理学	140	0.59				
異文化コミュニケーション学科	FLE_外国語教育	140	0.40				
異文化コミュニケーション学科	FRE_フランス語	140	1.88				
異文化コミュニケーション学科	FUL_基礎法学	140	0.25				
異文化コミュニケーション学科	GER_ドイツ語	140	1.18				
異文化コミュニケーション学科	GGR_地理学一般	140	0.20				
異文化コミュニケーション学科	GIN_情報学一般	140	3.19				
異文化コミュニケーション学科	GPS_心理学一般	140	2.18				
異文化コミュニケーション学科	HSG_史学一般	140	0.56				
異文化コミュニケーション学科	IDS_融合領域科目（学際・新領域科目、テーマ科目）	140	2.06				
異文化コミュニケーション学科	IND_インドネシア語	140	0.03				
異文化コミュニケーション学科	INR_国際関係論	140	0.33				

【学科毎】学科×分野コード×平均修得単位数

学科名称	分野コードと名称	【2023】対象学生数	【2023】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2022】対象学生数	【2022】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)	【2021】対象学生数	【2021】学科単位ご一人当たりの平均修得単位数 (ROUNDUP)
異文化コミュニケーション学科	ITL_イタリア語	140	0.14				
異文化コミュニケーション学科	JAC_日本文化	140	2.00				
異文化コミュニケーション学科	JLE_日本語教育	140	0.03				
異文化コミュニケーション学科	JLI_日本語学	140	3.55				
異文化コミュニケーション学科	JRN_ジャーナリズム	140	0.29				
異文化コミュニケーション学科	KOR_コリア語	140	2.70				
異文化コミュニケーション学科	LCP_司書課程	140	0.20				
異文化コミュニケーション学科	LIG_文学一般	140	0.20				
異文化コミュニケーション学科	LIN_言語学	140	2.75				
異文化コミュニケーション学科	LOG_論理学	140	0.09				
異文化コミュニケーション学科	MAN_経営学	140	0.13				
異文化コミュニケーション学科	MAT_数理科学	140	0.05				
異文化コミュニケーション学科	NSC_自然科学一般	140	2.60				
異文化コミュニケーション学科	OSS_海外語学研修など留学科目	140	15.58				
異文化コミュニケーション学科	PHE_哲学一般	140	0.22				
異文化コミュニケーション学科	POL_政治学	140	0.22				
異文化コミュニケーション学科	PUL_公法学	140	0.06				
異文化コミュニケーション学科	RUS_ロシア語	140	0.03				
異文化コミュニケーション学科	SEM_ゼミナール	140	10.25				
異文化コミュニケーション学科	SOC_社会学	140	1.05				
異文化コミュニケーション学科	SPL_特殊講義	140	1.05				
異文化コミュニケーション学科	SPN_スペイン語	140	4.34				
異文化コミュニケーション学科	SPS_スポーツ科学	140	2.50				
異文化コミュニケーション学科	STS_統計科学	140	1.96				
異文化コミュニケーション学科	THE_卒業論文・卒業研究	140	8.00				
異文化コミュニケーション学科	WLC_世界の言語と文化・言語文化研究	140	8.78				

【コース毎】学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	専攻, コース名称	DP種別	【2023】DP割合	【2022】DP割合
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP01 専門的知識・理解		53.40%
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP02 幅広い知識・理解		13.32%
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP03 言語運用能力		4.46%
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP04 情報・データリテラシー		2.53%
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP05 知識の統合と活用		7.23%
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP06 論理的思考力		5.68%
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP07 問題解決力		3.62%
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP08 多様な価値観と受入れ		7.38%
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP09 倫理観と社会的責任		1.37%
経済学部	経済学科	企業と情報コース	DP10 自己設計・管理能力		1.05%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP01 専門的知識・理解		50.82%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP02 幅広い知識・理解		13.24%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP03 言語運用能力		4.52%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP04 情報・データリテラシー		2.38%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP05 知識の統合と活用		8.84%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP06 論理的思考力		6.70%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP07 問題解決力		3.52%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP08 多様な価値観と受入れ		7.64%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP09 倫理観と社会的責任		1.33%
経済学部	経済学科	市場と政府コース	DP10 自己設計・管理能力		1.05%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP01 専門的知識・理解		55.64%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP02 幅広い知識・理解		14.47%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP03 言語運用能力		4.51%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP04 情報・データリテラシー		2.21%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP05 知識の統合と活用		6.25%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP06 論理的思考力		4.44%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP07 問題解決力		3.09%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP08 多様な価値観と受入れ		6.92%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP09 倫理観と社会的責任		1.45%
経済学部	経済学科	福祉と環境コース	DP10 自己設計・管理能力		1.06%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP01 専門的知識・理解		50.96%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP02 幅広い知識・理解		17.47%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP03 言語運用能力		4.69%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP04 情報・データリテラシー		2.32%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP05 知識の統合と活用		6.86%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP06 論理的思考力		4.25%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP07 問題解決力		3.35%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP08 多様な価値観と受入れ		7.49%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP09 倫理観と社会的責任		1.49%
経済学部	経済学科	歴史と発展コース	DP10 自己設計・管理能力		1.17%
経済学部	現代経済学科	-	DP01 専門的知識・理解	46.18%	
経済学部	現代経済学科	-	DP02 幅広い知識・理解	15.27%	
経済学部	現代経済学科	-	DP03 言語運用能力	4.56%	
経済学部	現代経済学科	-	DP04 情報・データリテラシー	1.91%	
経済学部	現代経済学科	-	DP05 知識の統合と活用	10.16%	
経済学部	現代経済学科	-	DP06 論理的思考力	7.72%	
経済学部	現代経済学科	-	DP07 問題解決力	3.47%	
経済学部	現代経済学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	8.26%	
経済学部	現代経済学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	1.34%	
経済学部	現代経済学科	-	DP10 自己設計・管理能力	1.12%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP01 専門的知識・理解	53.70%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP02 幅広い知識・理解	14.70%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP03 言語運用能力	4.65%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP04 情報・データリテラシー	2.84%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP05 知識の統合と活用	5.41%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP06 論理的思考力	3.76%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP07 問題解決力	3.44%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	8.22%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	2.14%	
経済学部	生活環境経済学科	-	DP10 自己設計・管理能力	1.14%	
経済学部	国際経済学科	-	DP01 専門的知識・理解	39.44%	41.50%
経済学部	国際経済学科	-	DP02 幅広い知識・理解	17.06%	14.52%
経済学部	国際経済学科	-	DP03 言語運用能力	8.87%	9.08%
経済学部	国際経済学科	-	DP04 情報・データリテラシー	2.70%	2.73%
経済学部	国際経済学科	-	DP05 知識の統合と活用	11.93%	12.11%
経済学部	国際経済学科	-	DP06 論理的思考力	3.66%	3.51%
経済学部	国際経済学科	-	DP07 問題解決力	3.42%	3.76%
経済学部	国際経済学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	10.35%	10.49%
経済学部	国際経済学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	1.43%	1.23%
経済学部	国際経済学科	-	DP10 自己設計・管理能力	1.15%	1.12%

【コース毎】学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	専攻. コース名称	DP種別	【2023】DP割合	【2022】DP割合
法学部	法律学科	法律総合コース	DP01 専門的知識・理解		39.11%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP01 専門的知識・理解		36.81%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP01 専門的知識・理解		36.65%
法学部	法律学科	法律総合コース	DP02 幅広い知識・理解		15.66%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP02 幅広い知識・理解		17.58%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP02 幅広い知識・理解		17.90%
法学部	法律学科	法律総合コース	DP03 言語運用能力		5.61%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP03 言語運用能力		5.63%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP03 言語運用能力		5.61%
法学部	法律学科	法律総合コース	DP04 情報・データリテラシー		2.84%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP04 情報・データリテラシー		3.11%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP04 情報・データリテラシー		3.17%
法学部	法律学科	法律総合コース	DP05 知識の統合と活用		11.23%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP05 知識の統合と活用		11.72%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP05 知識の統合と活用		11.32%
法学部	法律学科	法律総合コース	DP06 論理的思考力		10.96%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP06 論理的思考力		10.40%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP06 論理的思考力		10.30%
法学部	法律学科	法律総合コース	DP07 問題解決力		4.05%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP07 問題解決力		3.97%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP07 問題解決力		4.15%
法学部	法律学科	法律総合コース	DP08 多様な価値観と受入れ		6.94%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP08 多様な価値観と受入れ		7.21%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP08 多様な価値観と受入れ		7.15%
法学部	法律学科	法律総合コース	DP09 倫理観と社会的責任		3.05%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP09 倫理観と社会的責任		2.91%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP09 倫理観と社会的責任		3.09%
法学部	法律学科	法律総合コース	DP10 自己設計・管理能力		0.60%
法学部	法律学科	企業法務コース	DP10 自己設計・管理能力		0.70%
法学部	法律学科	公共法務コース	DP10 自己設計・管理能力		0.71%
法学部	法律学科	-	DP01 専門的知識・理解	40.71%	
法学部	法律学科	-	DP02 幅広い知識・理解	15.72%	
法学部	法律学科	-	DP03 言語運用能力	5.47%	
法学部	法律学科	-	DP04 情報・データリテラシー	3.22%	
法学部	法律学科	-	DP05 知識の統合と活用	10.55%	
法学部	法律学科	-	DP06 論理的思考力	9.87%	
法学部	法律学科	-	DP07 問題解決力	3.95%	
法学部	法律学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	6.58%	
法学部	法律学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	3.19%	
法学部	法律学科	-	DP10 自己設計・管理能力	0.74%	
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP01 専門的知識・理解	34.45%	33.61%
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP02 幅広い知識・理解	21.15%	18.29%
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP03 言語運用能力	5.00%	5.21%
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP04 情報・データリテラシー	2.79%	2.79%
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP05 知識の統合と活用	11.40%	12.60%
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP06 論理的思考力	8.96%	9.53%
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP07 問題解決力	4.49%	4.29%
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP08 多様な価値観と受入れ	7.16%	9.40%
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP09 倫理観と社会的責任	3.68%	3.66%
法学部	政治学科	政治理論・歴史コース	DP10 自己設計・管理能力	0.92%	0.66%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP01 専門的知識・理解	38.54%	35.30%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP02 幅広い知識・理解	15.28%	15.19%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP03 言語運用能力	5.68%	5.80%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP04 情報・データリテラシー	2.88%	3.16%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP05 知識の統合と活用	11.06%	12.08%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP06 論理的思考力	9.67%	9.74%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP07 問題解決力	4.90%	4.69%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP08 多様な価値観と受入れ	7.49%	9.67%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP09 倫理観と社会的責任	3.77%	3.73%
法学部	政治学科	国際政治・地域コース	DP10 自己設計・管理能力	0.73%	0.68%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP01 専門的知識・理解	39.10%	34.39%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP02 幅広い知識・理解	15.94%	16.55%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP03 言語運用能力	5.42%	5.79%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP04 情報・データリテラシー	3.10%	3.18%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP05 知識の統合と活用	10.91%	11.97%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP06 論理的思考力	9.72%	9.46%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP07 問題解決力	4.57%	4.47%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP08 多様な価値観と受入れ	6.94%	9.69%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP09 倫理観と社会的責任	3.51%	3.81%
法学部	政治学科	日本政治・政策コース	DP10 自己設計・管理能力	0.80%	0.73%

【コース毎】学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	専攻. コース名称	DP種別	【2023】DP割合	【2022】DP割合
経営学部	経営学科	-	DP01 専門的知識・理解	42.28%	42.09%
経営学部	経営学科	-	DP02 幅広い知識・理解	15.66%	16.17%
経営学部	経営学科	-	DP03 言語運用能力	5.48%	5.19%
経営学部	経営学科	-	DP04 情報・データリテラシー	4.72%	5.76%
経営学部	経営学科	-	DP05 知識の統合と活用	6.28%	5.97%
経営学部	経営学科	-	DP06 論理的思考力	6.66%	6.71%
経営学部	経営学科	-	DP07 問題解決力	5.17%	5.25%
経営学部	経営学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	5.90%	5.60%
経営学部	経営学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	3.22%	3.00%
経営学部	経営学科	-	DP10 自己設計・管理能力	4.63%	4.32%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP01 専門的知識・理解	43.61%	44.03%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP02 幅広い知識・理解	14.42%	14.72%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP03 言語運用能力	6.10%	6.11%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP04 情報・データリテラシー	4.05%	4.41%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP05 知識の統合と活用	6.20%	5.83%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP06 論理的思考力	6.83%	6.85%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP07 問題解決力	5.16%	5.18%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	6.16%	5.82%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	3.14%	2.99%
経営学部	ビジネスデザイン学科	-	DP10 自己設計・管理能力	4.33%	4.10%
商学部	会計学科	-	DP01 専門的知識・理解	39.09%	39.88%
商学部	会計学科	-	DP02 幅広い知識・理解	13.70%	13.78%
商学部	会計学科	-	DP03 言語運用能力	5.06%	5.42%
商学部	会計学科	-	DP04 情報・データリテラシー	3.96%	4.60%
商学部	会計学科	-	DP05 知識の統合と活用	9.15%	8.47%
商学部	会計学科	-	DP06 論理的思考力	6.60%	6.44%
商学部	会計学科	-	DP07 問題解決力	7.05%	7.09%
商学部	会計学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	8.31%	7.32%
商学部	会計学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	5.00%	4.75%
商学部	会計学科	-	DP10 自己設計・管理能力	2.08%	2.30%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP01 専門的知識・理解	24.62%	25.54%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP02 幅広い知識・理解	15.74%	14.85%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP03 言語運用能力	5.53%	4.76%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP04 情報・データリテラシー	5.55%	5.25%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP05 知識の統合と活用	17.41%	17.66%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP06 論理的思考力	3.61%	3.22%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP07 問題解決力	4.93%	5.35%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP08 多様な価値観と受入れ	12.76%	12.26%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP09 倫理観と社会的責任	4.45%	4.41%
商学部	マーケティング学科	マーケティングコース	DP10 自己設計・管理能力	5.40%	6.76%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP01 専門的知識・理解	26.83%	28.65%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP02 幅広い知識・理解	16.09%	14.41%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP03 言語運用能力	5.43%	4.86%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP04 情報・データリテラシー	7.82%	9.63%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP05 知識の統合と活用	12.99%	13.24%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP06 論理的思考力	6.25%	6.07%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP07 問題解決力	3.88%	3.74%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP08 多様な価値観と受入れ	9.44%	8.66%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP09 倫理観と社会的責任	6.57%	5.91%
商学部	マーケティング学科	ファイナンスコース	DP10 自己設計・管理能力	4.70%	4.89%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP01 専門的知識・理解	22.00%	23.09%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP02 幅広い知識・理解	15.22%	14.73%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP03 言語運用能力	8.59%	7.60%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP04 情報・データリテラシー	5.31%	5.11%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP05 知識の統合と活用	15.03%	15.22%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP06 論理的思考力	5.12%	5.89%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP07 問題解決力	4.63%	4.04%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP08 多様な価値観と受入れ	14.33%	13.94%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP09 倫理観と社会的責任	5.28%	5.11%
商学部	マーケティング学科	グローバルビジネスコース	DP10 自己設計・管理能力	4.50%	5.34%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP01 専門的知識・理解	12.00%	13.52%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP02 幅広い知識・理解	13.01%	11.64%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP03 言語運用能力	20.92%	21.38%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP04 情報・データリテラシー	9.59%	8.58%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP05 知識の統合と活用	16.89%	17.08%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP06 論理的思考力	4.82%	4.73%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP07 問題解決力	3.18%	3.17%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP08 多様な価値観と受入れ	13.97%	14.57%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP09 倫理観と社会的責任	1.85%	1.91%
文学部	英語英米文学科	英語コミュニケーションコース	DP10 自己設計・管理能力	3.76%	3.48%
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP01 専門的知識・理解	15.52%	17.10%
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP02 幅広い知識・理解	14.14%	12.24%

【コース毎】学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	専攻. コース名称	DP種別	【2023】DP割合	【2022】DP割合
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP03 言語運用能力	18.34%	17.98%
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP04 情報・データリテラシー	5.45%	5.37%
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP05 知識の統合と活用	16.65%	16.96%
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP06 論理的思考力	4.91%	5.36%
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP07 問題解決力	3.32%	3.37%
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP08 多様な価値観と受入れ	15.35%	15.39%
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP09 倫理観と社会的責任	2.42%	2.50%
文学部	英語英米文学科	英語文化コース	DP10 自己設計・管理能力	3.90%	3.76%
文学部	日本語学科	-	DP01 専門的知識・理解		24.60%
文学部	日本語学科	-	DP02 幅広い知識・理解		17.06%
文学部	日本語学科	-	DP03 言語運用能力		6.03%
文学部	日本語学科	-	DP04 情報・データリテラシー		4.14%
文学部	日本語学科	-	DP05 知識の統合と活用		14.43%
文学部	日本語学科	-	DP06 論理的思考力		9.29%
文学部	日本語学科	-	DP07 問題解決力		6.90%
文学部	日本語学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ		11.94%
文学部	日本語学科	-	DP09 倫理観と社会的責任		2.87%
文学部	日本語学科	-	DP10 自己設計・管理能力		2.78%
文学部	日本文学文化学科	-	DP01 専門的知識・理解	20.53%	21.16%
文学部	日本文学文化学科	-	DP02 幅広い知識・理解	18.29%	16.76%
文学部	日本文学文化学科	-	DP03 言語運用能力	6.80%	7.23%
文学部	日本文学文化学科	-	DP04 情報・データリテラシー	4.10%	4.19%
文学部	日本文学文化学科	-	DP05 知識の統合と活用	11.71%	11.74%
文学部	日本文学文化学科	-	DP06 論理的思考力	9.93%	10.23%
文学部	日本文学文化学科	-	DP07 問題解決力	4.58%	4.62%
文学部	日本文学文化学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	17.77%	18.01%
文学部	日本文学文化学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	2.27%	2.12%
文学部	日本文学文化学科	-	DP10 自己設計・管理能力	4.02%	4.00%
文学部	哲学科	-	DP01 専門的知識・理解	24.45%	24.51%
文学部	哲学科	-	DP02 幅広い知識・理解	16.45%	14.83%
文学部	哲学科	-	DP03 言語運用能力	6.80%	7.03%
文学部	哲学科	-	DP04 情報・データリテラシー	1.32%	1.01%
文学部	哲学科	-	DP05 知識の統合と活用	5.20%	5.36%
文学部	哲学科	-	DP06 論理的思考力	15.78%	16.69%
文学部	哲学科	-	DP07 問題解決力	5.74%	5.76%
文学部	哲学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	13.09%	13.43%
文学部	哲学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	5.08%	5.20%
文学部	哲学科	-	DP10 自己設計・管理能力	6.10%	6.23%
文学部	歴史学科	-	DP01 専門的知識・理解	29.39%	29.54%
文学部	歴史学科	-	DP02 幅広い知識・理解	21.40%	20.64%
文学部	歴史学科	-	DP03 言語運用能力	8.45%	8.35%
文学部	歴史学科	-	DP04 情報・データリテラシー	2.13%	2.18%
文学部	歴史学科	-	DP05 知識の統合と活用	4.17%	4.60%
文学部	歴史学科	-	DP06 論理的思考力	7.97%	8.00%
文学部	歴史学科	-	DP07 問題解決力	3.48%	3.52%
文学部	歴史学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	15.80%	16.07%
文学部	歴史学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	1.79%	1.69%
文学部	歴史学科	-	DP10 自己設計・管理能力	5.43%	5.46%
文学部	環境地理学科	-	DP01 専門的知識・理解	28.44%	29.51%
文学部	環境地理学科	-	DP02 幅広い知識・理解	18.01%	17.20%
文学部	環境地理学科	-	DP03 言語運用能力	6.85%	7.15%
文学部	環境地理学科	-	DP04 情報・データリテラシー	8.48%	8.08%
文学部	環境地理学科	-	DP05 知識の統合と活用	11.36%	11.54%
文学部	環境地理学科	-	DP06 論理的思考力	9.47%	9.65%
文学部	環境地理学科	-	DP07 問題解決力	2.82%	2.65%
文学部	環境地理学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	5.92%	5.99%
文学部	環境地理学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	3.78%	3.42%
文学部	環境地理学科	-	DP10 自己設計・管理能力	4.85%	4.85%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP01 専門的知識・理解	28.50%	29.12%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP02 幅広い知識・理解	14.05%	13.67%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP03 言語運用能力	4.07%	4.06%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP04 情報・データリテラシー	4.38%	4.31%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP05 知識の統合と活用	9.82%	10.00%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP06 論理的思考力	8.49%	8.27%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP07 問題解決力	7.31%	7.06%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	9.09%	9.09%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	9.71%	9.86%
文学部	ジャーナリズム学科	-	DP10 自己設計・管理能力	4.58%	4.61%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP01 専門的知識・理解	32.26%	32.68%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP02 幅広い知識・理解	20.17%	19.22%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP03 言語運用能力	3.56%	3.69%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP04 情報・データリテラシー	7.56%	7.44%

【コース毎】学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	専攻. コース名称	DP種別	【2023】DP割合	【2022】DP割合
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP05 知識の統合と活用	8.25%	8.84%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP06 論理的思考力	10.34%	10.00%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP07 問題解決力	3.08%	2.83%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP08 多様な価値観と受入れ	5.98%	6.68%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP09 倫理観と社会的責任	4.37%	4.34%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Sコース	DP10 自己設計・管理能力	4.43%	4.32%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP01 専門的知識・理解	30.10%	30.60%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP02 幅広い知識・理解	19.17%	19.08%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP03 言語運用能力	4.02%	3.71%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP04 情報・データリテラシー	6.81%	6.68%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP05 知識の統合と活用	10.05%	9.85%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP06 論理的思考力	3.70%	3.96%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP07 問題解決力	7.02%	6.74%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP08 多様な価値観と受入れ	9.25%	9.57%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP09 倫理観と社会的責任	5.00%	5.01%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	Dコース	DP10 自己設計・管理能力	4.90%	4.85%
人間科学部	心理学科	-	DP01 専門的知識・理解	32.42%	33.28%
人間科学部	心理学科	-	DP02 幅広い知識・理解	13.12%	12.20%
人間科学部	心理学科	-	DP03 言語運用能力	5.15%	5.32%
人間科学部	心理学科	-	DP04 情報・データリテラシー	5.05%	4.59%
人間科学部	心理学科	-	DP05 知識の統合と活用	8.10%	8.52%
人間科学部	心理学科	-	DP06 論理的思考力	6.42%	6.69%
人間科学部	心理学科	-	DP07 問題解決力	4.56%	4.55%
人間科学部	心理学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	12.45%	12.70%
人間科学部	心理学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	4.27%	3.93%
人間科学部	心理学科	-	DP10 自己設計・管理能力	8.45%	8.27%
人間科学部	社会学科	-	DP01 専門的知識・理解	24.93%	24.72%
人間科学部	社会学科	-	DP02 幅広い知識・理解	16.87%	15.55%
人間科学部	社会学科	-	DP03 言語運用能力	7.94%	8.11%
人間科学部	社会学科	-	DP04 情報・データリテラシー	6.14%	6.04%
人間科学部	社会学科	-	DP05 知識の統合と活用	9.83%	9.73%
人間科学部	社会学科	-	DP06 論理的思考力	7.73%	7.62%
人間科学部	社会学科	-	DP07 問題解決力	4.91%	5.05%
人間科学部	社会学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	11.02%	11.75%
人間科学部	社会学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	5.32%	5.71%
人間科学部	社会学科	-	DP10 自己設計・管理能力	5.30%	5.77%
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP01 専門的知識・理解	23.23%	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP02 幅広い知識・理解	18.72%	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP03 言語運用能力	7.07%	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP04 情報・データリテラシー	2.34%	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP05 知識の統合と活用	15.24%	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP06 論理的思考力	8.87%	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP07 問題解決力	7.16%	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	10.64%	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	3.64%	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	-	DP10 自己設計・管理能力	3.10%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP01 専門的知識・理解	19.48%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP02 幅広い知識・理解	9.21%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP03 言語運用能力	11.16%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP04 情報・データリテラシー	6.72%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP05 知識の統合と活用	15.80%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP06 論理的思考力	8.40%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP07 問題解決力	6.79%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP08 多様な価値観と受入れ	10.85%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP09 倫理観と社会的責任	5.43%	
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	-	DP10 自己設計・管理能力	6.15%	

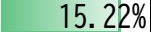
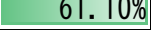
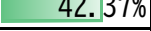
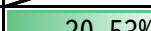
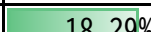
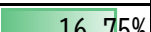
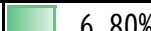
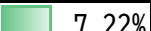
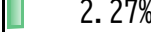
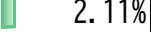
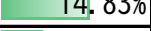
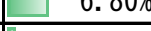
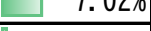
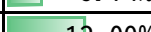
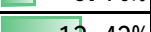
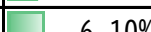
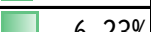
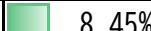
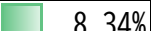
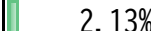
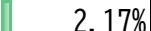
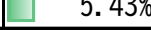
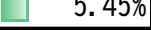
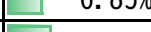
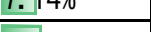
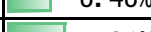
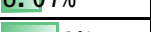
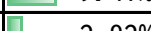
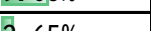
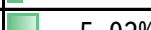
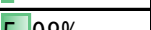
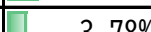
【学科毎】学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	DP種別	2023	2022	2021
経済学部	経済学科	DP01 専門的知識・理解		53.55%	53.17%
経済学部	経済学科	DP02 幅広い知識・理解		14.18%	14.57%
経済学部	経済学科	DP03 言語運用能力		4.51%	4.57%
経済学部	経済学科	DP04 情報・データリテラシー		2.35%	2.23%
経済学部	経済学科	DP05 知識の統合と活用		7.10%	7.28%
経済学部	経済学科	DP06 論理的思考力		5.23%	5.14%
経済学部	経済学科	DP07 問題解決力		3.36%	3.25%
経済学部	経済学科	DP08 多様な価値観と受入れ		7.25%	7.29%
経済学部	経済学科	DP09 倫理観と社会的責任		1.40%	1.50%
経済学部	経済学科	DP10 自己設計・管理能力		1.06%	1.06%
経済学部	現代経済学科	DP01 専門的知識・理解	46.18%		
経済学部	現代経済学科	DP02 幅広い知識・理解	15.27%		
経済学部	現代経済学科	DP03 言語運用能力	4.56%		
経済学部	現代経済学科	DP04 情報・データリテラシー	1.91%		
経済学部	現代経済学科	DP05 知識の統合と活用	10.16%		
経済学部	現代経済学科	DP06 論理的思考力	7.72%		
経済学部	現代経済学科	DP07 問題解決力	3.47%		
経済学部	現代経済学科	DP08 多様な価値観と受入れ	8.26%		
経済学部	現代経済学科	DP09 倫理観と社会的責任	1.34%		
経済学部	現代経済学科	DP10 自己設計・管理能力	1.12%		
経済学部	生活環境経済学科	DP01 専門的知識・理解	53.70%		
経済学部	生活環境経済学科	DP02 幅広い知識・理解	14.70%		
経済学部	生活環境経済学科	DP03 言語運用能力	4.65%		
経済学部	生活環境経済学科	DP04 情報・データリテラシー	2.84%		
経済学部	生活環境経済学科	DP05 知識の統合と活用	5.41%		
経済学部	生活環境経済学科	DP06 論理的思考力	3.76%		
経済学部	生活環境経済学科	DP07 問題解決力	3.44%		
経済学部	生活環境経済学科	DP08 多様な価値観と受入れ	8.22%		
経済学部	生活環境経済学科	DP09 倫理観と社会的責任	2.14%		
経済学部	生活環境経済学科	DP10 自己設計・管理能力	1.14%		
経済学部	国際経済学科	DP01 専門的知識・理解	39.44%	41.50%	39.17%
経済学部	国際経済学科	DP02 幅広い知識・理解	17.06%	14.51%	15.14%
経済学部	国際経済学科	DP03 言語運用能力	8.87%	9.07%	9.91%
経済学部	国際経済学科	DP04 情報・データリテラシー	2.70%	2.72%	2.78%
経済学部	国際経済学科	DP05 知識の統合と活用	11.93%	12.11%	12.84%
経済学部	国際経済学科	DP06 論理的思考力	3.66%	3.51%	3.47%
経済学部	国際経済学科	DP07 問題解決力	3.42%	3.76%	3.20%
経済学部	国際経済学科	DP08 多様な価値観と受入れ	10.35%	10.49%	10.90%
経済学部	国際経済学科	DP09 倫理観と社会的責任	1.43%	1.22%	1.56%
経済学部	国際経済学科	DP10 自己設計・管理能力	1.15%	1.11%	1.08%
法学部	法律学科	DP01 専門的知識・理解	40.71%	36.87%	36.34%
法学部	法律学科	DP02 幅広い知識・理解	15.72%	17.64%	16.96%
法学部	法律学科	DP03 言語運用能力	5.47%	5.61%	5.73%
法学部	法律学科	DP04 情報・データリテラシー	3.22%	3.12%	3.10%
法学部	法律学科	DP05 知識の統合と活用	10.55%	11.43%	11.72%
法学部	法律学科	DP06 論理的思考力	9.87%	10.37%	10.57%
法学部	法律学科	DP07 問題解決力	3.95%	4.08%	4.25%
法学部	法律学科	DP08 多様な価値観と受入れ	6.58%	7.15%	7.39%
法学部	法律学科	DP09 倫理観と社会的責任	3.19%	3.03%	3.25%
法学部	法律学科	DP10 自己設計・管理能力	0.74%	0.70%	0.75%
法学部	政治学科	DP01 専門的知識・理解	38.51%	34.53%	33.28%
法学部	政治学科	DP02 幅広い知識・理解	16.10%	16.39%	17.97%
法学部	政治学科	DP03 言語運用能力	5.49%	5.72%	5.58%

【学科毎】学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	DP種別	2023	2022	2021
法学部	政治学科	DP04 情報・データリテラシー	2.99%	3.13%	3.03%
法学部	政治学科	DP05 知識の統合と活用	11.01%	12.06%	11.75%
法学部	政治学科	DP06 論理的思考力	9.64%	9.54%	9.42%
法学部	政治学科	DP07 問題解決力	4.69%	4.50%	4.96%
法学部	政治学科	DP08 多様な価値観と受入れ	7.17%	9.65%	9.44%
法学部	政治学科	DP09 倫理観と社会的責任	3.62%	3.77%	3.84%
法学部	政治学科	DP10 自己設計・管理能力	0.78%	0.70%	0.78%
経営学部	経営学科	DP01 専門的知識・理解	42.28%	42.08%	45.43%
経営学部	経営学科	DP02 幅広い知識・理解	15.66%	16.17%	15.47%
経営学部	経営学科	DP03 言語運用能力	5.48%	5.18%	5.19%
経営学部	経営学科	DP04 情報・データリテラシー	4.72%	5.76%	4.74%
経営学部	経営学科	DP05 知識の統合と活用	6.28%	5.96%	5.04%
経営学部	経営学科	DP06 論理的思考力	6.66%	6.70%	6.84%
経営学部	経営学科	DP07 問題解決力	5.17%	5.24%	5.31%
経営学部	経営学科	DP08 多様な価値観と受入れ	5.90%	5.60%	4.97%
経営学部	経営学科	DP09 倫理観と社会的責任	3.22%	2.99%	2.63%
経営学部	経営学科	DP10 自己設計・管理能力	4.63%	4.31%	4.43%
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP01 専門的知識・理解	43.61%	44.03%	
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP02 幅広い知識・理解	14.42%	14.72%	
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP03 言語運用能力	6.10%	6.11%	
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP04 情報・データリテラシー	4.05%	4.40%	
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP05 知識の統合と活用	6.20%	5.83%	
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP06 論理的思考力	6.83%	6.85%	
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP07 問題解決力	5.16%	5.18%	
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP08 多様な価値観と受入れ	6.16%	5.81%	
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP09 倫理観と社会的責任	3.14%	2.98%	
経営学部	ビジネスデザイン学科	DP10 自己設計・管理能力	4.33%	4.09%	
商学部	会計学科	DP01 専門的知識・理解	39.09%	39.88%	40.16%
商学部	会計学科	DP02 幅広い知識・理解	13.70%	13.78%	14.68%
商学部	会計学科	DP03 言語運用能力	5.06%	5.41%	5.25%
商学部	会計学科	DP04 情報・データリテラシー	3.96%	4.60%	3.91%
商学部	会計学科	DP05 知識の統合と活用	9.15%	8.47%	8.40%
商学部	会計学科	DP06 論理的思考力	6.60%	6.43%	6.09%
商学部	会計学科	DP07 問題解決力	7.05%	7.08%	7.14%
商学部	会計学科	DP08 多様な価値観と受入れ	8.31%	7.31%	7.45%
商学部	会計学科	DP09 倫理観と社会的責任	5.00%	4.74%	4.62%
商学部	会計学科	DP10 自己設計・管理能力	2.08%	2.29%	2.35%
商学部	マーケティング学科	DP01 専門的知識・理解	21.52%	25.55%	24.32%
商学部	マーケティング学科	DP02 幅広い知識・理解	13.77%	14.76%	15.80%
商学部	マーケティング学科	DP03 言語運用能力	5.11%	5.06%	5.07%
商学部	マーケティング学科	DP04 情報・データリテラシー	5.05%	5.76%	5.24%
商学部	マーケティング学科	DP05 知識の統合と活用	14.62%	16.93%	17.50%
商学部	マーケティング学科	DP06 論理的思考力	3.54%	3.76%	3.59%
商学部	マーケティング学科	DP07 問題解決力	4.19%	5.03%	5.03%
商学部	マーケティング学科	DP08 多様な価値観と受入れ	11.01%	12.08%	12.56%
商学部	マーケティング学科	DP09 倫理観と社会的責任	4.17%	4.65%	4.75%
商学部	マーケティング学科	DP10 自己設計・管理能力	4.58%	6.43%	6.19%
文学部	英語英米文学科	DP01 専門的知識・理解	14.51%	16.35%	14.13%
文学部	英語英米文学科	DP02 幅広い知識・理解	13.81%	12.11%	14.60%
文学部	英語英米文学科	DP03 言語運用能力	19.08%	18.68%	19.22%
文学部	英語英米文学科	DP04 情報・データリテラシー	6.64%	6.03%	6.25%
文学部	英語英米文学科	DP05 知識の統合と活用	16.72%	16.98%	16.71%
文学部	英語英米文学科	DP06 論理的思考力	4.88%	5.23%	4.91%

【学科毎】学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	DP種別	2023	2022	2021
文学部	英語英米文学科	DP07 問題解決力	 3.28%	 3.33%	 3.20%
文学部	英語英米文学科	DP08 多様な価値観と受入れ	 14.95%	 15.22%	 15.19%
文学部	英語英米文学科	DP09 倫理観と社会的責任	 2.26%	 2.38%	 2.23%
文学部	英語英米文学科	DP10 自己設計・管理能力	 3.86%	 3.70%	 3.62%
文学部	日本語学科	DP01 専門的知識・理解		 61.10%	 24.41%
文学部	日本語学科	DP02 幅広い知識・理解		 42.37%	 17.39%
文学部	日本語学科	DP03 言語運用能力		 14.96%	 6.57%
文学部	日本語学科	DP04 情報・データリテラシー		 10.28%	 4.28%
文学部	日本語学科	DP05 知識の統合と活用		 35.84%	 13.57%
文学部	日本語学科	DP06 論理的思考力		 23.07%	 8.74%
文学部	日本語学科	DP07 問題解決力		 17.13%	 7.18%
文学部	日本語学科	DP08 多様な価値観と受入れ		 29.66%	 12.12%
文学部	日本語学科	DP09 倫理観と社会的責任		 7.11%	 2.94%
文学部	日本語学科	DP10 自己設計・管理能力		 6.89%	 2.86%
文学部	日本文学文化学科	DP01 専門的知識・理解	 20.53%	 21.15%	 20.63%
文学部	日本文学文化学科	DP02 幅広い知識・理解	 18.29%	 16.75%	 18.36%
文学部	日本文学文化学科	DP03 言語運用能力	 6.80%	 7.22%	 6.97%
文学部	日本文学文化学科	DP04 情報・データリテラシー	 4.10%	 4.19%	 3.74%
文学部	日本文学文化学科	DP05 知識の統合と活用	 11.71%	 11.74%	 12.18%
文学部	日本文学文化学科	DP06 論理的思考力	 9.93%	 10.22%	 9.66%
文学部	日本文学文化学科	DP07 問題解決力	 4.58%	 4.62%	 4.56%
文学部	日本文学文化学科	DP08 多様な価値観と受入れ	 17.77%	 18.01%	 18.13%
文学部	日本文学文化学科	DP09 倫理観と社会的責任	 2.27%	 2.11%	 1.97%
文学部	日本文学文化学科	DP10 自己設計・管理能力	 4.02%	 3.99%	 3.85%
文学部	哲学科	DP01 専門的知識・理解	 24.45%	 24.51%	 24.23%
文学部	哲学科	DP02 幅広い知識・理解	 16.45%	 14.83%	 15.95%
文学部	哲学科	DP03 言語運用能力	 6.80%	 7.02%	 6.52%
文学部	哲学科	DP04 情報・データリテラシー	 1.32%	 1.01%	 1.16%
文学部	哲学科	DP05 知識の統合と活用	 5.20%	 5.35%	 5.44%
文学部	哲学科	DP06 論理的思考力	 15.78%	 16.68%	 15.85%
文学部	哲学科	DP07 問題解決力	 5.74%	 5.76%	 5.79%
文学部	哲学科	DP08 多様な価値観と受入れ	 13.09%	 13.42%	 13.74%
文学部	哲学科	DP09 倫理観と社会的責任	 5.08%	 5.19%	 5.26%
文学部	哲学科	DP10 自己設計・管理能力	 6.10%	 6.23%	 6.11%
文学部	歴史学科	DP01 専門的知識・理解	 29.39%	 29.54%	 31.09%
文学部	歴史学科	DP02 幅広い知識・理解	 21.40%	 20.64%	 17.27%
文学部	歴史学科	DP03 言語運用能力	 8.45%	 8.34%	 8.74%
文学部	歴史学科	DP04 情報・データリテラシー	 2.13%	 2.17%	 2.54%
文学部	歴史学科	DP05 知識の統合と活用	 4.17%	 4.60%	 4.78%
文学部	歴史学科	DP06 論理的思考力	 7.97%	 8.00%	 7.43%
文学部	歴史学科	DP07 問題解決力	 3.48%	 3.52%	 3.67%
文学部	歴史学科	DP08 多様な価値観と受入れ	 15.80%	 16.07%	 16.92%
文学部	歴史学科	DP09 倫理観と社会的責任	 1.79%	 1.68%	 1.79%
文学部	歴史学科	DP10 自己設計・管理能力	 5.43%	 5.45%	 5.83%
文学部	環境地理学科	DP01 専門的知識・理解	 28.44%	 29.51%	 29.93%
文学部	環境地理学科	DP02 幅広い知識・理解	 18.01%	 17.20%	 16.44%
文学部	環境地理学科	DP03 言語運用能力	 6.85%	 7.14%	 6.80%
文学部	環境地理学科	DP04 情報・データリテラシー	 8.48%	 8.07%	 7.74%
文学部	環境地理学科	DP05 知識の統合と活用	 11.36%	 11.53%	 11.91%
文学部	環境地理学科	DP06 論理的思考力	 9.47%	 9.65%	 9.96%
文学部	環境地理学科	DP07 問題解決力	 2.82%	 2.65%	 2.99%
文学部	環境地理学科	DP08 多様な価値観と受入れ	 5.92%	 5.98%	 5.82%
文学部	環境地理学科	DP09 倫理観と社会的責任	 3.78%	 3.42%	 3.55%

【学科毎】学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	DP種別	2023	2022	2021
文学部	環境地理学科	DP10 自己設計・管理能力	4.85%	4.85%	4.91%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP01 専門的知識・理解			33.10%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP02 幅広い知識・理解			11.71%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP03 言語運用能力			5.16%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP04 情報・データリテラシー			4.59%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP05 知識の統合と活用			8.87%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP06 論理的思考力			6.31%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP07 問題解決力			4.98%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP08 多様な価値観と受入れ			12.91%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP09 倫理観と社会的責任			3.91%
文学部	人文・ジャーナリズム	DP10 自己設計・管理能力			8.51%
文学部	ジャーナリズム学科	DP01 専門的知識・理解	28.50%	29.12%	
文学部	ジャーナリズム学科	DP02 幅広い知識・理解	14.05%	13.67%	
文学部	ジャーナリズム学科	DP03 言語運用能力	4.07%	4.05%	
文学部	ジャーナリズム学科	DP04 情報・データリテラシー	4.38%	4.31%	
文学部	ジャーナリズム学科	DP05 知識の統合と活用	9.82%	9.99%	
文学部	ジャーナリズム学科	DP06 論理的思考力	8.49%	8.26%	
文学部	ジャーナリズム学科	DP07 問題解決力	7.31%	7.06%	
文学部	ジャーナリズム学科	DP08 多様な価値観と受入れ	9.09%	9.08%	
文学部	ジャーナリズム学科	DP09 倫理観と社会的責任	9.71%	9.85%	
文学部	ジャーナリズム学科	DP10 自己設計・管理能力	4.58%	4.61%	
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP01 専門的知識・理解	30.72%	31.17%	33.51%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP02 幅広い知識・理解	19.46%	19.12%	19.70%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP03 言語運用能力	3.89%	3.70%	4.31%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP04 情報・データリテラシー	7.02%	6.88%	6.44%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP05 知識の統合と活用	9.53%	9.57%	8.15%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP06 論理的思考力	5.60%	5.61%	4.95%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP07 問題解決力	5.89%	5.66%	5.88%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP08 多様な価値観と受入れ	8.31%	8.77%	8.64%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP09 倫理観と社会的責任	4.82%	4.82%	4.58%
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	DP10 自己設計・管理能力	4.77%	4.70%	3.88%
人間科学部	心理学科	DP01 専門的知識・理解	32.42%	33.27%	33.10%
人間科学部	心理学科	DP02 幅広い知識・理解	13.12%	12.20%	11.71%
人間科学部	心理学科	DP03 言語運用能力	5.15%	5.32%	5.16%
人間科学部	心理学科	DP04 情報・データリテラシー	5.05%	4.58%	4.59%
人間科学部	心理学科	DP05 知識の統合と活用	8.10%	8.52%	8.87%
人間科学部	心理学科	DP06 論理的思考力	6.42%	6.69%	6.31%
人間科学部	心理学科	DP07 問題解決力	4.56%	4.54%	4.98%
人間科学部	心理学科	DP08 多様な価値観と受入れ	12.45%	12.70%	12.91%
人間科学部	心理学科	DP09 倫理観と社会的責任	4.27%	3.93%	3.91%
人間科学部	心理学科	DP10 自己設計・管理能力	8.45%	8.26%	8.51%
人間科学部	社会学科	DP01 専門的知識・理解	24.93%	24.71%	23.52%
人間科学部	社会学科	DP02 幅広い知識・理解	16.87%	15.55%	16.41%
人間科学部	社会学科	DP03 言語運用能力	7.94%	8.11%	7.74%
人間科学部	社会学科	DP04 情報・データリテラシー	6.14%	6.04%	5.69%
人間科学部	社会学科	DP05 知識の統合と活用	9.83%	9.73%	10.79%
人間科学部	社会学科	DP06 論理的思考力	7.73%	7.61%	7.95%
人間科学部	社会学科	DP07 問題解決力	4.91%	5.04%	5.21%
人間科学部	社会学科	DP08 多様な価値観と受入れ	11.02%	11.74%	11.56%
人間科学部	社会学科	DP09 倫理観と社会的責任	5.32%	5.71%	5.88%
人間科学部	社会学科	DP10 自己設計・管理能力	5.30%	5.76%	5.31%
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP01 専門的知識・理解	23.23%		
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP02 幅広い知識・理解	18.72%		

【学科毎】 学科×DP種別×DP割合

学部名称	学科名称	DP種別	2023	2022	2021
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP03 言語運用能力	7.07%		
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP04 情報・データリテラシー	2.34%		
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP05 知識の統合と活用	15.24%		
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP06 論理的思考力	8.87%		
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP07 問題解決力	7.16%		
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP08 多様な価値観と受入れ	10.64%		
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP09 倫理観と社会的責任	3.64%		
国際コミュニケーション学部	日本語学科	DP10 自己設計・管理能力	3.10%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP01 専門的知識・理解	19.48%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP02 幅広い知識・理解	9.21%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP03 言語運用能力	11.16%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP04 情報・データリテラシー	6.72%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP05 知識の統合と活用	15.80%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP06 論理的思考力	8.40%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP07 問題解決力	6.79%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP08 多様な価値観と受入れ	10.85%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP09 倫理観と社会的責任	5.43%		
国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	DP10 自己設計・管理能力	6.15%		

GPA集計（入試制度×学科）

学科名称	一般／推薦	【2023】 卒業生数	【2023】 確定累積GPA (ave)	【2023】 確定累積GPA (一般－推薦)	【2022】 卒業生数	【2022】 確定累積GPA (ave)	【2022】 確定累積GPA (一般－推薦)	【2021】 卒業生数	【2021】 確定累積GPA (ave)	【2021】 確定累積GPA (一般－推薦)
経済学科	一般				160	2.84		216	2.62	
	推薦・その他				263	2.90	-0.058	250	2.59	0.031
現代経済学科	一般	107	2.81							
	推薦・その他	125	2.92	-0.114						
生活環境経済学科	一般	117	2.74							
	推薦・その他	123	2.78	-0.036						
国際経済学科	一般	86	2.74		68	2.60		66	2.70	
	推薦・その他	92	2.69	0.053	85	2.80	-0.205	101	2.72	-0.017
法律学科	一般	256	2.66		148	2.95		242	2.59	
	推薦・その他	250	2.69	-0.023	345	2.61	0.338	304	2.46	0.132
政治学科	一般	63	2.61		45	2.77		37	2.56	
	推薦・その他	72	2.69	-0.083	90	2.69	0.078	89	2.38	0.186
経営学科	一般	174	2.86		161	2.88		159	2.93	
	推薦・その他	161	2.91	-0.050	173	2.89	-0.011	319	2.83	0.106
ビジネスデザイン学科	一般	94	3.45		91	3.17				
	推薦・その他	50	3.06	0.383	56	2.98	0.195			
マーケティング学科	一般	154	2.85		129	3.41		149	2.68	
	推薦・その他	240	2.85	0.002	265	2.72	0.685	278	2.58	0.094
会計学科	一般	103	2.79		84	2.70		89	3.06	
	推薦・その他	93	2.91	-0.126	107	2.75	-0.057	108	2.70	0.359
日本語学科	一般				39	3.04		49	3.30	
	推薦・その他				21	3.66	-0.629	22	3.13	0.173
日本文学文化学科	一般	78	3.07		67	2.96		77	2.95	
	推薦・その他	32	3.17	-0.102	32	3.09	-0.123	38	2.86	0.085
英語英米文学科	一般	91	2.93		66	3.03		80	2.74	
	推薦・その他	41	3.06	-0.132	50	2.92	0.112	43	2.89	-0.159
哲学科	一般	38	2.91		51	2.68		46	2.80	
	推薦・その他	22	3.23	-0.317	17	2.92	-0.240	13	2.88	-0.083
歴史学科	一般	89	2.90		78	2.77		86	2.79	
	推薦・その他	22	3.72	-0.816	26	2.94	-0.168	19	2.78	0.004
環境地理学科	一般	34	2.82		32	2.84		50	2.53	
	推薦・その他	15	3.02	-0.197	9	3.10	-0.258	7	2.57	-0.037
人文・ジャーナリズム学科	一般							63	2.83	
	推薦・その他							33	3.54	-0.712
ジャーナリズム学科	一般	46	3.15		44	3.35				
	推薦・その他	69	2.82	0.321	65	2.77	0.578			
ネットワーク情報学科	一般	103	3.05		95	3.20		112	2.84	
	推薦・その他	58	3.32	-0.273	79	2.95	0.247	78	2.71	0.129
心理学科	一般	49	3.00		42	3.06		22	4.76	
	推薦・その他	21	3.34	-0.336	22	3.26	-0.204	23	3.12	1.641
社会学科	一般	99	3.09		69	2.95		66	2.88	
	推薦・その他	27	3.44	-0.340	32	2.97	-0.013	40	3.01	-0.126
日本語学科	一般	36	3.57							
	推薦・その他	18	5.31	-1.732						
異文化コミュニケーション学科	一般	84	3.17							
	推薦・その他	54	3.19	-0.013						

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔 1 〕 経済学部

<教育研究上の目的について>（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

大学のビジョン「社会知性の開発」や大学の3ポリシーをふまえた学部および3学科独自の3ポリシーを設定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

学部・学科3ポリシーの、学生向け学修ガイドブックや経済学部PR誌・Webサイト等を通じた構成員への周知徹底と社会への公表に務めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<学修成果の明確化について>（評点：A）

（1）達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

（2）最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

学部および3学科の方針において明確化している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

学部および3学科の方針において明確化している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

「三つの方針（DP・CP・AP）策定要領」に基づき、学部・学科の教育課程の編成・実施方針に記載する項目を「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」の3項目とし、全学（学部）の教育課程の編成・実施方針において、「学修成果の評価方法」を示し、アセスメントプラン、カリキュラム・マップにより検証することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

＜教育課程について＞（評点：A）

（1）達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

（2）最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

現代経済学科・生活環境経済学科では、専門科目を、導入科目・基礎科目・基幹科目・発展科目・応用科目・関連科目の各科目群からなるカリキュラム編成を、国際経済学科においては基礎科目・基本科目・地域研究・比較研究・問題群研究・地域言語・演習・関連科目等の科目群からなるカリキュラム編成を行い、それぞれの専門分野を学修する科目を開講している。各科目の到達目標については、講義要項において明示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

現代経済学科は2年次から3年次への進級条件を設けている。

現代経済学科・生活環境経済学科は、各学生のより具体的関心領域にそった系統的履修を促進する「プログラム制」を採用している。また、国際経済学科は専門科目の履修系統チャートを学修ガイドブックで明示して、学生の系統的履修を促進している。

これらの仕組みは、学生が、基礎・応用などの科目区分それぞれのなかでも数多い科目間の関係や履修すべき順序や、学びの過程を理解することに寄与している。

【長所・特色】

プログラム制は、それぞれのプログラム修了に必要な単位と卒業要件は切り離され、「卒業しやすさ」といった観点ではなく学生の興味関心にしがった選択を促進する仕組みとなっているという点で画期的な試みと思われる。

【問題点】

現代経済学科の専門科目カリキュラムでは、発展科目が3年次からの履修となっているのに対して、生活環境経済学科では、導入科目を除く専門科目の多くが2年次からの配当となっている。これについては、分野の特性を反映したものという見方もあり、プログラム制や履修系統チャートなど系統的履修を確保する仕組みの存在により問題は小さいとの意見もあるものの、今後議論・検討の余地はあるものと思われる。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

学則第5条の5に定めてあるとおり、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、試験その他の学修評価方法により学習の成果を評価して単位認定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<授業内容・方法について>（評点：A）

（１）達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

（２）最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

講義・演習・ゼミナールなど、学修すべき内容に応じて適切な授業形態・方法を採用している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

大規模講義については遠隔授業の活用によって、個々の履修者の学修状況把握と教室の効率的利用に役立っている。

【長所・特色】

余裕をもった教室運用に役立っている。

【問題点】

ある年度に大規模であったことを理由として遠隔授業に設定されると、当該科目に遠隔授業を 선호する学生が集中してますます大規模化するというケースがみられる。バランスのよい授業規模の実現のためには何らかの対応が必要と考えられる。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

ゼミナールは各学生の関心や成績を勘案した学生の採用を行っている。また国際経済学科の基本科目「国際経済とデータ分析」は習熟度によってクラス分けを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

124 単位として定めている卒業要件単位について教育課程の 4 つの科目群（転換・導入、教養、外国語、専門）それぞれの卒業要件単位の内訳を定めている。また、学年ごとに履修上限単位数を定めている（現代経済学科 1・2 年次 44 単位、3・4 年次 48 単位、生活環境経済学科・国際経済学科 1 年次 44 単位、2～4 年次 48 単位）。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバスの作成にあたっては、大学による統一フォーマットにより作成している。「卒業認定・学位授与の方針との関連」を示すとともに、「到達目標」、「講義概要」「授業で実施するアクティブラーニング」、「課題に対するフィードバックの方法」の項目で構成された講義内容の提示、「成績評価方法・基準」、「履修上の留意点」を提示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価のための定期試験は、全学共通の規則に基づいて厳格に実施され、不正行為の未然防止、不正行為発覚の際の厳正な処分も行われている。

また成績評価の客観性を担保するための措置として、学部・学科では、GPA 制度を導入している。具体的には、学則第 17 条第 2 項において、成績評価は、100 点を満点とし、60 点以上を合格とし、60 点未満を不合格とする。成績評価の区分は、90 点以上を S、85 点以上 90 点未満を A+、80 点以上 85 点未満を A、75 点以上 80 点未満を B+、70 点以上 75 点未満を B、65 点以上 70 点未満を C+、60 点以上 65 点未満を C、60 点未満を F とする。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

各科目ごとに成績評価の基準については、講義要項（シラバス）において、「成績評価方法・基準」を明記している。

各学期における成績発表の時期には、学生からの、成績評価に対する質問や確認要請に対して、教員が回答する制度が存在する。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

他大学等で修得した単位や入学前に修得した単位の認定に関しては、大学設置基準にもとづき適切に行っている。

また英語科目および英語以外の外国語科目では資格試験において一定の基準を満たしている学生に対して単位認定を行っている。また交換留学プログラムでは留学中に修得した単位を審査のうえ本学の単位に振り替えることができる。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る実施手続と体制は、学則及び学位規程に基づき定められた教授会規程に則り、教授会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

卒業認定・学位授与の方針に基づき、所定の単位を修得したものを卒業と認め、学士（経済学）の学位を授与している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

（１）達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

（２）最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学生×授業ごとの成績評価を起点とした学修成果の把握・可視化の実現を目指しており、このことは、2021 年度に策定されたアセスメントプランにも記載されている。また、この点検・評価プロセスを実現するために重要な、「測定可能な学修目標の設定（DP の改正）」および「各授業科目と学修目標との対応（カリキュラム・マップ）」の策定についても行っており、これらを組織的に活用することで、学位授与方針で定めた学修成果の実態を測定・把握することとしている。

またすべての科目について、シラバスに「成績評価方法・基準」の欄を設け、到達目標の達成度と関連付けた学習成果の評価方法を明記しており、それによって個別科目の学修成果を評価している。

その上で、学修プロセス自己点検シートにより、学生に体系的な履修の動機付けを与えるとともに、学生が履修・修得科目を自ら点検し、カリキュラムの趣旨に沿った体系的な学修成果が得られているかをチェックし、さらにその内容を教員と共有することにより、卒業に至るまでの学修成果を把握・評価することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評点：A）

（１）達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

（２）最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

大学の内部質保証プロセスのもと自己点検・評価を定期的に行い、改善に向けた取り組みを行っている。自己点検・評価委員会において『自己点検・評価報告書』『自己点検・評価中間報告書』として取りまとめを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

「授業に関する学生アンケートの結果と授業の改善」のFD研修を実施し、教育課程およびその内容、教育方法についての点検を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

本学の内部質保証推進委員会において設定された自己点検・評価項目の大綱に基づき、自己点検・評価項目を自己点検・評価委員会において決定後、自己点検・評価を実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

自己点検・評価の結果をふまえた大学としてのカリキュラム改訂方針のもと、教育課程や教育方法の改善・向上への取り組みとしてカリキュラム編成の検討を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

（1）達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

（2）最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

3学科において適切に設定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

一般選抜、特別入学試験（ＡＯ入試（国際経済学科）、指定校制推薦入学試験、外国人留学生入学試験）それぞれについて、学科会議、学部運営委員会で、入学者受け入れの方針を具体化する入試制度・方式を審議し、教授会において決定している。入学者選抜の実施にあたっては入学試験規定に基づき公正かつ厳正に実施されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

大学全体との仕組みとして特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備に関しては、身体障がい等により受験上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立っての「配慮希望書」の提出を入学試験要項に明記している。また、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等についても障がい学生支援室を中心とした関係所管での事前相談の機会が設けられており、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限りの配慮を行うこととしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

大学公式サイトにおいて入学試験要項を公開するとともに、入学試験関連の情報提供を行っている。また入学試験要項や願書の請求を受け付けるとともに、オープンキャンパス等の各種入試関連イベントにおいても配布を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<定員管理について>（評点：A）

（１）達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

（２）最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

大学入試の定員管理の基準をふまえて入学者の受け入れを行っている。また、低単位修得者に対する個別面接等の対策を行うことで、退学・除籍者の抑制を図り、在籍学生数についても適正に維持している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

一般選抜における繰上合格制度により、仮に当初の入学手続き期間における手続き者数が入学定員未充足となった場合においても、最終的に定員充足を図ることを可能としている。

また、合格者の判定に際しては、過年度の手続き率等に基づく精密な予測によって合格者数を算出し、定員を大幅に超える入学手続き者が出ることはないよう、細心の注意を払っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<入学者受け入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：A）

（１）達成目標

入学者受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

（２）最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

入学試験委員会における出願時アンケート結果にもとづく検討や学部教授会および学科会議における入学者受入れ状況についての検証を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

入学者の受け入れ状況をふまえ、翌年度の入学者受入れ（定員数および内訳）について検討を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔2〕法学部

<教育研究上の目的について>（評定：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

法学部では、本学が掲げる理念である「社会知性の開発」を具体化し、「法学及び政治学の研究を通じ、その知識及び技術とそれに基づく思考方法を核としつつ、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視点から独創的発想により主体的に社会の問題解決に取り組むことができる能力を有する人材を養成することを目的とする」ことを明確に示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・学則

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

上記の目的が専修大学学則 2 条の 2 において明示されており、新入生に配布されるガイドブックや大学ホームページに掲載され、周知が図られている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・学則
・法学部学修ガイドブック（2024）13 頁
・法学部ホームページ

<学修成果の明確化について>（評定：A）

（1）達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

卒業判定・学位授与の方針（DP）について、全学的な方針として学生が修得すべき4つの資質・能力に対応して、法律学科及び政治学科それぞれにおいて、具体的な修得目標が設定されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・法学部学修ガイドブック（2024）4頁

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

教育課程編成・実施の方針（CP）について、DPで示される4つの「資質・能力」との関連が弱く、教育課程に中でどのように身につけられるかが明確ではなかったとの問題意識のもと、法学部教務委員会が中心となり、法学部CPの改正が行われた。これにより、「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」及び「同実施の方針」、「教育内容・方法」がそれぞれ定められ、教育課程全体の体系性・順次性の確保、教養教育と専門教育の有機的連携が図られるとともに、その内容の明確化が図られている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・法学部学修ガイドブック（2024）4頁～8頁

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

学部として、具体的な対応は行っていない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

<教育課程について>（評定：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

法学部では、各学科の学問体系等を考慮した授業科目の配置を行っている。具体的には、法律学科では、法律学の学問体系と方法論を学修するため、専門分野の基礎的な知識・理解の習得を目的とする「必修科目」、段階的体系的な知識・能力を養成するために「第一選択必修科目」、「第二選択必修科目」「選択科目」をそれぞれ設定している。政治学科では、政治学全般に関する広い基礎的知識と情報処理能力、発信力を身につけるための「必修科目」を配置したうえで、段階的体系的な知識・能力を養成するために「コース共通科目」、「所属コース科目」、「所属コース外科目」、「選択科目」をそれぞれ設定している。各授業科目の到達目標については、シラバスにおいて明記されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・法学部講義要項（シラバス）

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

法学部の教育課程では、全学的な基準に従い、「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」という4つの科目区分に従って、授業科目の編成を行っている。専門科目については、上記①のような科目配置を行ったうえで、将来の目標や自己の興味・関心に適した学修ができるように、12の履修モデルを設定して、1年次前期の授業終了時に選択させることにより、学修の順次性を意識させ、授業科目選択の支援を行っている。履修モデルについては、学修ガイドブックのほか、大学ホームページ等でも公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・法学部学修ガイドブック（2024）16頁～18頁、21頁～26頁、71頁～89頁
・法学部ホームページ

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学設置基準に従い、各授業科目を設定している。また、予習復習の内容についてシラバスで明記している（予習復習に当てべき時間については、科目の内容や性格によって異なりうることから、具体的には示していない。）

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・法学部学修ガイドブック（2024）16 頁～18 頁、21 頁～26 頁、71 頁～89 頁
- ・法学部ホームページ

<授業内容・方法について>（評定：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

演習科目等の少人数科目（とりわけ低年次授業科目である、専修大学入門ゼミナール、基礎文献講読、法学入門ゼミナール）については、授業方法の適切性を考慮して、受講者数が 20 名程度となるように設定している。講義科目については、必修科目や第一選択必修科目については、受講者数が過多となることを避けるため、複数コマの開講を行うことで、適切な受講者数となるように配慮している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

ほとんどの授業が対面で実施されているが、複数コマ開講が必要な授業科目などでは、一部オンライン授業で対応している。一部のオンライン授業に履修希望者が集中してしまうという問題がある。

【根拠資料】

- ・法学部学修ガイドブック（2024）71 頁～72 頁
- ・法学部講義要項（シラバス）
- ・法学部ホームページ

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

対面授業とする授業科目においても、一定範囲内であれば必要に応じて、Web 会議システムを利用した遠隔授業で対応することが認められており、授業時間を確保するために利用されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 根拠資料なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

学部として、具体的な対応は行っていない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 根拠資料なし

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

シラバスにおいて学生の到達目標、講義概要、授業計画、DPとの関係等を明示することで、学生が適切な科目選択ができるように配慮している。特定の授業科目に履修希望者が集中することで授業運営に支障が生じるような状況が確認された場合には、専門科目についても所定の手続により抽選による履修者数を制限することで、授業運営の適正化を図ることとしている。各年次における履修上限単位数を 48 単位（1～3 年次は 44 単位）に制限するとともに、とくに最終年次での授業の空洞化を図るため、4 年次では、「4 年次に配当されている専門科目」を 8 単位以上必ず修得するようものとしている。オンライン授業とする授業科目の上限単位数を 60 単位に制限している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 法学部講義要項（シラバス）
- ・ 法学部学修ガイドブック（2024）16 頁～19 頁

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

教務委員会が「講義要項（シラバス）執筆要領」を作成し、シラバスの内容やシラバス執筆上の留意事項を定めて、各教員が適切にシラバス作成を行えるようにしている。また、作成したシラバスは教務委員会による第三者チェックを行い、執筆要領に沿ったシラバス作成がなされているかを確認し、必要があれば各教員に修正を求めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

<単位認定・学位授与について>（評定：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

シラバスにおいて成績評価方法（定期試験か平常点評価か等）および成績評価基準について、明確に記載することを求めている。成績判定後、各科目の成績分布表を作成し、各教員で情報を共有することで、客観的かつ厳格で公平な単位認定がなされるようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・法学部講義要項（シラバス）

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

成績評価や単位認定の基準については、シラバスに評価の配分割合を具体的に記載するとともに、到達目標との関係や単位修得のための要件などについて詳細に記載することを求めている。成績評価に疑義がある場合の対応については、学修ガイドブックには記載されていないが、教務課から学生に向けて手続に関する情報が提供されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

入学前に他大学等で取得した単位については、学則に従い、60 単位を超えない範囲で単位認定が行われる。単位認定にあたっては、教務委員会により単位制度の趣旨に基づき、既修得単位の科目の内容と本学で開講されている科目の内容等を比較する等の方法により、適正な単位認定が行われるよう配慮されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・学則

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学則及び履修規程に定める卒業要件に基づき、教授会において卒業判定（学位授与認定）を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・学則

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

D Pに対応したC P（教育課程編成及び実施の方針）を策定することで、卒業要件を満たせば、D Pに即した適切な学位授与が行われるようにしている。教務委員会において、卒業要件単位を満たしているか、科目区分ごとの卒業要件単位数に達しているか、4 年次での修得単位数 8 単位を取得しているか等の確認を行ったうえで、教授会の審議を経ることで、学位授与の適切性を担保している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

<学修成果の把握および評価について>（評定：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学部として、具体的な対応は行っていない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評定：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価を行うための材料として、法学部FD委員会が中心となり、授業に関する学生アンケートを行っている。質問項目や対象科目の適切性などについても、FD委員会の検討を踏まえた教授会での議論などを経て、見直しが検討されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

授業に関する学生アンケートなどを実施して、学部全体として共通する課題や問題点、授業運営の具体的工夫等の情報収集を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

授業に関する学生アンケートなどを実施して、学部全体として共通する課題や問題点、授業運営の具体的工夫等、得られた情報を共有し、法学部 FD 活動などに繋げている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

各教員が、授業に関する学生アンケートに対するフィードバックを行うことで、それぞれの授業運営の問題点の確認やさらなる工夫の必要性などに取り組む機会を得ている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

<入学者受入れの方針について>（評定：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

法学部の入学者受入れの方針（AP）を定め、大学ホームページ等で公開している。APの内容は、法学部の教育を受けるために必要な知識・技能、能力、態度を明確に示しており、志願者においても理解しやすい内容となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・法学部ホームページ

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

法学部では、APに従い、入学者選抜を行っている。APでは、真摯に法律学・政治学を学ぶ熱い意欲のほか、国語・外国語・地理歴史・公民・数学・理科の基礎的能力や知識を要求しているが、特別入試においてはこれらの知識・能力の判定が難しい場合もあり得ることから、高校での学修状況（成績評価）、推薦書、志望理由書等の書類審査のほか、小論文（作文）試験及び面接試験を課すことで、多面的かつ総合的な評価を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

全学的な方針に従い、受験上特別な配慮が必要となる場合には、あらかじめ問い合わせを行うことされており（入学試験要項において明示されている）、障がい学生支援説が中心となって、事前相談の機会を設けている。また、実際の試験においては、別室受験等の対応が行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・入学試験要項

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

AP等の3つの方針や履修モデル、授業料等の費用、経済的支援に関する情報等、入学試験にかかる情報の提供は、大学ホームページや入学試験要項において行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 法学部ホームページ
- ・ 入学試験要項

<定員管理について>（評定：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

大学設置基準に基づき、教員組織や校舎・教室等の設備の状況等の諸条件を考慮しつつ、専任教員一人あたりの学生数が適切なものとなるように入学者定員及び収容定員の適切な設定を行っている。入学試験における合否判定においては、教育効果の面を考慮して、とりわけ大幅な定員超過となることのないように十分に配慮して判定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 根拠資料なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

法学部における収容定員に対する在籍学生数が大幅に超過することのないよう判定において配慮している。未充足となる場合については、入学試験の合否判定において厳しめの判定を行いつつ、未充足の場合には繰上げ合格により適切に対応している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 根拠資料なし

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評定：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

入試委員（2名）が各学科ごとに前年度の判定結果の概要（志願者数の増減、手続者数・手続率の推移等）を分析し、法学部教授会において報告を行っている。また、入学試験制度や選考方法の適切性について検討を行ったうえで、改正の必要がある場合には、教授会に付議される。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

特別入試についての出題、可否の判定基準、選考方法等の適切性については、入試区分ごとに、各年度の入学試験選考委員会において検討され、適宜修正が行われる。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・根拠資料なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔3〕経営学部

<教育研究上の目的について>（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

経営学部の目的は、「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的な視野から独創的な発想により、主体的に社会の諸問題の解決に取り組んでいける能力を開発する（社会知性の開発）」という本学のビジョンを踏まえ、理論と実践の融合を経営学部の教育方針としている。この理念のもとで、経営学科では「組織のさらなる発展（scale-up）」を、ビジネスデザイン学科は「組織や新規ビジネスの創造（start-up）」に貢献できる人材を育成することを目的している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・専修大学 Web サイト
- 三つの方針（卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ）について（学部）
- ・『経営学部学修ガイドブック 2024』 4～7 ページ

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

学部・学科ごとに人材育成に関する目的やその他の教育研究上の目的を定め、専修大学学則第2条の2において明示している。この目的は大学ホームページにて公表している。一方、学部・学科の目的は、新入生に配布する『学修ガイドブック』や大学ホームページにも掲載し、周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・専修大学Webサイト
- 三つの方針（卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ）について（学部）
- ・『経営学部学修ガイドブック 2024』 4～7 ページ

＜学修成果の明確化について＞（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

卒業認定・学位授与の方針（DP）は、全学的な方針の下で、教授会で審議・承認を得て設定している。具体的に、経営学科およびビジネスデザイン学科ともに展開されているほとんどの科目において、学生たちが修得すべき知識や技能、態度を明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・専修大学Webサイト
- 三つの方針（卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ）について（学部）
- 専修大学Web 講義要項(シラバス)学部用
- ・『経営学部学修ガイドブック 2024』 4～7 ページ

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

教育課程編成・実施の方針の「学修成果の評価方法」において、学生が修得すべき知識、技能、態度などの学修成果を明示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 専修大学 Web サイト
三つの方針（卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ）について（学部）
- ・ 専修大学 Web サイト
専修大学 Web 講義要項(シラバス)学部用

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

個々の授業科目の学修成果は各教員の責任下で評価されている。ただし、本学シラバスにおいて「卒業認定・学位授与の方針との関連」の欄を設けて、各授業科目と DP の関連について明記するとともに、DP と関連付けた評価方法を実施するように促している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 講義要項（シラバス）執筆要領
令和 5 年度第 11 回経営学部カリキュラム委員会 [令和 5 年 11 月 28 日]
議題 8. 講義要項（シラバス）執筆要領について
- ・ 専修大学 Web サイト
専修大学 Web 講義要項(シラバス)学部用

＜教育課程について＞（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

経営学は、経営、会計、経済、マーケティング、情報、データサイエンスなど、多様な学問領域で構成されている。基本的に、専門科目はこれらの専門分野の教員たちがグループを作り、それぞれの専門分野において基礎科目、演習科目、基幹科目、発展科目、応用科目、関連科目の科目群として段階的に開講している。各授業科目の到達目標は、各科目のシラバスの最初に明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 専修大学 Web サイト
専修大学 Web 講義要項(シラバス)学部用

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

教育課程は、全学カリキュラム協議会が策定した、転換・導入科目、教養科目、外国語科目、専門科目の4つの科目区分で編成している。専門科目の場合、経営学の体系に従って、10のテーマ制度を軸に、基礎科目、演習科目、基幹科目、発展科目、応用科目、関連科目に分類し、セメスター単位での年次・学期配当とすることで学修における順次制と体系性を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 経営学部 転換・導入科目、教養科目、外国語科目、専門科目一覧
『経営学部学修ガイドブック 2024』 22～25 ページ

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

基本的に1科目あたり2単位が軸となっているが、大学設置基準の定めに従い、授業時間だけではなく、予習と復習の時間を確保している。予習復習の時間はシラバスに明記している。具体的な予習・復習の時間については、科目の性格によって異なっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 講義要項（シラバス）執筆要領
令和5年度第11回経営学部カリキュラム委員会〔令和5年11月28日〕
議題8. 講義要項（シラバス）執筆要領について
- ・ 専修大学 Web サイト
専修大学 Web 講義要項(シラバス)学部用

<授業内容・方法について>（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

授業形態は学修の効果性を念頭に置きながら、学部カリキュラムで決めている。多くの授業を対面で行っているものの、大規模な講義科目や特殊な演習科目等においては、いつでも復習が可能なオンライン・オンデマンドの授業形式も用いている。必修科目においては、履修者が多くなならないようクラス分けによって複数展開し、複数の教員が担当する場合には多くの科目が統一シラバスによって学修内容を統一している。演習科目は小人数で実施し、アクティブ・ラーニングやディクテーションを用いている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 令和6年度オンライン授業の検討について
令和5年度第9回経営学部教授会〔令和5年10月10日〕
報告事項14. 令和6(2024)年度オンライン授業の検討について
- ・ 専修大学 Web サイト
専修大学 Web 講義要項(シラバス)学部用

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

特に履修者が多い科目のうち、面接授業に相当する教育効果を有する科目については、遠隔授業を活用している。その場合、同時双方向型授業、オンデマンド型授業、同時配信型遠隔授業の3通りを実施している。特にオンデマンド型授業では、欠席者や体育会所属の学生たちは後日でも学べるように工夫している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・令和6年度オンライン授業の検討について

令和5年度第9回経営学部教授会〔令和5年10月10日〕

報告事項14. 令和6(2024)年度オンライン授業の検討について

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

転換・導入科目や1年生の基礎科目などにおいては、履修者が多くならないように複数展開してクラス分けによる履修をしている。外国語科目や演習科目は履修者が30～50名程度になるよう展開数を確保している。ゼミナールについては教員と学生でミスマッチが起きないように面接をしたうえで履修させており、履修者は各年次で多くても20名程度である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・専門科目担当者表

令和5年度第18回経営学部教授会〔令和6年3月19日〕

報告2. 令和6(2024)年度経営学部専門科目担当者について

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

専修大学学則第5条の5に定める1単位あたりの時間に従っている。例えば講義および演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位としている。各学期の授業期間は15週に設定している。卒業要件単位は124単位で、各年次における1年間の履修登録単位数の上限を44単位と設けている。また、3年次への進級時に卒業要件単位を60単位以上を修得することを要件として設定している。一方、単位の実質化を図るために、シラバスに予習・復習の時間を明示している。また、卒業論文については、カリキュラム委員会が成績評価の参考としてルーブリックを作成しており、教授会の第三者教員が提出物の確認を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 進級の条件
『経営学部学修ガイドブック 2024』 21 ページ
- ・ 専修大学 Web サイト
専修大学 Web 講義要項(シラバス)学部用
- ・ 卒業論文提出
令和5年度第11回経営学部教授会〔令和5年11月14日〕
議題2. 令和5（2023）年度卒業論文の提出について
- ・ 経営学部卒業論文ルーブリック

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバスの作成においては、経営学部カリキュラム委員会が主体となってシラバス執筆要領を作成し、担当教員に依頼している。

提出されたシラバスについても同委員会にて、クロスチェックし、執筆要領に沿った作成がなされているか確認している。シラバスは学生との約束ということで、明記された評価方法を含めシラバス通りに授業や成績評価が進められるかの確認にも用いている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 講義要項（シラバス）執筆要領
令和5年度第11回経営学部カリキュラム委員会〔令和5年11月28日〕

議題 8. 講義要項（シラバス）執筆要領について

- ・専修大学 Web サイト

専修大学 Web 講義要項(シラバス)学部用

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価は各教員の権限としている。ただし、シラバスで「成績評価方法・基準」を必須記載項目としている。一方、同一科目を複数教員が担当する場合は、到達目標や学修内容を統一するよう担当者間で調整し、同じ試験問題の使用やできるだけ同じ評価基準とすることで、公正で公平さを保つように工夫している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・講義要項（シラバス）執筆要領

令和 5 年度第 11 回経営学部カリキュラム委員会 [令和 5 年 11 月 28 日]

議題 8. 講義要項（シラバス）執筆要領について

- ・専修大学 Web サイト

専修大学 Web 講義要項(シラバス)学部用

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

成績評価基準はシラバスに明記している。一方、成績の確認期間を設け、疑義申立ての手続きを学生へ明示しており、申し立てに対してはカリキュラム委員会が学生と科目担当者の仲介となり、きめ細かく対応している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 前期成績確認について

令和6年度第7回経営学部カリキュラム委員会〔令和6年7月9日〕議題（2）前期成績確認について

- ・ 成績評価への疑義について

『2024年度経営学部時間割』 39 ページ

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

外国語科目においては、外部団体が実施している資格試験を合格している場合、単位として認定し、学生たちがより知識を深める機会を与えていると主に、外部の教育機関との連携を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 資格試験による単位認定に関する取扱内規

- ・ 資格試験による単位認定（英語）

『経営学部学修ガイドブック 2024』 51～52 ページ

- ・ 資格試験による単位認定（英語以外の外国語）

『経営学部学修ガイドブック 2024』 54～55 ページ

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学則や履修規程に定める要件に基づき教授会で定める手続きに従って実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則・教授会資料・判定資料

・学位の授与

専修大学学則第 18 条

・単位数及び授業科目

専修大学履修規程第 4 条、別表第 1

・卒業判定

令和 5 年度第 16 回経営学部教授会〔令和 6 年 2 月 21 日〕

議題（14）令和 5(2023)年度第 1 次卒業判定について

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

卒業時に学生の質を担保する観点から、学部の DP に基づき卒業要件を定め、教授会にて審議の上、卒業と学位授与を決定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・専修大学 Web サイト

三つの方針（卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ）について（学部）

・『経営学部学修ガイドブック 2024』 4 ページ

・卒業判定

令和 5 年度第 16 回経営学部教授会〔令和 6 年 2 月 21 日〕

議題（14）令和 5(2023)年度第 1 次卒業判定について

<学修成果の把握および評価について>（評点：B）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

令和 6 年 3 月 21 日開催の内部質保証推進委員会における「専修大学アセスメントプランに基づく点検・評価について（依頼）」により、令和 4・5 年度卒業生のダッシュボードを活用し、「科目ナンバリン

グ」を用いて、学生の修得単位数がDP・CPに基づくカリキュラムとして経営学部意図に合致しているかの検証を行った。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 経営学部におけるアセスメントプラン（プログラムレビュー）の実施について
令和6年度第6回経営学部教授会〔令和6年6月25日〕
議題（3）経営学部におけるアセスメントプラン（プログラムレビュー）の実施について

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評点：A）

（1）達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

（2）最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

全学の自己点検・評価委員会の下、経営学部自己点検・評価実施委員会を組織し、大学基準協会の自己点検項目と独自の項目を活用しながら、体系的に取り組んでいる。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 専修大学自己点検・評価規程

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

自己点検の際に必要な情報を集めるために、授業に関する学生アンケートなどを実施して、全体的な傾向や課題などを教授会にて共有している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 令和 5 年度前期 授業に関する学生アンケートの実施について
令和 5 年度第 5 回経営学部教授会 [令和 5 年 6 月 13 日] 報告事項 (3) 令和 5(2023)年度前期 経営学部専門科目における授業に関する学生アンケートの実施について
- ・ 令和 5 年度前期 授業に関する学生アンケートの結果について
令和 5 年度第 12 回経営学部教授会 [令和 5 年 11 月 28 日]
報告事項 (5) 令和 5(2023)年度後期 授業に関する学生アンケートの実施について

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

授業に関する学生アンケートなどの統計データの分析を活用しながら、自己点検・評価の客観性を高めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

卒業生や育友会など、専修大学のステークホルダーの意見をより積極的に反映すべきである。

【根拠資料】

- 学部自己点検委員会資料、教授会資料
- ・ 授業に関する学生アンケートの結果について
令和 5 年度第 2 回経営学部自己点検・評価実施委員会 [令和 5 年 11 月 25 日] 議題 (1) 令和 5 年度前期 授業に関する学生アンケートの結果について
- ・ 令和 5 年度前期 授業に関する学生アンケートの結果について
令和 5 年度第 12 回経営学部教授会 [令和 5 年 11 月 28 日]
報告事項 (5) 令和 5(2023)年度後期 授業に関する学生アンケートの実施について

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

授業に関する学生アンケートを実施し、統計分析をしたうえで、その結果を教授会にてフィードバックし、授業の改善やさらなる向上に役立てている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・授業に関する学生アンケートの結果について

令和5年度第2回経営学部自己点検・評価実施委員会〔令和5年11月25日〕議題（1）令和5年度前期 授業に関する学生アンケートの結果について

- ・令和5年度前期 授業に関する学生アンケートの結果について

令和5年度第12回経営学部教授会〔令和5年11月28日〕

報告事項（5）令和5(2023)年度後期 授業に関する学生アンケートの実施について

＜入学者受入れの方針について＞（評点：A）

（1）達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

（2）最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

全学的な方針の下で、経営学部の入学者受入れの方針（AP）を定めている。入学者受入れ方針については、経営学部のホームページにて公開している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・専修大学 Web サイト

三つの方針（卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ）について（学部）

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

経営学部の入学者受入れの方針（AP）に基づき、入学者選抜を実施している。
例えば、公募制推薦入学試験の場合、求める人材像を入学試験要項にて明確にしたうえで、書類審査、面接やプレゼンテーションなどを通じて選考している。また、選考する教員と判定する教員を分けることによって、公正な選抜を心かけている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・専修大学 Web サイト

三つの方針（卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ）について（学部）

・公募制推薦入学試験要項

入学試験要項/出願書類ダウンロード 公募制推薦入学試験（経営学科・ビジネスデザイン学科）入学試験要項

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

入学センターが主体となり、全学的体制で行われている。特別な配慮が必要な受験生は別室受験などの措置を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・専修大学 Web サイト

障がい等のある方への受験上の配慮について

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

大学ホームページや入学試験要項などを用いて情報を提供している。また、入学センターと教務課の

経営学部担当者が連携して、問い合わせに対応している。重要な案件については経営学部入学試験委員会及び教授会の議論を経て、情報公開を決めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 専修大学 Web サイト
学部入試情報

<定員管理について>（評点：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

各年度の 5 月 1 日現在の学生数を教授会にて共有するとともに、専任教員一人当りの学生数の比率を適切に維持するために、特に入学試験判定をする際に大幅な定員超過がないように心掛けている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

判定がますます厳しくなっており、より精度の高い判定モデルの構築が必要である。

【根拠資料】

- ・ 学生数について
令和 6 年度第 4 回経営学部教授会〔令和 6 年 5 月 28 日〕
報告事項（22）令和 6(2024)年度学生数について

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

基本的に大幅な超過がないように心掛けている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・入学試験判定について

令和6年度第6回経営学部教授会〔令和6年6月25日〕

報告事項（3）令和6(2024)年度経営学部入学試験判定に関する報告について

＜入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて＞（評点：A）

（1）達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

（2）最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

入試判定終了後、経営学部入学試験委員長がそれぞれの入学試験制度別の判定結果を分析し、経営学部入学試験判定に関する報告を取りまとめて
教授会にて報告している。その際、判定目標数と手続者との乖離を制度別に分析し、入学者のニーズの変化などの環境変化とともに、学部の入試戦略の点検も行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・入学試験判定について

令和6年度第6回経営学部教授会〔令和6年6月25日〕

報告事項（3）令和6(2024)年度経営学部入学試験判定に関する報告について

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組み
の適切性

【現状説明】

前年度の経営学部入学試験委員長が作成する前年度の経営学部入学試験判定に関する報告に基づき、経営学部入学試験委員会にて入学試験制度や募集人員を再点検している。例えば、指定校制推薦入学試験の場合、前年度の結果の点検と評価に基づき、指定校の基準を毎年見直している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・入学試験判定について

令和6年度第6回経営学部教授会〔令和6年6月25日〕

報告事項（3）令和6(2024)年度経営学部入学試験判定に関する報告について

第 15 期 自己点検・評価最終報告 商学部

<教育研究上の目的について>（評定：A）

(1) 達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

(2) 最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

商学部は、ビジネス・インテリジェンス、すなわちビジネスに必要とされる実践的な知識、技能、倫理観及び国際的視点の教育・研究を通して、社会的事象の本質を理解し、持続可能性と多様性を尊重しつつ、真に行動を起こすことのできる人材を養成することを目的としている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則

商学部学修ガイドブック

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

教育研究上の目的は、『商学部学修ガイドブック』、及び 本学のウェブサイトで公表することで、教職員、学生に周知するとともに、社会にも公表されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部学修ガイドブック

商学部ホームページ

<学修成果の明確化について>（評定：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明

確化

【現状説明】

各科目、100 点満点での成績評価を行った上で、S から C 評価までの 7 段階の成績評価を行っている。また、G P A を算出し、優れた学生には「ディーンズ・リスト」として学部長表彰を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部学修ガイドブック

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)にもとづき、『商学部学修ガイドブック』において、必要な教育課程、及び教育・学修方法が適切に記されている。また、各授業科目のシラバスにおいては、当該科目における学修方法（到達目標、受講における準備事項、単位修得の要件など）を明示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部学修ガイドブック

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

学位授与方針にもとづき、各科目のシラバスをカリキュラム委員会等でクロスチェックすることで、学修成果と学位との適切な検証がなされている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料

商学部教務委員会資料

<教育課程について>（評定：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

カリキュラムポリシーにもとづき、専門科目は「学部基礎科目」「学科基礎科目」「コース科目Ⅰ」「コース科目Ⅱ」「選択科目」の科目群を段階的に配置することで、学問体系に沿った科目展開を図っている。各科目の到達目標は、シラバスに明記することで、学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部講義要項

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

1～2年次には、「学科基礎科目」を配置し、2年次後期以降はコース制にもとづいて、学生個々の学修意欲や将来目標にあわせてコース選択ができるようにしている。さらに、学修テーマ制にもとづく副専攻認定制度によって、より高度で広範な知識を習得できるようにしている。これらの学修過程は、『商学部学修ガイドブック』に記載することで、可視化されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部学修ガイドブック

商学部ホームページ

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

学生の学習時間については、授業評価アンケート等で実態を把握し、各教員にフィードバックしている。それを踏まえた上で、各科目のシラバスには、準備学習の内容や学修時間とともに、単位取得要件を明記し、学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部講義要項

<授業内容・方法について>（評定：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

カリキュラム・ポリシーにもとづき、各科目の授業形態や授業方法を設定するとともに、授業評価アンケート等によって適切性を点検している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部学修ガイドブック

商学部講義要項

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

本学情報科学研究所『オンライン授業を展開するための簡易ガイド』等を活用するとともに、科目特性や講義内容などに沿った遠隔授業を一部の科目で展開している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

1～2 年次に履修する英語は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成している。他の外国語は、初級・中級・上級の学習段階における到達目標を明確にした内容としている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料

評価の視点④ 単位の実質化を図る措置

【現状説明】

学則第6条および第17条にもとづき、単位制度の趣旨に沿った単位認定を行っている。また、各科目のシラバスでは、単位取得要件を明示し、学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則

商学部講義要項

評価の視点⑤ シラバスの作成と活用

【現状説明】

各科目では、カリキュラムポリシーにもとづいたシラバスが作成され、達成目標、準備学習の内容や学習時間、単位取得要件などを明記し、学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部講義要項

商学部学習ガイドブック

<単位認定・学位授与について>（評定：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点① 成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

学則第6条にもとづき、客観性と厳格性にもとづいた成績評価を行うとともに、学則第5条にもとづく単位数の計算基準にもとづいて、単位認定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部講義要項

商学部学習ガイドブック

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

上記学則にもとづく成績評価と単位認定については、『商学部学修ガイドブック』や、各科目のシラバスに明記し、学生に周知している。

学生からの成績照会については、成績調査確認票による回答を行っており、上記ガイドブックに明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則

商学部講義要項

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

既修得単位の認定にあたっては、大学設置基準第30条、及び学則第5条の規定にもとづき、授業内容・時間等を確認し、教務委員会、教授会の議を経て厳正に行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部学習ガイドブック

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学則第18条およびディプ ロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)にもとづき、教授会が学位授与者の確認を行い、学長と学部長が学位記を発行している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

上記の体制と手続きに則り、卒業認定と学位授与を適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則

<学修成果の把握および評価について>（評定：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学修成果については、各科目における成績評価とGPAとともに、授業評価アンケート等による把握と評価を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評定：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

「専修大学自己点検・評価規定」にもとづき、学長のもと、自己点検・評価委員会が設けられ、2年周期での定期的な点検・評価が行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料

企画構想委員会資料

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

学則等の諸規定、学修ガイドブック、学生の就学状況や成績に関する情報などをもとに、適切な点検・評価を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学自己点検・評価規程

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

「専修大学自己点検・評価に関する外部評価委員会（2020年度設置）」による『専修大学自己点検・評価に関する外部評価報告書』をととして、提言内容が各組織にフィードバックされている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

教育開発支援委員会と内部質保証推進委員会の共催による FD 研修などをとおして、教育方法の改善・向上に取り組んでいる。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料
企画構想委員会資料

<入学者受入れの方針について>（評定：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

ビジネスに必要とされる実践的な知識・技能を持つ人材を養成するというディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーにもとづき、「コミュニケーション能力を備え、主体的な学びや協働を進められる人材」というアドミッション・ポリシーを設定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

上記アドミッション・ポリシーのもと、入学者選抜制度では、学力試験、書類選考、面接、小論文などを課した適切な選抜が行われている。教授会、及び入試委員会では、こうした制度について定期的に検証・改善を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部ホームページ

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

様々な入試枠を設けることで受験機会の提供に努める一方、入試の手続きや試験会場におけるサポート体制や環境整備等を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

入学試験要項

商学部入試委員会資料

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

ホームページをととした入学案内（入試要項や願書、デジタルパンフレット等）だけでなく、学内で行うオープンキャンパス、全国で行われる進学相談会や入試説明会など、様々な機会をととして情報提供を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

入学試験要項

商学部入試委員会資料

<定員管理について>（評定：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

2023（令和5）年度の学生数（1～4年次生）の割合は、マーケティング学科で定員（438人）の1.03～1.13倍、会計学科で定員（210人）の1.01～1.16倍と、入学者数・在籍者数は適切に保たれている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部ホームページ
入学試験要項

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

入学定員を大幅に超過しそうな場合は、後期試験の判定で調整し、未充足になりそうな場合は、繰り上げ合格による調整をとおして、大きな過不足が生じないようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評定：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

入試委員会では、前年度までの成果を踏襲しながら、現状把握と課題の整理を行うとともに、改善策について検討している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料
商学部入試委員会資料

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組み
の適切性

【現状説明】

入試委員会で検討された入学者の受入れに関する課題や改善策は、教授会で審議され、適切な対策が講じられている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

商学部教授会資料

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔05-1〕日本文学文化学科（文学部）

＜教育研究上の目的について＞（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

大学を取り巻く厳しい社会環境の変化に対応していくため、本学では、大学の基本的な方向性を全学的観点から検討し、その結果、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、21 世紀ビジョンとして「社会知性の開発（Socio-Intelligence）」を掲げ、このビジョンのもと教育・研究体制の改革に取り組むとともに、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に積極的な大学運営を行っている。本学の 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」の具体的な推進に向け文学部では、学科ごとに学則第 2 条の 2 において、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的を定めている。これらの目的は、高等教育機関の目的として適切である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

本学の目的は、学則第 1 条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、学則第 2 条の 2 において適切に明示している。学部・学科の目的はそれぞれ大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表するとともに、『学修ガイドブック』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

＜学修成果の明確化について＞（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

学部・学科では、学士課程教育における学習成果について、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」を頂点に据えた3層構造からなる「共通観点」を設定している。具体的には、第2階層として「知識・理解」「汎用的技能」「知識体系に基づく思考と知の創出」「態度・志向性」を設定し、第3階層は第2階層を更にブレイクダウンした10の観点を設定している。なお、学科ごとのDPは、第2階層の各観点を網羅したものとなっている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

本学では、全学の三つの方針を設定するとともに、学部・各学科の三つの方針を設定している。全学のCPでは、DPに掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、各学部・学科に設置する科目を体系的に編成し、講義・演習等を組み合わせた授業を行うことを明記している。併せて、教育課程の実施に係る「教育課程の構成と目的」、「教育課程上の各種取組」および「学修成果の評価方法」についても方針を定めている。また、学部・各学科のCPでは、冒頭においてDPに掲げる目標を達成するための教育課程となっていることが分かる記述を行ったうえで、「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」を明記している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

本学では、「三つの方針（DP・CP・AP）策定要領」に基づき、学部・学科の教育課程の編成・実施方針に記載する項目を「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」の3項目とし、全学（学部）の教育課程の編成・実施方針において、「学修成果の評価方法」を示し、アセスメントプラン、カリキュラム・マップにより検証することとしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<教育課程について>（評点：A）

（1）達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

（2）最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

各授業科目の到達目標については、統一のフォーマットにより作成しているシラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

専修大学 Web 講義要項

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

学部・学科の教育課程は、順次性及び体系性に配慮して「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」の4つの科目区分で編成している。また、「専門科目」においても、基礎から応用・発展的内容へ段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成しており、学習の順次性に配慮して年次配当を行っている。さらに、「科目ナンバリング」によっても、順次性及び体系性を明確なものにしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学設置基準第21条に定められた単位制度の趣旨に基づき、学則第5条の5において規定している。これに基づいて、各授業科目の単位を適切に設定している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

専修大学 Web 講義要項

<授業内容・方法について>（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

講義形式は最大 300 名程度、演習形式は学生数に一定の制限を設け、原則として最大 40 名程度、実習形式は原則として 10 名程度としており、授業形態に配慮した 1 授業当たりの学生数として適切である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

単位の実質化を図るための措置としては、「大学設置基準」の趣旨に基づき、学士課程については各年次における1年間の履修登録単位数の上限数を50単位未満に設定している（資格課程関連科目を除く）。また、各学期の授業期間を15週に設定し、卒業要件単位は124単位としている。これらの情報は、『学修ガイドブック』に記載し、学生に対し周知している。

文学部では、第3期大学評価において、一定数の学生が50単位以上履修していることについての質問を受け、「次期のカリキュラム改正（実施時期は現時点で未定）において文学部各学科の教育課程を見直す際には、学年によって偏った履修登録単位数となることを避けるための方策（必修科目等の配置、各授業科目の配当年次、年間履修上限単位の設定等）を検討するとともに、全学的には「教員養成系の学部・学科を設置していない本学における教職課程等の取扱い」をテーマに議論し、従来の履修指導のみによらない単位の実質化を図るための措置を講じる必要があると考えています」と回答している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。2020（令和2）年度からは、新たに「卒業認定・学位授与方針との関連」を必須の項目として設けることで、当該授業科目とDPとの関連性を明確にした。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

専修大学 Web 講義要項

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価の客観性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、GPA 制度を導入している。具体的には、学則第 17 条第 2 項において、試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とし、60 点未満を不合格とするとしている。また、成績評価の細分は、定期試験規程第 11 条において規定しており、成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、GPA を算出している。なお、これらの内容は、履修ガイダンスをとおして学生に対し周知しているほか、『学修ガイドブック』にも情報を掲載している。成績評価の厳格性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、各授業科目のシラバスに「到達目標」「授業計画」「成績評価の方法及び基準」を明示し、これに基づいて厳格な成績評価を行っている。学生からの成績評価に関する疑義の申し立てに対しては、カリキュラム委員会（教務委員会）が中心になって対応することで厳格性を担保している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

専修大学 Web 講義要項

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

日本文学文化学科は卒業論文必修とし、「手引き」を定めて、体裁や提出期限などを厳格に運用している。また提出された卒業論文は口述試験の審査を経て評価され、内容が一定の水準を満たさなければ、単位が認定されない。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

文学部時間割

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

他大学等で修得した単位や入学前に修得した単位の認定に関しては、大学設置基準に基づき適切に行っている。学則第5条の3第1項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」と規定し、また、同条第2項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。(1)短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修 (2)本大学へ入学する前の前号の学修」と規定している。これらの規定により修得したものとみなし、又は授与することのできる単位数については、同条第3項において「学生が編入学又は学士入学をした場合を除き、60単位を超えないものとする」としている。なお、既修得単位の認定にあたっては、単位制度の趣旨に基づいて授業内容・時間等を確認し、カリキュラム委員会（教務委員会）、教授会の議を経て厳正に行われている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る責任体制、手続は、学則第18条及び学位規程において規定し、これに基づき学部教授会規程を定め、教授会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

学位授与に関しては、各学部・学科ごとに定めた DP を踏まえ、学則第 18 条及び学位規程に明示し、適切に授与されている。学部・学科の卒業要件は、学生に配付する『学修ガイドブック』にあらかじめ明記するとともに、大学 HP においても公表している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学生×授業ごとの成績評価を起点とした学修成果の把握・可視化の実現を目指しており、このことは、2022（令和 4）年度から運用を開始するアセスメントプランにも記載している。また、この点検・評価プロセスを実現するために重要な、「測定可能な学修目標の設定（DP の改正）」および「各授業科目と学修目標との対応（カリキュラム・マップ）」の策定についても行っており、これらを組織的に活用することで、各学位授与方針で定めた学修成果の実態を測定・把握することとしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

各学部・各研究科における教育課程及びその内容、方法の適切性については、各学部自己点検・評価実施委員会及び各研究科自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

専修大学 Web 講義要項

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

本学では、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受入れの方針を定めており、大学 HP において公表している。この方針は、本学の教育目標である「社会知性の開発」に向けた教育を行うために、多様な入学者選抜の方式により、大学入学までの教育課程において「本学での学修の基礎となる知識・技能」「社会の諸課題の解決に取り組むための思考力やコミュニケーション能力」「主体性を持って社会知性の開発を目指す態度」の各能力を身に付けている人材を求めているとしてい

る。各学部・学科の AP も、全学の方針に基づき策定し、大学 HP・入学試験要項などにおいて公表している。この方針には、入学者に求める関心・意欲、資質・能力等の人物像や判定方法が明確に示されており、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針にも整合した内容となっている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

一般選抜の各入学試験では、各学部の AP に基づき、本学での学修に必要と思われる基礎的学力を中心に、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的、総合的な観点から評価できると判断し、従来の出題形式を継続することとした。また、一般選抜前期入学試験では従来どおり、英語外部試験を活用する入学試験を実施することとした。なお、当初は、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に関する経験」等を WEB 出願時に本人に入力してもらうことを予定していたが、2021（令和 3）年度の一般選抜では求めないこととした。学校推薦型選抜については、実施学部の AP に基づき、従来の入学試験同様に「学力の 3 要素」の多面的、総合的な評価を実現するため、「学校長による推薦書」「調査書」「志願者本人が記載する資料」等による評価に加え、指定校制推薦入学試験では、新たな評価方法として「小論文」「面接」等を加えることとした。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

本学では、身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供は、『専修大学入学ガイド』や大学 HP などによって、適切に行っている。また、入学試験要項においても学費及び各種の奨学生制度について情報提供を行っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<定員管理について>（評点：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

本学の入学定員及び収容定員は、大学設置基準に基づき、教員組織、校地・校舎等の施設・設備その他教育上の諸条件を総合的に考慮して、適切に設定している。また、収容定員の管理については、毎年度、定員充足率等を勘案し、これに基づき適正な合否判定を行っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

学部・学科における収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応のひとつとして、繰上合格制度が挙げられる。本制度の導入により、仮に入学定員が未充足となった場合においても、繰上合格を行うことで、定員充足を図ることが可能としている。また、在籍学生数の適切な管理という観点から見ると、転部科試験の実施や低単位修得者への対策等を行うことで、退学・除籍者の抑制を図っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

個人情報保護の観点から根拠提示は控える

＜入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

日本文学文化学科では、入学試験制度や選考方法等について学科として検討する際には、学科会議で検討された内容を、学部長、学科長、全学の入学試験委員（2名）で議論・調整し、その結果を教授会に付議している。学校推薦型選抜や特別入試（学部独自の入試）の問題作成、全ての入学試験の判定については、学部長と、入学試験制度毎に学科から選出された入学試験判定委員が行っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔05-2〕英語英米文学科（文学部）

<教育研究上の目的について>（評点：）

(1) 達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

(2) 最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

大学を取り巻く厳しい社会環境の変化に対応していくため、本学では、大学の基本的な方向性を全学的観点から検討し、その結果、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、21 世紀ビジョンとして「社会知性の開発（Socio-Intelligence）」を掲げ、このビジョンのもと教育・研究体制の改革に取り組むとともに、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に積極的な大学運営を行っている。本学の 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」の具体的な推進に向け文学部では、学科ごとに学則第 2 条の 2 において、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的を定めている。これらの目的は、高等

教育機関の目的として適切である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則第2条の2

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

本学の目的は、学則第1条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、学則第2条の2において適切に明示している。学部・学科の目的はそれぞれ大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表するとともに、『学修ガイドブック』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

英語英米文学科では、X（旧 Twitter）のアカウント上で、学科のイベントや各教員のゼミナールの紹介など、本学科の教育研究上の取り組みに関する様々な情報を学内外に発信している。また、特別総合講義や学術講演会等の学科独自のイベントについては、大学 HP にも情報を掲載し、本学科の教育研究上の目的や魅力をより広く周知できるよう努めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則第2条の2

専修大学ホームページ

文学部学修ガイドブック

専修大学英語英米文学科ホームページ

専修大学文学部英語英米文学科@senshu_DeptEng（X のアカウント）

<学修成果の明確化について>（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

学部・学科では、学士課程教育における学習成果について、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」を頂点に据えた3層構造からなる「共通観点」を設定している。具体的には、第2階層として「知識・理解」「汎用的技能」「知識体系に基づく思考と知の創出」「態度・志向性」を設定し、第3階層は第2階層を更にブレイクダウンした10の観点を設定している。なお、学科ごとのDPは、第2階層の各観点を網羅したものとなっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

本学では、全学の三つの方針を設定するとともに、学部・各学科の三つの方針を設定している。全学のCPでは、DPに掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、各学部・学科に設置する科目を体系的に編成し、講義・演習等を組み合わせた授業を行うことを明記している。併せて、教育課程の実施に係る「教育課程の構成と目的」、「教育課程上の各種取組」および「学修成果の評価方法」についても方針を定めている。また、学部・各学科のCPでは、冒頭においてDPに掲げる目標を達成するための教育課程となっていることが分かる記述を行ったうえで、「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」を明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

本学では、「三つの方針（DP・CP・AP）策定要領」に基づき、学部・学科の教育課程の編成・実施方針に記載する項目を「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」の3項目とし、全学（学部）の教育課程の編成・実施方針において、「学修成果の評価方法」を示し、アセスメントプラン、カリキュラム・マップにより検証することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学カリキュラム・マップ

＜教育課程について＞（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

各授業科目の到達目標については、統一のフォーマットにより作成しているシラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

Web 講義要項(シラバス)

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

学部・学科の教育課程は、順次性及び体系性に配慮して「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」の4つの科目区分で編成している。また、「専門科目」においても、基礎から応用・発展的内容へ段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成しており、学習の順次性に配慮して年次配当を行っている。さらに、「科目ナンバリング」によっても、順次性及び体系性を明確なものにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学設置基準第21条に定められた単位制度の趣旨に基づき、学則第5条の5において規定している。これに基づいて、各授業科目の単位を適切に設定している。また、シラバスに具体的な準備学習の内容と学習時間を明示することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則第5条の5

Web 講義要項(シラバス)

<授業内容・方法について> (評点：A)

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

講義形式は最大 300 名程度、演習形式は学生数に一定の制限を設け、原則として最大 50 名程度、実験・実習形式は原則として 10 名程度としており、授業形態に配慮した 1 授業当たりの学生数として適切である。

英語英米文学科では、全学共通の初年次教育科目である「専修大学入門ゼミナール」「専門入門ゼミナール」において、20 名程度のクラスできめ細かな導入教育をおこなっている。3・4 年次の「ゼミナール 1・2・3・4」においても、卒業研究の指導を丹念に行うために、受講者数が最大 15 名程度になるよう人数調整を行っている。これに加え、本学科では、学生の語学力の養成が重要な課題であるため、Speaking, Integrated English, Composition の授業では 1 クラス 20 名程度の少人数のクラス編成を行い、教育的効果を高めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

専修大学英語英米文学科ホームページ

英語英米文学科会議資料

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

英語英米文学科では、コロナ禍において教育的な効果が確認されたことから、引き続き遠隔授業を全面的に(半期最大 15 回まで)、あるいは部分的に(半期最大 7 回まで)活用している。特に、受講生が多い授業において、遠隔授業は効果的に活用されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

英語英米文学科会議資料

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

英語英米文学科では、学生の英語力に合わせて効果的に指導を行うために、TOEIC IP を活用し、1・2 年次の学生のクラス分けを行っている。本学科の学生は、1 年次の秋に「英語コミュニケーションコース」と「英語文化コース」のどちらかを選択し、2 年次から各コースで専門的な学びを深めていくが、人数の

調整が必要な場合には、1 年次の秋の TOEIC IP の結果を参照することがある。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学英語英米文学科ホームページ

英語英米文学科会議資料

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

・単位の実質化を図るための措置としては、「大学設置基準」の趣旨に基づき、学士課程については各年次における 1 年間の履修登録単位数の上限数を 50 単位未満に設定している（資格課程関連科目を除く）。また、各学期の授業期間を 15 週に設定し、卒業要件単位は 124 単位としている。これらの情報は、『学修ガイドブック』に記載し、学生に対し周知している。

・文学部では、第 3 期大学評価において、一定数の学生が 50 単位以上履修していることについての質問を受け、「次期のカリキュラム改正（実施時期は現時点で未定）において文学部各学科の教育課程を見直す際には、学年によって偏った履修登録単位数となることを避けるための方策（必修科目等の配置、各授業科目の配当年次、年間履修上限単位の設定等）を検討するとともに、全学的には「教員養成系の学部・学科を設置していない本学における教職課程等の取扱い」をテーマに議論し、従来の履修指導のみによらない単位の実質化を図るための措置を講じる必要があると考えています」と回答している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。その他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。2020（令和 2）

年度からは、新たに「卒業認定・学位授与方針との関連」を必須の項目として設けることで、当該授業科目と DP との関連性を明確にした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

Web 講義要項(シラバス)

<単位認定・学位授与について> (評点：A)

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価の客観性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、GPA 制度を導入している。具体的には、学則第 17 条第 2 項において、試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とし、60 点未満を不合格とするとしている。また、成績評価の細分は、定期試験規程第 11 条において規定しており、成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、GPA を算出している。なお、これらの内容は、履修ガイダンスをとおして学生に対し周知しているほか、『学修ガイドブック』にも情報を掲載している。成績評価の厳格性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、各授業科目のシラバスに「到達目標」「授業計画」「成績評価の方法及び基準」を明示し、これに基づいて厳格な成績評価を行っている。学生からの成績評価に関する疑義の申し立てに対しては、カリキュラム委員会（教務委員会）が中心になって対応することで厳格性を担保している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則第 17 条第 2 項

定期試験規程第 11 条

文学部学修ガイドブック

Web 講義要項(シラバス)

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

文学部の各学科は卒業論文（もしくは卒業研究、卒業論文・制作）を必修とし、「手引き」を定めて、体裁や提出期限などを厳格に運用している。また提出された卒業論文（卒業研究、卒業論文・制作）は口述試験やプレゼンテーションなどの審査を経て評価され、内容が一定の水準を満たさなければ、単位が認定されない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

『2024 年度文学部時間割』

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

他大学等で修得した単位や入学前に修得した単位の認定に関しては、大学設置基準に基づき適切に行っている。学則第5条の3第1項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」と規定し、また、同条第2項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。(1)短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修 (2)本大学へ入学する前の前号の学修」と規定している。これらの規定により修得したものとみなし、又は授与することのできる単位数については、同条第3項において「学生が編入学又は学士入学をした場合を除き、60 単位を超えないものとする」としている。なお、既修得単位の認定にあたっては、単位制度の趣旨に基づいて授業内容・時間等を確認し、カリキュラム委員会（教務委員会）、教授会の議を経て厳正に行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則第5条の3第1項、2項

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る責任体制、手続は、学則第 18 条及び学位規程において規定し、これに基づき学部教授会規程を定め、教授会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則第 18 条

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

学位授与に関しては、各学部・学科ごとに定めた DP を踏まえ、学則第 18 条及び学位規程に明示し、適切に授与されている。学部・学科の卒業要件は、学生に配付する『学修ガイドブック』にあらかじめ明記するとともに、大学 HP においても公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則第 18 条

文学部学修ガイドブック

専修大学ホームページ

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

（1）達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

（2）最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学生×授業ごとの成績評価を起点とした学修成果の把握・可視化の実現を目指しており、このことは、

2022（令和4）年度から運用を開始するアセスメントプランにも記載している。また、この点検・評価プロセスを実現するために重要な、「測定可能な学修目標の設定（DPの改正）」および「各授業科目と学修目標との対応（カリキュラム・マップ）」の策定についても行っており、これらを組織的に活用することで、各学位授与方針で定めた学修成果の実態を測定・把握することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評点：A）

（1）達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

（2）最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

各学部・各研究科における教育課程及びその内容、方法の適切性については、各学部自己点検・評価実施委員会及び各研究科自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

英語英米文学科では、教育効果を測定する客観的な指標として、学生の TOEIC IP の結果を参照している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

英語英米文学科会議資料

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

英語英米文学科では、1年次から3年次まで毎年同じ時期(秋)にTOEIC IPを実施することで、入学後の学生の英語力の変化を計量的に把握している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

英語英米文学科会議資料

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

英語英米文学科では、教育方法の改善・向上を目指して、TOEIC IPやアンケートの結果を基に定期的に議論を行っている。また、学科の取り組みは兼任講師にも共有している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

英語英米文学科会議資料

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

本学では、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受入れの方針を定めており、大学 HP において公表している。この方針は、本学の教育目標である「社会知性の開発」に向けた教育を行うために、多様な入学者選抜の方式により、大学入学までの教育課程において「本学での学修の基礎となる知識・技能」「社会の諸課題の解決に取り組むための思考力やコミュニケーション能力」「主体性を持って社会知性の開発を目指す態度」の各能力を身に付けている人材を求めているとしている。各学部・学科の AP も、全学の方針に基づき策定し、大学 HP・入学試験要項などにおいて公表している。この方針には、入学者に求める関心・意欲、資質・能力等の人物像や判定方法が明確に示されており、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針にも整合した内容となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学ホームページ

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

一般選抜の各入学試験では、各学部の AP に基づき、本学での学修に必要と思われる基礎的学力を中心に、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的、総合的な観点から評価できると判断し、従来の出題形式を継続することとした。また、一般選抜前期入学試験では従来どおり、英語外部試験を活用する入学試験を実施することとした。なお、当初は、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に関する経験」等を WEB 出願時に本人に入力してもらうことを予定していたが、2021（令和 3）年度の一般選抜では求めないこととした。学校推薦型選抜については、実施学部の AP に基づき、従来の入学試験同様に「学力の 3 要素」の多面的、総合的な評価を実現するため、「学校長による推薦書」「調査書」「志願者本人が記載する資料」等による評価に加え、指定校制推薦入学試験では、新たな評価方法として「小論文」「面接」等を加えることとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

本学では、身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供は、『専修大学入学ガイド』や大学 HP などによって、適切に行っている。また、入学試験要項においても学費及び各種の奨学生制度について情報提供を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

『専修大学入学ガイド』
専修大学ホームページ

<定員管理について>（評点：A）

（1）達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

（2）最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

本学の入学定員及び収容定員は、大学設置基準に基づき、教員組織、校地・校舎等の施設・設備その他教育上の諸条件を総合的に考慮して、適切に設定している。また、収容定員の管理については、毎年度、定員充足率等を勘案し、これに基づき適正な合否判定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

繰上合格制度が挙げられる。本制度の導入により、仮に入学定員が未充足となった場合においても、繰上合格を行うことで、定員充足を図ることが可能としている。また、在籍学生数の適切な管理という観点から見ると、転部科試験の実施や低単位修得者への対策等を行うことで、退学・除籍者の抑制を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：A）

（1）達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

文学部では、入学試験制度や選考方法等について学部として検討する際には、各学科の学科会議で検討された内容を、学部長、学科長、全学の入学試験委員（2名）で議論・調整し、その結果を教授会に付議している。学校推薦型選抜や特別入試（学部独自の入試）の問題作成、全ての入学試験の判定については、学部長と、入学試験制度毎に学科から選出された入学試験判定委員が行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組み
の適切性

【現状説明】

英語英米文学科では、入学後に実施する TOEIC IP の結果を参照し、各入試方式の定員数の妥当性について定期的に検討している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

英語英米文学科会議資料

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔05-3〕哲学科（文学部）

<教育研究上の目的について>（評点：A）

(1) 達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

(2) 最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

学士課程教育における学習成果について、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」を頂点に据えた3層構造からなる「共通観点」を設定している。具体的には、第2階層として「知識・理解」「汎用的技能」「知識体系に基づく思考と知の創出」「態度・志向性」を設定し、第3階層は第2階層を更にブレイクダウンした10の観点を設定している。なお、学科ごとのDPは、第2階層の各観点を網羅したものとなっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

本学の目的は、学則第1条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、学則第2条の2において適切に明示している。哲学科の目的は大学HPホームページ（情報公開）において周知、公表するとともに、『学修ガイドブック』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<学修成果の明確化について>（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

学士課程教育における学習成果について、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」を頂点に据えた3層構造からなる「共通観点」を設定している。具体的には、第2階層として「知識・理解」「汎用的技能」「知識体系に基づく思考と知の創出」「態度・志向性」を設定し、第3階層は第2階層を更にブレイクダウンした10の観点を設定している。なお、学科ごとのDPは、第2階層の各観点を網羅したものとなっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

本学では、全学の三つの方針を設定するとともに、学部・各学科の三つの方針を設定している。全学のCPでは、DPに掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、各学部・学科に設置する科目を体系的に編成し、講義・演習等を組み合わせた授業を行うことを明記している。併せて、教育課程の実施に係る「教育課程の構成と目的」、「教育課程上の各種取組」および「学修成果の評価方法」についても方針を定めている。また、哲学科のCPでは、冒頭においてDPに掲げる目標を達成するための教育課程となっていることが分かる記述を行ったうえで、「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」を明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

本学では、「三つの方針（DP・CP・AP）策定要領」に基づき、学部・学科の教育課程の編成・実施方針に記載する項目を「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」の3項目とし、全学（学部）の教育課程の編成・実施方針において、「学修成果の評価方法」を示し、アセスメントプラン、カリキュラム・マップにより検証することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

各授業科目の到達目標については、統一のフォーマットにより作成しているシラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

教育課程は、順次性及び体系性に配慮して「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」の4つの科目区分で編成している。また、「専門科目」においても、基礎から応用・発展的内容へ段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成しており、学習の順次性に配慮して年次配当を行っている。さらに、「科目ナンバリング」によっても、順次性及び体系性を明確なものにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学設置基準第21条に定められた単位制度の趣旨に基づき、学則第5条の5において規定している。これに基づいて、各授業科目の単位を適切に設定している。また、シラバスに具体的な準備学習の内容と学習時間を明示することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<授業内容・方法について>（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

講義形式は最大 300 名程度、演習形式は学生数に一定の制限を設け、原則として最大 50 名程度、実験・実習形式は原則として 10 名程度としており、授業形態に配慮した 1 授業当たりの学生数として適切である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

現在のところ、必要性を感じておらず、実施していない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

現在のところ、必要性を感じておらず、実施していない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

単位の実質化を図るための措置としては、「大学設置基準」の趣旨に基づき、学士課程については各年次における 1 年間の履修登録単位数の上限数を 48 単位に設定している（資格課程関連科目を除く）。また、各学期の授業期間を 15 週に設定し、卒業要件単位は 124 単位としている。これらの情報は、『学修ガイドブック』に記載し、学生に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。2020（令和 2）年度からは、新たに「卒業認定・学位授与方針との関連」を必須の項目として設けることで、当該授業科目と DP との関連性を明確にした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価の客観性を担保するための措置として、GPA 制度を導入している。具体的には、学則第 17 条第 2 項において、試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とし、60 点未満を不合格とするとしている。また、成績評価の細分は、定期試験規程第 11 条において規定しており、成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、GPA を算出している。なお、これらの内容は、履修ガイダンスをととして学生に対し周知しているほか、『学修ガイドブック』にも情報を掲載している。成績評価の厳格性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、各授業科目のシラバスに「到達目標」「授業計画」「成績評価の方法及び基準」を明示し、これに基づいて厳格な成績評価を行っている。学生からの成績評価に関する疑義の申し立てに対しては、カリキュラム委員会（教務委員会）が中心になって対応することで厳格性を担保している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

卒業論文を必修とし、「手引き」を定めて、体裁や提出期限などを厳格に運用している。また提出された卒業論文は口述試験を経て評価され、内容が一定の水準を満たさなければ、単位が認定されない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

他大学等で修得した単位や入学前に修得した単位の認定に関しては、大学設置基準に基づき適切に行っている。学則第 5 条の 3 第 1 項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」と規定し、また、同条第 2 項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。(1)短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修 (2)本大学へ入学する前の前号の学修」と規定している。これらの規定により修得したものとみなし、又は授与することのできる単位数については、同条第 3 項において「学生が編入学又は学士入学をした場合を除き、60 単位を超えないものとする」としている。なお、既修得単位の認定にあたっては、単位制度の趣旨に基づいて授業内容・時間等を確認し、カリキュラム委員会（教務委員会）、教授会の議を経て厳正に行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る責任体制、手続は、学則第 18 条及び学位規程において規定し、これに基づき学部教授会規程を定め、教授会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

学位授与に関しては、文学部および哲学科の DP を踏まえ、学則第 18 条及び学位規程に明示し、適切に授与されている。学部・学科の卒業要件は、学生に配付する『学修ガイドブック』にあらかじめ明記するとともに、大学 HP においても公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学生ごと、授業ごとの成績評価を起点とした学修成果の把握・可視化を目指しており、このことは、2022 年度から運用を開始したアセスメントプランにも記載している。また、この点検・評価プロセスを実現するために重要な、「測定可能な学修目標の設定（DP の改正）」および「各授業科目と学修目標との対応（カリキュラム・マップ）」の策定も行っており、これらを組織的に活用することで、各学位授与方針で定めた学修成果の実態を測定・把握することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

文学部における教育課程及びその内容、方法の適切性については、各学部自己点検・評価実施委員会及び各研究科自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取組みを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

学科会議の議論を通して点検し、評価について確認している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

学科会議の議論を通して、評価の指標についての標準化を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

学科会議の議論を通して、教員の教育方法・向上への取り組みを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

本学では、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受入れの方針を定めており、大学 HP において公表している。この方針は、本学の教育目標である「社会知性の開発」に向けた教育を行うために、多様な入学者選抜の方式により、大学入学までの教育課程において「本学での学修の基礎となる知識・技能」「社会の諸課題の解決に取り組むための思考力やコミュニケーション能力」「主体性を持って社会知性の開発を目指す態度」の各能力を身に付けている人材を求めているとしている。哲学科の AP も、全学の方針に基づき策定し、大学 HP・入学試験要項などにおいて公表している。この方針には、入学者に求める関心・意欲、資質・能力等の人物像や判定方法が明確に示されており、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針にも整合した内容となっている

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

一般選抜の各入学試験では、各学部の AP に基づき、本学での学修に必要と思われる基礎的学力を中心に、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的、総合的な観点から評価できると判断し、従来の出題形式を継続することとした。また、一般選抜前期入学試験では従来どおり、英語外部試験を活用する入学試験を実施することとした。なお、当初は、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に関する経験」等を WEB 出願時に本人に入力してもらうことを予定していたが、2021 年度の一般選抜では求めないこととした。学校推薦型選抜については、実施学部の AP に基づき、従来の入学試験同様に「学力の 3 要素」の多面的、総合的な評価を実現するため、「学校長による推薦書」「調査書」「志願者本人が記載する資料」等による評価に加え、指定校制推薦入学試験では、新たな評価方法として「小論文」「面接」等を加えることとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

本学では、身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供は、『専修大学入学ガイド』や大学 HP などによって、適切に行っている。また、入学試験要項においても学費及び各種の奨学生制度について情報提供を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

＜定員管理について＞（評点：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

本学の入学定員及び収容定員は、大学設置基準に基づき、教員組織、校地・校舎等の施設・設備その他教育上の諸条件を総合的に考慮して、適切に設定している。また、収容定員の管理については、毎年度、定員充足率等を勘案し、これに基づき適正な合否判定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

学部・学科における収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応のひとつとして、繰

上合格制度が挙げられる。本制度の導入により、仮に入学定員が未充足となった場合においても、繰上合格を行うことで、定員充足を図ることを可能としている。また、在籍学生数の適切な管理という観点から見ると、転部科試験の実施や低単位修得者への対策等を行うことで、退学・除籍者の抑制を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

＜入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

文学部では、入学試験制度や選考方法等について学部として検討する際には、各学科の学科会議で検討された内容を、学部長、学科長、全学の入学試験委員（2名）で議論・調整し、その結果を教授会に付議している。学校推薦型選抜や特別入試（学部独自の入試）の問題作成、全ての入学試験の判定については、学部長と、入学試験制度毎に学科から選出された入学試験判定委員が行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組み
の適切性

【現状説明】

学科として特に取り組んではない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔05-4〕歴史学科（文学部）

＜教育研究上の目的について＞（評点：A）

(1) 達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

(2) 最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

歴史学科では、学士課程教育における学習成果について、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」を頂点に据えた3層構造からなる「共通観点」を設定している。具体的には、第2階層として「知識・理解」「汎用的技能」「知識体系に基づく思考と知の創出」「態度・志向性」を設定し、第3階層は第2階層を更に細分・具体化した10の観点を設定している。なお、学科ごとのDPは、第2階層の各観点を網羅したものとなっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

本学の目的は、学則第1条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、学則第2条の2において適切に明示している。学部・学科の目的はそれぞれ大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表するとともに、『学修ガイドブック』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

歴史学科では、学科オフィシャル HP においても教育研究上の目的を周知、公表している。また、初年次の学科オリエンテーションで学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

専修大学文学部歴史学科 HP

オフィシャル HP「専修大学文学部歴史学科へようこそ」

2024 年度新入生オリエンテーション配付資料

<学修成果の明確化について>（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

学部・学科では、学士課程教育における学習成果について、本学の 21 世紀ビジョンである「社会知性の開発」を頂点に据えた 3 層構造からなる「共通観点」を設定している。具体的には、第 2 階層として「知識・理解」「汎用的技能」「知識体系に基づく思考と知の創出」「態度・志向性」を設定し、第 3 階層は第 2 階層を更に細分・具体化した 10 の観点を設定している。なお、学科ごとの DP は、第 2 階層の各観点を網羅したものとなっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

本学では、全学の三つの方針を設定するとともに、学部・各学科の三つの方針を設定している。全学の CP では、DP に掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、各学部・学科に設置する科目を体系的に編成し、講義・演習等を組み合わせた授業を行うことを明記している。併せて、教育課程の実施に係る「教育課程の構成と目的」、「教育課程上の各種取組」および「学修成果の評価方法」についても方針を定めている。また、学部・各学科の CP では、冒頭において DP に掲げる目標を達成するための教育課程となっていることが分かる記述を行ったうえで、「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」を明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

本学では、「三つの方針（DP・CP・AP）策定要領」に基づき、学部・学科の教育課程の編成・実施方針に記載する項目を「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」の 3 項目とし、全学（学部）の教育課程の編成・実施方針において、「学修成果の評価方法」を示し、アセスメントプラン、カリキュラム・マップにより検証することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

<教育課程について>（評点：A）

（1）達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成

する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

各授業科目の到達目標については、統一のフォーマットにより作成しているシラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学 Web 講義要項

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

学部・学科の教育課程は、順次性及び体系性に配慮して「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」の4つの科目区分で編成している。また、「専門科目」においても、基礎から応用・発展的内容へ段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成しており、学習の順次性に配慮して年次配当を行っている。さらに、「科目ナンバリング」によっても、順次性及び体系性を明確なものにしている。歴史学科では、歴史学への理解と技術を段階的に学修できるよう必修科目、および選択必修科目を年次配当している。また、履修モデルを複数提案することによって学習過程を可視化している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学文学部歴史学科 HP

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学設置基準第 21 条に定められた単位制度の趣旨に基づき、学則第 5 条の 5 において規定している。これに基づいて、各授業科目の単位を適切に設定している。また、シラバスに具体的な準備学習の内容と学習時間を明示することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学 Web 講義要項

<授業内容・方法について>（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

講義形式は最大 300 名程度、演習形式は学生数に一定の制限を設け、原則として最大 50 名程度、実験・実習形式は原則として 10 名程度としており、授業形態に配慮した 1 授業当たりの学生数として適切である。

歴史学科では、講義形式は最大 120 名程度、演習形式は一学年あたりの学生数を平均 10 名程度とし、授業形態に応じて適切な学生数にしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

第 9 回歴史学科会議資料（カリキュラム関連）

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

学科独自の取り組みなし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

単位の実質化を図るための措置としては、「大学設置基準」の趣旨に基づき、学士課程については各年次における1年間の履修登録単位数の上限数を50単位未満に設定している(資格課程関連科目を除く)。また、各学期の授業期間を15週に設定し、卒業要件単位は124単位としている。これらの情報は、『学修ガイドブック』に記載し、学生に対し周知している。

歴史学科では、各学年での履修単位数に偏りが生じないように、2～4年次に履修できる選択専門科目を多数設けている。『学修ガイドブック』で、各学年次で習得する単位の目安を明示している。また複数の履修モデルを大学HPで提案している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバスは、統一フォーマットにしたがって作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。2020（令和 2）年度からは、新たに「卒業認定・学位授与方針との関連」を必須の項目として設けることで、当該授業科目と DP との関連性を明確にしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学 Web 講義要項

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価の客観性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、GPA 制度を導入している。具体的には、学則第 17 条第 2 項において、試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とし、60 点未満を不合格とするとしている。また、成績評価の細分は、定期試験規程第 11 条において規定しており、成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、GPA を算出している。なお、これらの内容は、履修ガイダンスをとおして学生に対し周知しているほか、『学修ガイドブック』にも情報を掲載している。成績評価の厳格性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、各授業科目のシラバスに「到達目標」「授業計画」「成績評価の方法及び基準」を明示し、これに基づいて厳格な成績評価を行っている。学生からの成績評価に関する疑義の申し立てに対しては、カリキュラム委員会（教務委員会）が中心になって対応することで厳格性を担保している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

専修大学 Web 講義要項

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

文学部の各学科は卒業論文（もしくは卒業研究、卒業論文・制作）を必修とし、「手引き」を定めて、体裁や提出期限などを厳格に運用している。また提出された卒業論文（卒業研究、卒業論文・制作）は口述試験やプレゼンテーションなどの審査を経て評価され、内容が一定の水準を満たさなければ、単位が認定されない。

歴史学科は、卒業論文の体裁を『文学部時間割』で明示している。各教員も演習で、体裁および歴史学科としての共通の評価基準について説明、指導している。

【長所・特色】

カリキュラム委員が「卒業論文執筆ガイダンス」を開催し、卒業論文に求められる基準、および体裁について学生に周知している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部時間割

卒論執筆ガイダンス Google Classroom

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

他大学等で修得した単位や入学前に修得した単位の認定に関しては、大学設置基準に基づき適切に行っている。学則第5条の3第1項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」と規定し、また、同条第2項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。(1)短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修 (2)本大学へ入学する前の前号の学修」と規定している。これらの規定により修得したものとみなし、又は授与することのできる単位数については、同条第3項において「学生が編入学又は学士入学をした場合を除き、60単位を超えないものとする」としている。なお、既修得単位の認定にあたっては、単位制度の趣旨に基づいて授業内容・時間等を確認し、カリキュラム委員会（教務委員会）、教授会の議を経て厳正に行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る責任体制、手続は、学則第 18 条及び学位規程において規定し、これに基づき学部教授会規程を定め、教授会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

学位授与に関しては、各学部・学科ごとに定めた DP を踏まえ、学則第 18 条及び学位規程に明示し、適切に授与されている。学部・学科の卒業要件は、学生に配付する『学修ガイドブック』にあらかじめ明記するとともに、大学 HP においても公表している。

歴史学科では、初年時の学科ガイダンスにおいて『学修ガイドブック』記載の卒業要件を学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

新入生オリエンテーション配付資料

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学生ごと、授業ごとの成績評価を起点とした学修成果の把握・可視化を目指しており、このことは、2022 年度から運用を開始したアセスメントプランにも記載している。また、この点検・評価プロセスを実現するために重要な、「測定可能な学修目標の設定（DP の改正）」および「各授業科目と学修目標との対応（カリキュラム・マップ）」の策定も行っており、これらを組織的に活用することで、各学位授与方針で定めた学修成果の実態を測定・把握することとしている。

歴史学科では、各演習において、卒業論文執筆に向けての中間レポート作成・発表の機会を複数回設定し、学生の学修課程の把握に努めている。

【長所・特色】

卒業論文評価に際しては、主査 1 名、副査 1 名以上の複数教員による評価を行い、学修成果の適切な把握及び評価を実践している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

各学部・各研究科における教育課程及びその内容、方法の適切性については、各学部自己点検・評価実施委員会及び各研究科自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

学科独自の取り組みなし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

学科独自の取り組みなし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

歴史学科では、初年次演習内容を共通化することにより、学科での学修および卒業に必要な基礎能力の学生ごとの習得度合いを適切に把握するよう努めている。また、学科会議において問題点を共有・検討し、次年度の初年次演習内容の改善および各教員の教育方法の改善・向上に努めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学 Web 講義要項
入門ゼミナール Google Classroom

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

本学では、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受入れの方針を定めており、大学 HP において公表している。この方針は、本学の教育目標である「社会知性の開発」に向けた教育を行うために、多様な入学者選抜の方式により、大学入学までの教育課程において「本学での学修の基礎となる知識・技能」「社会の諸課題の解決に取り組むための思考力やコミュニケーション能力」「主体性を持って社会知性の開発を目指す態度」の各能力を身に付けている人材を求めているとしている。各学部・学科の AP も、全学の方針に基づき策定し、大学 HP・入学試験要項などにおいて公表している。この方針には、入学者に求める関心・意欲、資質・能力等の人物像や判定方法が明確に示されており、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針にも整合した内容となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

一般選抜の各入学試験では、各学部 of AP に基づき、本学での学修に必要と思われる基礎的学力を中心に、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的、総合的な観点から評価できると判断し、従来の出題形式を継続することとした。また、一般選抜前期入学試験では従来どおり、英語外部試験を活用する入学試験を実施することとした。

学校推薦型選抜については、実施学部の AP に基づき、従来の入学試験同様に「学力の3要素」の多面的、総合的な評価を実現するため、「学校長による推薦書」「調査書」「志願者本人が記載する資料」等による評価に加え、指定校制推薦入学試験では、新たな評価方法として「小論文」「面接」等を加えることとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

本学では、身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供は、『専修大学入学ガイド』や大学 HP などによって、適切に行っている。また、入学試験要項においても学費及び各種の奨学生制度について情報提供を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

＜定員管理について＞（評点：B）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

本学の入学定員及び収容定員は、大学設置基準に基づき、教員組織、校地・校舎等の施設・設備その他教育上の諸条件を総合的に考慮して、適切に設定している。また、収容定員の管理については、毎年度、定員充足率等を勘案し、これに基づき適正な合否判定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

歴史学科では、過去の手続者比率、入学者比率を勘案して合否判定を行っているが、2023 年度、2024 年度は、想定以上に入学者数が多く、定員超過となった。長期的視野にたちつつもより適正な合否判定を目指す必要がある。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

学部・学科における収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応のひとつとして、繰

上合格制度が挙げられる。本制度の導入により、仮に入学定員が未充足となった場合においても、繰上合格を行うことで、定員充足を図ることが可能としている。また、在籍学生数の適切な管理という観点から見ると、転部科試験の実施や低単位修得者への対策等を行うことで、退学・除籍者の抑制を図っている。歴史学科では、様々な特性を持つ学生について、適宜学科会議で情報を共有し、対応を検討している。各教員も適宜、障がい学生支援室や学生相談室と連携しつつ個別に細やかなケアを実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

個人情報保護の観点から根拠提示は控える

＜入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

文学部では、入学試験制度や選考方法等について学部として検討する際には、各学科の学科会議で検討された内容を、学部長、学科長、全学の入学試験委員（2名）で議論・調整し、その結果を教授会に付議している。学校推薦型選抜や特別入試（学部独自の入試）の問題作成、全ての入学試験の判定については、学部長と、入学試験制度毎に学科から選出された入学試験判定委員が行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組み
の適切性

【現状説明】

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔05-5〕環境地理学科（文学部）

＜教育研究上の目的について＞（評点：A）

(1) 達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

(2) 最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

本学の 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」の具体的な推進に向け文学部では、学科ごとに学則第 2 条の 2 において、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的を定めている。これらの目的は、高等教育機関の目的として適切である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

大学院要項

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

学部・学科の目的はそれぞれ大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表するとともに、『学修ガイドブック』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

専修大学文学部環境地理学科 HP

＜学修成果の明確化について＞（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

学部・学科では、学士課程教育における学習成果について、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」を頂点に据えた3層構造からなる「共通観点」を設定している。具体的には、第2階層として「知識・理解」「汎用的技能」「知識体系に基づく思考と知の創出」「態度・志向性」を設定し、第3階層は第2階層を更にブレイクダウンした10の観点を設定している。なお、学科ごとのDPは、第2階層の各観点を網羅したものとなっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

全学のCPでは、DPに掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、各学部・学科に設置する科目を体系的に編成し、講義・演習等を組み合わせた授業を行うことを明記している。併せて、教育課程

の実施に係る「教育課程の構成と目的」、「教育課程上の各種取組」および「学修成果の評価方法」についても方針を定めている。また、学部・各学科の CP では、冒頭において DP に掲げる目標を達成するための教育課程となっていることが分かる記述を行ったうえで、「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」を明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

「三つの方針（DP・CP・AP）策定要領」に基づき、学部・学科の教育課程の編成・実施方針に記載する項目を「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」の3項目とし、全学（学部）の教育課程の編成・実施方針において、「学修成果の評価方法」を示し、アセスメントプラン、カリキュラム・マップにより検証することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学カリキュラム・マップ

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

各授業科目の到達目標については、統一のフォーマットにより作成しているシラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

Web 講義要項(シラバス)

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

学部・学科の教育課程は、順次性及び体系性に配慮して「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」の4つの科目区分で編成している。また、「専門科目」においても、基礎から応用・発展的内容へ段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成しており、学習の順次性に配慮して年次配当を行っている。さらに、「科目ナンバリング」によっても、順次性及び体系性を明確なものにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学設置基準第21条に定められた単位制度の趣旨に基づき、学則第5条の5において規定している。これに基づいて、各授業科目の単位を適切に設定している。また、シラバスに準備学習の内容を明示することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

Web 講義要項(シラバス)

<授業内容・方法について> (評点：A)

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点① 授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

講義形式は最大 300 名程度、演習形式は学生数に一定の制限を設け、原則として最大 50 名程度、実験・実習形式は原則として 10 名程度としており、授業形態に配慮した 1 授業当たりの学生数として適切である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

環境地理学科ゼミ分けガイダンス資料

評価の視点② 遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

遠隔授業の教育効果を認識し、授業の充実化を目的とした遠隔授業の活用方法について意見を交換している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学科会議(新年度の開講科目の協議時)

評価の視点③

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

「大学設置基準」の趣旨に基づき、各年次における1年間の履修登録単位数の上限数を50単位未満に設定している（資格課程関連科目を除く）。また、各学期の授業期間を15週に設定し、卒業要件単位は124単位としている。これらの情報は、『学修ガイドブック』に記載し、学生に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

評価の視点④

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。2020（令和2）年度からは、新たに「卒業認定・学位授与方針との関連」を必須の項目として設けることで、当該授業科目とDPとの関連性を明確にした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

Web 講義要項(シラバス)

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価の客観性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、GPA 制度を導入している。具体的には、学則第 17 条第 2 項において、試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とし、60 点未満を不合格とするとしている。また、成績評価の細分は、定期試験規程第 11 条において規定しており、成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、GPA を算出している。成績評価の厳格性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、各授業科目のシラバスに「到達目標」「授業計画」「成績評価の方法及び基準」を明示し、これに基づいて厳格な成績評価を行っている。学生からの成績評価に関する疑義の申し立てに対しては、カリキュラム委員会（教務委員会）が中心になって対応することで厳格性を担保している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

Web 講義要項(シラバス)

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

卒業論文を必修とし、「手引き」を定めて毎年学生に配布する『〇〇年度文学部時間割』に掲載し、体裁や提出期限などを厳格に運用している。「卒業論文の評価の観点について」を策定して学生に周知している。提出された卒業論文は口述試験の審査を経て評価され、内容が一定の水準を満たさなければ、単位が認定されない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部時間割 1 卒業論文の手引き

「文学部環境地理学科 卒業論文の評価の観点について」（公用掲示板）

評価の視点③

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る責任体制、手続は、学則第 18 条及び学位規程において規定し、これに基づき学部教授会規程を定め、教授会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則第 18 号、学位規定

評価の視点④

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

各学部・学科ごとに定めた DP を踏まえ、学則第 18 条及び学位規程に明示し、適切に授与されている。学部・学科の卒業要件は、学生に配付する『学修ガイドブック』にあらかじめ明記するとともに、大学 HP においても公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学生×授業ごとの成績評価を起点とした学修成果の把握・可視化の実現を目指しており、このことは、2022（令和 4）年度から運用を開始したアセスメントプランにも記載している。また、この点検・評価プ

プロセスを実現するために重要な、「測定可能な学修目標の設定（DP の改正）」および「各授業科目と学修目標との対応（カリキュラム・マップ）」の策定についても行っており、これらを組織的に活用することで、各学位授与方針で定めた学修成果の実態を測定・把握することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部自己点検・評価実施委員会(各学科)から自己点検・評価委員会への毎年の報告

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

必修科目である野外調査法Ⅰ（２年次）の合同発表会、全教員が出席する卒業論文中間発表会および最終発表会（合計年３回）において、学生の学修成果の達成度を教員間で把握している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

文学部学修ガイドブック

野外調査法 1 合同発表会と卒業論文発表会の Google Classroom

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

他大学や高校の教員との教育課程・内容・評価についての意見交換を参考に、自己点検・評価を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

自己点検・評価の結果を踏まえて、各教員が次年度以降の授業計画や内容に反映させている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学科会議(新年度の開講科目の協議時)

<入学者受入れの方針について> (評点：A)

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

学部・学科の AP を、全学の方針に基づき策定し、大学 HP・入学試験要項などにおいて公表している。この方針には、入学者に求める関心・意欲、資質・能力等の人物像や判定方法が明確に示されており、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針にも整合した内容となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

各学部の AP に基づき、本学での学修に必要と思われる基礎的学力を中心に、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的、総合的な観点から評価できると判断し、従来の出題形式を継続することとした。また、一般選抜前期入学試験では従来どおり、英語外部試験を活用する入学試験を実施することとした。学校推薦型選抜については、実施学部の AP に基づき、従来の入学試験同様に「学力の 3 要素」の多面的、総合的な評価を実現するため、「学校長による推薦書」「調査書」「志願者本人が記載する資料」等による評価に「小論文」「面接」を加えることとした。指定校制推薦入学試験では、新たな評価方法として「小論文」「面接」等を加えることとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供は、『専修大学入学ガイド』や大学 HP などによって、適切に行っている。また、入学試験要項においても学費及び各種の奨学生制度について情報提供を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<定員管理について>（評点：A）

（1）達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

（2）最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

本学の入学定員及び収容定員は、大学設置基準に基づき、教員組織、校地・校舎等の施設・設備その他教育上の諸条件を総合的に考慮して、適切に設定している。また、収容定員の管理については、毎年度、定員充足率等を勘案し、これに基づき適正な合否判定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

部・学科における収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応のひとつとして、繰上合格制度が挙げられる。本制度の導入により、仮に入学定員が未充足となった場合においても、繰上合格を行うことで、定員充足を図ることが可能としている。また、在籍学生数の適切な管理という観点から見ると、転部科試験の実施や低単位修得者への対策等を行うことで、退学・除籍者の抑制を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

転部科について(学生生活)

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて> (評点：A)

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

文学部では、入学試験制度や選考方法等について学部として検討する際には、各学科の学科会議で検討された内容を、学部長、学科長、全学の入学試験委員(2名)で議論・調整し、その結果を教授会に付

議している。学校推薦型選抜や特別入試（学部独自の入試）の問題作成、全ての入学試験の判定については、学部長と、入学試験制度毎に学科から選出された入学試験判定委員が行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔05-6〕ジャーナリズム学科（文学部）

＜教育研究上の目的について＞（評定：A）

(1) 達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

(2) 最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

大学を取り巻く厳しい社会環境の変化に対応していくため、本学では、大学の基本的な方向性を全学的観点から検討し、その結果、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、21 世紀ビジョンとして「社会知性の開発（Socio-Intelligence）」を掲げ、このビジョンのもと教育・研究体制の改革に取り組むとともに、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に積極的な大学運営を行っている。本学の 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」の具体的な推進に向け文学部では、学科ごとに学則第 2

条の2において、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的を定めている。これらの目的は、高等教育機関の目的として適切である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

本学の目的は、学則第1条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、学則第2条の2において適切に明示している。学部・学科の目的はそれぞれ大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表するとともに、『学修ガイドブック』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

『文学部学修ガイドブック』

<学修成果の明確化について>（評定：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

学部・学科では、学士課程教育における学習成果について、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」を頂点に据えた3層構造からなる「共通観点」を設定している。具体的には、第2階層として「知識・理解」「汎用的技能」「知識体系に基づく思考と知の創出」「態度・志向性」を設定し、第3階層は第2階層を更にブレイクダウンした10の観点を設定している。なお、学科ごとのDPは、第2階層の各観点を網羅したものとなっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】
該当なし

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

本学では、全学の三つの方針を設定するとともに、学部・各学科の三つの方針を設定している。全学の CP では、DP に掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、各学部・学科に設置する科目を体系的に編成し、講義・演習等を組み合わせた授業を行うことを明記している。併せて、教育課程の実施に係る「教育課程の構成と目的」、「教育課程上の各種取組」および「学修成果の評価方法」についても方針を定めている。また、学部・各学科の CP では、冒頭において DP に掲げる目標を達成するための教育課程となっていることが分かる記述を行ったうえで、「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」を明記している。

【長所・特色】
該当なし。

【問題点】
該当なし。

【根拠資料】
該当なし

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

本学では、「三つの方針（DP・CP・AP）策定要領」に基づき、学部・学科の教育課程の編成・実施方針に記載する項目を「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」の 3 項目とし、全学（学部）の教育課程の編成・実施方針において、「学修成果の評価方法」を示し、アセスメントプラン、カリキュラム・マップにより検証することとしている。

【長所・特色】
該当なし。

【問題点】
該当なし。

【根拠資料】
該当なし

<教育課程について>（評定：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到

達目標の明確化

【現状説明】

各授業科目の到達目標については、統一のフォーマットにより作成しているシラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

学部・学科の教育課程は、順次性及び体系性に配慮して「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」の4つの科目区分で編成している。また、「専門科目」においても、基礎から応用・発展的内容へ段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成しており、学習の順次性に配慮して年次配当を行っている。さらに、「科目ナンバリング」によっても、順次性及び体系性を明確なものにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学設置基準第21条に定められた単位制度の趣旨に基づき、学則第5条の5において規定している。これに基づいて、各授業科目の単位を適切に設定している。また、シラバスに具体的な準備学習の内容と学習時間を明示することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<授業内容・方法について>（評定：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が

学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

メディア企業・組織による協力講座やインターンシップの実施にあたっては、関係諸機関と連絡を密にし、教育内容も含め、継続的に維持できるよう努めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

インターンシップ成果報告会資料

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

学科独自の取り組みなし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

少人数のクラス分けが必要な「プロジェクト」および「ゼミナール」に関しては、それぞれの適正人数を学科会議で確認したうえで、カリキュラム委員会を中心に丁寧なガイダンスを実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

「プロジェクト」「ゼミナール」ガイダンス資料

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

単位の実質化を図るための措置としては、「大学設置基準」の趣旨に基づき、学士課程については各年次における1年間の履修登録単位数の上限数を50単位未満に設定している(資格課程関連科目を除く)。また、各学期の授業期間を15週に設定し、卒業要件単位は124単位としている。これらの情報は、『学修ガイドブック』に記載し、学生に対し周知している。

文学部では、第3期大学評価において、一定数の学生が50単位以上履修していることについての質問を受け、「次期のカリキュラム改正(実施時期は現時点で未定)において文学部各学科の教育課程を見直す際には、学年によって偏った履修登録単位数となることを避けるための方策(必修科目等の配置、各授業科目の配当年次、年間履修上限単位の設定等)を検討するとともに、全学的には「教員養成系の学部・学科を設置していない本学における教職課程等の取扱い」をテーマに議論し、従来の履修指導のみによらない単位の実質化を図るための措置を講じる必要があると考えています」と回答している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画(講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載)」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。2020(令和2)年度からは、新たに「卒業認定・学位授与方針との関連」を必須の項目として設けることで、当該授業科目とDPとの関連性を明確にした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<単位認定・学位授与について> (評定:A)

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価の客観性を担保するための措置として、本学(学部・学科)では、GPA制度を導入している。具体的には、学則第17条第2項において、試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とし、60点

未滿を不合格とするとしている。また、成績評価の細分は、定期試験規程第 11 条において規定しており、成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、GPA を算出している。なお、これらの内容は、履修ガイダンスをととして学生に対し周知しているほか、『学修ガイドブック』にも情報を掲載している。成績評価の厳格性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、各授業科目のシラバスに「到達目標」「授業計画」「成績評価の方法及び基準」を明示し、これに基づいて厳格な成績評価を行っている。学生からの成績評価に関する疑義の申し立てに対しては、カリキュラム委員会（教務委員会）が中心になって対応することで厳格性を担保している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

『文学部学修ガイドブック』

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

文学部の各学科は卒業論文（もしくは卒業研究、卒業論文・制作）を必修とし、「手引き」を定めて、体裁や提出期限などを厳格に運用している。また提出された卒業論文（卒業研究、卒業論文・制作）は口述試験やプレゼンテーションなどの審査を経て評価され、内容が一定の水準を満たさなければ、単位が認定されない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

他大学等で修得した単位や入学前に修得した単位の認定に関しては、大学設置基準に基づき適切に行っている。学則第 5 条の 3 第 1 項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」と規定し、また、同条第 2 項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。(1)短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修 (2)本大学へ入学する前の前号の学修」と規定している。これらの規定により修得したものとみなし、又は授与することのできる単位数については、同条第 3 項において「学生が編入学又は学士入学をした場合を除き、60 単位を超えないものとする」としている。なお、既修得単位の認定にあたっては、単位制度の趣旨に基づいて授業内容・時間等を確認し、カリキュラム委員会（教務委員会）、教授会の議を経て厳正に行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る責任体制、手続は、学則第 18 条及び学位規程において規定し、これに基づき学部教授会規程を定め、教授会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

学位授与に関しては、各学部・学科ごとに定めた DP を踏まえ、学則第 18 条及び学位規程に明示し、適切に授与されている。学部・学科の卒業要件は、学生に配付する『学修ガイドブック』にあらかじめ明記するとともに、大学 HP においても公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

『文学部学修ガイドブック』

<学修成果の把握および評価について>（評定：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学生×授業ごとの成績評価を起点とした学修成果の把握・可視化の実現を目指しており、このことは、2022（令和 4）年度から運用を開始するアセスメントプランにも記載している。また、この点検・評価プロセスを実現するために重要な、「測定可能な学修目標の設定（DP の改正）」および「各授業科目と学修

目標との対応（カリキュラム・マップ）」の策定についても行っており、これらを組織的に活用することで、各学位授与方針で定めた学修成果の実態を測定・把握することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評定：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

各学部・各研究科における教育課程及びその内容、方法の適切性については、各学部自己点検・評価実施委員会及び各研究科自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

学科独自の取り組みなし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

学科独自の取り組みなし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

学科独自の取り組みなし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れの方針について>（評定：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

本学では、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受入れの方針を定めており、大学 HP において公表している。この方針は、本学の教育目標である「社会知性の開発」に向けた教育を行うために、多様な入学者選抜の方式により、大学入学までの教育課程において「本学での学修の基礎となる知識・技能」「社会の諸課題の解決に取り組むための思考力やコミュニケーション能力」「主体性を持って社会知性の開発を目指す態度」の各能力を身に付けている人材を求めているとしている。各学部・学科の AP も、全学の方針に基づき策定し、大学 HP・入学試験要項などにおいて公表している。この方針には、入学者に求める関心・意欲、資質・能力等の人物像や判定方法が明確に示されており、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針にも整合した内容となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

一般選抜の各入学試験では、各学部の AP に基づき、本学での学修に必要と思われる基礎的学力を中心に、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的、総合的な観点から評価できると判断し、従来の出題形式を継続することとした。また、一般選抜前期入学試験では従来どおり、英語外部試験を活用する入学試験を実施することとした。なお、当初は、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に関する経験」等を WEB 出願時に本人に入力してもらうことを予定していたが、2021（令和 3）年度の一般選抜では求めないこととした。学校推薦型選抜については、実施学部の AP に基づき、従来の入学試験同様に「学力の 3 要素」の多面的、総合的な評価を実現するため、「学校長による推薦書」「調査書」「志願者本人が記載する資料」等による評価に加え、指定校制推薦入学試験では、新たな評価方法として「小論文」「面接」等を加えることとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

本学では、身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供は、『専修大学入学ガイド』や大学 HP などによって、適切に行っている。また、入学試験要項においても学費及び各種の奨学生制度について情報提供を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<定員管理について>（評定：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

本学の入学定員及び収容定員は、大学設置基準に基づき、教員組織、校地・校舎等の施設・設備その他教育上の諸条件を総合的に考慮して、適切に設定している。また、収容定員の管理については、毎年度、定員充足率等を勘案し、これに基づき適正な合否判定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

学部・学科における収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応のひとつとして、繰上合格制度が挙げられる。本制度の導入により、仮に入学定員が未充足となった場合においても、繰上合格を行うことで、定員充足を図ることが可能としている。また、在籍学生数の適切な管理という観点から見ると、転部科試験の実施や低単位修得者への対策等を行うことで、退学・除籍者の抑制を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評定：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

文学部では、入学試験制度や選考方法等について学部として検討する際には、各学科の学科会議で検討された内容を、学部長、学科長、全学の入学試験委員（2名）で議論・調整し、その結果を教授会に付議している。学校推薦型選抜や特別入試（学部独自の入試）の問題作成、全ての入学試験の判定については、学部長と、入学試験制度毎に学科から選出された入学試験判定委員が行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

学科独自の取り組みなし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔06〕 ネットワーク情報学部

<教育研究上の目的について>（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

本学が掲げる「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法」や「深い人間理解と倫理観」を踏まえ、学部の教育研究について「情報学およびそれに関わる社会・人間・環境・技術・数理の包括的な教育研究」と記述している。また、本学が掲げる「地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組む」ことを踏まえ、学部の教育研究の目的を「地球的視野に基づき他者と協働し、科学的かつ創造的に問題解決できる能力を有する人材を養成する」とことと明確化している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

・ 専修大学Webサイト

ネットワーク情報学部「教育研究上の目的と3つの方針」

<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/network/#anchor01>

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

専修大学のWebサイトで公表し誰でもいつでも見られる状態である。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

・専修大学Webサイト

ネットワーク情報学部「教育研究上の目的と3つの方針」

<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/network/#anchor01>

＜学修成果の明確化について＞（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

ディプロマ・ポリシーの中で、学生が達成すべき目標を、知識・理解、汎用的技能、知識体系に基づく思考と知の創出、態度・思考生の観点から明確化している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

・専修大学Webサイト

ネットワーク情報学部「教育研究上の目的と3つの方針」

<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/network/#anchor01>

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

卒業認定・学位授与の方針に掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、転換・導入科目、教養科目、外国語科目、専門科目を体系的に編成したカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定め明確化している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・専修大学Webサイト
ネットワーク情報学部「教育研究上の目的と3つの方針」
<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/network/#anchor01>

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

学生自らが学びの記録をまとめたポートフォリオを教員に示し、それまでに身につけたスキル等の能力が、コースごとに定めた水準まで達しているのか認定を受ける「修了能力認定」という講義を4年前期に設け、学習成果が授与する学位にふさわしいかの検証を行なっている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2023（令和5）年度「修了能力認定S」シラバス
- ・2023（令和5）年度「修了能力認定D」シラバス
- ・2024（令和6）年度「修了能力認定S」シラバス
- ・2024（令和6）年度「修了能力認定D」シラバス

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

情報学の専門分野に基づく2つのコースと6つのプログラムを用意し、各コース・プログラムごとに必修・選択必修科目を開講している。各授業科目の到達目標はシラバスで明確にしている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2023』39-54 ページ、74-75 ページ
- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2024』39-54 ページ、74-75 ページ
- ・2023（令和5）年度シラバス（サンプルとして「リテラシー演習」）
- ・2024（令和6）年度シラバス（サンプルとして「リテラシー演習」）

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

学部にて、1 年次は学びの基礎づくり、2 年次は深める方向を探る、3 年次は知識の融合と発展、4 年次は学びの仕上げ、という学習の順次性を設定し、それに配慮して、1 年次は転換・導入科目や専門科目共通必修等、2 年次は前期にコースごとの基礎演習、後期にプログラムごとの応用演習等、3 年次はプロジェクト等、4 年次は修了能力認定等を配当している。学修ガイドブックに「4 年間の学びのステップ」「専門科目の4 年間での学び」として可視化している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2023』7-8 ページ、23-24 ページ
- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2024』7-8 ページ、23-24 ページ

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

シラバスに「授業時間外の予習・復習・課題」を記載することとして、学生の学修時間を考慮している。その上で、学修時間の確保を目的として、年次ごとの上限単位数を設定（CAP 制）している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2023』7-8 ページ、11 ページ、74-75 ページ
- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2024』7-8 ページ、11 ページ、74-75 ページ
- ・2023（令和5）年度シラバス（サンプルとして「基礎演習S」）
- ・2024（令和6）年度シラバス（サンプルとして「基礎演習S」）

＜授業内容・方法について＞（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

シラバスに、「課題等に対するフィードバック」「授業で実施するアクティブ・ラーニング」を記載することとして、授業形態や授業方法を適切なものにするよう促している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2023（令和5年度）シラバス（サンプルとして「情報表現演習」）
- ・2024（令和6年度）シラバス（サンプルとして「情報表現演習」）

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

一部の講義科目についてはオンライン・オンデマンドを導入（令和5年度は専門科目の6.6%、令和6年度は同11.0%）し、遠隔事業の効果的な活用を図っている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・ 2023（令和 5）年度開講授業分
- ・ 2022（令和 4）年度 第 10 回教授会資料 9（検討依頼）
- ・ 2022（令和 4）年度 第 13 回教授会資料 11（検討結果）
- ・ 2022（令和 4）年度 第 14 回教授会資料 2（再検討依頼）
- ・ 2022（令和 4）年度 第 18 回教務委員会 議題 16 資料（検討結果）
- ・ 2022（令和 4）年度 第 10 回内部質保証推進委員会資料 1
- ・ 2022（令和 4）年度 第 11 回内部質保証推進委員会資料 4
- ・ 2024（令和 6）年度開講授業分
- ・ 2023（令和 5）年度 第 9 回教授会資料 7（検討依頼）

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

本学部では基本的には学修状況に応じたクラス分けなどは行っていないが、外国人留学生に対して日本語学修の科目を設置し、学生の多様性に対応している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2023』64 ページ
- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2024』64 ページ

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

すべての授業で LMS を活用して授業時間外での学習を促すようにしている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2023（令和5）年度 第6回内部質保証推進委員会資料3
- ・2023（令和5）年度 第2回FD研修（2023/9/26）開催記録

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

大学のシラバス記述マニュアルに加えて、学部独自のシラバス記述マニュアルを用意して、各教員がシラバスを作成している。学部ガイダンス等で学生へ科目選択や学修におけるシラバス活用を促している。

【長所・特色】

各教員がシラバスを作成した後、科目で計画されている内容とCPとの整合性を、教務委員会で確認している。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2023（令和5）年度 講義要項（シラバス）原稿作成について（依頼）
- ・2024（令和6）年度 講義要項（シラバス）原稿作成について（依頼）

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

シラバス作成に際して、到達目標に対する成績評価方法および評価基準（例：Aは到達目標が十分に満たされている時）を明記すると共に、期末定期試験前に学部長および教務委員長名の文書で、学生に不正行為に関する注意喚起を行っている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2023（令和5年度）シラバス（サンプルとして「情報表現演習」）

- ・2024（令和6年度）シラバス（サンプルとして「情報表現演習」）
- ・2023（令和5）年度前期 学生向け不正行為に関する注意喚起
- ・2023（令和5）年度後期 学生向け不正行為に関する注意喚起
- ・2024（令和6）年度前期 学生向け不正行為に関する注意喚起

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

学生に対して、成績評価に対する問合せ方法・期間を明示し、「成績調査確認票」による成績調査を行っている。また学位授与に関しては、卒業発表に伴う成績評価疑義対応を行っている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・『ネットワーク情報学部時間割 2023』5 ページ
- ・『ネットワーク情報学部時間割 2024』6 ページ
- ・2023（令和5）年度 学期末卒業決定通知
- ・2024（令和6）年度 学期末卒業決定通知
- ・成績評価確認票（両年度共通）

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定の制度はない。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

なし

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

毎年３月と９月に教務委員会にて卒業判定を行い、合格した学生に対して学位を授与している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2023（令和５）年度 第17回教授会資料3
- ・2023（令和５）年度 第17回教授会資料4（同日の教務委員会資料を兼ねる）
- ・2023（令和５）年度 第8回教授会資料1
- ・2023（令和５）年度 第16回教授会資料11（同日の教務委員会資料を兼ねる）
- ・2023（令和５）年度 第16回教授会資料12（同日の教務委員会資料を兼ねる）
- ・2023（令和５）年度 第8回教務委員会 議題1 資料
- ・2023（令和５）年度 第17回教務委員会 議題3 資料
- ・2024（令和６）年度 第8回教授会資料1
- ・2024（令和６）年度 第8回教務委員会 議題1 資料

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

４年次前期に設置している「修了能力認定 S/D」において、各学生は自身の４年間の学びを DP に基づいて振り返り、学修成果の総まとめを行う。本学部では各学生の修得単位数に加えて、この学修ポートフォリオの情報も用いて学生に学位を授与している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2023』目次の前ページ
- ・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2024』目次の前ページ
- ・2023（令和５）年度「修了能力認定 S」シラバス
- ・2023（令和５）年度「修了能力認定 D」シラバス
- ・2024（令和６）年度「修了能力認定 S」シラバス

<学修成果の把握および評価について>（評点：S）

（1）達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

（2）最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学生には1年次から毎年「学修ポートフォリオ」を作成させ、それを使って4年次科目の「修了能力認定」で学位授与の方針を満たすかどうか把握し評価している。

【長所・特色】

各学生はコースやプログラムを選択して学修を進め、プログラムで指定された科目群について単位認定した場合、卒業時に「プログラム修了証」を授与している。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2023』23・24 ページ

・『ネットワーク情報学部学修ガイドブック 2024』23・24 ページ

・「学修ポートフォリオ制作のための情報サイト」

<https://sites.google.com/senshu-u.jp/net-lpf>

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評点：B）

（1）達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

（2）最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準は明確ではない。教務委員会にて討議する方法・プロセスとなっている。周期は明確ではないが、全学カリキュラム改定に応じて行っている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準や周期が明確でないので明確化する必要がある。

【根拠資料】

- ・2024（令和6）年度 第9回教務委員会 報告事項6資料

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

学生アンケートや、適宜教務課から学部教育に関するデータを整理してもらなどして、参考にしながら点検・評価を行っている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・「授業に関する学生アンケート」の結果公開について（in Campus2023（令和5）年9月1日発信）
- ・「授業に関する学生アンケート」の結果公開について（in Campus2024（令和6）年1月23日発信）
- ・「授業に関する学生アンケート」の結果公開について（in Campus2024（令和6）年8月5日発信）
- ・2023（令和5）年度前期_授業に関するアンケートの実施について（2023（令和5）年度 第5回教務委員会 議題1資料）
- ・2023（令和5）年度後期_授業に関する学生アンケートの実施について（2024（令和6）年度 第11回教務委員会 議題2資料）

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

全学のIRからのデータを参考にしている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

・2024（令和6）年度 第5回教授会資料 10

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

自己点検・評価の結果を教務委員会等で共有し、教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいる。コースやプログラムの構成など教育課程についてはカリキュラム改定に反映した。ラボの導入など教育方法の改善・向上にも取り組んでいる。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2024（令和6）年度 第9回教務委員会 報告事項6 資料
- ・ラボ検討委員会最終報告書（2023（令和5）年7月30日）

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

本学部の学修において必要となる知識・技能、能力、態度を7項目にわたり、理解しやすいように具体的に示している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

・専修大学Webサイト

ネットワーク情報学部「教育研究上の目的と3つの方針」

<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/network/#anchor01>

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

2020年度より総合型選抜、学校推薦型選抜では記述式総合問題を課し、2022年度より学校推薦型選抜ではグループ面接を課し（総合型選抜では従来より個人面接を課している）、アドミッションポリシーに関わる能力を有しているか確認している。学部入試委員会・A0入試委員会のもと、記述式総合問題の出題内容、面接での質問内容、判定基準を整理し、公平、公正な入学者選抜となるようにしている。

【長所・特色】

ネットワーク情報学部の学修に特に求められる、「情報・データリテラシー及び論理的思考の基礎となる、算数・数学」、「自己や他者の思考・判断を理解し、表現することができる、日本語によるコミュニケーション能力」、「自己とは異なる思考・価値観を有する他者を含むグループでの学習活動に、主体的に参画する態度」を明示することで、入学後のミスマッチを減らすことができている。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2024（令和6）年度 A0入試判定について
- ・2024（令和6）年度 記述式総合問題サンプル（学校推薦型選抜）
- ・2025（令和7）年度 記述式総合問題サンプル（学校推薦型選抜用）
- ・2024（令和6）年度 学校推薦型選抜入試判定について
- ・2025（令和7）年度 学校推薦型選抜入試判定について
- ・2025（令和7）年度 総合型選抜入試判定について

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

総合型選抜（A0入試）、学校推薦型選抜では、入学センターと教務課（学部担当）、学部入試委員会・A0入試委員会と連携して対応する仕組みを構築している。なお、令和7年度指定校制推薦入学試験（令和6年度に実施）では特別支援学校2校を指定校としたことから、修学上の配慮等に関する懸案事項を各教育課程運営機関から収集するスキームを構築した。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・ 2025（令和 7）年度以降の入学者選抜へ向けた検討について（依頼）
- ・ 筑波附属支援学校訪問記録
- ・ 横浜市立ろう支援学校訪問記録
- ・ 2024（令和 6）年度 第 6 回教授会資料 11
- ・ 2024（令和 6）年度 第 12 回教授会資料 9

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

大学のホームページに明示して、学部のホームページ・入学者向けパンフレット、入試要項などから参照できるようにすることで、すべての志願者が情報を得られるようにしている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・ 専修大学 Web サイト
ネットワーク情報学部「教育研究上の目的と 3 つの方針」
<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/network/#anchor01>

<定員管理について>（評点：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

2015 年度入学者は入学定員比 1.20 と大幅超過となったが、2016 年度入試から実施された、電話連絡による繰上合格の入学意思確認を適切に活用することで、毎年の入学者が、入学定員比 0.99～1.09 の範囲（平均 1.04 倍）に収めている。

【長所・特色】

2016 年以降、専修大学のすべての学部の中で、最も安定的に、適正な入学者数を確保できている。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2023（令和5）年度学生数（年報より）
- ・2024（令和6）年度学生数(<https://www.senshu-u.ac.jp/albums/abm.php?d=98&f=abm00060438.pdf>)
- ※2024（令和6）年度分は、年報未完成のため専修大学Webサイトより。

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

2015 年度のように、入学定員比 1.20 倍の入学者がいるような状況においては、学生の学習環境を適切に維持できるよう、学部長から学長に兼任講師の増員等の対応を依頼するようにしている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

なし

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

入試方式（学校推薦型選抜の場合には高校）ごとの「GPA 分布」「退学者数」「優秀者を対象とした奨学金受給者数」「入学前教育の学習状況」等のモニタリング指標を用いて定期的に確認し、それを元に、入試方式毎の募集人員、指定校推薦の依頼校及び推薦条件、総合型選抜（A0 入試）の応募要件を毎年見直している。

【長所・特色】

2020 年度より一般入試では、「数学を必須科目する入試」の他には、「共通テスト数学Ⅰ・Ⅱ」の受験を必須として、「平均点－標準偏差」を目安とした基準点を設けて、数学能力を担保するようにしたことは、他大学でもあまり見ない、ネットワーク情報学部の特徴的な取り組みである。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2023（令和5）年度入学試験のネットワーク情報学部における大学入学共通テスト「数学Ⅰ・数学Ⅱ」の基準点について（願）
- ・2024（令和6）年度入学試験のネットワーク情報学部における大学入学共通テスト「数学Ⅰ・数学Ⅱ」の基準点について（願）
- ・2023（令和5）年度ネットワーク情報学部 AO入試要項
- ・2024（令和6）年度ネットワーク情報学部 総合型選抜（AO入試）入試要項
- ・2023（令和5）年度推薦入学指定校基準（ネットワーク情報学部）
- ・2024（令和6）年度推薦入学指定校基準（ネットワーク情報学部）

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

モニタリング指標の数値が悪い入試方式（学校推薦型選抜の場合には高校）は、取り組みによって改善される傾向にあり、適切な取り組みをしていると考えている。

【長所・特色】

一般入試の入学者と推薦入試の入学者の間の、入学後の GPA 差が、全学部学科の中で最も小さく、改善の成果が現れている。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・2022（令和4）年度卒業生分ダッシュボード
- ・2023（令和5）年度卒業生分ダッシュボード

<学生の多様性確保について>（評点：B）

(1) 達成目標

学生の多様性（主に性別、国籍）向上に努める。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者選抜において、性別、国籍に関して多様な背景を持った学生の受入に配慮した選抜を実施。

【現状説明】

1) 留学生試験において、日本留学試験のスコアを活用し、日本以外に在住する留学生の受入に努めている、2) 総合型選抜において、社会人経験者、帰国生、障がいを持つ者に門戸を開いており、大学独自の給費奨学生を遠方在住者を優先して採用している、3) 指定校推薦入試において女子学生の推薦を働きかけている 4) 一般選抜において、遠方居住者の受験が容易である共通テスト利用型の募集人員の割合を高くしている。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

女子学生比率 3 割以上を目標としているが、まだ到達できていない。

【根拠資料】

- ・ 2023（令和 5）年度 第 1 回教授会資料 5
- ・ 2024（令和 6）年度総合型選抜入試要項
- ・ 2025（令和 7）年度総合型選抜入試要項
- ・ 2024（令和 6）年度外国人留学生入学試験要項
- ・ 2025（令和 7）年度外国人留学生入学試験要項
- ・ 2024（令和 6）年度指定校制推薦入試要項
- ・ 2025（令和 7）年度指定校制推薦入試要項
- ・ 2024（令和 6）年度 第 1 回教授会資料 3
- ・ 2025（令和 7）年度外国人留学生入学試験要項
- ・ 2024（令和 6）年度 第 1 回教授会資料 13

評価の視点②

多様な背景を持った学生に応じた入学後の学びを支援するための体制を整備。

【現状説明】

外国人留学生に対しては、日本語の授業を設置すると共に、2022 年度から留学生指導担当教員を設けて入学後の学びを支援している。ただし、2024 年度は外国人留学生入学試験での入学者が 1 名だったためクラス担任が兼ねることとした。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・ 2022（令和4）年度 第18回教授会資料6
- ・ 2023（令和5）年度 第17回教務委員会 議題6資料

＜教員の多様性確保について＞（評点：B）

(1) 達成目標

教員の多様性（主に性別、年齢）向上に努める。

(2) 最終報告

評価の視点①

専任教員の採用において、性別、年齢、国籍等に関して多様な背景を持った人材の受入に配慮した選考を実施。

【現状説明】

専任教員の採用において、性別、年齢、国籍等に関して多様な背景を持った人材の受入に配慮した選考を実施できるように、教務委員会において、性別、年代ごとの学部専任教員数を共有している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・ 2023（令和5）年度専任教員年齢構成（専修大学Webサイト掲載原稿。人事課作成）
- ・ 2024（令和6）年度専任教員年齢構成（<https://www.senshu-u.ac.jp/albums/abm.php?d=98&f=abm00060441.pdf>）
- ・ 2023・2024（令和5・6）年度専任教員の男女比率（人事課作成）

評価の視点②

①の選考の目的、評価する能力及び実施する合理的な理由を公表し、多様な背景を持った人材に応じた入職後の就労を支援するための体制を整備。

【現状説明】

専任教員の採用において、公募要領に「本学では男女共同参画を推進しています。本公募は、業績の評価において同等と認められる場合、女性を優先的に採用します。（男女共同参画社会基本法に基づくポジティブ・アクション）」と明記している。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

多様な背景を持った人材に応じた入職後の就労を支援する体制が、未検討・未整備である。

【根拠資料】

- ・ 2024（令和6）年度専任教員公募要領
- ・ 2025（令和7）年度専任教員公募要領（データ解析）
- ・ 2025（令和7）年度専任教員公募要領（AI 応用システム）
- ・ 2025（令和7）年度特任教員公募要領（テーマ実習）

<アクティブラーニングの採用について>（評点：A）

（1）達成目標

学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

（2）最終報告

評価の視点①

①アクティブ・ラーニングの方法（教室内でのグループ・ディスカッション、グループ・ワーク等）について、シラバス等において明示。

【現状説明】

アクティブラーニングの要素を取り入れている科目については、シラバスに以下のいずれであるかを明示している：①PBL（課題解決型学習）、②反転授業、③ディスカッション・ディベート、④グループワーク、⑤プレゼンテーション、⑥実習・フィールドワーク

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・ 2023（令和5）年度シラバス（サンプルとして「情報と社会」）
- ・ 2024（令和6）年度シラバス（サンプルとして「情報と社会」）

評価の視点②

アクティブ・ラーニングを導入した科目の割合（全開講科目（卒業単位に含められる正課の授業科目）の全シラバスの数を分母、そのうちアクティブ・ラーニングを行うことを明示しているシラバスの数を分子として割合を算出）の明確化。

【現状説明】

アクティブ・ラーニングを導入した科目の割合は、令和5年度が $289/398=73\%$ 、令和6年度が $314/364=86.3\%$ である。

【長所・特色】

特になし。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・ 2023（令和5）年度私立大学等改革総合支援事業に係る調査 タイプ1④ 根拠資料
- ・ 2024（令和6）年度私立大学等改革総合支援事業に係る調査 タイプ1④ 根拠資料

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔07-1〕 心理学科（人間科学部）

<教育研究上の目的について>（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

人間科学部は、実験、観察及び調査を軸として、科学的及び実証的に人間の理解を目指し、人間の心と社会に生起する様々な現象のメカニズム（因果関係）を解明する領域を総合的に学び、主体的に社会を支え活動できる人材及び高度な専門性を備えた人材を養成することを目的とする。

人間科学部心理学科は、心理学の様々な領域で蓄積されてきた知識と理論（「知」）及び研究方法（「スキル」）を実習を通して修得させることにより、現代心理学の持つ批判的、分析的かつ主体的な人間行動理解に到達させることを目標とし、もって心理学実務家、心理学研究者その他の修得した心理学を社会に還元できる人材を養成することを目的とする。これらの目的は、高等教育機関の目的として、また人間科学部心理学科の目的として適切である。

【長所・特色】

教育研究上の目的の達成状況に関しては、人間科学部における高い就職率（2022年度は94.3%）によって部分的に評価できる。心理学科の卒業生は「情報通信」「教育・公務」「製造」など幅広い分野に進出しており、教育課程において修得した心理学を社会に還元できる人材を多数輩出している。また、心理学実務家（公認心理師や臨床心理士の有資格者等）や心理学研究者を目指すべく、大学院に進学する学生が多いことも心理学科の特色である。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学学則

大学ホームページ

人間科学部パンフレット

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

大学の目的は専修大学学則第1条に、人間科学部心理学科における人材の養成に関する目的その他教

育研究上の目的は専修大学学則第 2 条の 2 にそれぞれ明記されており、教職員及び学生に適切に周知がなされている。また、いずれも大学ホームページにも掲載されており、社会に対しても適切に公表がなされている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学学則

大学ホームページ

＜学修成果の明確化について＞（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

心理学科における卒業認定・学位授与の方針は以下の 5 つであり、大学ホームページにて学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果は明確に示されている。(1) 文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身に付け、多様な価値観を受け入れた上で、社会生活上の諸課題に取り組むことができる(知識・理解、態度・志向性)。(2) 心理学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を説明することができる(知識・理解)。(3) 人間行動の理解のために、研究機器の利用方法をはじめとしてさまざまな実証的研究の手法を活用することができる(汎用的技能)。(4) 現代心理学の持つ批判的、分析的かつ主体的な人間行動理解に基づき、知見や技能を活用することができる(知識体系に基づく思考と知の創出)。(5) 未解決の問題を発見し、それを適切な方法で解決することができる(知識体系に基づく思考と知の創出)。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

人間科学部 学修ガイドブック

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

教育課程編成・実施の方針として、人間科学部では、教育研究上の目的及び養成する人材の目的を達成するために、教育課程を「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の4つの科目群から構成することとし、教育課程全体の体系性・順次性を確保し、かつ教養教育と専門教育の有機的連携を図っている。心理学科においては、「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」、「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」、「教育内容・方法」の各区分によって教育課程編成・実施の方針に関する基本的な考えを明確に示している。これらの教育課程編成・実施の方針は大学ホームページと学修ガイドブックに示されており、学生が容易に情報を得られるように適切な配慮がなされている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

人間科学部 学修ガイドブック

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

学修成果の把握と評価に際しては、アセスメントプラン及びカリキュラム・マップを使用している。アセスメントプランを定めることで、ディプロマ・ポリシーに示された資質・能力及び総合的な活用力の修得状況を、「大学レベル」、「学部・学科レベル」および「学生個人レベル」の3つのレベルで把握し、評価している。カリキュラム・マップには、ディプロマ・ポリシーに示された資質・能力と授業科目との間の対応関係を示してある。アセスメントプランとカリキュラム・マップを活用しつつ、各授業科目における到達目標、授業内容、成績評価基準等をシラバスによって明示し、対応関係にある資質・能力に応じて試験等（筆記試験、口述試験、実技試験、レポート）を実施することで、学修成果は授与する学位にふさわしいかどうかを適切に検証している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

科目区分「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」では、学修の基盤となる自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践する能力、自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力、自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力、情報・データリテラシーの基礎力、幅広い領域の知識・理解力を養成するための科目を開設している。

科目区分「専門科目」では、①心理学専門科目に関連した言語運用能力を養成する科目として「心理学講読1」、②心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力と多様な価値観を受け入れ、主体的に学ぶ自己設計・管理力の養成のための科目として、1年次に「心理学基礎実験1（心理学実験）」、「心理学概論」、「臨床心理学概論」、2年次に「心理学基礎実験2」の必修科目、「心理学研究法」をはじめとする19の選択必修科目と、「公認心理師の職責」をはじめとする3つの選択科目、③心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力、知識の統合と活用する能力、論理的思考力を養成する選択必修科目として、「心理学の思想と歴史1・2」、「基礎心理学特殊講義A」をはじめとする10の選択科目、④心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力、知識の統合と活用する能力、論理的思考力、問題解決能力の養成のための科目として、選択必修科目の「情報処理心理学実習1・2」、「心理学特殊講義A（障害者・障害児心理学）」をはじめとする15の選択科目、⑤心理学の研究方法を理解するための情報・データリテラシー能力を養成する必修科目として、1年次の「心理学データ解析基礎1（心理学統計法）・2」、「心理学コンピュータ実習1」を実施するほか、「心理学コンピュータ実習1」をはじめとする4つの選択必修科目、⑥倫理観と社会的責任、論理的思考力、心理学の知識の統合と活用する能力、問題解決力を養成する必修科目として3年次に「心理学実験演習1」、4年次に「心理学実験演習2」と「卒業論文」を開設している。

各授業科目の到達目標については、シラバスにおいて適切に明示されている。

【長所・特色】

現代心理学の重点的な領域をカバーできるように、基礎・実験系と臨床系の専任教員をバランスよく配置していることが長所である。また、隣接諸科学との境界領域で最先端の研究成果をあげている研究者を兼任講師としてお迎えしている点も心理学科の特色といえる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部 学修ガイドブック

各授業科目シラバス

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

学部・学科の教育課程は、順次性及び体系性に配慮して「転換・導入科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」の4つの科目区分で適切に編成している。また、各学部の「専門科目」においても、基礎から応用・発展的内容へ段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成しており、学修の順次性に配慮して年次配当を行っている。さらに、全学部で実施している「科目ナンバリング」によっても、順次性及び体系性を明確なものにしている。

【長所・特色】

国家資格の公認心理師をはじめとする心理系の資格を取得するために必要な科目が開講されており、学修の順次性に配慮した科目配置になっている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部 学修ガイドブック

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学設置基準にそって、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって適切に構成している。教室での授業に加えて教室外での学修が必要であることを学生には周知しており、後者の学修で求められることについては各科目のシラバスに事前の準備（予習等）や事後の展開（復習等）として記してある。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部 学修ガイドブック

各授業科目シラバス

<授業内容・方法について>（評点：A）

（1）達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が

学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法については、全学（学士課程）の教育課程編成・実施の方針において、「能動的な学修への参加を促すため、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングを導入します」としている。また、前述したとおり、授業において必要な学生の学修を活性化し効果的な教育を行う工夫について、本学では、全学的に導入しているリアルタイムアンケートシステムの respon を活用し、履修者数に関わらず双方向型の授業が可能な環境となっている。

人間科学部心理学科では、心理学研究を実践する実習授業において、学生同士の協調的参加や議論への積極的参加を求めている。1 年次必修「心理学基礎実験 1（心理学実験）」、2 年次必修「心理学基礎実験 2」、3 年次必修「心理学実験演習 1」、4 年次必修「心理学実験演習 2」は、心理学における実験等の研究を実践しながら学ぶ科目であり、学生の主体的参加が不可欠である。「心理学基礎実験 1（心理学実験）」及び「心理学基礎実験 2」では、担当教員とティーチング・アシスタントにより、学生を小グループに分けて、学生同士が協調的かつ積極的に学ぶことができるよう配慮している。また「心理学実験演習 1」及び「心理学実験演習 2」では、学生は個々の興味関心に基づいて 15 人の教員のいずれかのクラスに分かれ、それぞれのクラスのグループにおいて、自身の成果の発表と学生同士での議論を通して研究を進めていくことができるようにしている。

【長所・特色】

徹底した少人数教育により、一人ひとりに時間をかけながら双方向的な教育を行っている点が長所である。演習・実習の授業では、学生は少人数に分かれて、教員やティーチング・アシスタントからきめ細やかな指導を受けることができる。ゼミナールに相当する「心理学実験演習 1」及び「心理学実験演習 2」では、教員 1 人あたりの各年次の担当学生は 6 名程度であり、意欲的かつ効果的に学修を進めるための指導や支援を十分に行える体制が整っている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

人間科学部 学修ガイドブック

各授業科目シラバス

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

インターネット等を介して教室以外の場所でも受講することができる「オンライン授業」が取り入れられ、適宜活用されている。卒業の要件として修得すべき単位数のうち、オンライン授業とする授業科目（総授業回数の半数以上をオンラインで行う授業科目）から修得することができる単位数の上限を、専

修大学学則（第5条の4第2項）において60単位と定めている。各授業科目の授業運営方法（対面・オンライン）は、講義要項（シラバス）などに掲載しており、ガイダンスや年度ごとに配付する時間割などの資料を確認のうえ、各自で上限単位数を踏まえた学修計画を立てるように周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

遠隔授業の有用性については十分に理解されているが、心理学科が収容定員の少ない小規模な学科であることや、必修の演習・実習科目を各年次を開講していること等の理由により、現時点においては面接授業が主となっている。

【根拠資料】

専修大学学則

人間科学部 学修ガイドブック

各授業科目シラバス

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

外国語科目のうち必修科目の「英語」では、習熟度別クラスで学修することになっており、学生の多様性に適切に対応している。入学時の「英語科目プレースメントテスト」によって、Basics of EnglishとIntermediate Englishのどちらを履修するかが決定する。基礎的な学修が必要な場合はBasics of English、基礎が修得されている場合はIntermediate Englishを履修する。Intermediate EnglishはさらにMidとHighにわかれている。特に希望すれば、英語科目プレースメントテストによって指定されたクラスより1レベル上（Basics of English→Intermediate English (Mid)、Intermediate English (Mid)→Intermediate English (High)）のクラスの履修を許可されることもある。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部 学修ガイドブック

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるために、履修登録単位数の上限を適切に明示している。各年次一律に48単位を上限としている。海外語学短期研修及び

資格課程科目については、年間履修上限単位数には含めていない。また、履修上限単位数には再履修科目も含めている。学生には、各年次に修得する単位の目安（1年次 38 単位、2年次 38 単位、3年次 36 単位、4年次 12 単位）を示した上で、毎年の履修計画を立てるように周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

人間科学部 学修ガイドブック

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

大学の統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「講義内容（到達目標、講義概要、講義計画、アクティブ・ラーニングの要素、課題に対するフィードバックの方法）」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」「担当教員へのアクセス」を必須項目として記すことになっている。単なる講義概要にとどまることなく、到達目標と成績評価の方法・基準を明示するとともに、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる、授業の工程表として機能するような内容となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

各授業科目シラバス

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価の客観性を担保するための措置として、GPA（Grade Point Average）制度を導入している。成

績評価は、100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。授業科目ごとの成績に対してグレードポイントを付与し、GPA を算出している。成績評価の区分を明示するために、学生には成績評価の区分を表にして提示している。

成績評価の厳格性を担保するための措置として、本学（学部・学科）では、各授業科目のシラバスに「到達目標」「講義計画」「成績評価方法・基準」を明示し、これに基づいて厳格な成績評価を行っている。学生からの成績評価に関する疑義の申し立てに対しては、カリキュラム委員会（教務委員会）が中心になって対応することで厳格性を適切に担保している。

成績評価は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、口述試験、実技試験またはレポート）によって適切に実施されている。科目によっては、それに学修の状況等を平常点として加味し評価される場合や、平常点だけで評価される場合もある。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部 学修ガイドブック
各授業科目シラバス

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

成績評価および単位認定にかかる基準・手続については、履修ガイダンスをとおして学生に対し周知しているほか、学修ガイドブックにも情報を掲載し、学生へ適切に明示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部 学修ガイドブック

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

他大学等で修得した単位や入学前に修得した単位の認定に関しては、大学設置基準に基づき適切に行っている。学部・学科では、学則第 5 条の 3 第 1 項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」と規定

し、また、同条第2項において、「本大学は、教育上有益と認めるときは、次に掲げる学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。(1)短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修(2)本大学へ入学する前の前号の学修」と規定している。これらの規定により修得したものとみなし、又は授与することのできる単位数については、同条第3項において「学生が編入学又は学士入学をした場合を除き、60単位を超えないものとする」としている。なお、既修得単位の認定にあたっては、単位制度の趣旨に基づいて授業内容・時間等を確認し、カリキュラム委員会（教務委員会）、教授会の議を経て厳正に行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学学則

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に関しては、各学部・学科、研究科・専攻・課程ごとに定めた卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、学則第18条に明示し、適切に授与されている。学部・学科の卒業要件は、学生に配付する学修ガイドブックにあらかじめ明記するとともに、大学ホームページにおいても公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学学則

大学ホームページ

人間科学部 学修ガイドブック

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

心理学科では、学生全員に心理学的研究に基づく卒業論文を課している。卒業論文の構成と字数等については学科で定めており、卒業論文の提出前に卒論ガイダンスを実施して卒業論文の形式等について過不足が生じることがないように指導している。卒業論文の最終的な成績評価は当該学生の指導に当たった個々の担当教員が責任を負うが、評価に際しては担当教員以外の教員が副査として卒業論文の査読を行うことによって客観性の担保を図っている。また各担当教員による卒業論文中間発表と、成績評価

に前もって口述試験が課されている。学位授与に係る手続きとして、全ての卒業論文についてその成績を心理学科の教員全員によって確認する機会を設けており、これによって成績評価の厳正性を保持し、学位授与に対する心理学科全体の責任とその適切性を担保している。

【長所・特色】

すべての卒業論文について主査と副査が査読している点は、客観性の確保や学修効果の適切な評価に資するものであり、心理学科の長所・特色といえる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部 学修ガイドブック

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握及び評価に関しては、アセスメントプラン及びカリキュラム・マップを活用することで行っている。アセスメントプランを定めることで、ディプロマ・ポリシーに示された資質・能力及び総合的な活用力の修得状況を、「大学レベル」、「学部・学科レベル」および「学生個人レベル」の3つのレベルで把握し、評価している。カリキュラム・マップには、ディプロマ・ポリシーに示された資質・能力と授業科目との間の対応関係を示してある。これらを組織的に活用することで、卒業認定・学位授与方針で定めた学修成果の実態を適切に把握及び評価している。さらに、心理学科では卒業論文を評価指標として学修成果を測定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

人間科学部 学修ガイドブック

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

心理学科における教育課程及びその内容、方法の適切性については、人間科学部の自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

自己点検・評価の際には、大学ホームページや学修ガイドブックなどの根拠資料に基づいて、適切に記述・報告を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

自己点検・評価の客観性および公平性を担保し、かつ、教育研究水準の更なる向上を図ることを目的に、「専修大学自己点検・評価に関する外部評価委員会」が運営され、点検・評価における客観性及び妥当性の確保が適切に図られている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

自己点検・評価中間報告書における外部評価委員会委員からの指摘を踏まえて学科の長所・特色について検討するなど、適切に教育方法の改善・向上への取り組みを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

人間科学部心理学科では、入学者受入れの方針について、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に定める教育を受けるために必要な、以下に掲げる知識・技能、能力、態度を備えた人を求めることとしている。(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(2) 高等学校に至るまでの履修内容のうち、「国語」と「英語」において、聞く・話す・読む・書く、という基礎的な能力を身につけており、併せて、「数学（II、B）」の基礎知識に基づいて数理的分析を行い、その結果から事象を論理的に考察する思考を身につけている。(3) 人間性の理解をめざし、人間の意識や行動、それをもたらす精

神活動や心理的機能について学ぼうとする強い意志を持っている。(4) 心理学と関連する、生理学・精神医学・人文科学・自然科学・社会科学等の専門分野に対して広く関心をもっている。(5) 心理学のさまざまな領域で蓄積されてきた研究成果や理論の修得、及び、実証科学としての心理学の研究方法について実習を通して体得し、卒業後は、社会に役立つ人材として活躍する強い意欲を持っている。この方針には、入学者に求める関心・意欲、資質・能力等の人物像や判定方法が志願者にも理解しやすいように明確に示されており、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針にも整合した内容となっている

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

学部・学科では、入学者受入れの方針を踏まえ、一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜といった多様な入学者選抜を設けている。選抜方法・選考方法を多様化し、個々の受験生の長所である能力・適性等を多面的に評価することで、求める学生を適切に見出し、様々な学生を入学させて大学教育を活性化させることとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

本学では、身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。また、外国籍を有する方で出願条件を満たしている方を対象に「外国人留学生入学試験」を実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

入学者受入れの方針については大学ホームページなどにおいて適切に公表している。また、授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供は、専修大学入学ガイドや大学ホームページなどによって、適切に行っている。また、入学試験要項においても学費及び各種の奨学生制度について情報提供を行っている。更に、入学後は、学内ポータルシステムや書面等を通じて適期に学生に周知するとともに、迅速な事務対応を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学ホームページ

入学ガイド

<定員管理について>（評点：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

本学の入学定員及び収容定員は、大学設置基準に基づき、教員組織、校地・校舎等の施設・設備その他教育上の諸条件を総合的に考慮して、適切に設定している。また、収容定員の管理については、毎年度、定員充足率等を勘案し、これに基づき適正な合否判定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

教授会議事録

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

学部・学科における収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応のひとつとして、繰上合格制度が挙げられる。本制度の導入により、仮に入学定員が未充足となった場合においても、繰上合格を行うことで、定員充足を図ることが可能としている。また、在籍学生数の適切な管理として、転部科試験の実施や低単位修得者への対策等を行うことで、退学・除籍者の抑制を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

教授会議事録

＜入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

教授会及び各学部の入学試験委員会において定期的に点検・評価を行っている。具体的には、入学試験別募集定員の設定、入学試験制度の新設及び廃止、入学試験科目の変更等の検討を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

教授会議事録

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

入学者の受入れ状況を踏まえ、翌年度の入学者受入れ（定員数等）について検討を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

教授会議事録

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔07-2〕社会学科（人間科学部）

＜教育研究上の目的について＞（評点：A）

(1) 達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

(2) 最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

社会学科では、人々の生活の場を主要な研究及び学問の領域とし、そこに現われてくる人間の行為や意識、社会関係や組織などの実態と現代社会の構造及び問題性を明らかにすることを目標とし、社会状況を適確に判断し、着実に活動できる人材を育成すると同時に、学問の発展に寄与する人材を養成することを目的と定めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024 (p81)、専修大学人間科学部ホームページ(教育研究上の目的)

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

大学ホームページおよび社会学科オフィシャルページ、学部パンフレット、『学修の手引き』において教育研究上の目的を記載し、教職員、学生への周知を図るとともに、社会への公表を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024、専修大学人間科学部ホームページ、社会学科オフィシャルページ、学部パンフレット

<学修成果の明確化について> (評点：A)

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

以下の5点を学位授与の方針とし、それぞれに対応する学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明示している。(1) 幅広い一般知識として、社会学の専門教育を超えた、文化、歴史、社会、自然など幅広い領域の知識を理解し、説明することができる。(知識・理解) (2) 社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を体系的に理解し、社会的行為と諸制度との相互関係を社会的に説明できる。(知識・理解) (3) 実証的調査の方法を用いて量的・質的なデータを収集・分析し、グループで作業する能力とコミットメントを身につけ、自らの思考を文章や口頭によって分かりやすく他者に伝えることができる。(汎用的技能) (4) 諸社会が有する文化や価値の多様性に関心を持ち、他者に寛容な態度で接するとともに、社会の成員としての自己を理解し、自分が得た知識や価値観を反省し相対化して行動することができる。(態度・志向性) (5) 社会における実践的な課題を発見し、上記の能力を総合

的に駆使して理論的に思考・分析し、社会を構想し提言することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学人間科学部ホームページ（ディプロマ・ポリシー）

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

社会学科のカリキュラム・ポリシーにおいて、教育課程を「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の4つの科目群から構成することおよびその教育内容と方法について示し、学習の方法については『学修ガイドブック』において明示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024、専修大学人間科学部ホームページ（カリキュラムポリシー）

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

「三つの方針（DP・CP・AP）策定要領」に基づき、学部・学科の教育課程の編成・実施方針に記載する項目を「学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針」「学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針」「教育内容・方法」の3項目とし、全学（学部）の教育課程の編成・実施方針において、「学修成果の評価方法」を示し、アセスメントプラン、カリキュラム・マップにより検証することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学科会議議事録

＜教育課程について＞（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

社会学科では、基礎部門と専門分野からなるカリキュラム編成を行い、基礎部門では社会学の理論や社会学的思考法、方法論を学修する科目を開講し、専門分野では「文化・システム」系、「生活・福祉」系、「地域・エリアスタディーズ」系という3つのゆるやかに結びあう研究・学習領域を設定し、それぞれの専門分野を学修する科目を開講している。各授業の到達目標については、講義要項において明示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学人間科学部ホームページ、シラバス

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

学びの過程の可視化については、大学ホームページにおいて「履修モデル」として各年次および各自の専門にもとづく履修プランを明示している。学習の順次性については授業科目すべてに「科目ナンバリング」を付し分類することで、学習の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024(pp18-19)、専修大学人間科学部社会学科ホームページ(履修モデル)

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

学則第5条の5に定めてあるとおり、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、試験その他の学修評価方法により学習の成果を評価して単位認定を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学則第5条の5、社会学科オフィシャルホームページ

<授業内容・方法について> (評点:A)

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

「社会学特殊講義 A・B・C/D・E・F」では遠隔授業も取り入れ、学生の多様な興味・関心に対応した授業を実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024(pp86-91)、専修大学人間科学部ホームページ

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

学生の関心に基づいた「社会調査実習 A・B」や「専門ゼミナール」のクラス分けを実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024(p90)、専修大学人間科学部ホームページ

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

124 単位として定めている卒業要件単位について教育課程の 4 つの科目群それぞれの卒業要件単位の内訳を定めている。また各年次の履修上限単位数を一律 48 単位と定めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024、社会学科オフィシャルページ

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

シラバスの作成にあたっては、大学による統一フォーマットにより作成している。「卒業認定・学位授与の方針との関連」を示すとともに、「到達目標」、「講義概要」、「授業で実施するアクティブラーニング」、「課題に対するフィードバックの方法」の項目で構成された講義内容の提示、「成績評価方法・基準」、「履修上の留意点」を提示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024(p83)

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバスの作成にあたっては、大学による統一フォーマットにより作成している。「卒業認定・学位授与の方針との関連」を示すとともに、「到達目標」、「講義概要」「授業で実施するアクティブラーニング」、「課題に対するフィードバックの方法」の項目で構成された講義内容の提示、「成績評価方法・基準」、「履修上の留意点」を提示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

シラバス

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価の客観性を担保するための措置として、学部・学科では、GPA 制度を導入している。具体的には、学則第 17 条第 2 項において、成績評価は、100 点を満点とし、60 点以上を合格とし、60 点未満を不合格とする。成績評価の区分は、90 点以上を S、85 点以上 90 点未満を A+、80 点以上 85 点未満を A、75 点以上 80 点未満を B+、70 点以上 75 点未満を B、65 点以上 70 点未満を C+、60 点以上 65 点未満を C、60 点未満を F とする。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024(p31)

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

各科目ごとに成績評価の基準については、講義要項（シラバス）において、「成績評価方法・基準」を明記している。また卒業論文を必修とし、「手引き」を定めて学生に明示し、体裁や提出期限など厳格に運用している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

シラバス、卒業論文チェックリスト、人間科学部時間割

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

他大学等で修得した単位や入学前に修得した単位の認定に関しては、大学設置基準にもとづき適切に行っている。
また英語科目および英語以外の外国語科目では資格試験において一定の基準を満たしている学生に対して単位認定を行っている。また交換留学プログラムでは留学中に修得した単位を審査のうえ本学の単位に振り替えることができる。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024(pp54-62)

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る責任体制、手続きは、学則第 18 条及び学位規定において規定し、これに基づき学部教授会規定を定め、教授会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

ディプロマ・ポリシーの方針に基づき、所定の単位を修得したものを卒業と認め、学士（社会学）の学位を授与している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学人間科学部ホームページ（ディプロマ・ポリシー）

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

学生×授業ごとの成績評価を起点とした学修成果の把握・可視化の実現を目指しており、このことは、2022（令和 4）年度から運用を開始するアセスメントプランにも記載している。また、この点検・評価プロセスを実現するために重要な、「測定可能な学修目標の設定（DP の改正）」および「各授業科目と学修目標との対応（カリキュラム・マップ）」の策定についても行っており、これらを組織的に活用することで、学位授与方針で定めた学修成果の実態を測定・把握することとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学人間科学部ホームページ（ディプロマ・ポリシー）

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

大学の内部質保証プロセスのもと自己点検・評価を定期的に行い、改善・向上に向けた取り組みを行っている。自己点検・評価委員会において『自己点検・評価報告書』『自己点検・評価中間報告書』として取りまとめを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

第15期『自己点検・評価中間報告書』

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

「授業に関する学生アンケートの結果と授業の改善」のFD研修を実施し、教育過程およびその内容、教育方法についての点検を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

本学の内部質保証推進委員会において設定された自己点検・評価項目の大綱に基づき、自己点検・評価項目を自己点検・評価委員会において決定後、自己点検・評価を実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

自己点検・評価の結果をふまえた大学としてのカリキュラム改正のもと、教育課程や教育方法の改善・向上への取り組みとしてカリキュラム編成の検討を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

人間科学部学習ガイドブック 2024

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

入学者受入れの方針を高等学校までの履修内容をふまえて以下のように設定している。(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語」と「英語」の両方において、聞く・話す・読む・書く、という基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。(3) 高等学校までの履修内容のうち、科学的思考力の基礎として「数学 (I、A、B)」において、確率・統計にかかわる知識を身につけている。(4) 高等学校までの履修内容のうち、「地理歴史 (世界史・地理・日本史)」において、グローバル化する現代社会の多様性とその歴史的前提を理解するために必要な知識を身につけている。(5) 社会への寄与を念頭に、そのために社会学を学び、その高度な専門性を応用したいという意欲がある。(6) 必要な知識を身につけるための講義・実習・演習に最後まで取り組むことができる。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学人間科学部ホームページ (アドミッション・ポリシー)

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

本学の入試体制のもと実施される一般選抜、特別入学試験 (指定校制推薦入学試験、帰国生入学試験、外国人留学生入学試験) について学科で入試制度・方式について審議し、入学試験委員会において決定している。入学者選抜の実施にあたっては入学試験規定に基づき設置される入試委員会のもと入学者選抜を実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

大学全体として特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備に関しては、身体の障がい等により受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立っての「配慮希望書」の提出を入学試験要項に明記している。また、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等についても障がい学生支援室を中心とした関係所管での事前相談の機会が設けられており、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限りの配慮を行うこととしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学ホームページ

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

大学ホームページにおいて入学試験要項を公開するとともに、入学試験関連の情報提供を行っている。また入学試験要項や願書の請求を受け付けるとともに、各種入試関連イベントにおいても配布を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

専修大学ホームページ

<定員管理について>（評点：A）

（1）達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

（2）最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

大学入試の定員管理の基準をふまえて入学者の受入れを行い、在籍学生数についても適正に維持している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学科会議議事録

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応のひとつとして、学部・学科における繰上合格制度が挙げられる。本制度の導入により、仮に入学生数が未充足となった場合においても、繰上合格を行うことで、定員充足を図ることが可能としている。また、在籍学生数の適切な管理という観点から見ると、転部科試験の実施や低単位修得者への対策等を行うことで、退学・除籍者の抑制を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学科会議議事録

＜入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて＞（評点：A）

（1）達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

（2）最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

入学試験委員会における出願時アンケート結果にもとづく検討や学部教授会および学科会議における入学者受入れ状況についての検証を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学科会議議事録

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

入学者の受け入れ状況をふまえ、翌年度の入学者受入れ（定員数および内訳）について検討を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学科会議議事録

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔08-1〕 日本語学科（国際コミュニケーション学部）

<教育研究上の目的について>（評点：A）

(1) 達成目標

本学が掲げる理念（21世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

(2) 最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

日本語学科では、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、日本国内における日本語の言語生活向上と課題解決に貢献できる人材や、国内外における日本語教育に貢献できる人材を養成することを目的とする。

【長所・特色】

学則の「旧い権威や強力に対してあくまで批判的であることを精神とし」は、国際コミュニケーション学部では「より広い視野をもち、強靱な論理的思考を実践できる」に言い換え、日本語学科では、「国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、日本国内における日本語の言語生活向上と課題解決に貢献できる人材や、国内外における日本語教育に貢献できる人材を養成する」に具体的に言い換えている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

教職員、学生へは『学修ガイドブック』によって周知し、社会へはウェブページで公表している。

【長所・特色】

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

＜学修成果の明確化について＞（評点：A）

（1）達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

（2）最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

日本語学科としての学士（文学）の学位授与の方針を、『学修ガイドブック』に記載して学生に周知し、ウェブページ上でも公表している。

【長所・特色】

日本語学科は、言語や文化の多様性への深い理解と、日本国内における日本語の言語生活向上と課題解決と国内外における日本語教育を重視した専門教育を特色とする学科である。「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」では、

（1）日本語の時間的変異、空間的変異、社会的変異の諸相についての理解という観点、

（2）言語学的視点に立った日本語の高い運用能力や、客観的な視点から情報を統合して分析する能力を身につけているという観点、

（3）日本語の言語教育（国語教育・日本語教育等）の分野だけでなく、日本語を必要とする様々な領域に還元しようとする態度を有しているという観点、

の3点を挙げている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

教育課程の体系と教育内容は、カリキュラム・ポリシーとして設定され、これに整合したカリキュラムとして教育課程を構成する授業が適切な科目区分及び適切な授業形態が具体的に設定されている。いずれも『学修ガイドブック』に掲載し、公表している。

【長所・特色】

『学修ガイドブック』には、学科ごとの特色を記して履修への指針及び「卒業認定・学位授与の方針」を示している。また、各科目の区分、配当年次、卒業要件単位数をわかりやすく一覧にした「図表」を掲載しているほか、4年間でどのように学修が進められていくかを年次別に科目名称を挙げつつ解説し、「教育課程編成・実施の方針」を実際の履修の指針を提示しながら、わかりやすく説明している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

- (1) 日本語の音声、音韻・表記、文法、語彙・意味、語用論等の各分野について体系的な知識を獲得し（知識・理解）
- (2) 言語学的視点に立った日本語の高い運用能力や、客観的な視点から情報を統合して分析する能力を身につけ（技能・表現、思考・判断）
- (3) 卓越した知見を活かし、日本語の言語教育（国語教育・日本語教育等）の分野だけでなく、日本語を必要とする様々な領域に還元しようとする態度を有している。（関心・意欲・態度）ということに適切に連関している。

【長所・特色】

日本語学の知識、分析する能力、国語教育・日本語教育といった教育力の3体系を柱とし、すべての体系について「基礎科目」「基幹科目」「発展科目」「応用科目」「関連科目」の科目群を設置する順次的かつ体系的なカリキュラムを編成している。4年間の順次的かつ体系的な科目履修を通して知識と能力を身につけることが可能となるよう配慮し、基礎から基幹、基幹から発展、発展から応用へと順次性のある展開で編成している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

教育課程の体系と教育内容は、カリキュラム・ポリシーとして設定され、これに整合したカリキュラムとして教育課程を構成する授業が適切な科目区分および適切な授業形態が具体的に設定されている。いずれも『学修ガイドブック』に掲載し、公表している。

【長所・特色】

『学修ガイドブック』には、学科ごとの特色を記して履修への指針及び「卒業認定・学位授与の方針」を示している。また、各科目の区分、配当年次、卒業要件単位数をわかりやすく一覧にした「図表」を掲載しているほか、4年間でどのように学修が進められていくかを年次別に科目名称を挙げつつ解説し、「教育課程編成・実施の方針」を実際の履修の指針を提示しながら、わかりやすく説明している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

日本語学の知識、分析する能力、日本語教育・国語教育といった教育力の3体系を4年間で学修するために、年次が上がるにつれて次第に学修内容を高めていけるように、順序だてた体系化をおこなっている。

【長所・特色】

日本語学の知識、分析する能力、国語教育・日本語教育といった教育力の3体系を柱とし、すべての体系について「基礎科目」「基幹科目」「発展科目」「応用科目」「関連科目」の科目群を設置する順次的かつ体系的なカリキュラムを編成している。4年間の順次的かつ体系的な科目履修を通して知識と能力を身につけることが可能となるよう配慮し、基礎から基幹、基幹から発展、発展から応用へと順次性、および体系性を配慮している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

国際コミュニケーション学部では、大学設置基準における1単位当たり45時間の学修時間という基準に基づき、単位設定をしている。

【長所・特色】

単位制については『国際コミュニケーション学部 学修ガイドブック』にも記載し、周知している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<授業内容・方法について>（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

授業科目は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の下に設計し、「シラバス」を作成している。

【長所・特色】

シラバスはweb上で公開しており、授業の毎時の内容（テーマ）まで詳細に記載することとしている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

国際コミュニケーション学部では、教育効果等の観点からオンライン授業とすることが望ましいと判断した授業科目をオンライン授業として開講している。

【長所・特色】

全授業の中でのオンライン授業の割合は、概ね1割程度としている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

日本語学科では、2年次から専門科目の必修科目としてゼミナールを開講している。ゼミナールの内容は担当教員がそれぞれの分野に基づいて設定し、学生が、自分が深く学びたい分野を選ぶ形になっている。

【長所・特色】

ゼミナールの選択は1年次後期に行い、それに先立ち、授業や説明会で各ゼミの紹介をしている。また、学年が変わる時期にゼミナール変更の機会を設けている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

日本語学科では、科目の特性を考慮した配当年次を設定するとともに、各年次における履修上限単位数（1年次～3年次44単位、4年次48単位）を設定している。

【長所・特色】

4年間にわたってバランスのよい履修・学修ができるように履修上限単位を設定している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

シラバス執筆に当たっては、「講義内容」欄に＜到達目標＞、＜卒業認定・学位授与の方針との関連＞、＜講義概要＞、＜授業の形態＞、＜講義計画＞、＜課題に対するフィードバックの方法＞の各項を必ず記載することとしている。

また、「成績評価方法・基準」、「履修上の留意点」、「担当教員へのアクセス」の各欄も設けている。

【長所・特色】

シラバスは、web上で検索可能なものとして、広く公開している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

＜単位認定・学位授与について＞（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」の中で明記しており、大学HP及び『国際コミュニケーション学部 学修ガイドブック』で公表している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

シラバスの中で「成績評価方法・基準」を明示している。

また、成績評価に疑義がある場合は、教務課に申し立てることにより、評価に至る理由を本人に開示している。

【長所・特色】

シラバス執筆に当たっては、「成績評価方法・基準」の記載を必須としている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

本学の協定校への海外留学プログラム（長期交換留学プログラム、セメスター交換留学プログラム）に参加し、留学先大学で習得した単位は、審査の上 60 単位を上限に本学の単位に振り替えることができる。

【長所・特色】

海外留学プログラムについては、学内に設置された「国際交流センター」が運営し、学部・学科が適正な審査を行うことで、単位認定を行っている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る責任体制及び手続きは学則第 18 条及び「専修大学学位規程」第 3 条で規定し、これに基づき、「専修大学国際コミュニケーション学部教授会規程」を規定し、卒業認定を行っている。

【長所・特色】

「専修大学学位規程」では、「学士の学位は、大学卒業の要件を満たした者に授与するものとする」と規定している。

また、「専修大学国際コミュニケーション学部教授会規程」の第 6 条(2)では、「学生の入学、卒業その他学生の在籍に関する事」と規定している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）」を、大学HP及び『国際コミュニケーション学部 学修ガイドブック』で公表した上で、定められた責任体制及び手続きによって学位授与を行っている。

【長所・特色】

「学期末卒業」制度や「卒業延期」制度も設け、5年次生以上が条件を満たした場合に、年度途中でも卒業できることとしている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

国際コミュニケーション学部では、他学部同様に、アセスメント・テスト「GPS-Academic」を全学生を対象に実施している。この実施結果については、教育開発支援委員会及び教務課 IR 担当が協働で分析を行い、分析結果は、内部質保証推進委員会学部部会において報告されている。

【長所・特色】

「GPS-Academic」の分析結果は、学部における授業運営改善の重要な資料と位置付けている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

「専修大学自己点検・評価規程」に基づいて「自己点検・評価」委員会を置き、定期的な点検・評価を行っている。

【長所・特色】

学則第7条に基づき、教育開発支援委員会を置き、国際コミュニケーション学部では、同委員会と連携するFD委員会を設け、定期的に点検・評価を行っている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

国際コミュニケーション学部FD委員会では、定期的な点検・評価として、「授業評価アンケート」を実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

「授業評価アンケート」は、専任教員が担当する科目のうち、一定数以上の履修者がいる科目において実施している（無記名での回答であるが、履修者数が少ない科目では、回答者が特定される可能性があるため、実施していない）。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

国際コミュニケーション学部 FD 委員会による、FD 研修を実施することで、改善・向上への取り組みを行っている。

【長所・特色】

「授業評価アンケート」の集計・分析結果は、FD 委員会が FD 研修を実施する際の基礎資料として活用している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

日本語学科においては、学生像として「日本語に対する興味と感心や学習意欲を有している人」「社会の諸課題の解決に取り組むための思考力やコミュニケーション能力の基礎を身につけている人」を受け入れることを明示している。それとともに、入学希望者に求める水準として、「学部教育を受けるために必要となる基礎的な学力として、高等学校の主要科目における教科書レベルの知識を有している」とし、高等学校卒業者に対して無理のない設定を行っている。

【長所・特色】

日本語学科では、「日本語に対する興味と感心や学習意欲を有している人」だけではなく、「社会の諸課題の解決に取り組むための思考力やコミュニケーション能力の基礎を身につけている人」として、コミュニケーション能力も要件に含めることで、広い視野をもった学生の受け入れ姿勢を示している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

「入学試験委員会規程」に基づき、全学的な機関として「入学試験委員会」を設けている。入学試験委員会では、入学試験の実施、入学試験制度及び入学試験の方法に関する諸施策の審議・立案を行っている。

【長所・特色】

国際コミュニケーション学部内にも、学部独自の入学試験委員会を設置し、各種推薦入学試験や帰国生入学試験等の方法について検討する主体となっている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

特別入学試験として、「帰国生入学試験」「外国人留学生入学試験」を設けている。

【長所・特色】

日本語学科の場合、特に「外国人留学生入学試験」においては、比較的多くの出願がなされている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

本学の「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」及び学部・学科の「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」は、大学HP及び『専修大学入学ガイド』で公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<定員管理について>（評点：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

日本語学科の1学年の定員は、学則第52条で定めている。
その上で、各入学試験の合格判定の際に、判定目標数を設定し、入学定員の超過に細心の注意を払っている。

【長所・特色】

多様な入学試験の実施は、合格判定の機会を複数回設けることにもなり、定員管理も行いやすくなっている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

定員超過については、とくに、未卒者数を増やさないよう、国際コミュニケーション学部カリキュラム委員会で、対応を行っている。なお、現時点で、未充足には該当していない。

【長所・特色】

収容定員管理のためには、退学者・除籍者を極力出さないことと、4年間で卒業できるようにすることに重点を置いて、きめ細かい履修指導、学修指導を行っている。
その結果、5年次生以上の在籍学生を抑えることができている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

日本語学科の指定校推薦入学試験の対象校については、過去の入学実績に基づいて選定している。

【長所・特色】

日本語学科の指定校推薦入学試験の対象校については、必要に応じて更新を行うこととしている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

前年度の入学者選抜の結果に基づいて、学部入試委員会および学科会議において当該年度の入学者選抜の指針について必要な改善を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか>（評点：A）

(1) 達成目標

従来の専門科目に加え、日本語学の専門知識の有用性を実体験し、学修意欲を高めることを目的とする「日本語学応用実習」において複数の実習を実施する。さらに、学生の積極的な学修を促進するため、学生による研究発表会を開催し、また、日本語学の魅力について学生自らが学外に発信する場を設ける。

(2) 最終報告

評価の視点①

「日本語学応用実習」の各実習の特色を生かした実施状況

【現状説明】

「日本語学応用実習」は、日本語学科の専門科目で学んだ日本語学の専門知識について、各種機関で実施するさまざまな実習の中で実体験することでその有用性を確認し、さらなる学修意欲を高めることを目的とする定時外科目である。

実習先の機関・実習内容・実習期間は、年度ごとに設定される。学生は、個々人の学問的興味に応じて実習を選び、事前研修を受けたうえで実習に参加する。

【長所・特色】

2024 年度は、九段日本語学院で夏期休暇期間に実施する実習、クロアチアのプーラ大学、チェコのブラハ・カレル大学との間で3か国合同の「チーム研究」を11月から2月にかけて実施した。さらに、シンガポール経営大学・シンガポール国立大学に学生を引率し、複言語・複文化の国における日本語教育の実態を視察する実習を2月から3月にかけて実施した。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

全ゼミナール合同での研究発表会の開催

【現状説明】

2021 年度から、9 月の夏期休暇期間中に「専大日語の夏フェス」を開催している。日本語学科の各ゼミナールで発表希望者を募り、グループまたは個人での研究発表を行っている。2023 年度からは、卒業論文の成果を持ち寄って発表する「専大日語の冬フェス」も開催している。

【長所・特色】

2023 年度の「冬フェス」、2024 年度の「夏フェス」は、神田キャンパス 10 号館で対面開催した。「冬フェス」では 10 件の発表、「夏フェス」では 12 件の研究発表を実施した。日本語学科の学生を中心に、それぞれ約 50 名、約 90 名の参加があった。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔08-2〕異文化コミュニケーション学科（国際コミュニケーション学部）

＜教育研究上の目的について＞（評点：A）

(1) 達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

(2) 最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科としての、人材育成および教育研究上の目的を設定している。

国際コミュニケーション学部は、その教育研究上の目的を、学則第 2 条の 2 において「日本語を含む諸言語についての研究、言語教育の手法やコミュニケーションの在り方そのものについての研究及び社会・思想・文化の研究を基礎としながら、より広い視野をもち、強靱な論理的思考を実践できる人材を養成す

ること」としている。

異文化コミュニケーション学科では、その教育研究上の目的を、学則第2条の2において、「国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、複数の言語によるコミュニケーション能力をもって国際社会に貢献できる人材を養成すること」としている。

【長所・特色】

学則第2条の2において、国際コミュニケーション学部は、学則第1条（本大学の目的）に記された「批判的であることの精神」及び「人間の値打ちを尊重する平和的良心」を、国際コミュニケーションという視点から具現化して記している。また、異文化コミュニケーション学科も、学則第1条（本大学の目的）を、言語や文化の多様性への深い理解と複数の言語によるコミュニケーション能力の育成による国際化社会への貢献という視点から具現化して記している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』および専修大学ホームページ

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

学科の人材育成および教育研究上の目的を、『学修ガイドブック』によって周知し、ウェブページで社会に対して公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』および専修大学ホームページ

<学修成果の明確化について>（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明

確化

【現状説明】

言語運用能力の進捗を測るための外部の外国語認定試験受験制度や、卒業認定の目安となる「卒業研究」においてルーブリックを策定し、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果を明確にしている。

【長所・特色】

国際コミュニケーション学部では、「より広い視野をもち、強靱な論理的思考を実践できる人材」の養成を重視している。

異文化コミュニケーション学科では、「国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、複数の言語によるコミュニケーション能力をもって国際社会に貢献できる人材を養成すること」として、特に国際化の進む現代社会の要請に応えるものとしている。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』、専修大学ホームページおよび本学科が学生に配布共有するルーブリック

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

『学修ガイドブック』において、本学科の特色および教育課程編成とその実施方針について詳細しているほか、学修成果を達成するために必要な学修方法を明確に提示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』および専修大学ホームページ

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

卒業認定の目安となる「卒業研究」の口頭試問において、専任教員による副査を置き、ルーブリックを相互のクライテリアとしつつ、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の検証としている。

【長所・特色】

学修成果の達成に関して、教員と学生との間のコミュニケーション・ツールとしてルーブリックが策定されている。また、主査と副査同席による口頭試問にて学位授与の適正さを検証している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』、専修大学ホームページおよび本学科が学生に配布共有するルーブリック

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

複数言語の修得のほか、<文化><地域><コミュニケーション>に関する学修による幅広い知見の獲得、研究手法の理解等において、初歩的基本的な内容から高度な内容に進めるよう、順序立てた体系化を行っている。各授業科目の内容および到達目標については、『学修ガイドブック』で説明しているほか、各科目のシラバスにおいても詳述している。

【長所・特色】

言語系科目に加え、<地域><文化><コミュニケーション>の3体系を柱として、「基礎科目」「基幹科目」「発展科目」「応用科目」「関連科目」の科目群から編成している。4年間の体系的な科目履修を通して知識と能力を身につけることが可能となるよう配慮し、基礎から基幹、基幹から発展、発展から応用へと順次性のある展開で編成している。<地域><文化><コミュニケーション>を軸となる体系として設置しつつ、基幹から発展、応用へと順次性を進むにしたがって各体系が相互作用するように設計している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』、専修大学ホームページおよび科目シラバス

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

複数言語の修得のほか、＜文化＞＜地域＞＜コミュニケーション＞に関する学修による幅広い知見の獲得、研究手法の理解等において、初歩的基本的な内容から高度な内容に進めるよう、順序立てた体系化を行っている。

【長所・特色】

言語系科目に加え、＜地域＞＜文化＞＜コミュニケーション＞の3体系を柱として、「基礎科目」「基幹科目」「発展科目」「応用科目」「関連科目」の科目群から編成している。4年間の体系的な科目履修を通して知識と能力を身につけることが可能となるよう配慮し、基礎から基幹、基幹から発展、発展から応用へと順次性のある展開で編成している。＜地域＞＜文化＞＜コミュニケーション＞を軸となる体系として設置しつつ、基幹から発展、応用へと順次性を進むにしたがって各体系が相互作用するように設計している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』および専修大学ホームページ

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

各学年において、年間に履修できる単位数に上限を設けている。

【長所・特色】

学科学生全員が前期に留学する2年次のみ、年間履修単位上限を40単位に設定し、後期に無理のない履修ができるように配慮している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』および専修大学ホームページ

＜授業内容・方法について＞（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

教育課程の体系と教育内容は、カリキュラム・ポリシーとして設定され、これに整合したカリキュラムとして教育課程を構成する授業が適切な科目区分及び適切な授業形態が具体的に設定されている。いずれも『学修ガイドブック』に掲載し、公表している。

【長所・特色】

『学修ガイドブック』には、学科ごとの特色を記して履修への指針及び「卒業認定・学位授与の方針」を示している。また、各科目の区分、配当年次、卒業要件単位数をわかりやすく一覧にした「図表」を掲載しているほか、4年間でどのように学修が進められていくかを年次別に科目名称を挙げつつ解説し、「教育課程編成・実施の方針」を実際の履修の指針を提示しながら、わかりやすく説明している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』および専修大学ホームページ

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

遠隔授業は、学科では全体の5%程度の科目で実施しているほか、対面授業であっても教育効果が高いと判断される場合は、半期全15回授業のうち7回までを遠隔授業にて実施することを認めている。ただし、遠隔授業にする回は学部のカリキュラムを統括するカリキュラム委員会に報告することを義務づけている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

国際コミュニケーション学部カリキュラム委員会申し合わせ。毎年1月に学部から学部専門科目担当教員（専任・兼任）に宛てて発出される「シラバス執筆依頼」文書内に記載している。

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

言語科目（英語）において、1年次よりプレイスメントテストによる習熟度や学修状況に応じたクラス分けを実施している。

【長所・特色】

1 年次はプレイスメントテストによるクラス分けを実施しているが、2 年次より履修する言語科目においては、シラバス内において学習状況に応じたクラスレベルを設定し、学生が個々の習熟度や意欲に合わせて学修できるように配慮している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

「異文化コミュニケーション学科時間割表」および科目シラバス

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

＜文化＞＜地域＞＜コミュニケーション＞において、初歩的基本的な内容から高度な内容に進めるよう、順序立てた体系化を行っている。また、これらの科目特性を考慮した年次配当を設定するとともに、各年次における履修上限単位数（1 年次 44 単位、2 年次 40 単位、3 年次 44 単位、4 年次 48 単位）を設定している。

【長所・特色】

海外研修を実施する 2 年次の履修上限単位数を少なめに設定し、4 年間にわたってバランスのよい履修・学修ができるように配慮している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

全ての科目について、シラバスに必要事項を明示し、原則としてシラバスに記載した授業計画に基づいた授業運営を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

科目シラバス

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

成績評価方法およびその配分について、すべてのシラバスにおいて明示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

科目シラバス

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

シラバスの中で「成績評価方法・基準」を明示しているほか、成績評価に疑義がある場合は、教務課を通じて申し立てることにより、評価に至る理由を本人に開示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

科目シラバスおよび『学修ガイドブック』

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

異文化コミュニケーション学科においては、既修得単位および実践的な能力を修得している者に対する単位は認定していない。ただし、学科カリキュラム外の研修として、大学国際交流センターの主催する海外語学研修に参加した場合、そこでの修得単位を自由選択修得要件単位として単位認定している。また、高大連携において専修大学附属高等学校の生徒が専修大学の科目を履修できるようになっており、それらの科目で修得した単位は既修得単位として、学部学科の所定単位に算入することが許されている。

【長所・特色】

学科のカリキュラム・ポリシーに則した教育を公平に学修してもらうため、異文化コミュニケーション学科では既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位は認定していない。ただし、大学国際交流センターを通じた長期留学については、留学先で修得した単位を、本学科の開設する科目と内容の一致がみられることをカリキュラム委員会が精査したうえで、単位を認定する場合がある。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位授与に係る責任体制及び手続きは学則第18条及び「専修大学学位規程」第3条で規定し、これに基づき、「専修大学国際コミュニケーション学部教授会規程」を規定し、卒業認定を行っている。

「専修大学学位規程」では、「学士の学位は、大学卒業の要件を満たした者に授与するものとする」と規定している。また、「専修大学国際コミュニケーション学部教授会規程」の第6条(2)では、「学生の入学、卒業その他学生の在籍に関すること」と規定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

「専修大学学則」、「専修大学学位規程」および「専修大学国際コミュニケーション学部教授会規程」

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

4年間の学修の集大成である卒業研究の評価については、教員全員が全学生の成績を確認するとともに卒業研究を閲覧することができるようにしており、適切な学位授与を行えるものとする。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』

＜学修成果の把握および評価について＞（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

卒業認定の目安となる「卒業研究」の口頭試問において、専任教員による副査を置き、ルーブリックを相互のクライテリアとしつつ、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の検証としている。

【長所・特色】

学修成果の達成に関して、教員と学生との間のコミュニケーション・ツールとしてルーブリックが策定されている。また、主査と副査同席による口頭試問にて、学位授与の適正さを検証している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』および本学科が学生に配布共有するルーブリック

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

カリキュラム委員会を中心として、策定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

全学の自己点検・評価方針に基づいて、点検・評価を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

学部選出の自己点検・評価委員会を中心に、学科長を学科委員として選出して、自己点検・評価を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

組み

【現状説明】

毎年実施している自己点検・評価における未解決の問題点に対して、学部のFD委員会、カリキュラム委員会および学科会議で改善策を議論している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れの方針について>（評点：A）**(1) 達成目標**

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

大学の発行するパンフレットに加え、学部のガイドブックおよびホームページにて、入学者受入れの方針を周知している。また、A0入試においても、受入れる学生について説明会を設けている。

【長所・特色】

学科ホームページでの周知のほか、年5回実施されるオープンキャンパスでは、学部独自のイベントを開催し、志願者に対して適切な説明をしている。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『国際コミュニケーション学部学部紹介パンフレット』、『専修大学入学ガイドブック』ほか

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

入学者の選抜に関する情報提示は志願者全員に公平に周知しており、選抜は、学部の理念に沿い、また学部入試委員会にて検討された方法により、厳正、公正に行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

大学の方針に沿った方針を採用している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

学生の受け入れ方針を、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針とともに、ホームページ、『学修ガイドブック』によって公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

『学修ガイドブック』および専修大学ホームページ

<定員管理について>（評点：B）

（1）達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

（2）最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

適切であると考ええる。

【長所・特色】

退学者数が少ない点は在籍学生数の適正な維持につながっている。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

適切であると考ええる。

【長所・特色】

例年、異文化コミュニケーション学科では未充足は該当しない。

【問題点】

2024年度現在、多少の超過が見られる。これは次年度以降の調整により改善する予定である。

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：B）

（1）達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

（2）最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

前年度の入学者選抜の結果に基づいて入学者選抜の指針について現状を把握し、学部入試委員会および学科会議において当該年度の入学者選抜の課題や指針の取り組みを検討している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組み
の適切性

【現状説明】

前年度の入学者選抜の結果に基づいて、学部入試委員会および学科会議において当該年度の入学者選抜の指針について必要な改善を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

必要な改善へ向けてさらなる努力を続けていく。

【根拠資料】

該当なし

<創造的あるいは自主的な学修の活性化>（評点：A）

(1) 達成目標

学生の学修を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか

(2) 最終報告

評価の視点①

学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法は適切であるか。

【現状説明】

新型コロナウイルス感染症予防を措置しながらも、対面を基本とし、アクティブラーニングを中心とした授業形態をとっている。

【長所・特色】

言語によるコミュニケーションのみでなく、身体を通した感性を研ぐために、多くの科目で、対面による対話、グループ・ディスカッションなど、協働的タスクを取り入れた内容・方法を採用している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

「異文化交流ワークショップ」シラバス

評価の視点②

学生の関心が授業内容に留まらずに広がっていく工夫をしているか。

【現状説明】

学科学生全員が履修する必修科目において、学科の専門科目の繋がりが俯瞰して理解できるように横断的な内容を展開している。

【長所・特色】

「異文化理解の実践」「異文化交流ワークショップ」等の学科学生全員が履修する必修科目において、学科の目指す理念・目標を学生と共有するとともに、学生の関心が＜地域＞＜文化＞＜コミュニケーション＞の体系に広がっていくように工夫している。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

「異文化理解の実践」および「異文化交流ワークショップ」シラバス

<「海外研修」の積極的な応用>（評点：A）

(1) 達成目標

「海外研修」の成果を積極的に学修の充実化へとつなげているか

(2) 最終報告

評価の視点①

「海外研修」で得られた成果を学科カリキュラムにおいて適切に応用しているか。

【現状説明】

帰国直後に受講する科目（「異文化交流ワークショップ」）において、受講生がそれぞれの言語文化圏にて修得してきた言語コミュニケーションおよび身体的コミュニケーションを直接に交換する機会を設けている。

【長所・特色】

「異文化交流ワークショップ」は、一つのクラスに留学した言語文化圏の異なる学生が混在するように構成することで、単に対日本語文化圏との異文化交流だけに留まらず、異なる言語を学んだ学生たちが複数の異文化交流を実現できる点である。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

「異文化交流ワークショップ」シラバス

評価の視点②

「海外研修」を学生の将来の学修につなげる工夫をしているか。

【現状説明】

留学直後の学期からインテンシブな語学科目を設置し、語学面の教育を強化している。また、専門性の強い講義科目を設置することで、学生が「海外研修」にて感じとってきたものを言語化して語るができるようになる工夫をしている。

【長所・特色】

帰国後の後期に2ヶ月ほどの時間をかけて専門ゼミナールの紹介や見学会などを催すことで、学生のニーズにあった学修を継続できるようにしている。

【問題点】

特記すべき問題点はない。

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔9〕経済学研究科

<教育研究上の目的について>（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

大学を取り巻く厳しい社会環境の変化に対応していくため、本学では、大学の基本的な方向性を全学的観点から検討し、その結果、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、21 世紀ビジョンとして「社会知性の開発（Socio-Intelligence）」を掲げ、このビジョンのもと教育・研究体制の改革に取り組むとともに、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に積極的な大学運営を行っている。本学の 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」の具体的な推進に向け、各研究科は、専攻・課程ごとに専修大学大学院学則（以下、「大学院学則」という。）第 5 条の 2 において、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めている。これらの目的は、高等教育機関の目的として適切である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

大学院の目的は、大学院学則第 1 条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、大学院学則第 5 条の 2 において適切に明示している。研究科の目的は、それぞれ大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表している。また、『大学院要項』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

＜学修成果の明確化について＞（評点：B）

（1）達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

（2）最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

研究科の卒業認定・学位授与の方針は、大学院学則第 3 条に規定する目的及び人材養成に関する目的その他教育研究上の目的に基づき設定しており、大学 HP を通して公表している。また、『大学院要項』にこれらを掲載し、学生に配付することで、学生が容易に情報を得られるよう配慮している。

経済学研究科では、DP において博士論文についてのみ要求水準が詳細提示されている。これは、在籍人数が相対的に少ない博士後期課程学生に向けて、博士論文の要求水準への意識を高める狙いがあったためである。修士課程においては、かつて修士論文をリサーチペーパーで代替するコースが存在していたこともあり、修士論文についての同様の記述が存在していない。今後は修士論文の要求水準も明示していくことが求められる。

学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果は、何よりもまず、学位請求論文及び最終試験（口述試験）の評価によって測定される。現状では、学位請求論文の最終試験及び審査が終了した後、または合格発表の後に、指導教員に問い合わせをしてきた当該学生に対して、指導教員が審査項目（7 項目）に即した評価を伝達している。学習成果測定の指標および学習成果伝達の方法について明確化が求められるが、組織的な検討が行われていない点で不十分である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

要求される学修成果についての DP の記述が不明確な点に問題が認められる。修士論文の要求水準を明記することが求められる。

学位請求論文及び最終試験の結果に関連した学修成果の伝達方法が十分に確立していない点に問題が認められる。これまで個別に行ってきた学習成果の伝達の経験を踏まえ、研究科委員会等の場において、学習成果測定の指標および学習成果の伝達方法に関して組織的に検討することが求められる。

【根拠資料】

- ・ 2024（令和 6）年度大学院要項 45-46 ページ。
- ・ 「学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）の改正案について」2022（令和 4）年度第 8 回経済学研究科委員会〔2022 年 11 月 29 日〕議事資料（議題 5）

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

研究科・専攻・課程の CP は、原則として「教育課程の編成／教育内容・方法」及び「学修成果の評価方法」の区分で構成し、CP に関する基本的な考え方を明確に示している。

経済学研究科の CP においては、「学修成果の評価方法」に関して、論文発表会、学位請求論文の口述試験についての説明が適切に提示されてきた。一方「教育課程の編成／教育内容・方法」については不明確な記述であったので、2022 年度に CP の改正が行なわれた。改正により、カリキュラムには講義のほかに論文指導科目として、修士課程には「演習及び論文指導科目」が、博士後期課程には「特殊研究演習」が設置されていることが明記された。これにより、本研究科の授業科目が論文指導を行う必修科目と講義中心の選択科目との二本立てであること、論文指導に関して演習・論文指導の授業における日常的な指導と年数回の論文発表会との二本立てであることが明確になった。適切な対応がなされたといえる。

【長所・特色】

これまで両学位課程の教育内容が CP に十分表現されていなかった。今回の改正で明確化が達成されたことは評価できる。

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

・2024（令和 6）年度大学院要項 50-51 ページ。

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

大学院研究科においては、大学院学則第 6 条第 3 項において提示している。履修にあたっては、研究科、専攻、課程ごとに示した主要科目の中から 1 特論科目（特研科目）を選択し、これを学生の専修科目ととしている。なお、各授業科目の到達目標については、シラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

大学院研究科では、学年進行につれ内容が高まる順次性と体系性に考慮した適切な教育課程を編成している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学院における研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施について、修士課程に関しては、2 年間の概ねの研究スケジュールを大学院要項及び大学院 HP にて公表している。博士後期課程に関しては、大学院要項に概ねの研究スケジュールを明示し、個々の学生の研究進捗をふまえ、指導教授と学生が相談したうえで、具体的な年間スケジュールを設定している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<授業内容・方法について>（評点：B）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

大学院では、各研究科ともにコースワークとして特殊講義の科目群とリサーチワークとして演習を中心とした論文指導があり、例えば、リサーチワークとして修士課程において「演習」を8単位以上、博士課程において「演習」を12単位以上の修得を必須とするなどして、適切な組み合わせとしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

経済学研究科では、全研究科の方針に従い、対面による授業の実施を基本としている。遠隔授業の利用については、各教員の裁量的工夫に委ねられている。研究科全体としての遠隔授業の利用についての検討は未着手であり、この点で取り組みは不十分である。まずは各授業における遠隔授業の利用状況について情報収集することから、検討に着手することが求められよう。なお論文発表会においては、神田キャンパスでは引き続きオンライン方式が利用されているが、生田キャンパスでは2024年度から対面で実施されている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

遠隔授業の活用について組織的な検討がなされていない点が問題である。学部授業において、遠隔授業の活用が進んでいることなども踏まえ、経済学研究科においても、遠隔授業のあり方について検討を進める必要がある。まずは、個々の経験やニーズについて情報を集めるところから始める必要がある。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

経済学研究科では、学生の関心や研究分野、習熟度に応じて、他コースの授業科目を自由に選択することができる。エコノミックリサーチコースにおいては、一部の科目に履修制限を設け、習熟度に応じた学修に配慮している。全コースの外国語講読の科目にベーシック・アドバンストの段階を設けている。また、研究指導においては、担当教員が学生の習熟度に応じて柔軟かつ適切な指導が行われている。

【長所・特色】

学修状況の違いに関して、科目上の必要性に応じて対応している点は評価できる。

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

・2024（令和6）年度大学院要項 80 ページ。

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

大学院研究科（修士課程・博士後期課程）においては、履修上限単位を設けていないが、大学院学則第6条第3項において、修士課程では、「授業科目は、30単位以上を履修しなければならない」と規定し、博士後期課程では、「授業科目は16単位以上を履修しなければならない」としている。これらの情報は、『大学院要項』に記載し、学生に対し周知することで、適切な履修を促している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

本学研究科のシラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

大学院研究科においては、大学院学則第6条の9において「90点以上を「A+」、80点以上を「A」、70点以上を「B」、60点以上を「C」、60点未満を「F」とする」としている。この場合において、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とするとしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

研究科・専攻・課程の修了要件については、学生に配付する『大学院要項』に明記している。また、『大学院要項』には、研究科ごとの「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記するとともに、学位授与までの諸手続きを明記し、学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

大学院研究科に関しては、大学院学則第 6 条の 4 において、「本大学院が教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、10 単位を超えない範囲で、これを課程修了に必要な単位として認定することができる」としている。これに基づき、経済学特修プログラム及び経営学特修プログラムにおいて、学部時に修得した大学院授業科目を 10 単位以内で単位認定している。なお、大学院設置基準の一部を改正する省令に伴い、他大学院の単位互換及び入学前の既修得単位の認定の柔軟化並びに入学前の既修得単位を勘案した在学期間の短縮に対応することとし、これにより、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）については、15 単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすこととした。また、本大学院は、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院において修得した単位を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本大学院の修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して 1 年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、本大学院の修士課程に少なくとも 1 年以上在学するものとした。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位論文審査基準の明示については、『大学院要項』及び大学 HP に研究科ごとの「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記し、学生に周知している。なお、『大学院要項』は、年度当初に冊子体として大学院生全員に配付していることから、学生は常に学位論文審査基準を確認することが可能である。なお、学位授与に係る責任体制、手続は、大学院学則第 11 条及び学位規程において規定し、これに基づき各研究科委員会規程を定め、各大学院研究科委員会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

<学修成果の把握および評価について>（評点：B）

（1）達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

（2）最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

経済学研究科では、DP において 4 項目の資質・能力（知識・能力、研究能力・論文作成能力、問題発見・解決能力、論理的思考の能力）を要求するとともに、その判定の目安として学位論文審査基準の中に 7 項目からなる「審査項目」を設けている。令和 4 年 10 月 22 日に研究科長から運営委員会に対して、DP の要求する資質・能力 4 項目を指標とする評価方法についての検討要請がなされた。そこで提示された

のは、4項目をそのまま用いて修士課程修了生に自己評価してもらおうという試案である。試案は、学部授業評価アンケートと同じアンケート方式に基づき、4項目について5段階で自己評価してもらい、別個に自由記述欄も設ける、というものである。しかし、試案についてその後議論は進んでおらず、他にどのような指標が考えられるかを含め、今後の本格的な検討が待たれる。

経済学研究科では、毎年、税理士志望の社会人学生が財政・租税政策関連のテーマで修士論文を執筆し、修士課程を修了している。こうした、専門的な職業との関連性が強いテーマの修了生に対しては、指導教員が学位授与式等の機会に、専門的職業人としてのキャリアとの関連において大学院での学習・研究の成果はどうであったかという聞き取りを個別的に行っている。こうした情報は、教員間の日常の会話等を通じて他の教員に伝達・拡散されている。大学院教育の目的には、学科目上の専門知識を取得することの他に、自己の学習・研究を管理する能力を身につけ生涯学習の基礎を築くことも含まれているので、このように学習成果を自己評価する機会を設けることは教育上有意義である。ただし、自己評価の機会提供はいまだ個別的・非公式的なものに留まっており、得られた情報の共有や活用には至っていない。今回の試案は、この点を改善し、学習成果の自己評価のためのより組織的な手続きを進めようとする点において適切である。

【長所・特色】

学習成果を自己評価する機会の提供を検討することは、生涯学習の理念に照らして有意義なものとして評価できる。

【問題点】

・4項目を指標とする評価方法は研究科長からの試案提示の段階にとどまっており、議論は不十分である。これまで個別的に行ってきた学習成果の伝達の経験を踏まえ、研究科委員会等の場において、学習成果測定の評価指標に関する引き続きの検討が求められる。

・修了生に自己評価をしてもらう機会は個別的なものにとどまり、組織的なものになっていない。試案を手がかに議論を発展させるとともに、学習成果評価方法そのものや、実施のタイミング（学位授与式当日等）等、手続き上の工夫についても検討していくことが望まれる。

【根拠資料】

該当なし

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

博士後期課程の学生には、博士論文作成の上で、また研究職応募のために、研究業績として査読付き論文の執筆・公表が求められている。近年、学会誌査読をパスする上で、まずは学会報告を行うことが重要

なプロセスとなってきた。ところが、博士課程学生の学会発表者への現行の助成制度は、国内・海外問わず年1回の補助となっており、近年の動向に対応していなかった。令和5年度第1回経済学研究科委員会（4月25日）において、博士後期課程学生を受け持つ教員から、学会発表助成の充実のニーズを指摘する意見が出された。研究科委員会では、全研究科で検討する問題であると判断し、大学委員会レベルの検討に委ねることと了承した。その後、大学院委員会、大学院改革検討委員会でこの問題が検討に付され、最終的に令和5年度第11回大学院委員会（1月19日）において、「大学院学生の学会発表に対する助成に関する内規」の改正が承認され、助成強化が実現された。これにより、これまでは「助成は、学会開催の国内海外を問わず、1人、年1回までとする。」とされていたものが、「助成の回数は、学会開催の国内海外を問わず、1人につき年1回までとする。ただし、博士後期課程の学生であって海外で開催される学会の交通費及び宿泊費の助成に限り、年2回までとする。」（ただし、助成を2回受ける場合の上限あり）と改訂され、2024年度から施行された。

【長所・特色】

・業績における査読論文の重要性が高まる中、学会発表助成についての検討がなされ、内規改正にまで至ったことは評価できる。博士課程学会発表者への助成の強化は、大学院生の研究への意欲を高め実績を増進する上で大きな促進方策となると考えられる。

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

・「大学院学生の学会発表に対する助成に関する内規」第7条、第8条

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

大学院研究科では、DP および CP を踏まえた AP を設定し、学生募集要項、大学 HP 等において周知・公表している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

大学院入学者選抜試験の入試制度・方式、入試日程は、各研究科委員会で審議されたのち大学院委員会において審議・決定している。また、入学者選抜試験運営体制については各研究科委員会で入学試験委員を選出し（文学研究科の場合は、各専攻より入学試験委員を選出）、入試問題作成、チェック、実施、判定を行っている。文部科学省より通知される「大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の防止について」を参考に、各研究科の研究科長及び入学試験委員は事前の入試問題チェックを行い、問題文等の誤りや受験生に誤解を与える試験問題はないか確認している。特に入学試験当日は、入学試験本部を設置し、入学試験該当研究科の研究科長及び入学試験委員を配置し、入試問題のチェック、入学者選抜試験の適切・円滑な運営、受験生からの質問等、不測の事態に備えている。

公平、公正な入学者選抜の実施にあたっては、「監督要領」を作成し、監督者に対し周知・徹底を図っており、これにより統一的な入学試験実施を可能としている。公平性を担保する取組みとして、例えば、記述採点及び合否判定時においては、氏名を隠すなど、個人が特定できないよう配慮している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備に関しては、本学では、身体の障がい等により、受験上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

大学 HP において「大学院特設サイト」が開設され、経済学研究科においても、研究科としての研究指導の方法及びスケジュールをモデルとして HP 上に掲示した。特設サイト以外の情報媒体（本研究科公式ホームページやパンフレット・入試要項等配付物）において、3つのポリシーにそった統一的な記述・表現がなされているかどうかの精査はまだ十分に行われていない。

【長所・特色】

・「大学院特設サイト」において両学位課程について、研究指導の方法及びスケジュールが提示されたことは評価できる。

【問題点】

特設サイト以外の情報媒体における情報提供の充実が望まれる。AP に沿った統一的記述がなされているかどうか、CP や DP の改正状況などが適切に反映しているかについて点検・評価を進めることが、今後の課題である。

【根拠資料】

本学ホームページにおける、「大学院特設サイト」における本研究科コーナー(<https://www.senshu-u.ac.jp/education/graduate/special/economics/>、2024 年 9 月 10 日取得)

<定員管理について>（評点：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

大学院研究科における 2020（令和 2）年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、経済学研究科 0.30 倍となっている。また、博士後期課程についても定員未充足となっている。定員設定は、大学院全体の調整決定事項であり、経済学研究科修士課程の定員未充足に関しては、文学研究科専攻新設との調整において、2025 年度より定員削減による対応（30 名から 25 名へ）がなされた。今後は新たな定員規模を前提として定員充足を進めることが求められる。博士後期課程については、学会発表助成の充実化による支援強化で定員未充足問題への対応を行った。

【長所・特色】

定員調整による対応がなされたことは評価できる。

【問題点】

新定員の下での定員充足のための検討は行われている（次項参照）成果はまだ得られていない。

【根拠資料】

- ・「文学研究科修士課程ジャーナリズム学専攻設置に伴う経済学研究科修士課程の収容定員変更について」2023（令和 5）年度第 7 回研究科委員会〔2023 年 10 月 10 日開催〕議事資料（議題 4）

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

前項の定員削減の他、経済学研究科では、受験時の志望者の指導教授選択が不適切であることから合格に結び付かない問題（いわゆるミスマッチ問題）を重視し、2 面から取り組みを行ってきた。第一に、願書提出後または入学決定後の指導教授変更について従来よりも柔軟に対処できるよう、令和 4 年度制定の「修士課程指導教授選定に関する申し合わせ」の見直しを行い、令和 5 年度第 11 回研究科委員会（令和 6 年 1 月 23 日）にて改正を承認した。

- ・プロフェッショナルコース（財政学系統）における指導教授の決定は、従来通り、担当者間の調整によることとし、その旨を面接時に伝える。

- ・エコノミックリサーチにおける指導教授の決定は、従来通り、関連する研究分野の教員の合議制とする。二次試験当日に指導教授が決まらない場合、合格発表後に指導教授を知らせるということを面接時に受験者に伝える。

- ・その他のコース（系統）でも、入試後に同一専修科目の教員間で担当の調整を行うことは手続き上可能である。二次試験当日に指導教授が決まらない場合、合格発表後に指導教授を知らせるということを面接時に受験者に伝える。

- ・指導教授が決まったときの連絡は、Ⅱ期合格発表後の通知によることとする。

第二は、研究科公式ホームページにある教員紹介ページのリニューアルである。大学院改革検討委員会からの学生募集力強化のための教員紹介充実化の必要性という提起を受けて、経済学研究科においては令和 5 年度第 12 回研究科委員会（令和 6 年 2 月 20 日）にて、教員紹介ページ・リニューアルについての説明・了承がなされた。従来の同ページは、担当科目と簡単な研究テーマが記されるだけの簡易なものであり、詳細は研究者情報システムの参照に委ねるものであった。今回のリニューアルにより、従来の情報に、研究テーマ、研究指導領域、志願者へのメッセージが提示されることになった。

【長所・特色】

受験者の意向に即した指導教員の選定は、確実な入学者確保のためにも、また入学後の円滑な研究活動のためにも重要である。特に、増加する中国人留学生の受験に対応して、指導教員の研究内容と受験者の研究計画のミスマッチに対する対策は焦眉の課題であったので、指導教授変更の柔軟化と教員内の手続き明確化、教員紹介ページの充実化という今回の取り組みは評価に値する。

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・「修士課程指導教授選定に関する申し合わせ（改正案）について」（2023 年度第 11 回研究科委員会〔2024 年 1 月 23 日開催〕議事資料（議題 5）

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

大学院研究科では、大学院委員会、研究科委員会、各研究科自己点検・評価実施委員会などで、学生の受入れの適切性について定期的に検証を行っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組み
の適切性

【現状説明】

該当なし

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔10〕 大学院法学研究科

<教育研究上の目的について>（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

大学を取り巻く厳しい社会環境の変化に対応していくため、本学では、大学の基本的な方向性を全学的観点から検討し、その結果、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、21 世紀ビジョンとして「社会知性の開発（Socio-Intelligence）」を掲げ、このビジョンのもと教育・研究体制の改革に取り組むとともに、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に積極的な大学運営を行っている。本学の 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」の具体的な推進に向け、法学研究科は、課程ごとに専修大学大学院学則（以下、「大学院学則」という。）第 5 条の 2 第 2 項において、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を、次のように定めている。すなわち、「法学研究科修士課程は、法的創造性豊かな研究者等並びに研究能力及び教育能力を兼ね備えた大学教員、卓越した法的専門知識及び能力を有する高度の専門職業人並びに知識基盤社会を多様に支える法的考え方に習熟した知的人材を養成することを目的とし、博士後期課程は、修士課程及び法科大学院等専門職大学院における教育を基盤として、高度の専門知識及び能力を備え、国際社会における貢献に資するとともに、国際競争力を有する研究教育に優れた大学教員、研究者等を養成することを目的とする」。これらの目的は、高等教育機関の目的として適切である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・ 大学院学則

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

大学院の目的は、大学院学則第 1 条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、大学院学則第 5 条の 2 において適切に明示している。研究科の目的は、大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表している。また、『大学院要項』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院学則
- ・ 大学院要項（令和 6 年度）104 頁

＜学修成果の明確化について＞（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

研究科の卒業認定・学位授与の方針は、大学院学則第 3 条に規定する目的及び人材養成に関する目的その他教育研究上の目的に基づき設定しており、大学 HP を通して公表している。また、『大学院要項』にこれらを掲載し、学生に配付することで、学生が容易に情報を得られるよう配慮している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院要項（令和 6 年度）104～105 頁

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

研究科・専攻・課程の CP は、原則として「教育課程の編成／教育内容・方法」及び「学修成果の評価方法」の区分で構成し、CP に関する基本的な考え方を明確に示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・大学院要項（令和6年度）106～107 頁

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

教育課程・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）のうち、学習成果の評価方法を具体的な内容に変更した。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・大学院要項（令和6年度）106～107 頁

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

大学院研究科においては、大学院学則第6条第3項において提示している。履修にあたっては、研究科、専攻、課程ごとに示した主要科目の中から1特論科目（特研科目）を選択し、これを学生の専修科目とするとしている。なお、各授業科目の到達目標については、シラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・大学院講義要項（シラバス）

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

大学院研究科では、学年進行につれ内容が高まる順次性と体系性に考慮した適切な教育課程を編成している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・大学院要項（令和6年度）111 頁、121～123 頁

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学院における研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施について、修士課程に関しては、2年間の概ねの研究スケジュールを大学院要項及び大学院 HP にて公表している。博士後期課程に関しては、大学院要項に概ねの研究スケジュールを明示し、個々の学生の研究進捗をふまえ、指導教授と学生が相談したうえで、具体的な年間スケジュールを設定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・大学院要項（令和5年度）112～113 頁
- ・法学研究科ホームページ（修士課程、博士後期課程）

<授業内容・方法について>（評点：A）

（1）達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

（2）最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

大学院では、各研究科ともにコースワークとして特殊講義の科目群とリサーチワークとして演習を中心とした論文指導があり、例えば、リサーチワークとして修士課程において「演習」を8単位以上、博士課程において「演習」を12単位以上の修得を必須とするなどして、適切な組み合わせとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・大学院要項（令和6年度）111頁、121～123頁

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

対面授業を基本としながら、学生または教員が感染症等により外出できないなどの事情が生じた場合に、担当教員の判断によりビデオ会議システムを利用した遠隔授業を選択できるようになっており、遠隔授業が授業時間の確保のために利用されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

根拠資料なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

学生の習熟度により、個々に補習や中間論文発表会を行い、他学生の研究状況や複数の教員からの助言等を参考できるようにした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院要項（令和5年度）112～113 頁
- ・ 法学研究科ホームページ（修士課程、博士後期課程）

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

大学院研究科（修士課程・博士後期課程）においては、履修上限単位を設けていないが、大学院学則第6条第3項において、修士課程では、「授業科目は、30単位以上を履修しなければならない」と規定し、博士後期課程では、「授業科目は16単位以上を履修しなければならない」としている。これらの情報は、『大学院要項』に記載し、学生に対し周知することで、適切な履修を促している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院要項（令和6年度）111 頁、121～123 頁
- ・ 法学研究科ホームページ（修士課程、博士後期課程）

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

本学研究科のシラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院講義要項（シラバス）

＜単位認定・学位授与について＞（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

大学院研究科においては、大学院学則第6条の9において「90点以上を「A+」、80点以上を「A」、70点以上を「B」、60点以上を「C」、60点未満を「F」とする」としている。この場合において、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とするとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院学則
- ・ 大学院要項（令和6年度）14～15頁

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

研究科・専攻・課程の修了要件については、学生に配付する『大学院要項』に明記している。また、『大学院要項』には、研究科ごとの「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記するとともに、学位授与までの諸手続きを明記し、学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・大学院要項（令和5年度）135,139～140 頁

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

大学院研究科に関しては、大学院学則第6条の4において、「本大学院が教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、10単位を超えない範囲で、これを課程修了に必要な単位として認定することができる」としていたが、大学院設置基準の一部を改正する省令に伴い、他大学の単位互換及び入学前の既修得単位の認定の柔軟化並びに入学前の既修得単位を勘案した在学期間の短縮に対応することとし、これにより、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）については、15単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすこととした。また、本大学院は、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院において修得した単位を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本大学院の修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、本大学院の修士課程に少なくとも1年以上在学するものとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・大学院学則
・大学院要項（令和6年度）111,121～123 頁

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位論文審査基準の明示については、『大学院要項』及び大学HPに研究科ごとの「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記し、学生に周知している。なお、『大学院要項』は、年度当初に冊子体として大学院生全員に配付していることから、学生は常に学位論文審査基準を確認することが可能である。なお、学位授与に係る責任体制、手続は、大学院学則第11条及び学位規程において規定し、これに基づき各研究科委員会規程を定め、各大学院研究科委員会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院要項（令和5年度）135, 139～140 頁

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

個々の授業の単位認定については、シラバスにおいて成績評価の基準をある程度示して、それに基づいて評価している。また、研究科長による相談体制も確保されており、一定の客観性・厳格性が担保されている。修士課程における学位審査は、指導教授を主査とし、審査対象となる学位請求論文に関連する授業科目担当教員を副査として、学位請求論文の審査と、学位請求論文を中心とした試問の方法によって行われる最終試験からなる。論文審査と最終試験の結果は、法学研究科委員会で審議される。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院講義要項（シラバス）
- ・ 大学院要項（令和5年度）108～109 頁
- ・ 大学院要項（令和5年度）135, 139～140 頁

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

履修指導から論文指導まで、各指導教員が、個々の学生について、学生の学習成果を把握し、指導している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

・大学院要項（令和6年度）106～107 頁

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

各研究科における教育課程及びその内容、方法の適切性については、各研究科自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。各自己点検・評価実施委員会の活動状況は、自己点検・評価委員会において『自己点検・評価報告書』として取りまとめ、学長へ報告している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

根拠資料なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会による大学院授業評価アンケートおよび教員アンケートの結果に基づき、各指導教員が点検・評価を行なっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

根拠資料なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

自己点検・評価を担当する教員と事務職員が自己点検・評価に関する報告書の案を作成し、法学研究科委員会において、全構成員の閲覧に供し、その意見を勘案して最終的な報告書を作成するという手順を踏むことにより、客観性を高めることに努めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

根拠資料なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

前回の自己点検・評価を踏まえ、修士課程において、研究者の育成という従来の法学研究科の教育目的に加えて「法曹・法律行政実務の高度専門職業人の育成」を図るための方策として、令和4年の入学生から修士論文にかわる「実務的課題を研究テーマとするリサーチ・ペーパー」を選択可能とした。また、学習成果の測定を目的として、令和5年度より、修士課程、博士後期課程に対して中間論文発表会の制度導入した。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

根拠資料なし

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

大学院研究科では、DP および CP を踏まえた AP を設定し、学生募集要項、大学 HP 等において周知・公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院学生募集要項
- ・ 大学院要項
- ・ 専修大学大学院 HP

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

大学院研究科に関しては、大学院学則第 6 条の 4 において、「本大学院が教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、10 単位を超えない範囲で、これを課程修了に必要な単位として認定することができる」としていたが、大学院設置基準の一部を改正する省令に伴い、他大学の単位互換及び入学前の既修得単位の認定の柔軟化並びに入学前の既修得単位を勘案した在学期間の短縮に対応することとし、これにより、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）については、15 単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすこととした。また、本大学院は、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院において修得した単位を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本大学院の修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して 1 年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、本大学院の修士課程に少なくとも 1 年以上在学するものとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

根拠資料なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備に関しては、本学では、身体の障がい等により、受験上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

根拠資料なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

入学試験に関する情報、三つのポリシー（AP、CP、DP）、入学後の授業に関する情報（講義要項、履修モデルなど）、学生生活に関する情報（奨学金など）等は本学 HP に公開されており、すべての志願者が情報を入手できるようになっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 大学院学生募集要項
- ・ 大学院要項
- ・ 専修大学大学院 HP

<定員管理について>（評点：A）

（1）達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

（2）最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

法学研究科では2023（令和5）年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、修士課程で0.64倍となり、定員未充足が向上した。博士後期課程については定員未充足の状態である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

根拠資料なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

法学研究科では、修士課程入学試験において、「高度専門職業人の養成」及び「社会人等のリカレント教育の促進」を目指し、学内選考入学試験及び社会人入学試験において、学部での成績や学修・研究に対する意欲・これまでのキャリアなどを評価基準として、多様な入学者を確保するため、筆記試験の廃止を基軸とした、以下の入学試験改革を行っている。

①2021（令和3）年度学内選考入学試験より、学部と大学院との教育連携を密にし、かつ公務員や税理士・司法書士・行政書士など「高度専門職業人の養成」を図り、学部学生の大学院進学を促すべく、筆記試験制度を廃止し、出願書類を基に口述試験のみにより選考することとした。

②2022（令和4）年度社会人入学試験より、様々な領域でキャリアを積んだ社会人等のリカレント教育を促進するため、筆記試験制度を廃止し、出願書類を基に口述試験のみにより選考することとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・令和元年度第9回大学院法学研究科委員会議事録
「法学研究科学内選考入試制度変更（J研委1126）」
- ・令和2年度第8回大学院法学研究科委員会議事録
「大学院法学研究科修士課程法学専攻社会人入学試験科目の変更について（令和2年11月24日法学研究科委員会承認）」

<入学受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

入学受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学受入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

大学院研究科では、大学院委員会、研究科委員会、各研究科自己点検・評価実施委員会などで、学生の受入れの適切性について定期的に検証を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

根拠資料なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学受入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組み
の適切性

【現状説明】

本学の学部学生がより進学しやすくなり、修士の学位取得を促すことを目的として、すでに学内選考入学試験と法学研究科特修制度が導入されているが、これらに加えて、本学学部学生の法学研究科への進学を促すものとして、「法学部学生（4年次生）の大学院法学研究科修士課程授業科目の履修」制度の導入が決定されている。これは、学部の4年次段階で修士課程の授業（ただし、取得単位数を制限）を体験できるようにすることにより、修士課程進学の意欲を高めようとするものである。この制度は、令和6年度の4年次生から適用される。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・「大学院法学研究科授業科目履修要項」

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔11〕 文学研究科

<教育研究上の目的について>（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

大学を取り巻く厳しい社会環境の変化に対応していくため、本学では、大学の基本的な方向性を全学的観点から検討し、その結果、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、21 世紀ビジョンとして「社会知性の開発（Socio-Intelligence）」を掲げ、このビジョンのもと教育・研究体制の改革に取り組むとともに、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に積極的な大学運営を行っている。本学の 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」の具体的な推進に向け、法学研究科は、課程ごとに専修大学大学院学則（以下、「大学院学則」という。）第 5 条の 2 第 2 項において、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を、次のように定めている。すなわち、「法学研究科修士課程は、法的創造性豊かな研究者等並びに研究能力及び教育能力を兼ね備えた大学教員、卓越した法的専門知識及び能力を有する高度の専門職業人並びに知識基盤社会を多様に支える法的考え方に習熟した知的人材を養成することを目的とし、博士後期課程は、修士課程及び法科大学院等専門職大学院における教育を基盤として、高度の専門知識及び能力を備え、国際社会における貢献に資するとともに、国際競争力を有する研究教育に優れた大学教員、研究者等を養成することを目的とする」。これらの目的は、高等教育機関の目的として適切である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

大学院の目的は、大学院学則第 1 条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、大学院学則第 5 条の 2 において適切に明示している。研究科の目的は、それぞれ大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表している。また、『大学院要項』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

＜学修成果の明確化について＞（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

文学研究科の卒業認定・学位授与の方針は、大学院学則第 3 条に規定する目的及び人材養成に関する目的その他教育研究上の目的に基づき設定しており、大学 HP を通して公表している。また、『大学院要項』にこれらを掲載し、学生に配付することで、学生が容易に情報を得られるよう配慮している。地理学専攻においては、各学年の初めに全大学院生を対象とする履修指導と指導教員による個別の履修指導を行い、達成すべき学修成果の明確化を図っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

文学研究科・専攻・課程の CP は、原則として「教育課程の編成／教育内容・方法」及び「学修成果の評価方法」の区分で構成し、CP に関する基本的な考え方を明確に示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

文学研究科においては DP に基づいて学修成果の評価を行っている。

たとえば、心理学専攻では、複数の教員による論文指導や実習指導を通じ、各学生の学修成果が授与する学位にふさわしいかを検証している。また、学修の公聴会形式の中間発表会、最終成果のポスター発表を通じ検証を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

文学研究科においては、大学院学則第 6 条第 3 項において提示している。履修にあたっては、専攻、課程ごとに示した主要科目の中から 1 特論科目（特研科目）を選択し、これを学生の専修科目とするとしている。なお、各授業科目の到達目標については、シラバスにおいて明記している。

地理学専攻においては、毎年のシラバス執筆時期に合わせて授業内容と到達目標との関係を確認し、あわせて専門地域調査士および GIS 専門学術士の資格認定科目としての適合性を点検している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

文学研究科では、学年進行につれ内容が高まる順次性と体系性に考慮した適切な教育課程を編成している。

たとえば、地理学専攻においては、技能にかかわる科目を1年次に履修させることにより、他の講義科目や演習科目における分析や論考の充実化を図っている。

【長所・特色】

心理学専攻は、公認心理師および臨床心理士資格取得に対応した科目配置になっている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

文学研究科における研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施について、修士課程に関しては、2年間の概ねの研究スケジュールを大学院要項及び大学院HPにて公表している。博士後期課程に関しては、大学院要項に概ねの研究スケジュールを明示し、個々の学生の研究進捗をふまえ、指導教授と学生が相談したうえで、具体的な年間スケジュールを設定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<授業内容・方法について>（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

文学研究科では、コースワークとして特殊講義の科目群とリサーチワークとして演習を中心とした論文指導があり、例えば、リサーチワークとして修士課程において「演習」を8単位以上、博士課程において「演習」を12単位以上の修得を必須とするなどして、適切な組み合わせとしている。

たとえば、心理学専攻では、学内外において心理実践を行う実習科目を設置し、学生の心理実践スキルの習得と向上を可能とする授業を展開している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

遠隔授業の教育効果を認識し、授業の充実化を目的とした遠隔授業の活用方法について意見を交換している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

遠隔授業の活用は、遠方の研究者の兼任講師担当などによる授業の充実化や、大学院単位互換制度の活性化につながると考えられるが、実施できていない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

心理学専攻においては、取得を希望する資格によって授業のクラス編成や指導教員を考慮するなどの対応を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

文学研究科（修士課程・博士後期課程）においては、履修上限単位を設けていないが、大学院学則第6条第3項において、修士課程では、「授業科目は、30単位以上を履修しなければならない」と規定し、博士後期課程では、「授業科目は16単位以上を履修しなければならない」としている。これらの情報は、『大学院要項』に記載し、学生に対し周知することで、適切な履修を促している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

文学研究科のシラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。

たとえば、歴史学専攻では、毎年4月のガイダンス時に新入生および在学生にたいして全専任教員によりシラバス内容の説明を行い、その内容理解を促している。

地理学専攻では修士課程・博士後期課程ともに、技能に関する科目を共通シラバスとし、必要とされる標準的な技能を分野の違いに関係なく修得できるようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

＜単位認定・学位授与について＞（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

文学研究科においては、大学院学則第6条の9において「90点以上を「A+」、80点以上を「A」、70点以上を「B」、60点以上を「C」、60点未満を「F」とする」としている。この場合において、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とするとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

文学研究科の専攻・課程の修了要件については、学生に配付する『大学院要項』に明記している。また、『大学院要項』には、研究科ごとの「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記するとともに、学位授与までの諸手続きを明記し、学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

文学研究科に関しては、大学院学則第6条の4において、「本大学院が教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、10単位を超えない範囲で、これを課程修了に必要な単位として認定することができる」としている。なお、大学院設置基準の一部を改正する省令に伴い、他大学の単位互換及び入学前の既修得単位の認定の柔軟化並びに入学前の既修得単位を勘案した在学期間の短縮に対応することとし、これにより、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）については、15単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすこととした。また、本大学院は、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院において修得した単位を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本大学院の修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、本大学院の修士課程に少なくとも1年以上在学するものとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位論文審査基準の明示については、『大学院要項』及び大学HPに研究科ごとの「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記し、学生に周知している。なお、『大学院要項』は、年度当初に冊子体として大学院生全員に配付していることから、学生は常に学位論文審査基準を確認することが可能である。なお、学位授与に係る責任体制、手続は、大学院学則第11条及び学位規程において規定し、これに

基づき各研究科委員会規程を定め、各大学院研究科委員会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

文学研究科では、各専攻において、卒業認定・学位授与の方針に則して評価し、適切な学位授与を行っている。

学位論文の審査では、口述試験・公聴会を実施し、合議によって学位授与に相応しい学修成果であるかを評価している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

文学研究科では、各専攻において、卒業認定・学位授与の方針に祖則した、学生の学習成果について把握し、適切な評価を行っている。

たとえば、歴史学専攻では、所定の教育課程編成・実施方針に即して、授業科目評価について①適宜論文作成のためのレポート作成・提出を課す、②学内外の学会・研究会における口頭発表や学術雑誌への投稿のための支援を行って評価対象とする、さらに③研究指導の評価にあたり複数の教員による検討の機会を設定する、④学位請求論文の評価にあたっては、修士論文の場合は必ず主査1名・副査2名の計3名

の教員による評価を行い、博士論文の場合は学外者を含めた公開審査会において必ず主査1名・副査2名以上の教員による評価を行うことにより、学習評価の適切な把握及び評価を実践している。

また、地理学専攻では提出された修士論文・博士論文の研究について、主査・副査による口頭試問とは別に全専攻教員の参加による公聴会を実施し、公平・公正な論文評価ができるように努めている。

心理学専攻の学位論文の審査では、口述試験・公聴会を実施し、合議によって学位授与に相応しい学修成果であるかを評価している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

各研究科における教育課程及びその内容、方法の適切性については、各研究科自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。各自己点検・評価実施委員会の活動状況は、自己点検・評価委員会において『自己点検・評価報告書』として取りまとめ、学長へ報告している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

文学研究科では、各専攻において、適切な情報に基づく点検・評価を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

文学研究科では、各専攻において、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

文学研究科では、各専攻において、自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびそのないよう、教育方法の改善・向上への取り組みを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

（1）達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

（2）最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

大学院研究科では、DP および CP を踏まえた AP を設定し、学生募集要項、大学 HP 等において周知・公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

大学院入学者選抜試験の入試制度・方式、入試日程は、各研究科委員会で審議されたのち大学院委員会において審議・決定している。また、入学者選抜試験運営体制については各研究科委員会で入学試験委員を選出し（文学研究科の場合は、各専攻より入学試験委員を選出）、入試問題作成、チェック、実施、判定を行っている。文部科学省より通知される「大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の防止について」を参考に、各研究科の研究科長及び入学試験委員は事前の入試問題チェックを行い、問題文等の誤りや受験生に誤解を与える試験問題はないか確認している。特に入学試験当日は、入学試験本部を設置し、入学試験該当研究科の研究科長及び入学試験委員を配置し、入試問題のチェック、入学者選抜試験の適切・円滑な運営、受験生からの質問等、不測の事態に備えている。

公平、公正な入学者選抜の実施にあたっては、「監督要領」を作成し、監督者に対し周知・徹底を図っており、これにより統一的な入学試験実施を可能としている。公平性を担保する取組みとして、例えば、記述採点及び合否判定時においては、氏名を隠すなど、個人が特定できないよう配慮している。たとえば、地理学専攻においては、入試問題の作成にあたり出題担当者の分担を全専攻教員で確認している。出題内容や採点結果についても全専攻教員で点検し、面接試験を全専攻教員で実施するなどして、入学者選抜の公平・公正な実施に努めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備に関しては、本学では、身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

文学研究科においてはすべての志願者に対して適切な情報提供を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<定員管理について>（評点：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

大学院研究科における 2020（令和 2）年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、文学研究科 0.59 倍であり、定員未充足となっている。また、博士後期課程についても定員未充足となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

文学研究科においては、定員未充足の専攻においては、充足するための対策を講じている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が 上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

文学研究科では、各専攻において、学生の受入れの適切性について定期的に検証を行っている。

たとえば、歴史学専攻では、社会人入試において書類出願と面接のみで筆記試験が課せられていない状況に対応するため、面接時に学術的な知識・技能の修得を確認している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組み の適切性

【現状説明】

文学研究科では、各専攻において、点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みを行っている。

たとえば、歴史学専攻では、社会人入試において面接時に学術的な知識・技能の修得を確認することにより、入学後の指導時に発生する問題を回避している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔12〕経営学研究科

<教育研究上の目的について>（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

大学を取り巻く厳しい社会環境の変化に対応していくため、本学では、大学の基本的な方向性を全学的観点から検討し、その結果、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、21 世紀ビジョンとして「社会知性の開発（Socio-Intelligence）」を掲げ、このビジョンのもと教育・研究体制の改革に取り組むとともに、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に積極的な大学運営を行っている。本学の 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」の具体的な推進に向け、各研究科は、専攻・課程ごとに専修大学大学院学則（以下、「大学院学則」という。）第 5 条の 2 において、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めている。これらの目的は、高等教育機関の目的として適切である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

大学院の目的は、大学院学則第 1 条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、大学院学則第 5 条の 2 において適切に明示している。研究科の目的は、それぞれ大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表している。また、『大学院要項』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

＜学修成果の明確化について＞（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①
卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

研究科の卒業認定・学位授与の方針は、大学院学則第 3 条に規定する目的及び人材養成に関する目的
その他教育研究上の目的に基づき設定しており、大学 HP を通して公表している。また、『大学院要項』に
これらを掲載し、学生に配付することで、学生が容易に情報を得られるよう配慮している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②
教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教
育・学修の方法の明確化

【現状説明】

研究科・専攻・課程の CP は、原則として「教育課程の編成／教育内容・方法」及び「学修成果の評価
方法」の区分で構成し、CP に関する基本的な考え方を明確に示している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

5月の経営学研究科委員会にて、修士2年次以上の指導教授、副指導教授、研究テーマを確認し、10月の経営学研究科委員会にて、主査1名と副査2名を承認している。1月に提出された修士論文について口述試験を実施し、主査・副査による審査を経て、経営学研究科委員会にて、学位授与に相応しいかどうかを審査、検証している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

＜教育課程について＞（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

大学院研究科においては、大学院学則第6条第3項において提示している。履修にあたっては、研究科、専攻、課程ごとに示した主要科目の中から1特論科目（特研科目）を選択し、これを学生の専修科目とするとしている。なお、各授業科目の到達目標については、シラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

大学院研究科では、学年進行につれ内容が高まる順次性と体系性に考慮した適切な教育課程を編成している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学院における研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施について、修士課程に関しては、2年間の概ねの研究スケジュールを大学院要項及び大学院 HP にて公表している。博士後期課程に関しては、大学院要項に概ねの研究スケジュールを明示し、個々の学生の研究進捗をふまえ、指導教授と学生が相談したうえで、具体的な年間スケジュールを設定している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<授業内容・方法について>（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

大学院では、各研究科ともにコースワークとして特殊講義の科目群とリサーチワークとして演習を中心とした論文指導があり、例えば、リサーチワークとして修士課程において「演習」を8単位以上、博士課程において「演習」を12単位以上の修得を必須とするなどして、適切な組み合わせとしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

各国の方針により、出入国に制限がある場合、また、教員・学生のやむを得ない理由がある場合、遠隔授業を実施している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

学生数が多くは無いので、履修している学生のニーズに応じて対応している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

大学院研究科（修士課程・博士後期課程）においては、履修上限単位を設けていないが、大学院学則第6条第3項において、修士課程では、「授業科目は、30単位以上を履修しなければならない」と規定し、博士後期課程では、「授業科目は16単位以上を履修しなければならない」としている。これらの情報は、『大学院要項』に記載し、学生に対し周知することで、適切な履修を促している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

本学研究科のシラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

大学院研究科においては、大学院学則第6条の9において「90点以上を「A+」、80点以上を「A」、70点以上を「B」、60点以上を「C」、60点未満を「F」とする」としている。この場合において、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とするとしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

研究科・専攻・課程の修了要件については、学生に配付する『大学院要項』に明記している。また、『大学院要項』には、研究科ごとの「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記するとともに、学位授与までの諸手続きを明記し、学生に周知している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

大学院研究科に関しては、大学院学則第6条の4において、「本大学院が教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、10単位を超えない範囲で、これを課程修了に必要な

な単位として認定することができる」としている。これに基づき、経済学特修プログラム及び経営学特修プログラムにおいて、学部時に修得した大学院授業科目を 10 単位以内で単位認定している。なお、大学院設置基準の一部を改正する省令に伴い、他大学院の単位互換及び入学前の既修得単位の認定の柔軟化並びに入学前の既修得単位を勘案した在学期間の短縮に対応することとし、これにより、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）については、15 単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすこととした。また、本大学院は、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院において修得した単位を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本大学院の修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して 1 年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、本大学院の修士課程に少なくとも 1 年以上在学するものとした。これに伴い、上述した大学院学則は、2021（令和 3）年 4 月に変更する予定である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

学位論文審査基準の明示については、『大学院要項』及び大学 HP に研究科ごとの「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記し、学生に周知している。なお、『大学院要項』は、年度当初に冊子体として大学院生全員に配付していることから、学生は常に学位論文審査基準を確認することが可能である。なお、学位授与に係る責任体制、手続は、大学院学則第 11 条及び学位規程において規定し、これに基づき各研究科委員会規程を定め、各大学院研究科委員会において審議し、適切に行っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

1 月に実施される経営学研究科において、DP に則って学位を授与していることを確認している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

＜学修成果の把握および評価について＞（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

論文審査において、主査 1 名、副査 2 名が論文審査ならびに口述試験を行い評価し、研究科委員会で承認している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

各研究科における教育課程及びその内容、方法の適切性については、各研究科自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。各自己点検・評価実施委員会の活動状況は、自己点検・評価委員会において『自己点検・評価報告書』として取りまとめ、学長へ報告している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

修了者に対して、カリキュラム評価（アンケート）を実施し、CP と DP に則った教育成果を評価している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

自己点検評価実施委員会ならびに、大学院委員会にて各研究科の自己点検状況を公表・説明し、相互に確認している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

修了者によるアンケート内容を確認し、研究科委員会で公表している。必要に応じて、改善策を講じている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

大学院研究科では、DP および CP を踏まえた AP を設定し、学生募集要項、大学 HP 等において周知・公表している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実

【現状説明】

大学院入学者選抜試験の入試制度・方式、入試日程は、各研究科委員会で審議されたのち大学院委員会において審議・決定している。また、入学者選抜試験運営体制については各研究科委員会で入学試験委員を選出し（文学研究科の場合は、各専攻より入学試験委員を選出）、入試問題作成、チェック、実施、判定を行っている。文部科学省より通知される「大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の防止について」を参考に、各研究科の研究科長及び入学試験委員は事前の入試問題チェックを行い、問題文等の誤りや受験生に誤解を与える試験問題はないか確認している。特に入学試験当日は、入学試験本部を設置し、入学試験該当研究科の研究科長及び入学試験委員を配置し、入試問題のチェック、入学者選抜試験の適切・円滑な運営、受験生からの質問等、不測の事態に備えている。

公平、公正な入学者選抜の実施にあたっては、「監督要領」を作成し、監督者に対し周知・徹底を図っており、これにより統一的な入学試験実施を可能としている。公平性を担保する取組みとして、例えば、記述採点及び合否判定時においては、氏名を隠すなど、個人が特定できないよう配慮している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備に関しては、本学では、身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<定員管理について>（評点：A）

（1）達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

（2）最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

大学院研究科における 2020（令和 2）年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、経営学研究科 0.53 倍であり、定員未充足となっている。また、博士後期課程においても定員未充足となっている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

ここ数年、定員の 50%前後で推移している。志願者はいるものの、大幅な学生の質の低下は避けることが確認されている。そのため、受験しやすさ、であったり、近年増加している留学生向けの広報・日本語学校への出張模擬授業、また、学内進学向けに 3、4 年生のガイダンスで大学院の宣伝を行っている。大学院の特設サイトからは、教員の紹介を行い、連絡方法や大学院生に何を期待しているのかの情報発信を行い、問い合わせや志願のハードルを下げる試みを始めた。同時に、大学院全体での進学相談会に加え、経営学研究科のみの個別相談会を実施し、不安を感じている志願者の対応も行っている。留学生向けには、出口（日本での就職）への対応や、特修プログラムの募集日程を志願しやすいように 9 月及び 2 月に選考を行うこととした。大学院進学に興味がある、学部生、研究生に対して、大学院の中間報告会を公開し、身近に感じてもらえるよう取りはからっている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

①入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

②点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・ 日本語学校への出張模擬授業：学内への報告書
- ・ 特設サイト：第3回大学院経営学研究科委員会 議題3 議事録

https://www.senshu-u.ac.jp/education/graduate/gs_business/faculty.html

- ・経営学研究科個別相談会：第7回経営学研究科委員会 報告事項 その他
- ・報告会への学部生の参加：第6回大学院経営学研究科委員会 議題7 議事録
- ・2回の特修プログラムへの応募：第1回大学院経営学研究科委員会 議題9 議事録

<卒業後の進路について>（評点：A）

(1) 達成目標

修了予定者が、大学院で身につけたスキル（DP）を活用する就職希望先を円滑にみつけることができる。

(2) 最終報告

評価の視点①

①自身が身につけた能力の分析

②S ネットを活用して、希望の就職先を円滑にリストアップできる。

【現状説明】

留学生個人に任されており、情報の提供も自己責任で行われていたが、大学院生に向けて、定期的に S ネットを紹介し、その利用法が不明であれば、支援している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔13〕 商学研究科

＜教育研究上の目的について＞（評点：A）

（1）達成目標

本学が掲げる理念（21 世紀ビジョン「社会知性の開発」）に基づき、人材育成の目的その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表する。

（2）最終報告

評価の視点①

本学が掲げる理念を踏まえ、学部・研究科における教育研究上の目的の明確化

【現状説明】

大学を取り巻く厳しい社会環境の変化に対応していくため、本学では、大学の基本的な方向性を全学的観点から検討し、その結果、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、21 世紀ビジョンとして「社会知性の開発（Socio-Intelligence）」を掲げ、このビジョンのもと教育・研究体制の改革に取り組むとともに、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に積極的な大学運営を行っている。本学の 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」の具体的な推進に向け、商学研究科は、専攻・課程ごとに専修大学大学院学則（以下、「大学院学則」という。）第 5 条の 2 において、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を商学及び会計学に関する基礎理論及び幅広い教養の基礎の上に、高度の専門的知識及び能力を有する高度の専門職業人、知識基盤社会を支える人材並びに研究能力及び教育能力を有する大学教員を養成することを目的とすると定めている。これらの目的は、高等教育機関の目的として適切である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学院学則

評価の視点②

教育研究上の目的の教職員、学生への周知および社会への公表

【現状説明】

大学院の目的は、大学院学則第 1 条に明記し、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的については、大学院学則第 5 条の 2 において適切に明示している。研究科の目的は、大学 HP ホームページ（情報公開）において周知、公表している。また、『大学院要項』にも掲載し、学生及び教職員に対し周知している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学院学則

大学 HP 商学研究科ページ

令和 6 年度大学院要項

<学修成果の明確化について>（評点：A）

(1) 達成目標

達成すべき学修成果を明確にし、教育・学修の基本的なあり方を明らかにする。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学修成果の明確化

【現状説明】

研究科の卒業認定・学位授与の方針は、大学院学則第 3 条に規定する目的及び人材養成に関する目的
その他教育研究上の目的に基づき設定しており、大学 HP を通して公表している。また、『大学院要項』に
これらを掲載し、学生に配付することで、学生が容易に情報を得られるよう配慮している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和 6 年度大学院要項

大学 HP 商学研究科ページ

評価の視点②

教育課程編成・実施の方針において、学修成果を達成するために必要な教育課程および教育・学修の方法の明確化

【現状説明】

研究科・専攻・課程の CP は、原則として「教育課程の編成／教育内容・方法」及び「学修成果の評価
方法」の区分で構成し、CP に関する基本的な考え方を明確に示している。

また、論文指導に関しても指導計画の概要や審査基準を『大学院要項』に明確に記載し示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和 6 年度大学院要項

大学 HP 商学研究科ページ

評価の視点③

学修成果は授与する学位にふさわしいかの検証

【現状説明】

該当なし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<教育課程について>（評点：A）

(1) 達成目標

学修成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

(2) 最終報告

評価の視点①

授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講と、各授業科目の到達目標の明確化

【現状説明】

大学院研究科においては、大学院学則第 6 条において提示している。履修にあたっては、専攻、課程ごとに示した主要科目の中から 1 特論科目（特研科目）を選択し、これを学生の専修科目とするとしている。なお、各授業科目の到達目標については、シラバスにおいて明記している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

講義要項（シラバス）

評価の視点②

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化

【現状説明】

商学研究科では、分野ごとに履修モデルを設定し、体系的な履修を組めるよう大学院要項に記載している。

また、論文指導においても研究指導の概要を明記し、学位論文を提出するまでの課程を大学院要項に記載している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和 6 年度大学院要項

評価の視点③

学生の学修時間の考慮とそれを踏まえた単位設定

【現状説明】

大学院における研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施について、修士課程に関しては、2 年間の概ねの研究スケジュールを大学院要項及び大学院 HP にて公表している。博士後期課程に関しては、大学院要項に概ねの研究スケジュールを明示し、個々の学生の研究進捗をふまえ、指導教授と学生が相談したうえで、具体的な年間スケジュールを設定している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和 6 年度大学院要項

<授業内容・方法について>（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。また、学生が学修を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性

【現状説明】

大学院では、各研究科ともにコースワークとして講義の科目群とリサーチワークとして演習科目を中心とした論文指導があり、例えば、リサーチワークとして修士課程において「演習」を8単位以上、博士課程において「演習」を12単位以上の修得を必須とするなどして、適切な組み合わせとしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和6年度大学院要項

評価の視点②

遠隔授業の効果的な活用

【現状説明】

大学院における方針として対面による授業実施が基本としているが、各教員の裁量において遠隔授業を取り入れることを認めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学修状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応

【現状説明】

指導教授が個別に履修指導を行い、学生に合わせた履修などの指導を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

単位の実質化を図る措置

【現状説明】

大学院研究科（修士課程・博士後期課程）においては、履修上限単位を設けていないが、大学院学則第6条第3項において、修士課程では、「授業科目は、30単位以上を履修しなければならない」と規定し、博士後期課程では、「授業科目は16単位以上を履修しなければならない」としている。これらの情報は、『大学院要項』に記載し、学生に対し周知することで、適切な履修を促している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和6年度大学院要項

評価の視点⑤

シラバスの作成と活用

【現状説明】

本学研究科のシラバスは、統一のフォーマットにより作成している。シラバスには、「到達目標」「講義概要」「講義計画（講義のテーマ、概要、予習・復習の内容及びそれに要する時間などを記載）」「課題に対するフィードバックの方法」「教科書・参考書」「成績評価方法・基準」「履修上の留意点」を必須項目としている。この他、担当教員へのアクセスを任意項目としている。これにより、学生が授業のための事前の準備や事後の展開などを行うことができる授業の工程表として機能するような内容となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

講義要項（シラバス）

<単位認定・学位授与について>（評点：A）

(1) 達成目標

成績評価、単位認定および学位授与を適切に行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

成績評価および単位認定の客観的かつ厳格、公正、公平な実施

【現状説明】

大学院研究科においては、大学院学則第6条の9において「90点以上を「A+」、80点以上を「A」、70点以上を「B」、60点以上を「C」、60点未満を「F」とする」としていたが、令和6年度入学者より成績評価の区分を細分化し、90点以上を「S」、85点以上90点未満を「A+」、80点以上85点未満を「A」、75点以上80点未満を「B+」、70点以上75点未満を「B」、65点以上70点未満を「C+」、60点以上65点未満を「C」、60点未満を「F」とし、この場合において、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とするとした。また、区分に応じてグレード・ポイントを付与するGPA制度を導入した。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学院学則

令和6年度大学院要項

評価の視点②

成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）の学生への明示

【現状説明】

研究科・専攻・課程の修了要件については、学生に配付する『大学院要項』に明記している。また、『大学院要項』には、「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記するとともに、学位授与までの諸手続きを明記し、学生に周知している。

学生からの成績に関する不服申立については、成績通知後一定期間の申立期間を設けており、成績通知時に周知している。申し立てのあった場合は、申し立ての内容を基に担当教員への確認を行い、必要に応じて対応も行っている

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和 6 年度大学院要項

評価の視点③

既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等の適切性

【現状説明】

大学院研究科に関しては、大学院学則第 6 条の 4 において、「本大学院が教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、10 単位を超えない範囲で、これを課程修了に必要な単位として認定することができる」としている。なお、大学院設置基準の一部を改正する省令に伴い、他大学院の単位互換及び入学前の既修得単位の認定の柔軟化並びに入学前の既修得単位を勘案した在学期間の短縮に対応することとし、これにより、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）については、15 単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすこととした。また、本大学院は、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他大学の大学院において修得した単位を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本大学院の修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して 1 年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、本大学院の修士課程に少なくとも 1 年以上在学するものとした。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学院学則

令和 6 年度大学院要項

評価の視点④

学位授与における実施手続および体制の明確化

【現状説明】

実施手続および審査体制については、『大学院要項』及び大学 HP に「修士論文審査基準」及び「博士論文審査基準」を明記し、学生に周知している。なお、『大学院要項』は、年度当初に冊子体として大学院生全員に配付していることから、学生は常に学位論文審査基準を確認することが可能である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和6年度大学院要項

評価の視点⑤

卒業認定・学位授与の方針に則した、適切な学位授与

【現状説明】

学位授与方針に則して各科目における到達目標が設定され、それに基づいて学習成果の評価が実施されている。論文についても、設定された審査基準に基づいて、研究科内公開で試験実施のうえ基準を満たしているかを審査している。審査結果については、研究科委員会にてその可否を審議している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和6年度大学院要項

<学修成果の把握および評価について>（評点：A）

(1) 達成目標

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握および評価する。

(2) 最終報告

評価の視点①

卒業認定・学位授与の方針に明示した学生の学修成果の適切な把握および評価

【現状説明】

指導教授による履修指導および論文指導、2年次以降からは副指導教授が設定され2名体制での論文指導、並びに各年次で論文発表会を商学研究科委員会委員への公開で実施し、学生への指導および現状把握および評価を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和6年度大学院要項

＜教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて＞（評点：A）

(1) 達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等の明確化

【現状説明】

商学研究科における教育課程及びその内容、方法の適切性については、商学研究科自己点検・評価実施委員会において定期的に自己点検・評価を行い、自己点検・評価の結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。商学研究科自己点検・評価実施委員会の活動状況は、自己点検・評価委員会において『自己点検・評価報告書』として取りまとめ、学長へ報告している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

適切な情報に基づく点検・評価

【現状説明】

該当なし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

自己点検・評価の客観性を高めるための工夫

【現状説明】

該当なし。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

自己点検・評価の結果を活用した教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上への取り組み

【現状説明】

自己点検・評価の結果を受けて商学研究科運営委員会にて改善・向上に向けた取り組みの検討を行い、研究科運営委員会および研究科委員会にて審議している。最新の取り組みとしては、令和6年度より、修士課程における集団指導体制における副指導および商学研究科委員による指導力の向上を目的に発表会の日程変更を行った。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和5年度第8回商学研究科委員会議事録

<入学者受入れの方針について>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れの方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

志願者に理解しやすい入学者受入れの方針の設定

【現状説明】

商学研究科では、DP および CP を踏まえた AP を設定し、学生募集要項、大学 HP 等において周知・公表している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学 HP 商学研究科ページ
令和 6 年度学生募集要項

評価の視点②

入学者受入れの方針に沿った適切な体制・仕組みの構築および公平、公正な入学者選抜の実施

【現状説明】

大学院入学者選抜試験の入試制度・方式、入試日程は、各研究科委員会で審議されたのち大学院委員会において審議・決定している。また、入学者選抜試験運営体制については商学研究科委員会で入学試験委員を選出し、入試問題作成、チェック、実施、判定を行っている。文部科学省より通知される「大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の防止について」を参考に、研究科長、大学院委員会委員及び入学試験委員は事前の入試問題チェックを行い、問題文等の誤りや受験生に誤解を与える試験問題はないか確認している。特に入学試験当日は、入学試験本部を設置し、研究科長、大学院委員会委員及び入学試験委員を配置し、入試問題のチェック、入学者選抜試験の適切・円滑な運営、受験生からの質問等、不測の事態に備えている。

・公平、公正な入学者選抜の実施にあたっては、「監督要領」を作成し、監督者に対し周知・徹底を図っており、これにより統一的な入学試験実施を可能としている。公平性を担保する取組みとして、例えば、記述採点においては、氏名を隠すなど、個人が特定できないよう配慮し、口述試験においては指導教授に選択された教員の他入試委員や研究科長が同席し複数人での体制で行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備

【現状説明】

特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備に関しては、本学では、身体の障がい等により、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立って問合せを行うよう、入学試験要項にその旨を明記している。その際には、障がい学生支援室が中心となり、入学試験受験時の配慮、入学後の支援体制等について、関係所管を交えて事前相談の機会を設けている。これにより、受験だけでなく修学していくうえでも、可能な限り配慮するようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

すべての志願者に対する情報提供の適切性

【現状説明】

入学試験に関する情報や入学後の修学に関する情報など、大学 HP への記載や大学院要項および大学院ガイドブックを HP で公開し、全ての受験者が公平に情報を確認できるようにしている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学 HP 入学入学案内ページ

<定員管理について>（評点：A）

(1) 達成目標

適切な定員を設定して入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各学部・学科、各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数の適正な維持

【現状説明】

大学院研究科における 2022（令和 4）年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、商学研究科 1.06 倍である。なお、博士後期課程においては定員未充足となっている。

2025(令和 6)年度の在籍学生比率は、修士課程で 0.82 倍、博士後期課程で 0.83 倍となっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

大幅な定員超過または定員未充足の場合における対策の適切性

【現状説明】

商学研究科では、定員管理の適切性確保のため、入試制度に関する検証・対策を行ってきた。現在は入試広報面での検討を行い、大学院授業科目担当者についての情報発信力強化を目的に教員紹介ページを更新した。また、入試制度についても出願基準や判定基準の検討を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学 HP 商学研究科教員紹介ページ

令和6年度第2回商学研究科委員会議事録

<入学者受入れに関する点検・評価および改善に向けた取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

入学者受入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

(2) 最終報告

評価の視点①

入学者の受け入れに関わる事項の定期的な点検・評価および当該事項における現状や成果が
上がっている取り組みおよび課題の適切な把握

【現状説明】

商学研究科では、研究科委員会、運営委員会、自己点検・評価実施委員会などで、学生の受入れの適切性について定期的に検証を行い、新たな入試制度の導入・出願基準や判定基準の見直し、入試広報についての検証を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和 6 年度商学研究科運営委員会第 3 回議事録

評価の視点②

点検・評価の結果を活用した入学者の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた取り組みの適切性

【現状説明】

出願者が希望する研究分野と希望している指導教授の研究指導領域が一致していない出願を無くすため、教員紹介ページの更新や研究者情報システムへの誘導など情報発信力の強化に取り組んでいる。

また、学内選考入学試験における出願基準に、学部での成績評価の基準として定着している GPA の活用を令和 7 年度入学試験より導入した。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

大学 HP 商学研究科教員紹介ページ

令和 6 年度第 2 回商学研究科委員会議事録

第15期 自己点検・評価最終報告

〔14〕全学カリキュラム関係

<教育課程について>（評点：A）

（1）達成目標

学修成果の達成につながるような各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成する。

（2）最終報告

評価の視点①

授業科目の開設状況。

学修の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。

【現状説明】

授業科目の開設状況については、全学カリキュラム協議会議長・共同座長と三つの方針（学士課程）検証ワーキンググループによる合同ワーキンググループ（以下、「合同WG」）において、現行カリキュラムの設置科目数と展開数に関する分析を実施した。その結果については、令和5年5月25日開催の内部質保証推進委員会において、「現行カリキュラムの設置科目数・展開数および新カリキュラムの科目区分について」に基づいて報告し、是正が必須といった状況は見られないが、令和8年度のカリキュラム改正においては、多少のスリム化を検討すべきであることなどを提言した。それを踏まえ、「2026（令和8）年度カリキュラム改正の骨子」（以下、「カリキュラム改正の骨子」）には、カリキュラム改正に係る基本方針の一つとして、「全学的にカリキュラムのスリム化を図る」ことを明記した。

学修の順次性等、体系的な教育課程の編成については、「カリキュラム改正の骨子」において、「カリキュラム策定時に想定していた計画と乖離している事項は、新カリキュラムで整理する」ことを求めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・現行カリキュラムの設置科目数・展開数および新カリキュラムの科目区分について
- ・2026（令和8）年度カリキュラム改正の骨子（改訂版）

<教育課程・内容・方法の点検・評価および改善・向上への取り組みについて>（評点：A）

（1）達成目標

教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。

（2）最終報告

評価の視点①

アセスメントプランのモニタリング用ダッシュボードによる点検・評価。
新カリキュラムの検討状況。

【現状説明】

全学カリキュラム協議会関係科目の新カリキュラムについては、令和5年4月18日の全学カリキュラム協議会において、「全学カリキュラム協議会関係科目のカリキュラム改正に係る検討事項等について」を提示したうえで、各委員会に新カリキュラムの検討を要請した。その検討結果は「カリキュラム改正の骨子」に掲載し、各学部・学科では、その内容に基づいて、新カリキュラム案の検討を進めている。

「カリキュラム改正の骨子」では、「現行カリキュラムを検証したうえで改正案を策定すること」、「カリキュラムの検証には、アセスメントプランのモニタリングで共有されているダッシュボードを使用することが望ましい。一例として、ダッシュボードの『科目ナンバリング集計』を利用し、分野コード別の『合計修得単位数』のデータを確認して学生の単位修得状況を把握することなどが考えられる」とし、ダッシュボードによる点検・評価を要請している。これを受けて、全学カリキュラム協議会ではプログラムレビューに取り組み、「プログラムレビュー実施状況報告（全学カリキュラム協議会関係科目）」を取りまとめ、内部質保証推進委員会に提示した。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・2026（令和8）年度カリキュラム改正の骨子（改訂版）
- ・プログラムレビュー実施状況報告（全学カリキュラム協議会関係科目）

<授業内容・方法について>（評点：A）

(1) 達成目標

課程修了時に求められる学修成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっている。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業形態、授業方法の適切性。

遠隔授業の効果的な活用。

【現状説明】

各授業科目の講義要項（シラバス）には、授業形態（講義、演習、実験及び実習）を表示するとともに、対面・オンラインの別、授業に取り入れているアクティブ・ラーニングの要素や、課題に対するフィードバックの方法なども掲載している。

全学カリキュラム協議会関係科目の遠隔授業について、令和5年度は、学長文書「令和5年度 学部授業運営方法の検討について」（令和4年10月13日）に基づいて検討し、2,966展開中80展開（2.7%）であり、令和6年度は、学長文書「令和6年度オンライン授業の検討について」（令和5年10月5日）に基づいて検討し、3,002展開中67展開（2.2%）であった。コロナ禍にあった年度と比較して遠隔授業の数は減少傾向にあるが、両年度とも教室運用の観点では概ね適切であった。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 令和5年度講義要項（シラバス）執筆要領
- ・ 令和6年度講義要項（シラバス）執筆要領
- ・ 令和5年度学部授業運営方法について（第二次教室調整状況報告）
- ・ 令和6年度オンライン授業の検討結果について（報告）

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔15〕教育開発支援関係

＜ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか＞（評点：A）

（1）達成目標

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的に行う。

（2）最終報告

評価の視点①

新任教員教育支援説明会の実施状況。

教育開発支援 NEWSLETTER および授業のツールボックスの発行状況。

FD 関連講演会等の開催状況。

【現状説明】

教育内容・方法の改善を図ることを目的とした組織的なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動として、新任教員教育支援説明会の実施、教育開発支援 NEWSLETTER の発行およびFD研修会を実施した。授業のツールボックスについては、2023（令和5）年3月31日に第9版を発行し、第10版の発行については、現在、教育開発支援委員会で検討している。

新任教員教育支援説明会は、2023（令和5）年度は4月1日に開催して参加教員54名（専任16名、兼任38名）であり、2024（令和6）年度も4月1日に開催し、参加教員46名（専任14名、兼任32名）であった。両年度とも、教育開発支援委員会から授業のツールボックス、Google Classroom、responおよび視聴覚機器の利用について、情報科学センターからin Campusをはじめとする各種情報システムについて説明した。

教育開発支援 NEWSLETTER、第46号（2023（令和5）年3月31日）、第47号（2023（令和5）年11月30日）、第48号（2024（令和6）年3月31日）、第49号（2024（令和6）年11月30日）に発行し、いずれにも本学における教育内容・方法等の改善に資する内容を掲載した。

FD研修会は専任教員を対象として、2023（令和5）年7月11日に「ChatGPTの利用と留意点」（参加教員356名）、2023（令和5）年9月26日に「授業に関する学生アンケートの結果と授業の改善」（参加教員367名）、2024（令和6）年7月9日に「授業に関する学生アンケートの結果と授業の改善」（参加教員362名）を実施した。いずれも、実施日を決めて学部ごとにオンライン会議システムを利用した動画視聴の形式で実施したことで、多くの専任教員の参加が得られたものと考えている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 新任教員教育支援説明会資料一式（令和5・6年度）
- ・ 教育開発支援 NEWSLETTER 第46号・第47号・第48号・第49号
- ・ 授業のツールボックス 第9版

＜教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか＞（評点：A）

(1) 達成目標

ティーチング・アシスタント（TA）、授業補助員（SA）等の教育研究活動を支援する体制を整備する。

(2) 最終報告

評価の視点①

ティーチング・アシスタント（TA）・授業補助員（SA）制度の利用状況。

ティーチング・アシスタント（TA）・授業補助員（SA）制度の適切性。

【現状説明】

2015（平成 27）年度に行われたティーチング・アシスタント（TA）および授業補助員（SA）制度の改正は、教育開発支援委員会による改善提案に基づくものであり、委員会では、制度改正後の利用状況の確認および適切性の検証を継続して行っている。

ティーチング・アシスタント（TA）および授業補助員（SA）の採用が許可された各年度の授業数は、2014（平成 26）年度：950 件、2015（平成 27）年度：1,175 件、2016（平成 28）年度：1,172 件、2017（平成 29）年度：1,175 件、2018（平成 30）年度：1,164 件、2019（令和元）年度：1,060 件、2020（令和 2）年度：920 件、2021（令和 3）年度：792 件、2022（令和 4）年度：784 件、2023（令和 5）年度：827 件、2024（令和 6）年度：827 件であり、制度改正前の 2014（平成 26）年度と比較して、翌年度以降は件数が増加し、その後数年間は大幅な減少がみられないことから、改正内容が利用状況に反映されているものと判断している。

近年は減少傾向にあるが、2021（令和 3）年度については、コロナ禍によりティーチング・アシスタント（TA）および授業補助員（SA）の勤務がオンラインとなったことによるもので、2022（令和 4）年度以降については、コロナ禍前に申請していた教員が申請を再開しなかったことが、主な要因であると考えている。

制度を利用した教員から提出される「業務報告書」については、毎年度 7 月頃の教育開発支援委員会で前年度の内容を確認し、制度の運用状況および適切性を検証している。

なお、ティーチング・アシスタント（TA）および授業補助員（SA）に採用された学部学生および大学院学生に対しては、4 月および 9 月に「TA・SA 業務研修会」を実施している。コロナ禍以降においては、オンラインによる動画配信と in Campus のアンケート機能（質問に回答する形式）による研修会を行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ティーチング・アシスタントと授業補助員のこころえ
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、授業補助員（SA）制度利用に際しての留意事項

- ・ T A ・ S A オンライン業務研修会 説明資料
- ・ T A ・ S A オンライン業務研修会 アンケート

＜教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか＞（評点：A）

（1）達成目標

教育課程及びその内容、方法に関して、適切な根拠（資料、情報）に基づき点検・評価を行う。

（2）最終報告

評価の視点①

GPS-Academic の分析。

卒業生アンケートの分析。

【現状説明】

GPS-Academic の結果と、本学が保有する各種 I R 情報を用いて、三つの方針を踏まえ、本学学士課程教育の適切性等について検証を行っている。

2023（令和 5）年度および 2024（令和 6）年度は、卒業認定・学位授与の方針の検証等について、教務課 I R 担当者との協働により分析を行い、それらの結果は教育開発支援 NEWSLETTER の第 47 号、第 49 号に掲載した。

卒業生アンケートの結果についても、教務課 I R 担当者との協働により分析を行い、こちらも教育開発支援 NEWSLETTER の第 47 号、第 49 号に掲載した。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 教育開発支援 NEWSLETTER 第 47 号・第 49 号

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔16-1〕教職課程

<教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み>（評点：A）

（1）達成目標

教職課程に関する組織的工夫の実施。

（2）最終報告

評価の視点①

教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

【現状説明】

教職課程認定基準に基づいた教員配置の確認を毎年行い、必要に応じて変更届を提出している。また、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

【長所・特色】

教員配置の確認や変更届等の手続き状況に関する情報全般に関しては、教職課程協議会において関係教職員に周知されている。本学の特長的な科目である「教職実践入門」の運営は、研究者教員と実務家教員及び事務職員との綿密な協働体制によって進められている。教職課程協議会委員に教務課職員を正式な委員として委嘱し教職協働を進めている。

【問題点】

研究者教員と実務家教員が適切に配置されるよう、常に事務職員と連携して教職課程認定基準を満たす必要がある。

【根拠資料】

令和 6（2024）年度 第 9 回教職課程協議会資料（令和 7 年度 変更届一覧）

専修大学 Web 講義要項（シラバス）〔学部用〕

<https://syllabus.acc.senshu-u.ac.jp/syllsenshu/top.do>

令和 6（2024）年度 第 1 回教職課程協議会資料

（令和 6（2024）年度 教職課程協議会委員一覧）

<学生の確保・育成・キャリア支援>（評点：B）

（1）達成目標

教職へのキャリア支援の実施。

（2）最終報告

評価の視点①

教職に就くための各種情報を適切に提供している。

【現状説明】

各種ガイダンス、Campus、ホームページなどを利用して適切に情報を提供している。

【長所・特色】

教職に就くための各種情報の中でも、各自治体の教育委員会による採用説明会や大学推薦に関する情報提供を即時的かつ積極的に行っている。

【問題点】

近年では、各自治体の教育委員会による大学推薦の募集情報が大学に届かない場合もある。こうした場合の対応方法や、情報提供方法等について検討する必要がある。

【根拠資料】

令和6(2024)年度 第6回教職課程協議会資料

教員採用候補者選考試験（教員採用試験 説明会について

<適切な教職課程カリキュラム>（評点：A）

(1) 達成目標

教職課程カリキュラムの編成・実施。

(2) 最終報告

評価の視点①

アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

【現状説明】

グループワーク、ディスカッション、実習、フィールドワーク等を授業に取り入れている授業科目が多数あり、教職科目を担当する教員（兼任教員や協力者を含む）各々が、課題発見や課題解決等の力量を育成すべく力を注いでいる。

【長所・特色】

令和4年度より、全ての授業科目のWeb 講義要項（シラバス）〔学部用〕において、＜授業で実施するアクティブ・ラーニング＞について具体的に明示している。

【問題点】

全ての授業科目のWeb 講義要項（シラバス）〔学部用〕において、＜授業で実施するアクティブ・ラーニング＞について明示し、実施してはいるものの、「主体的・対話的で深い学び」の促し方は多様である。今後、より効果的に課題発見や課題解決等の力量を育成するためにも、各授業担当間で実践を共有し学び合うなどの取り組みが必要と考えられる。

【根拠資料】

令和6年度 第7回教職課程協議会資料（令和6年度 資格課程科目（一部生田・一部神田）講義要項（シラバス）の原稿作成について（依頼））

専修大学 Web 講義要項（シラバス）〔学部用〕

<https://syllabus.acc.senshu-u.ac.jp/syllsenshu/top.do>

第15期 自己点検・評価最終報告 〔16-2〕 司書・司書教諭・学校司書課程

<教育課程について>（評点：A）

（1）達成目標

司書資格等の取得に資する適切なカリキュラムを編成し、運用する。

（2）最終報告

評価の視点①

学生の履修実態に応じた時間割の設定状況。

【現状説明】

神田キャンパスにおける司書課程・司書教諭課程・学校司書課程（以下「司書課程等」）は、二部開講科目とされており、二部と一部の学生を対象として開講している。しかしながら、令和2年度に二部の学生募集が停止されて以降、二部の受講生は令和4年度が4名（全員が4年生）、令和5年度は0名となり、二部開講科目とする意義が問われることになった。また、学生は平日の6・7時限に開講される授業を履修するために、日中の（1～5限の）授業の後、7限の終了時間である21時25分までキャンパスに留まらざるを得ないという合理性に欠ける事態となった。

こうした状況を踏まえて、令和6年度以降は、全ての課程を一部開講科目とする変更を行った。令和6年度における神田キャンパスの開講科目は、平日の5～6限および土曜日の1～3限の授業時間に設定した（ただし、1展開であるためにオンライン授業とした科目については平日の7限に配置した）。実情に即した適切な変更であったと判断している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

・神田キャンパスにおける開講科目の授業時間について問題が確認された場合には、平成7年度以降、柔軟に対応していく必要がある。

・科目等履修生制度は、長らく二部開講科目の受講を前提としてきたことから、科目等履修生（資格課程コース）募集の際には、授業時間を周知して混乱を回避する必要がある。

【根拠資料】

令和5年11月27日付「令和7年度以降の二部の授業運営について（報告）」
（二部教務委員長より学長宛文書）

評価の視点②

履修に関する相談体制の適切性。

【現状説明】

2年生以上に対しては、年度当初のガイダンスにおいて履修に関する説明をするとともに、随時相談に応じている。相談内容として多いのは、時間割上で資格課程科目と専門科目等が重なっている場合の対応である。生田・神田のいずれのキャンパスでも受講可能であることや、卒業後に科目等履修生制度等を活用した単位修得が可能なことなど、様々な事例を紹介しながら、相談者の意向に応じた方法を案内している。

1年生については、年度当初に履修相談の機会を設定している。相談内容は、司書課程か司書教諭課程か、司書と学芸員との両方の資格取得は可能か、司書課程と学校司書課程の違いは何か、2年生以上からの受講でも在学中の資格取得は可能か、など様々である。過去の事例などを紹介しながら、学部に応じた具体的な情報を提供している。

学校司書課程の2科目（学校教育概論、学校図書館サービス論）は1展開であることからオンライン授業としており、担当している教員とともに学生の履修状況を注視している。

総じて、適切な体制であると判断している。現状では特段の支障等は生じていないが、今後も教務課資格課程係と連携した相談体制を継続する必要がある。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

令和5年度 専修大学 資格課程年報 パッソ・ア・パッソ vol.26, p.59「令和5年度 資格課程年間行事表」

<教員の共通理解に基づく協働的な取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

専任教員と兼任教員の連携を図る取組みを、組織的に実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

専任教員と兼任教員の情報交換・意思疎通の適切性。

【現状説明】

長年にわたり、前期授業の終盤に入る7月上旬に「資格課程懇談会」を開催しており、学生の状況や成績評価などについての情報交換をしている。令和5年度は4名、令和6年度は10名の兼任教員の出席を得て、専任教員（2名）及び教務課職員とで、1時間半程度の懇談を行った。専任教員からは、履修者数について、教育・研究用コンピュータシステムの変更について、二部廃止に伴う授業時間割について、ChatGPT等のAI技術の利用について、「授業に関する学生アンケート」の実施について、図書館実習について等の状況を報告した。その他、担当科目の授業時における学生の状況などが話題となった。懇談会で出された意見等は、教務課職員によって記録され、参照できる状態にある。また、兼任・専任教員間で個別に連絡を取り合うこともあり、情報交換や意思疎通は概ね適切な状態にある。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

日程等の都合により参加できない兼任教員が一定数いる状況についての対応が必要である。

【根拠資料】

該当なし

<学生のキャリア支援について>（評点：A）

(1) 達成目標

司書資格等を活かした進路選択や図書館等への就職のための、適切な支援を行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

進路選択や図書館等への就職に関する情報提供の適切性。

【現状説明】

図書館等への就職に関する情報提供の機会として、すべての学年を対象とした「就職（進路）懇談会」を毎年開催している。令和5年度は12月に神奈川県立図書館で働く司書を招いて、採用に至る過程や現在の仕事内容、司書として働くやりがいや、学生時代に取り組んでいたことなどの講演と質疑応答を行った。令和6年度は1月に、図書館関連企業に勤務する卒業生を招いて開催する予定である（令和6年11月現在）。生田・神田の両キャンパスの学生を対象とするため、オンラインで開催する。

この他、4年生以上に対してはInCampusによる求人情報の提供を行うとともに、面接試験に備えた個別相談に応じている。

司書資格等を活かした進路選択や図書館等への就職支援は適切であると判断している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

令和5年度 専修大学 資格課程年報 パッソ・ア・パッソ vol.26, p.64 「令和5年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果」

評価の視点②

図書館実習の実施状況。

【現状説明】

3年生以上の希望者を対象として、図書館の現場で実際の様々な業務を経験する「図書館実習」を実

施している。令和5年度は7名、令和6年度は5名（いずれも3年生）が公立図書館や専修大学図書館で実習を行った。「図書館実習事前ガイダンス」では、実習予定者に対して諸手続きや実習期間中の注意事項等を伝えた。実習期間中は「実習日誌」に、1日の主な実習内容や感想等を記録して実習先の担当者に確認を得ること、及び、実習終了後は司書課程の担当教員に「実習日誌」を提出することを課している。司書課程担当教員は実習先の図書館を訪問して、担当者から実習中の様子などを把握した。また「図書館実習報告会」を開催し、実習期間中の経験や学びを口頭で発表する機会を設定している（令和5年度は12月に開催し、令和6年度は1月に開催予定である（令和6年11月現在））。例年、図書館実習は全般的に問題なく実施できている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

令和5年度 専修大学 資格課程年報 パッソ・ア・パッソ vol.26, p.64「令和5年度 司書課程図書館実習報告会開催結果」

第15期 自己点検・評価最終報告

〔16-3〕学芸員課程

<博物館実習(学内実習)の充実。> (評点:A)

(1) 達成目標

シラバスの内容に基づき、学内実習をさらに充実させて実施しているか。

(2) 最終報告

評価の視点①

学生の授業評価に基づく、学内実習の教育的効果の分析。

【現状説明】

博物館実習室を活用した学内実習では、実際に考古資料、陶磁資料、和鏡類、絵画資料(掛け軸、絵巻)などの扱い方の実習、調書の作成、資料解説の作成、展示実習などを行っている。これらによって、学芸員にとって必要とされる実務の知識、技術に関して、学問的な蓄積の成果が見られる。

【長所・特色】

本学の実習では、主に美術、考古、歴史などの人文科学分野に重点を置いた少人数での実習を行っている。博物館実習室の積極的活用により、技術面はもとより、経験として博物館の学芸員の疑似体験ができしており、館務実習と総合することで、履修学生の能力の向上が認められると共に、授業評価の満足度も高いようである。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

学生による授業評価アンケートの集計結果

評価の視点②

実習を履修する学生の提出課題の質の高まりの分析。

【現状説明】

博物館の学芸員に求められる知識や技術を習得できるよう、課題を課している。学内実習では資料の取り扱いの実際を学ぶと共に、課題として、「実物資料の調書作成」「特別展の企画書の作成」「出品予定リストに載せる実物資料の検索」「展覧会図録の構想」「作品について、内容の検索と作品解説の執筆」などを課している。

【長所・特色】

本学の実習では、主に美術、考古、歴史などの人文科学分野に重点を置いた少人数での実習を行っている。博物館実習室の積極的活用により、技術面はもとより、経験として博物館の学芸員の疑似体験ができしており、館務実習と総合することで、履修学生の能力の向上が認められると共に、授業評価の満足度も高いようである。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

履修学生による提出課題

＜博物館実習（館務実習）での館務実習館との連携。＞（評点：A）

（1）達成目標

館務実習館と連携して、事前事後実習および館務実習を学内実習にフィードバックさせているか。

（2）最終報告

評価の視点①

館務実習館の担当者との、実習に関する踏み込んだ討議検討の実施状況。

【現状説明】

館務実習については、担当教員が実習館の8割程度を訪問しており、実習担当者や博物館の責任者と面談し、実習学生を受け入れにあたっての受け入れ条件、考え方や、大学における準備の内容などを確認している。さらに都合のつく限り、学生の実習期間に訪問することで、その状況を確認すると共に、実習の感想や希望などの聞き取りを行っている。

【長所・特色】

他大学においては、必ずしも館務実習期間に担当教員の実習館への訪問が実施されていない。学芸員資格取得を希望する学生の増加により、実習館の確保に困難を増している現状があるが、本学では実習館の確保が比較的円滑に行えており、館務実習担当者との踏み込んだ討議検討の成果と考えられる。今後も、担当者の密接な討議を重ねて、実習館の確保に努めたい。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

館務実習先の訪問リスト

評価の視点②

学生の実習体験について、学内授業への反映状況。

【現状説明】

学内実習の授業において、履修学生が新たに訪問した博物館と合わせて、実習先の博物館についてのレクチャーを行なうことを課題としている。また、館務実習後に実習館で学んだ成果を共有することで、広範な博物館の知識について、学生同士でのフィードバックがなされている。

【長所・特色】

他大学においては、必ずしも館務実習期間に担当教員の実習館への訪問が実施されていない。学芸員資格取得を希望する学生の増加により、実習館の確保に困難を増している現状があるが、本学では実習

館の確保が比較的円滑に行えており、館務実習担当者との踏み込んだ討議検討の成果と考えられる。今後も、担当者の密接な討議を重ねて、実習館の確保に努めたい。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

履修学生が提出した博物館実習日誌

＜学生のキャリアに関する学生支援が積極的に行われているか＞（評点：A）

(1) 達成目標

学芸員課程セミナーの実施を踏まえて、より実践的なキャリア支援を実施しているか。

(2) 最終報告

評価の視点①

OB・OG による就職活動の体験談等の、講演会の開催状況。

【現状説明】

不定期で「学芸員課程セミナー」を実施している。資格取得後、実際に学芸員として就職し、現場で活躍している卒業生、博物館関連の重要業務に携わっているゲストを招いて、体験談を履修学生全員に話してもらう講演会であり、第3回は2024年12月に計画実施予定である。

【長所・特色】

「学芸員課程セミナー」を積極的に開催することで、履修学生が就職活動の体験談や学芸員としての実務などに関心を抱く機会となっており、実際の学芸員として就職を果たす人材が少しずつ増えている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和6(2024)年度 第6回教職課程協議会資料

評価の視点②

博物館の見学や現場の学芸員によるレクチャーの実施状況。

【現状説明】

履修学生全体で、生田緑地の川崎市立日本民家園への団体見学を行い、実際の民家を前にして、館の担当者からの詳細なレクチャーを受けた。古い民家の特徴や歴史的背景などを踏まえた解説により、参加学生の理解が深まるとともに、学芸員の実際の活動の一端にも触れる機会となり、履修学生の資格取得への意欲の向上につながっている。

【長所・特色】

博物館実習室を活用した学内実習、博物館見学とレクチャーの実施、館務実習という3つの実習を通

して、本格的な博物館を有する他大学の学芸員課程履修学生と比べても遜色なく、学芸員と博物館についての理解が促進されている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

団体見学後履修学生が提出したレポート

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔17〕 図書館

<組織運営について>（評点：A）

（1）達成目標

図書館組織の人材育成と業務効率化の推進

（2）最終報告

評価の視点① 図書館職員として研究・学修支援サービス向上のために必要な専門的スキルの修得状況

【現状説明】

図書館職員として求められる知識や専門的スキルの向上を目的に私立大学図書館協会、国立国会図書館、国立情報学研究所などが主催する各種研修やセミナー等に積極的に参加している。

私立大学図書館協会東地区部会が主催する研修会は、加盟する各図書館の抱える課題に応じたテーマ設定で開催されており、他大学図書館との情報交換や知見を共有できる場となっている。2024（令和 6）年度は研修費が無料化されたため、本学からはスキルアップ研修（和漢古典籍、レファレンス、データ分析・活用の各コース）に計 4 名が参加している。国立国会図書館主催の研修は、2023（令和 5）年度に障害者用資料検索「みなサーチ」β版説明会、資料保存研修に各 1 名が参加した。国立情報学研究所では、大学等において日本の学術情報基盤を支える人材の育成のため各種研修を実施しており、2023（令和 5）年度は教育研修デジタルアーカイブ×メタデータ勉強会に参加した。2024（令和 6）年度は、教育研修事業（NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材図書コース）、学術情報基盤オープンフォーラム（DX で実現するこれからの大学図書館）、日本目録規則改訂に伴う「コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会」等に参加している。

これらの研修・セミナーへは、2023（令和 5）年度は述べ 70 名、2024（令和 6）年度は 11 月 1 日までに延べ 51 名の図書館職員が参加している。研修への参加は、得た情報や知見を担当業務に活かすことができる貴重な機会となっている。

【長所・特色】

図書館業務における DX の推進や法改正に伴う図書館運営、図書館システム、オープンアクセスに関する図書館職員向けの研修・セミナーが増加している。時代に合わせた知識・スキルを習得し業務に活かすため、研修・セミナーに課員を積極的に参加させている。

【問題点】

大学図書館を取り巻く環境の変化にともない、学生・教員へのレファレンスサービスなどに対応する職員には経験年数も必要だが、人事異動のため現実的には難しい状況がある。特に、従来の業務に加えて、オープンサイエンス時代の図書館業務などには必要なスキルが多岐にわたり、短期的にスキルを修得する工夫や専門職としての雇用方法などを検討する必要がある。

専門的スキル修得に必要な研修への参加を積極的に推奨しているが、人事異動等による職員の配置転

換にともない組織的な経験値の蓄積が不安定であることが問題点である。

この点を踏まえ、人事異動が生じた際には、業務引継ぎ及び転入した課員へのスキルの伝達や学外研修参加の推奨等、人材育成に対するバックアップ体制が必要とされる。

【根拠資料】

- ・ 生田・神田研修参加状況 2023 年度
- ・ 生田・神田研修参加状況 2024 年度（2024（令和 6）年 10 月 31 日現在）
- ・ 私立大学図書館協会（2024 年度東地区部会研修会実施要項）
- ・ 国立情報学研究所教育研修事業（2024 年度教育研修事業一覧）

<図書館サービスおよび施設について>（評点：A）

(1) 達成目標

教育・研究・学修環境の充実

(2) 最終報告

評価の視点①

利用者の情報リテラシー教育の実施状況

【現状説明】

学生・教員への利用促進の取り組みの一つとして図書館利用案内がある。

新入生向け「図書館利用案内（基礎コース）」は、2024（令和 6）年度は対面形式による案内を再開した。コロナ禍をきっかけに利用案内動画（YouTube）を配信していたが、教員より対面形式再開の要望を受けて対応した。専修大学入門ゼミナールのクラス毎に事前申し込み制とし、2024（令和 6）年 4 月～7 月の期間中に、生田：98 クラス（2,164 名）、神田：21 クラス（437 名）が参加した。また、利用案内動画（YouTube）配信も継続しており、専修大学入門ゼミナールでの利用を含め、2024（令和 6）年度は 11 月 1 日時点で 2,130 回の視聴があった。

「図書館利用案内（応用コース）」は、対面形式とオンラインとの選択制で実施した。生田本館においては基礎コースの対面授業の申し込みが多数集中し、図書館職員の対応が追い付かない状況が生じたため、時期をずらして 6 月から実施した。

2024（令和 6）年度の学生向け情報検索講習会は、7 月に生田と神田それぞれのキャンパスで実施した。生田本館では「図書館ミニ講習会『スキマ時間で学べるレポートの書き方』」として対面形式で開催した。神田キャンパスでは「図書館 Web セミナー『レポート作成にも役立つ！データベースで情報検索してみよう！』」としてオンライン（Google Classroom）で開催した。効果測定として行った参加者アンケートでは、満足度が高いという回答が得られた。講習会全体の参加者数は延べ 65 名（対面形式：43 名、オンライン形式：22 名）となった。

【長所・特色】

「図書館利用案内応用コース」では、授業・ゼミナール担当教員の個々の要望を受け入れ、内容を入れ替えて実施している。このため、学生は所属する学部・学科やゼミナールの学修に必要なスキルを効率的に身に付けることができる。また、情報検索講習会では、試験期間直前など学生にとって必要な時期に適

切な内容の講習会を開催しており、図書館として情報リテラシー教育に注力している。

【問題点】

(1) 情報リテラシー教育として一定の効果をあげている「図書館利用案内応用コース」だが、授業・ゼミナールの内容に合わせて実習問題や紹介するデータベースを入れ替えているため、事前準備に時間を要していることや、担当できる人材確保に課題がある。また、2024（令和 6）年度前期には、対面形式を再開した「基礎コース」の申し込みが多数集中したことにより、「応用コース」を担当する人員の不足が生じた。図書館利用案内を必要とする時期が集中することは必然であるため、「基礎コース」として利用できる動画コンテンツ内容の充実を図り、対面形式とオンライン形式を併用し、適正な時期に提供することが課題である。

(2) 図書館主催の「情報検索講習会」について、2024（令和 6）年度は生田本館の対面形式開催の広報活動としてチラシ配布を行ったり、神田キャンパスではオンライン形式開催について図書館閲覧室に机上チラシで掲示をしたりと対策を講じたが、参加者数の伸び悩みは継続している。講習会の内容や開催時期、実施形式、広報活動など全般について引きつづき検討することが必要である。

【根拠資料】

- ・利用者の情報リテラシー教育の実施状況_令和 6 年度図書館利用案内報告書
- ・利用者の情報リテラシー教育の実施状況_令和 6 年度生田情報検索講習会報告書
- ・利用者の情報リテラシー教育の実施状況_令和 6 年度神田情報検索講習会報告書

評価の視点②

図書館設備の有効活用について

【現状説明】

学生の適切な学修環境整備のため、座席配置や座席数確保に努めている。座席数は、神田キャンパスでは学生収容定員 6,264 人に対し座席数 624 席、生田キャンパスでは学生収容定員 9,736 人に対し座席数 1,099 席となり、共に学生収容定員比率の約 10%を確保している。

図書館内のパソコンについては、2023（令和 5）年度の BYOD（Bring Your Own Device：個人が所有するノートパソコンをキャンパスでの授業等で利用すること）と VDI（仮想デスクトップ）の導入、2024（令和 6）年度の教育・研究用コンピューターシステムの更新に伴い、設置台数の見直しを行った。その結果、全館合わせて OPAC 端末は 42 台から 14 台、情報検索用は 92 台から 6 台に削減した。このパソコンの大幅な削減によりパソコンが設置されていた場所については、個人が所有するノートパソコン等を活用できるスペースとし学修環境の整備を行った。また、VDI 導入に伴い、2024（令和 6）年 3 月 16 日をもって VPN 接続（トンネルモード・Web モード）の提供を終了した。

神田 5 号館ラーニング・コモンズについては、2023（令和 5）年度に実施したアンケート結果より「神田キャンパス内で食事や自習などが自由にできる場所が少ない」ことが課題として挙げたことを踏まえて、2024（令和 6）年度から飲食ルールを変更し一部のエリアで食事を可能とした。また、学内施設の有効活用を目的とし、スタディラウンジ 1,2,3（3 個室）については、障がい学生支援室業務を実施する

場所として年間を通して学生生活課に貸出している。2025（令和 7）年度以降については、上述の課題を含め、神田キャンパス全体の学生のためのスペース不足に対し、学生の利便性を向上させることを目的とし、神田 5 号館ラーニング・コモنزの施設管理事務所管を図書課より学生生活課に移管する予定としている。

そのほかに、2018（平成 30）年度に講談社より人物資料の寄贈を受け、生田分館 5 階の第 5 閲覧室に開設した「現代人物アーカイブズ」の整備を進め、2024（令和 6）年度から図書館ホームページに「現代人物アーカイブズの利用」について掲載し、閲覧室の利用提供を開始した。人物資料は、講談社が 1978（昭和 53）年から 2012（平成 24）年まで収集した 7 万 6,363 件の記事のスクラップで、国内の新聞 12 紙、雑誌 25 誌に掲載された政治家、芸能人、文化人、スポーツ選手や時の人などの記事を切り抜き、人物ごとに袋に入れ整理・保管している。2024（令和 6）年度は 11 月 1 日時点で 4 件（学内者 4 件、学外者 0 件）の利用があった。

また、生田キャンパスの図書館の利用を促進するため、本館と生田分館の所蔵資料を入れ替えるとともに、収容スペース確保のための生田分館全体の閉架式化に向け、2021（令和 3）年度より本館・生田分館における図書の移設作業を行ってきた。具体的には、生田分館に配架していた学生向けの文庫・新書判図書、育友文庫ジョイ（ベストセラーや小説などの軽読書）を本館（開架式）に、神田分館の移設資料を生田分館（閉架式）に集約し、利用者の動線を本館に集中させることで、サービスの一元化と利用促進を図った。この移設作業は 2022（令和 4）年度に完了し、2023（令和 5）年度から生田分館を閉架式図書館とした。閉架式図書館への転換に併せて生田分館の耐荷重を調査したところ、書架の増設による収容冊数の増加が見込めないことが判明した。当初の計画では利用頻度の少なくなった本館と神田分館の育友文庫ジョイを生田分館へ移設する予定だったが、育友文庫ジョイの除籍基準を見直しすることで、生田分館には移設せず、今後は定期的なサイクルで除籍を行う運用に変更した。

閉架式図書館となった生田分館所蔵の図書資料は、他館に取り寄せて利用することができるが、生田分館書庫の「英国文庫」などのコレクションをまとめて利用したいという要望もあるため、2024（令和 6）年度より、本学専任教員を対象に入庫利用の受付を開始した。2024（令和 6）年度は 11 月 1 日時点で 2 件の利用があった。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

生田分館は構造的に書架増設の加重に耐えられないために収容冊数を増加できない。この問題点の対応策として、全館体制で除籍の長期計画を立てていく必要がある。

【根拠資料】

- ・ 令和 5 年度第 5 回図書館委員会諸報告（1）
教育・研究用コンピューターシステム更新に伴う端末設備の削減および新システムの導入について
- ・ 令和 5 年度第 6 回図書館委員会諸報告（4）
神田キャンパスにおける図書課管轄施設の利用について（アンケート結果）

- ・令和 6 年度第 1 回図書館委員会諸報告 (6)
専修大学神田キャンパス 5 号館ラーニング・コモنزの運用変更について
- ・令和 6 年度第 2 回図書館委員会諸報告 (2)
専修大学図書館年次報告 2023 年度 (令和 5 年度) について
- ・令和 6 年度第 4 回図書館委員会諸報告 (3)
神田キャンパス 5 号館ラーニング・コモنزの運用変更について
- ・令和 6 年度専修大学入学定員・入学者数・収容定員・学生数 (2024 (令和 6) 年 5 月 1 日現在)
- ・令和 6 年度学校法人基礎調査 各館閲覧座席数 (2024 (令和 6) 年 5 月 1 日現在)
- ・専修大学図書館 HP_現代人物アーカイブズの利用
https://library.lib.senshu-u.ac.jp/information/gendai_jinbutsu_archives
- ・専修大学図書館 HP_生田分館書庫の利用
https://library.lib.senshu-u.ac.jp/information/ikuta_branch_library

評価の視点③

提供コンテンツの整備状況

【現状説明】

所蔵資料の状況調査を行い、資料保存と利用提供の観点から所蔵資料の電子化および情報発信を行っている。

(1) 蔵書点検は、目録データと現物資料の配架位置等の整合性の確認や紛失資料の有無等を調査するため定期的実施する必要があるが、2016 (平成 28) 年度以降は実施を見送っている状況である。長期にわたり実施を見送っていたこと、システムが変更になったこともあり、2023 (令和 5) ~2024 (令和 6) 年度にかけ、作業手順の見直しも含め、生田分館から本館に移設した文庫・新書を対象に蔵書点検を行うこととした。2023 (令和 5) 年度は新書 26,205 冊を対象に作業を進め、蔵書点検後の調査が完了した。なお、蔵書点検で判明した不正データは修正済みである。2024 (令和 6) 年度は、文庫 68,257 冊および軽読書 10,006 冊を対象に蔵書点検後の調査を進めている。また、2024 (令和 6) 年度 12 月に、本館 第 1 開架閲覧室 (3F) の約 200,000 冊を対象とし、外部業者による蔵書点検を予定している。2020 (令和 2) 年度に新設された Knowledge Base については、IC タグによる蔵書管理を実施しているため、蔵書点検作業が効率化されており、定期的実施している。2023 (令和 5) 年度は蔵書約 15,300 冊を対象に実施し、不正データは無い状態となっている。

(2) 所蔵資料の電子化については、図書館所蔵古典籍の幅広い教育研究への寄与を目的として、画像データのデジタル化及び Web 上での公開を進めている。江戸期和本のコレクションである向井信夫文庫については、国文学研究資料館が行っている「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業に協力し、2018 (平成 30) 年度より 6 年計画でデジタル撮影を行い、順次画像を公開している。2024 (令和 6) 年 11 月 1 日現在、1,854 点が「国書データベース」にて公開済である。本事業は 2023 (令和 5) 年度をもって終了したが、後継プロジェクトとして「データ駆動による課題解決型人文学の創成」事業が 2024 (令和 6) 年度より開始され、向井信夫文庫のうち明治初期刊行分を対象として引き続きデジタル化に取り組んでいる。今出川家 (菊亭家) 相伝の古典籍・文書からなる菊亭文庫、フランス革命期の

コレクションであるミシェル・ベルンシュタイン文庫については、現在マイクロフィルムを利用者に供しているが、劣化が始まりつつある。そこで、マイクロフィルムが完全に劣化する前に、マイクロフィルムのデジタル化およびデータ整備を行うこととした。2022（令和 4）年度から 2 年間の試行を経て作業手順を確立し、2024（令和 6）年度から経常業務の一環として進めることとなった。2024（令和 6）年度は、マイクロフィルム 93 本のデジタル化および登録が完了した。これまでの累計としては、2024（令和 6）年度 11 月 1 日現在、約 1,000 本（書誌データ 45,000 件）の内、187 本分（書誌データ 16,457 件）のデータ整備が完了している。

（3）学術情報（研究成果）の発信として、専修大学学術機関リポジトリ（SI-BOX）において、本学発行の紀要等を電子的に収集・蓄積・保存し、論文単位でインターネットを通じて公開している。2023（令和 5）年度の登録件数は、829 件であった。本リポジトリは、国立情報学研究所（NII）が提供する共用リポジトリサービス「JAIR0 Cloud」のバージョンアップに伴い、2023（令和 5）年 9 月 22 日より JAIR0 Cloud（WEK03）環境へ移行し、リニューアルを実施した。新システム移行後のメンテナンスと新規登録を並行して行っている。また、2024（令和 6）年 2 月に内閣府が提言した「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」を受け、2025（令和 7）年度からの実施に向け準備を行っている。

【長所・特色】

向井信夫文庫については、画像が「国書データベース」にて公開され、デジタルでの閲覧が可能になった。このことにより、利用者には閲覧手続きが不要となって利便性が向上し、職員側も事務手続きの手間を省くことが可能となり、双方にメリットが生じている。

【問題点】

菊亭文庫およびベルンシュタイン文庫のマイクロフィルムのデジタル化を進めているが、デジタル化した画像の利用者への提供方法については現在検討中である。同文庫のマイクロ資料は利用が多いため、劣化により利用不可能となる前に運用の仕方を確定する必要がある。

【根拠資料】

- ・【通知】歴史的典籍 NW 事業の終了と後継プロジェクト開始について
- ・「国書データベース」専修大学図書館 画像一覧
<https://kokusho.nijl.ac.jp/page/list-sulm.html>
- ・根拠資料（令和 5 年度業務計画（最終報告））
- ・図書館年次報告（令和 5 年度）
- ・専修大学図書館 HP Information 「専修大学学術機関リポジトリ（SI-Box）」リニューアルのお知らせ（2023（令和 5）年 9 月 22 日付）
https://library.lib.senshu-u.ac.jp/blogs/blog_entries/view/238/dcb9ea3ba3ba466f33c6543d6f517ae6?frame_id=577
- ・本館令和 5 年度蔵書点検（新書）について
- ・KB 蔵書点検業務記録

<学外連携および広報活動について>（評点：A）

（1）達成目標

広報活動強化や社会・地域・学外諸団体との連携促進

（2）最終報告

評価の視点①

他機関との相互利用状況

【現状説明】

本学図書館では、かねてより ILL(図書館間相互貸借)サービスを提供している。本学に所蔵がない図書資料は他大学・他機関から雑誌記事や論文のコピー、あるいは資料そのものを取り寄せることができる。このサービスに加えて、以下の相互利用を行っている。

（1）山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム

2021(令和3)年度より加盟している。昨年度、加盟大学の図書館カードを発行した本学所属者は92名、本学の図書館カードを発行した加盟大学所属者は147名(生田36名、神田111名)であった。今年度は、現時点で統計データが取得できる本学の図書館カードを発行した加盟大学所属者は127名(生田39名、神田88名)である(2024(令和6)年11月1日現在)。

（2）日本大学図書館法学部分館 相互利用

2006(平成18)年4月より相互利用を開始した。本学の利用対象者は、以下のとおりである。

- ・法学部、法科大学院、商学部および国際コミュニケーション学部所属の専任教員
- ・法学研究科、経済学研究科および商学研究科の大学院学生、法科大学院学生

今年度は、現時点で統計データが取得できる図書館カードを発行した日本大学法学部所属者は4名である(2024(令和6)年11月1日現在)。

（3）神奈川県図書館協会 相互利用

1987年より「神奈川県図書館協会」に加盟し、「神奈川県県内大学図書館共通閲覧証」によって相互利用を行っている。本学の利用対象者は以下のとおりである。

- ・教職員、大学院学生、学部学生

今年度、「神奈川県県内大学図書館共通閲覧証」を発行した本学の利用者は13名、本学を利用した加盟間所属者は6名である(2024(令和6)年11月1日現在)。

【長所・特色】

(1)山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムへの加盟により相互利用を開始したことで、加盟大学を直接訪問し資料の閲覧サービスや貸出サービスを受けることが可能となった。これまで訪問の際に提出が必要だった紹介状の発行や文献複写料や貸借資料の郵送料等の利用料金が不要となり、利用者が資料にアクセスするまでの時間や費用の削減にも寄与している。また、2023(令和5)年4月1日より運用を開始

した新図書館システムでは、新たに本学所属者以外にも My Library 機能の提供を開始し、資料の取り寄せや予約を自分で行えるようになった。これまで手作業で処理していた内容が、システム上で対応できるようになり事務の効率化も図られた。取り寄せ、予約の件数は以下とおりである。

①山手沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟大学所属者

取り寄せ：56 件(生田 0 件、神田 56 名)

予約：58 件(生田 1 件、神田 57 名)

(2024 (令和 6) 年 4 月 1 日～11 月 1 日)

②日本大学法学部所属者

取り寄せ：神田 6 名

予約：神田 7 名

(2024 (令和 6) 年 4 月 1 日～11 月 1 日)

※生田は利用対象外

③神奈川県図書館協会

加盟館所属者は館内閲覧のみ

(2)相互利用を行う中で、他大学図書館と情報交換を行うことができ、新たなサービス提供等の検討を行うきっかけとなる。

【問題点】

ILL サービスや他大学との相互協力について、専修大学図書館 YouTube チャンネルの利用案内動画や授業単位で実施する利用案内、情報検索講習会の際に紹介を行っている。

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムの昨年度の本学所属者のカード発行は 92 名となっている。他の加盟大学の学生数とカード発行枚数の比率を比較すると、本学の発行枚数は少ない傾向にある。この相互利用の制度について認知がされていない可能性があるため、引き続き周知を行い、利用者の更なる利便性の向上と事務の効率化を目指す。

【根拠資料】

- ・山手コンソ利用者統計
- ・日本大学図書館法学部分館との相互利用について
- ・神奈川県内大学図書館相互利用について
- ・カード発行、予約、取り寄せ状況
- ・神奈川県内大学図書館共通閲覧証申込受付

評価の視点②

他機関との協働事業の取り組み

【現状説明】

本学図書館では、以下の図書館と協働事業の取り組みを行っている。

(1) 国立国会図書館 障害者サービス支援・協力業務

2023（令和 5）年 4 月 19 日付けで生田本館、神田分館が国立国会図書館の「視覚障害者等用データの送信を受けることができる図書館」として、承認された。これにより、国立国会図書館が製作した視覚障害者等用資料の DAISY データ等と、図書館等が製作し国立国会図書館が収集した視覚障害者等用データ（DAISY データ、点字データ等）を図書館にインターネット経由で送信するサービスを受けることが可能となった。専修大学図書館ポータルに障がい者サービスについての利用案内を掲載しており、円滑にサービスが提供できるように案内を行っている。

（2）川崎市立図書館

川崎市立図書館と連携し、川崎市多摩区に在住または在勤の満 18 才以上の者を本館で受け入れている（登録者 106 名、2024（令和 6）年 11 月 1 日現在）。本学では 2007（平成 19）年より、多摩区内の大学（専修大学・明治大学・日本女子大学）と川崎市立多摩図書館との連携事業として、多摩区・3 大学連携協議会の協定を結んでいる。なお、連携校の日本女子大学は学部移転に伴い 2021（令和 3）年度末に協議会への参加を終了しており、現在は「多摩区 2 大学図書館・川崎市立多摩図書館連携会議」が毎年 2 回開催され情報交換の機会となっている。

図書館ボランティア Compass が協力した特集展示「大学生がおすすめする本」では、川崎市立多摩図書館の展示コーナーにメンバーが厳選した約 150 冊の本と、それを紹介するポップなどを作成し、図書館利用者におすすめする本を紹介した（期間 2024（令和 6）年 8 月 1 日～29 日）。

（3）千代田区立図書館

千代田区立図書館と連携し、千代田区に在住の満 18 歳以上の方を神田分館、Knowledge Base で受け入れている（登録者 14 名、2024（令和 6）年 11 月 1 日現在）。毎年、「千代田区内大学図書館と区内図書館との連絡会」が開催され情報交換の機会となっている。効果的な連携体制を目指し、展示企画等を実施している。

- ・展示「地域で支えるー認知症について理解を深めよう」

（期間 2024（令和 6）年 9 月 2 日～10 月 31 日）

昨年度に引き続き総合企画課を経由して千代田区保健福祉部より、認知症に関する展示企画の依頼があり、神田分館で実施を行った。

- ・展示「パープルリボンプロジェクト 2024@専修大学図書館」

（期間 2024（令和 6）年 11 月 11 日～11 月 30 日）

昨年度に引き続き千代田区男女共同参画センターMIU よりパープルリボンプロジェクトキャンペーンの展示企画の依頼があり、Knowledge Base で実施を行う。企画は図書館ボランティア Compass と共同で行う。

【長所・特色】

（1）地域の図書館と連携し、学外者が図書館を利用することで本学の知名度やイメージの向上につながる。

（2）協働事業の中で、地域の図書館や事業に参加する他大学と情報交換を行うことで、新たなサービス提供等の検討を行うきっかけとなる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 専修大学図書館ポータル利用案内障がい者サービス
- ・ 川崎市立図書館：【多摩図書館】特集 大学生がおすすめする本
- ・ 専修大学図書館神田分館と千代田区立図書館との相互協力に関する覚書等
- ・ 川崎市立多摩図書館と専修大学図書館の相互協力に関する覚書
- ・ カード発行状況

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔18-1〕社会科学研究所

<研究活動の活性化について>（評点：A）

(1) 達成目標

- ①定例研究会を適切に開催していく。
- ②研究助成による研究成果の社会的還元を図る。

(2) 最終報告

評価の視点①

定例研究会が年間計画に則り適切に開催されているか、また、研究会成果が適切に社会的に還元されているか（『社会科学研究所月報』へ研究会開催概要を掲載）チェックする。

【現状説明】

定例研究会については、社研ではこれまで、おおよそ月に一回程度、企画するようにしてきた。2024 年度は 11 月末日現在、15 回開催している（社研本体企画が 5 回、グループ研究助成企画が 10 回）。開催記録は、当該月の『月報』巻末に記載されている。

【長所・特色】

コロナ禍を契機に、通常の対面開催に加えて ZOOM 等のオンライン開催あるいはそれらの併用（ハイブリッド型）も工夫されるようになってきたことで、ネット環境下、多くの参加者を募ることが可能になってきた。

【問題点】

「定例研究会」の企画・開催について、内部資金（大学補助金）利用のグループ研究会の企画する研究会を「定例研究会」と呼称することとなり、それらは社研本体資金で企画することがなくなったため、社研本体企画の定例研究会開催回数が減少している。

【根拠資料】

研究会の開催状況は、その都度、社研 HP に掲載している。<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/syakai/katsudou/>

また、『社会科学研究所月報』各号後半に「研究会・シンポジウム報告」として記載している。例えば、<https://senshu-u.repo.nii.ac.jp/records/2000871> など。

評価の視点②

研究助成の研究成果が、上記の定例研究会枠において適切に報告され、研究成果が社会的に還元されているかチェックする。

【現状説明】

グループ研究助成を受けているグループでは、その研究の成果（あるいは、その中間報告）を最低年一回研究会を開催して開示することとなっており、2024 年度は 11 月末日までに 10 回開催済である。

【長所・特色】

内部資金（大学補助金）によるグループ研究において、経費（専門的知識の提供やそれに伴う旅費等）を使う研究会は必ずその成果の一部を公開することと定めていて、それが実現している。

【問題点】

グループ研究会内部メンバーのみによる小規模の研究会についても、社研 HP・メーリングリスト上では「定例研究会」というカテゴリーで記載されているため、これが一般公開なのか内部限定なのか見極めづらいことがある。

【根拠資料】

研究助成成果が例えば定例研究会報告で実現している場合は、上記同様、『社会科学研究所月報』各号に記載されている。

<海外の研究機関との研究交流について>（評点：A）

(1) 達成目標

海外の研究機関との共同の研究会・シンポジウムの開催、フィールド調査等により、研究交流を行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

国際交流組織間協定（覚書等を含む）に基づき、両機関で協議された研究交流内容が、滞りなく遂行されているかどうかチェックする。

新たに海外の研究機関との研究交流の機会も積極的に作り出す努力が図られてきたかチェックする。

【現状説明】

専大社研とベトナム社会科学院・東北アジア研究所（VASS-INAS）との間で 2023 年 2 月に締結された「国際交流組織間協定」に基づき、2023 年 9 月 14-15 両日、ハノイにて国際シンポジウムを開催した。VASS-INAS 以外の交流機関は今のところない。

【長所・特色】

協定に基づき、国際シンポジウムが開催され、合わせて、研究交流の一環として、研究論文を双方の紀要に交換掲載するなど申し合わせられている。

【問題点】

現在、ベトナム社会科学院・東北アジア研究所（VASS-INAS）に次いで、新たに協定を締結する相手は浮上していない。

【根拠資料】

国際交流組織間協定に基づき実施されたシンポジウム記録は、例えば、『専修大学社会科学研究所月報』

No. 727+728 合併号、『ニュース専修』630 号（2023 年 10 月号）に掲載。

<研究成果の社会的還元について>（評点：A）

（1）達成目標

- ①月報・年報の電子情報（PDF）化と社研叢書の刊行
- ②川崎市民など一般を対象としたシンポジウム、定例研究会の開催

（2）最終報告

評価の視点①

月報・年報の刊行後すみやかに社会科学研究所 HP 上に各巻論文等が一本単位 PDF で公開されているかチェックする。叢書刊行については、年度内刊行のための出版契約書の作成、編集作業が日程どおりに進捗しているかどうかチェックする。

【現状説明】

2024 年度 10 月末時点で、『月報』8+9 月合併号（734+735 号）まで社研 HP に PDF に変換されてアップされている。

『年報』については、第 58 号（2023 年度末刊行）まで刊行され、社研 HP に PDF でアップされている。

『叢書』については、第 26 巻が 2024 年 3 月に専修大学出版局から刊行されており、第 27 巻については、2024 年 5 月末日に専大出版局との間で出版契約が締結され、年度内刊行に向けて現在、鋭意執筆中である。

【長所・特色】

PDF 論文が一本ずつ HP にアップされているので、キーワード検索によりヒットすることとなる。

【問題点】

著作権処理の済んでいない論文（執筆者の生死不明などで確認のとれていないものなど）については、PDF 原稿のアップが進んでいないものもある。

【根拠資料】

『月報』については、社研 HP に掲載。

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/syakai/kankoubutu/>

同じく『年報』は、

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/syakai/kankoubutu/nenpou.html>

同じく『叢書』は、

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/syakai/kankoubutu/sousho.html>

評価の視点②

特に川崎市民を対象として、サテライトキャンパス等にて定例研究会が開催されたかどうかチェックする。このような公開研究会について社会科学研究所 HP および大学 HP にて適切に広報されたかどうかチェックする。

【現状説明】

定例研究会（シンポジウム）については、その開催予告を研究所 HP や学内掲示している。今年度、サテライトキャンパスでの開催はない。

【長所・特色】

社研 HP を見た人（社研所員はもとより、学外の一般の方々も）は、定例研究会・シンポジウムの開催を知って、参加する機会を得ることができる。

【問題点】

当初より一般公開を前提としている研究会は、大学広報窓口を通じて開催について記者発表などもなされるが、社研内部（グループ研究）の研究会企画の場合は社研 HP に案内が掲載されるにととどまることとなり、一般市民の認知度は低くなる。

【根拠資料】

川崎市を対象とした研究については、例えば、『専修大学社会科学研究所月報』No.704（2022 年 2 月）にて中間報告された後、叢書 26 『川崎の研究——産業・労働・くらしの諸相』として刊行（2024 年 3 月 30 日）された。

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔18-2〕 会計学研究所

<研究活動の活性化について>

(1) 達成目標

共同研究の成果報告の促進する。

(2) 最終報告

評価の視点①（評点：A）

共同研究に採択されたグループまたはメンバーの定例研究会を実施する。

【現状説明】

2023 年度採用されたの 6 グループのうち 3 つが後期に定例研究会を実施した。

開催日が後期に偏る傾向があるので、2024 年度は前期と後期のバランスを調整した。

なお、前期には共同研究グループ以外で、外部から講師を招聘して定例研究会を実施している。

結果として、2024 年度は共同研究グループの 3 つが 5 月・11 月・12 月に研究会報告を実施した。前年度から改善ができています。

【長所・特色】

各グループの希望で日程を設定し、研究成果や研究経過を報告できる。

共同研究の成果を定例研究会で報告することによって、所員にとって近隣分野または他分野の研究を研究所の所員全体で共有できることは研究活動の活性化に資する。

【問題点】

希望日程が後期に偏向しがちである。2024 年度は 2 年目のグループは前期に報告するように調整を図った。次年度以降も共同研究グループから前期での定例研究会の実施を促進していく必要がある。

【根拠資料】

<2023 年度>

- ・ 国田清志所員「ラオス簿記プロジェクトの現状と今後」（2023 年 10 月 3 日）
- ・ 池田宏史所員「高等学校における商業教育の現状と課題」（2024 年 2 月 6 日）
- ・ 奥西康宏所員「コロナ禍の会計上の見積りの事例の検討」（2024 年 2 月 20 日）

専修大学会計学研究所 HP

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/kaikeigaku/kenkyukai/kenkyukair5.html>

<2024 年度>

- ・ 植田敦紀所員「環境会計・環境財務会計・サステナビリティ会計の概念的枠組」（2024 年 5 月 7 日）
- ・ 太田裕貴所員「従業員に注目した会計・コーポレートファイナンスの経験的研究のレビュー」（2024 年 11 月 19 日）
- ・ 建部宏明所員「明治期、イギリス企業からの軍艦購入は 日本海軍に何をもたらしたのか ―原価計算の観点からの考察―」（2024 年 12 月 17 日予定）

評価の視点②（評点：A）

共同研究に採択されたグループまたはメンバーの所報または年報での論文投稿を行う。

【現状説明】

2023 年度は共同研究グループから年報に 2 件と所報 1 件の論文投稿があった。2024 年度は 11 月に共同研究グループから 1 件が所報を投稿された。現在、校正中である。なお、2025 年 3 月発行予定の年報に共同研究 4 グループから 4 名が投稿予定である。

【長所・特色】

所報は適時に発行、年報は 3 月に発行する形で運営し、所員の投稿機会に対応している。
また、所報はページ数（資料の添付を含む）に弾力的に対応し、論文投稿の多様性を確保している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

<2023 年度>

年報第 50 号（令和 6 年 3 月発行）

- ・谷守正行所員「サブスクリプションの実務適用の効果と課題—銀行ビジネスの比較とアクション・リサーチ—」
- ・梶田龍三所員「会計制度形成の論理—最終講義—」

所報「会計学研究所報」第 43 号（令和 5 年 12 月発行）

- ・西居豪所員他「経営理念と戦略的行動の整合性」

専修大学会計学研究所 HP

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/kaikeigaku/kankoukatudou.html>

<2024 年度>

所報・年報が刊行でき次第、専修大学会計学研究所 HP で掲示するとともに、専修大学学術機関リポジトリとのリンクの手続きを進めていきます。

<研究成果の社会との共有について>

(1) 達成目標

これまでの研究成果とこれからの研究成果を外部に発信する。

(2) 最終報告

評価の視点①（評点：B）

これまでの研究成果をテーマやトピックでまとめて HP で外部に発信する。

【現状説明】

年報と所報は会計学研究所 HP から専修大学学術機関リポジトリにアクセスできるようにしている。ま

た、公開講演会や定例研究会は、実施後に報告内容を HP に掲載している。

【長所・特色】

専修大学会計学研究所 HP を通じて、公開講演会、共同研究グループおよび年報・所報に関する情報を公開している。特に、2024 年度の公開講演会は外部に向けて参加できる旨を発信している。

【問題点】

専修大学会計学研究所 HP は様式などの制限も見受けられるので、大学 HP 全体のリニューアルのタイミングに併せて、新しいコンテンツを公開できるように準備を進める必要がある。現時点で、研究成果のテーマ・トピック別の外部発信はできていないが、そのための準備は進めている。

【根拠資料】

<公開講演会のお知らせ>

専修大学会計学研究所 HP

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/kaikeigaku/kenkyukai/event202412.html>

<研究会・公開講演会の実施報告>と<共同研究グループ>

2023 年度

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/kaikeigaku/kenkyukai/kenkyukair5.html>

2024 年度

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/kaikeigaku/kenkyukai/kenkyukair6.html>

<刊行活動>

専修大学会計学研究所

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/kaikeigaku/kankoukatudou.html>

評価の視点②（評点：S）

これからの研究成果を公開講演会（対面・オンライン・ハイブリッド形式）として一般にも公開する。

【現状説明】

2023 年度に実施した 2 回の公開講演会は、1 回目は対面とオンラインのハイブリッド、2 回目は対面のみである。

2024 年度に実施予定の 2 回の公開講演会は、どちらも対面開催であるが、大学外部からも参加可能な形で実施する。

【長所・特色】

講演テーマや内容を考慮し、対面とオンラインのハイブリッドまたは対面での実施方式での開催を検討している。特に、生田と神田キャンパスとの連携を重視している。2024 年度開催予定の公開講演会は神田キャンパスで対面で実施するが、要望があれば生田キャンパスの教員・学生に対して個別にオンラインで対応する準備をしている。

【問題点】

2023 年度は公式な一般公開はインフルエンザの流行や他の事情で見合せたが、HP の開催のお知らせな

どをみて問い合わせがあった外部者には個別対応し、対面で参加してもらった。

2024 年度は専修大学会計学研究所 HP など公式な形で大学外部からの参加も可能なことを発信している。

なお、外部者へのオンライン配信は、配信内容および参加者の個人情報について情報管理を慎重かつ適切に行う必要がある。

【根拠資料】

＜公開講演会のお知らせ＞

専修大学会計学研究所 HP

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/kaikeigaku/kenkyukai/event202412.html>

＜2023 年度＞

- ・八木裕之氏（横浜国立大学名誉教授・放送大学客員教授）「サステナビリティ社会と会計」（2023 年 11 月 30 日）※対面とオンラインのハイブリッド方式
- ・柳裕治所員・榎本恵一氏（税理士・専修大学会計人会会長）・遠藤健二氏（会計士・専修大学会計人会副会長）・ハツ尾順一氏（大阪学院大学）「税を学ぶ」（2023 年 12 月 5 日）※対面方式

＜2024 年度＞

- ・伊藤和憲所員・奥倫陽氏（東京国際大学）・梅田宙氏（高崎経済大学）管理会計シンポジウム「BSC とは何か」（2024 年 12 月 13 日）※対面方式
- ・川島健司（法政大学）（2025 年 1 月 14 日開催予定）※対面方式

＜学外研究機関・団体・企業との連携について＞

(1) 達成目標

学外の組織や企業との連携を行って、研究の社会的な貢献を図る。

(2) 最終報告

評価の視点①（評点：S）

提携等によって研究プロジェクトを実施する。

【現状説明】

2023 年度はラオス商工会議所やラオス国立大学他との協力協定による「簿記プロジェクト」の活動として、10 月にラオスで所員が簿記セミナーを実施した。本研究プロジェクトは大学と連携し、社会知性研究開発センターで研究拠点として設置されている。

【長所・特色】

協力協定に基づく活動を年報や所報で報告するとともに、学会や研究会でも広く発信している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・国田清志所員「ラオス簿記プロジェクトの現状と今後」（2023 年 10 月 3 日）

専修大学会計学研究所 HP

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/kaikeigaku/kenkyukai/kenkyukair5.html>

- ・複式簿記普及事業推進研究拠点 ラオス簿記セミナー開催

<https://www.senshu-u.ac.jp/news/nid00021976.html>

評価の視点②（評点：B）

共同研究における外部者の参加または研究会助成制度を活用して外部とのエンゲージを強化する。

【現状説明】

2023 年度と 2024 年度ともに、共同研究に外部者の参加はない。また、2023 年度と 2024 年度ともに、研究会助成の申請はない。

【長所・特色】

条件はあるが外部者が共同研究へ参加できることは研究に拡がりと深化をもたらす。研究会助成から共同研究へのステップアップが期待される。

【問題点】

所員に研究会助成制度の認知させ、活用を進める必要である。ただし、共同研究グループでの活動の派生として、外部の研究者との共同論文の刊行や外部の研究者を講師として研究会を開催した。このような活動を会計学研究所の所員を中心としながらエンゲージを今後も強化していく施策が求められる。

【根拠資料】

- ・所報「会計学研究所報」西居豪所員・近藤隆史（京都産業大学）「経営理念と戦略的行動の整合性」（2023 年 12 月刊行）

専修大学会計学研究所 HP

<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/kaikeigaku/kankoukatudou.html>

- ・定例研究会

角ヶ谷典幸氏（一橋大学大学院経営管理研究科）「職業的懐疑心を高めるために監査人とクライアントの関係性をいかに管理すべきか」（2024 年 7 月 23 日）

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔18-3〕 今村法律研究室

<今村法律研究室の設置状況の維持について>

(1) 達成目標

無料法律相談などの実施を通して、社会連携・社会貢献をはかる。

(2) 最終報告

評価の視点①（**評点：A**）

法科大学院と連携して、無料法律相談を実施する。

【現状説明】

専修大学法曹会が法科大学院に付属する今村記念法律事務所において実施している、校友、専修大学関係者及び千代田区・文京区民の方々を主な対象とする「無料法律相談」を後援している。同法律相談は、年度前半においては法科大学院の授業の一環としても行われている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

「無料法律相談」案内チラシ

評価の視点②（**評点：A**）

無料法律相談の機会があることを、HP などを活用して社会に発信する。

【現状説明】

研究室のウェブサイトの情報を 2023 年度の予定に合わせて更新した。
検索エンジンで「今村法律研究室 無料法律相談」と検索すると最上位に表示されるようになった。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

今村法律研究室 Web サイト

<研究成果を踏まえた、社会連携・社会貢献について>

(1) 達成目標

教育・調査・研究を活発化し、その成果を積極的に発表する。

(2) 最終報告

評価の視点①（評点：A）

学外の研究機関との連携をはかり、資史料の発見・保存・学術的調査を行う。

【現状説明】

茨城県立歴史館所蔵史料を元本として今村力三郎訴訟記録 53 巻『神兵隊事件 別巻 11』の 2023 年度中の刊行準備を進めている。茨城県立歴史館とは刊行準備の為に撮影段階から御協力をいただき、現在でも意見交換を行っている。

また、資史料調査・研究の一端を今村法律研究室報を通じて報告・発表している。2023 年度は 79 号・80 号の刊行を予定している。

【長所・特色】

学内にある今村力三郎関係の資史料と、茨城県立歴史館が所持する史料は、互いに補完しうるものである。同館の史料を刊行することによって、社会に知識を還元でき、大学の標榜する理念に叶っていると考えられる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

今村力三郎訴訟記録 54 巻『神兵隊事件 別巻 11』

今村力三郎訴訟記録 55 巻『神兵隊事件 別巻 12』

今村法律研究室報 79 号

今村法律研究室報 80 号

評価の視点②（評点：A）

様々な研究機関に刊行物の送付を行い、今村力三郎先生の行った仕事に興味・関心を持たれる研究者や一般の方々からの質問などに対する答えを発信する。

【現状説明】

訴訟記録及び今村法律研究室報に興味・関心を持たれた研究者や一般の方々からの問い合わせに、都度回答している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③（評点：B）

刊行資料を基に、共同研究やシンポジウムの開催を行う。

【現状説明】

共同研究やシンポジウムの開催を検討しているが、実現には至っていない。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

COVID-19 による影響により、資史料の確認、検討に時間がかかっており、実現には至っていない。

【根拠資料】

該当なし

<教育・調査・研究の成果を社会に還元することについて>

(1) 達成目標

今村力三郎先生に関する周年行事、および大学の周年行事に向けての、資史料の再確認を行う。

(2) 最終報告

評価の視点①（評点：A）

今村力三郎先生没後 70 年（04 年）、生誕 60 年（06 年）などの周年行事を円滑に進められるよう、資史料の再確認を行う。

【現状説明】

図書館及び大学史資料室と協力し、図書館が保管している今村力三郎文庫の資料整理及び目録改訂に向けての活動を大学史資料室と共同で開始している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

整理のために大学史資料室を利用しているが手狭のため、大学側に整理場所の確保を要請し、確保の目途はついた。しかし、予定の場所の整理が終わっておらず、利用を開始できていないため、作業の進捗が捗々しくない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②（評点：A）

専修大学創立 150 年（2030 年）に向けて、大学史資料室などと連携して、様々な角度から

の資史料の確保・研究・調査に努める。

【現状説明】

大学史資料室と共に、戦後の新制大学の設立・発展に多大な功績を持つ今村力三郎先生の法律関係文書及び書簡類を中心に資史料の収集を計っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

人的な制約もあり、COVID-19 による影響で密を避けなければならず、調査が進んでいない。

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔18-4〕 経営研究所

<研究活動の活性化について>（評点：A）

（1）達成目標

研究所としての調査研究を継続するとともに、所員の研究活動への支援を積極的に行い、研究を促進する。

（2）最終報告

評価の視点①

大型研究助成、個人研究助成、準所員研究助成の各制度の活用を積極的に推進する。

【現状説明】

研究助成では、令和 5 年度に大型助成研究 1 本、個人助成研究 3 本、準所員研究 1 本の研究助成を実施した。令和 6 年には、個人研究助成 2 本、準所員助成 1 本の研究助成を行った。また、令和 6 年 12 月に、上海 東華大学、上海對外経済貿易大学訪問および現地中国企業への訪問を中心とした実態調査を実施した。

【長所・特色】

令和 6 年の第 1 回定例研究会は、情報科学研究所と共催で実施し、研究会の内容充実を図った。令和 6 年には、学外の実務家をゲストスピーカーとして招き、生成 AI についてのセミナーを実施出来た。上海東華大学および上海對外経済貿易大学における情報交換および訪問先企業である藍怡科技集団株式有限会社でのインタビュー調査は、所員の大学院及び学部における教育および研究の質の向上にとって極めて有益であった。

【問題点】

大型研究の安定かつ継続的な実施のために、研究募集活動にさらに力を入れる必要がある。

【根拠資料】

「専修マネジメントジャーナル」 Vol.13 No1 (2023)、Vol.13 No.2(2023)、Vol.14 No1 (2024)、Vol.14 No.2(2024)

<研究成果の発信について>（評点：A）

（1）達成目標

所員の研究活動を深化させるため、定期的に研究会・講演会を開催するとともに、専修マネジメントジャーナル（SMJ）による学内外への研究成果の発信を働きかける。

（2）最終報告

評価の視点①

所員・準所員・ゲストスピーカーによる研究会・講演会を年間 10 回以上開催する。

SMJ 査読制度の充実を図り、掲載論文の質をさらに高める。

【現状説明】

①令和 5 年度においては定例研究会を計 10 回実施した。また令和 6 年度においては研究会を計 11 回開催した。

【長所・特色】

①令和 5 年度、令和 6 年とも、目標である計 10 回以上の定例研究会を開催することが出来た。令和 5 年においては、情報科学研究所との共催による定例研究会を開催出来た。また令和 6 年においては、学外の実務家をゲストスピーカーに招き、生成 AI についてのセミナーを定例研究会の中で開催することが出来た。

【問題点】

①定例研究会の他にも公開講座・公開シンポジウム等を通して、研究成果の社会への発信をより積極的に行う必要がある。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

SMJ（専修マネジメントジャーナル）査読制度の充実を図り、掲載論文の質をさらに高める。

【現状説明】

②SMJ（専修マネジメントジャーナル）を令和 5 年度（Vol.13 No1 および No.2）と令和 6 年度（Vol.14 No1 および No.2）にそれぞれ 2 回ずつ刊行した。

【長所・特色】

②より精緻な査読、評価を実施し、内容の充実、論文の質の向上を図った。

【問題点】

②内容のいっそうの充実に向けて、投稿本数のさらなる増加を図る必要がある。

【根拠資料】

「専修マネジメントジャーナル」 Vol.13 No1（2023）、Vol.13 No.2(2023)、Vol.14 No1（2024）、Vol.14 No.2(2024)

<広報・情報発信の改善について>（評点：A）

(1) 達成目標

研究所の活動を紹介し、学内外に情報を提供する。

(2) 最終報告

評価の視点①

ホームページを更新し、研究所の諸活動に関する情報を積極的に発信する。

【現状説明】

研究活動の発信、認知向上に向けて、令和5年度、6年度においては、ホームページを中心に「専修マネジメントジャーナル」の刊行および研究会の開催を定期的に告知した。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

ホームページを活用した情報発信については、更新頻度のさらなる向上が求められる。またホームページのレイアウトやコンテンツ内容については、研究所内外における認知拡大に向けた改善が必要である。

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔18-5〕 商学研究所

<研究活動の活性化について>（評点：A）

（1）達成目標

所員同士や外部講師（研究者や実務家）との研究交流を促進することで、研究レベルの向上をはかる。

（2）最終報告

評価の視点①

所員の研究成果報告のための定例研究会を年間 3 回以上開催する。

【現状説明】

2023 年度は、所員による定例研究会を 7 回実施した。2024 年度は、所員による定例研究会を、これまで 6 回実施した。今年度中にさらに 2 回実施する予定である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

「令和 5 年度 事業報告書」および「令和 6 年度 運営委員会議事録」

評価の視点②

外部講師（研究者や実務家）を招いた定例研究会を年 2 回以上開催する。

【現状説明】

2023 年度は、外部講師を招いた定例研究会を公開シンポジウム形式で 1 回開催している。2024 年度は、外部講師による、日本商品学会共催の研究会を 1 回開催した。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

「令和 5 年度 事業報告書」および「令和 6 年度 運営委員会議事録」

＜研究成果の対外発信（社会還元）について＞（評点：A）

(1) 達成目標

研究誌および書籍の発行、公開シンポジウムなどを通じて、研究成果の外部発信（社会還元）を推進する。

(2) 最終報告

評価の視点①

所員の研究成果として、所報を年4冊以上、専修ビジネスレビュー（SBR）を年1冊発行する。

【現状説明】

2023年度は、所報を5編発行した。SBRも1巻発行した。2024年度は、これまで、所報2編が発行済みである。年度内に11編発行予定である。SBRも年度内に1冊発行予定である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

「令和5年度 事業報告書」および「令和6年度 運営委員会議事録」

評価の視点②

研究プロジェクトの成果報告として、叢書を年1冊発行する。

【現状説明】

2023年度は、3月に叢書を発刊した。2024年度は、年度末の叢書発刊に向けて、執筆中である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

「令和5年度 事業報告書」および「令和6年度 運営委員会議事録」

評価の視点③

研究成果の対外発信の場として、商学研究所主催の公開シンポジウムを年1回以上開催する。

【現状説明】

2023 年度は、研究成果の对外発信の場としての、商学研究所主催の公開シンポジウムを 1 回実施した。2024 年度も、年度末までに、研究成果の对外発信の場としての、商学研究所主催の公開シンポジウムを 1 回実施する予定である。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

「令和 5 年度 事業報告書」および「令和 6 年度 運営委員会議事録」

評価の視点④

所報と SBR の研究成果を本学リポジトリに登録する。

【現状説明】

所報と SBR の研究成果を本学のリポジトリに登録している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

「令和 5 年度 事業報告書」および「令和 6 年度 運営委員会議事録」

<学外研究機関との連携・交流について>（評点：A）

(1) 達成目標

国内外の研究機関や企業などとの連携をととして、研究交流を深めていく。

(2) 最終報告

評価の視点①

学内外のメンバーが関与する研究プロジェクトを年 3 件は維持していく。

【現状説明】

学内外のメンバーが関与する研究プロジェクトを年 3 件を維持している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

「令和 5 年度 事業報告書」および「令和 6 年度 運営委員会議事録」

評価の視点②

国内外の研究機関や企業などとの連携による調査・研究交流の機会を年に 1 回以上は設ける。

【現状説明】

2023 年度は、SDGs パートナー制度に登録した岡山県真庭市に、所員が訪問し、市役所の担当者へのヒアリングや現地の視察調査などを複数回実施した。2024 年度も、引き続き、岡山県真庭市の担当者へヒアリング等を行った。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

「令和 5 年度 事業報告書」および「令和 6 年度 運営委員会議事録」

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔18-6〕 人文科学研究所

<研究活動の活性化について>（評点：A）

（1）達成目標

調査研究活動を活発化するとともに、その成果を発表する

（2）最終報告

評価の視点①

所員の個人研究並びに共同研究の成果の報告状況。

【現状説明】

定例研究会や公開講演会の開催や、『専修大学人文科学研究所月報』、『人文科学年報』において、所員の個人研究・共同研究の成果を報告する機会を提供している。また、研究所が支援する特別共同研究、共同研究の成果については、前期・後期の所員総会において代表者が研究成果について適切に報告している。

特に定例研究会（対面とオンラインの併用）では、新入所員による報告の機会の設定や、質疑応答の機会を増やすことにより、所員同士の研究交流が活発に行われている。

なお、総合研究として、国内外への調査旅行を実施し、『専修大学人文科学研究所月報』でその成果を報告している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

紀要等での研究成果の発表状況。

【現状説明】

『専修大学人文科学研究所月報』を原則として 5～6 冊、および、『人文科学年報』1 冊を定期的に刊行し、所員による個人論文や共同研究の成果を公表している。『人文科学年報』には、研究所による活動全般を記録した「所報」を収録している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

近年の物価高騰により、人文科学研究所の全般的な財政が厳しい状況にあり、印刷費をはじめとする

刊行にかかる費用の節減を考慮せざるを得ない状況にある。必要経費の不足は研究の公開等に大きな影響を及ぼしかねない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

研究会や講演会への参加状況。

【現状説明】

オンラインと対面の併用で行っている定例研究会は、テーマによって異なるが、少なくとも10～20名前後の参加者がある。公開講演会は、時機にかなったテーマを設定することにより、多数の学外者が参加している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

外部講師を招いた研究会および国内・海外研究機関との学術交流。

【現状説明】

学外の研究機関に在籍する研究者や客員所員を招いた定例研究会を開催している。また、総合研究で実地調査をした地域の研究機関（博物館や資料館等）との学術交流を続けている。いずれも、専修大学所属の所員と外部の研究機関や研究者との学術交流の活性化に寄与している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<研究機関としての取り組みについて>（評点：A）

(1) 達成目標

大学研究機関としての存在意義を高める

(2) 最終報告

評価の視点①

大学・大学院との連携。

【現状説明】

博士後期課程の単位修得後に学籍を離れた者のうち、希望者を特別研究員とし、図書館の利用を容易にするなどの連携を図っている。また、必要に応じて研究会への参加を呼びかける等の対応を行なっている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

他大学や社会への発信。

【現状説明】

研究活動の成果を広く社会に発信するために、『専修大学人文科学研究所月報』、『人文科学年報』を刊行し、他大学等に配布するとともに、掲載論文等を「専修大学学術機関リポジトリ」を通じて公開している。また、公開講演会の開催、ホームページによる活動状況の公表、学外者からの問い合わせへの対応などを行っている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

<これまでの知的財産の継承と刷新について>（評点：A）

(1) 達成目標

数年先を見据えた中期ビジョンの設定とその実現に向けた態勢の整備

(2) 最終報告

評価の視点①

創立 60 周年記念の企画立案の状況。

【現状説明】

2027 年度に迎える人文科学研究所創立 60 周年に向けて、準備をしている。創立 30 周年、40 周年、50 周年の事業を参照し、企画立案等の経緯を振り返るとともに、60 周年事業としてどのようなテーマを設定するか、及び、どのような成果を残す必要があるかを検討し、徐々に構想がまとまりつつある。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

これまでの人文科学研究所の研究活動履歴の整理と電子データ化の状況。

【現状説明】

定例研究会、公開講演会、特別共同研究、共同研究、総合研究などの開催記録、及び、『専修大学人文科学研究所月報』や『人文科学研究所年報』の掲載論文の情報等について、人文科学研究所のホームページでの発信を続けている。また、これまでの活動全般を概観できるように、遡及入力を進めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔18-7〕 法学研究所

<研究活動の活性化について>（評点：A）

(1) 達成目標

研究所としての研究活動をより一層活性化するとともに、所員の研究活動への支援を行い研究を促進する。

(2) 最終報告

評価の視点①

研究所主催の各種のワークショップ、シンポジウム、合宿研究会等の開催状況及び所員・客員所員による発表・報告の状況。

【現状説明】

COVID-19 が一段落したこともあり、非常に多くの研究会等を開催することができた。法学ワークショップについては、2023（令和 5）年度は、フリーランス保護法に関するものを 4 月に、新株発行の法的課題に関するものを 12 月に開催した。また、2024（令和 6）年度には、東洋法制史に関するものを 6 月に、ドイツ・EU 環境法に関するものを 10 月に、明治期刑法理論に関するものを 10 月に、法律と科学法則に関するものを 11 月に、計 4 回開催した。

その他にも、所員からの提案による研究会やシンポジウムを、2023（令和 5）年度については 4 回、2024（令和 6）年度も 4 回、主催、共催または協賛した。

さらに、2023（令和 5）年度には幕張の研修施設で合宿研究会を実施し、2024（令和 6）年度も立川の宿泊施設で実施予定である。

この他、定年退職する教員を囲む会を 2023 年度は 1 回開催し、2024（令和 6）年度も 1 回開催予定である。

【長所・特色】

所員の多様な専門性を背景として、特定の分野に偏ることなく、時宜に適ったテーマでシンポジウムや研究会等を企画・開催し、多角的・学際的な研究・議論を行うことができている。

また、所員の提案に基づく企画を主催・共催・協賛する機会が増加傾向にある。

さらには、企画の性質に応じて、対面形式、オンライン形式、またはハイブリッド形式での開催を行い、参加者の便宜に資することができている。

【問題点】

研究会等の対面形式およびオンライン形式で実施することについては技術的な問題はほとんどないが、ハイブリッド形式で実施する場合には、的確な機材設置や円滑な運営のためのノウハウの更なる蓄積が必要である。

【根拠資料】

- ・令和 5 年度事業報告書
- ・専修大学法学研究所所報第 68 号
- ・専修大学法学研究所ウェブサイト (<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/glaw/>)

- ・「2024 年度法学研究所事業一覧」（2024 年度第 1 回運営委員会資料（2024 年 4 月 23 日））

評価の視点②

研究環境の整備及び機器等の貸し出し等による研究活動の支援。

【現状説明】

所員の研究や会議等のために様々な資料や機器、オンライン会議システム等の環境を整備しており、適宜所員の利用に供している。また、事務室も所員の研究会や打ち合わせの場として活用している。

また、所員の利便性の向上を図るため、2023（令和 5）年度から機器の貸し出しおよび事務室の貸し出しについて、Google フォームによるオンライン申請ができるように設定した。

【長所・特色】

所員の多様なニーズに応え、研究や会議等に必要な様々な資料や機器、オンライン会議システム、事務室等を利用できる環境を整えることで研究活動を支援している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・「事務室及び備品等の利用（貸出）について」（2023 年 6 月 30 日）
- ・令和 5 年度収支決算書（支出の部）の科目「研究所運営費」

<研究成果の発信について>（評点：A）

(1) 達成目標

研究成果を様々なかたちで発信するとともに、学生・市民の関心に沿った魅力的な企画や実務家が参加できる企画を開催する。

(2) 最終報告

評価の視点①

紀要（年回）、所報（年回）の刊行及びそれぞれの雑誌の特色が明確に表れるような内容の充実。

【現状説明】

2023（令和 5）年度は、所報第 66 号、67 号および紀要第 49 号『政治学の諸問題 XI』を予定どおり刊行した。

2024（令和 6）年度は、既に所報第 68 号を刊行しており、紀要第 50 号『公法の諸問題 XI』と所報第 69 号についても、執筆者はすべて内定しており、年度内の刊行の目処が立っている。

【長所・特色】

それぞれの刊行物の特色は明確であり、内容も充実している。年ごとに分野が決まっている紀要については、専門的な学術論文を掲載し、当該分野の学界・社会に発信できている。また、所報については、公開講座等の報告内容を掲載するなどして、法学研究所の活動や所員の研究について広く知ってもらうことに役立っている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 令和 5 年度事業報告書
- ・ 専修大学法学研究所所報第 66 号～第 68 号
- ・ 専修大学法学研究所紀要第 49 号『政治学の諸問題XI』

評価の視点②

ホームページの更新状況。

【現状説明】

事務局や運営委員会の体制の変更等について、ホームページの内容を随時更新している。また、法学研究所の活動、刊行物の紹介、開催予定の公開講座の告知などを随時行っており、広報ツールとして活用している。

特に、学生や市民が参加可能な企画については、法研および大学ホームページのイベント欄に案内を掲示し、周知を図ることとしている。

【長所・特色】

ホームページでオンライン開催の企画を告知する際には、広報ポスターに参加用の QR コードを掲載することにより、参加申込みツールとしても機能している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 専修大学法学研究所ウェブサイト (<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/glaw/>)

評価の視点③

学生・市民向けの企画の開催状況。

【現状説明】

学生・市民向けの公開講座として、2023（令和 5）年度は、12 月と 1 月に計 2 回、学外から講師を招いて公開講座「法と政治の現況 2023」を開催した。

2024（令和 6）年度は公開講座「人口減少社会における法と政治」を、10 月と 11 月に既に開催し、また 12 月にも開催予定である。

【長所・特色】

2023（令和 5 年）年度は自治体行政の最前線を把握することを目的に、自治体行政における生成 AI の活用および職員採用試験・昇進試験のあり方というテーマを設定した。また、2024（令和 6）年度は「人口減少社会における法と政治」を共通テーマとして、文化財の担い手確保、所有者不明土地問題および子どもの遊び場づくりという実践的な課題を扱うことで、学生・市民の社会問題に関する関心・理解を深めることができた。

【問題点】

大学 HP やキャンパス内の掲示板へのポスター掲示、関連する授業での企画案内等を通じて広報をしているところであるが、市民への効果的な周知方法についてはさらに検討する必要がある。

【根拠資料】

- ・令和 5 年度事業報告書
- ・専修大学法学研究所所報第 68 号
- ・専修大学法学研究所ウェブサイト (<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/glaw/>)
- ・「2024 年度法学研究所事業一覧」(2024 年度第 1 回運営委員会資料 (2024 年 4 月 23 日))

評価の視点④

実務家参加型の企画の開催状況。

【現状説明】

上記の学生・市民向けの公開講座の講師として、自治体職員、弁護士、公益法人代表役員を招聘して企画を開催している (2023 年度は 2 回、2024 年度は 3 回開催)。

【長所・特色】

現場の問題に精通した自治体職員、弁護士および公益法人代表役員を講師に招き、実務的な視点を提供していただくことにより、学生や市民の多様な関心に応える企画となっている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・令和 5 年度事業報告書
- ・専修大学法学研究所所報第 68 号
- ・専修大学法学研究所ウェブサイト (<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/glaw/>)
- ・「2024 年度法学研究所事業一覧」(2024 年度第 1 回運営委員会資料 (2024 年 4 月 23 日))

<学内外の研究者・研究機関との交流・連携の強化について> (評点:A)

(1) 達成目標

研究の高度化、学際化が進む中で、それに対応するため、積極的に学外や他分野との対話、交流を進める。

(2) 最終報告

評価の視点①

今村法律研究室との間でのそれぞれの特色を活かした協力・連携。

【現状説明】

今村法律研究室との間でのそれぞれの特色を活かした協力・連携を行っている。今村法律研究室と緊密に連絡を取り、定年退職教員を囲む会の分担や開催方法の検討を行ったり、所員・室員の論文その他の

著作物の掲載に関してその内容や性質に応じてそれぞれの刊行物に割り当て等を行ったりしている。

【長所・特色】

それぞれの所員・室員の多くが重複するものの、それぞれの設立趣旨や特色の違いから、異なる視点から所員・室員を支援し、その成果として情報発信を行うことができている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 令和 5 年度事業報告書
- ・ 専修大学法学研究所所報第 66 号～第 68 号

評価の視点②

学内外の研究者・研究機関との交流及び法学・政治学の発展に寄与しうる企画の共催・後援。

【現状説明】

学内外の研究者・研究機関との交流は活性化している。

2023（令和 5）年度には、法学研究所との現代文化研究会との共催企画として「関東大震災を振り返る」を 12 月に開催した。

また、2024（令和 6）年度には、第 2 回法学ワークショップではドイツのヘルムホルツ研究所からケック教授を招聘したり、同志社大学デジタル法制研究センターが主催した国際シンポジウムを協賛し、法学研究所所員が登壇したりした。

【長所・特色】

学内外の研究者・研究機関との交流や企画等を行い、法学・政治学という専門性を生かした視座を提供している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 令和 5 年度事業報告書
- ・ 専修大学法学研究所所報第 68 号
- ・ 専修大学法学研究所ウェブサイト (<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/glaw/>)
- ・ 「2024 年度法学研究所事業一覧」（2024 年度第 1 回運営委員会資料（2024 年 4 月 23 日））

評価の視点③

学問的または社会的に時宜に即した内容の企画・対話・交流の実施。

【現状説明】

上記のとおり、現代文化研究会との共催企画は、関東大震災から 100 年の節目を迎えた今年、実施する

にふさわしい内容であった。

また、上記の法学ワークショップや国際シンポジウムには他大学の研究者も多数参加しており、学問的・社会的に意義のある交流と対話が行われた。

【長所・特色】

学問的または社会的なニーズを踏まえた企画・対話・交流をオープンな行事として開催することにより、法学研究所から「知の発信」を行い、大学による社会・地域貢献を促進することができている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 令和 5 年度事業報告書
- ・ 専修大学法学研究所所報第 68 号
- ・ 専修大学法学研究所ウェブサイト (<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/glaw/>)
- ・ 「2024 年度法学研究所事業一覧」(2024 年度第 1 回運営委員会資料 (2024 年 4 月 23 日))

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔18-8〕スポーツ研究所

<研究活動の活性化について>（評点：A）

（1）達成目標

スポーツ・健康に関する調査研究活動を活発化するとともに、その成果を発表する。

（2）最終報告

評価の視点① 個人研究、共同研究、および外部資金等を活用した研究の推進状況。

【現状説明】

外部研究資金の獲得状況において、2023 年度・2024 年度の科学研究補助金は代表者及び分担者含めて 5 名となった。研究課題は「性ホルモンを介した骨格筋量の新たな調節機序」「イップスおよびジストニアにおける発症のメカニズムと対処法に関する研究」「専門的トレーニングの継続が発育発達期の運動能力・コンディションに与える影響」である。また、BWF(Badminton World Federation) Sport Science Research Grant2023/2024 を獲得した。研究課題は「Physique, physical fitness and motor ability measurements of junior Badminton players – a longitudinal study」である。これらの研究成果は、上述以外にも国内外での学会や、各学会誌への投稿を通して発表するなど、研究活動は盛んに行われており、継続して進める予定である。

また、2021 年度より研究プロジェクトチームを立ち上げ、部門横断的な研究を実施しやすい環境を整えている。2023 年度は 3 件のプロジェクト研究、「昭和史に見る現代スポーツの生成過程と変遷：女性スポーツの萌芽 戦前の女性オリンピックを中心」（佐竹弘靖所員・富川理充所員）、「子どもの身体リテラシー向上プログラムの開発：体力・運動能力、保護者の価値観に着目して」（相澤勝治所員・木村元彦協力研究員）、「エアロビック選手における基本動作の運動力学量の定量化に関する研究」（柏木悠所員・李宇ヨソ所員）が実施されている。

2024 年度は 4 件のプロジェクト研究、「日本女性スポーツの草創期を考えるー女性初のオリンピック人見絹枝選手の足跡からー」（佐竹弘靖所員・時任真一郎所員）、「韓国における高齢者向けのウォーキングサッカーがもたらす影響についての研究」（李宇談所員・平田大輔研究員）、「パラトライアスロン選手におけるトレーニングによる総ヘモグロビン量の変化」（富川理充所員・相澤勝治所員）、「ジュニアアスリートにおけるリテラシー教育プログラム開発に向けた基礎的研究」（相澤勝治所員・佐藤満所員・木村元彦協力研究員）が実施されている。

【長所・特色】

スポーツ科学の様々な分野にまたがり所員は研究発表・論文投稿をしている。様々な分野の所員が研究しやすい環境を整えるために研究プロジェクトチームを立ち上げた。

【問題点】

特になし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

学会等の学術集会や、学会誌、紀要、所報、スポーツ・健康関連の一般雑誌などへの発表状況。

【現状説明】

研究所紀要、スポーツ研究所所報では研修会、研究会、プロジェクト研究報告、各所員報告が掲載される予定である。2023 年度学会発表においては、相澤勝治所員が「運動や加齢が骨格筋中のアンドロゲン濃度に与える影響」について第 23 回日本メンズ医学会にて、富川理充所員が日本機械学会 シンポジウム：スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2023 で「シミュレーションを用いた片上肢でのクロール泳における姿勢安定メカニズムの解明」について、発表をしている。2024 年度の学会発表では平田大輔所員が日本テニス学会において「全豪オープンテニス大会で不テニス部門に帯同して」について発表をしている。

【長所・特色】

研究成果を学会や論文に発表するだけではなく、学生や地域社会に対して直接的なフィードバックをする機会を増やすことができた。さらに、学内諸組織・諸活動との連携を深めるのみにとどまらず、学生・卒業生を当事者として巻き込んだ企画を実施できたことは評価できると考えられる。また、これまでは部門ごとの研究成果の発表が多くなされていたが、近年はスポーツ科学の分野においても部門に捉われず横断的な研究も多くみられることから、本研究所においても部門横断的な研究が多くされるようになっていく。

【問題点】

保健体育系科目を担当する所員間で、常日頃の情報交換や教材研究は進んでいるが、授業研究を行うことも一考の価値があるかもしれない。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

他大学や他機関との合同研究会や外部講師を招いた研究会の開催状況および参加状況。

【現状説明】

2023 年度では、公益財団法人野球殿堂博物館主催の「野球で自由研究：スポーツや勉強もどんどん上達！『こころ』を鍛える」、神奈川県タレント発掘・育成事業「かながわジュニアチャレンジプロジェクト」、狛江市教育委員会主催のスポーツ推進講演会の実施を講演・協力している。今年度は「近代スポーツの先駆者達-日本ラグビー揺籃期を支えた勇者たち」「夢に向かって泳いだ乙女「前畑ガンバレ！」」にスポーツ研究所として後援・協力している。また狛江スポーツフェスタでは、大学生アスリートによる指導と交流を目的に実施している。

川崎市との連携では川崎フロンタウンにおいて「Anker フロンタウン健康長寿フェスタ」を実施し、所員もスタッフとして参加している。

【長所・特色】

野球殿堂博物館主催の野球で自由研究では全国各地の小学生が参加し、メンタルトレーニングの意義やトレーニング方法を学ぶ機会となっている。タレント発掘・育成事業では選手だけでなく、それに関わった測定スタッフらにとっても有意義な事業になっている。狛江市教育委員会主催の後援では、出場したオリンピックの様子だけではなく、その後の活動についてエピソードを交えながら講演を行っている。「こまえスポーツフェスタ 2023」では、大学生アスリートによる指導と交流を通じて、地域の子どもたちにスポーツの魅力や楽しさを伝えている。

【問題点】

研究所を基盤とした地域連携において、所員及び関係者の運用面（出張、補助等）のさらなる充実も必要である。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

研究環境の改善と整備状況。

【現状説明】

研究環境に関しては、補助金とあわせて外部資金の活用により骨密度測定器、体組成計、推定ヘモグロビン濃度測定器や各種体力・運動能力測定器を揃えられているが、各研究が円滑に遂行できるように更なる整備の充実も目指している。2023年度は新たにフォースプレートを揃え、歩行/走行計測・重心計測・バランス計測が可能となった。これにより圧力中心位置の移動量や面積から重心動揺を評価したり、フォースベクトルの大きさや向きから、怪我のリスクやパフォーマンスを評価が可能となった。

【長所・特色】

数は少ないが、各種体力・運動能力が測定できる機器が揃いつつある。

【問題点】

研究活動に関連した研究機器の整備は十分に整っていないため今後の検討課題である。持久力を評価する際に必要なトレッドミル器機が経年劣化しており、とくに長距離ランナーの持久力の評価やトレーニング時に有効利用できない状態であることから、呼吸循環器系の測定環境を整備する事は課題の一つである。

【根拠資料】

該当なし

<スポーツ研究所と大学教育との運動について>（評点：A）

(1) 達成目標

大学教育と研究所の連携体制の充実

(2) 最終報告

評価の視点①

研究所のサブグループである健康科学部門、スポーツ科学部門、スポーツ文化部門と、本学保健体育部会のスポーツリテラシー、スポーツウェルネス、アドバンススポーツ、理論科目構成であるスポーツ論群との整合性を持たせるために、授業研究や教材研究、部門間による情報交換を実施できたか。

【現状説明】

研究所のサブグループである健康科学部門、スポーツ科学部門、スポーツ文化部門の各部門において、本学保健体育部会の理論科目構成である健康科学論、スポーツ科学論、スポーツ文化論の整合性を持たせるために、部門横断的なプロジェクト研究や常日頃より情報交換は頻繁に行っている。

【長所・特色】

教材研究も積極的に進め、教材のスライドは毎年必ず見直しして修正を施した上で用いるようにし、テキスト「大学生のためのスポーツリテラシー&スポーツウェルネス・テキストブック」は全体的な見直しを図っている。

【問題点】

特になし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

所員が開講する専門ゼミナール・教養ゼミナール科目を履修する学生および SWP 科目を履修学生に対し、研究会への参加を支援できたか。

【現状説明】

研究所における研究成果は、これらのゼミナールにおいてフィードバックされている。また所員は経営学部・商学部のスポーツ推薦学生に開講されている SWP プログラムの授業科目も広く担当している。

【長所・特色】

スポーツ科学の様々な分野のゼミナールが開講されており、所員により最新の研究知見がフィードバックされている中で、公開研究会には、教養ゼミナール科目履修者および SWP 科目履修者、体育会学生に対し、積極的に参加を促している。

【問題点】

特になし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

スポーツ科学、保健体育科目に関する研修会や講習会の開催状況および参加状況。

【現状説明】

研究所主催の研修会は、外部の教育・研究機関や企業等に赴き現地の担当者と情報交換会を通して研鑽を深めるように毎年1回実施している。2023年度は「大阪体育大学における運動部活動改革プラン・ミズノにおけるスポーツイノベーションの取り組み」、専門的な授業を進めるために「ゴルフ研修会」及びスキー等に関する外部の研修会に毎年継続的に所員が参加している。2024年度はJリーグチームのV-VAREN長崎のスタジアムであるピーススタジアムにて、Jクラブの地域との関係やスタジアムについて研修をする予定である。

【長所・特色】

様々な外部の教育・研究機関との交流ができている。

【問題点】

特になし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点④

学内の教育・研究関連諸活動や課外活動への貢献。

【現状説明】

多くの所員は教養ゼミナールを開講しており、文学部の 5 つの専門ゼミナールを含め 9 講座を所員で担当している。また、学会との連携では学会の理事、事務局として日々の学会運営に携わる所員も複数いる。さらに体育会活動に関わっている所員も多数いる。

【長所・特色】

様々なスポーツ科学分野の所員が、ゼミナール、学会、体育会活動に関わっている。

【問題点】

特になし

【根拠資料】

該当なし

<研究成果の社会還元について>（評点：S）

(1) 達成目標

公開研究会、公開講座および公開シンポジウム等の開催、および学外関連諸機関との協同による研究成果の社会還元を行う。

(2) 最終報告

評価の視点①

「公開研究会」を複数回開催できたか。

【現状説明】

2023 年度の研究会の開催は 3 回開催された。第 1 回は「我が国の競技力向上政策に関する研究-これまでの経験に基づく問いを軸に-」（若井江利所員）と昨年度のプロジェク研究に採択された、「子どもの身体リテラシー向上プログラムの開発：2022 年度プロジェク研究報告①」（木村元彦協力研究員、相澤勝治所員）であった。第 2 回はプロジェク研究に採択された「昭和史に見る現代スポーツの生成過程と変遷」（佐竹弘靖所員）と「心拍数記録装置を用いたテニスの運動強度について」（平田大輔所員）であった。第 3 回は長期国内研究報告として「特殊環境下における身体反応および適応に関する運動学的研究：低酸素トレーニングおよび新型コロナ禍の影響」（時任真一郎所員）であった。2024 年度の 3 回実施の予

定であり、第1回研究会は2023年度のプロジェクト研究報告「子どものスポーツ活動における保護者の役割と可能性：レスリング競技を事例として」「子どもの運動能力・体力を高めるアプローチ：保護者のフィジカルリテラシーに着目して」（相澤勝治所員、木村元彦協力研究員）、第2回研究会は、「日本女子初のオリンピック金メダリスト：前畑秀子」（佐竹弘靖所員）、第3回研究会は渡辺英次所員による2023年度在外研究報告の予定である。研究会の発表は、スポーツ系に関わっている多くの学生が参加し、パラリンピック競技大会についての知識を深める機会になった。

2024年度は「日本スポーツの前進に大学スポーツは何ができるのか」のタイトルで大学アスリート、元プロサッカー選手、スポーツ分野の指導者、研究者を招き多角的視点から大学スポーツが果たす役割と未来像について考えるシンポジウムを開催した。

【長所・特色】

スポーツ庁をはじめ、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会との専門能力による連携や情報交流など、積極的な活動を行っている。

研究会だけでなく、シンポジウムを開催し、研究成果の社会還元ができている。

【問題点】

特になし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点②

「公開講座」が開講されているか。

【現状説明】

「専修大学スポーツ実践公開講座『中高年の健康を考える』」は2023年度・2024年度で25・26回目を迎え、所員は受講者の体力レベルに合わせたプログラムを提供するため、骨密度測定器、体組成計、推定ヘモグロビン濃度測定器や各種体力・運動能力測定器を揃え、フィードバックする準備を行い、2023度は規模を縮小して公開講座を実施したが2024年度は種目数もコロナ前に戻し、多くの種目を実施し、受講者にスポーツ・健康について考えてもらうきっかけになったと思われる。

スポーツ講座「子どもにおける“からだ”と“うごき”と“こころ”づくり教室」では、レスリングを教材として週3回実施しており、継続して体力・運動能力測定を実施することができた。

【長所・特色】

中高年の健康を考えるでは継続して参加される方が多く、ここでのスポーツを楽しんでいる方が多くみられる。また、子どもにおけるからだとうごきづくり教室では、運動の大切さだけでなく、各種競技会に参加し、競技力向上をはかっている。

【問題点】

コロナの影響により、大学施設を使用しているため、大学の方針に影響を受けやすい。また「中高年の健康を考える」の講座では参加者の高齢化がすすみ参加者や種目に関しての検討が必要である。

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

文部科学省や日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会、国立スポーツ科学センター、中央競技団体、プロスポーツ団体などの学外諸団体における協同プロジェクトに参画、および講師等での専門能力の提供による連携ができたか。

【現状説明】

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会では、公益社団法人日本トライアスロン連合のパラリンピック対策チームのリーダーとして参加した。また、2019 年から継続して公益財団法人日本バレーボール協会・川崎市との連携協定を結び、スポーツ医科学研究の知見をビーチバレーの競技力向上及び、地域活性化に協力している。

2023 年度からは粕江市教育委員会との連携協定を結び、「スポーツ推進講演会」「親子向けスポーツ講座」「高齢者向けウォーキングイベント」を実施した。

また、専修大学北上高等学校普通科アクティブターニングコーススポーツ専攻におけるゲスト講師としてスポーツ研究所との連携を行っている。

【長所・特色】

スポーツ庁をはじめ、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会との専門能力による連携や情報交流だけでなく、自治体や高等学校などとも積極的な活動を行っている。

【問題点】

特になし

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔18-9〕 情報科学研究所

<研究活動の活性化について>（評点：A）

（1）達成目標

研究活動を活発化するとともに、研究成果の積極的な公表を図る。

（2）最終報告

評価の視点① 研究助成の申請状況と、研究所の機関紙や学会などへの研究成果の発表状況。

【現状説明】

2022（令和 4）年度、2023（令和 5）年度の研究所の機関紙（年報、所報、英文誌）などへの成果発表状況は以下の通りである。年報は年 1 回発行（掲載論文数は 2 本、3 本）した。所報は 2022（令和 4）年度は 2 回（掲載論文数は計 7 本）、2023（令和 5）年度は 1 回（掲載論文数は 3 本）発行した。英文誌は 2022（令和 4）年度は投稿が無く発行できなかったが、2023（令和 5）年度は 1 回（掲載論文数は 2 本）発行した。全体の投稿数は、近年と同等頻度となっている。さらに共同研究助成を 2022（令和 4）年に 4 件、2023（令和 5）年に 7 件、2024（令和 6）年に 6 件採択したので、これらの研究成果も近々公表される予定である。英文誌の投稿が少ないことから、2024（令和 6）年度より年報への統合し英文論文を年報に投稿できるようにすることを決定した。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

所報への投稿時期に偏りがある場合があることから、発行回数・時期に関する運用ルールを検討をしている。

【根拠資料】

情報科学研究所令和 4 年度事業報告書

情報科学研究所令和 5 年度事業報告書

情報科学研究所令和 6 年度事業計画書

評価の視点② 所員向けの研究会やセミナーの実施・参加状況。

【現状説明】

研究所の定例研究会（情報教育研究会、大学院生大会と含む）を、2022（令和 4）年度は 6 回（研究発表 25 件）、2023（令和 5）年度は 5 回（研究発表 24 件）開催するなど、研究活動は活発に行われた。その他、外部有識者を招いたランチセミナーも、2022（令和 4）年度は 2 回、2023（令和 5）年度は 1 回開催した。オンラインでの開催を併用することにより、対面では招待の難しい講演者によるセミナーも実現できている。2024（令和 6）年度も、同様の実施計画で進めている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

開催日によっては出席者数が少ないケースもみられるので、所員・準所員への周知に努めたい。

【根拠資料】

情報科学研究所令和4年度事業報告書

情報科学研究所令和5年度事業報告書

情報科学研究所令和6年度事業計画書

評価の視点③

内外へのホームページを活用した情報提供の状況。

【現状説明】

情報科学研究所独自のホームページを持ち、近々開催される研究会やセミナーなどの情報、過去の年報や所報、英文誌のバックナンバーも一覧で表示している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

情報科学研究所ホームページ(<http://senshu-iis.jp/>)

<当該研究所と他機関（大学院、他研究所）との連携について>（評点：A）

(1) 達成目標

当該研究所と大学院（経営学研究科）や他研究所など他機関との連携を促進する。

(2) 最終報告

評価の視点①

大学院学生のための発表会の開催状況。

【現状説明】

2022（令和4）年度、2023（令和5）年度には、経営学研究科所属の大学院学生を対象とした研究発表大会を1回開催した。情報科学研究所では、次代を担う質の高い研究者を育てることも主な活動の一つと考えており、2009年より大学院生を対象として研究発表大会を継続して行ってきた。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

情報科学研究所令和 4 年度事業報告書

情報科学研究所令和 5 年度事業報告書

評価の視点②

他研究所などの他機関と合同の研究会やセミナーなどの開催状況。

【現状説明】

2022（令和 4）年度、2023（令和 5）年度には、経営研究所と共催でランチセミナーを開催した。地域向けの公開講習会として「IT×ものづくり入門～コンピュータを使って工作を体験してみよう」を情報科学センターとネットワーク情報学部と共催で実施した。以上の催しは定期的に実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

商学部が神田に移転して後、商学部、商学研究所との合同での催しを開催できていないが、オンラインでの開催も可能になっていることから、引き続き実施を模索していきたい。

【根拠資料】

情報科学研究所令和 4 年度事業報告書

情報科学研究所令和 5 年度事業報告書

<当該研究所における社会貢献について>（評点：A）

(1) 達成目標

地域における社会貢献を促進する。

(2) 最終報告

評価の視点①

研究成果の技術展示会等への出展状況。

【現状説明】

2022（令和 4）年度は、11 月 17 日（木）～18 日（金）にカルッツかわさきにて開催された川崎国際環境技術展に、「Wi-Fi の接続情報に基づく混雑状況の可視化」、「大学キャンパスでの電力需要予測」、「罫線付き紙データに対する OCR の作成」、「画像提示による食堂混雑緩和の取り組み」を出展した。2023（令和 5）年川崎国際環境技術展は、出展締切が早かったために出展することができなかったが、2024（令和 6）年の出展に向けては、早期に出展者を確保すべくアプローチの見直しをし、出展することができた。

【長所・特色】

川崎国際環境技術展には、平成 21 年度から令和 4 年度まで毎年出展した。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

情報科学研究所令和 4 年度事業報告書

情報科学研究所令和 5 年度事業報告書

川崎国際環境技術展 Web サイト (<https://www.kawasaki-eco-tech.jp/>)

評価の視点②

公開講座や講演会などの実施状況。

【現状説明】

2022（令和 4）年度、2023（令和 5）年度には、地域向けの公開講習会として「IT×ものづくり入門～コンピュータを使って工作を、体験してみよう」を情報科学センターとネットワーク情報学部と共催で実施した。この経験を基に、2023（令和 5）年度から小学校への出前講座を開始し、これまで 1 回実施した。

【長所・特色】

地域向けの公開講習会では、2020（令和 2）年からの開始された小学校プログラミング教育に対応する形で、対象を小学校高学年まで拡大する内容として実施している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

情報科学研究所令和 4 年度事業報告書

情報科学研究所令和 5 年度事業報告書

情報科学研究所令和 6 年度事業計画書

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔18-10〕自然科学研究所

＜研究活動の活性化について＞（評点：A）

（1）達成目標

定例研究会や助成研究を活用し、研究活動を活発化する。

（2）最終報告

評価の視点①

定例研究会を通じて、所員間の情報交換を行う。

【現状説明】

定例研究会を年 2 回実施し、各所員の研究活動を知るとともに、質疑応答を行い、理解を深めている。近年はオンラインシステムを用いたハイブリッド形式を採用し、より出席しやすい環境を作っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

自然科学研究所所報 No. 105 および No. 106 (2025 年 3 月発刊予定)

評価の視点②

研究助成を活用し、萌芽的探索的研究を支援する。

【現状説明】

毎年希望する所員に 1 件から数件の研究を支援している。支援額は 15～25 万円とし、比較的少額であることから、萌芽的・探索的研究を支援する位置づけで募集を行っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

個人研究助成申請書

個人研究助成執行報告書

評価の視点③

所員の研究環境の向上を図る。

【現状説明】

研究所の予算より備品を購入している。令和 5 年度は化学発光スキャナーを、令和 6 年度は顕微鏡試料作成用ダイヤモンドナイフを購入した。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

物品購入届

補助金物品購入願

<研究成果の社会的還元について>（評点：A）

(1) 達成目標

公開講演会などを通じて研究成果の社会的還元を図る。

(2) 最終報告

評価の視点①

公開講演会に対する参加者からの意見をフィードバックし改善を図る。

【現状説明】

年に一度公開講演会を開催している。2023 年 12 月 2 日に「銀河衝突と冬眠するブラックホール そして生命存在可能性について」、2024 年 7 月 13 日に「現代暗号と量子暗号 –Einstein's legacy–」というタイトルでそれぞれ公開講演会を開催した。講演後に質疑応答の時間を設ける他、アンケートを行って改善を図っている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

自然科学研究所所報 No. 105 および No. 106(2025 年 3 月発刊予定)

評価の視点②

自然科学研究所のホームページを通じた研究成果の情報公開を促進する。

【現状説明】

研究所の諸活動については研究所のホームページに掲載している。各所員の研究活動にもアクセスできるように改善している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

専修大学自然科学研究所のホームページ

(<https://www.senshu-u.ac.jp/research/center/shizenkagaku/>)

<広報・対外発信について> (評点：A)

(1) 達成目標

研究所の活動について、学内外に情報を広く提供する。

(2) 最終報告

評価の視点①

所員の研究成果として、紀要を年冊発行する。

【現状説明】

自然科学紀要を年1冊3月に発行している。各所員には10月に投稿を募集している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

自然科学紀要 No. 55 および No. 56 (2025 年 3 月発刊予定)

評価の視点②

所報を年1冊発行して、研究所の活動を学内外に紹介する。

【現状説明】

自然科学研究所所報を年1冊3月に発行している。研究所の活動や所員の研究における工夫などを掲載している。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

自然科学研究所所報 No.105 および No.106(2025 年 3 月発刊予定)

評価の視点③

研究成果を広く提供するため、紀要の研究成果を本学リポジトリに登録する。

【現状説明】

紀要に掲載された論文は全て図書館を通じてリポジトリに登録されている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

専修大学学術機関

リポジトリ (<http://ir.acc.senshu-u.ac.jp/>)

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔19〕 情報科学センター関係

<教育研究のための情報通信技術(ICT)環境の整備・運用について> (評点：A)

(1) 達成目標

利用者の要望に配慮し、教育研究用 ICT 環境を適切に整備・運用する。

(2) 最終報告

評価の視点①

教育研究組織等の学内ユーザの意見・要望を吸い上げ、関係学内所管と調整した上で、ICT 環境等を整備できているか。

【現状説明】

情報科学センターでは、協議会と運営委員会を通して教育研究組織代表者から意見・要望を吸い上げている。

学生のほぼ全員が自分のノート PC を持参して学習すること(BYOD)を前提として、端末室 PC の機能をクラウドサーバ上で実現する VDI(Virtual Desktop Infrastructure)システムを 2023 年度から本格導入し、2024 年度からは、端末室の常設 PC を 9 割削減、プリンタの再配置等を行い、時間や場所にとらわれない新たな学修環境を整えている。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度情報科学センター協議会資料、議事録
- ・ 2024(令和 6)年度情報科学センター協議会資料、議事録
- ・ 2023(令和 5)年度情報科学センター運営委員会資料、議事録
- ・ 2024(令和 6)年度情報科学センター運営委員会資料、議事録

評価の視点②

より良い環境を整備するために、他大学の状況、システム・機器の技術動向などの新しい情報を収集し活用しているか。

【現状説明】

随時、ベンダーや各種業者から情報を徴取し、また各種情報共有のためのイベントに参加し、技術動向の収集に努めている。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ IT 教育・講習会・セミナー等 受講管理簿
- ・ 千代田区キャンパスコンソ情シス部門交流会 企画書

評価の視点③

導入業者、関連学内所管等と協力して、ICT 環境を適切に運用して、安定稼働を図っているか。

【現状説明】

2024（令和 6）年度導入の教育・研究用コンピュータシステム、2021（令和 3）年導入の in Campus（ポータル兼 LMS）において、月例・隔月で納入業者と打合せを行い、問題点とその対応について協議している。小さな問題は発生しているが、その都度適切に対応して安定稼働できている状況である。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 教育・研究用コンピュータシステム定例会議事録
- ・ 教育支援基盤システム（LMS）・ポータルシステム導入定例会議事録

<教育研究のための情報通信技術（ICT）環境の利用促進について>（評点：A）

(1) 達成目標

教育研究のための情報通信技術（ICT）環境の利用を促進する。

(2) 最終報告

評価の視点①

コンピュータ室、ネットワーク、オンラインサービスを適切に利用できるように開放しているか。

【現状説明】

学生が自分の PC を、キャンパスの無線 LAN に接続し、オンラインサービスに接続して利用することが増えており、ログデータをモニターしながら、適切に利用できているか把握するようにしている。これまで特に問題になるような状況は発生していない。2024 年 8 月に無線 LAN システムの更新を行い、利用可能なエリアが拡大されている。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・教育・研究用コンピュータシステム定例会議事録
- ・学内 LAN システム定例会議事録、報告会資料

評価の視点②

Web ページやマニュアルの整備、質問窓口の設置、説明会等、利用促進をはかるためのサービスを展開しているか。

【現状説明】

受付窓口の体制をシステム導入業者との連携により強化を行い、各クラウドサービスや BYOD 等の専門的な質問にも対応できている。

新入生向けのオンラインガイダンスや対面の VDI 説明会等、内容によりオンデマンドや対面を使い分ける工夫を行っている。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・専修大学情報科学センターHP
<https://www.senshu-u.ac.jp/isc/>
- ・2024(令和 6)年度情報科学センター運営委員会資料、議事録

<情報関連の教育の推進について> (評点：A)

(1) 達成目標

学生・教職員が、情報倫理・セキュリティ、情報処理、データサイエンス等の情報に関連する学習の機会を適切に得られるように推進していく。

(2) 最終報告

評価の視点①

授業科目の展開、講習会の開催、オンライン教材の整備等により、学習の機会を適切に用意しているか。

【現状説明】

情報科学センターで実施する情報入門 1・2 においては、数理・データサイエンス・AI 教育プログラ

ムの履修率向上のため、展開数および時間割の見直しをすすめている。

情報倫理・セキュリティの教育に関しては、情報システム課が事務局を担当している学校法人専修大学情報セキュリティ委員会により、具体的な事例を通して情報セキュリティに対する適切な知識を持っていただくことを目的として教職員に対し「情報セキュリティ理解度チェック」を実施した。学生に対しては、研修用動画の視聴を新入生ガイダンス時に周知した。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度情報科学センター運営委員会資料、議事録
- ・ 2024(令和 6)年度情報科学センター運営委員会資料、議事録
- ・ 学校法人専修大学情報セキュリティ委員会 令和 5 年度 年間活動報告書 (R6.5.22 令和 5 年度学校法人専修大学情報セキュリティに関する年間報告資料)

評価の視点②

テキストなどの教材を、担当教員や受講対象学科の意見、モデルカリキュラムの内容、社会の動向を考慮し、適切な内容となるように改善しているか。

【現状説明】

内閣府・文部科学省・経済産業省の 3 府省が連携した「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」が 2021（令和 3）年からスタートし、専修大学においてこの認定を受けた教育カリキュラム「Si データサイエンス教育プログラム」を、情報科学センター長を委員長とし、情報システム課が事務局に加わった運営委員会を設置して科目の運用を行っている。

情報科学センターにおいては、教育企画室において、対応カリキュラムを検討し、それを情報科学センターで実施する情報入門 1・2 に導入していくとともに、他学部での専門科目で実施する際の参考になるように展開した。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録
- ・ 2024(令和 6)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録

評価の視点③

学習を支援する環境を適切に用意しているか。

【現状説明】

学生アルバイトによる端末操作補助員や窓口スタッフを採用し、円滑な授業運営と学生の学習支援を行っている。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度情報科学センター運営委員会資料、議事録
- ・ 2024(令和 6)年度情報科学センター運営委員会資料、議事録

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔20〕 入学試験関係

<高大接続改革への対応について>（評点：A）

（1）達成目標

入試制度の見直し

（2）最終報告

評価の視点① 学校推薦型選抜および総合型選抜の見直し。

【現状説明】

2026（R8）年度入試に向けて、新たな学校推薦型選抜の導入および総合型選抜の見直し案を学内調整している。

【長所・特色】

学業と学業以外の活動との調和のとれた、本学で学ぶことを希望する者を早期に選抜する。

【問題点】

文科省の入学者選抜実施要領の方針や他大学の入試の動向を注視し、状況に応じ調整をはかる場合もある。

【根拠資料】

R6.11.5 入学試験委員会資料

<入学者選抜試験実施体制について>（評点：A）

（1）達成目標

入学試験における実施体制の改善

（2）最終報告

評価の視点① 一般選抜における試験会場の見直し。

【現状説明】

一般選抜後期試験における地方 4 会場の廃止を決定した。

【長所・特色】

入試実施体制および実施経費の改善の一助となる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし

＜学生募集強化について＞（評点：A）

（1）達成目標

本学で実施するイベント参加者における志願率及び手続率の向上

（2）最終報告

評価の視点①

オープンキャンパスの参加者における志願率の増加。

オープンキャンパスの参加者における手続率の増加。

【現状説明】

（1）2023（R5）年度

6月・7月・8月（合計6日間）で、当初予定通り対面で実施した。来場者数の合計は、22,359人で、前年比4,164人・22.9%増となった。

（2）2024（R6）年度

6月・7月・8月（合計6日間）で、前年度に引き続き対面で実施した。（2024（R6）年度からオンラインコンテンツもなくし全て対面実施とした。）来場者数の合計は、25,070人で、前年比2,711人・12.1%増で過去最多の来場数となった。

【長所・特色】

（1）2023（R5）年度

アンケートによる来場者の満足度は、すべての回で97%を超えており、オープンキャンパスの柱となる企画である模擬授業・個別相談を通じて、十分な訴求ができたと考えている。オープンキャンパス参加者のうち、アンケートに回答した高校3年生における2024（R6）年度入学試験の志願率は、44.1%（2022年度の志願率は40.6%）と上昇したが、手続率は78.0%（2022年度の手続率は82.1%）と減少した。

（2）2024（R6）年度

アンケートによる来場者の満足度は、すべての回で98%を超えており、オープンキャンパスの柱となる企画である模擬授業・個別相談を通じて、十分な訴求ができたと考えている。2025（R7）年度入学試験はこれから迎えるため、志願率、手続率については、データが揃った段階で集計を行う予定。

【問題点】

2023（R5）年度において手続率が減少した原因は、定員管理の緩和（入学定員から収容定員をベースとした定員管理により上位大学の最終合格者数が増加）の影響もあったと考えられる。

また、今後は総合型選抜や学校推薦型選抜で優秀な学力層を獲得する傾向が強まっていくため、引き続きオープンキャンパスの効果検証を実施したい。

【根拠資料】

（1）2023年度 イベント参加者別志願・合格・手続状況＜2023年度イベント参加者に対する2024年

度入試 志願・合格・手続者の割合＞

(2) 2022 年度 イベント参加者別志願・合格・手続状況＜2022 年度イベント参加者に対する 2023 年度入試 志願・合格・手続者の割合＞

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔21-1〕 学生生活関係

＜学生の修学に関する適切な支援（奨学金その他の経済的支援の整備）を行っているか＞（評点：A）

（1）達成目標

各種の奨学金制度など経済的な支援策の充実と適正な運用が行われ、学生が安心して安定した学生生活を送ることができる環境が整えられていること

（2）最終報告

評価の視点①

日本学生支援機構（高等教育の修学支援新制度含む）奨学金の運用が適切に行われているか

【現状説明】

〔貸与奨学金〕

新規採用件数は次のとおり。

令和 5 年度 1,570 名 令和 6 年度 1,570 名

日本学生支援機構奨学金貸与件数は次のとおり。

令和 5 年度 5,321 名 令和 6 年度 5,297 名

日本学生支援機構（高等教育の修学支援新制度含む）奨学金の手続き案内資料の改訂を行った。これにより申請手続き時の問い合わせが減少し、業務の効率化につなげることができた。

〔高等教育の修学支援新制度〕

新規採用件数は次のとおり。

令和 5 年度 437 名 令和 6 年度 437 名

高等教育の修学支援新制度件数は次のとおり。

令和 5 年度 1,472 名 令和 6 年度 1,581 名

高等教育の修学支援新制度の受給者が行う、Web 入力で行う在籍報告（年 3 回実施、令和 6 年度からは 2 回に変更）の未手続者が減少した。在籍報告は手続きを行わないと奨学金の振り込みが保留となるため督促を行っていたが、資料改訂による効果が見られ未手続者へ架電件数が減少した。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

修学支援新制度は毎年少しずつ制度が変わりその対応に苦慮している。加えて、令和 6 年度から修学支援新制度に新たな区分が創設された。令和 7 年度からは、さらに多子世帯への支援が拡大され制度がますます複雑化する。授業料減免は学費との連携、交付金申請は教学システム内の奨学金システムでは対応できないため業務負荷が増えている。

【根拠資料】

日本学生支援機構 採用者数一覧【学生部委員会資料】

専修大学私費外国人留学生の学習奨励等のための授業料減免採用者の推薦について（令和 5 年度、令和 6 年度）【学生部委員会資料】

評価の視点②

本学独自経済支援奨学金制度の運用が適切に行われているか

【現状説明】

本学独自の経済支援奨学金制度の運用状況は次のとおりである。

- ① 利子補給奨学生 令和５年度４名 令和６年度３名
- ② 家計急変奨学生 令和５年度１９名 令和６年度２０名
- ③ 災害見舞奨学生 令和５年度３名 令和６年度４名
- ④ 専修大学進学サポート奨学生 令和５年度１９０名 令和６年度１９１名
- ⑤ 私費外国人留学生の学習奨励等のための授業料減免 令和５年度４２名 令和６年度３６名
- ⑥ 育友会奨学生 令和５年度７名 令和６年度３名
- ⑦ 校友会奨学生 令和５年度２名 令和６年度０名

【長所・特色】

経済支援奨学金制度が複数あるため、学生の個々の経済支援が必要な状況に応じた支援を行っている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和５・６年度 学内奨学生採用者数一覧【学生部委員会資料】

評価の視点③

民間団体等による奨学金制度の情報を適切に発信しているか

【現状説明】

民間財団への応募者には学内選考（書類審査又は面接）を実施し、推薦者を決定している。ホームページを随時更新し情報を発信している。令和５年度は採用者数９８名であった。令和６年度は採用者数８６名となっている。本学に採用枠を与えられている給付奨学金については奨学金の相談履歴等を参考に担当者からも応募を呼び掛けるなど採用枠を活用し採用者増加に向け取り組んでいる。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

令和５・６年度 民間財団・地方奨学生採用者数一覧【学生部委員会資料】

<学生の生活に関する適切な支援（学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮）を行っているか>
（評点：A）

(1) 達成目標

学生が健康を維持し、事故を防止して、安全に学生生活を送る環境が整備されていること

(2) 最終報告

評価の視点①

学生の健康維持、増進を目的とした支援が適切に行われているか

【現状説明】

(1) 学生の健康維持（健康診断の実施状況など）

令和5年度 受診率 64.3%（一部学生）

実施時期 オリエンテーション・ガイダンス期間の前週

令和6年度 受診率 68.8%（一部学生）

実施時期 オリエンテーション・ガイダンス期間

国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科の留学生（令和5年度は2・3年次生、令和6年度は2年次生）を対象に、9月に定期健診日を設定した。

(2) 歯科健診の実施

定期健康診断実施期間の2日間に歯科健診を実施した。対象者は2年次以上の希望者とし、各校舎1,000名を限度として実施した。歯科健診が義務づけられていない大学生の口腔内状況に変化がないか調べ歯科受診勧奨を目的とする東京都歯科医師会に協力し令和5年度から3か年の契約で実施している。最終年度の令和7年度は神田校舎のみでの実施予定。

令和5年度

神田校舎 令和5年3月23日（木）、24日（金） 受診者数 492名

生田校舎 令和5年3月25日（土）、27日（月） 受診者数 491名

令和6年度

神田校舎 令和6年3月28日（木）、29日（金） 受診者数 327名

生田校舎 令和6年3月26日（火）、27日（水） 受診者数 275名

(3) 100円朝食の実施、喫食状況

100円朝食は「学生に対する食育」の観点から平成26年度より実施している。

経済支援の意味合いも含め提供時間を拡大した。令和5年度は23,100食を提供、6年度は23,790食を提供。

(4) 食料支援プロジェクトの実施

物価高騰が続く中、学生への経済支援として食料支援プロジェクトを行っている。令和5年度から第2弾を、令和6年度は第3、4弾と支援内容を拡大している。このプロジェクトは教職員、校友会、育友会等からの支援により実施している。

また、支援の幅を広げ食料以外の支援も行っているため令和7年度からは「学生生活支援プロジェクト」に改称する。

第1弾 食料品等配布

食料品や日用品等が無償で提供することで学業への意欲と学生生活を支える。

令和5年度 4回実施 合計4,642名

令和6年度 2回実施 合計2,102名

第2弾 応援ランチの実施

物価高騰により経済的に困窮している学生への支援として、栄養バランスやボリュームのあるメニューを特別価格で提供する。

令和5年度 11,280食

令和 6 年度 7,600 食

第 3 弾 ウォーターサーバーの設置

安全で清潔な飲料水を無償提供することでマイボトル持参を促進し、プラスチックごみを削減する。

神田校舎 3 か所（1 号館地下 2 階学生ホール、地下 1 階学生ホール、10 号館 1 階）

生田校舎 3 か所（生田会館 2 階、9 号館 5 階 CABIN、10 号館 4 階スカイテラス）

令和 6 年 4 月からトライアルを行い、6 月から運用を開始した。

第 4 弾 生理用品の提供

社会問題として顕在化した「生理の貧困」への対応や、突然の生理や手持ちの生理用品が不足する等の女性特有の困りごとへの支援としてキャンパスの一部トイレにおいて生理用品を提供することで学生生活を支援する。

令和 6 年 9 月 21 日から実施する。

神田校舎 3 か所（1 号館地下 1 階、9 号館 1 階、10 号館 7 階の女子トイレ）

生田校舎 5 か所（1 号館 1 階、2 号館 1 階、4 号館 2 階、9 号館 5 階、10 号館 4 階の女子トイレ）

（5）献血の実施

神田校舎 令和 5 年度 2 回、令和 6 年度 1 回（主催：学生自治会）

生田校舎 令和 5 年度 4 回、令和 6 年度 6 回（主催：学生生活課）

【長所・特色】

応援ランチについて、令和 5 年度日本学生支援機構の「物価高に対する経済対策支援事業」で 100 万円の助成金が交付され、この助成金を利用して令和 5 年度前期に実施した。令和 5 年度後期と令和 6 年度は専修大学育友会や校友会の支援を受け、規模を拡大して実施している。

歯科健診について、東京都歯科医師会の協力要請に応じ実施した。東京都歯科医師会による大学生向け歯科健診事業は本学の他、青山学院大学、駒澤大学、法政大学で実施されている。

【問題点】

定期健康診断について、令和 5 年度は受診率が低かったため、令和 6 年度はオリエンテーション・ガイダンス期間内に実施したが、コロナ禍以前（令和元年度）の受診率（一部学生 80.5%）には隔たりがあるため日程だけでなく告知方法等を見直し、受診率向上への取り組みが必要である。

学生食堂においては、コロナが明け通常の営業に加えパーティーの受注を再開したが、材料費・人件費等のコストが高騰しており、学生食堂業者は厳しい状況での営業となっている。

【根拠資料】

(1) 定期健康診断実施報告書（令和 5・6 年度）【学生部委員会資料】

(2) 歯科健診実施報告書（令和 5・6 年度）【学生部委員会資料】

(3) 100 円朝食喫食数一覧表（令和 5・6 年度）【学生生活課監査資料】

(4) 学生への食料支援プロジェクト実施報告（令和 5・6 年度）【学生生活課監査資料】

(5) 献血実施報告書（令和 5・6 年度）【学生部委員会資料】

評価の視点②

飲酒や薬物に関わる事故および事件の防止に関する取組みが適切に行われているか

【現状説明】**(1) 飲酒に関わる事故および事件の防止に関する取組み状況**

本学では過去に発生した学生による飲酒死亡事故を二度と繰り返さないという基本姿勢を強く発信している。

①「キャンパス・ガイダンス」【全学生対象】

神田校舎 令和5年度 動画によるオンデマンド形式、令和6年度 対面で実施

生田校舎 令和5年度 対面で実施、令和6年度 対面で実施

本学の飲酒事故撲滅に対する基本姿勢と過去の事故事例

②「専修大学入門ゼミナール」【新入生】

両校舎 令和5年度、6年度共に正課授業内での講義

飲酒時のトラブルへの対処法およびSNS利用時の注意、成年年齢引き下げに伴う注意

③「スポーツリテラシー」【1年次配当科目】

両校舎 令和5年度、6年度共に正課授業内での講義

川崎市健康福祉局より講演資料を借用して、本学教員が講義を行った。

その他、HP（<https://www.senshu-u.ac.jp/campuslife/support/>）での告知に加え、適宜 in Campus のお知らせ等で注意喚起を行っている。

④「アルコールパッチテスト」

令和5年度

神田校舎 保健室窓口で実施。その他飲酒に関するセミナー会場でも実施。

生田校舎 5～7月および9～12月に各1日（計6日）実施。

令和6年度

両校舎 キャンパス・ガイダンスで、1年生全員を対象として実施した。

神田校舎 保健室窓口で随時実施。

生田校舎 5月と11月に実施。

(2) 薬物等（大麻、危険ドラッグ等）の乱用防止に関わる啓発活動**①「スポーツリテラシー」【1年次配当科目】**

両校舎：令和5年度、6年度共正課授業内での講義

川崎市健康福祉局より講演資料を借用して、本学教員が講義を行った。

②「薬物乱用防止セミナー」

令和5年度（新規実施）

8月28日（月）

神田校舎 10号館8階10082教室およびGoogle meet を用いたオンライン開催

講師 GST 薬物乱用防止委員会委員長 根津万寿夫 氏

参加者数 39名

③定期健康診断の配布資料として川崎市健康福祉局が作成したパンフレットを配布して薬物防止の啓発を行った。

その他、適宜 in Campus のお知らせ等で注意喚起を行っている。

(3) 事件事故の防止に関わるセミナーの実施**①「SNSトラブル防止セミナー」**

令和5年度（新規実施）

7月19日（水）

神田校舎 10号館3階10031教室およびGoogle meet を用いたオンライン開催

講師 共同PR株式会社 中根優作 氏

参加者数 39名

②「STOP 闇バイトオンラインセミナー」

令和5年度（新規実施）

7月18日（火）、7月26日（水）Zoom を用いたオンライン開催

講師 株式会社学生情報センター

参加者数 5 名

令和 6 年度 ※講座名称変更

「学生のためのアルバイトセミナー」

6 月 20 日(木)、7 月 2 日(火)Zoom を用いたオンライン開催

講師 株式会社学生情報センター

参加者数 22 名

③「適正飲酒啓発セミナー」

令和 5 年度

神田校舎 7 月 13 日(木) 10 号館 16 階相馬永胤記念ホール

講師 サッポロビール株式会社 酒井洋 氏

参加者数 16 名

生田校舎 7 月 20 日(木) 4 号館 4 階 420 教室

講師 サッポロビール株式会社 酒井洋 氏

参加者数 27 名

④「飲酒事故防止セミナー」

令和 5 年度

神田校舎 令和 6 年 3 月 15 日(金)実施

生田校舎 令和 6 年 3 月 12 日(火)実施

令和 6 年度

神田校舎 令和 7 年 3 月 13 日(木)実施

生田校舎 令和 7 年 3 月 10 日(月)実施

⑤「防犯講話」

様々な防犯対策や注意喚起の一部として薬物乱用の危険性、誘惑、断り方の講義を行った。

令和 6 年度(新規実施)

7 月 18 日(木)実施

神田校舎 7 号館 3 階 731 教室および Google meet を用いたオンライン開催

講師 神田警察署

参加者数 105 名

⑥「漫才で学ぶ啓発講座」

冬期休暇を前に、学生が巻き込まれやすい事故や事件への注意を促すために実施した。

令和 6 年度(新規実施)

12 月 17 日(火)実施

生田校舎 10 号館 1 階 10103 教室

講師 さくらだモンスター

参加者数 約 100 名

【長所・特色】

飲酒事故防止および薬物等の防止に関する取り組みは、正課科目である「専修大学入門ゼミナール」「スポーツリテラシー」および「キャンパス・ガイダンス」で注意喚起を行っている。

「適正飲酒啓発セミナー」「飲酒事故防止セミナー」は学生自治会の協力を得て実施している。例年 3 月に新入生勧誘活動参加団体の出席を必須として実施。教職員・学生の 3 者で協力する体制で実施している。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- (1) 飲酒事故防止および SNS 利用の注意、成年年齢引き下げに伴う注意に関する専修大学入門ゼミナールでの注意喚起について(願)(令和 5・6 年度)【学生部委員会資料】
- (2) 正課授業内における薬物乱用防止および飲酒・喫煙の危険性の告知を目的とした内容の講義実施について(願)(令和 5・6 年度)【学生部委員会資料】
- (3) 助育実施報告(令和 5・6 年度)【学生生活課監査資料】

<学生の正課外活動（部活動等）を充実させるための支援を実施しているか>（評点：A）

(1) 達成目標

学生が正課外の諸活動を通して充実した学生生活を送ることができるよう大学としての支援体制が整っていること

(2) 最終報告

評価の視点①

学生団体、公認団体に対する支援が適切に行われているか

【現状説明】

課外活動については、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行以来、制限を撤廃して学内外での活動を許可している。

(1) 新入生勧誘活動【学生自治会主催】

令和 5 年度

両校舎 4 月 7 日（金）、8 日（土）、10 日（月）

令和 6 年度

神田校舎 4 月 6 日（土）、8 日（月）、9 日（火）

生田校舎 4 月 4 日（木）、6 日（土）、8 日（月）、9 日（火）

(2) 黒門祭【黒門祭実行委員会主催】生田校舎（令和 6 年は神田校舎でも開催）

令和 5 年度

6 月 30 日（金）～7 月 2 日（日） 参加 16 団体、参加者数 1,500 名

令和 6 年度

6 月 28 日（金）～30 日（日） 参加 14 団体、参加者数 1,500 名

6 月 30 日（日）は神田校舎でも開催した。

(3) 鳳祭【鳳祭実行委員会主催】生田校舎

令和 5 年度

10 月 27 日（金）～29 日（日） 参加 64 団体、参加者数 20,958 名

4 年ぶりに飲食物の出店に関する制限を設けずに開催した。

令和 6 年度

11 月 1 日（金）～3 日（日） 参加 94 団体、参加者数約 40,000 名

(4) 体育祭【体育祭実行委員会主催】

令和 5 年度

12 月 9 日（土）84 名

令和 6 年度

12 月 7 日（土）108 名

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

コロナ禍での活動制限などにより、サークルの継続（団体の引継ぎ、会計処理の引継ぎ）が困難な状況にある。鳳祭実行委員も引継ぎに苦慮しており、令和5年度は準備・片付けにおいては24時を過ぎることとなった。令和6年度は準備、片付け期間を有効に活用したスケジュールを組み、21時には終了できた。

【根拠資料】

- (1)新入生勧誘活動及び向ヶ丘遊園駅周辺の見回り実施報告について（令和5・6年度）【学生部委員会議事録】
- (2)(3)(4)学生主催企画実施報告（令和5・6年度）【学生生活課監査資料】

評価の視点②

ボランティア活動に対する支援が適切に行われているか

【現状説明】

学生部ではボランティア推進委員会を設置し、その傘下団体として専修神田ボランティア（SKV）、専修生田ボランティア（SIV）を置き、学生のボランティア意識の向上と防災に関する知識及び技術の修得の支援を適宜行っている。

今年度、学生部・ボランティア推進委員会・SKV・SIVが主催または協力した企画は以下のとおり。

- (1)災害救援ボランティア講座【協力：千代田区社会福祉協議会、（公）日本法制学会】

令和5年度

（前期）6月4日（日）、6月10日（土）、6月11日（日） 参加者数 40名

（後期）10月14日（土）、10月15日（日）、10月21日（土） 参加者数 39名

令和6年度

（前期）6月15日（土）、6月16日（日）、6月23日（日） 参加者数 40名

（後期）2月4日（火）、2月5日（水）、2月6日（木） 参加者数 40名

- (2) Clean Town in KANDA【協力：学生自治会、神三町内会、北神保町町会】

令和5年度

第14回 5月27日（土）実施 参加者 110名

令和6年度

第15回 5月25日（土）実施 参加者 134名

- (3)BOSAI フェア【協力：神田消防署、神田消防団、神田警察署、千代田区環境安全部防災・危機管理課、SL 災害ボランティアネットワーク、SKV、管理課、庶務課】

令和5年度

第11回 6月30日（金）

神田校舎 10号館 1階エレベーターホール、中庭

参加者数 95名

令和6年度

第12回 6月28日（金）

神田校舎 10号館 1階エレベーターホール、中庭

参加者数 107名

11月12日（火）

起震車体験（6月28日 BOSAI フェアが雨天で起震車体験中止のため11月に実施）

参加者数 97名

(4) 防災食フェア【川崎市多摩区役所危機管理担当、SIV、庶務課】

令和5年度

第3回 11月17日(金)

生田校舎10号館1階アカデミーモール

参加者数 169名

令和6年度

第4回 11月14日(木)

生田校舎10号館1階アカデミーモール

参加者数 約200名

(5) SKV・SIV 石巻合同合宿 予定

令和5年度

令和6年3月10日(日)～3月12日(火) 宮城県石巻市

内容 震災・復興学習(震災遺構門脇小学校、石巻三波浜津波復興記念公園、みやぎ東日本大震災津波伝承館、震災遺構大川小学校、いしのまき元気市場)

講師 元門脇小学校校長、石巻観光ボランティア協会、みやぎ東日本大震災津波伝承館成年ボランティア解説員)

事前学習会 令和6年3月6日(水)

事後学習会 令和6年3月13日(水)

令和6年度

令和7年3月10日(月)～12日(水) 宮城県石巻市

参加者数 29名

内容 震災・復興学習(震災遺構大川小学校、震災遺構門脇小学校、日和山公園)

講師 大川伝承の会語り部、元門脇小学校校長、石巻観光ボランティア協会)

事前学習会 令和7年3月6日(木)

事後学習会 令和7年3月18日(火)

(6) 初めての方向け災害ボランティア講座

令和5年度(新規実施)

令和6年1月31日(水)

神田校舎7号館3階731教室およびGoogle meetを用いたオンライン併用開催

講師 公益財団法人日本法制学会災害救援ボランティア推進委員会

参加者数 25名

(7) 宿泊訓練実施

令和6年度(新規実施)

令和6年12月21日(土)～22日(日) 神田校舎1号館地下3階体育室1

参加者数 27名

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

(1)～(6)ボランティア企画実施報告(令和5・6年度)【学生生活課監査資料】

評価の視点③

各種セミナー、講座、コンクール等が適切に行われているか

【現状説明】

学生部で実施するセミナー・講座・コンクール等は、学生同士の交流の場を創出し、学部・学科を超えた友人作り、日々の活動や取り組みへのきっかけ作り、成果発表の場等を目的に実施している。

(1) 新入生歓迎セミナー

令和5年度

期間・場所：8月5日（土）～7（月）宮城県石巻市

内容：石巻川開き祭り運営協力（ボランティア）、清掃活動、震災について学ぶ

事前学習会：5月6日（土）、6月1日（木）、6月3日（土）、7月1日（土）

報告会：9月20日（水）

参加者数：学生35名、引率者3名

令和6年度

期間・場所：8月6日（火）～8日（木）宮城県石巻市

内容：震災について学び、石巻の食や文化を見学・体感、石巻専修大学生との交流

事前学習会：5月18日（土）、6月22日（土）、8月4日（日）

報告会：8月30日（金）

参加者数：学生25名、引率者4名

(2) いしのまき祭り

首都圏在住者に石巻の魅力を伝え、地域間交流と地域活性に資する取り組みとして石巻市と石巻専修大学が令和5年に初めて開催した。学生部の「新入生歓迎セミナー」参加者が運営・協力している。

令和5年度（新規実施）

日時：11月19日（日）10：00～16：00

場所：神田校舎10号館1階エントランスホールほか

内容：ふるまい（石巻焼きそば、かき汁）、石巻PRカード配布、スタンプラリー、ミニ七夕飾りワークショップ等

事前準備：9月20日（水）、9月30日（土）、11月4日（土）、11月11日（土）、11月18日（土）

来場者数：358人

令和6年度

日時：10月27日（日）11：00～15：00

場所：神田校舎10号館1階エントランスホールほか

内容：ふるまい（石巻焼きそば、牡蠣のホイルバター蒸し）、わかめ100gぴったリチャレンジ、石巻写真コンテスト、ミニ七夕飾りワークショップ等

事前準備：8月30日（金）、9月28日（土）、10月19日（土）、10月26日（土）

来場者数：415人

(3) 学生部セミナー

令和5年度

期間・場所：9月4日（月）～8日（金）沖縄県那覇市他

内容：平和学習（ひめゆり平和資料館、平和記念公園、首里城公園他）、生活文化体験（民泊体験、シークワサー収穫体験他）、清掃活動

事前学習会：6月17日（土）、7月22日（土）、8月28日（月）

報告会：9月15日（金）

参加者数：学生18名、引率者4名

令和6年度

期間・場所：9月16日（月）～20日（金）沖縄県那覇市他

内容：平和学習（ひめゆり平和資料館、平和記念公園、首里城公園他）、生活文化体験（民泊体験、

シークワサー収穫体験他)、清掃活動

事前学習会：6月22日(土)、7月20日(土)、8月30日(金)

報告会：9月28日(土)

参加者数：学生23名、引率者3名

(4) 懸賞論文・文芸作品コンクール

令和5年度

募集期間：9月21日(木)～9月26日(火)

11月22日(水)に受賞作品を発表し、12月11日(月)に表彰式を実施

応募数：懸賞論文 6作品 文芸作品 27作品

令和6年度

募集期間：9月21日(土)～9月26日(木)

11月20日(水)に受賞作品を発表、12月2日(月)に表彰式を実施

応募数：懸賞論文 1作品 文芸作品 24作品

(5) 護身術体験講座

令和5年度

12月13日(水) 神田校舎7号館1階学生ラウンジ

講師 警視庁神田警察署

参加者数 21名

令和6年度

12月18日(水) 神田校舎7号館1階学生ラウンジ

講師 警視庁神田警察署

参加者数 23名

(6) 専修大学学生の海外研修・国際交流奨励生制度

本学学生の自主的意思による海外研修・国際交流について奨励することにより、豊かな国際感覚を養うことを目的とし、渡航費用の一部を奨励金として支給する。

令和5年度

前期 応募件数3件(個人1・団体2) 合格件数1件(団体1) 奨励金額96,000円

後期 応募件数1件(個人1) 合格件数0件

令和6年度

前期 応募件数1件(団体1) 合格件数1件(団体1) 奨励金額112,000円

後期 応募件数2件(個人2) 合格件数1件(個人1) 奨励金額100,000円

(7) サークル部長・顧問懇談会

課外活動の現状や課題を教職員と学生部で共有することを目的として開催した。

令和5年度

7月25日(火) Teamsによるオンライン

参加者数 27名(サークル部長・顧問19名)

内容 学生への指導・助言依頼、飲酒に関する注意喚起、事例および意見交換

令和6年度

7月16日(火) Teamsによるオンライン

参加者数 50名(サークル部長・顧問41名)

内容 顧問の役割、飲酒に関する注意喚起、サークルトラブルの実例、夏期休暇中の事故に関する報告について

(8) 自己表現・ボイストレーニング講座

令和5年度

8月8日(火) 神田校舎10号館16階相馬永胤記念ホール

参加者数 21 名
令和 6 年度
8 月 5 日（月）神田校舎 10 号館 16 階相馬永胤記念ホール
参加者数 22 名

- （9）生田キャンパス花火鑑賞会
令和 5 年度（新規実施）
8 月 9 日（水）生田校舎食堂棟 2 階、3 階教職員食堂
参加者数 89 名
令和 6 年度
9 月 21 日（土）生田校舎 10 号館 4 階学生ラウンジ
参加者数 603 名

- （10）千代田区一斉打ち水
令和 6 年度（新規実施）
8 月 1 日（木）、8 月 24 日（土）
神田校舎 10 号館 1 階エントランス・中庭
参加者数 100 名

【長所・特色】

新入生歓迎セミナーと学生部セミナーは、令和 5 年度から内容を刷新した。石巻専修大学や校友とのネットワークを活かしたオリジナルプログラムで実施している。

また、新入生歓迎セミナーでの学びや活動を「いしのまき祭り」につなげ、石巻市の魅力を発信した。

【問題点】

懸賞論文の応募数が令和元年度の 20 名をピークに令和 2～5 年度は 5～8 名（平均 6.5 名）に減少している。また、令和元年度以来、鳳賞は該当者なしの状態が続いている。懸賞論文についてはあり方を検討する時期になっているとの見方もできる。

【根拠資料】

（1）～（10）助育企画実施報告書（令和 5・6 年度）【学生生活課監査資料】

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔21-2〕 学生相談室

<学生の心理的成長に関する支援体制について>（評点：A）

（1）達成目標

学生の心理的成長に関する相談に適切に対応する

（2）最終報告

評価の視点①

学生の心理的成長に関する相談に適切に対応する体制がとれているか。また、関係部署及び医療機関と適切に連携できている体制が整っているか。

【現状説明】

・相談対応延数は、新型コロナウイルス感染拡大に見舞われた 2020（令和 2）年度は前年比マイナス 40%と大幅に減少したが、2021（令和 3）年度は 5,340 件、2022（令和 4）年度は 5,930 件、2023（令和 5）年度は 6,102 件と学生相談室開設以来最大の件数を更新している。2024（令和 6）年度は 5,926 件、前年比 97%である。

相談内容は例年通り、「健康」「人間関係」「学業」「進路」等が中心である。

・相談件数の増加に対応し、生田キャンパスでは、月曜から金曜まで専任カウンセラーと非常勤カウンセラーを組み合わせ 3 名でカウンセリングを行なっている。神田キャンパスでは、2 名体制をとっている。

・相談方法は、対面相談に加え電話相談及びオンライン相談を併用している。

2023（令和 5）年度の教職員や関係機関との連携は 852 件（連携内訳件数：学内 784 件、学外 8 件、医療 60 件）である。教員はもちろんのこと、教務課、キャリア形成支援課、学生生活課、障がい学生支援室、キャンパス・ハラスメント対策室、保健室等の関係部署との連携も概ね適切に行われ、実績も蓄積されつつある。2024（令和 6）年度の連携は 714 件（連携内訳件数：学内 636 件、学外 15 件、医療 63 件）である。

【長所・特色】

・2022（令和 4）年度より生田・神田両キャンパスに学内の事情に精通しているインターカーを配置し、学内連携が効果的に遂行され、柔軟かつ迅速な対応が可能となっている。また、緊急事態には、カウンセラーとインターカーの協力で適切に対応している。

・2023（令和 5）年度迄は、学生相談室を利用している学生が「グループ活動」（月 2 回 1.5 時間）を行っていた。この「グループ活動」は参加学生にとってキャンパスの大切な居場所となっており、彼らのコミュニケーション能力を育てる場となっている。

・学生が自らこころの健康を振り返り早期に学生相談室を利用できるよう「こころの健康チェック」を 2020（令和 2）年度から年に 1 回実施し、5 回目の 2024（令和 6）年度は 314 名の学生が回答した。必要な学生には学生相談室から連絡を入れ学生相談室利用につなげている。

・学生の心理的成長には、親とのかかわり方が問題となることがある。学生相談室では、親からも相談を受けることで、青年期にある学生と親との適切な関係について助言している。また、2018（平成 30）年度から子育てに悩む親のグループ活動「おやかフェ」を実施しており、2023（令和 5）年 9 月（参加者 8 名）、2024（令和 6）年 3 月（参加者 6 名）、2024（令和 6）年 9 月（参加者 5 名）も開催した。

・育友会からの要請で、毎年夏期休暇中の支部懇談会にカウンセラーが派遣を依頼されて、保護者に対し

て講演を行い、相談対応をしている。

- ・障がい学生支援室及び保健室とは定期的に情報交換を行っている。特に心理面での支援が必要と認められる学生には個別に連絡をとりあっている。

キャリア形成支援課と連携を取り、心理的不調を抱えている学生の情報交換を行っている。

【問題点】

- ・2021年度より、生田キャンパスにおいて、カウンセラーを増員したにもかかわらず、各カウンセラーの相談予約が埋まっているため、「なるべくはやく相談したい」と願い学生相談室を訪れた新規学生に十分には対応しきれてはいない。

【根拠資料】

- ・学生相談室委員会議事録
- ・学生相談室報告書第38号

評価の視点②

学生及び教職員に対して、学生相談室の存在とその機能が周知されているか。

【現状説明】

- ・新入生に関しては、学生部ガイダンスにおいて学生相談室の存在や内容について説明を行い、『学生相談室あんない』を配付した。

- ・学生への周知に関しては、『学生相談室あんない』（パンフレット）、『学生相談室ニュース』『学生相談室リーフレット』といった各種印刷物や『ニュース専修』『育友』やWebページ（in Campus、ホームページ）、SNS、デジタルサイネージ、他課掲示板への掲示や設置を通して広報を行っている。

- ・育友会支部懇談会に参加した親から学生相談室の利用に繋がることも多いため、引き続き積極的に協力している。

【長所・特色】

- ・2023（令和5）年度からデジタルサイネージ3ヶ所（生田キャンパス1ヶ所、神田キャンパス2ヶ所）を利用した広報活動もおこなっている。

【問題点】

- ・該当なし

【根拠資料】

- ・学生相談室委員会議事録
- ・学生相談室報告書第38号

<大学生活の質を向上させる支援体制について>（評点：S）

（1）達成目標

学生相談室として学生の大学生活の質を向上できるように対応する

（2）最終報告

評価の視点①

学生相談室として、学生の大学生活の質を向上させるような体制がとれているか。

【現状説明】

- ・学生が日常生活で困ったことを弁護士に相談する「無料法律相談」（年6回）を開催している。
- ・オリエンテーション期間中と前期の成績が発表された直後の秋に、学生相談室員が待機し、大学生活のよろず相談にのる「相談コーナー」を毎年実施している。このコーナーは、学生の学習上の不安を取り除くことにとどまらず、室員やカウンセラーと個別に話す機会になっている。2023（令和5）年度の参加学生は春95名・秋61名、2024（令和6）年度は春92名・秋67名であった。
- ・学生たちが学習面に関する困りごとを語りあい、教員が適宜アドバイスする場として「ラーニング・カフェ」を春と秋の2回実施している。2023（令和5）年度春の参加学生は6名であり、秋は5名である。2024（令和6）年度春の参加学生は4名であり、秋は7名である。
- ・参加者同士のコミュニケーションがとれるように工夫した「楽しみながら『コミュ力UP』講座」を前期と後期に実施している。2023（令和5）年前期は、「やってみよう心理テスト」のテーマで12名の学生が参加した。後期は、「オリジナルクリスマスリースをつくる」を実施し、学生22名、教職員15名が参加した。2024（令和6）年前期は、「伝えて、聞いて、みんなで謎解き！」を実施し7名参加、後期は、12月に「正月飾り」を実施し、学生26名、教職員4名が参加した。
- ・教員はもちろんのこと、教務課、キャリア形成支援課、学生生活課、障がい学生支援室、キャンパス・ハラスメント対策室、保健室等の関係部署との連携も概ね適切に行われ、実績も蓄積されつつある。

【長所・特色】

- ・2024（令和6）年度は「やさしいキャンパスプロジェクト」として、学生相談室のイベントに参加した学生に呼びかけ、みんなが居心地の良いキャンパスづくりを考えるミーティングを2024（令和6）年度は計9回実施した。各学生相談室内にやさしいキャンパスノートの設置や図書館展示企画の検討などを行った。
- ・学生は心理的成長の過程で精神的に危機的状況に陥ることもある。大学生の自殺件数は学期の前後に増加する傾向があるため、2023（令和5）年7月には、いのち支える自殺対策推進センターが作成した動画URLを学生に送信し、育友会誌『育友』175号（10月発行）にも動画URLの二次元コード（QRコード）を記載した。9月には、文部科学大臣からの自殺予防メッセージを学生と教職員に送信し、保護者には育友会のメルマガに掲載した。2024（令和6）年9月の自殺予防月間にも文部科学大臣からの自殺予防メッセージを学生と教職員に送信し、保護者には育友会のメルマガに掲載した。「ゲートキーパー研修」を2023（令和5）年12月には神奈川県及び川崎市と共催して生田キャンパスで実施（学生34名、教職員19名参加）、2024（令和6）年6月には千代田区と共催して神田キャンパスで実施（学生28名、教職員11名、卒業生1名参加）した。「ゲートキーパー研修」に連動させ、生田・神田両図書館と共催し「あなたもゲートキーパー～大切な人の悩みに気づく～」という企画展示を実施した。
- ・図書館企画としては、2024（令和6）年5～6月生田キャンパスで「ひと息ついてみませんか～心のメンテナンスも必要です～」を実施、10～12月神田キャンパスで「眠れぬ夜に～これを読めばあなたも快眠！～」を実施した。
- ・「楽しみながら『コミュ力UP』講座」は、2022年度まで生田キャンパスのみの実施であったが、2023（令和5）・2024（令和6）年度は、神田キャンパスでも実施した。

【問題点】

- ・該当なし

【根拠資料】

- ・ 学生相談室委員会議事録
- ・ 学生相談室報告書第 38 号

評価の視点②

学生及び教職員に対して、学生相談室の企画が周知されているか。

【現状説明】

・ 学生への企画の周知に関しては、『学生相談室あんない』（パンフレット）、『学生相談室ニュース』『学生相談室リーフレット』といった各種印刷物や『ニュース専修』『育友』や Web ページ（in Campus、ホームページ）、SNS、デジタルサイネージ、他課掲示板への掲示や設置を通して広報を行っている。

【長所・特色】

・ 2023（令和 5）年度からデジタルサイネージ 3 ヶ所（生田キャンパス 1 ヶ所、神田キャンパス 2 ヶ所）を利用した広報活動も行っている。

【問題点】

- ・ 該当なし

【根拠資料】

- ・ 学生相談室委員会議事録
- ・ 学生相談室報告書第 38 号

第15期 自己点検・評価最終報告

〔21-3〕 障がい学生支援室

＜学生の修学に関する適切な支援（障がいのある学生に対する修学支援）を行なっているか＞（評点：

A)

(1) 達成目標

障がいのある学生に対して教職員が連携して修学上必要なサポートを行なう

(2) 最終報告

評価の視点①

障がいのある学生に対して修学支援を適切に実施する体制が構築されているか。

【現状説明】

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の法改正に伴い、2024年4月1日より私立大学においても合理的配慮の提供が法的義務となったことに合わせて、「専修大学における障がい学生支援に関する基本方針」及び「専修大学障がい学生支援室規程」を改正した。

障がい学生支援室が支援している学生数は2023年度は143名、2024年度は195名である。学生一人ひとりの障がいの状態と教育的ニーズに耳を傾け、個別性の高い支援を行なうため、ヒヤリングをおこない合意形成を行っている。また必要が認められる学生には定期面談を実施している。

障がい学生支援室のコーディネーターは、生田キャンパスでは臨床心理士・公認心理師1名、公認心理師1名、社会福祉士・精神保健福祉士1名、神田キャンパスでは公認心理師・社会福祉士1名、公認心理師・臨床発達心理士1名の合計5名が配置され、支援活動を展開している。ヒヤリング及び面談は、対面、電話及びオンラインを併用している。

教員はもちろんのこと、教務課、キャリア形成支援課、学生生活課、学生相談室、保健室等の関係諸機関との連携も概ね適切に行われ、実績も蓄積されつつある。

【長所・特色】

障がい学生支援室に登録している全学生には半期に一度フィードバック面談を実施し、ヒヤリングをおこない、後期（もしくは次年度）の支援方法の見直しを実施している。

2023年度フィードバック面談の人数は前期105名、延べ129回、後期112名、延べ122回である。

2024年度フィードバック面談の人数は前期133名、延べ136回、後期150名、延べ162回である。

障がい学生支援室に登録している学生の交流を促進することを目的としたプログラムを生田・神田両キャンパスでオンラインのハイフレックスで開催した。2023年度参加延数は113名である。2024年度参加延数は61名となった。学生ならではの視点で障がい学生への支援を展開し、障がい学生と共に学び成長することを目的としたピアサポーターを組織・養成している。2023年度は44名が登録し、2024年度は31名が登録して、生田・神田両キャンパスで活動を行っている。

障がいを持つ方への全学的な支援力を高めることを目的とした障がい学生支援室講座を2023年度は8回（参加学生・教職員合計153名）実施した。2024年度は7回（参加学生・教職員合計80名）実施した。

学生相談室とは定期的に情報交換を行っている。特に心理面での支援が必要と認められる学生については、個別に連絡を取りあっている。

本学で学び活動している学生の動画を「障がい学生支援に関する啓発コンテンツ」として4本作成（視覚障がい、聴覚障がい、身体障がい、ピア活動の紹介）し、教職員が視聴できるようにした。2024年度

SD 研修として専任教員は教授会を利用し視聴した。兼任講師へはメールを利用して SD 研修としての視聴を促した。

2024 年度に公益財団法人 CTC 未来財団の助成金交付により、基礎的環境の整備の一環として立体イメージプリンターおよび階段避難車を購入した。

【問題点】

2023 年度までは、神田キャンパスには障がい学生支援室がなかったため、相談ニーズのキャッチや緊急時の現場対応などを十分に対処しきれていなかったが、2024 年 4 月 1 日より神田校舎 5 号館 3 階スタディラウンジ 1・2・3 を障がい学生支援室として使用することができ、柔軟に対応することができるようになった。2024 年度の期間限定であり、恒久的でないところが目下の課題となっている。

また、障がい学生が増加している状況において、情報保障機器の整備が脆弱であることも課題となっている。

【根拠資料】

障がい学生支援室委員会資料

障がい学生支援室関係 HP

学生生活課業務分担表（人員配置）

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔22〕 体育部関係

<大学スポーツ協会（UNIVAS）との連携について>（評点：A）

（1）達成目標

大学スポーツ協会との連携を強化し事業の推進に協力する。

（2）最終報告

評価の視点①

体育会各部のガバナンス強化をはかるための取り組みの実施状況。

【現状説明】

大学スポーツ協会では、例年、研修会（管理者セミナー・指導者セミナー）が開催されており、その関連として、大学スポーツ協会から各大学に対して、ガバナンスの強化を図る観点等から、体育会各部の運動部指導者を対象にした学内研修会の実施を要請されている。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

2022（令和 4）年度より学内研修会を開催しているが、体育会各部の全ての指導者を一度に集めることは、困難な状況である。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点②

学内関係部署間の連携システムの構築。

【現状説明】

大学スポーツ協会では、学業成基準に関して、「運動部学生の学修支援となる単位数のめやす」を策定され、加盟大学について、一律に導入を課す内容ではないことが公表された。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

大学スポーツ協会に加盟している 32 競技団体には、本学における体育会以外の公認サークル（例えば、サーフィン愛好会、トライアスロンクラブ等）も含まれていることから、これらの公認サークルに対する学修支援体制を含めた指導体制について、学内関係部署間の連携システムを構築することは、困難な状況である。

【根拠資料】

該当なし。

＜体育会学生に対する競技および学業支援について＞（評点：A）

(1) 達成目標

体育会学生に対する競技および学業支援活動を実施する。

(2) 最終報告

評価の視点①

体育会学生に対する各種セミナー・研修会の実施状況。

【現状説明】

2023（令和5）年度

第1回コンディショニングセミナーを6月24日（土）に開催した。講師は、三宅一正氏（三宅スポーツマッサージ）が担当し、スポーツにおけるセルフコンディショニングについて（新入生向け）講演を実施した。第2回コンディショニングセミナーは、3月16日（土）に開催し、第1回と同様の講師が担当し、スポーツにおけるセルフコンディショニングについて（全学年向け）講演を実施した。

体育会リーダーズキャンプは、2月28日（水）～29日（木）に静岡県熱海市で開催した。

新入生セミナーは、3月25日（月）に開催した。

2024（令和6）年度

第1回コンディショニングセミナーを6月22日（土）に開催した。講師は、リオクリニック（フロンタウン生田内にある整形外科・スポーツ整形外科）が担当し、パフォーマンスアップとケガの予防について講演を実施した。第2回コンディショニングセミナーは、3月中旬に開催予定である。

体育会リーダーズキャンプは、2月27日（木）～28日（金）に静岡県熱海市で開催する予定である。

新入生セミナーは、3月25日（火）に開催する予定である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

体育会新入生セミナー実施報告書。

評価の視点②

体育会表彰式の実施状況。

【現状説明】

2023（令和5）年度

体育会表彰式は、3月19日（火）に開催した。

2024（令和6）年度

体育会表彰式は、3月15日（土）に開催予定である。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

体育会表彰式プログラム。

評価の視点③

低単位修得者に対する面談指導等の実施状況。

【現状説明】

前期は、前年度の単位数が2年次は30単位以下、3年次は65単位未満の学生に対して、体育部委員、体育事務課による面談指導を行っている。

後期は、前期の低単位取得者の中から1年次は14単位未満かつ前期取得率60%未満の学生、2年次は前期取得単位14単位未満かつ総取得単位48単位未満の学生、3年次は総取得単位70単位以下の学生に対して、体育部委員、体育事務課による面談指導を行っている。

【長所・特色】

本学の体育部委員会では、大学スポーツ協会の基準よりも厳しい基準を設けており、体育部委員、体育事務課による面談指導を行い、学修支援を行っている。

学修支援もあって2018（平成30）年度、2019（平成31）年度のスポーツ推薦入学者の4年間での卒業率は80%を超えている。

2020（令和2）年度の卒業率は80%を若干下回った。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

低単位修得学生一覧。

評価の視点④

ウインター競技所属学生に対する特別試験・追試験の実施状況。

【現状説明】

ウインター競技所属学生は、後期定期試験期間中が競技シーズンと重複することから、定期試験、追試験を受験することが出来ないため、ウインター競技所属学生に対する特別試験を、2月上旬に実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点⑤

体育会メディカルチェックの実施状況。

【現状説明】

体育会メディカルチェックは、3月下旬（新入生は4月上旬）に実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

該当なし。

評価の視点⑥

スポーツ推薦入学試験で入学をした留学生に対する学業支援状況。

【現状説明】

2023（令和5）年度

前期は、経済学部国際経済学科の学生1名、人間科学部社会学科の学生1名及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科の学生3名の計5名をチューターとして採用し、スポーツ推薦入学試験で入学をした留学生3名（バスケットボール部2名、陸上競技部1名）に対して、6科目の学修助言（英語による）を実施した。

後期は、経済学部国際経済学科の学生1名及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科の学生2名の計3名をチューターとして採用し、スポーツ推薦入学試験で入学をした留学生2名（バスケットボール部1名、陸上競技部1名）に対して、4科目の学修助言（英語による）を実施している。

2024（令和6）年度

前期は、経済学部国際経済学科の学生1名及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科の学生4名の計5名をチューターとして採用し、スポーツ推薦入学試験で入学をした留学生3名（バスケットボール部2名、陸上競技部1名）に対して、6科目の学修助言（英語による）を実施した。

後期は、経済学部国際経済学科の学生1名、国際コミュニケーション学部日本語学科の学生1名及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科の学生1名の計3名をチューターとして採用し、スポーツ推薦入学試験で入学をした留学生2名（陸上競技部2名）に対して、5科目の学修助言（英語による）を実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

神田キャンパスでは国際コミュニケーション学部の学生が留学後、外国人とのコミュニケーションの

場として、チューターを希望するケースがあるため、連携システムを構築したい。

【根拠資料】

該当なし。

＜体育会による地域貢献活動について＞（評点：B）

（1）達成目標

体育会各部による地域貢献活動を実施する。

（2）最終報告

評価の視点①

清掃活動「クリーンタウン」の実施状況。

【現状説明】

2023（令和 5）年度

クリーンタウンは、7 月 1 日（土）に実施する予定であったが、雨天のため中止となった。

2024（令和 6）年度

クリーンタウンは、7 月 6 日（土）に実施した。

生田、伊勢原体育寮に在寮している学生は、近隣の清掃活動を実施している。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

クリーンタウン実施報告書。

評価の視点②

スポーツ教室「ワンデーチームメイト」の実施状況。

【現状説明】

2023（令和 5）年度

ワンデーチームメイトは、8 教室が開催され延べ 535 名の参加者であった。

2024（令和 6）年度

ワンデーチームメイトは、9 教室が開催され延べ 699 名（10 月末現在）の参加者であった。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

ワンデーチームメイト実施報告書。

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔23〕就職指導関係

<学生の「個」を尊重するキャリア形成支援策の構築>（評点：S）

（1）達成目標

学生の進路希望や就職活動開始期や方法が多様化する中で、学生個々の特性や志向を踏まえたキャリア形成支援策を構築する。

（2）最終報告

評価の視点①

学生の傾向、志向性、活動状況等を把握するための各種アンケート調査の実施。

【現状説明】

- ①当課が展開している全ての講座において、講座の効果検証のためのアンケートを実施した。検証内容は各講座で設定する目的（自己理解・社会理解・能力開発）を対象に設定した。
- ②就職ガイダンスにおいて学生の「動向調査」及び「進路イメージ調査」を実施し、学生のニーズに合った支援プログラムの企画・実施に活用している。
- ③学生相談（対面・WEB）時のアンケート項目を以下の 5 つの評価軸に設定した。
 1. 傾聴共感・理解、問題理解（カウンセリングの開始）
 2. 気づきの提供（問題把握）
 3. 目指す方向性の検討（目標設定）
 4. 具体的に行動に向けた情報提供（方策実行）
 5. 利用満足度

【長所・特色】

個別相談のアンケートは毎月集計され、担当者にフィードバックが行われている。これにより、年度途中でであっても学生の意見を適宜反映するとともに、担当者のスキル向上にも寄与している点が大きな強みといえる。

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・ 2023 年度_キャリア形成支援課_支援プログラム出席アンケート_社会理解編
- ・ 支援プログラム検討用資料_2023 年度_キャリア形成支援課_支援プログラム出席アンケート_能力開発編
- ・ キャリア・就職相談アンケート改善案
- ・ 学生相談評価シート（月別）

評価の視点②

①の分析・検証とその結果の活用状況（就職支援プログラム、相談業務等）。

【現状説明】

- ①2023 年度の講座で実施された効果検証のためのアンケートについては、検証の結果、効果が小さいと認められた講座の廃止及び内容の変更を行った。
- ②「動向調査」及び「進路イメージ調査」で得られたデータから学生の傾向や志向性を把握し、必要と思われる各種講座の案内周知に活用した。個々の特性や思考を踏まえた支援を行っている。
- ③個別相談においてはアンケートの内容を集計し課内で共有した他、相談対応者毎に対応した学生のアンケート回答状況をフィードバックし、相談業務に役立てられる環境を構築した。

【長所・特色】

個別相談のアンケートは毎月集計され、担当者にフィードバックが行われている。これにより、年度途中であっても学生の意見を適宜反映するとともに、担当者のスキル向上にも寄与している点が大きな強みといえる。

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・ 2023 年度_キャリア形成支援課_支援プログラム出席アンケート_社会理解編
- ・ 支援プログラム検討用資料_2023 年度_キャリア形成支援課_支援プログラム出席アンケート_能力開発編
- ・ キャリア・就職相談アンケート改善案
- ・ 学生相談評価シート（月別）

<地方就職支援の強化と就職支援協定の実効性向上>（評点：A）

(1) 達成目標

現在各自治体と締結している就職支援協定をより実効性の高いものにし、地方へ就職を希望する学生により多くの選択肢を提供する

(2) 最終報告

評価の視点①

企業の個別説明会や選考会の学内開催状況。

【現状説明】

就職支援協定締結自治体の推薦企業を中心に、地方企業を対象とした企業説明会を 2023 年度より開催している。

【日本全国 地方企業 EXPO ～働く・暮らす場所から考える企業研究～】

参加企業の「仕事内容」や「地元との関わり方」などの情報を学生へ提供した。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・各イベント実施報告書
- ・企業の個別説明会や選考会の学内開催実績

評価の視点②

U I ターン関連イベントの学内開催状況。

【現状説明】

就職支援協定締結自治体からの情報を UIJ ターン希望者に提供するため、大学が企画するイベントと、各自治体が企画して学内（オンライン含む）で実施するイベントを開催している。

== <<大学主導イベント>> ==

【地域の魅力説明会 ～地域研究から紐解く就職活動・インターンシップ～】

就職支援協定締結自治体を招聘し、各自治体の魅力や UI ターン就職に関する情報提供を実施した。

【新しい就活の進め方】

学生の視野・選択肢を広げることを目的に、就職活動に働く場所と暮らす場所の観点を取り入れる講座を実施した。

【学生・保護者のための地方就職（UI ターン）ガイダンス】

地方就職の情報収集の方法や自治体の助成支援制度などに関する情報提供を実施した。2023 年度の参加人数が少なかったため、2024 年度は開催しない。保護者には育友会のメルマガなどを通じて、情報提供を行う。

== <<自治体主導イベント>> ==

【にいがた Café in 専修大学】

新潟県内の企業担当者などと大学生の交流会を実施した。

【秋田 こっちゃけ交流カフェ in 専修大学】

秋田県内企業で働く社会人と大学生の交流会を実施した。

【専修大学生のための栃木県U I J ターン就活セミナー】

栃木県が運営する専門機関の社員を講師として招き、UIJ ターン就職に関するセミナーを実施した。

【サプライチェーンから紐解く航空・宇宙業界】

兵庫県内に多くの部品メーカーが所在する航空・宇宙業界に関するセミナーを実施した。

【沖縄オンライン説明会】

沖縄県と就職支援協定を締結した四校（神奈川大学、関東学院大学、東京ウェディング・ホテル専門学校）が連携し、沖縄県内企業を知るための企業説明会をオンラインで実施した。

【ひろしま業界研究会（オンライン）】

広島県内の業界や企業のことを知るセミナーを実施する。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・各イベント実施報告書
- ・UI ターン関連イベント学内開催実績

評価の視点③

地方自治体が開催するUI ターン関連企画の学生や保護者への周知状況。

【現状説明】

地方自治体主催行事に関する情報については、S-net などに掲示し、定期的に情報を更新し情報提供を行っている。

保護者に対する情報周知は、毎月発行される育友会メールマガジンの活用、支部懇談会での『L0 活ガイドブック』の配布等を実施している。

支部懇談会会場数

2023 年 62 会場

2024 年 62 会場

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・育友会支部懇談会原稿

<障がい学生、外国人留学生、体育会学生への支援強化>（評点：A）

(1) 達成目標

それぞれの特性に沿った情報発信及び関係所管等と連携することで支援強化を図る

(2) 最終報告

評価の視点①

各セグメントに対するガイダンス等の実施状況。

【現状説明】

【障がい学生対象ガイダンス】

講師派遣協力団体：(株) ジェイ・ブロード

参加者数：3 名 (2023 年 6 月)

3 名 (2023 年 11 月)

0 名 (2024 年 5 月)

【外国人留学生対象ガイダンス】

日本での就活活動に関するガイダンスに加え、「就職活動に役立つ日本語講座」等より実践的な講座も展開している。

参加者数：28名（2023年5月）
講師派遣協力団体：東京外国人雇用サービスセンター

参加者数：13名（2023年6月）
3名（2023年10月）
4名（2024年5月）
講師派遣協力団体：(株) ベイイングローバル

【外国人留学生対象 就職活動に役立つ！日本語講座】
2024年10月実施予定
講師派遣協力団体：東京外国人雇用サービスセンター

【体育会学生対象ガイダンス】
参加者数：42名（2023年7月）
2024年度は10月に実施予定
講師派遣協力団体：(株) リクルート

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

・各実施報告書

評価の視点②

関係所管との連携状況。

【現状説明】

【障がい学生支援】

障がい学生支援室及び学生相談室と学生情報の共有を実施している。学生の状況に応じて適切に担当所管へ引継ぐため、当課の学生相談に障がい学生支援室スタッフが同席するなどして学生の利便性を高めている。

【外国人留学生支援】

国際交流事務課及び大学院事務課に留学生向け就職ガイダンスの告知を依頼している。

2024年4月には国際交流事務課主催「新入留学生歓迎プログラム」において「キャリアガイダンス」を実施した。

講師派遣協力団体：(株) ベイイングローバル

【体育会学生支援】

体育事務課を通じて、ガイダンスの開催案内と部員が参加する際の配慮を各部の監督にメールで依頼。さらに主務会議でもガイダンス開催の周知を依頼した。これらにより、体育会学生がガイダンスに参加しやすい環境づくりを進めている。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

評価の視点③

学内企業説明会等での情報発信状況（障がい学生、外国人留学生等の採用情報含む）。

【現状説明】

【障がい学生、外国人留学生支援】

求人情報は、就職支援システムにて周知している。なお、各種団体が主催する支援行事については、情報量が多いため、別途 Google ドライブに掲載している。更新情報については、学生相談室および障がい学生支援室とも情報共有を行っている。

【体育会学生支援】

各種団体が主催する体育会学生向けの企業説明会等の情報について、体育事務課を通じて体育会学生に周知する体制を構築している。（2023 年度：実績なし）

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

該当なし

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔24〕国際交流関係

＜国際交流協定校及び研修校との連携強化及び学生派遣プログラムの安定的かつ安全な実施＞（評点：

A)

(1) 達成目標

国際交流協定校及び研修校と連携を強化し、学生派遣プログラムを安定的に実施し、派遣学生の安全を確保する。

(2) 最終報告

評価の視点①

国際交流協定校・研修校と連携を強化できたか。

【現状説明】

- ・ラオス国立大学、ラオス国立大学経済経営学部、およびラオス商工会議所と専修大学、専修大学会計学研究所、川崎商工会議所の間で、「ラオス国内における簿記教育の発展・普及に係る協力協定」が締結されていることから、令和 5 年 4 月にラオス私立教育協会訪問団が、専修大学を訪問した。令和 5 年・6 年の 2 か年において、ラオス国立大学から合計で 4 名の海外客員教授を商学部招聘した。
- ・ウーロンゴン大学から 2 年間にわたり学生（18 名／16 名）の訪問団が来校し、本学学生と交流会を行った。また、夏期留学プログラムでウーロンゴン大学に派遣した学生と現地学生との交流会がウーロンゴン大学主催で行われた。
- ・ハレ大学からも 5 年ぶりに 11 名の学生訪問団を令和 6 年 3 月に受入れ、参加者のうち 2 名が令和 6 年 9 月から 1 年間の交換留学生として来日した。
- ・日本・ベトナム外交関係樹立 50 周年を記念した国際シンポジウム出席と併せて、令和 5 年 9 月に学長と理事長がベトナムの協定校を表敬訪問した。
- ・令和 6 年 8 月には、総長と理事長が韓国の協定校である檀国大学を表敬訪問した。
- ・ネブラスカ大学リンカーン校の受入れ担当者が 2 年連続で本学を訪問し、交換留学の不均衡状態について協議し、具体的な解消案によって交流の一層の発展を目指すことで合意した。

【長所・特色】

- ・全体としては、各協定校と長年の交流を通じて、相互の信頼・協力関係がある。特に東南アジア（ラオス・ベトナム）については、協定校のレベルを超えて先方の諸機関と、さらには国レベルでも交流の基盤を築きつつある。
- ・ネブラスカ大学リンカーン校とは長年にわたる交流の実績があり、「BCL プログラム」で安定的に学生を受け入れている。
- ・ラオス、ベトナム、タイなどの東南アジア各国の大学では、日本への関心が高く、それぞれの国の協定校から本学に安定的に交換留学生を受け入れている。
- ・韓国および東南アジア各国の大学とは、大学トップレベルでの交流も行われている。

【問題点】

- ・東南アジアの各協定校については、タイ商工会議所大学以外は、本学からの留学実績はまだない。この問題に対応するため、東南アジア・スタディツアーについては、タイ以外の協定校において、新規コ

ースの開設に向けて、情報収集などの準備を進めている。

- ・ネブラスカ大学リンカーン校については、交換留学の不均衡の状態を解消するために、同大学から本学への受入れ学生を増やすべく、先方の派遣担当の各部署と協議して、促進策を講じる必要がある。
- ・各協定校・研修校への派遣学生を増やすために、新規プログラムの開発や、各種留学プログラムの募集・広報活動をより積極的に行う必要がある。
- ・円安、物価上昇、留学費用の高騰により、留学希望者が減少傾向にある。外部奨学金の獲得や留学者の費用負担の軽減となる仕組みや制度の確立が急務となっている。

【根拠資料】

- ・ Letter of Extension for the Memorandum of Understanding for Developing and Promoting Bookkeeping Education in Laos
- ・ ラオス私立教育協会訪問団スケジュール (April-26-2023)
- ・ 令和5年度/6年度国際交流協定校からの海外客員教授の受入れについて
- ・ 令和5年度/6年度 国際交流協定校等との往来一覧

評価の視点②

安定的かつ安全に学生派遣できるプログラム体制を構築できたか。

【現状説明】

- ・コロナ禍が収束しつつあるものの、派遣先での受入れ体制や滞在先について等、不安定な状況がまだ見られる。

【長所・特色】

- ・受入れ機関と綿密に連絡を取り合い、学生が安心して留学生生活を営めるよう配慮している。
- ・危機管理専門機関によるサポートサービスに加入しており、派遣学生が24時間相談できる体制が構築されている。
- ・新規開設コースについては、国際交流センター委員及び事務スタッフが視察を行うなど危機管理を行っている。

【問題点】

- ・派遣先の受入れ体制が十分に安定しているとは言えないため、協定校及び研修校と連絡を取り合い、情報収集することによって事前に対策を立てる必要がある。
- ・当センターの人員配置に課題があり、体制の強化が望まれる。

【根拠資料】

- ・留学プログラム危機管理マニュアル
- ・危機管理サポートサービス資料

<ポストコロナ時代における新たな国際交流活動の開発・実施> (評点：A)

(1) 達成目標

ポストコロナ時代における国際交流活動推進と国際交流協定校との交流活性化のため、オンラインを

も活用したプログラムを実施し、国際交流協定校等の学生との多様な共同学習の機会を提供し、学生交流を活性化させる。

(2) 最終報告

評価の視点①

オンラインを活用したハイブリッド型の留学プログラムとして、新規に東南アジア・スタディツアーを実施し、本学学生が協定校の学生と共同で学習する機会を提供できたか。

【現状説明】

- ・令和 5 年度には協定校のタイ商工会議所大学において、オンラインと渡航を組み合わせたハイブリッド型留学として、東南アジア・スタディツアーを 8 月下旬～9 月上旬に実施し、8 名が参加した。参加学生は、協定校学生と日本・タイ両国の SDGs の取組やタイの文化や社会をテーマに英語で討論や交流したり、タイの伝統文化について学んだりするなど共同学習の機会を提供できた。しかし、令和 6 年度については、最少催行人数に満たず、中止となってしまった。

【長所・特色】

- ・東南アジア・スタディツアーは、東南アジアの協定校への初の学生派遣プログラムとなり、オンラインと渡航を組み合わせた初めての「ハイブリッド型留学」となった。
また、東南アジア諸国の非英語圏における英語によるプログラムは、昨今の留学費用の高騰による留学離れに対応する新たな試みともなった。

【問題点】

- ・令和 5 年度に参加した学生のアンケートでは、2 週間の現地でのスケジュールにプログラムの予定が朝から晩まで詰まっていた予習・復習の時間が取れなかったとの感想があった。令和 6 年度は、もう少し余裕のあるスケジュール設計にしたものの、応募者が最少催行人数を下回り、実施することができなかった。
- ・海外への渡航制限がなくなったため、英語圏または欧米人気が強まっている。その様な中、東南アジアでの留学者を確保すべく魅力あるプログラム作りと広報が必要不可欠である。

【根拠資料】

- ・令和 5 年度東南アジア・スタディツアー修了者一覧
- ・Intensive Thai Course for Japanese Student

評価の視点②

SiU インターナショナルプログラムを新たに実施し、本学学生が協定校の学生と共同で学習する機会を提供できたか。

【現状説明】

- ・SiU インターナショナルプログラムとして、寮内留学プログラム（後期）参加学生（令和 5 年度 15 名、令和 6 年度 13 名）を、既存の留学生受入れプログラムである日本理解（BCL）プログラムの授業の一部及び海外客員教授による国際交流特別講演会に参加させ、英語で留学生と日本のビジネスや文化について学ぶ機会を提供する事ができた。また、SiU インターナショナルプログラムに参加した学生からのアンケートからも予想を上回る成果が感じられ、反響もさることながら、留学生との共同学習に一定程

度の効果があった。

【長所・特色】

- ・本学学生と留学生が、生活面での交流にとどまらず、共同で学習し、成果を発表する機会を提供することができた。

日本にしながら、日本のビジネスと文化について、英語で学ぶ事ができ、語学をツールとしたコミュニケーションだけでなく、より専門的な分野について英語で学べる機会と海外留学に繋がるモチベーションを提供する事ができた。

【問題点】

- ・寮内留学生が日本理解（BCL）プログラムの授業を聴講する際、履修している正規授業との重複により、調整を要する事が多々あった。

令和 8 年度から、協定校からの交換留学生も履修できる英語による学部横断型の正課授業科目が開講されれば、履修重複の問題は解決されると思われる。

【根拠資料】

- ・令和 5 年度/6 年度寮内留学プログラム（後期）参加者一覧
- ・SiU インターナショナルプログラムのレポートのまとめ

評価の視点③

協定校等の学生と本学学生との多様な形態での交流が実施できたか。

【現状説明】

- ・神田グローバルフロアにおいて、季節に応じた交流イベント（七夕まつり、Thanksgiving）を開催することができた。また、留学生が自国の文化を紹介する異文化理解講座（ケニア、フランス）を対面で開催した。令和 7 年 2 月には東南アジアからの交換留学生（ラオス・カンボジア）により、同講座をオンラインにて開催する予定である。
- ・国際交流会館内において、アシスタント学生や寮内留学生が留学生との交流イベント（ハロウィンパーティー、各国の料理教室他）を随時企画し開催することができた。

【長所・特色】

- ・本学学生と留学生だけでなく、神田キャンパス近隣の日本語学校（九段日本語学院）の留学生にも案内し、交流の機会を提供している。
- ・本学学生が他国の文化に関心を持つきっかけとなっている。
- ・交流イベントについては、本学学生が留学生との相互理解を深めたいとの気持ちから、国際交流会館に滞在している RA・RP の学生を中心に、自主的に計画されるものがある。

【問題点】

特になし。

【根拠資料】

- ・グローバルフロアイベントについて（国際交流センター委員会報告）
「世界のまつり（中国編）、七夕まつり、Halloween Party、Thanksgiving Party、Christmas Party、アジアの新年」

<ポストコロナ時代における学生派遣・留学生受入れプログラムの再活性化>（評点：S）

(1) 達成目標

海外への学生派遣及び海外からの留学生受入れを再開したことに伴い、派遣人数及び受入れ人数の増加を図り、各プログラムのより一層の充実を目指す。

(2) 最終報告

評価の視点①

学生派遣人数を増加させることができたか。各留学プログラムの参加生が内容に満足し、学びに対して意識の変容が見られたか。

【現状説明】

- ・タイ商工会議所大学に派遣する「東南アジア・スタディツアー」を新たに実施し、本学学生8名をタイに派遣した。既存の派遣プログラムはすべて再開され、コロナ禍以前の状態に戻った。令和5年度は、参加者数も、コロナ禍以前の状態にまで回復したものの、令和6年度については、短期留学プログラムの中止に伴い、若干減少した。
- ・令和5年度に実施した東南アジア・スタディツアーの終了後のアンケートでは、88%の学生が「満足」と回答した。
- ・夏期留学プログラムのアンケートでは、参加者全員が「自己成長を感じた」と回答している。同様に、全員が「留学先の文化や社会について理解を深めることができた」と回答した。ウーロンゴン大学参加者は、「インターシップ」について81%の学生が「とても満足」または「満足」と回答している。さらに、97%の学生が、留学前よりもコミュニケーション能力や自身の語学スキルが向上したと答えた。このように、全体的にプログラムを通して学生が自己成長を感じられ、特に語学能力や異文化への理解が深まっていると評価できる。

【長所・特色】

- ・オンライン学習と渡航を組み合わせた新たな留学プログラムを設計・実施できた。
- ・東南アジア・スタディツアーは、事前研修及びオンラインによる研修を行うことにより、現地では効率的に学習・見学・体験をすることができた。
- ・夏期留学プログラムについては、参加学生は概ね語学能力が向上し、異文化への理解が深まったと回答しており、短期間ながら、自己成長が感じられるプログラムになっている。

【問題点】

- ・東南アジア・スタディツアーの定員を満たすべくより積極的な広報が望まれる。
- ・応募学生が最少催行人数に満たず、中止したコースがあった。（令和5年度：春期留学ワイカト大学、令和6年度：春期留学国立中山大学、トゥーレーヌ語学センター、マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク）
- ・令和6年度春期留学プログラム（カルガリー大学）コースについては、航空会社によるキャンセルポリシーが厳格化され、団体での事前手配が困難となったため、募集中止とした。コロナ禍以降、航空会社のルールの変更や航空運賃の改定、燃油サーチャージ

【根拠資料】

- ・令和5年度/令和6年度夏期留学プログラム アンケート回答結果
- ・令和5年度東南アジア・スタディツアー終了後アンケート集計結果
- ・海外留学・国際交流ガイド2024ーFact&Figuresー

評価の視点②

協定校等からの留学生受入れ人数を増加させることができたか。キャンパス内の学生交流の機会を提供できたか。

【現状説明】

- ・コロナ禍以前の受入れ人数にまでほぼ回復し、留学生を受入れることができた。
- ・神田キャンパスのグローバルフロアイベントとして、異文化交流イベントを年3～4回実施し、留学生・本学学生併せて約100名が参加した。
- ・ネブラスカ大学リンカーン校（米国）、ウーロンゴン大学（オーストラリア）、マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク（ドイツ）から、短期かつグループ単位で留学生を受入れた。
- ・交換留学生及び正規留学生による異文化理解講座を実施し、多くの学生が参加した。
- ・短期留学生のキャンパスアシスタントとして、419名（令和6年11月現在）が登録し、毎期ごとに歓迎会やキャンパスツアー、日本語クラスビジター等が行い、留学生と本学学生の学生交流の機会となっている。

【長所・特色】

- ・コロナ禍の収束によって、海外留学や国際交流が活発になり、留学生も本学での生活・学びに対して積極的な姿勢が見られた。
- ・令和5年より対面での交流が大幅に増えたため、直接交流する機会ができ、本学学生の他国に対する関心と理解が促進されている。
- ・交換留学生が本学と日本についての理解を深めるとともに、本学学生は、協定校等から受入れる短期留学生の出身国の異文化への関心が高まっている。

【問題点】

- ・海外からの留学生にとっては、円安効果の影響もあるため、コロナ禍以前よりもさらに留学生受入れ人数を増加させる策を講じる必要がある。
- ・具体的には、学生交流不均衡などが生じている協定校からの留学生に対する、授業料や滞在費免除プログラムの充実である。
- ・本学学生が留学生と交流する機会をさらに増やし、本学のグローバル教育を推進並びに国際交流センター事業の正課教育にコミットすることが望ましい。

【根拠資料】

- ・令和4年度/令和5年度国際交流センター年間実施行事

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔25〕キャリアデザイン関係

<キャリア教育の充実について>（評点：A）

（1）達成目標

学生がキャリアデザインについて体系的に学べるよう、正課キャリア教育科目の体系化および、キャリアデザイン PBL プログラム「問題解決型チャレンジプログラム」の効果検証を行う。

（2）最終報告

評価の視点①

①令和 8（2026）年度カリキュラム改正に向けたキャリア教育科目の体系化

令和 8 年度にキャリア教育科目として「キャリア科目 3」の新設を予定している。同科目は 1・2 年次の夏期休暇期間を利用した就業体験制度「キャリア探索型プログラム」と、1～3 年次が参加するキャリアデザイン PBL プログラム「問題解決型チャレンジプログラム（旧：課題解決型インターンシップ）」の単位認定科目を予定している。「キャリア科目 3」が新設されることにより、同科目とキャリア入門・キャリア科目 1（キャリア開発）・キャリア科目 2（キャリア研究）の有機的な連携は、学生のキャリア意識を体系的に育成することにつながることから、令和 8 年度に向けて正課科目に位置付けられるキャリア科目の体系化マップを作成する。

【現状説明】

「キャリア科目 3」は、「キャリア探索型プログラム」を「キャリアマッチング」、「問題解決型チャレンジプログラム（旧：課題解決型インターンシップ）」を「キャリア長期体験（プロジェクト型）」として科目名称を決定し、学内機関にて承認が得られた。キャリア教育体系化ワーキンググループでは新設される二科目の講義要項（シラバス）の内容を検討し、「キャリアマッチング」は学生の社会理解を促すことを目的に、「キャリア長期体験（プロジェクト型）」はプロジェクト活動を通じて社会人基礎力の涵養を目的に実施する方向性が承認された。

【長所・特色】

新設科目「キャリアマッチング」と「キャリア長期体験（プロジェクト型）」の授業内容の方向性が定まったことから、学生のキャリア形成を段階的・計画的に育成するため、既存のキャリア入門・キャリア科目 1（キャリア開発）・キャリア科目 2（キャリア研究）との有機的連携を視野に入れ、キャリア教育関連科目の体系化マッピングを策定することが可能となる。また、本学で実施している「キャリア探索型プログラム」はキャリア意識の醸成とともに、大学生の学習意欲や学生生活を見直す意識にも効果と示すことが明らかになっていることから、同プログラムと連携して行われる「キャリアマッチング」は、社会理解を深めるとともに学生の学習や生活に対する行動変容を期待することができる。これらの効果を活用し、キャリア教育体系化 WG では「キャリアマッチング」の授業内容を検討することができる。

【問題点】

令和 8 年度のカリキュラム改正に向けて、令和 7 年度中には、新科目を含めたキャリア教育関連科目

の体系化マッピングを策定する必要がある。

【根拠資料】

キャリア教育体系化 WG 資料（令和 6 年度）

評価の視点②

問題解決型チャレンジプログラムの教育的効果検証

キャリアデザイン PBL プログラム「問題解決型チャレンジプログラム（旧：課題解決型インターンシップ）」は令和 8 年度にキャリア教育科目として「キャリア科目 3」の単位認定科目として設置予定である。同プログラムは主に社会人基礎力の育成を目的に実施されているため、同プログラムの教育的効果検証として、社会人基礎力に着目した効果測定・分析を実施する。

【現状説明】

2023 年 5 月の第一回調査と同年 8 月の第二回調査に加えて、第三回調査を 2023 年 12 月から 2024 年 2 月にかけて、参加学生に実施した。加えて、客観的評価の調査として 2023 年 12 月から 2024 年 1 月にかけて、問題解決型チャレンジプログラムの受入先企業に実施した。参加学生の 3 回の調査すべてに回答した対象者 42 名を分析した結果、問題解決型チャレンジプログラムの活動を通じて、社会人基礎力の「伝える力」「働きかける力」「考える力」において、学生は成長実感を得ることができていることが明らかになった。さらに、学生が成長実感を得ることができている「考える力」においては、問題解決型チャレンジプログラム受入先からも高い評価を得られていることがわかり、同プログラムは社会人基礎力の「考える力」を伸長させる効果が期待できることが明らかになった。

【長所・特色】

本調査を通じて、問題解決型チャレンジプログラムに参加している学生は、チーム活動や受入先からの問題解決における問いに対して「考え続ける」ことを意識しており、プログラム参加の動機が「考える力」の涵養であったことが、これらの調査で明らかになった。この調査で明らかになった教育効果については、キャリアデザインセンターのパンフレットに記載し、プログラム参加者の増加や学外への広報に寄与することが期待できる。さらに、問題解決型チャレンジプログラムは新科目「キャリア長期体験（プロジェクト型）」と連動して実施するため、本調査で得られた結果を活用し、同科目の授業内容をキャリア教育体系化 WG にて検討することができる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

問題解決型 CP 分析結果資料（受入先説明資料）

<キャリア探索型プログラム・インターンシップの充実について>（評点：B）

(1) 達成目標

「キャリア探索型プログラム」の正課科目化に向けた制度設計および低学年次の社会理解を深める機会の拡充

(2) 最終報告

評価の視点①

令和 8 年度カリキュラム改正に向けた新科目「キャリア科目 3（キャリア探索型）」設置のための就業体験制度の見直し

「キャリア探索型プログラム」は令和 8 年度にキャリア教育科目として「キャリア科目 3」を単位認定科目として設置予定である。同プログラムには就業体験制度を受け入れる企業等の理解が必要であるため、カリキュラム改正に向けた制度設計に向けて、現状の受け入れ先企業への説明を通じて単位認定科目の理解を深め、キャリア探索型プログラムにおける就業体験制度の再設計を図る。

【現状説明】

令和 8 年度カリキュラム改正に向けて、「夏期キャリア探索型プログラム」は新科目「キャリアマッチング」と連携してプログラムを実施することが決定した。さらに令和 8 年度に向けて、「春期キャリア探索型プログラム」は令和 6 年 4 月 16 日付の就職問題懇談会の提言に基づき、令和 7 年度以降の実施を取りやめ、同プログラムの参加を夏期のみと絞ることとした。これらのプログラム変更に関する周知は、令和 6 年度夏期におけるキャリア探索型プログラム・インターンシップに参加意思を示した企業 64 社に通知した。

【長所・特色】

キャリア探索型プログラムの実施を夏期のみとしたこと、また、同プログラムが令和 8 年度から新科目「キャリアマッチング」と連動していくことから、夏期キャリア探索型プログラムに参加する学生、すなわち「キャリアマッチング」の履修者増が見込まれ、低学年次からのキャリア教育の充実、キャリア入門との連携強化に寄与することが期待できる。

【問題点】

今期では、新科目「キャリアマッチング」の科目の説明を本センターと提携している企業に説明するには至っていない。令和 7 年度以降は提携する企業向けに「キャリアマッチング」についての理解を深める施策が必要である。

【根拠資料】

キャリアデザインセンター運営委員会資料（令和 6 年度）

評価の視点②

低学年時（1・2 年次）への社会理解を深める就業体験機会の拡充

現在のキャリア探索型プログラムには、2020（令和 2）年度が 1 年次 8 名、2 年次 8 名、2021（令和 3）年度は 1 年次 9 名、2 年次 44 名、2022（令和 4）年度は 1 年次 12 名、2 年次 22 名と、低学年次の参加者にばらつきがみられる。低学年次から就業体験に参加することは社会理解を深めることにつながり、3 年次には希望する進路や将来働きたい職業・業種を絞り込むことができる。そのため、低学年次の受け入れが可能な企業等を開拓し、1・2 年次の就業体験の参加者数を

【現状説明】

2023（令和 5）年度における夏期キャリア探索型プログラムに参加した 1 年次は 4 名、2 年次は 7 名（インターンシップは 2 年次が 5 名参加）であった。2024（令和 6）年度夏期キャリア探索型プログラムでは参加者増加に向けて、1・2 年次を対象とした低学年次向けの「キャリアマッチングガイダンス ～将来に向けて自分に合った学生生活の過ごし方を考えよう！～」講座（オンライン）を実施、また、1 年次配当のキャリア入門で周知を行ったものの、1 年次が 4 名、2 年次が 12 名（インターンシップが 5 名参加）に留まった。

【長所・特色】

低学年次から就業体験に取り組むことは就労意欲の向上が期待できる。

【問題点】

2023（令和 5）年度は本学と提携して就業体験を実施可能とする 37 社のうち 18 社が派遣学生 0 名、2024（令和 6）年度は 44 社のうち 16 社に学生を派遣できていない状況にある。受入先の拡充は 2023 年度から 2024 年度に向けて微増はしたものの、低学年次の参加者が少ないことは、彼らの就業意欲やキャリアに関する意識を変革する必要があることから、引き続き次期に向けての重要な課題として設定していく必要がある。

<社会連携の推進について>（評点：A）

(1) 達成目標

学長室と協力して、キャリアデザインセンターが実施するプログラムを通じて、社会との連携を深める。特に S D G s の推進等に貢献する取り組みをプログラム内で実現させる。

(2) 最終報告

評価の視点①

附属高校との連携

専大ベンチャービジネスコンテストへの附属高校生の参加を推進し、キャリア教育の高大連携を図る。

【現状説明】

令和 5 年度は、専修大学附属高校第 2 学年生徒を対象とした授業「総合的な探究の時間」におけるベンチャービジネスプログラム担当者による附属高校での講演、専大ベンチャービジネスプログラム第 10・11 回「アイデアピッチ」への同校生徒の参加を実施した。令和 5 年度の専大ベンチャービジネスコンテストには附属高校生 34 組からエントリーがあり、1 組が本選に出場した。令和 6 年度は専修大学附属高校から専大ベンチャービジネスコンテスト参加の意思は確認できたものの、同校からのエントリーは 0 名であった。

【長所・特色】

「スタートアップ育成 5 か年計画」（内閣府）には、小中高校生向けに総合的学習等の授業時間も活用した起業家教育の実施の拡大を図ることが目標とされており、本学の 2 年に亘った取組は、国が掲げる方針と合致することから、大学をアピールする材料のひとつになる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

キャリアデザインセンター運営委員会資料（令和 5・6 年度）

評価の視点②

キャリアデザイン PBL プログラムの公開

学長室と協力して、キャリアデザインセンターが実施する「ベンチャービジネスプログラム」「問題解決型チャレンジプログラム（旧：課題解決型インターンシップ）」につき、SDGs の視点を付加・強調しつつ、社会に発信する。また、各プログラムの発表会などを公開することで、本学の教育について広く社会に発信し理解の促進を図る。

【現状説明】

問題解決型チャレンジプログラムでは、2023（令和 5）年度は 20 の受入先に対して 112 名が、2024（令和 6）年度も同様に 20 の受入先に対して 125 名の学生が参加した。2023（令和 5）年度は 12 月に成果報告会をオンラインで実施し、2024（令和 6）年度はコロナ禍前の対面形式に戻して成果発表会を実施予定である。また、「ベンチャービジネスプログラム」内のビジネスコンテストでは、第 1 次応募者 61 組のうち、1 次審査を通過した 10 組が最終審査（プレゼンテーション大会）に進み、最終審査当日に学外へライブ配信した。これらのイベントの学外への配信においては、PBL プログラムが、現実の問題・課題を解決するためのアイデアの創出、計画立案、実現に加えて SDGs に関連した社会課題の解決などに取り組んでいることを強調して周知した。また学長室と連携し、専修大学ホームページ「SDGs の取り組み」の中の「社会知性を開発するキャリアデザイン PBL プログラム」のページにおいて、PBL プログラム全体が SDGs と関連する取り組みであることを強調した。

【長所・特色】

SDGs に関連した成果発表会やビジネスコンテストの取り組みを社会に発信することは、大学が SDGs に貢献できていることを示す重要な情報発信のひとつとなったと考えられる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

キャリアデザインセンター運営委員会資料（令和 5・6 年度）

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔26〕社会知性開発研究関係

<社会知性開発を担う研究拠点としての役割について>（評点：A）

（1）達成目標

本学における「社会知性の開発」を担う研究拠点としての役割を果たす。学内の研究者を中心とする共同研究プロジェクトを促進する。

（2）最終報告

評価の視点①

外部資金等を活用した研究プロジェクトの立ち上げ状況。

【現状説明】

令和 3 年度に日本学術振興会が募集した「令和 4（2022）年度研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）」に、ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点から申請を行い採択された。研究交流課題名は「アジア型社会関係資本を活かした途上国における能動的レジリエンスの醸成」。研究活動の期間は令和 4～6 年度、研究活動資金は日本学術振興会が 100%負担している。

令和 6 年度に日本学術振興会が募集した「令和 7（2025）年度研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）」に、経済学部徐一睿教授をコーディネーターとする研究グループが社会知性開発研究センターを母体として申請を行った。研究交流課題名は「自然災害に対する生計の脆弱性と適応戦略」。結果通知は令和 7 年 2 月の予定。科学技術振興機構が募集する研究事業へ、ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点から令和 5 年 6 月に 2 件、令和 6 年 6 月に 1 件、合計 3 件の申請を行ったが、いずれも不採択となった。

【長所・特色】

新たに立ち上がった、また立ち上げようとしているプロジェクトは、いずれも本学における「社会知性の開発」を担うべく、中期計画（2021～2025 年度）において「計画の柱」として掲げられている「研究力の向上」に寄与すると言える。また、研究プロジェクトが採択された場合には、その研究成果は近い将来地域貢献・社会貢献・国際貢献に結実すると考えられる。

【問題点】

研究代表者を中心に各種検討を重ねて申請している。しかしながら令和 5 年度・6 年度に申請した研究提案はこれまでのところ採択されておらず、厳しい状況が続いている。

【根拠資料】

- ・ 令和 4 年度（2022 年度）独立行政法人日本学術振興会研究拠点形成事業－
B. アジア・アフリカ学術基盤形成型－申請書
- ・ 令和 4（2022）年度研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）
審査の結果について（通知）
- ・ 令和 5 年度戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）研究開発プロジェクト
提案書

(シナリオ創出フェーズ分、令和 5 年 6 月 5 日提出)

- ・ 令和 5 年度戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）書類選考結果について
(シナリオ創出フェーズ分、令和 5 年 7 月 21 日通知)

- ・ 令和 5 年度戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）研究開発プロジェクト
提案書

(社会的孤立枠分、令和 5 年 6 月 7 日提出)

- ・ 令和 5 年度戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）面接選考結果について
(社会的孤立枠分、令和 5 年 9 月 27 日通知)

- ・ 令和 6 年度社会技術研究開発事業 研究開発プロジェクト提案書
(社会的孤立枠分、令和 6 年 6 月 5 日提出)

- ・ 令和 6 年度社会技術研究開発事業書類選考結果について
(社会的孤立枠分、令和 6 年 8 月 19 日通知)

- ・ 令和 7 年度（2025 年度）独立行政法人日本学術振興会研究拠点形成事業－

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型－申請書

評価の視点②

本学における「社会知性の開発」を担う人材としてのリサーチ・アシスタント（RA）、ポスト・ドクター（PD）等、若手研究者の育成状況及び研究支援体制の整備。

【現状説明】

令和 5 年度及び 6 年度におけるリサーチ・アシスタント（RA）及びポスト・ドクター（PD）の採用はないものの、社会知性開発研究センターの構成員（センター員）として国内・海外における調査、学会での研究発表や年報・論集への掲載等に関する経費使用可能とする規程を整備することで、RA・PD の研究活動の支援につなげている。

【長所・特色】

これまで RA・PD として研究活動に携わった多くが、研究期間内に学位を取得している。退職後令和 6 年度までに、本学専任教員として 1 名（過去 RA 及び PD として在籍）が、また本学助教として 5 名（いずれも過去 RA として在籍）が、それぞれ採用されている。

その他にも、退職後に国内外の大学や研究機関において職を得た研究者がいる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 専修大学社会知性開発研究センター規程
- ・ 専修大学社会知性開発研究センター調査研究旅費に関する規程
- ・ 専修大学社会知性開発研究センターリサーチアシスタント及びポスト・ドクターに関する規程
- ・ 学位授与原簿
- ・ 平成 30 年度 法人役員・専任教員アルバム
- ・ 令和 2 年度 法人役員・専任教員アルバム
- ・ 令和 4 年度 法人役員・専任教員アルバム

- ・令和6年度 法人役員・専任教員アルバム
- ・駿河台大学ホームページ
- ・四川師範大学ホームページ
- ・台南應用科技大學ホームページ

評価の視点③

研究成果の教育への展開状況。

【現状説明】

ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点の構成員によるオムニバス形式で、大学院修士課程の授業科目「特殊問題特論（アジアにおけるソーシャル・キャピタル／ウェルビーイング）」を令和5年度・6年度とも開講した。文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定されていた社会関係資本研究拠点（平成21年度～平成25年度）とソーシャル・ウェルビーイング研究拠点（平成26年度～令和5年度）での研究成果に基づく教育の展開がなされている。

【長所・特色】

国際研究協力の成果である国際的コンソーシアムの協力体制と調査結果を活用している講義となっている。本学の国際研究協力の成果を全研究科の大学院生に還元し、また国際的な共同研究の実例を学ぶ機会を提供している。

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・専修大学 Web 講義要項
（シラバス）〔大学院用〕

<研究活動の活性化について>（評点：A）

(1) 達成目標

社会知性開発研究センター内の各研究拠点による調査研究活動及びその成果発表を通じて、本学のアカデミック・ステイタスの向上に寄与する。

(2) 最終報告

評価の視点①

社会知性開発研究センター内の各研究拠点の国内・国外の研究機関との連携の進展状況。

【現状説明】

≪四川・ローカルリスクコミュニケーション研究拠点に関して≫

教育部高校国別・地域研究備案センター四川師範大学日韓研究院との共同調査研究に関する覚書を令和4年10月に締結している。有効期間は、令和10年12月までとなっている。

≪ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点に関して≫

ベトナム社会科学院社会学研究所、タイ・チュラロンコン大学社会調査研究所、インドネシア大学社会政治科学部社会政治研究所及び韓国・ソウル国立大学社会科学部社会科学資料院と国際交流組織間協定を締結している。いずれも令和4年度内に締結し、有効期間は令和7年3月までとなっている。さらに

は、国内研究機関である情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設社会データ構造化センターとの学術交流・協力に関する覚書を締結している。

【長所・特色】

拠点の研究代表者を中心に国内外の研究機関と連携しながら研究活動を行っている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 四川_日本研究中心との覚書(2022年10月1日締結)
- ・ Agreement IOS_Senshu_2022_Eng
- ・ Letter_of_Extension_2022_Thailand_CUSRI_final
- ・ Letter_of_Extension_2022_Indonesia_ISPRD_final
- ・ Agreement_SNU-Senshu_2022New_v0516

評価の視点②

社会知性開発研究センター内の各研究拠点の研究会やシンポジウム等の開催状況。

【現状説明】

≪四川・ローカルリスクコミュニケーション研究拠点に関して≫

令和5年11月24・25日に、四川師範大学において、同大学との共催による研究会「第七回災害復興歴史社会学及び社会統治国際検討会」を開催した。テーマは「日中復興評価方法の国際比較」「復興災害対応システムの国際比較」「共同富裕と復興教育」。

令和6年11月1日に、四川師範大学において、同大学との共催による研究会「第八回災害復興歴史社会学及び社会統治国際検討会」を開催した。テーマは「災害応急対応のガバナンスの中日比較（1. 中国と日本における高速インフラ〔道路、鉄道等〕災害の危機管理の比較 2. 復興時の災害対応機種の国際比較）」。

≪ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点に関して≫

令和5年7月25日に、ベトナム社会科学院（VASS）所属の研究者2名を講師として招き、社会科学研究所との共催による研究会を生田校舎から配信するハイブリッド形式で開催した。11名が参加した。

令和5年9月5日～7日に、若手研究者の育成を目的に、Early-Career Researchers Workshop 2023をインドネシアで開催した。フィールドトリップ、インドネシア大学から配信するハイブリッド形式でのワークショップ・セミナー及びシンポジウムを行った。日本及びアジア7か国・地域（タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、モンゴル、韓国、台湾）の研究者26名が参加した。

令和5年10月3日に、ベトナム出身の神奈川県外国人相談窓口相談員を講師として招き、社会科学研究所との共催による研究会を生田校舎で開催した。14名が参加した。

令和5年10月12日に、ベトナム社会科学院（VASS）所属の研究者2名を講師として招き、研究会をサテライトキャンパスから配信するハイブリッド形式で開催した。23名が参加した。

令和6年2月7・8日に、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設社会データ構造化センターとの共催による国際シンポジウムを生田校舎から配信するハイブリッド形式で開催した。日本及びアジア7か国・地域（タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、モンゴル、韓国、台湾）の研究者26名が参加した。

令和6年7月31日～8月2日に、若手研究者の育成を目的に、Early-Career Researchers Workshop 2024をモンゴルで開催した。フィールドトリップ、モンゴル国立大学から配信するハイブリッド形式でのワークショップ・セミナー及びシンポジウムを行った。日本及びアジア7か国・地域（タイ、インドネ

シア、フィリピン、ベトナム、モンゴル、韓国、台湾)の研究者 35 名が参加した。
令和 7 年 2 月にハイブリッド形式でのシンポジウムの開催を予定している。

【長所・特色】

令和 5 年度以降は海外へ出張ができるようになるなど、研究活動に活気を取り戻すことができている。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ 第七回災害復興歴史社会学及び社会統治国際検討会プログラム
- ・ 第八回災害復興歴史社会学及び社会統治国際検討会プログラム
- ・ Seminar poster 20230725 (研究会のポスター)
- ・ Early-Career Researchers Workshop 2023 Program
(若手研究者育成ワークショップ 2023 プログラム)
- ・ ニュース専修第 630 号 (2023 年 10 月 15 日発行)
- ・ 20231003 研究会概要
- ・ Public Seminar Construction of Vietnam'

評価の視点③

社会知性開発研究センター内の各研究拠点の研究者による学会、学会誌、紀要等への研究成果の発表状況。

【現状説明】

≪四川・ローカルリスクコミュニケーション研究拠点に関して≫

○研究員及び客員研究員が研究発表・報告等を行った主な学会等

- ・ 日本学術会議学術フォーラム/第 16 回防災学術連携シンポジウム「関東大震災 100 年と防災減災科学」
(令和 5 年 7 月 8 日開催)
- ・ 第 96 回日本社会学会大会 (令和 5 年 10 月 8～9 日開催)
- ・ 2023 年度東京歴史科学研究会歴史科学講座 (令和 6 年 1 月 27 日開催)
- ・ 地区防災計画学会第 10 回大会 (令和 6 年 3 月 2 日開催)
- ・ 横浜商工会議所産業防災連絡会議 (令和 6 年 5 月 29 日開催)
- ・ 第 75 回歴史教育者協議会全国大会 (令和 6 年 8 月 3 日～4 日開催)
- ・ 第 97 回日本社会学会大会 (令和 6 年 11 月 9 日～10 日開催)

≪ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点に関して≫

○研究員及び客員研究員が研究発表・報告等を行った主な学会等

- ・ 2023 年米国人口学会大会 (令和 5 年 4 月 12 日～15 日開催)
- ・ 国際社会学会第 20 回世界社会学会議 (令和 5 年 6 月 25 日～7 月 1 日開催)
- ・ 米国社会学会 2023 年大会 (令和 5 年 8 月 17 日～21 日開催)
- ・ 第 96 回日本社会学会大会 (令和 5 年 10 月 8 日～9 日開催)
- ・ 第 76 回日本数理社会学会大会 (令和 6 年 3 月 16 日～17 日開催)
- ・ Population Association of America 2024 Annual Meeting (令和 6 年 4 月 17 日～4 月 20 日開催)
- ・ ISQOLS 2024 (令和 6 年 6 月 25 日～7 月 1 日開催)
- ・ 第 77 回日本数理社会学会大会 (令和 6 年 8 月 30 日～31 日開催)
- ・ 日本行動計量学会第 52 回大会 (令和 6 年 9 月 10 日～13 日開催)

- ・第26回日本感性工学会大会（令和6年9月12日～9月14日開催）
- ・第97回日本社会学会大会（令和6年11月9日～10日開催）
- 研究成果を公表した媒体
 - ・英語論集 Social Well-Being Review Vol.10, No.1（令和5年12月に刊行、非査読論文2本が掲載された）
- ≪複式簿記普及事業推進研究拠点に関して≫
- 研究員及び客員研究員が研究発表・報告等を行った主な学会等
 - ・令和5年度会計学研究所定例総会（令和5年10月3日開催）
 - ・International Conference on Tourism and Business (ICTB)2024（令和6年8月21日～24日開催）
 - ・国際会計研究学会第41回研究大会（令和6年9月27日～29日開催）
 - ・税務会計研究学会第36回全国大会（令和6年10月26日～27日開催）

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・日本学術会議学術フォーラム/第16回防災学術連携シンポジウムプログラム
- ・第96回日本社会学会大会プログラム
- ・2023年度東京歴史科学研究会歴史科学講座プログラム
- ・地区防災計画学会第10回大会プログラム
- ・横浜商工会議所産業防災連絡会議プログラム
- ・第75回歴史教育者協議会全国大会プログラム
- ・第97回日本社会学会大会プログラム
- ・2023年米国人口学会大会プログラム
- ・国際社会学会第20回世界社会学会議プログラム
- ・米国社会学会2023年大会プログラム
- ・第76回日本数理社会学会大会プログラム

<研究活動の社会還元・社会貢献の促進について>（評点：A）

(1) 達成目標

社会知性開発研究センター内の成果・活動を、「社会知性」の一環として、社会に還元する。

(2) 最終報告

評価の視点①

社会知性開発研究センター内の各研究拠点主催シンポジウム等への一般からの参加状況。

【現状説明】

≪ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点に関して≫

令和6年2月7・8日に、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設社会データ構造

化センターとの共催による国際シンポジウムを生田校舎から配信するハイブリッド形式で開催した。8日のシンポジウムは一般公開され、参加者は17名だった（すべて一般からの参加者）。

《複式簿記普及事業推進研究拠点に関して》

ラオス国内で簿記セミナーを実施した。

令和5年10月26日に、Haakkeo School（現地の高等学校）で簿記セミナーを行った。

参加者は20名だった（すべて一般からの参加者）。

令和5年10月27日に、ラオス国立大学及びSoutsaka Institute of technology（現地の専門学校）で簿記セミナーを行った。参加者は、それぞれ300名・50名だった（すべて一般からの参加者）。

【長所・特色】

該当なし。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・ Joint Project Meeting and 8th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies Program for CtoC Members
（ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点国際シンポジウムプログラム）
- ・ ニュース専修第636号（2024年4月15日発行）
- ・ 専修大学ホームページ

評価の視点②

社会知性開発研究センター内の各研究拠点による、社会的要請に基づく研究の推進・知見提供の状況。

【現状説明】

《ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点に関して》

社会関係資本がプロアクティブ・レジリエンス（新興感染症など現代社会の未知の危機を予測し迅速に対応する能力）の構築につながるメカニズムを明らかにすることを目的として、令和5年度より日本及びアジア5か国（タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、モンゴル）でフォトボイス調査を行っている。

《複式簿記普及事業推進研究拠点に関して》

ラオス国内での複式簿記の発展のため、現地におけるセミナーや簿記検定試験実現に向けたプレテスト等の実施の前段階として、令和5年度中にラオ語による簿記テキスト（初級・中級・上級レベルの改訂版）を作成してラオス国内にも公表した。改訂版テキストの作成に際しては、令和5年度にラオス国立大学から本学商学部の海外客員教授として招聘した2名（いずれも同研究拠点の客員研究員）にも協力を仰いでいる。

【長所・特色】

社会貢献・国際貢献に値する研究活動と考えられる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・令和5年度事業報告書（ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点）
- ・令和6年度事業計画書（ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点）
- ・専修大学ホームページ
- ・ラオ語による簿記テキスト（初級・中級・上級レベルの改訂版）

評価の視点③

社会知性開発研究センター内の各研究拠点による成果をより広く国内外に発信するための取り組み状況。

【現状説明】

《ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点に関して》

令和6年2月7・8日に、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設社会データ構造化センターとの共催による国際シンポジウムを生田校舎から配信するハイブリッド形式で開催した。8日のシンポジウムは一般公開され、参加者は17名だった（すべて一般からの参加者）。

《複式簿記普及事業推進研究拠点に関して》

ラオス国内での複式簿記の発展のため、現地におけるセミナーや簿記検定試験実現に向けたプレテスト等の実施の前段階として、令和5年度中にラオ語による簿記テキスト（初級・中級・上級レベルの改訂版）を作成してラオス国内にも公表した。改訂版テキストの作成に際しては、令和5年度にラオス国立大学から本学商学部の海外客員教授として招聘した2名（いずれも同研究拠点の客員研究員）にも協力を仰いだ。

ラオス国内での複式簿記の発展のため、現地におけるセミナーや簿記検定試験実現に向けたプレテスト等の実施の前段階として、令和5年度中にラオ語による簿記テキスト（初級・中級・上級レベルの改訂版）を作成して公表するべく、準備を行っている。改訂版テキストの作成に際しては、令和5年度にラオス国立大学から本学商学部の海外客員教授として招聘した2名（いずれも同研究拠点の客員研究員）にも協力を仰いでいる。

ラオス国内で簿記セミナーを実施した。

令和5年10月26日に、Haakkeo School（現地の高等学校）で簿記セミナーを行った。

参加者は20名だった（すべて一般からの参加者）。

令和5年10月27日に、ラオス国立大学及びSoutsaka Institute of technology（現地の専門学校）で簿記セミナーを行った。参加者は、それぞれ300名・50名だった（すべて一般からの参加者）。

【長所・特色】

社会貢献・国際貢献に値する研究活動と考えられる。

【問題点】

該当なし。

【根拠資料】

- ・Joint Project Meeting and 8th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies Program for CtoC Members
（ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点国際シンポジウムプログラム）
- ・ニュース専修第636号（2024年4月15日発行）
- ・ラオ語による簿記テキスト（中級・上級レベル：商業簿記及び工業簿記）
- ・専修大学ホームページ

第 15 期 自己点検・評価最終報告

〔27〕社会連携関係

<学外諸機関との適切な連携について>（評点：A）

（1）達成目標

本学が協定を締結している自治体および団体等と、協定内容に基づく連携活動を展開する。

（2）最終報告

評価の視点① 協定内容に基づく連携活動の展開。

【現状説明】

専修大学が掲げる社会連携・社会貢献の方針における 4 つの柱に基づく社会連携・社会貢献活動が、多様に行われていることが情報収集の結果確認できた。

特に、新規の連携活動の展開については、昨年度 11 月 1 日付で千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）に加入し、近接地の立地等を生かした大学間連携と地域発展の推進を図り、様々な連携事業を展開している。また、2024（令和 6）年 8 月 30 日付けで「専修大学と石川県との包括連携協定」を締結した。今後は、本協定に基づき、教育・文化・スポーツ、産業、観光の各分野において連携活動を行っていく予定である。

以上のことから、当初の達成目標に概ね到達していると判断した。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに関する包括協定書
- ・専修大学と石川県との包括連携協定書

<社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組みを実施しているか>

（評点：A）

（1）達成目標

学内で収集した社会連携・社会貢献活動の情報を学外に公開する。

（2）最終報告

評価の視点① 社会連携・社会貢献活動に関する情報の収集状況。

【現状説明】

従来の Microsoft Forms による提出と Excel フォーマット形式による提出加え、2024（令和 6）年度よ

り、Microsoft Teams 内にチーム「社会連携・社会貢献活動に関する情報提供（2023（令和 5）年度実施分）」の共有フォルダを活用した方法を取り入れた。

以上のことから、当初の達成目標に概ね到達していると判断した。
今後も網羅的に収集することに努めていくこととしたい。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・ 社会連携・社会貢献活動に関する情報提供依頼
- ・ 社会連携・社会貢献活動に関する情報提供方法について

評価の視点②

学外への公開状況。

【現状説明】

推進協力員および各機関より提供された社会連携・社会貢献に関する情報は、一覧として取りまとめ、本学ウェブサイトを通じて公開している。なお、公開に当たっては、本学の社会連携・社会貢献の柱である「産学官連携」「地域社会連携」「国際社会連携」「社会貢献」の4つのカテゴリ毎に取り纏めるなどの工夫を行うことで、より体系的かつ網羅的な内容としている。

以上のことから、当初の達成目標に概ね到達していると判断した。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

- ・ 本学 HP（社会連携。社会貢献の方針）：<https://www.senshu-u.ac.jp/social/policy/>

<KS パートナシップ・プログラム活動の推進について>（評点：A）

(1) 達成目標

「専修大学と川崎市との連携・協力に関する基本協定」に基づく事業活動の推進を図る。

(2) 最終報告

評価の視点①

基本協定に示された連携・協力の7分野の活動状況。

【現状説明】

実施している活動は、毎年度、分野ごとに一覧表として取りまとめ、活動状況の可視化に努めている。
なお、一覧表については、例年実施される「KS パートナースシップ・プログラム連絡協議会」において報告および意見交換を行っている。

以上のことから、当初の達成目標に概ね到達していると判断した。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

・KS パートナースシップ・プログラム実績状況一覧＜2023（令和 5）年度実績＞

評価の視点②

KS パートナースシップ・プログラム連絡協議会の実施状況。

【現状説明】

KS パートナースシップ・プログラム連絡協議会は、協定に基づき川崎市と本学が連携・協力して実施する事業を推進することを目的に設置しており、毎年度実施することで双方の関係強化に努めている。

2024（令和 6）年度は、11 月 1 日（金）に実施し、大学側からは社会連携推進委員会委員、川崎市側からは、市民文化局、総務企画局、経済労働局などの担当者が出席した。協議会では、主に双方が抱えている課題等について議論を行っており、本年度は、「特別市の実現に向けた取組について」「若者と地域等（行政・市民）とのマッチング」について議論するとともに、今後双方で考えられる連携・協力事業についてや現在行っている連携・協力事業や各種プログラムにおける改善点について意見交換を行った。

以上のことから、当初の達成目標に概ね到達していると判断した。

【長所・特色】

該当なし

【問題点】

該当なし

【根拠資料】

・KS パートナースシップ・プログラム連絡協議会 議事次第

第 15 期 自己点検・評価最終報告
〔28〕 数理・データサイエンス・AI 教育関係

<自己点検評価の仕組みの適切な運用について>（評点：A）

(1) 達成目標

学内（プログラム受講生、学部・学科等の学部教育組織、プログラムに関連する授業担当者など）、学外の代表者から、Si データサイエンス教育プログラムに対する評価・意見を収集する仕組みを適切に運用する。

(2) 最終報告

評価の視点①

プログラム受講生からの評価・意見を収集する仕組みを適切に運用できているか。

【現状説明】

inCampus のアンケートシステムを用いて、リテラシーレベルおよび応用基礎レベルについて、プログラム受講生に対して評価・意見を収集している。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録
- ・ 2023(令和 5)年度専修大学 Si データサイエンス教育プログラム自己点検・評価報告書
- ・ 2024(令和 6)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録

評価の視点②

学部・学科等の学部教育組織からの評価・意見を収集する仕組みを適切に運用できているか。

【現状説明】

数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会は、各学部の教授会から選出された者、転換・導入科目運営委員会から選出された者、データリテラシーを担当する者、情報科学センターから選出された者で構成されている。委員会としての会議のほか、随時 Microsoft Teams を活用していつでも意見を収集することができるようにしている。

必要があれば運営委員会委員長が、学長、副学長、全学部長に説明し、評価・意見を求める機会を設けるようにしている。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録
- ・ 2024(令和 6)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録

評価の視点③

プログラムに関わる授業担当者からの評価・意見を収集する仕組みを適切に運用できているか。

【現状説明】

運営委員会委員を通じて、プログラムに関わる授業担当者とコミュニケーションをとるという仕組みとしている。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録
- ・ 2024(令和 6)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録

評価の視点④

大学外からの評価・意見を収集する仕組みを適切に運用できているか。

【現状説明】

大学外のレビュアー2 名を選び、1 月下旬に、オンラインで評価・意見を収集する機会を設けている。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録
- ・ 2023（令和 5）年度 専修大学 Si データサイエンス教育プログラム自己点検・評価報告書

<Si データサイエンス教育プログラムに関わる授業科目の教育内容・方法の把握と改善支援について>

(評点：A)

(1) 達成目標

プログラムに関わる授業科目の担当者が、本学の学生に対して適切な内容の教育ができるよう支援する仕組みを適切に運用する。

(2) 最終報告

評価の視点①

各教育組織が用意している、プログラムに関わる授業科目での授業内容・方法についての情報を収集し、改善の支援ができているか。

【現状説明】

プログラムに関わる授業科目の授業内容・方法の計画案を提出してもらい、モデルカリキュラムに準拠しているかを運営委員会で確認したところ、対応が必要な学修項目があったことから、動画教材を作成し、授業での活用を依頼することで、改善の支援を行った。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・2023(令和 5)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録
- ・2024(令和 6)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録

評価の視点②

教材の新規作成、紹介など、教育内容・方法の支援ができているか。

【現状説明】

応用基礎レベルのオンデマンド教材として、モデルカリキュラムに準拠した 15 分程度の動画教材 3 本を、情報科学センター教育企画室監修のもと作成し、2023(令和 5)年の授業で活用できるようにした。2024(令和 6)年にモデルカリキュラムが改訂され、生成 AI についての内容が追加されたことから、オンデマンド教材として、モデルカリキュラムに準拠した 10 分程度の動画教材 3 本を、情報科学センター教育企画室監修のもと作成し、2024(令和 6)年の授業で活用できるようにした。

さらに、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムのワークショップなどを、運営委員を通じて紹介する活動を行っている。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録
- ・ 2024(令和 6)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録

＜Si データサイエンス教育プログラムの履修状況の把握と改善について＞（評点：A）

(1) 達成目標

より多くの学生に Si データサイエンス教育プログラムへの関心を持ってもらい、プログラム履修率を向上させる。

(2) 最終報告

評価の視点①

Si データサイエンス教育プログラムを、新入生が関心を持つように紹介できているか。

【現状説明】

プログラム専用のホームページや、学修ガイドブックでのプログラム紹介、4 月のオリエンテーションガイダンスでのリーフレットの配布を通して、プログラムの紹介を行った。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ Si データサイエンス教育プログラム HP
(<https://www.senshu-u.ac.jp/education/datascience/>)
- ・ 学修ガイドブック
- ・ オリエンテーションガイダンス配布用リーフレット

評価の視点②

プログラムの修了要件科目が、学部・学科の選択科目となっている場合の履修率を把握し、履修率の改善に向けての方策を検討できているか。

【現状説明】

2023（令和 5）年度の情報入門 1（選択科目）は、履修対象者数に対して、最終的な履修者数がそれを下回った。これは特定の曜日時限に希望が集中していたためである。2024（令和 6）年度に向けて、これまでの実績に基づき、開講曜日時限を見直すとともに、展開増を行い、履修率を向上した。

【長所・特色】

該当無し。

【問題点】

該当無し。

【根拠資料】

- ・ 2023(令和 5)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録
- ・ 2024(令和 6)年度数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会資料、議事録

第15期 専修大学 自己点検・評価委員会委員一覧

役 職	任 期（第15期）	氏 名
自己点検・評価委員会委員長	R5.4.1～R7.3.31	法学部教授 榎 透
副委員長	R5.4.1～R6.12.31	常務理事 田村裕二
	R7.1.1～R7.3.31	常務理事 中山 力
学長指名委員	R5.4.1～R7.3.31	文学部教授 高岡貞夫
実施委員会代表（経済学部）	R5.4.1～R7.3.31	経済学部教授 兵頭淳史
（法 学 部）	R5.4.1～R7.3.31	法学部教授 遠山 聡
（経営学部）	R5.4.1～R7.3.31	経営学部教授 蔡 芒錫
（商 学 部）	R5.4.1～R7.3.31	商学部教授 神原 理
（文 学 部）	R5.4.1～R7.3.31	文学部教授 松尾容孝
（ネットワーク情報学部）	R5.4.1～R6.2.20	ネットワーク情報学部教授 小杉尚子
	R6.2.21～R6.3.31	ネットワーク情報学部教授 松永賢次
	R6.4.1～R7.3.31	ネットワーク情報学部教授 佐藤慶一
（人間科学部）	R5.4.1～R7.3.31	人間科学部教授 藤原法子
（国際コミュニケーション学部）	R5.4.1～R7.3.31	国際コミュニケーション学部教授 上原正博
（経済学研究科）	R5.4.1～R7.3.31	経済学部教授 河藤佳彦
（法学研究科）	R5.4.1～R7.3.31	法学部教授 大槻文俊
（文学研究科）	R5.4.1～R7.3.31	文学部教授 渡邊真理子
（経営学研究科）	R5.4.1～R7.3.31	経営学部教授 山崎秀彦
（商学研究科）	R5.4.1～R7.3.31	商学部教授 谷守正行
（全学カリキュラム関係）	R5.4.1～R6.3.31	文学部教授 齋藤 実
	R6.4.1～R7.3.31	人間科学部教授 小杉考司
（教育開発支援関係）	R5.4.1～R7.3.31	経営学部教授 佐藤 暢
（資格課程）	R6.4.1～R7.3.31	法学部教授 森田司郎
（図 書 館）	R6.4.1～R7.3.31	文学部教授 廣瀬玲子
（研 究 所）	R6.4.1～R7.3.31	商学部教授 岩尾詠一郎
（情報科学センター関係）	R5.4.1～R7.3.31	商学部教授 高橋 裕
（入学試験関係）	R6.4.1～R7.3.31	商学部教授 奥西康宏
（学生生活関係）	R6.4.1～R7.3.31	ネットワーク情報学部教授 佐竹弘靖
（体育部関係）	R6.4.1～R7.3.31	経営学部教授 石崎 徹
（就職指導関係）	R5.4.1～R7.3.31	商学部教授 谷守正行
（国際交流関係）	R5.4.1～R7.3.31	経営学部准教授 奥村経世
（キャリアデザイン関係）	R5.4.1～R6.3.31	経済学部教授 遠山 浩
	R6.4.1～R7.3.31	商学部教授 小林 守
（社会知性開発研究関係）	R5.4.1～R7.3.31	人間科学部教授 大矢根淳
（社会連携関係）	R5.4.1～R7.3.31	商学部教授 神原 理
（数理・データサイエンス・AI教育関係）	R5.4.1～R7.3.31	商学部教授 高橋 裕
（職員委員）	R5.4.1～R6.12.31	学長室長 中山 力
	R7.1.1～R7.3.31	学長室長 二宮進語
（職員委員）	R5.4.1～R7.3.31	教務部長代理 佐藤孝博
（職員委員）	R5.4.1～R7.3.31	大学院事務部長 八木 敬

事務局 学長室企画課 清水剛、小坂知寿

※第15期において、二部教育自己点検・評価委員会は委員を選出していない。